佐久市埋蔵文化財調査報告書　第９集

国道141号線関係遺跡

長野県佐久市長土呂国道141号線関係遺跡発掘調査報告書

（本　文　編）

芝宮遺跡群　下芝宮遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
SIMOSIBAMIYA

芝宮遺跡群　上高山遺跡
KAMITAKAYAMA

周防畑遺跡群　下北原遺跡
SIMOKITAHARA

近津遺跡群　上宮原遺跡
KAMIMIYAHARA

下蟹沢遺跡
SIMOKANIZAWA

長土呂遺跡群　上大林遺跡
KAMIOOBAYASI

長土呂遺跡群　下聖端遺跡Ⅰ・Ⅱ
SIMOHIJIRIBATA

１９９２，３

佐　久　市　教　育　委　員　会
佐久埋蔵文化財調査センター

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第９集

国道141号線関係遺跡

長野県佐久市長土呂国道141号線関係遺跡発掘調査報告書

（本　文　編）

芝宮遺跡群　下芝宮遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
SIMOSIBAMIYA

芝宮遺跡群　上高山遺跡
KAMITAKAYAMA

周防畑遺跡群　下北原遺跡
SIMOKITAHARA

近津遺跡群　上宮原遺跡
KAMIMIYAHARA

下蟹沢遺跡
SIMOKANIZAWA

長土呂遺跡群　上大林遺跡
KAMIOOBAYASI

長土呂遺跡群　下聖端遺跡Ⅰ・Ⅱ
SIMOHIJIRIBATA

１９９２，３

佐　久　市　教　育　委　員　会
佐久埋蔵文化財調査センター

例　言

1　本書は、1987年12月～1992年３月にわたって調査した、長野県佐久市大字長土呂に所在する下記の遺跡の調査報告書である。

芝宮遺跡群　下芝宮遺跡Ⅰ（1987年度）、下芝宮遺跡Ⅱ（1988年度）
下芝宮遺跡Ⅲ（1988年度）、下芝宮遺跡Ⅳ（1990年度）
上高山遺跡（1989年度）
長土呂遺跡群　上大林遺跡（1988年度）、下聖端遺跡Ⅰ（1988年度）
下聖端遺跡Ⅱ（1989年度）
周防畑遺跡群　下北原遺跡（1989年度）
近津遺跡群　上宮原遺跡（1990年度）／下蟹沢遺跡（1989年度）

2　本調査は、佐久建設事務所の委託を受けた佐久市教育委員会が実施した。

3　本調査は、林幸彦、須藤隆司、羽毛田卓也を担当者とし、地元をはじめ多数の方の協力を得て実施した。

4　上記遺跡に関わる総ての資料は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

5　本書作成の主たる作業分担は以下のとおりである。

遺物実測　井出百合子　宇賀神恵　臼田俊保　香山優子　行田裕子　神津ツネヨ
小林妙子　小林よしみ　堺益子　高杉昌子　内藤治伸　羽毛田卓也
橋詰信子　渡辺久美子　橋詰勝子　内山克巳
遺構トレス　神津ツネヨ　小林よしみ　羽毛田香里　細萱ミスズ
遺物トレス　三石和子　小林よしみ　堺益子　小林真寿　羽毛田卓也
遺構写真　林幸彦　須藤隆司　羽毛田卓也
遺物写真　羽毛田卓也
執筆・編集　羽毛田卓也

6　調査にあたり、ご指導・ご協力を戴いた方々に、記して厚くお礼申し上げます。
岩崎卓也　井出正義　上村安生　臼田武正　岡村渉　川上元　桐原健　郷道哲章　児玉卓文
笹沢浩　塩入秀敏　島田恵子　田村孝　堤隆　寺島俊郎　羽毛田伸博　花岡弘　福島邦男
丸山敞一郎　宮下健司　森泉かよ子　森嶋稔　由井茂也　木下亘　氏原暉男　森本岩太郎
宮崎重雄　小諸市教育委員会　㈱吉田製作所　岩村田農協　㈱住建㈱小林建設工業
㈱浜田　㈱パリノ・サーヴェイ

凡　例

1　遺跡の略称

下芝宮遺跡Ⅰ→ＮＳＳⅠ　下芝宮遺跡Ⅱ→ＮＳＳⅡ　下芝宮遺跡Ⅲ→ＮＳＳⅢ

下芝宮遺跡Ⅳ→ＮＳＳⅣ　上大林遺跡・下聖端遺跡Ⅰ→ＮＫＳ

下聖端遺跡Ⅱ→ＮＫＳⅡ　上高山遺跡→ＮＳＫ　上宮原遺跡→ＣＫＭ

2　遺構の略称

Ｈ→住居址　Ｆ→掘立柱建物址　Ｄ→土坑　Ｍ→溝状遺構　Ｔ→特殊遺構

ＯＴ→墓壙　Ｐ→ピット群　Ｗ→風倒木址

3　遺物の略称　須恵器→須　灰釉陶器→灰　赤彩土器→赤

4　遺構・遺物の縮尺は図中にスケールを付したので参照されたい。

5　挿図中におけるスクリーン・トーンは下記のものを表す。

１）遺構　断面図地山→斜線

２）遺物　須恵器・灰釉陶器断面→点　黒色処理→点　塗彩→点

6　遺構の海抜標高は、各遺構ごとに統一し、水糸ラインに水糸標高として明記した。

7　写真図版・表中の番号（例５－３）は挿図番号（例第５図３番）と対応する。

8　遺物の一覧表の数値について、不明は－、現存値は〈　〉、推定値は（　）とした。

9　遺物の実測は、第三角法を用いたが、適宜第三角法の応用で作成したものもある。

10　土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・(財) 日本色彩研究所色票監修1987年度版『新版標準土色帖』の表示に基づいて示した。

11　挿図中の略記号は次のとおりである。

Ｐ→ピット　Ｓ→石　Ｔ→炭化材　土層断面図中のＰ→土器

12　遺構挿図中、ピット付近の－数値は（例－１２）ピットの深さを示す。

本文目次

例言

凡例

本文目次

図版目次

第Ⅰ章　発掘調査の経緯

1　調査に至る動機……1

2　調査の概要……4

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

1　遺跡の自然的環境……9

2　遺跡の歴史的環境……10

第Ⅲ章　芝宮遺跡群下芝宮遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ……13

1　竪穴住居址

1）Ｈ１号住居址 ……15　2）Ｈ２号住居址 ……20

3）Ｈ３号住居址 ……32　4）Ｈ４号住居址 ……35

5）Ｈ５号住居址 ……40　6）Ｈ６号住居址 ……46

7）Ｈ７号住居址 ……56　8）Ｈ８・９号住居址 ……61

2　掘立柱建物址

1）Ｆ１号掘立柱建物址 ……62　2）Ｆ２号掘立柱建物址 ……63

3）Ｆ３号掘立柱建物址 ……63　4）Ｆ４号掘立柱建物址 ……64

5）Ｆ５号掘立柱建物址 ……67　6）Ｆ６号掘立柱建物址 ……68

3　土坑

1）Ｄ１号土坑 ……69　2）Ｄ２号土坑 ……69

3）Ｄ３号土坑 ……69　4）Ｄ４号土坑 ……70

5）Ｄ５号土坑 ……70　6）Ｄ６号土坑 ……70

7）Ｄ７号土坑 ……71　8）Ｄ８号土坑 ……73

9）Ｄ９号土坑 ……74　10）Ｄ10号土坑 ……75

11）Ｄ11号土坑 ……75　12）Ｄ12号土坑 ……75

13）Ｄ13号土坑 ……75

4　溝状遺構……76

5　特殊遺構
1）Ｔ１号特殊遺構……91
6　その他
1）Ｐ１号ピット群……93
2）グリッド及び表採遺物……93
第Ⅳ章　芝宮遺跡群上高山遺跡……97
1　竪穴住居址
1）Ｈ１号住居址 ……99　2）Ｈ２号住居址 ……101
2　溝状遺構 ……104
第Ⅴ章　下蟹沢遺跡 ……106
第Ⅵ章　周防畑遺跡群下北原遺跡 ……111
第Ⅶ章　近津遺跡群上宮原遺跡 ……113
1　竪穴住居址
1）Ｈ１号住居址 ……114
第Ⅷ章　長土呂遺跡群下聖端遺跡Ⅰ・Ⅱ、上大林遺跡……117
1　竪穴住居址
1）Ｈ１号住居址……122　2）Ｈ２号住居址……122
3）Ｈ３号住居址……125　4）Ｈ４号住居址……128
5）Ｈ５号住居址……130　6）Ｈ６号住居址……134
7）Ｈ７号住居址……136　8）Ｈ８号住居址……139
9）Ｈ９号住居址……142　10）H10号住居址……145
11）H11号住居址……147　12）H12号住居址……151
13）H13号住居址……153　14）H14号住居址……156
15）H15号住居址……157　16）H16号住居址……160
17）H17号住居址……164　18）H18号住居址……169
19）H19号住居址……173　20）H20号住居址……178
21）H21号住居址……180　22）H22号住居址……185
23）H23号住居址……188　24）H24号住居址……190
25）H25号住居址……192　26）H26号住居址……194
27）H27号住居址……196　28）H28号住居址……197
29）H29号住居址……199　30）H30号住居址……201
31）H31号住居址……202　32）H32号住居址……205

33) H33号住居址……208
34) H34号住居址……210
35) H35号住居址……211
36) H36号住居址……214
37) H37号住居址……216
38) H38号住居址……220
39) H39号住居址……221
40) H40号住居址……222
41) H41号住居址……223
42) H42号住居址……224
43) H43号住居址……225
44) H44号住居址……227
45) H45号住居址……228
46) H46号住居址……229
47) H47号住居址……231
48) H48号住居址……233
49) H49号住居址……235
50) H50号住居址……237
51) H51号住居址……239
52) H52号住居址……241
53) H53号住居址……242
54) H54号住居址……245
55) H55号住居址……247
56) H56号住居址……248
57) Y 1 号住居址……249
58) Y 2 号住居址……250
59) Y 3 号住居址……250
60) Y 4 号住居址……253
2　掘立柱建物址 ……254
3　特殊遺構 ……264
4　墓壙 ……266
5　土坑 ……268
第IX章　まとめ ……350
1）遺構 ……351
2）遺物 ……352
付編
下芝宮遺跡・下聖端遺跡出土炭化材同定報告株式会社パリノ・サーヴェイ社 ……355
下聖端遺跡出土獣骨について　宮崎重雄 ……392
下聖端遺跡出土人骨について　森本岩太郎 ……394
下聖端遺跡出土炭化種子について　氏原暉男 ……400
下聖端遺跡出土種子同定報告　株式会社パリノ・サーヴェイ社 ……422
付図
付図１　上大林遺跡・下聖端遺跡Ⅰ調査区全体図
付図２　下聖端遺跡Ⅱ調査区全体図
付図３　上大林遺跡・下聖端遺跡Ⅰピット群・風倒木址全体図

挿図目次

第１図　各遺跡位置図
第２図　国道141号線佐久―小諸改良事業全体図
第３図　長野県佐久市位置図
第４図　周辺遺跡分布図
芝宮遺跡郡下芝宮遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
第５図　下芝浦遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ位置図
第６図　層序模式図
第７図　Ｈ１号住居址実測図
第８図　Ｈ１号住居址カマド実測図
第９図　Ｈ１号住居址出土遺物実測図
第10図　Ｈ１号住居址出土遺物実測図
第11図　Ｈ２号住居址実測図
第12図　Ｈ２号住居址カマド実測図
第13図　Ｈ２号住居址カマド遺物出土状況実測図
第14図　Ｈ２号住居址炭化材分布図
第15図　Ｈ２号住居址遺物分布図
第16図　Ｈ２号住居址出土遺物実測図
第17図　Ｈ２号住居址出土遺物実測図
第18図　Ｈ２号住居址出土遺物実測図
第19図　Ｈ２号住居址出土遺物実測図
第20図　Ｈ２号住居址出土遺物実測図
第21図　Ｈ３号住居址実測図
第22図　Ｈ３号住居址カマド実測図
第23図　Ｈ３号住居址出土遺物実測図
第24図　Ｈ４号住居址実測図
第25図　Ｈ４号住居址カマド実測図
第26図　Ｈ４号住居址出土砥石実測図
第27図　Ｈ４号住居址出土遺物実測図
第28図　Ｈ５号住居址カマド実測図
第29図　Ｈ５号住居址実測図
第30図　Ｈ５号住居址出土遺物実測図
第31図　Ｈ５号住居址出土遺物実測図
第32図　Ｈ５号住居址出土遺物実測図
第33図　Ｈ６号住居址実測図
第34図　Ｈ６号住居址カマド実測図
第35図　Ｈ６号住居址カマド掘方実測図
第36図　Ｈ６号住居址出土遺物実測図
第37図　Ｈ６号住居址出土遺物実測図
第38図　Ｈ６号住居址出土遺物実測図
第39図　Ｈ６号住居址出土遺物実測図
第40図　Ｈ７号住居址出土遺物実測図
第41図　Ｈ７号住居址実測図
第42図　Ｈ７号住居址１号カマド実測図
第43図　Ｈ７号住居址１号カマド掘方実測図
第44図　Ｈ７号住居址出土遺物実測図
第45図　Ｈ７号住居址２号カマド掘方実測図
第46図　Ｈ７号住居址出土遺物実測図
第47図　Ｆ１号掘立柱建物址実測図
第48図　Ｆ２号掘立柱建物址実測図
第49図　Ｆ４号掘立柱建物址実測図
第50図　Ｆ３号掘立柱建物址実測図
第51図　Ｆ５号掘立柱建物址実測図
第52図　Ｆ６号掘立柱建物址実測図
第53図　Ｄ１号土坑実測図
第54図　Ｄ２号・３号・４号土坑実測図
第55図　Ｄ５号土坑実測図
第56図　Ｄ５号土坑出土遺物実測図
第57図　Ｄ６号土坑およびピット郡実測図
第58図　Ｄ７号土坑実測図
第59図　Ｄ10号土坑実測図
第60図　Ｄ11号土坑実測図
第61図　Ｄ13号土坑実測図
第62図　Ｄ８号土坑実測図
第63図　Ｄ９号土坑実測図
第64図　Ｄ12号土坑実測図
第65図　Ｍ２号溝状遺構実測図
第66図　Ｍ３号溝状遺構実測図
第67図　Ｍ１号溝状遺構実測図

第68図　Ｍ４号溝状遺構実測図
第69図　Ｍ２号溝状遺構実測図
第70図　Ｍ５号溝状遺構実測図
第71図　Ｍ５号溝状遺構実測図
第72図　Ｍ５号溝状遺構実測図
第73図　Ｍ６号溝状遺構実測図
第74図　Ｍ６号溝状遺構実測図
第75図　Ｍ７号溝状遺構実測図
第76図　M11号溝状遺構実測図
第77図　M10号溝状遺構実測図
第78図　Ｍ９号溝状遺構実測図
第79図　Ｍ８号溝状遺構土層断面図
第80図　溝状遺構出土遺物実測図
第81図　Ｔ１号特殊遺構実測図
第82図　Ｔ１号特殊遺構出土遺物実測図
第83図　Ｐ１号ピット郡実測図
第84図　グリット及び表採遺物実測図
第85図　下芝宮遺跡全体図
芝宮遺跡郡上高山遺跡
第86図　上高山遺跡位置図
第87図　上高山遺跡層序模式図
第88図　Ｈ１号住居址実測図
第89図　Ｈ１号住居址カマド実測図
第90図　Ｈ１号住居址出土遺物実測図
第91図　Ｈ２号住居址出土遺物実測図
第92図　Ｈ２号住居址実測図
第93図　Ｈ２号住居址出土遺物実測図
第94図　Ｍ１号溝状遺構土層断面図
第95図　上高山遺跡調査区全体図
下蟹沢遺跡
第96図　下蟹沢遺跡位置図
第97図　下蟹沢遺跡トレンチ設定図
第98図　２～５号トレンチ層序模式図
第99図　７号トレンチ層序模式図
第100図　11・12号トレンチ層序模式図
第101図　８・13号トレンチ層序模式図
周防畑遺跡郡下北原遺跡
第102図　下北原遺跡位置図
第103図　下北原遺跡調査区全体図
近津遺跡郡上宮原遺跡
第104図　上宮原遺跡位置図
第105図　Ｈ１号住居址実測図
第106図　Ｈ１号住居址カマド実測図
第107図　上宮原遺跡調査区全体図
長土呂遺跡郡下聖端Ⅰ・Ⅱ、上大林遺跡
第108図　上大林・下聖端遺跡位置図
第109図　下聖端・上大林遺跡全体層序模式図
第110図　Ｈ１号住居址実測図
第111図　Ｈ１号住居址カマド実測図
第112図　Ｈ２号住居址実測図
第113図　Ｈ２号住居址カマド実測図
第114図　Ｈ３号住居址実測図
第115図　Ｈ３号住居址カマド実測図
第116図　Ｈ４号住居址実測図
第117図　Ｈ４号住居址カマド実測図
第118図　Ｈ５号住居址実測図
第119図　Ｈ５号住居址カマド実測図
第120図　Ｈ５号住居址カマド掘方実測図
第121図　Ｈ５号住居址炭化材出土状況実測図
第122図　Ｈ６号住居址実測図
第123図　Ｈ６号住居址カマド実測図
第124図　Ｈ７号住居址実測図
第125図　Ｈ７号住居址カマド実測図
第126図　Ｈ８号住居址実測図
第127図　Ｈ８号住居址カマド実測図
第128図　Ｈ９号住居址実測図
第129図　Ｈ９号住居址カマド実測図
第130図　H10号住居址実測図
第131図　H10号住居址カマド実測図
第132図　H11号住居址カマド実測図
第133図　H11号住居址実測図
第134図　H12号住居址実測図
第135図　H12号住居址カマド実測図
第136図　H13号住居址実測図

第137図　H13号住居址カマド実測図
第138図　H14号住居址実測図
第139図　H15号住居址実測図
第140図　H15号住居址１号カマド実測図
第141図　H15号住居址２号カマド実測図
第142図　H16号住居址実測図
第143図　H16号住居址カマド実測図
第144図　H16号住居址カマド掘方実測図
第145図　H17号住居址実測図
第146図　H17号住居址１号カマド実測図
第147図　H17号住居址２号カマド実測図
第148図　H18号住居址実測図
第149図　H18号住居址カマド実測図
第150図　H18号住居址カマド掘方実測図
第151図　H19号住居址１号カマド掘方実測図
第152図　H19号住居址実測図
第153図　H19号住居址１号カマド実測図
第154図　H19号住居址２号カマド実測図
第155図　H19号住居址２号カマド掘方実測図
第156図　H20号住居址実測図
第157図　H20号住居址カマド実測図
第158図　H21号住居址実測図
第159図　H21号住居址１号カマド実測図
第160図　H21号住居址２号カマド実測図
第161図　H22号住居址実測図
第162図　H22号住居址カマド実測図
第163図　H23号住居址実測図
第164図　H23号住居址カマド実測図
第165図　H24号住居址カマド実測図
第166図　H24号住居址実測図
第167図　H25号住居址実測図
第168図　H26号住居址実測図
第169図　H26号住居址カマド実測図
第170図　H27号住居址実測図
第171図　H28号住居址実測図
第172図　H28号住居址カマド実測図
第173図　H29号住居址実測図
第174図　H29号住居址１号カマド実測図
第175図　H30号住居址実測図
第176図　H31号住居址実測図
第177図　H31号住居址カマド実測図
第178図　H32号住居址カマド実測図
第179図　H32号住居址実測図
第180図　H33号住居址実測図
第181図　H33号住居址カマド実測図
第182図　H34号住居址実測図
第183図　H35号住居址・カマド掘方実測図
第184図　H35号住居址カマド実測図
第185図　H36号住居址・カマド掘方実測図
第186図　H36号住居址カマド実測図
第187図　H37号住居址実測図
第188図　H37号住居址カマド実測図
第189図　H38号住居址実測図
第190図　H39号住居址実測図
第191図　H40号住居址実測図
第192図　H41号住居址・カマド掘方実測図
第193図　H42号住居址実測図
第194図　H43号住居址実測図
第195図　H44号住居址・カマド掘方実測図
第196図　H45号住居址・カマド掘方実測図
第197図　H46号住居址実測図
第198図　H46号住居址カマド実測図
第199図　H47号住居址カマド実測図
第200図　H47号住居址実測図
第201図　H48号住居址カマド実測図
第202図　H48号住居址実測図
第203図　H49号住居址実測図
第204図　H49号住居址カマド掘方実測図
第205図　H50号住居址カマド掘方実測図
第206図　H50号住居址実測図
第207図　H51号住居址カマド実測図
第208図　H51号住居址実測図
第209図　H52号住居址実測図
第210図　H53号住居址実測図

第211図　H53号住居址カマド実測図
第212図　H54号住居址実測図
第213図　H54号住居址カマド実測図
第214図　H55号住居址実測図
第215図　H56号住居址実測図
第216図　Ｙ１号住居址実測図
第217図　Ｙ２号住居址実測図
第218図　Ｙ３号住居址実測図
第219図　Ｙ４号住居址実測図
第220図　Ｆ１号掘立柱建物址実測図
第221図　Ｆ２号掘立柱建物址実測図
第222図　Ｆ３号掘立柱建物址実測図
第223図　Ｆ４号掘立柱建物址実測図
第224図　Ｆ５号掘立柱建物址実測図
第225図　Ｆ６号掘立柱建物址実測図
第226図　F10号掘立柱建物址実測図
第227図　Ｆ７号掘立柱建物址実測図
第228図　Ｆ８号掘立柱建物址実測図
第229図　Ｆ９号掘立柱建物址実測図
第230図　F11号掘立柱建物址実測図
第231図　F12号掘立柱建物址実測図
第232図　F13号掘立柱建物址実測図
第233図　F14号掘立柱建物址実測図
第234図　F15号掘立柱建物址実測図
第235図　F16号掘立柱建物址実測図
第236図　F18号掘立柱建物址実測図
第237図　F17号掘立柱建物址実測図
第238図　Ｔ２号特殊遺構実測図
第239図　Ｔ７号特殊遺構実測図
第240図　Ｔ６号特殊遺構実測図
第241図　ＯＴ１号墓壙実測図
第242図　ＯＴ２号墓壙実測図
第243図　Ｄ１号土坑実測図
第244図　Ｄ２号土坑実測図
第245図　Ｄ６号土坑実測図
第246図　D14号土坑実測図
第247図　Ｄ３号土坑実測図
第248図　D18号土坑実測図
第249図　Ｄ４号土坑実測図
第250図　Ｄ５号土坑実測図
第251図　D10号土坑実測図
第252図　D13号土坑実測図
第253図　D16号土坑実測図
第254図　Ｄ７号土坑実測図
第255図　Ｄ８号土坑実測図
第256図　Ｄ９号土坑実測図
第257図　D15号土坑実測図
第258図　D11号土坑実測図
第259図　D12号土坑実測図
第260図　D21号土坑実測図
第261図　D23号土坑実測図
第262図　D17号土坑実測図
第263図　D19号土坑実測図
第264図　D20号土坑実測図
第265図　D22号土坑実測図
第266図　D24号土坑実測図
第267図　D28号土坑実測図
第268図　D29号土坑実測図
第269図　D25号土坑実測図
第270図　D27号土坑実測図
第271図　D31号土坑実測図
第272図　D32号土坑実測図
第273図　D33号土坑実測図
第274図　D26号土坑実測図
第275図　D30号土坑実測図
第276図　D34号土坑実測図
第277図　D35号土坑実測図
第278図　D36号土坑実測図
第279図　D37号土坑実測図
第280図　D39号土坑実測図
第281図　D38号土坑実測図
第282図　D40号土坑実測図
第283図　D47号土坑実測図
第284図　D45号土坑実測図

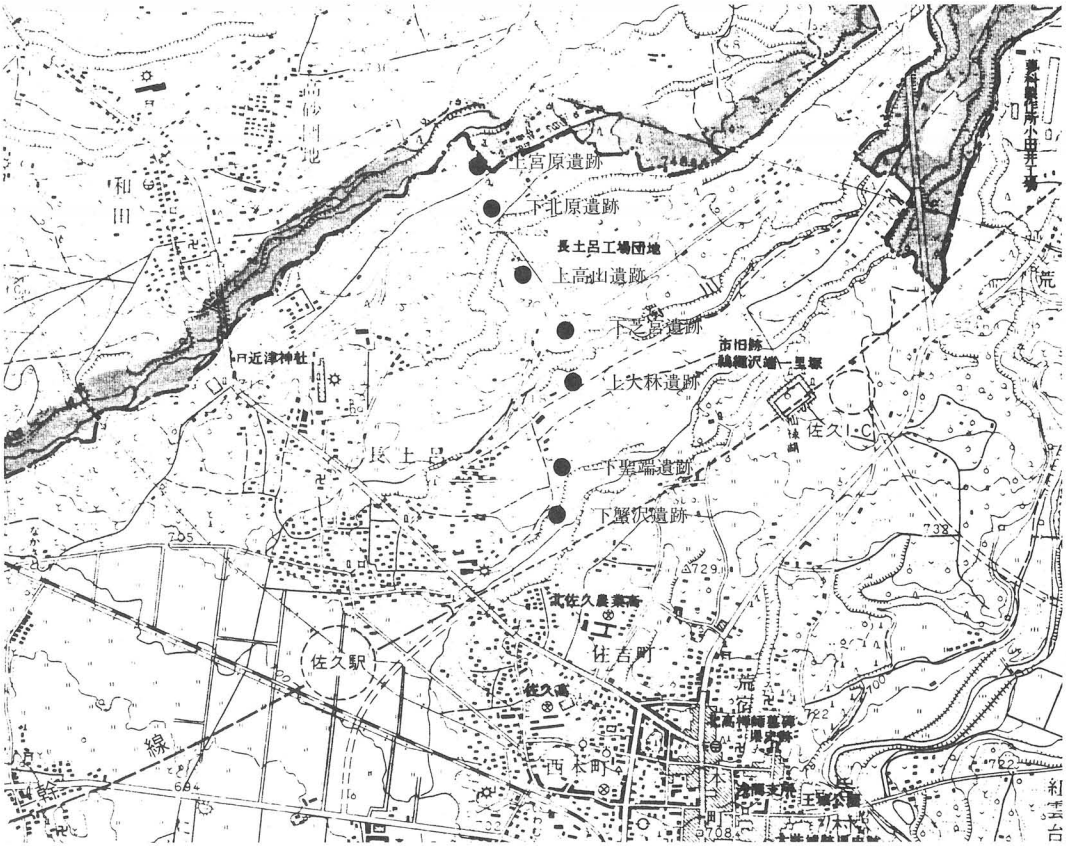
第285図　D41号土坑実測図
第286図　D42号土坑実測図
第287図　D50号土坑実測図
第288図　D43号土坑実測図
第289図　D44号土坑実測図
第290図　D46号土坑実測図
第291図　D48号土坑実測図
第292図　D49号土坑実測図
第293図　D51号土坑実測図
第294図　D52号土坑実測図
第295図　D53号土坑実測図
第296図　D54号土坑実測図
第297図　D55号土坑実測図
第298図　D56号土坑実測図
第299図　D57号土坑実測図
第300図　D64号土坑実測図
第301図　D60号土坑実測図
第302図　D61号土坑実測図
第303図　D58号土坑実測図
第304図　D70号土坑実測図
第305図　D59号土坑実測図
第306図　D62号土坑実測図
第307図　D63号土坑実測図
第308図　D66号土坑実測図
第309図　D67号土坑実測図
第310図　D65号土坑実測図
第311図　D69号土坑実測図
第312図　D71号土坑実測図
第313図　D68号土坑実測図
第314図　D72号土坑実測図
第315図　D74号土坑実測図
第316図　D75号土坑実測図
第317図　D76号土坑実測図
第318図　D77号土坑実測図
第319図　D73号土坑実測図
第320図　D78号土坑実測図
第321図　D79号土坑実測図
第322図　D80号土坑実測図
第323図　D81号土坑実測図
第324図　D83号土坑実測図
第325図　D85号土坑実測図
第326図　D82号土坑実測図
第327図　D84号土坑実測図
第328図　D86号土坑実測図
第329図　D87号土坑実測図
第330図　D88号土坑実測図
第331図　D89号土坑実測図
第332図　D90号土坑実測図
第333図　D91号土坑実測図
第334図　D93号土坑実測図
第335図　D96号土坑実測図
第336図　D92号土坑実測図
第337図　D94号土坑実測図
第338図　D95号土坑実測図
第339図　D97号土坑実測図
第340図　H１号住居址出土土器実測図
第341図　H２・３号住居址出土土器実測図
第342図　H３号住居址出土土器実測図
第343図　H３・４号住居址出土土器実測図
第344図　H５号住居址出土土器実測図
第345図　H５・６号住居址出土土器実測図
第346図　H６・７号住居址出土土器実測図
第347図　H７・８号住居址出土土器実測図
第348図　H９・10・11号住居址出土土器実測図
第349図　H11・12・13号住居址出土土器実測図
第350図　H14・15号住居址出土土器実測図
第351図　H15・16号住居址出土土器実測図
第352図　H16・17号住居址出土土器実測図
第353図　H17・18号住居址出土土器実測図
第354図　H18号住居址出土土器実測図
第355図　H18号住居址出土土器実測図
第356図　H19号住居址出土土器実測図
第357図　H20・21号住居址出土土器実測図
第358図　H21号住居址出土土器実測図

第359図　H21号住居址出土土器実測図
第360図　H22・23号住居址出土土器実測図
第361図　H24・25・26号住居址出土土器実測図
第362図　H26・28号住居址出土土器実測図
第363図　H29・31号住居址出土土器実測図
第364図　H32・33号住居址出土土器実測図
第365図　H33・34号住居址出土土器実測図
第366図　H35・36号住居址出土土器実測図
第367図　H36・37号住居址出土土器実測図
第368図　H37号住居址出土土器実測図
第369図　H38・39・40号住居址出土土器実測図
第370図　H40・41・42・43号住居址出土土器実測図
第371図　H44号住居址出土土器実測図
第372図　H45号住居址出土土器実測図
第373図　H46号住居址出土土器実測図
第374図　H47・48号住居址出土土器実測図
第375図　H48・49・50・51号住居址出土土器実測図
第376図　H51・52・53号住居址出土土器実測図
第377図　H53号住居址出土土器実測図
第378図　H54号住居址出土土器実測図
第379図　H54・55号住居址出土土器実測図
第380図　H55・56号住居址出土土器実測図
第381図　H56・Y1号住居址出土土器実測図
第382図　Y2・Y3号住居址
M1号溝状遺構出土土器実測図
第383図　M1・6・8・10号溝状遺構出土土器実測図、石器（砥石）実測図
第384図　石器（砥石・台石・磨石・敲石）実測図
第385図　石器（台石・凹石・有舌尖頭器・紡錘車）実測図
第386図　石器（紡錘車・石製模造品・土錘）実測図
第387図　臼玉・ガラス小玉・石製模造品実測図
第388図　臼玉・石製模造品・土製勾玉実測図
第389図　臼玉・ガラス小玉・石製模造品・土製丸玉管玉実測図
第390図　臼玉・管玉・石製模造品実測図
第391図　臼玉・ガラス小玉・土製丸玉実測図
第392図　臼玉・管玉・石製模造品実測図
第393図　臼玉・ガラス小玉・土製丸玉実測図
第394図　臼玉・勾玉・土製丸玉実測図
第395図　臼玉・ガラス小玉・土製丸玉実測図
第396図　古銭拓影図、金属製品実測図
第397図　金属製品実測図

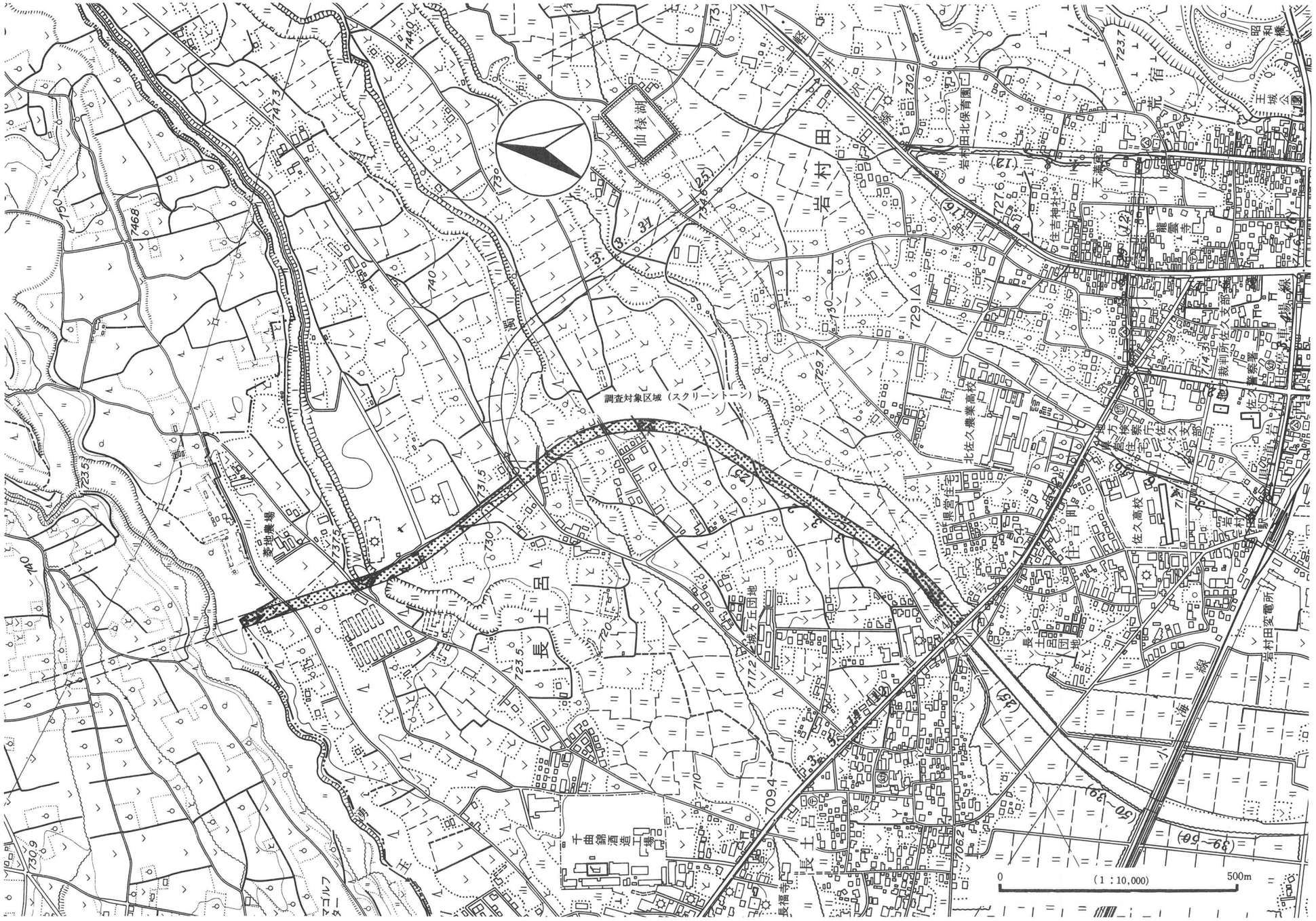
第Ⅰ章　発掘調査の経緯

1　調査に至る動機

長土呂遺跡群・芝宮遺跡群・周防畑遺跡群・近津遺跡群は、佐久市大字長土呂に所在し、浅間山に源を発する濁川等小河川の浸蝕による田切り地形の標高710m～760mの帯状台地上に展開する大遺跡群である。また下蟹沢遺跡は田切り地形の標高700m～720mの帯上低地に展開する。今回、佐久建設事務所が行う道路改良事業（路線名141号線・長土呂区間）に伴い、同事務所と佐久市市教育委員会とで協議の結果、長土呂遺跡群上大林・下聖端遺跡Ⅰ・Ⅱ、芝宮遺跡群上高山遺跡・下芝宮遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、周防畑遺跡群下北原遺跡、近津遺跡群上宮原遺跡、下蟹沢遺跡の破壊を余儀なくされ、緊急に記録保存する必要が生じた。そこで佐久建設事務所より委託を受けた佐久市教育委員会が主体となって発掘調査する運びとなった。



第１図　各遺跡位置図（１：25,000）



第２図　国道141号線佐久－小諸（長土呂区間）改良事業全体図（１：10,000）
〔佐久都市計画道路網図より〕

2　調査の概要

昭和62年度

1　遺跡名　芝宮遺跡群下芝宮遺跡Ⅰ

2　所在地　佐久市大字長土呂字下芝宮

3　調査期間　昭和62年12月３日～昭和63年３月31日

4　事務局

教育長　大井昭二

教育次長　柳沢昇一

社会教育課長　木内　捷

社会教育係長　小平　実

社会教育係　白石賢次　林　幸彦　高橋和敬　荻原一馬　羽毛田卓也　高木久江

社会教育指導員　根津恵美　三石和子

5　調査団

調査担当者　林　幸彦　羽毛田卓也

調査主任　佐々木宗昭

調査員　大井今朝太

調査補助員　井出百合子　大井恵美子　堺　益子　高杉昌子　橋詰勝子　橋詰信子

協力者　浅沼ノブ江　池田和明　市川香里　市村美咲　臼田俊保　遠藤しづか
金森治代　木内一也　高地正雄　高見沢久美子　田嶋和美　田中夏江
内藤治伸　並木ことみ　橋詰けさよ　星野良子　細萱ミスズ　山崎　明
山崎平八郎　渡辺久美子

昭和63年度

1　遺跡名　芝宮遺跡群下芝宮遺跡Ⅱ・Ⅲ／長土呂遺跡群上大林・下聖端遺跡Ⅰ

2　所在地　佐久市大字長土呂字下芝宮・南下中原・上大林・下大林・下聖端・南聖原他

3　調査期間　昭和63年5月20日～平成元年3月31日

4　事務局

教育長　大井昭二

教育次長　茂木多喜男

社会教育課長　北沢　馨

相沢幸男（社会教育課主幹）

社会教育係長　小平　実

社会教育係　東城公人　小林正衛　林　幸彦　荻原一馬　山浦俊彦　羽毛田卓也
田村和広　市村美咲　五十嵐孝子　荻原香代子　岩崎こずえ

社会教育指導員　三石和子

5　調査団

調査団長　白倉盛男

調査副団長　藤沢平治

調査担当者　林　幸彦　羽毛田卓也

調査主任　佐々木宗昭

調査員　井上行雄　大井今朝太

調査補助員　浅沼ノブ江　市川香里　井出百合子　宇賀神恵　遠藤しづか　大井恵美子
片井裕子　金森治代　木島美子　堺　益子　高杉昌子　田中夏江　田村祐子
内藤治伸　並木ことみ　橋詰勝子　橋詰けさよ　橋詰信子　星野良子
細萱ミスズ　山崎平八郎　和久井義雄　渡辺久美子

協力者　青柳　博　浅田　務　市川誠司　内山克巳　江原正則　岡部敦久　角谷春江
香山優子　木内一也　菊地ともえ　小林薫　小林光枝　小林よしみ　小間沢文代
佐藤紫郎　塩川克史　篠崎昭二　篠原　悟　高橋きくえ　多胡照子　中山正三郎
並木吉三郎　早川光彦　堀篭　因　松田英明　宮川　洋　森泉秀夫　山崎　明
依田みち　渡辺住礼

平成元年度

1　遺跡名　長土呂遺跡群下聖端遺跡II／下蟹沢遺跡
芝宮遺跡群上高山遺跡／周防畑遺跡群下北原遺跡

2　所在地　佐久市大字長土呂字南聖原・下聖端・聖・下蟹沢・上高山・下北原

3　調査期間　平成元年5月1日～平成2年3月31日

4　事務局

教育長　大井昭二（平成元年6月退任）
大井季夫（平成元年7月就任）

教育次長　茂木多喜男

社会教育課長　北沢　馨
相沢幸男（社会教育課主幹）

社会教育係長　小平　実

社会教育係　　東城公人　小林正衛　林　幸彦　荻原一馬　山浦俊彦　須藤隆司
羽毛田卓也　田村和広　竹原　学　掛川由香利　中沢菊江

5　調査団

調査団長　白倉盛男

調査副団長　藤沢平治

調査担当者　須藤隆司　羽毛田卓也

調査主任　佐々木宗昭

調査補助員　浅沼ノブ江　市川香里　宇賀神恵　遠藤しづか　金森治代　木島美子　堺益子
内藤治伸　並木ことみ　橋詰勝子　橋詰けさよ　橋詰信子　星野良子
細萱ミスズ　三石和子　山崎平八郎　渡辺久美子

協力者　青木久子　浅田務　甘利初枝　飯沢つや子　磯貝はな　市川浜子　井出直代
梅沢氾子　大井文雄　柏原松江　金井八重子　香山優子　木内公子　木島知子
清野須美子　清野姫子　神津ツネヨ　小金沢たけみ　小林永一　小林　薫
小林佳一郎　小林みよ子　小林嘉孝　小林よしみ　小間沢文代　佐藤紫郎
佐俣アエ子　白井おくに　高見沢幸子　中山辰巳　並木吉三郎　花里きしの
花里松美　藤巻辰江　堀篭因　丸山澄　柳沢時江　柳沢瑠璃子　依田泰子
依田久子　依田みち　山崎明

平成２年度

1　遺跡名　近津遺跡群上宮原遺跡／芝宮遺跡群下芝宮遺跡Ⅳ
報告書刊行整理事業

2　所在地　佐久市大字長土呂字上宮原・下芝宮

3　調査期間　平成２年５月１日～平成３年３月31日

4　事務局　佐久市教育委員会埋蔵文化財課　佐久埋蔵文化財調査センター

教育長　大井季夫

教育次長　小池八郎

開発公社事務局長　須江吉介

埋蔵文化財課長　相沢幸男（兼佐久埋蔵文化財調査センター所長）

管理係長　桜井牧子

管理係　東城公人　田島清巳（嘱託）　関口美咲（臨時）

埋蔵文化財係　高村博文　林　幸彦　三石宗一　須藤隆司　小山岳夫　小林真寿
羽毛田卓也　翠川康弘　竹原　学　助川朋広

5　調査団

調査団長　　黒岩忠男（佐久考古学会副会長）

調査副団長　　白倉盛男（佐久考古学会副会長）

藤沢平治（佐久市文化財保護審議委員）

調査担当者　　羽毛田卓也

調査主任　　佐々木宗昭

調査員　　大井今朝太　堺益子

調査補助員　　浅沼ノブ江　羽毛田香里　遠藤しづか　金森治代　香山優子　小林よしみ　並木ことみ　橋詰勝子　橋詰けさよ　橋詰信子　星野良子　細萱ミスズ　山崎平八郎　渡辺久美子

協力者　　青木久子　飯沢つや子　磯貝はな　井上貴美子　梅沢氾子　柏原松江　清野須美子　神津ツネヨ　小林永一　小林浜子　小林みよ子　白井おくに　高見沢幸子　中山辰巳　藤巻辰江　堀篭因　丸山澄　依田みち　依田芳雄

平成３年度

1　遺跡名　　報告書刊行整理事業

2　調査期間　平成３年４月８日～平成４年３月31日

3　事務局　　佐久市教育委員会埋蔵文化財課　佐久埋蔵文化財調査センター

教育長　　大井季夫

教育次長　　奥原秀雄

開発公社事務局長　　佐々木正泰

埋蔵文化財課長　　上原正秀（兼佐久埋蔵文化財調査センター所長）

管理係長　　桜井牧子

埋蔵文化財係長　　草間芳行

管理係　　山崎明（嘱託）　関口美咲（臨時）　渡辺紀美子（臨時）

埋蔵文化財係　　高村博文　林　幸彦　三石宗一　須藤隆司　小林真寿　羽毛田卓也　竹原　学

4　調査団

調査団長　　黒岩忠男（佐久考古学会副会長）

調査副団長　　白倉盛男（佐久考古学会副会長）

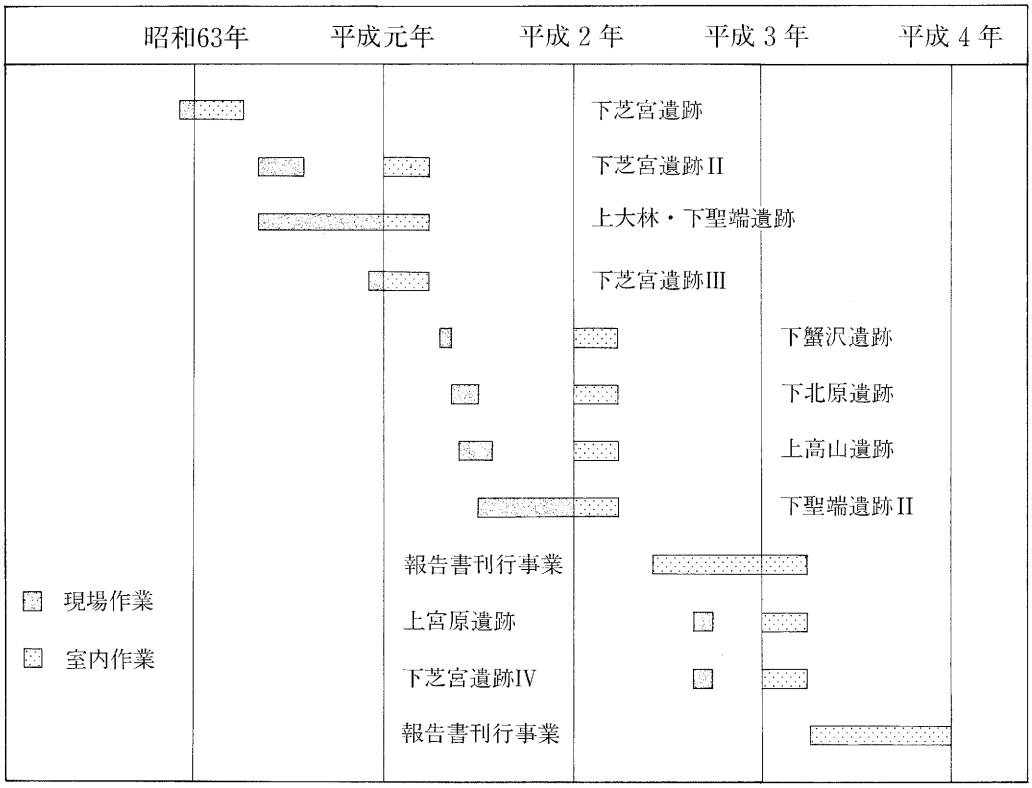
藤沢平治（佐久市文化財保護審議委員）

調査担当者　　羽毛田卓也

調査主任　　佐々木宗昭

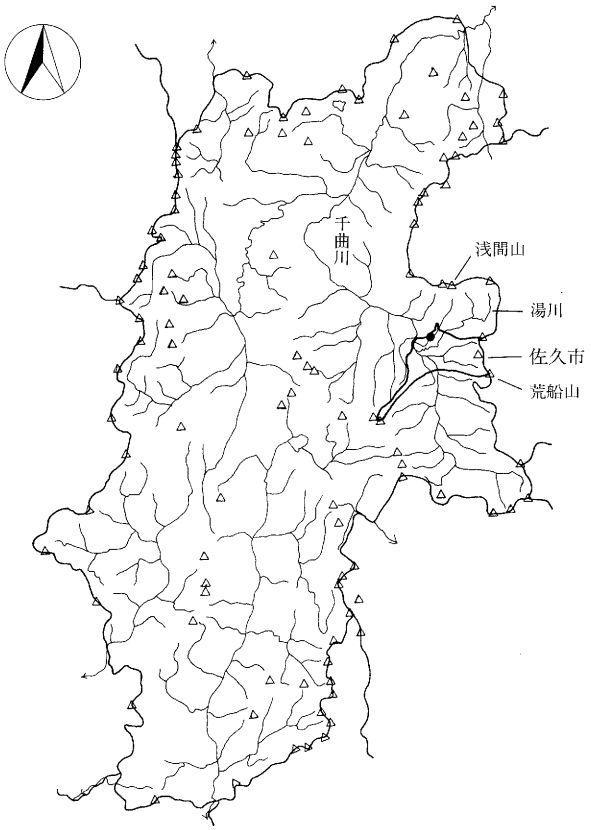
調査員　　大井今朝太　小林妙子　堺益子　香山優子　行田祐子　神津ツネヨ
小林よしみ　羽毛田香里　橋詰信子　山崎平八郎　飯沢つや子　依田みち
甘利亘　小林立江

第１表　各遺跡発掘調査経過表



第II章　遺跡の位置と環境

1　遺跡の自然的環境

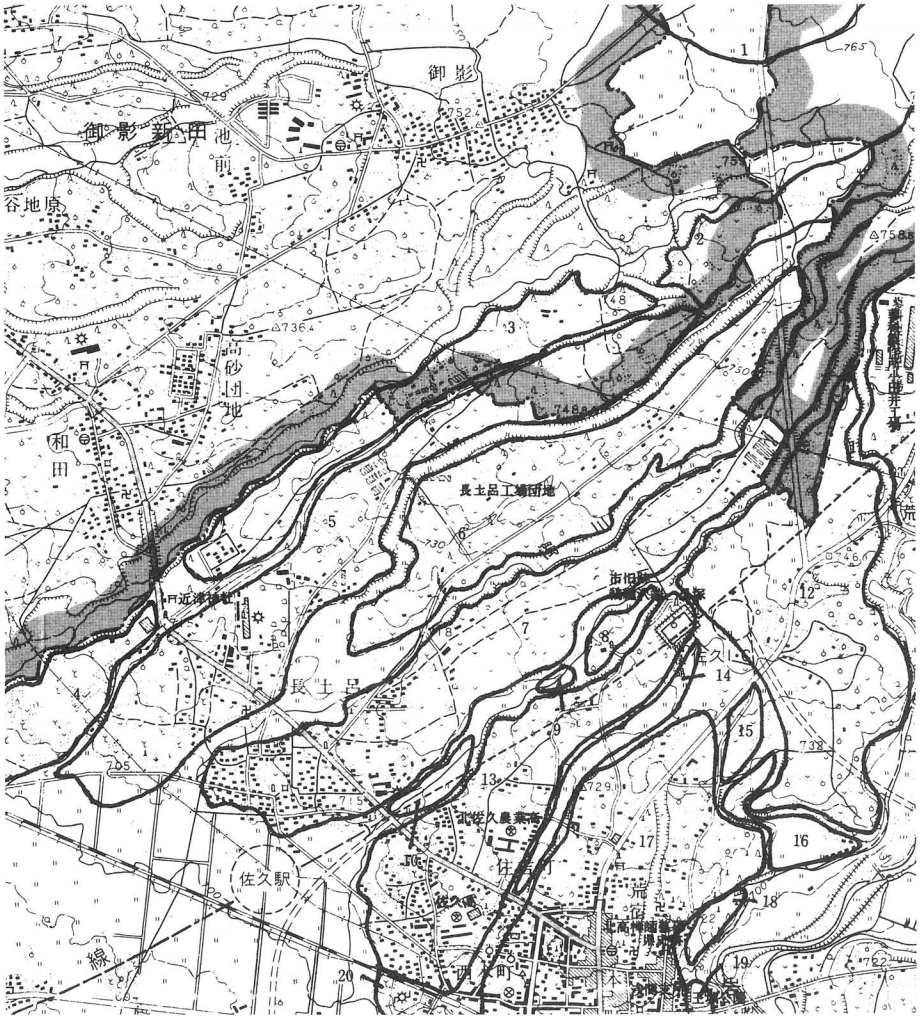


第３図　長野県佐久市位置図

佐久平は、北に浅間山を主とする三国山脈の南端峰、東に関東山地、西に八ケ岳と、四方を山々に囲まれた標高700m～800m内外の盆地で、長野県の中央東端にあたり群馬県に接している。中央部を佐久地方南端の甲武信ヶ岳に源を発する千曲川が北進し、湯川・濁川・志賀川・香坂川・滑津川・片貝川・大沢川・中沢川・宮川等小河川がそれに向かって集まり、大小の扇状地を形成している。長野から佐久にかけての千曲川流域は、北海道とともに日本の小雨地帯で、年間降水

量は長野941ミリ・上田870ミリ・東部946ミリ・佐久が908ミリである。佐久盆地は年間の降水量が軽井沢を除き1000ミリに達せず、年平均気温は10度を切る典型的な中央高地型気候である。また標高800mを越える山間部は高冷地気候を呈する。

佐久平の北側は、浅間山の火山噴出物によって厚く覆われ、雄大な山麓を形成している。また山麓には、火山噴出物の性格上水の各種作用を受けやすいため、大小様々な峡谷や「田切り地形」と呼ばれる帯状台地と帯状低地の交互地形が見られる。今回調査した各遺跡は、佐久平の北方、浅間山麓南端の田切り地形、標高705～735mの帯状台地上に展開する。



第４図　周辺遺跡分布図（１：25,000）

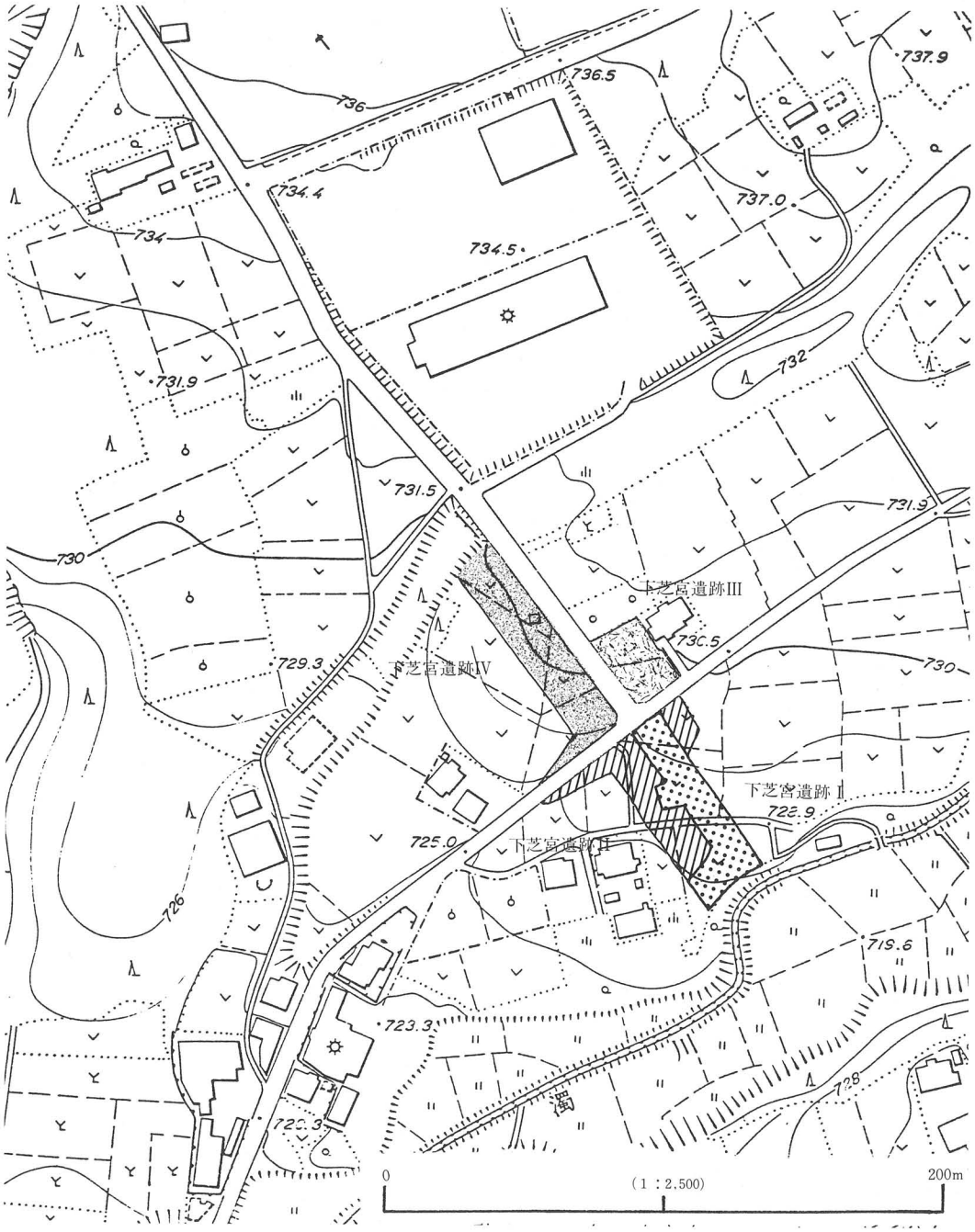
第２表　周辺遺跡一覧表

No.	佐分No.	遺　跡　名	時　代						備　　考
			縄	弥	古	奈	平	中	
1	3	鋳師屋遺跡群		○	○	○	○	○	鋳師屋遺跡Ⅰ・Ⅱ（59･61）、前田遺跡（60･61･62）
2	4	曽根城遺跡	○	○	○	○	○		
3	6	近津遺跡群		○	○	○	○		北近津遺跡（46）、今回調査
4	29	西近津遺跡群	○	○	○	○	○		西近津遺跡（46）、森下遺跡（63）
5	7	周防畑遺跡群	○	○	○	○	○		周防畑Ａ・Ｂ遺跡（54・55）、今回調査
6	8	芝宮遺跡群	○	○	○	○	○	○	芝宮遺跡１・２・３（54・55・57） 南上下中原遺跡（63）、今回調査
7	9	長土呂遺跡群		○	○	○	○	○	聖原遺跡（元～）、上聖端遺跡（63）、今回調査
8	541	曽根新城跡						○	２・３年
9	45	新城遺跡		○	○	○	○		
10	38	下蟹沢遺跡		○	○	○	○		今回調査
11	11	跡坂遺跡群		○	○	○	○		
12	10	栗毛坂遺跡群		○	○	○	○		柳田遺跡（58）
13	41	琵琶坂遺跡群		○	○	○	○		琵琶坂遺跡（55・60）、上道路遺跡（60）
14	42	中久保田遺跡		○	○	○	○		２年～
15	43	西赤座遺跡		○	○	○	○		東赤座遺跡（２）
16	44	上岩子遺跡					○		
17	52	岩村田遺跡群		○	○	○	○	○	六供後遺跡（55）、新町遺跡（60）、内西浦遺跡（元）
18	51	石　並　城		○	○	○	○	○	２年
19	41	王　　城		○	○	○	○	○	54年
20	39	円正坊遺跡群	○	○	○	○	○		清水田遺跡（53）、円正坊遺跡（59）

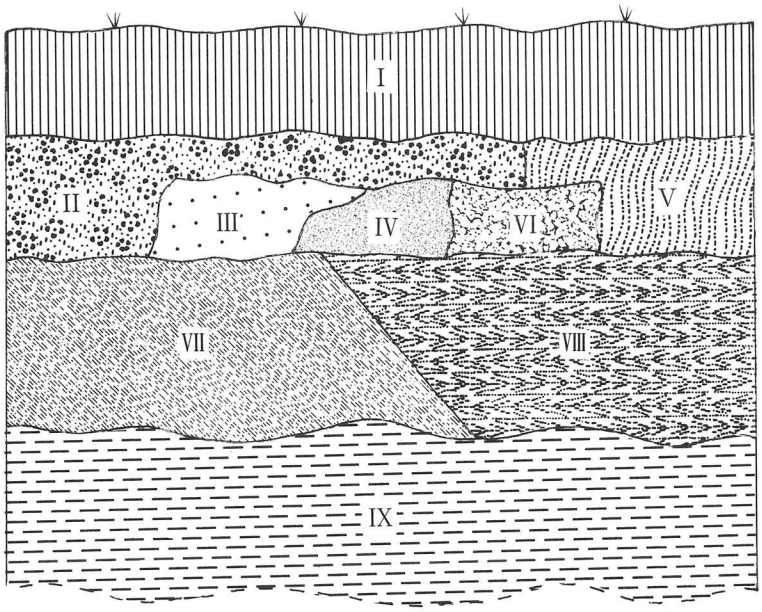
2　遺跡の歴史的環境

今回調査した各遺跡付近には、昭和59年から62年までの調査で古墳時代から中世にかけての大集落と共に唐三彩陶枕・銅製巡方・和銅開珎等が検出された鋳師屋遺跡群（1）、曽根城遺跡（2）、昭和46年度調査の北近津遺跡を有する近津遺跡群（3）、昭和46年度調査の西近津遺跡と昭和63年度に調査され弥生時代から奈良時代にかけての集落が検出された森下遺跡を有する西近津遺跡群（4）、昭和54年度調査の周防畑Ａ遺跡と昭和55年度に調査され弥生時代の円形周溝墓群が検出された周防畑Ｂ遺跡を有する周防畑遺跡群（5）、昭和54・55・57年度調査の芝宮遺跡と昭和63年度に調査され古墳時代から平安時代にかけての集落が検出された南上下中原遺跡を有する芝宮遺跡群（6）、昭和63年度に調査され古墳時代から平安時代にかけての集落が検出された上聖端遺跡と平成元年度から調査進行中で古墳時代から平安時代にかけての大集落と共に八稜鏡・銅製巡方・皇朝十二銭等が検出されている聖原遺跡を有する長土呂遺跡群（7）、平成2・3年度調査の曽根新城跡（8）、新城遺跡（9）、下蟹沢遺跡（10）、跡坂遺跡群（11）、昭和58年度調査の柳田遺跡を有する栗毛坂遺跡群（12）、昭和55・60年度調査の琵琶坂遺跡と昭和60年度に調査され弥生時代の銅製釧15点が出土した上直路遺跡を有する琵琶坂遺跡群（13）、中久保田遺跡（14）、平成2年度調査の東赤座遺跡を有する西赤座遺跡（15）、上岩子遺跡（16）、昭和55年度調査の六供後遺跡と昭和60年度調査の新町遺跡さらに平成元年度に調査され中世の集落が検出された内西浦遺跡を有する岩村田遺跡群（17）、平成2年度に一部が調査された石並城（18）、昭和60年度に一部が調査され古墳時代と中世の集落が検出された王城（19）、昭和53年度調査の清水田遺跡と昭和59年度調査の円正坊遺跡を有する円正坊遺跡群（20）が存在する。

第III章　芝宮遺跡群下芝宮遺跡 I・II・III・IV



第５図　下芝宮遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ位置図



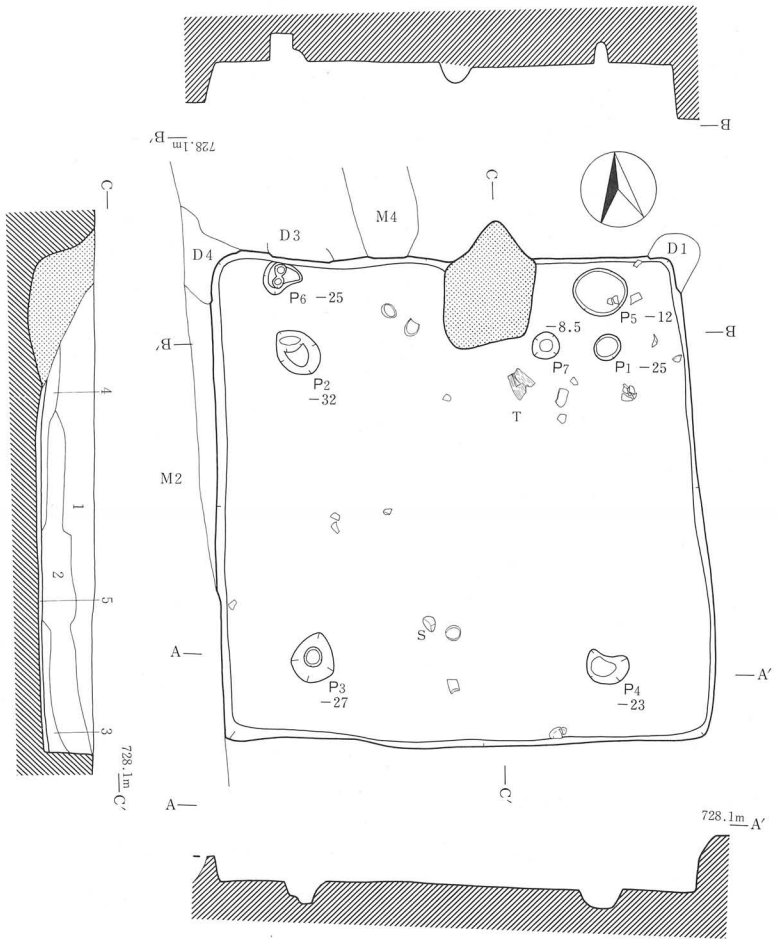
第６図　層序模式図

下芝宮遺跡は、海抜728～730mを測り、南西方向に向かってやや不規則に傾斜する。基本層序は、各調査区側面において観察した。

第Ⅰ層は、耕作による影響下で成立した粘性がやや弱い黒褐色土、第Ⅱ層は、粘性が弱くパミス小粒を少量含む黒褐色土、第Ⅲ層は、粘性が弱くパミス小粒を微量含むにぶい黄褐色土、第Ⅳ層は、粘性が弱くパミス小粒を少量含むにぶい黄褐色土、第Ⅴ層は、粘性がやや弱くパミス小粒とローム粒子を少量含む褐色土、第Ⅵ層は、粘性がやや弱くパミス小粒を少量とローム粒子をやや多量に含む黄褐色土、第Ⅶ層は、パミス極大～小粒を多量に含むローム主体の明黄褐色土、第Ⅷ層は、パミス大～小粒と砂粒を多量に含む暗褐色土、第Ⅸ層は、パミス大～小粒と砂粒・スコリアを多量に含む黄橙色土である。

1　竪穴住居址

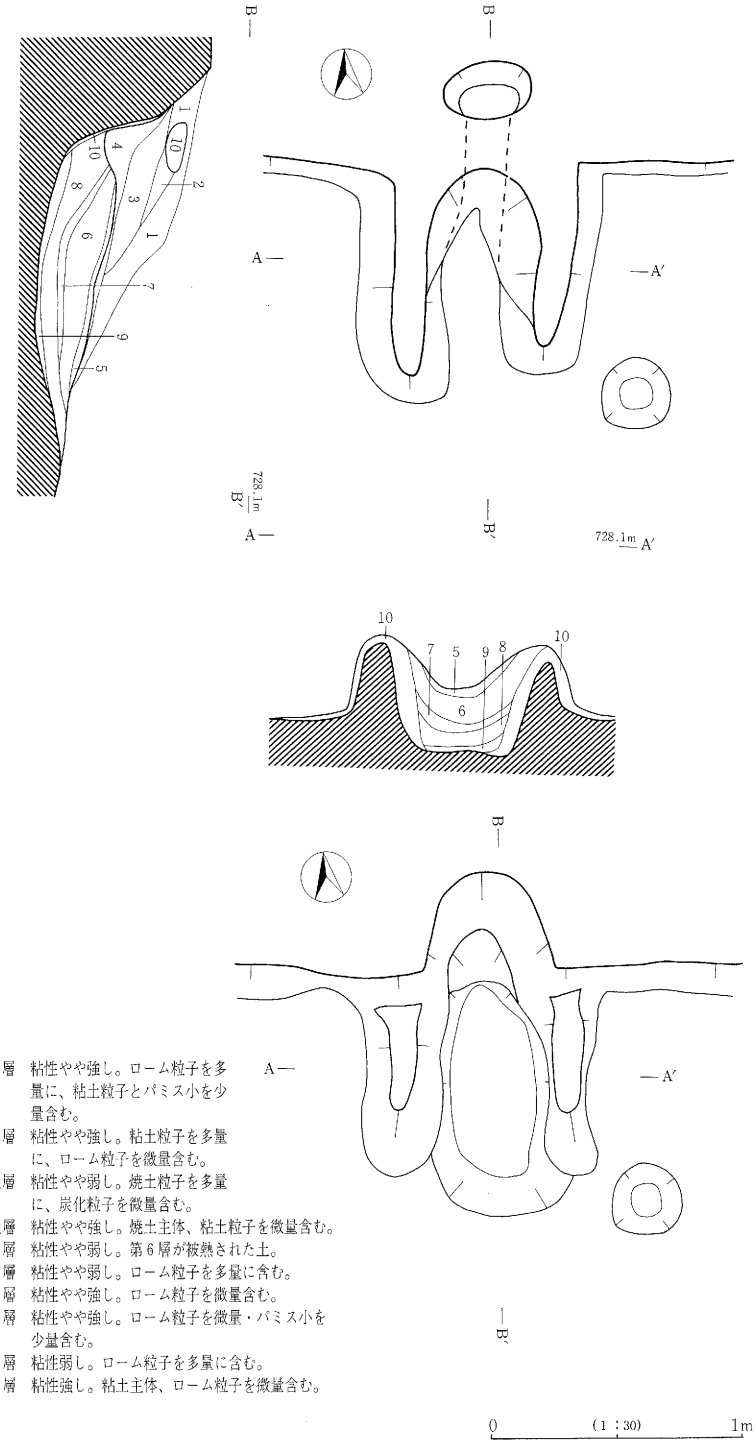
1）Ｈ１号住居址



1　暗褐色土層　粘性やや弱し。パミス小〜中・ローム粒子を少量含む。
2　暗褐色土層　粘性やや弱し。パミス小〜中を少量、ロームブロックとローム粒子を均一に含む。
3　にぶい黄褐色土層　粘性弱し。ローム粒子を少量とパミス小を微量含む。
4　褐色土層　粘性やや強し。ローム粒子を多量に、粘土粒子とパミス小を少量含む。
5　橙色土層　粘性やや強し。スコリア・炭化粒子・パミス小を少量とローム粒子を多量に含む。

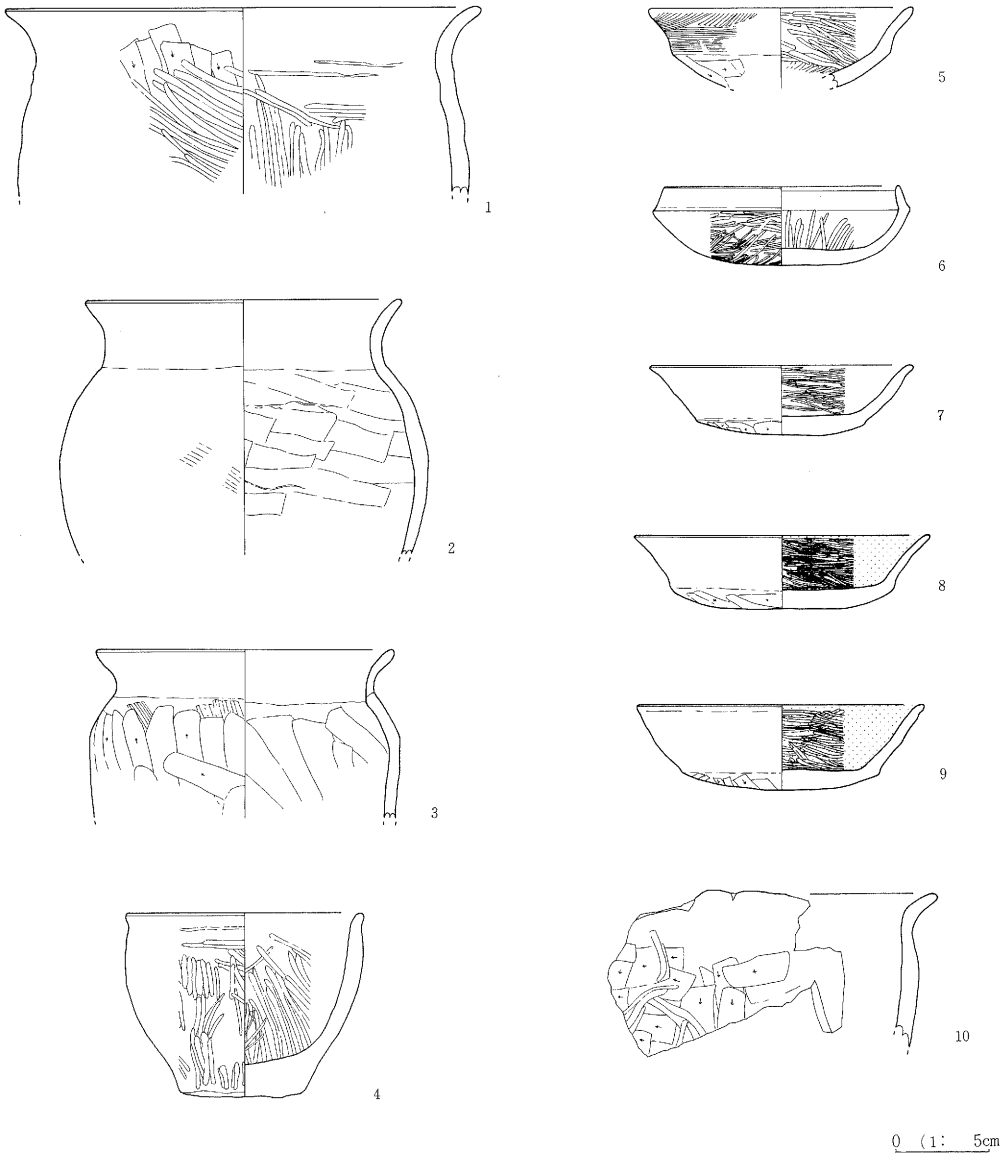
0　(1：80)　2m

第７図　Ｈ１号住居址実測図



1　褐色土層　粘性やや強し。ローム粒子を多量に、粘土粒子とパミス小を少量含む。
2　黄褐色土層　粘性やや強し。粘土粒子を多量に、ローム粒子を微量含む。
3　暗赤褐色土層　粘性やや弱し。焼土粒子を多量に、炭化粒子を微量含む。
4　暗赤褐色土層　粘性やや強し。焼土主体、粘土粒子を微量含む。
5　赤褐色土層　粘性やや弱し。第6層が被熱された土。
6　明褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子を多量に含む。
7　黒褐色土層　粘性やや強し。ローム粒子を微量含む。
8　暗褐色土層　粘性やや強し。ローム粒子を微量・パミス小を少量含む。
9　褐色土層　粘性弱し。ローム粒子を多量に含む。
10　明褐色土層　粘性強し。粘土主体、ローム粒子を微量含む。

第8図　H1号住居址カマド実測図



第９図　Ｈ１号住居址出土遺物実測図

Ｈ１号住居址は、下芝宮遺跡Ｉの調査区南側よりやや中央寄り、か・き－４・５グリッド内に位置し、下芝宮遺跡全体層序第Ⅶ層上面において検出された。なお、北東隅をＤ１号土坑に、北西隅をＤ２・３・４号土坑に、西側壁をＭ２・３号溝状遺構によって破壊される。

平面形態は、南北515㎝、東西は現存で513㎝を測り、方形を呈している。主軸方位はＮ－１°－Ｗを指す。また床面積は26.3㎡を測る。

覆土は４層に分割された。なお、第２層と第３層は覆土の状態より、人為的に埋土された可能

第３表　Ｈ１号住居址出土遺物一覧表

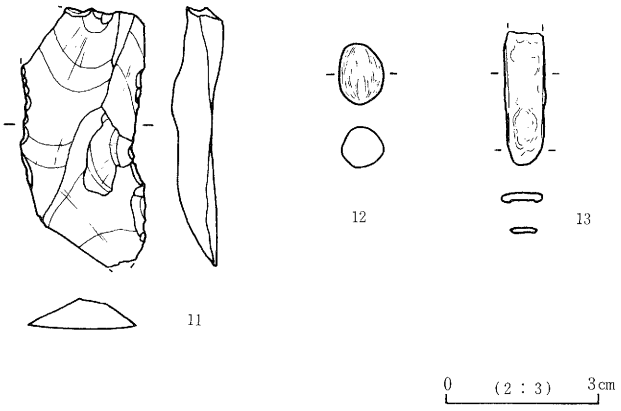
挿図番号	器種	法　量cm	形　態　の　特　徴	手　法　の　特　徴	備　　考
9－1	甕	口径（24.8） 現高　10.0	直線的に立ち上がる胴部から外反する口縁に至る	口縁部内外面ヨコナデ 胴部外面ヘラケズリ後ヘラミガキ 胴部内面ヘラナデ後ヘラミガキ	7.5Y R6/6
9－2	甕	口径（16.6） 現高　13.6	球胴部より外反する口縁に至る	口縁部内外面ヨコナデ 胴部外面ハケメ後ヘラナデ 胴部内面ヘラナデ	10Y R7/4 10Y R5/2
9－3	甕	口径（15.6） 現高　9.0	直線的に立ち上がる胴部から頸部で集結され、外反する口縁に至る	口縁内部外面ヨコナデ 胴部外面ハケメ後ヘラケズリ 胴部内面ヘラナデ	10Y R4/4
9－4	鉢	口径（12.4） 底径　6.5 器高　9.3	平底より内彎気味に外傾し、口縁部は短く外反する	内外面ヘラナデ後ヘラミガキ	7.5Y R5/4 10Y R3/1
9－5	坏	口径（14.0） 現高　4.2	坏部中央に稜を持つ 口辺部内彎気味に外傾	坏下部外面ヘラケズリ 上部外面ハケメ 内面ヘラミガキ	10Y R7/4
9－6	坏	口径　12.4 器高　4.2	丸底より内彎して外傾し、口辺は直線的に内傾する	口辺部内外面ヨコナデ 体部内外面ヘラミガキ	10Y R5/2
9－7	坏	口径　13.8 器高　3.7 底径　8.9	丸底より直線的に立ち上がり、口縁端部でやや外反する	体部外面ヨコナデ 底部ヘラケズリ 体部内面ヘラミガキ	10Y R6/4
9－8	坏	口径（15.6） 器高　3.9 底径（11.8）	丸底よりやや外彎気味に外傾する	体部外面ヨコナデ 底部ヘラケズリ 体部内面ヘラミガキ 底部内面放射状暗文風ヘラミガキ 内面黒色	10Y R6/4
9－9	坏	口径　15.0 器高　4.5 底径　13.0	丸底より直線的に外傾	体部外面ヨコナデ 体部・底部内面ヘラミガキ 底部外面ヘラケズリ 内面黒色	10Y R7/4
9－10	甕	現高　8.1	口縁部鋭く外反する	口縁部内外面ヨコナデ 胴部外面ヘラケズリ後ヘラミガキ 胴部内面ヘラナデ	5 Y R6/6

性が強い。また、第４層中から炭化材が出土しており、さらに床面が部分的に焼けている事も考慮にいれると本住居址は焼失したと考えられる。

確認面からの壁残高は、31～61cmを測り、壁体は全体層序第Ⅶ層と第Ⅷ層の一部を利用し、平滑で堅固である。床面はおおむね平坦で貼床が認められた。貼床は住居址覆土第５層によって貼られ、緻密で固く締まっていた。また壁際に周溝とは呼びがたい浅い凹みが一部認められたが図示は控えた。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは直角を呈している。

ピットは、主柱穴４個（P_1～P_4）、貯蔵穴１個（P_5）、灰落とし（P_7）、その他１個（P_6）の計７個が検出された。なおP_6は補助的な柱の柱穴と考えられる。

カマドは北壁中央やや東寄りで検出された。残存状況は比較的良好で、煙道の天井部が残存し



第10図　Ｈ１号住居址出土遺物実測図

第４表　Ｈ１号住居址出土遺物一覧表

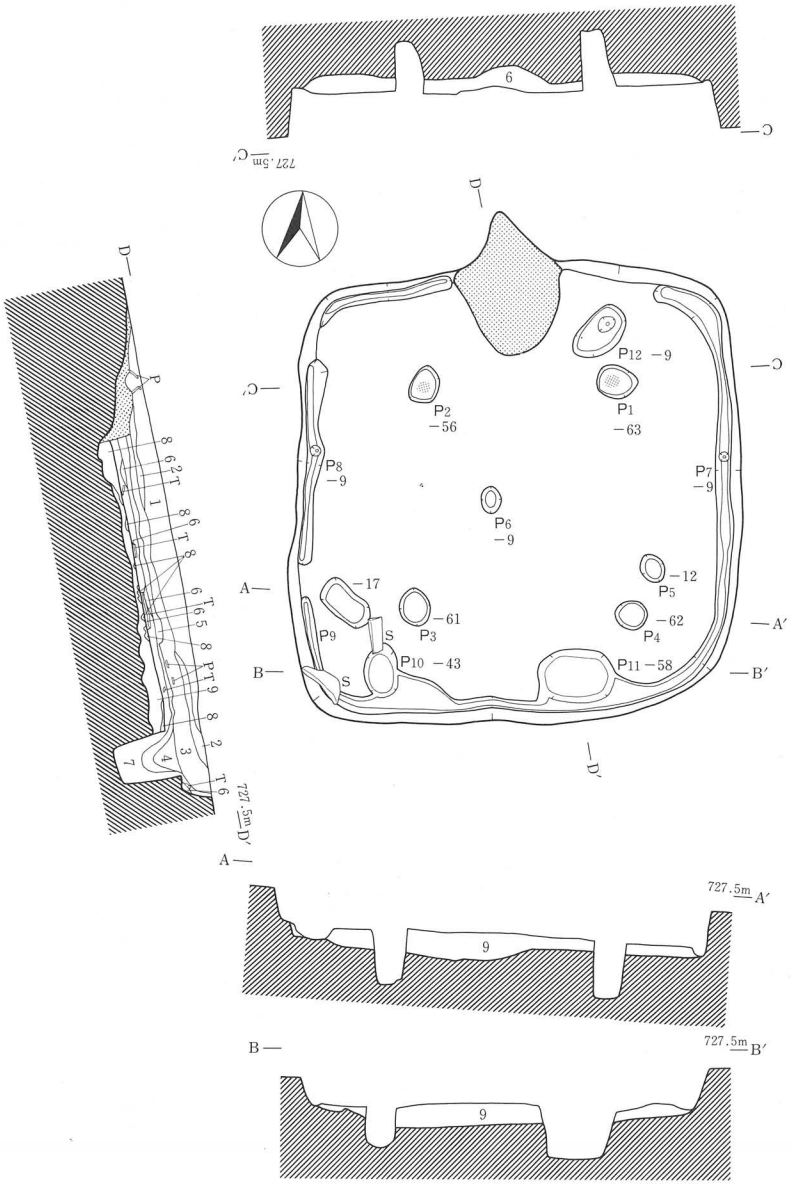
挿図番号	器種	原料	法量cm			備考
			長さ	巾	厚さ	
10-11	スクレパー	チャート	5.1	2.4	0.8	両側面に浅部調整を行って刃部を形成 縦長剥片を利用
10-12	磨石	チャート	1.2	0.9	0.8	表面に研磨痕
10-13	鏃	鉄	2.6	〈0.8〉	〈0.15〉	先端部か

ていた。規模は、焚口より煙道出口まで152cm、袖部最大巾92cmを測る。また右側の袖は長さ85cmで巾34cm内外・高さ25～21cm、左側の袖は長さ90cmで巾35cm内外・高さ22～21cmを測る。覆土は４層に分割された。またカマド各部の構築状況は以下のとおりである。袖部は全体層序第Ⅶ層の明黄褐色ロームを基礎とし、全体に第10層が貼られる。燃焼部と焚口は、床面を10cm程掘り込み、第９層・第８層・第７層・第６層・第５層の順に貼られて構築される。なお第５層は熱を受けて変色したものと認識した。煙道の天井部は第10層によって構築され、煙道側面・下部も第10層が貼られていたと考えられる。第10層が貼られる以前の袖部は、右袖が長さ83cmで巾28～19cm・高さ22～13cm、左袖が長さ79cmで巾34～31cm・高さ29～23cmの規模で造り出されていた。

遺物は土師器の甕・坏・鉢・鉄鏃等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代後期中葉に位置付けられる。

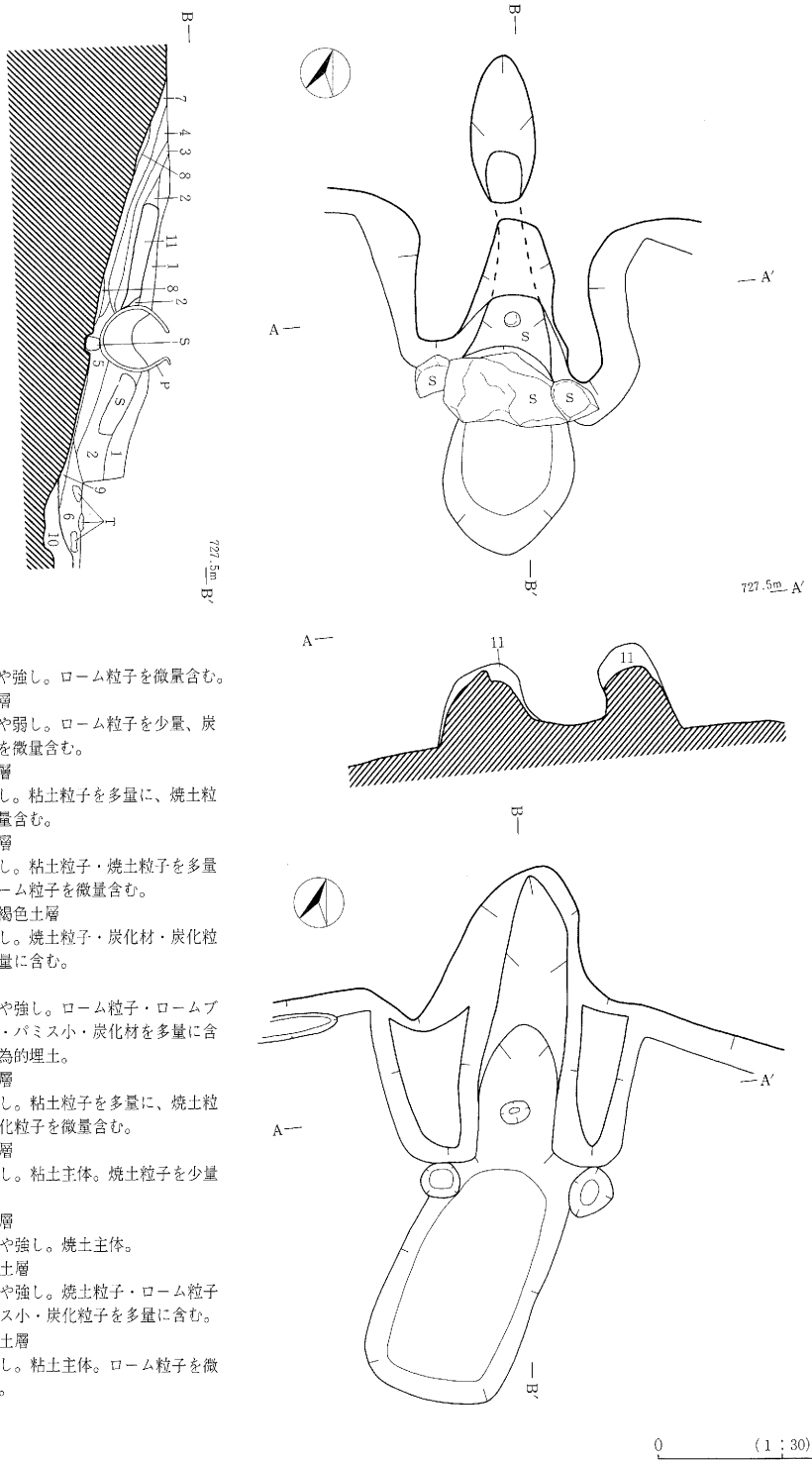
2）Ｈ２号住居址



1　黒褐色土層　粘性弱し。パミス小とローム粒子を微量含む。
2　黒褐色土層　粘性弱し。パミス小とローム粒子を少量含む。
3　黒色土層　粘性やや強し。ローム粒子と炭化粒子を微量含む。
4　暗褐色土層　粘性弱し。ローム粒子を多量に、炭化粒子を微量含む。
5　黒褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。
6　赤褐色土層　粘性やや強し。炭化粒子を少量含む。焼土主体。
7　褐色土層　粘性やや強し。ローム粒子・ロームブロック・パミス小・炭化材を多量に含む。人為的埋土。
8　暗赤灰色土層　粘性やや強し。焼土粒子・ローム粒子・パミス小・炭化粒子を多量に含む。
9　明黄褐色土層　粘性弱し。ローム主体。パミス小～中を多量に含む。

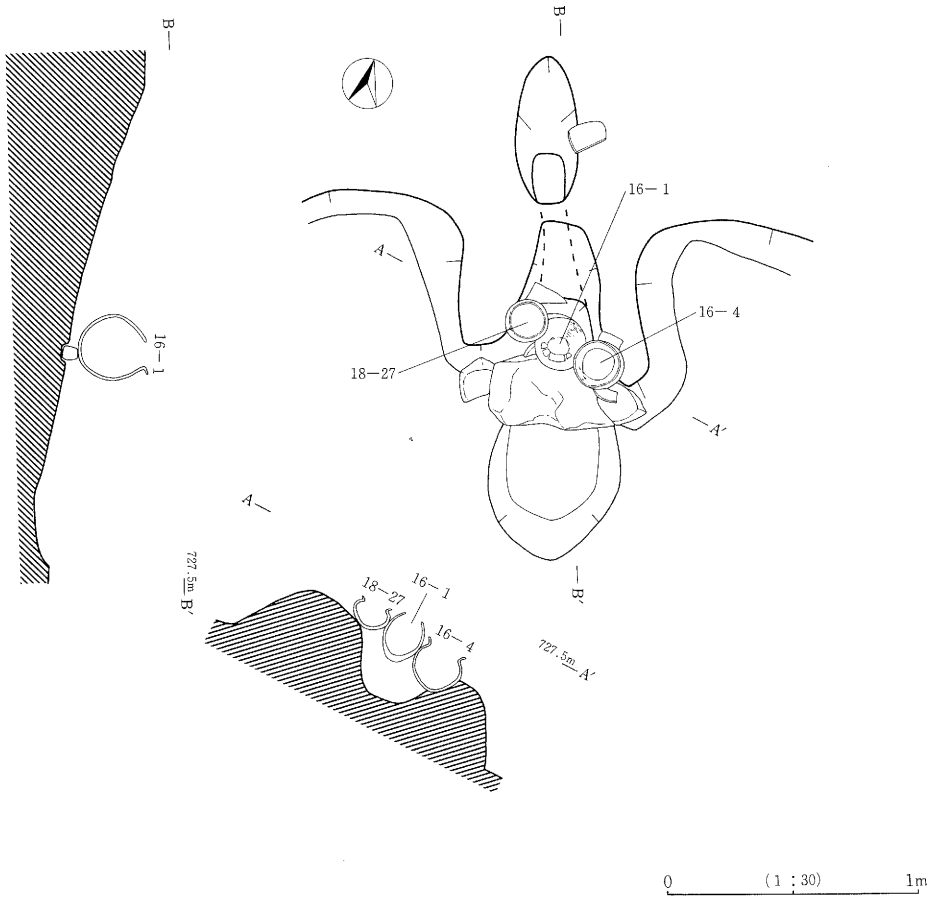
0　(1：80)　2m

第11図　Ｈ２号住居址実測図



1　黒色土層
　粘性やや強し。ローム粒子を微量含む。
2　黒褐色土層
　粘性やや弱し。ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。
3　褐灰色土層
　粘性強し。粘土粒子を多量に、焼土粒子を少量含む。
4　灰褐色土層
　粘性強し。粘土粒子・焼土粒子を多量に、ローム粒子を微量含む。
5　にぶい赤褐色土層
　粘性強し。焼土粒子・炭化材・炭化粒子を多量に含む。
6　褐色土層
　粘性やや強し。ローム粒子・ロームブロック・パミス小・炭化材を多量に含む。人為的埋土。
7　褐灰色土層
　粘性強し。粘土粒子を多量に、焼土粒子と炭化粒子を微量含む。
8　灰褐色土層
　粘性強し。粘土主体。焼土粒子を少量含む。
9　赤褐色土層
　粘性やや強し。焼土主体。
10　暗赤灰色土層
　粘性やや強し。焼土粒子・ローム粒子・パミス小・炭化粒子を多量に含む。
11　灰黄褐色土層
　粘性強し。粘土主体。ローム粒子を微量含む。

第12図　H２号住居址カマド実測図



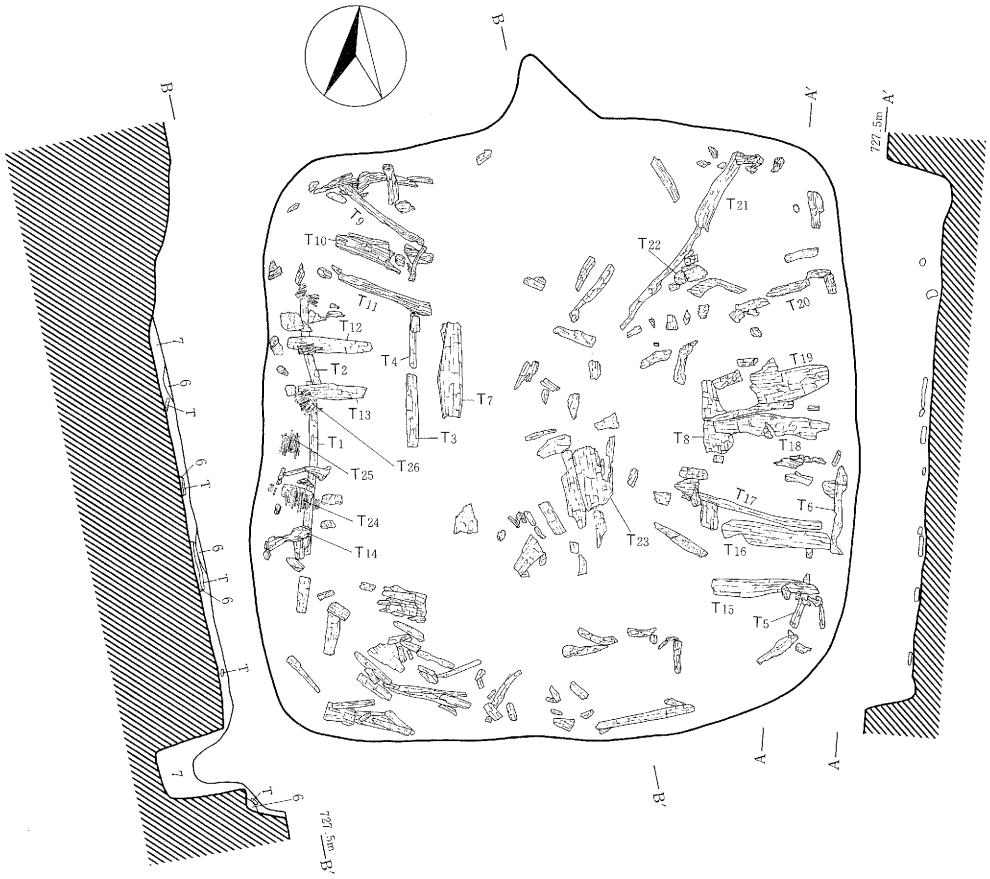
第13図　Ｈ２号住居址カマド遺物出土状況実測図

Ｈ２号住居址は、下芝宮遺跡Ｉの調査区中央、く・け－７・８グリッド内に位置し、下芝宮遺跡全体層序第Ⅶ層上面において単独で検出された。

平面形態は、南北532cm、東西は現存で473cmを測り、方形を呈している。主軸方位はＮ－３°－Ｅを指す。また床面積は17.58m²を測る。

覆土は７層に分割された。なお、第７層は覆土の状態より、人為的に埋土された可能性が強い。また、第７層中に炭化材と第６層が含まれており、埋土は住居址構築材が完全に燃えきらないうちに行われたと考えられる。

確認面からの壁残高は、25～49.5cmを測り、壁体は全体層序第Ⅶ層を利用し、平滑で堅固である。床面はおおむね平坦で貼床と周溝が認められた。貼床は住居址覆土第８層と第９層によって5～30cmの厚さで貼られていた。周溝は、カマドと西壁の一部で途切れる他は、巾8～44cm・深さ



6　赤褐色土層　粘性やや強し。炭化粒子を少量含む。焼土主体。
7　褐色土層　粘性やや強し。ローム粒子・ロームブロック・パミス小・炭化材を多量に含む。人為的埋土。

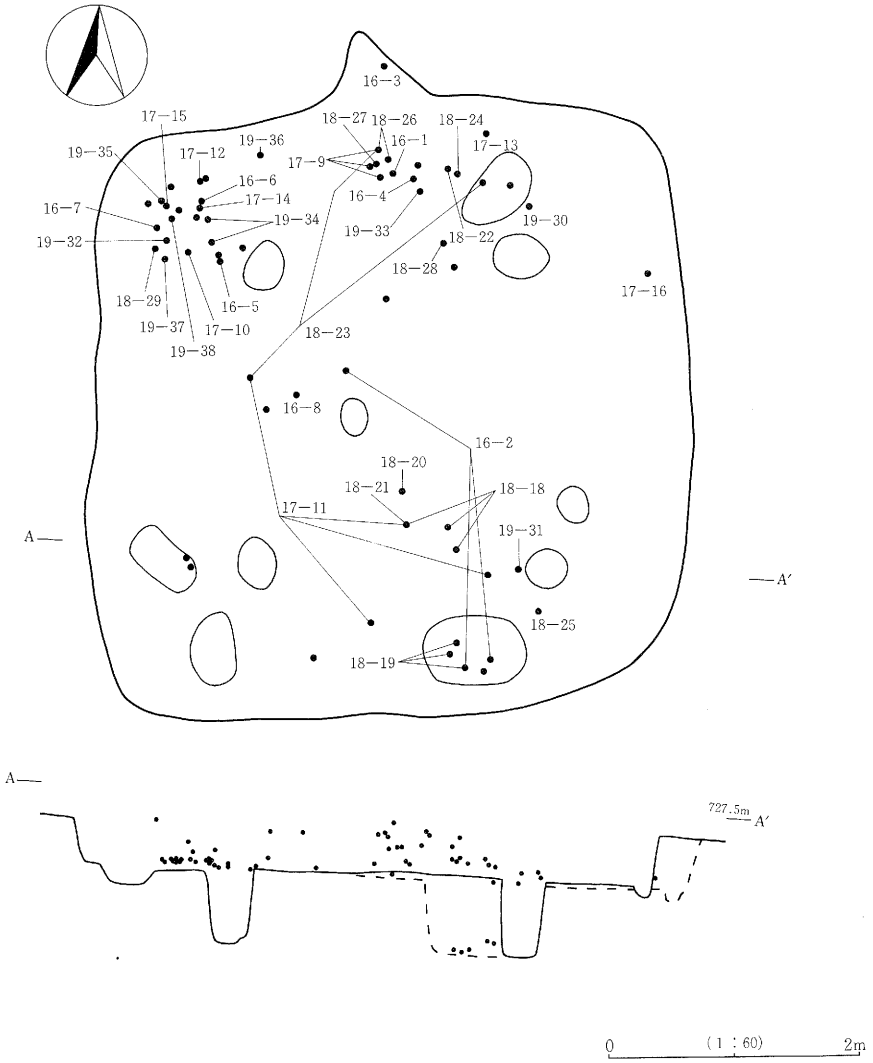
0　(1：60)　2m

第14図　H２号住居址炭化材分布図

5cm内外の規模で全周していた。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは直角を呈している。

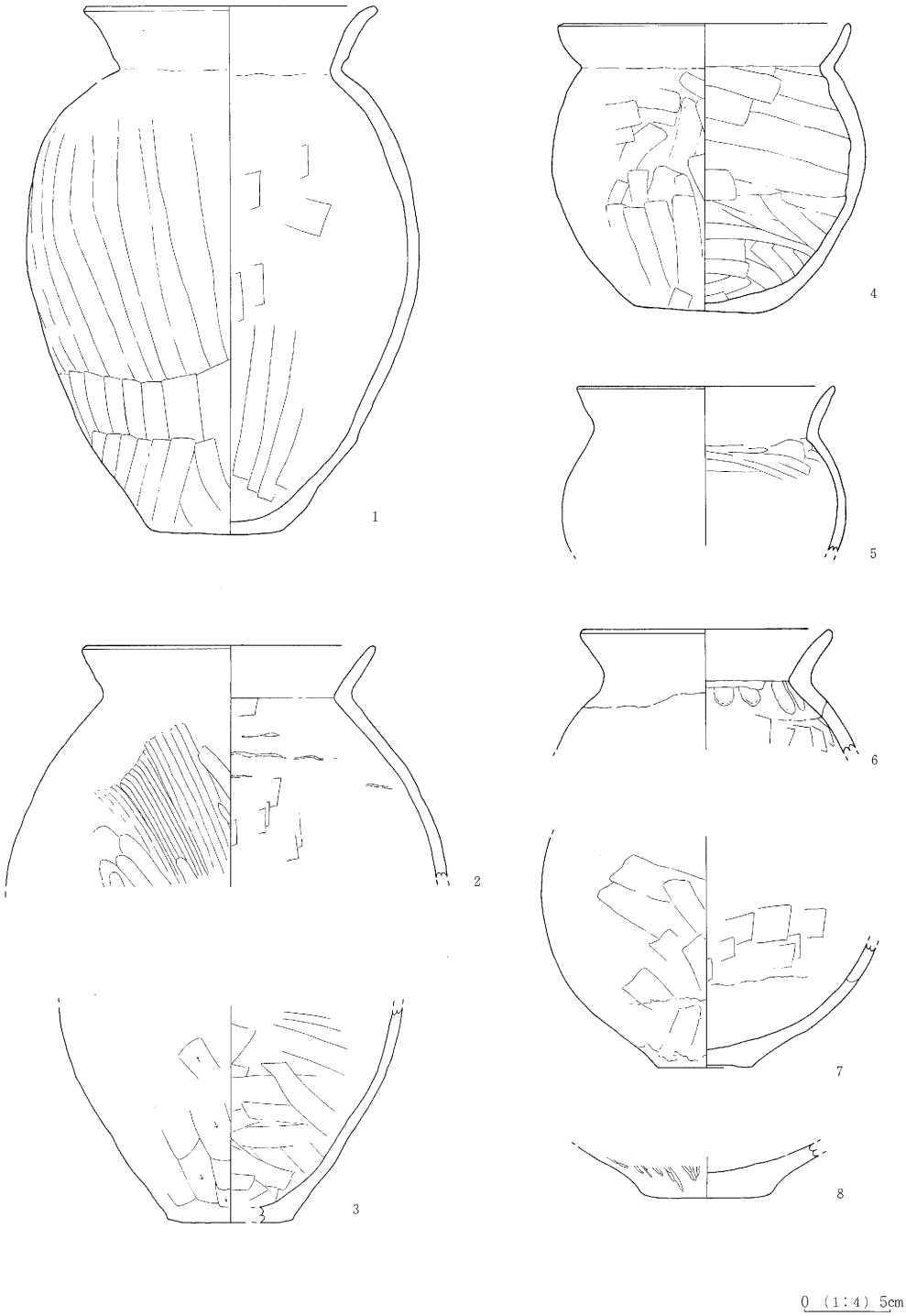
ピットは、主柱穴４個（P_1～P_4）、補助柱穴４個（P_5～P_8）、入口施設２個（P_9・P_{10}）、貯蔵穴２個（P_{11}・P_{12}）の計12個が検出された。

カマドは北壁中央やや東よりで検出された。残存状況は良好で、天井石の右側が袖石より外れる他は完全な形を保っていた。規模は、焚口より煙道出口まで198cm、袖部最大巾97cmを測る。また右側の袖は長さ66cmで巾38cm・高さ38～25cm、左側の袖は長さ82cmで巾36cm・高さ38～24cmを

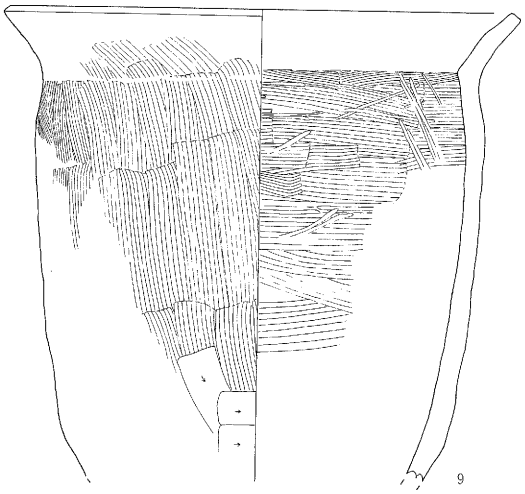


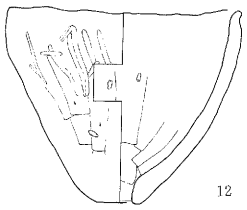
第15図　Ｈ２号住居址遺物分布図

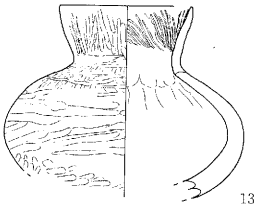
測る。両袖には、右側が30.5cm・左側が26cmの長さの面取加工を行った安山岩が埋め込まれていた。袖部の天井石は安山岩製で、長さ48cmで巾28cm・厚さ8～10cmを測る。覆土は９層に分割された。なお、カマド覆土第１層は住居址覆土第３層に、第２層は第５層に、第６層は第７層にそれぞれ対応する。またカマド各部の構築状況は以下のとおりである。袖部は全体層序第Ⅶ層の明黄褐色ロームを基礎とし、全体に第11層が貼られる。燃焼部と焚口は、第10層が数センチ貼られて構築される。煙道の天井部は甑の大形破片を補強材として利用し、第11層によって構築される。また煙道側面・下部も第11層が貼られていたと考えられる。第11層が貼られる以前の袖部は、右

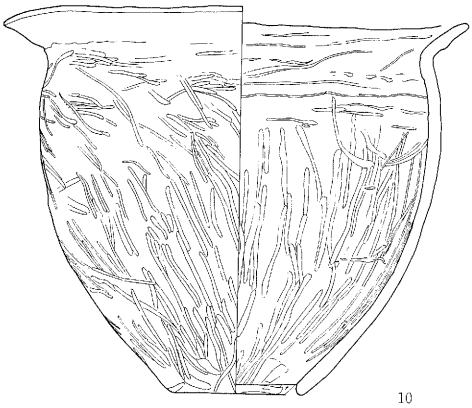


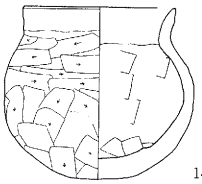
第16図　H２号住居址出土遺物実測図

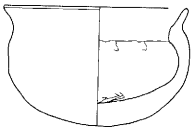


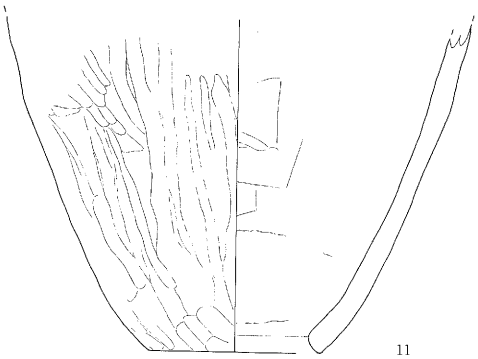


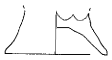






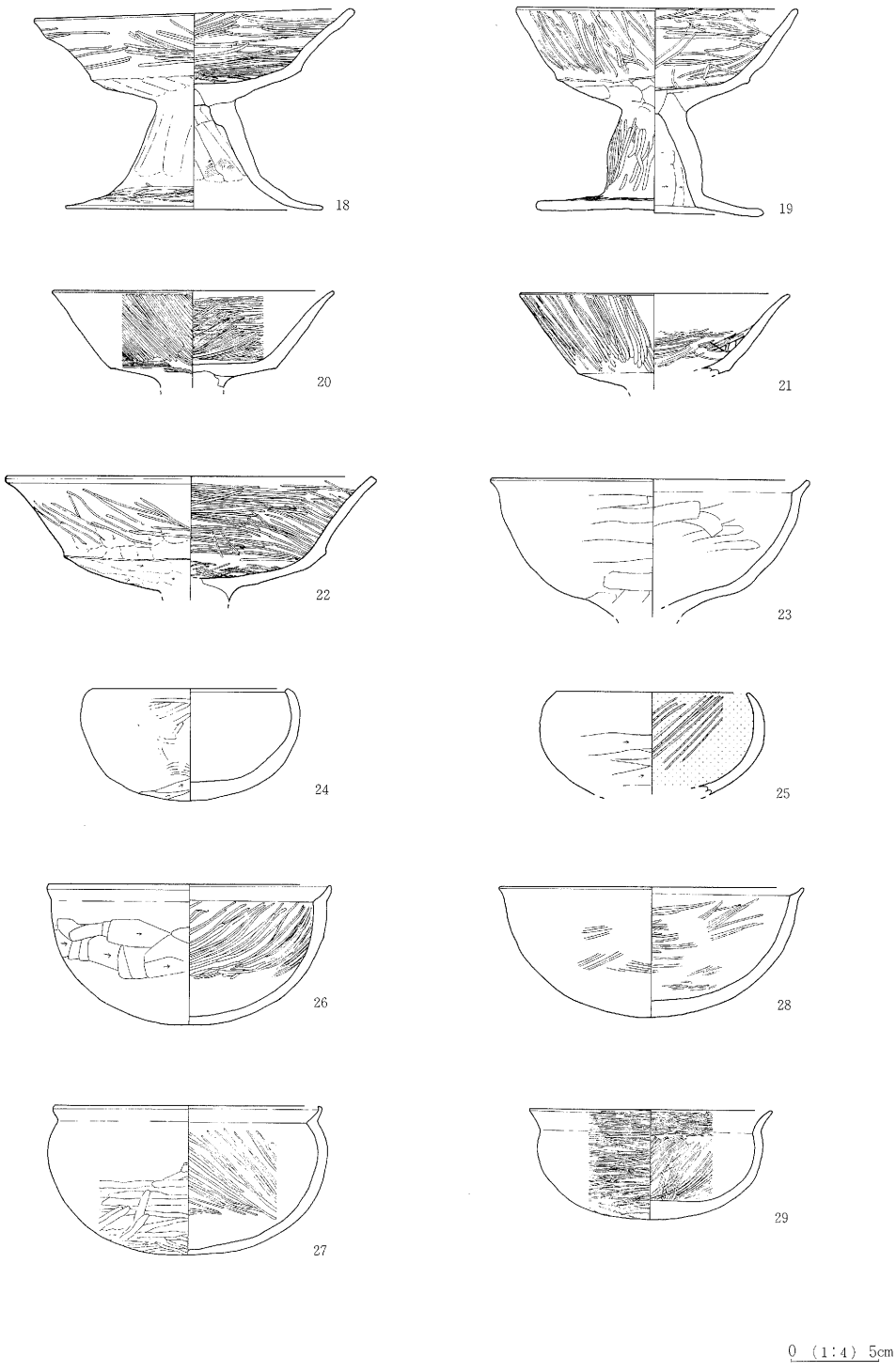




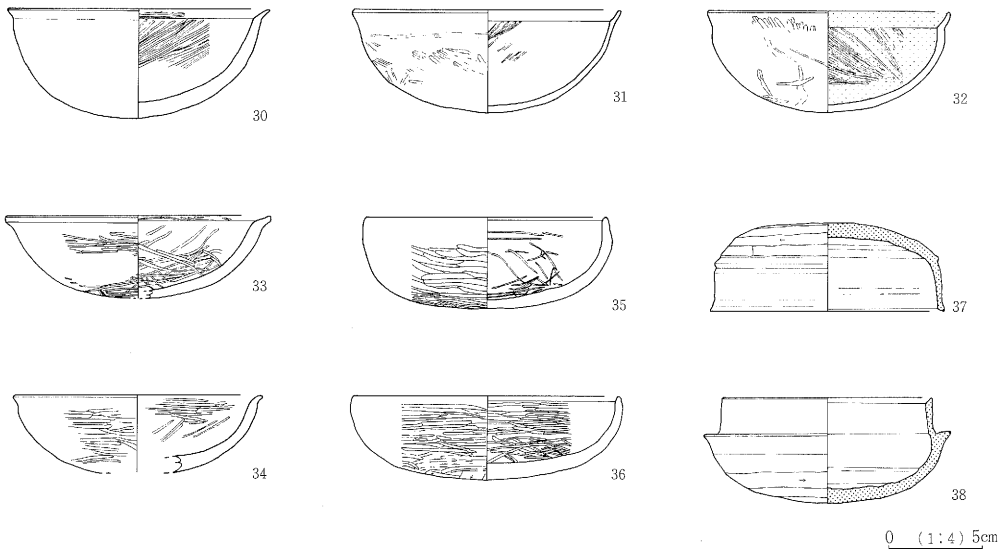


0 (1:4) 5cm

第17図　H２号住居址出土遺物実測図



第18図　H２号住居址出土遺物実測図



第19図　Ｈ２号住居址出土遺物実測図

第５表　Ｈ２号住居址出土遺物一覧表(1)

挿図番号	器種	法　量cm	形　態　の　特　徴	手　法　の　特　徴	備　考
16-1	甕	口径 (16.6) 底径 7.9 器高 30.6 胴径 22.7	胴中央よりやや上に最大径を持ち、頸部で集約され外彎気味に外傾する	口縁部内外面ヨコナデ 胴部内外面ヘラナデ	7.5Y R4/6
16-2	甕	口径 16.0 現高 13.9	球胴より頸部で集約され、直線的に外傾する口縁に至る	口縁内外面ヨコナデ 胴部外面ハケメ後ヘラナデ 胴部内面ヘラナデ	7.5Y R5/6
16-3	甕	底径 (7.2) 現高 12.5	丸味を帯びた底部より内彎気味に外傾する	胴部外面ヘラケズリ 胴部内面ヘラナデ	7.5Y R6/4
16-4	甕	口径 16.5 器高 16.7 底径 8.0 胴径 18.1	胴中央やや上に最大径を持ち、口縁は内彎気味に外傾する	口縁部内外面ヨコナデ 胴部内外面ヘラナデ	5Y R4/6 ～5/2
16-5	甕	口径 14.7 現高 9.6 胴径 16.4	最大径を持つ球胴から、直線的に外傾する口縁に至る	口縁部内外面ヨコナデ 胴部外面単位不明瞭なヘラナデ 胴部内面ヘラナデ	10Y R5/6
16-6	甕	口径 14.2 現高 7.1	頸部で「く」の字に折れ外傾する口縁に至る	口縁部内外面ヨコナデ 胴部外面ナデ 頸部内面指頭オサエ 胴部内面ヘラナデ	2.5Y R6/4
16-7	甕	底径 5.5 現高 13.3	上げ底より球胴部に至る	胴部内外面ヘラナデ	5 Y R5/6

第６表　Ｈ２住居址出土遺物一覧表(2)

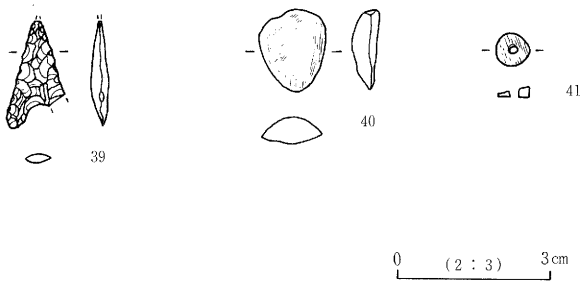
挿図番号	器種	法　量cm	形　態　の　特　徴	手　法　の　特　徴	備　　考
16-8	甕	底径　6.5 現高　2.4	底部平底	外部ヘラナデ後ヘラミガキ 内面ヘラナデ	10YR6/2
17-9	甑	口径（27.4） 現高　24.9	長胴より最大径を持つ口縁に至る	胴上半部外面ハケメ 胴下半部内面ハケメ後ヘラケズリ 胴部内面ハケメ・ヘラミガキ	7.5YR6/6
17-10	甑	口径　14.6 孔径　7.6 器高　20.5	内彎して外傾する胴部から鋭く外反する口縁に至る 口縁部大きくゆがむ	口縁部内外面ヨコナデの後ヘラミガキ 胴部外面ヘラミガキ 胴部内面ハケメ後ヘラミガキ	7.5YR6/4
17-11	甑	孔径（9.0） 現高　17.6	やや内彎気味に外傾する	外面ヘラミガキ 内面ヘラナデ	5YR5/3
17-12	小型甑	孔内径 1.6 孔外径 2.7 口径　12.1 器高　10.3	やや内彎気味に外傾し、短く外反する口縁に至る 頸部にくびれを持たない	外面ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面ヘラナデ 内外面３ケ所にもみ痕	10YR4/4
17-13	坩	口径　6.9 現高　10.1 胴径　12.7	胴中央部で大きく張り出し、口縁部直線的にやや外傾する	外面ヘラミガキ 口縁部内面ヘラミガキ 頸部内面指頭ナデ 胴部内面ヘラナデ	2.5YR5/6
17-14	小型甕	口径　7.8 器高　9.1 胴径　10.1	丸底より球胴を経て直線的にやや外傾する口縁に至る	口縁部内外面ヘラナデ 胴部・底部外面ヘラケズリ 胴部内面ヘラナデ	5YR6/4
17-15	小型甕	口径（9.2） 器高　6.3	丸底より球胴を経て直線的に外傾する口縁に至る	口縁部内外面ヨコナデ 胴部外面ヘラケズリ 胴部内面ヘラナデ	2.5YR5/4
17-16	手捏	台径　5.4 現高　2.4	台部直線的に開く	内外面指頭ナデ、オサエ	5YR5/6
17-17	高坏	口径（17.0） 現高　4.2	坏部の体部下半に外稜を持つ	口辺部内外面ヨコナデ 坏部外面ヘラナデ 坏部内面ヘラナデ・ヘラミガキ	2.5YR4/6
18-18	高坏	口径　17.8 台径　14.5 器高　18.0	脚部ラッパ状に開く 坏部は外稜を持つ	杯部内外面ヨコナデ 坏下部・脚部外面ヘラケズリ後ヘラ状工具によるナデ 脚下部外面ヘラミガキ 脚部内面指ナデ・オサエ	7.5YR7/4
18-10	高坏	口径　15.9 台径　12.8 器高　11.8	脚部直線的に外傾し内稜を持って開く 坏部は外稜を持つ	坏部内外面ヘラミガキ 坏体部外面ヘラケズリ後ナデ 脚部外面ヘラミガキ 脚部内面ヘラケズリ	5YR6/6
18-20	高坏	口径（15.6） 現高　5.4	坏部直線的に外傾 坏体下部に外稜	坏部内外面ヘラミガキ	7.5YR7/8
18-21	高坏	口径　15.2 現高　5.4	坏部直線的に外傾 坏体下部に外稜	坏部内外面ヘラミガキ	5YR6/6

第７表　Ｈ２号住居址出土遺物一覧表(3)

挿図番号	器種	法　量cm	形　態　の　特　徴	手　法　の　特　徴	備　　考
18-22	高坏	口径　20.8 現高　7.1	坏部外彎気味に外傾 坏体下部に外稜	坏部外面ヘラケズリ後ヘラミガキ 坏体下部外面ヘラケズリ 坏部内面ヘラミガキ	5ＹＲ6/6
18-23	高坏	口径　17.8 現高　7.8	坏部内彎気味に外傾 口辺部内稜を持つ	内外面ヘラ状工具によるナデ	2.5ＹＲ5/3
18-24	坏	口径　11.0 器高　6.3	丸底より体部・口辺部内彎	体下部・底部外面ヘラケズリ 体部外面ヘラミガキ 体部内面ヘラミガキ？	5ＹＲ6/4
18-25	坏	口径（10.6） 現高　5.7	丸底より体部・口辺部内彎	外面不明 内面は右回り放射状暗文風ヘラミガキ、内面黒色	2.5ＹＲ4/4
18-26	坏	口径　16.1 器高　7.9	体部内彎、丸底 口辺部内稜を持って内彎	口辺部内外面ヨコナデ 体部・底部外面ヘラケズリ 内面放射状（斜状）ヘラミガキ	5ＹＲ6/6
18-27	坏	口径　15.0 器高　8.5	体部内彎・丸底 口辺部内稜を持って内彎して外傾	口辺部内外面ヨコナデ 体部外面ヘラミガキ 内面斜状暗文風ヘラミガキ	5ＹＲ6/6
18-28	坏	口径（16.9） 器高　7.3	体部内彎・丸底 口辺部内稜を持って内彎して外傾	口辺部内外面ヨコナデ 体部外面ヘラミガキ 底部外面ヘラケズリ 内面ヘラミガキ	7.5ＹＲ7/4
18-29	坏	口径　13.6 器高　6.2	体部内彎、丸底 口辺部内稜を持って外反	口辺部内外面ヘラミガキ 体部外面ヘラケズリ後ヘラミガキ 体部内面放射状暗文風ヘラミガキ	7.5ＹＲ6/6
19-30	坏	口径　13.9 器高　5.8	体部内彎・丸底 口辺部弱い稜を持って外傾	外面ヘラケズリ後ヘラナデ 体部内面放射状暗文風ヘラミガキ	2.5ＴＲ5/6
19-31	坏	口径　14.0 器高　5.5	体部内彎、丸底 口辺部弱い稜を持って内彎し外傾する	口辺部内外面ヨコナデ 体部内外面ヘラミガキ	5ＹＲ7/4
19-32	坏	口径　12.7 器高　5.4	体部内彎、丸底 口辺部内稜を持ち内彎して外傾	口辺部、体部の外面ヘラミガキ 口辺部内面ヨコナデ 体部内面暗文風ヘラミガキ 内面黒色	5ＹＲ7/4
19-33	坏	口径（14.0） 現高　4.4	体部内彎、丸底 口辺部内稜を持ち内彎して外傾	内外面ヘラミガキ	7.5ＹＲ6/6
19-34	坏	口径（13.0） 現高　4.1	体部内彎、丸底 口辺部外反する	内外面ヘラミガキ	5ＹＲ6/6
19-35	坏	口径　12.6 器高　8.5	体部内彎、丸底 口辺部内彎	内外面ヘラミガキ	5ＹＲ6/6

第８表　Ｈ２号住居址出土遺物一覧表(4)

挿図番号	器種	法　量cm	形　態　の　特　徴	手　法　の　特　徴	備　　考
19-36	坏	口径 (13.9) 器高 4.5	丸底 体部・口辺部内彎	内外面ヘラミガキ	7.5Y R6/6
19-37	坏蓋 (須)	口径 12.3 器高 4.7	天井部・体部内彎	天井部回転ヘラケズリ 内外面ロクロヨコナデ	10Y R6/1
19-38	坏身 (須)	口径 11.0 最大 13.1 器高 5.6	体部内彎 口辺部直線的にやや内傾 段状の稜を持つ	底部回転ヘラケズリ 他ロクロヨコナデ	7.5Y R6/1



第20図　Ｈ２号住居址出土遺物実測図

第９表　Ｈ２号住居址出土石器一覧表

挿図番号	器　種	原　材	法　量cm			備　　考
			長さ	巾	厚さ	
20-39	石鏃	黒曜石	〈2.1〉	〈0.7〉	0.4	凹基無茎鏃、刃部鋸歯状 先端部・脚部切損
20-40	磨石	チャート	1.6	1.3	0.5	表面に使用擦過痕
20-41	白玉	滑石	0.65×0.6		0.2	孔径0.18cm 表面に研磨痕

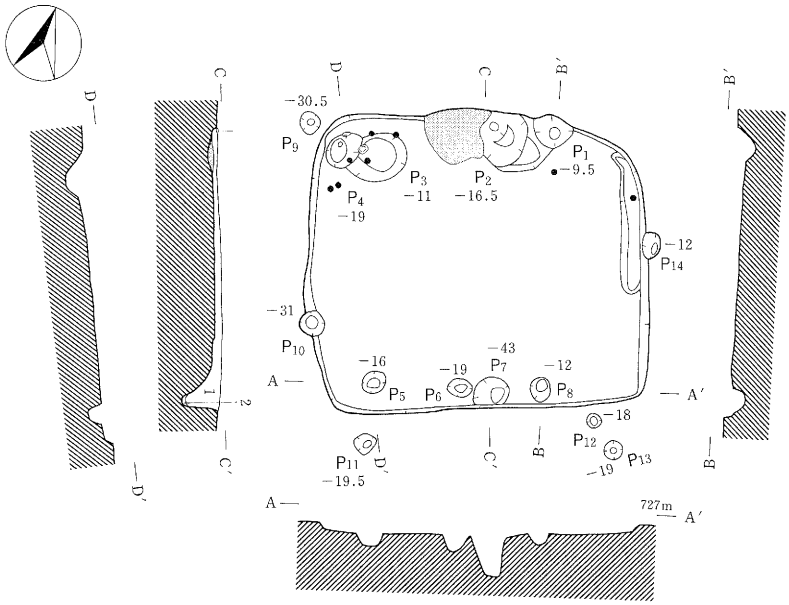
袖が長さ75cmで巾38cm・高さ33～18cm、左袖が長さ66cmで巾30cm・高さ26～20cmの規模で造り出されていた。なお第10層は住居址の貼床である第８層に対応する。

本住居址からは屋根材を中心とした炭化材が多量に出土した。

遺物は土師器の甕・甑・坏・鉢・小型壺・高坏・手捏・坩と須恵器の坏蓋・坏身、石鏃、白玉等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代中期後葉に位置付けられる。

3）Ｈ３号住居址

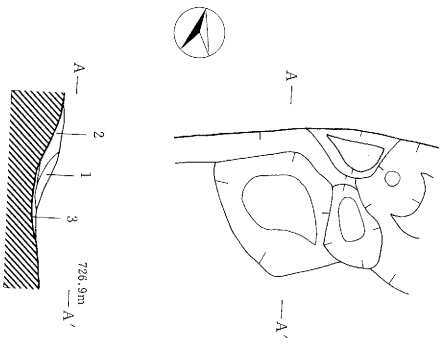


1　黒褐色土層　粘性弱し。ローム粒子と炭化粒子を少量含む。

2　暗褐色土層　粘性弱し。パミス・ローム粒子を含む。

0　(1：80)　2m

第21図　Ｈ３号住居址実測図



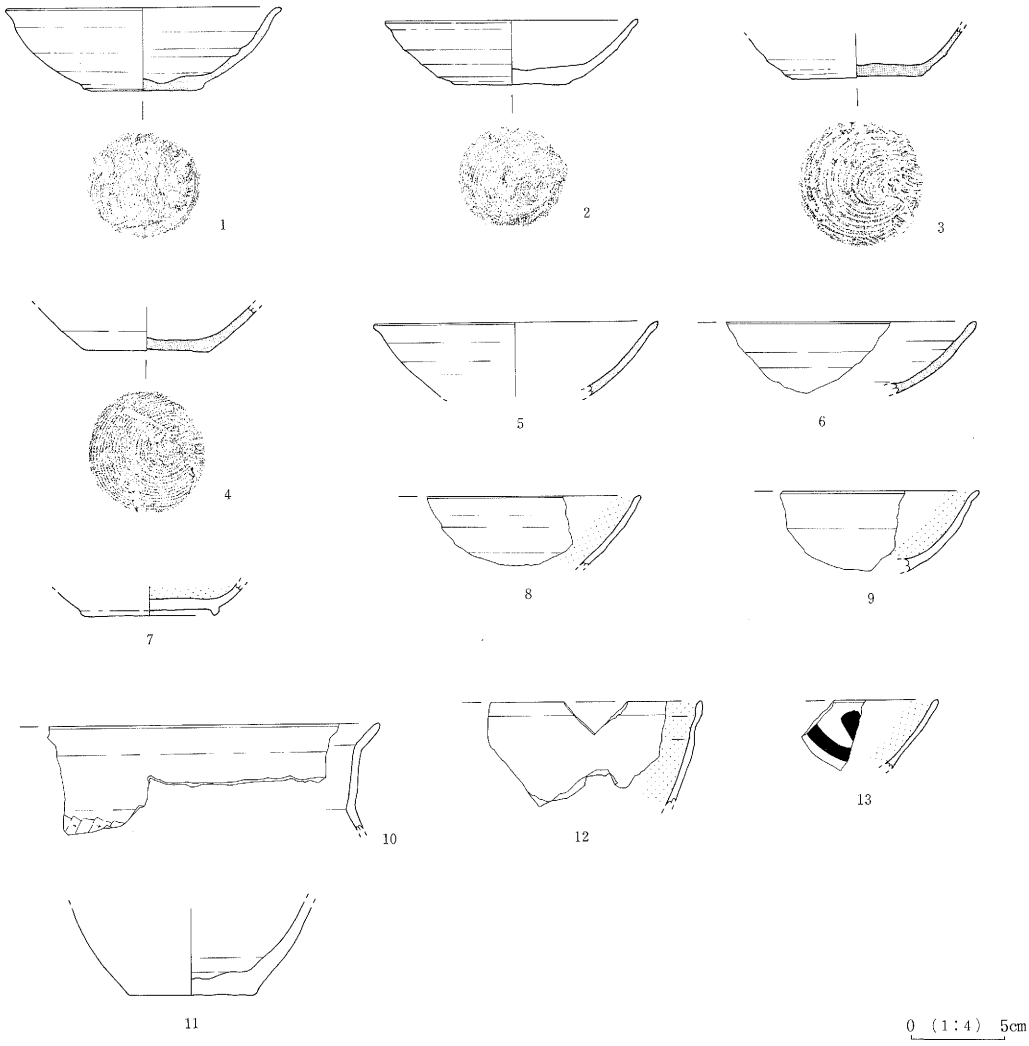
1　にぶい黄橙色土層　粘性弱し。ローム粒子・粘土粒子少量含む。

2　灰褐色土層　粘性弱し。炭化粒子・粘土粒子少量含む。

3　明赤褐色土層　粘性弱し。焼土主体。

0　1：30　1m

第22図　Ｈ３号住居址カマド実測図



第23図　Ｈ３号住居址出土遺物実測図

Ｈ３号住居址は、下芝宮遺跡IIの調査区中央やや南寄り、か－７・８グリッド内に位置し、下芝宮遺跡全体層序第VIII層上面において単独で検出された。

平面形態は、南北309cm、東西は366cmを測り、東西にやや長い方形を呈している。主軸方位はＮ－16°－Ｅを指す。また床面積は9.77m²を測る。

覆土は２層に分割された。

確認面からの壁残高は、8～13cmを測り、壁体は平滑であるがやや軟質である。床面はおおむね平坦で固くしまっており、貼床は認められなかった。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。

第21表　H３号住居址出土遺物一覧表

挿図番号	器種	法　量cm	形　態　の　特　徴	手　法　の　特　徴	備　　考
23-1	坏(須)	口径　14.2 底径　6.2 器高　4.4	体部内彎気味に外傾し、口辺部でやや外反 底部回転糸切り	内外面ロクロヨコナデ	5Y7/2 ～5/1
23-2	坏	口径 (13.25) 底径　6.1 器高　3.4	体部直線的に外傾 底部回転糸切り	外面ロクロヨコナデ 内面ヘラミガキ	外5YR5/8 内7.5YR 4/2
23-3	坏(須)	底径　6.8 器高　〈2.3〉	底部回転糸切り	内外面ロクロヨノナデ	2.5Y2/1 ～3/1
23-4	坏(須)	底径　6.55 現高　2.5	底部回転糸切り	内外面ロクロヨコナデ	10YR6/3 ～6/1
23-5	坏(須)	口径 (14.85) 現高　3.9		内外面ロクロヨコナデ	2.5Y6/1 ～6/2
23-6	坏(須)			内外面ロクロヨコナデ	5Y5/1
23-7	坏	台径　6.8 現高　1.65	ケズリ出し高台	内面ヘラミガキ・黒色 外面ヘラナデ・ヘラミガキ	外5YR4/8
23-8	坏			外面ロクロヨコナデ 内面ヘラミガキ・黒色	外5YR5/6
23-9	坏			外面ロクロヨコナデ 内面ヘラミガキ・黒色	外7.5YR 5/6
23-10	甕	口径 (24.9)	頸部「コ」の字を呈する	口辺内外面ロクロヨコナデ 胴部外面ヘラケズリ	10YR5/6 ～5/4
23-11	甕	底径　6.1 現高　4.9	底部回転糸切り後ヘラナデ	内外面ロクロヨコナデ	5.7YR4/6
23-12	鉢			内外面ロクロヨコナデ 内面黒色	外10YR5/6
23-13	坏			外面ロクロヨコナデ 内面ヘラミガキ・黒色	外7.5YR 5/6　墨書

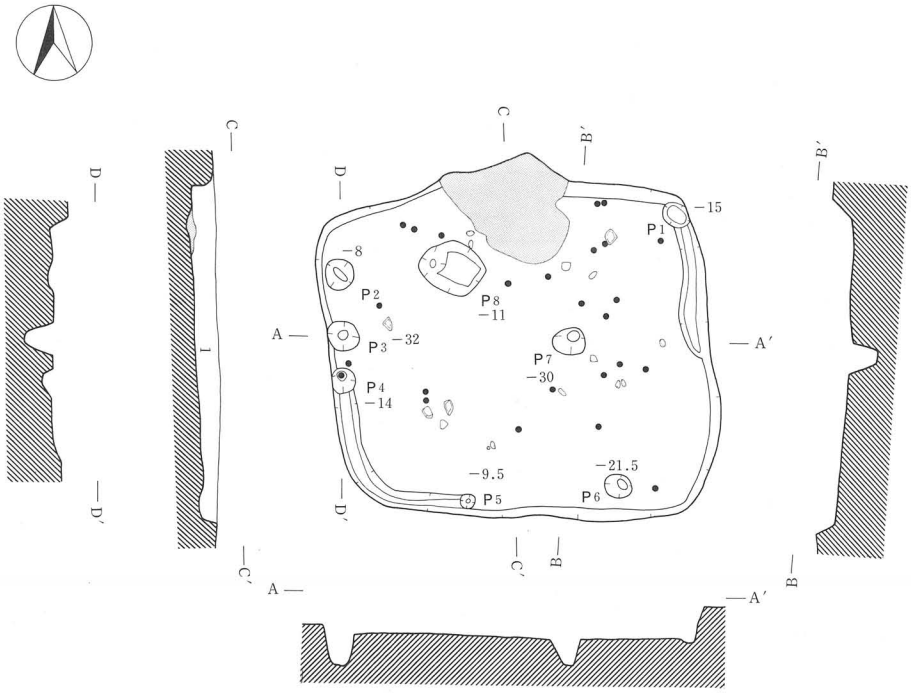
ピットは、床面で８個（P_1～P_8）、壁中に１個（P_{10}）、壁外に５個（P_9・P_{11}～P_{14}）の計14個が検出された。

カマドは北壁中央やや西寄りで検出された。残存状況は、極めて悪く、右袖の一部と燃焼部が残るのみであった。規模は、残存する燃焼部が南北50cmで東西47cm、右袖が長さ18cmで高さ6.5cmを測る。覆土は３層に分割された。なお、第１層は袖部の崩れ出した層と考えられる。なお燃焼部には掘方が認められなかった。

遺物は土師器の甕・坏・鉢・墨書土器と須恵器の甕・坏等が出土した。

以上より本住居址は、平安時代中期に位置付けられる。

4）Ｈ４号住居址



1　黒褐色土層　粘性弱し。パミス（小粒～中粒）・炭化粒子を少量、ローム粒子を微量含む。

0　（1：80）　2m

第24図　Ｈ４号住居址実測図

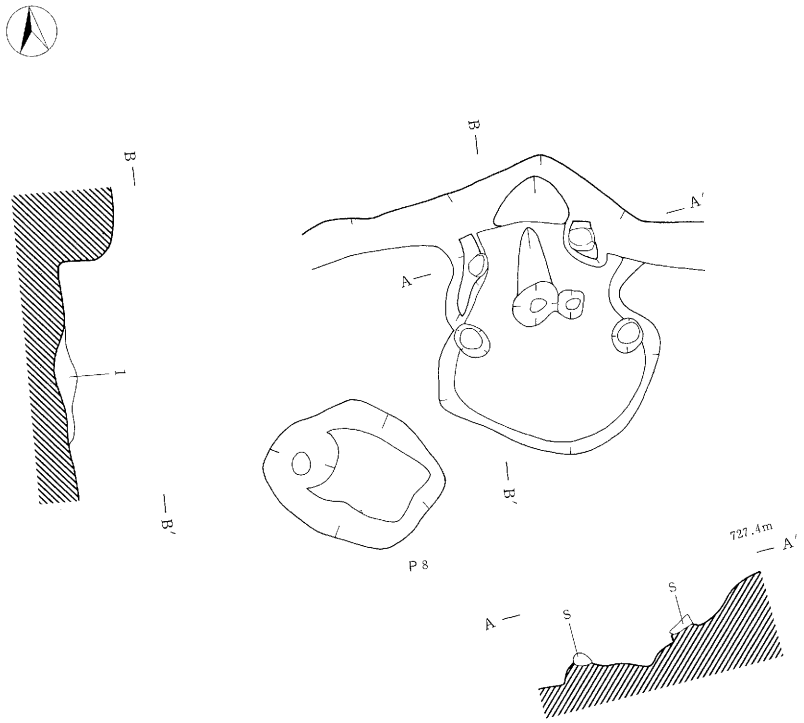
Ｈ４号住居址は、下芝宮遺跡Ⅱの調査区南側、お・か－６・７グリッド内に位置し、下芝宮遺跡全体層序第Ⅶ層上面において単独で検出された。

平面形態は、南北383cm、東西420cmを測り、東西にやや長い方形を呈している。主軸方位はＮ－６°－Ｗを指す。また床面積は12.03m²を測る。

覆土は１層のみ確認された。

確認面からの壁残高は、3～36cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっており、貼床は認められなかった。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。

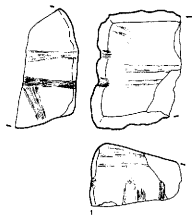
ピットは、床面で７個（P_2～P_8）、壁中に１個（P_1）の計８個が検出された。なお、P_8は検出位置・覆土の状態より灰落しと考えられる。



1　黒褐色土層　粘性弱し。炭化粒子・焼土粒子を微量含む。

0　(1：30)　1m

第25図　H 4 号住居址カマド実測図

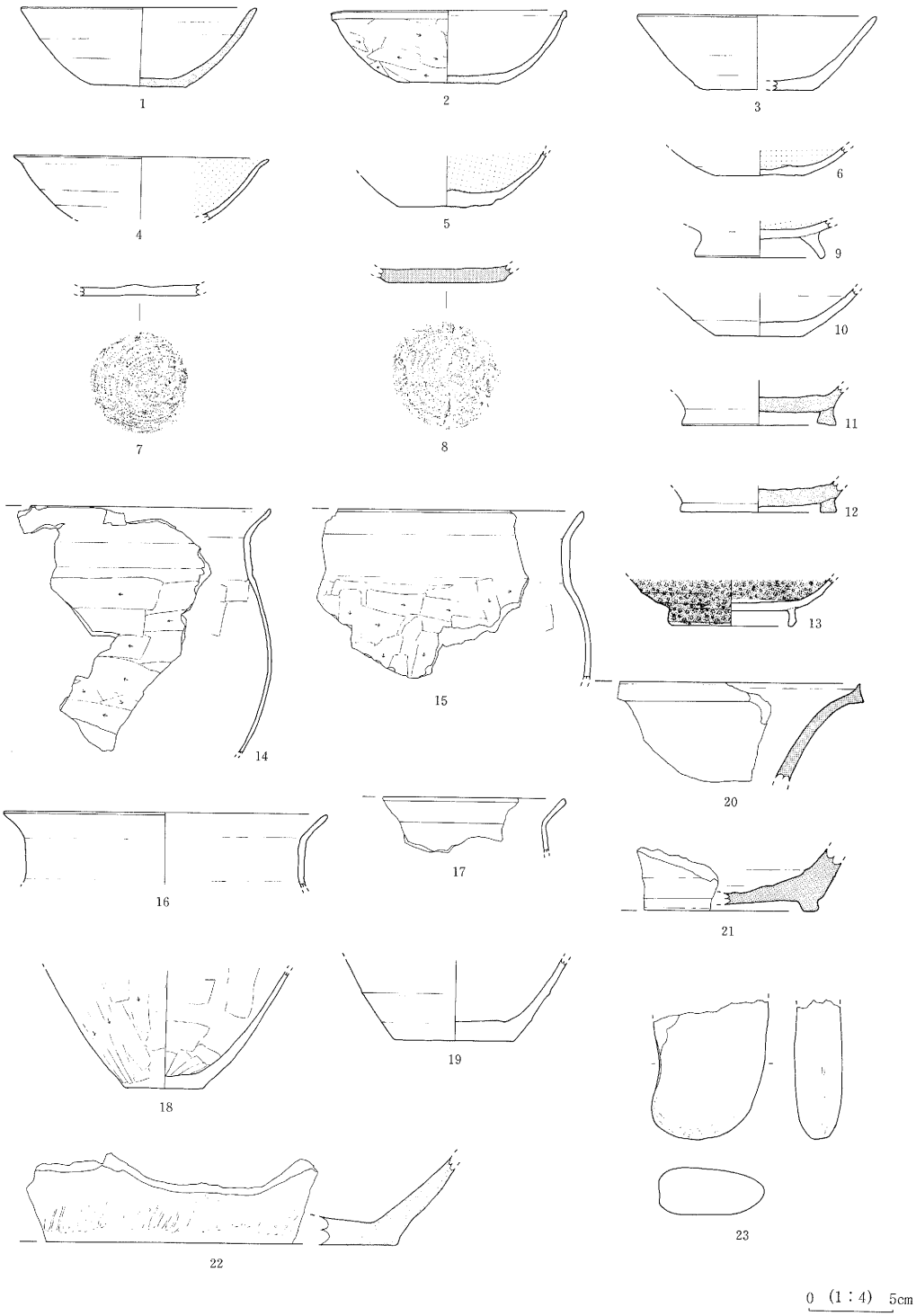


0　(2：3)　2cm

第26図　H 4 号住居址出土砥石実測図

第22表　H 4 号住居址出土砥石一覧表

器種	石質	法　量cm			備　考
		厚さ	巾	長さ	
砥石	砂岩	〈2.5〉	4.6	〈3.3〉	有溝砥石



第27図　H 4 号住居址出土遺物実測図

第23表　H 4 号住居址出土遺物一覧表(1)

挿図番号	器種	法　量cm	形　態　の　特　徴	手　法　の　特　徴	備　　考
27-1	坏(須)	口径　13.25 底径　5.6 器高　4.65	体部内彎気味に外傾 底部回転糸切り	内外面ロクロヨコナデ	外2.5Y6/2 内2.5Y3/1
27-2	坏(須)	口径　13.85 底径　5.9 器高　4.3	体部内彎気味に外傾 底部手持ヘラケズリ	体部外面ヘラケズリ 内面ロクロヨコナデ	5 Y6/1
27-3	坏	口径（14.0） 底径（ 6.4） 器高　4.4	体部直線的に外傾 底部回転糸切り	内外面ヨコナデ	10YR1.7/1 ～4/6
27-4	坏	口径（15.0）	体部内彎気味に外傾 口縁端部外反	外面ヨコナデ 外面横位のヘラミガキ・黒色	外10YR6/6
27-5	坏	底径（ 5.5） 現高　3.2		外面ロクロヨコナデ 底部ヘラナデ 内面ヘラミガキ・黒色	外10YR4/6
27-6	坏	底径（ 5.35） 現高　1.7	底部回転糸切り	外面ロクロヨコナデ 内面ヘラミガキ・黒色	外7.5Y R 5/8
27-7	坏	底径（ 7.2）	底部回転糸切り	内面ヘラミガキ・黒色	
27-8	坏(須)	底径　7.1		底部回転ヘラケズリ	10Y R4/1
27-9	坏	台径　7.4 台高　1.2	貼付高台	内面ヘラミガキ・黒色	10Y R5/4
27-10	坏	底径　5.1	底部回転糸切り	内外面ロクロヨコナデ	10Y R5/6
27-11	壺(須)	底径　9.0	貼付高台	底部回転ヘラケズリ	10Y R5/1
27-12	壺(須)	底径　9.1	貼付高台	底部回転ヘラケズリ	10Y5/1
27-13	皿(灰)	台径　7.4 台高　0.9	貼付高台	底部回転ヘラケズリ 外面ヘラケズリ	
27-14	甕		頸部「コ」の字	口縁・頸部内外面ヨコナデ 胴部内面ヘラナデ 胴部外面ヘラケズリ	5 YR5/4 ～2/4
27-15	甕	口径（17.5）	頸部「コ」の字	口縁・頸部内外面ヨコナデ 胴部内面ヘラナデ 胴部外面ヘラケズリ	10Y R5/4
27-16	甕	口径（18.9）	頸部「コ」の字	口縁・頸部内外面ヨコナデ	5 Y R5/6

第24表　Ｈ４号住居址出土遺物一覧表(2)

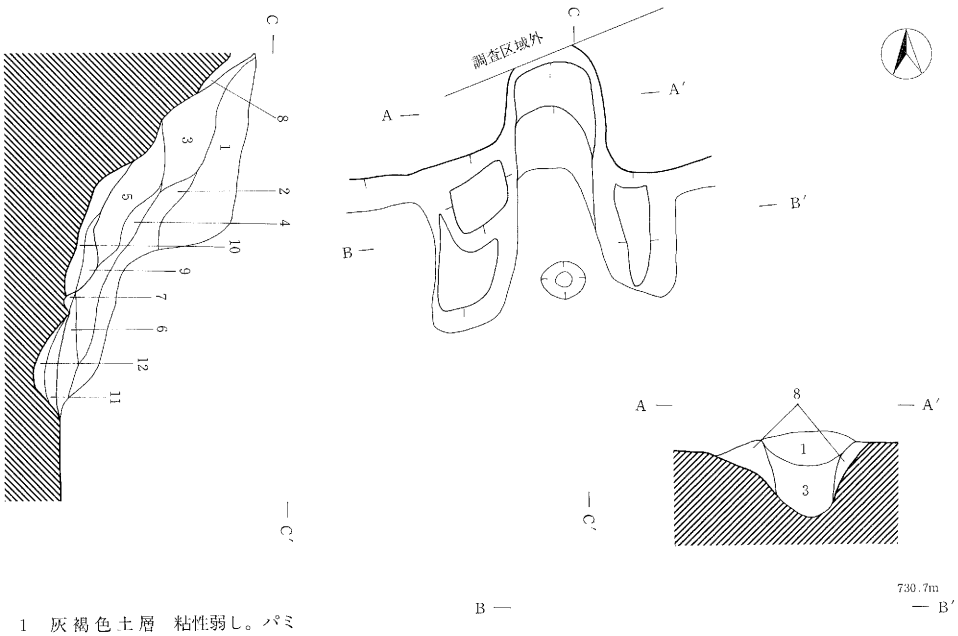
挿図番号	器種	法　量cm	形　態　の　特　徴	手　法　の　特　徴	備　　考
27-17	甕		頸部「コ」の字	内外面ロクロヨコナデ	５ＹＲ4/8
27-18	甕	底径　4.6 現高　7.0		内面ヘラナデ 外面ヘラケズリ	10ＹＲ4/4
27-19	甕	底径　7.0 現高　4.7		外面ロクロヨコナデ 底部外面ナデ 内面ナデ	7.5ＹＲ4/4
27-20	甕 (須)			内外面ロクロヨコナデ	外10Ｙ3/1 内10Ｙ6/1
27-21	壺 (須)		貼付高台 底部回転糸切り	内外面ロクロヨコナデ	内５Ｙ5/1 外5ＹＲ3/2 ・5/2
27-22	甕 (須)			外面タタキ 内面ヘラナデ	５ＹＲ3/2
27-23	敲石	現長8.2・巾6.7・厚さ2.75		安山岩、周縁に敲打痕	

カマドは北壁中央より検出された。残存状況は極めて悪く、東西両袖の一部と燃焼部の掘り込みが残るのみである。残存する袖の規模は、右側の袖が長さ20cmで巾14cm・高さ9cm、左側の袖が長さ39cmで巾14cm・高さ6cmを測る。また両袖の巾は59cmを測る。残存する焚口より煙道出口までは117cmを測り、煙道部は巾82cm・長さ23cmの規模で壁体を掘り込んでいる。覆土は１層のみが確認された。P_9とP_{10}は支脚固定用に、またP_{11}とP_{12}は袖石固定用に掘られたピットと考えられる。

遺物は土師器の甕・坏と須恵器の甕・壺・坏、灰釉陶器、敲石、砥石等が出土した。

以上より本住居址は、平安時代中期に位置付けられる。

5）H５号住居址



1　灰褐色土層　粘性弱し。パミス大粒とローム粒子を少量含む。

2　にぶい黄褐色土層　粘性やや弱し。パミス大粒とローム粒子・粘土粒子を少量含む。

3　暗褐色土層　粘性弱し。パミス極大粒と焼土粒子を微量含む。

4　灰褐色土層　粘性やや弱し。焼土粒子・炭化粒子を多量に含む。

5　赤色土層　粘性やや強し。焼土粒子を多量に含む。

6　暗赤灰色土層　粘性やや強し。焼土粒子・炭化粒子を多量に含む。

7　にぶい褐色土層　粘性弱し。ローム粒子を少量・焼土粒子を微量含む。

8　灰褐色土層　粘性やや弱し。パミス小粒・ローム粒子・粘土粒子を少量含む。

9　褐灰色土層　粘性やや弱し。ローム粒子・粘土粒子を少量含む。

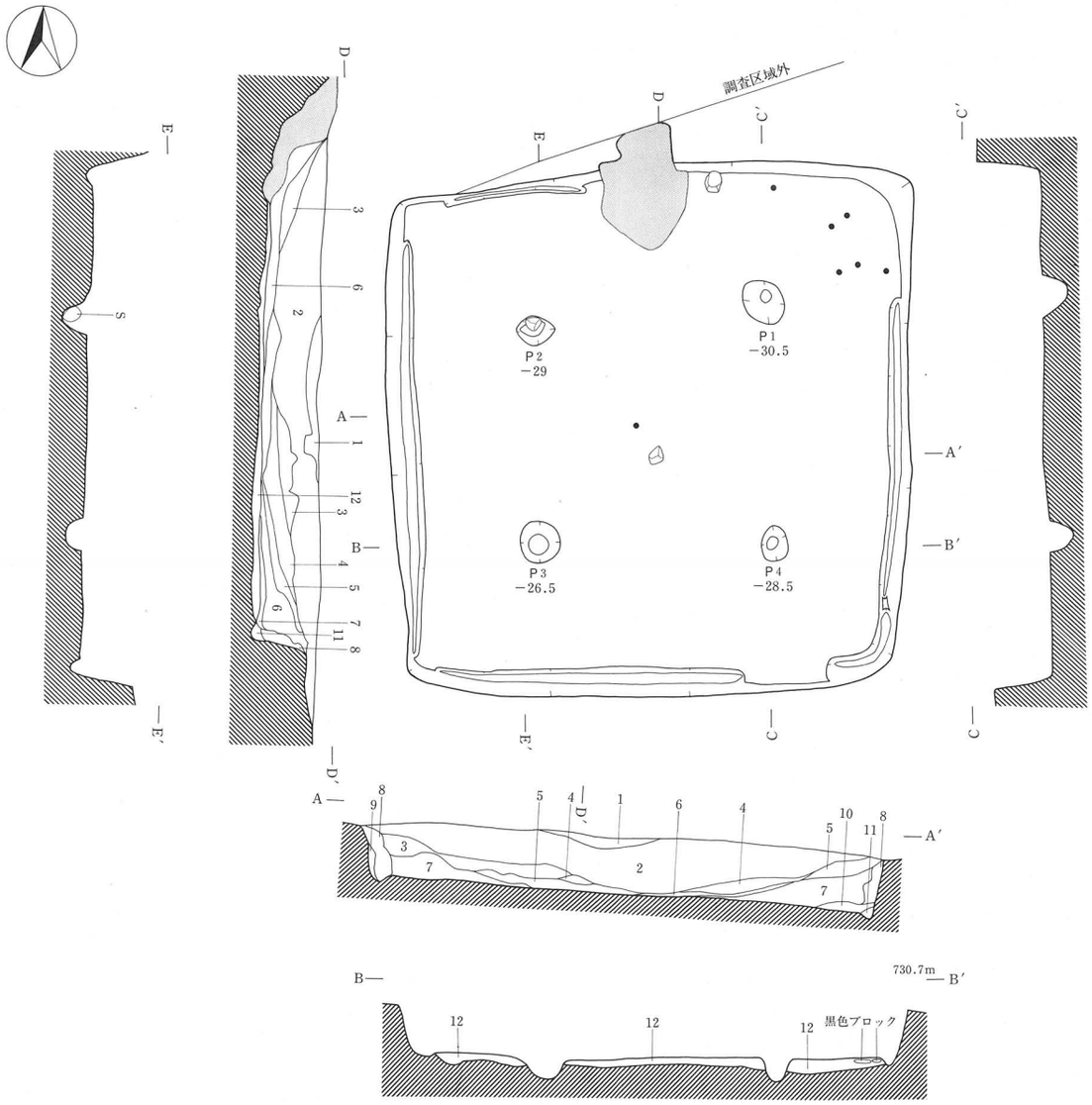
10　暗褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子を微量含む。

11　灰黄褐色土層　粘性弱し。パミス極小粒・ローム粒子・粘土粒子を微量含む。

12　明黄褐色土層　粘性弱し。ローム粒子を多量に含む。

0　1：30　1m

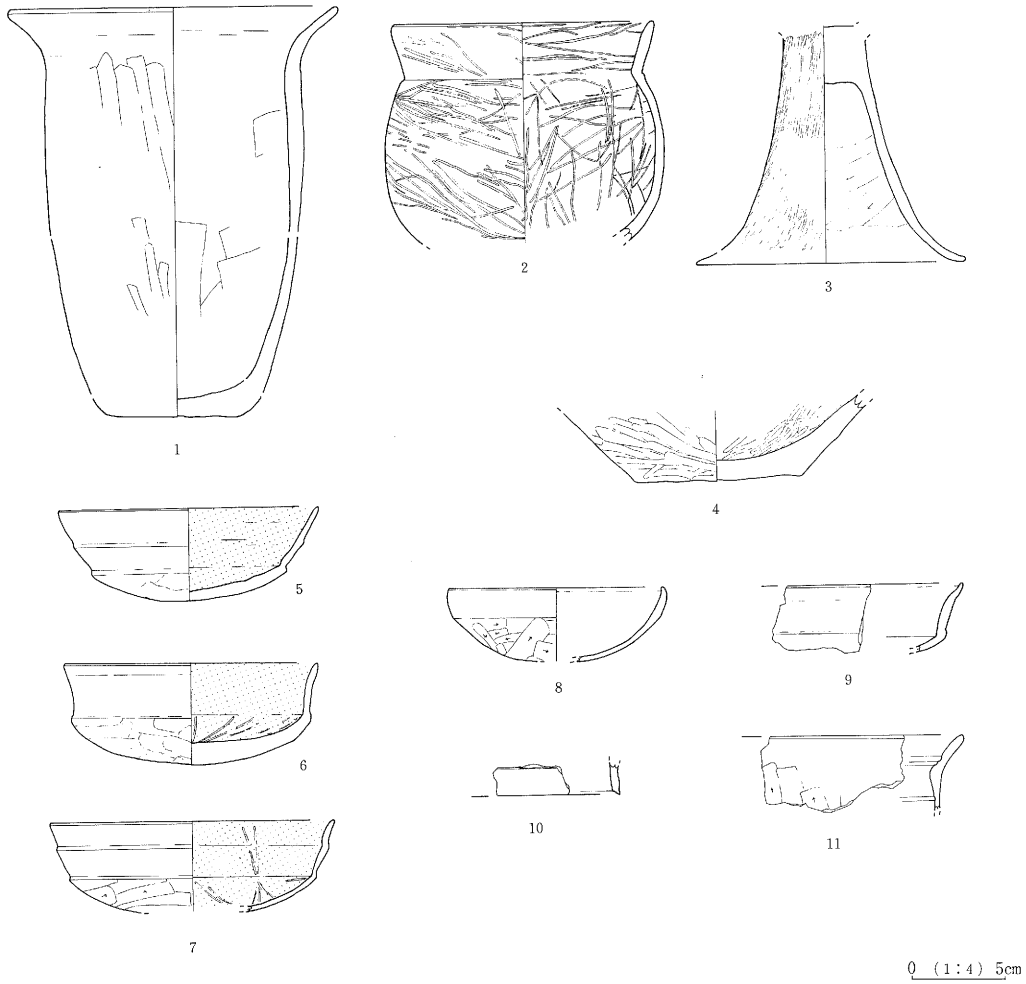
第28図　H５号住居址カマド実測図



1　暗褐色土層　粘性弱し。パミス小粒を少量含む。
2　黒褐色土層　粘性やや強し。パミス大粒・炭化粒子微量含む
3　暗褐色土層　粘性弱し。パミス中粒を微量含む。
4　褐色土層　粘性やや強し。パミス極小・ローム粒子を少量含む。
褐色土層
5　褐色土層　粘性やや強し。パミス小粒を微量含む。
6　黒褐色土層　粘性やや強し。パミス小粒・炭化粒子を微量含む。
7　黄褐色土層　粘性やや強し。パミス極小・ローム粒子を少量含む。
8　黒褐色土層　粘性弱し。パミス大粒を微量含む。
9　褐色土層　粘性弱し。ローム粒子を多量含む。
10　褐色土層　粘性弱し。ローム粒子をやや多量、パミス中粒を少量含む。
11　黄褐色土層　粘性弱し。ローム主体。
12　明褐色土層　粘性やや弱し。パミス中粒を少量、ローム粒子を多量に含む。

0　(1：80)　2m

第29図　H５号住居址実測図



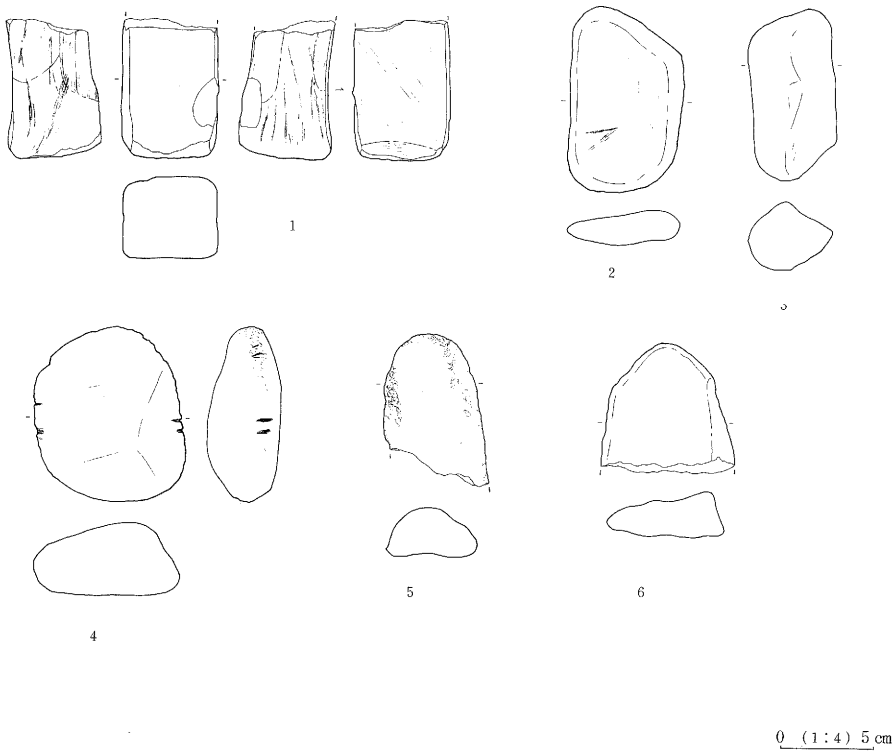
第30図　Ｈ５号住居址出土遺物実測図(1)

Ｈ５号住居址は、下芝宮遺跡Ⅲの調査区北側、と・な－９・１０グリッド内に位置し、下芝宮遺跡全体層序第Ⅶ層上面において単独で検出された。

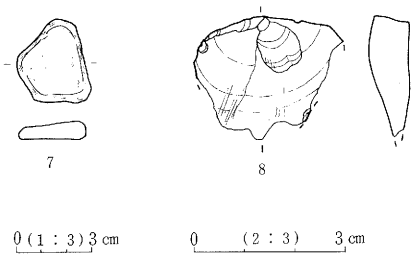
平面形態は、南北650cm、東西595cmを測り、方形を呈している。主軸方位はＮ－７°－Ｅを指す。また床面積は29.91㎡を測る。

覆土は11層に分割された。

確認面からの壁残高は、56.5～77.5cmを測り、壁体は全体層序第Ⅶ層を利用し、平滑で堅固である。床面は平坦で貼床と周溝が認められた。貼床は第12層の明褐色土によって貼られていた。周溝は、カマドと北壁東側・南壁東側の一部・北西コーナーを除いた部分で、深さ2～11cmの規模で確認された。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは直角を呈している。



第31図　Ｈ５号住居址出土遺物実測図(2)



第32図　Ｈ５号住居址出土遺物実測図(3)

第25表　Ｈ５号住居址出土遺物一覧表(1)

挿図番号	器種	法量cm			備考
		厚さ	巾	長さ	
32-7	磨石	3.3	2.7	0.7	安山岩
32-8	スクレパー	(2.4)	(2.9)	0.8	黒曜石 刃部欠損

ピットは、主柱穴４個（P_1～P_4）が検出された。

カマドは北壁中央で検出された。残存状況は、比較的良好だが、天井部は崩落し、天井石と袖石は残存していなかった。現存する規模は、焚口より煙道出口まで146cm、袖部巾98cmを測る。また右側の袖は長さ51cmで巾33cm・高さ13.5～41cm、左側の袖は長さ67cmで巾33cm・高さ15～37.5

第26表　H５号住居址出土遺物一覧表(2)

挿図番号	器種	法　量cm	形　態　の　特　徴	手　法　の　特　徴	備　　考
30-１	甕	口径（17.2） 底径（ 6.7） 器高（21.6）	小型長胴甕 最大径を口縁に持つ	胴部外面・内面ヘラナデ 口縁部内外面ヘラナデ	5 YR2/1 ～5/6
30-２	甕	口径（13.6） 現高　11.7	小型球胴甕 口縁直線的に外傾	口縁部内外面ヨコナデ後ヘラミガキ 胴部外面ヘラケズリ後ヘラミガキ 胴部内面ヘラナデ後ヘラミガキ	7.5YR6/6 ～5/1
30-３	高坏	脚口径(14.1) 現高　12.6	脚部ラッパ状に開く	脚部外面ヘラミガキ 脚部内面ヘラケズリ 坏部内面ヘラナデ・黒色	7.5Y R5/6
30-４	甕	底径（ 8.7）	球胴甕	胴部・底部外面ヘラミガキ 胴内面ヘラケズリ後ヘラミガキ	10YR4/6 ～5/4
30-５	坏	口径　13.7 器高　　4.9	体下部・中央に外稜 外稜より直線的に外傾	体部内外面ヨコナデ 底部ヘラケズリ、内面黒色	10Y R6/4
30-６	坏	口径　13.4 器高　　5.4	体部に外稜	体部外面ヨコナデ（外稜上） 体・底部外面ヘラケズリ 体部内面ヨコナデ・黒色 底部内面ヘラミガキ（暗文風）	10Y R6/4 〃　　5/1
30-７	坏	口径（15.0）	体下部に外稜	体部外面ヨコナデ（外稜上） 体・底部外面ヘラケズリ 内面ナデ後ヘラミガキ・黒色	10Y R5/6 〃 1.7/1
30-８	坏	口径（11.4） 器高　3.9		口辺部外面ヨコナデ 体部・底部外面ヘラケズリ 内面ヨコナデ	内10YR5/6 ～6/3 外10YR6/4
30-９	坏		体下部に外稜	内外面ヨコナデ	5 Y R5/8
30-10	坏蓋			内外面ヨコナデ	10Y R4/3
30-11	甕			口縁部内外面ヨコナデ 胴部外面ヘラケズリ	10Y R6/4
36-１	甕	口径（17.4） 底径（ 5.7） 器高 31.5	やや丸味を持った長胴 口縁は直線的に外傾 底部にヘラ記号	口縁部内外面ヨコナデ 胴部外面ヘラケズリ 胴部内面ヘラナデ	内7.5YR6/3 外7.5YR5/3

cmを測る。覆土は７層に分割された。またカマド各部の構築状況は以下のとおりである。袖部は全体層序第Ⅶ層の明黄褐色ロームを基礎とし、全体に第８層が貼られる。燃焼部と焚口は、第10層・第９層・第12層・第11層によって構築される。

遺物は土師器の甕・坏・坏蓋・高坏と、敲石、砥石、石錘等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代後期中葉に位置付けられる。

第27表　Ｈ５号住居址出土遺物一覧表(3)

挿図番号	器種	石　質	法　量cm			備　考
			長さ	巾	厚さ	
31-1	砥石	流紋岩	〈7.4〉	5.1×4.9		四面砥
31-2	砥石	安山岩	9.8	6.0	2.0	扁平四面砥
31-3	砥石	安山岩	9.3	4.5	3.75	使用面２面
31-4	石錘	石英安山岩	9.3	7.8	3.8	両辺に刻みを入れている
31-5	敲石	安山岩	〈8.1〉	5.2	〈3.1〉	縁を中心に敲打痕
31-6	不明	安山岩	〈6.8〉	7.0	〈2.4〉	

6）Ｈ６号住居址

Ｈ６号住居址は、下芝宮遺跡Ⅲの調査区南側、ち・つ－６～８グリッド内に位置し、下芝宮遺跡全体層序第Ⅶ層上面において単独で検出された。

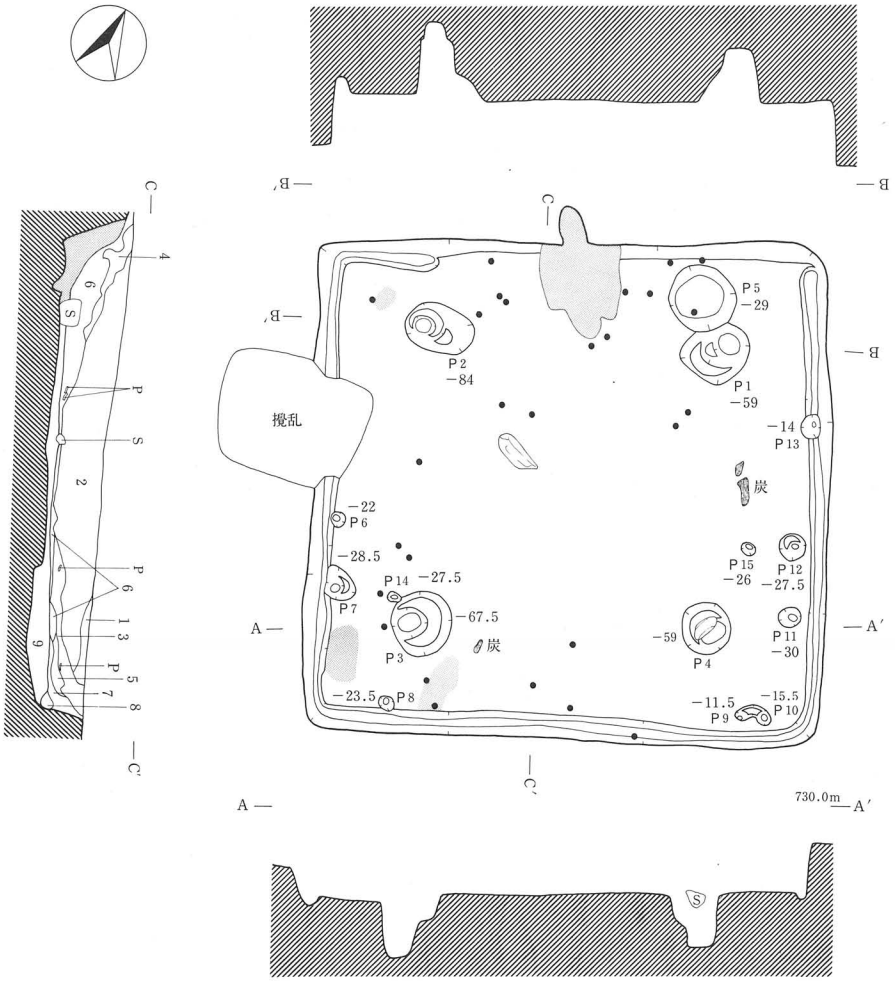
平面形態は、南北586cm、東西544cmを測り、方形を呈している。主軸方位はＮ－33°－Ｅを指す。また床面積は26.26m²を測る。

覆土は８層に分割された。

確認面からの壁残高は、24.5～78.5cmを測り、壁体は全体層序第Ⅶ層を利用し、平滑で堅固である。床面は平坦で貼床と周溝が認められた。貼床は第９層の橙色土によって貼られていた。周溝は、カマド西側の一部と東側を除く全周で、深さ1～18.5cmの規模で確認された。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは直角を呈している。

ピットは、主柱穴４個（P_1～P_4）を含む15個が検出された。

カマドは北壁中央で検出された。残存状況は、比較的良好だが、天井部が崩落していた。また袖石は、右側が左へ倒れ、左側が南へずれていた。天井石は左へ移動し、左側袖石の上で確認された。現存する規模は、焚口より煙道出口まで143.5cm、袖部巾109cmを測る。また右側の袖は長さ81cmで巾30.5cm・高さ19～73cm、左側の袖は長さ69cmで巾41cm・高さ14～68.5cmを測る袖石と天井石は軽石製で面取が行れていた。覆土は８層に分割された。またカマド各部の構築状況は以下のとおりである。袖部は第15層と第14層によって、袖石下部は第16層と第17層によって構築さ



1　極暗褐色土層　粘性弱し。ローム粒子を微量、砂粒を多量に含む。

2　黒褐色土層　粘性やや弱し。パミス極大粒を少量含む。
軽石2cm～4cmø 少量含む。

3　黒褐色土層　粘性やや弱し。パミス極大粒を少量、炭化材小片を多量に含む。

4　黒褐色土層　粘性やや弱し。ロームブロックを少量含む。

5　褐 色 土 層　粘性弱し。ローム粒子を多量に含む。

6　橙 色 土 層　粘性弱し。ローム粒子を多量に含む。

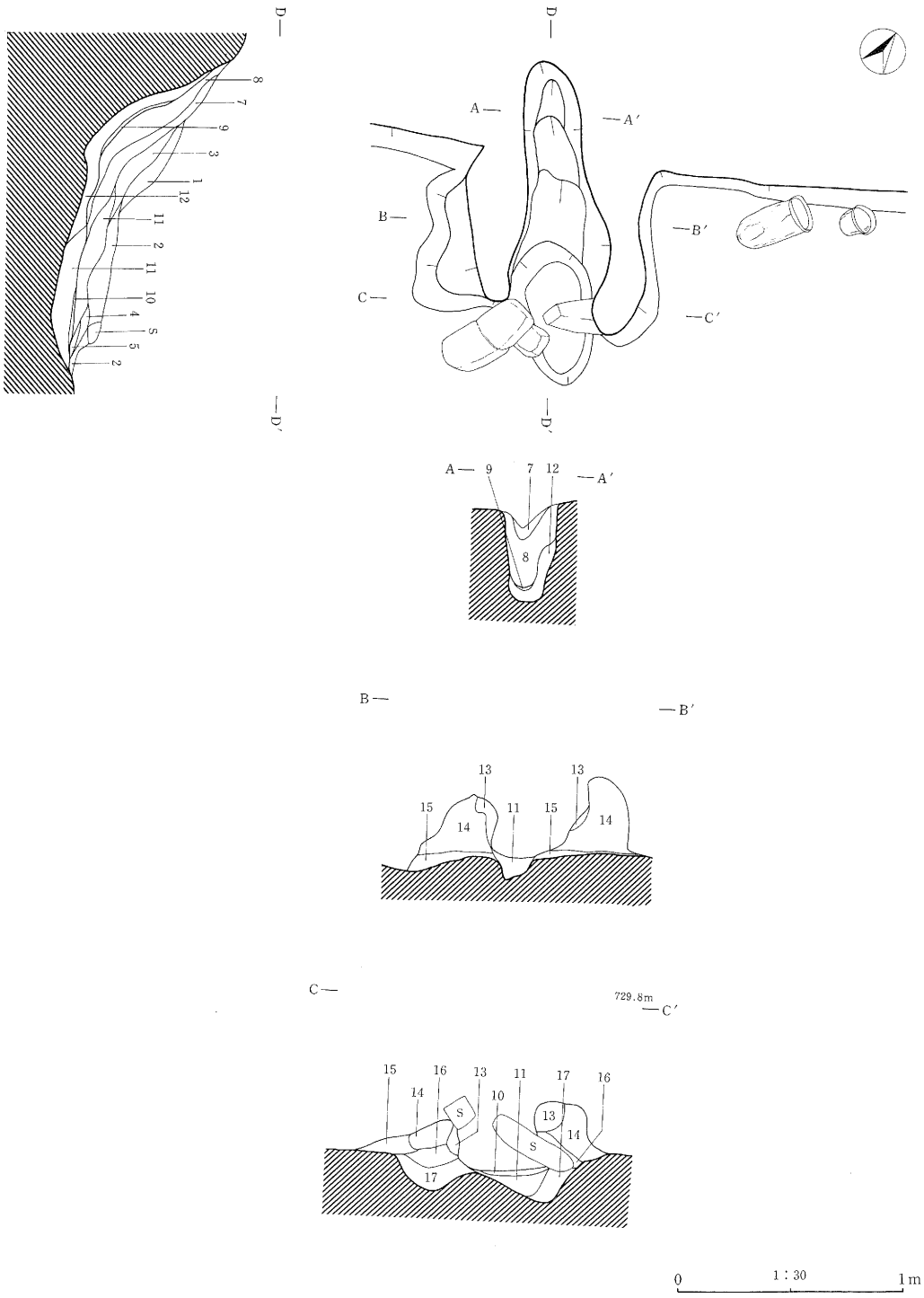
7　極暗褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子・パミス極大粒を少量含む。

8　褐 色 土 層　粘性やや弱し。軽石3cmø 少量含む。

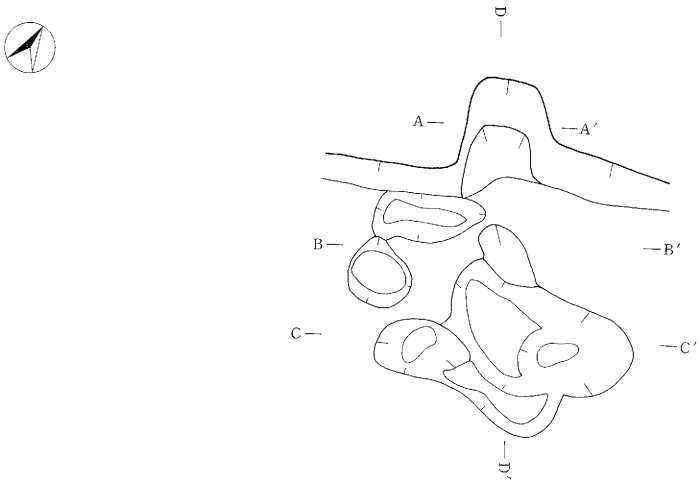
9　橙 色 土 層　粘性弱し。軽石2cm～4cmø 少量含む。

0　(1：80)　2m

第33図　H 6 号住居址実測図



第34図　H 6 号住居址カマド実測図



1　橙色土層　粘性やや強し。粘土粒子とローム粒子を多量に含む。

2　褐色土層　粘性やや弱し。粘土粒子・ローム粒子・焼土粒子を少量含む。

3　橙色土層　粘性やや強し。粘土粒子・ローム粒子を少量、焼土粒子を多量に含む。

4　褐色土層　粘性やや弱し。焼土粒子と炭化粒子を少量含む。

5　灰褐色土層　粘性やや強し。炭化粒子を多量に含む。

6　明赤褐色土層　粘性やや弱し。焼土粒子を多量に含む。

7　褐色土層　粘性やや弱し。焼土粒子を少量含む。

8　暗赤褐色土層　粘性やや弱し。焼土粒子・炭化粒子を少量含む。

9　明赤褐色土層　粘性やや弱し。第12層が被熱された層。

10　橙色土層　粘性やや弱し。第11層が被熱された層。

11　褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子・軽石(径1～3cm)を少量含む。

12　褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子を多量に含む。

13　赤褐色土層　粘性やや弱し。第14層が被熱された層。

14　黄褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子を多量に軽石(径1～5cm)を微量含む。

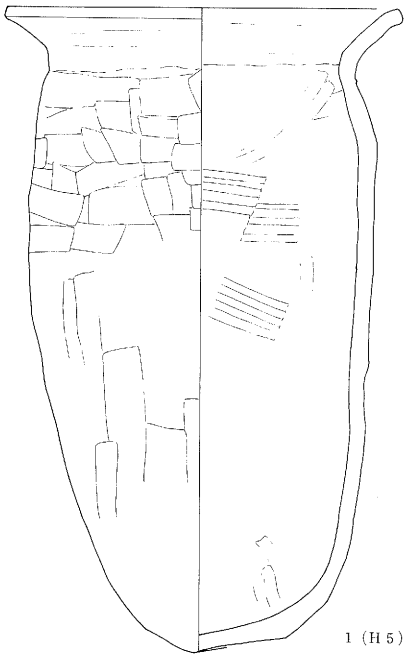
15　黒褐色土層　粘性やや強し。粘土粒子と焼土粒子を微量含む。

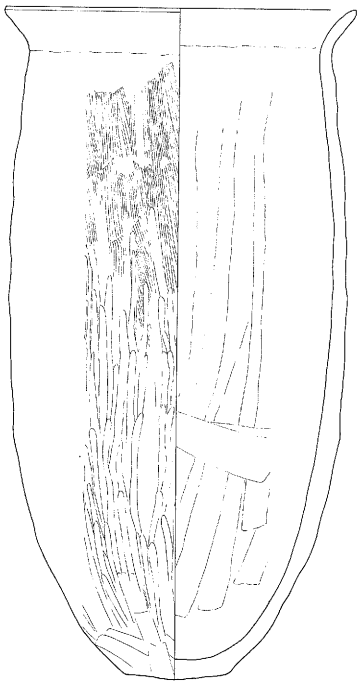
16　黒褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子を微量含む。

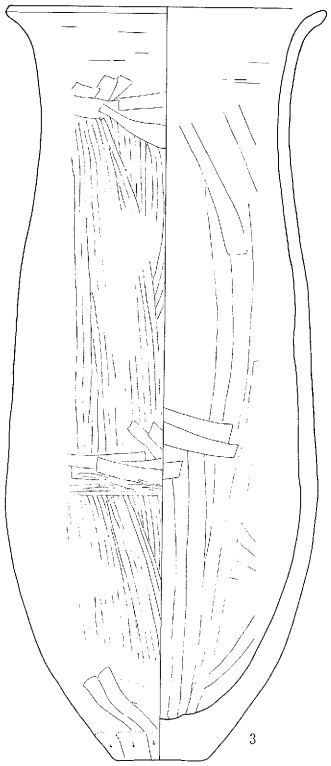
17　褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子とパミス極大粒を少量含む。

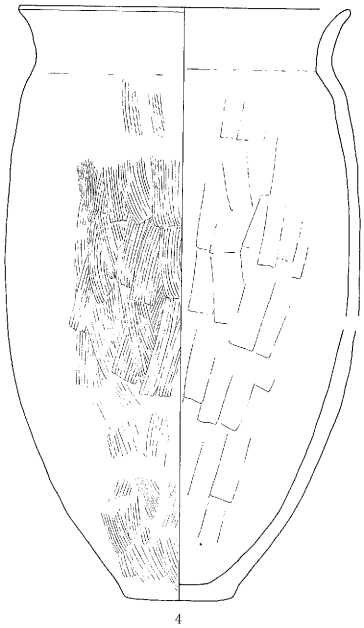
0　1：30　1m

第35図　H 6 号住居址カマド掘方実測図



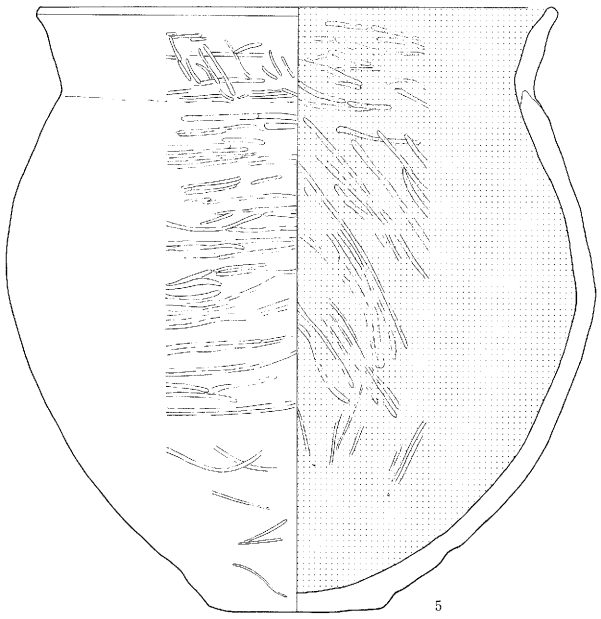




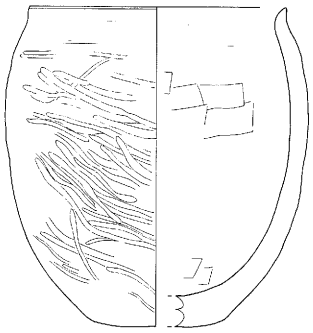


0 （1：4） 5cm

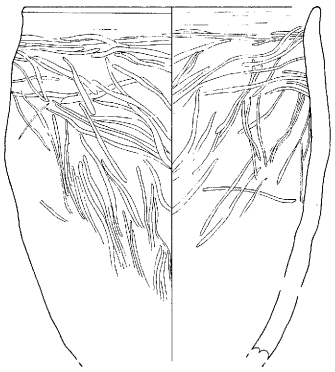
第36図　Ｈ５号・Ｈ６号住居址出土遺物実測図(1)



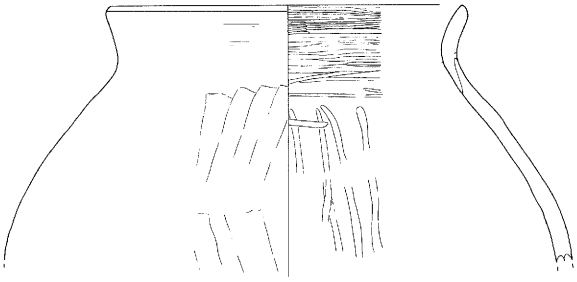
5



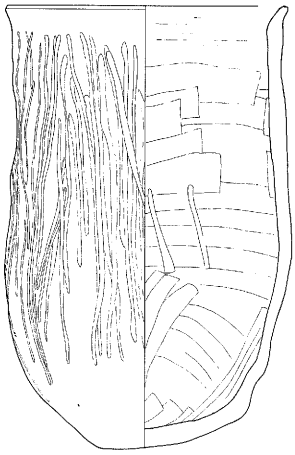
8



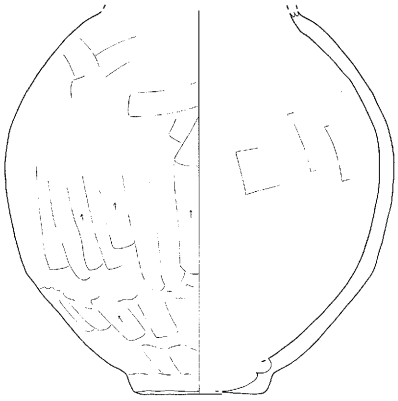
9



6



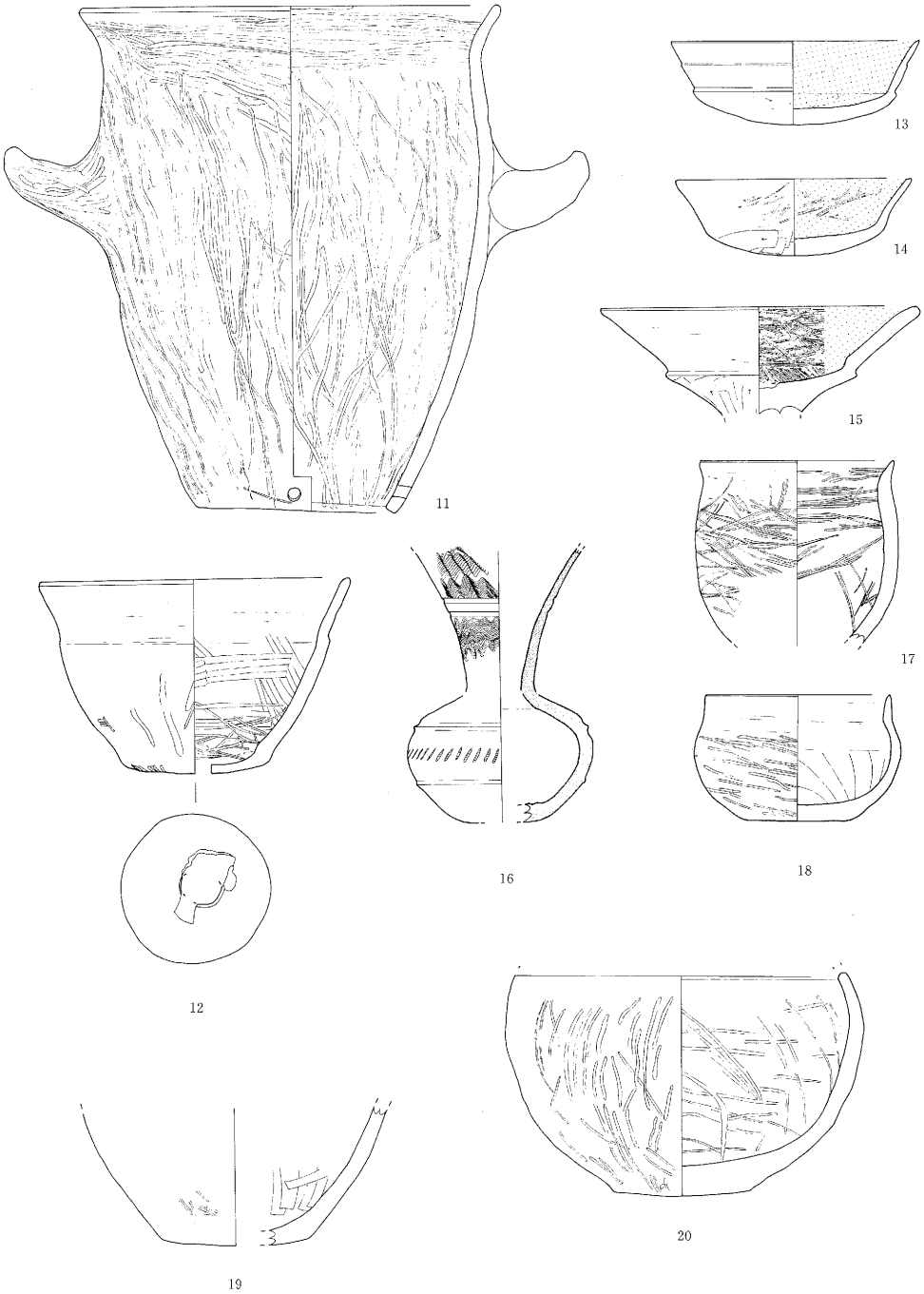
10



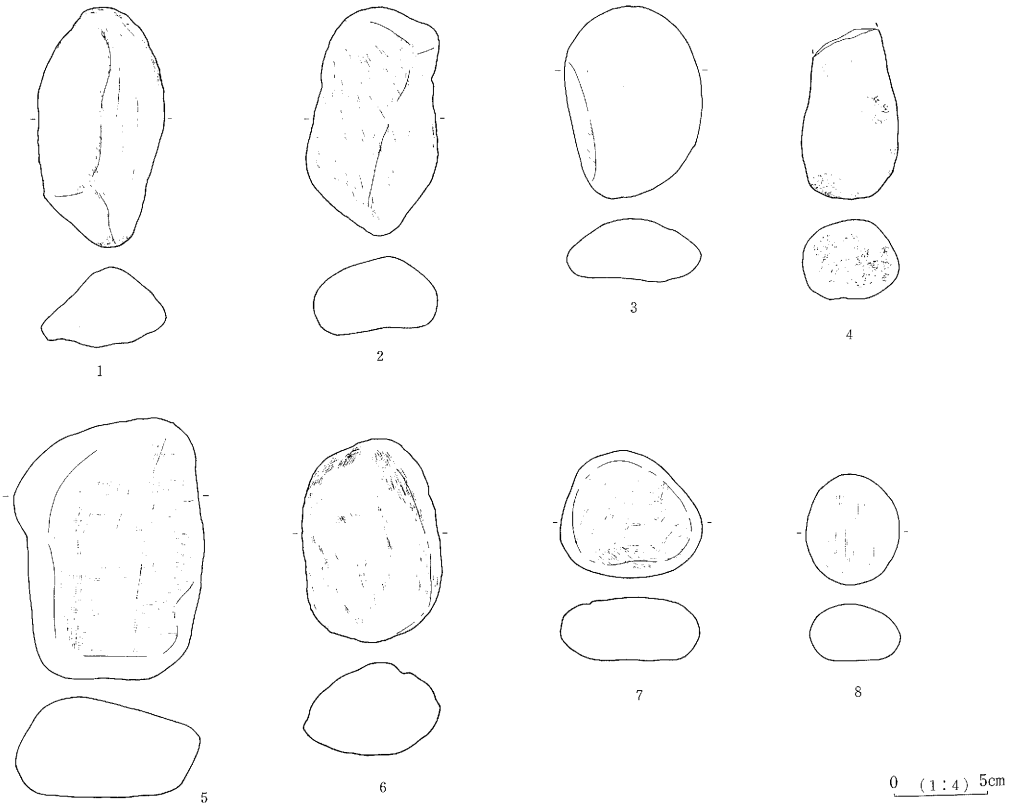
7

0 (1:4) 5cm

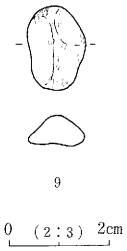
第37図　H 6 号住居址出土遺物実測図(2)



第38図　H 6 号住居址出土遺物実測図(3)



第39図　Ｈ６号住居址出土遺物実測図(4)



第28表　Ｈ６号住居址出土遺物一覧表(1)

挿図番号	種類	石　質	法　量cm			備　考
			長さ	巾	厚さ	
39-9	搬入小礫	チャート	1.65	1.1	0.55	部分的に光沢有り 磨石とも考えられる

れる。燃焼部と焚口は第11層によって、煙道下部は第12層によって構築される。なお第13層は第14層の一部が、第９層は第12層の一部が熱を受けて変色した土層と認識した。

遺物は土師器の甕・坏・高坏・鉢と、須恵器の瑳、砥石、擦石等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代後期中葉に位置付けられる。

第29表　H６号住居址出土遺物一覧表(2)

挿図番号	器種	法　量cm	形　態　の　特　徴	手　法　の　特　徴	備　　考
36-2	甕	口径　19.6 底径　6.0 器高　35.6	長胴	口縁部内外面ヨコナデ 胴部上半外面ハケメ後ヘラミガキ、下半ケズリ後ヘラミガキ 胴部内面ヘラナデ	外５YR5/6 内５YR6/6
36-3	甕	口径（16.6） 底径　4.5 器高（40.0）	下半に丸味を持つ長胴 底部にヘラ記号	口縁部内外面ヨコナデ 頸部外面ハケメ後ヘラナデ 胴部外面ヘラケズリ後ハケメ 中央部外面ハケメ後ヘラナデ・ヘラミガキ 胴部内面ヘラナデ	10YR3/1 ・4/2・5/6 5YR4/6 ・3/1
36-4	甕	口径　20.8 底径（5.0） 器高　34.2	長胴（やや丸味を持つ） 口縁は外反 底部にヘラ記号	口縁部内外面ヨコナデ 胴部外面ヘラケズリ後ハケメ 胴部内面ヘラナデ	内7.5ＹＲ 6/2 外10YR5/3
37-5	甕	口径　27.0 最大径 31.1 底径　9.2 器高　32.2	球胴	口縁部内外面ヨコナデ後ヘラミガキ 胴部内外面ハケメ後ヘラミガキ、内面黒色	外7.5ＹＲ 5/4
37-6	甕	口径　18.6 器高（13.7）	球胴 口縁短く外反	口縁部外面ヨコナデ 口縁部内面ヨコナデ後ヘラミガキ 胴部外面ヘラナデ 胴上部内面ヘラナデ後ヘラミガキ、胴中央部内面ハケメ後ヘラミガキ	10ＹＲ6/6
37-7	甕	底径（7.0） 最大径(20.6)	小型球胴	胴部外面ヘラケズリ 胴部内面ヘラナデ	10YR6/3 ～6/4
37-8	甕	口径（13.5） 底径（6.3） 器高　17.0	口縁短い	口縁部内外面ヨコナデ 胴部外面ヘラナデ後ヘラミガキ 胴部内面ヘラナデ	7.5YR6/3 ～7/3
37-9	甕	口径　15.6 器高（18.8）	口縁短い	口縁部内外面ヨコナデ 胴部外面ケズリ後ヘラミガキ 胴部内面ヘラナデ後ヘラミガキ	7.5YR6/3 ～6/4
37-10	甕	口径　14.6 底径　7.2 器高　23.5	口縁短い 底部丸味を持った平底 底部大きく歪む	口縁部内外面ヨコナデ 胴外面ケズリ後ヘラミガキ 一部ナデ後ヘラミガキ 胴内面ヘラナデ	7.5YR6/6 ～3/2

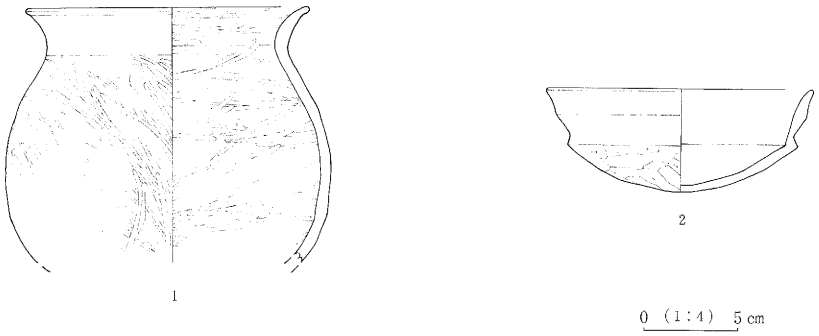
第30表　H６号住居址出土遺物一覧表(3)

挿図番号	器種	法　量cm	形　態　の　特　徴	手　法　の　特　徴	備　　考
38-11	甑	口径　23.0 孔径　11.0 器高　28.2	胴中央２ケ所に把手 （長さ5.5・巾5.1・厚3.3） 開孔部に径6.5㎜の穿孔２個	口縁部内外面ヨコナデ後ヘラミガキ 胴部外面ヘラケズリ後ヘラミガキ 胴部内面ヘラナデ後ヘラミガキ	内10YR6/4 外7.5YR 5/6
38-12	甑	口径　17.2 底径　8.4 孔径（2.1） 器高　10.8	底部より直線的に外傾	口縁部内外面ヨコナデ 胴部外面ヘラケズリ後ヘラナデ、さらにヘラミガキ 胴部内面ハケメ後ヘラミガキ	10YR3/4 ～5/3
38-13	坏	口径　13.8 器高　4.7	体部・口縁直線的に外傾	口縁・体部外面ヨコナデ 底部ヘラケズリ 内面ヘラミガキ・黒色	外10YR5/6
38-14	坏	口径　13.0 器高　4.25	体部・口縁外反 口縁端部に沈線	口縁・体部外面ヘラミガキ 底部ヘラケズリ 内面ヘラミガキ・黒色	外10YR5/4 内10YR6/4
38-15	高坏	口径　17.5 現高　6.0	坏部外稜を持って直線的に外傾 脚部欠損後、欠損部を削り再利用か	坏部上半外面ヨコナデ 坏部下半外面ヘラケズリ 坏部内面ヘラミガキ・黒色	外10YR6/4
38-16	瑳 (須)		頸部・口縁やや外反しながらラッパ状に開く	口縁部外面二条の沈線 その上下に波紋文 胴中央部外面、櫛による刺突文 内面ロクロヨコナデ	7.5Y5/1
38-17	小型 甕	口径（10.7） 器高〈10.2〉	口縁短い	口縁内外面ナデ後ヘラミガキ 胴外面ヘラケズリ後ヘラミガキ 胴内面ヘラナデ後ヘラミガキ	内10YR5/6 外7.5YR 3/3～3/1
38-18	鉢	口径（10.1） 器高　7.0	口縁直立	口縁内外面ヨコナデ 胴外面ヘラミガキ 胴内面ヘラナデ	５ＹＲ5/6 7.5YR6/6・ 1.7/1
38-19	甕	底径（8.1）	丸味を持った平底	外面ヘラミガキ 内面ヘラナデ	５ＹＲ5/6
38-20	甕	口径　18.4 底径　7.6 器高　12.4	小型球胴 胴上半部を欠き、縁をケズって再利用	内外面ヘラナデ後ヘラミガキ	10YR6/4 ～4/6

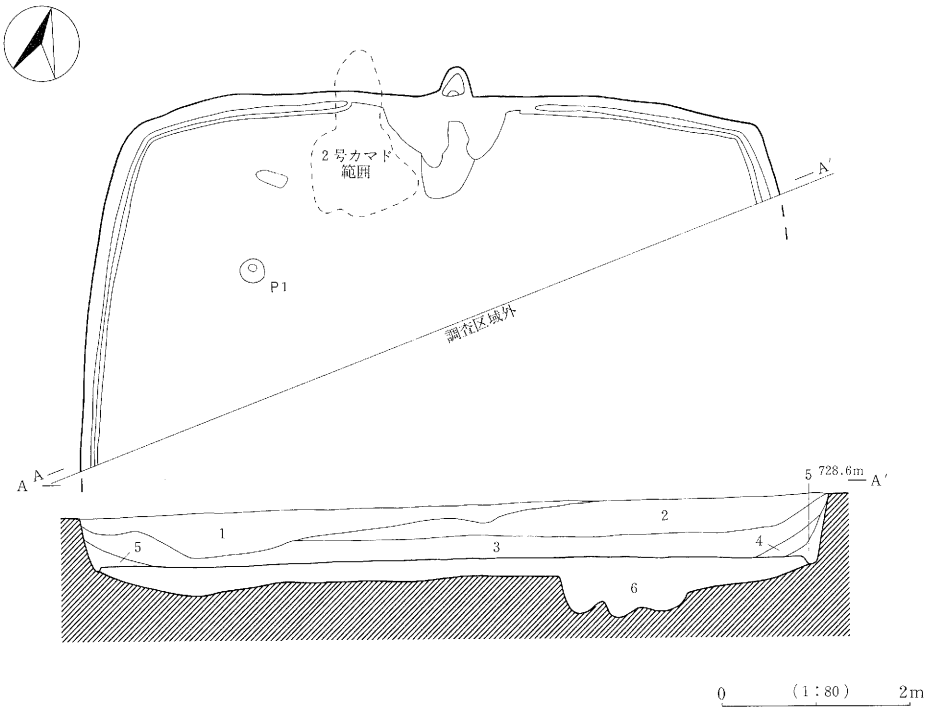
第31表　Ｈ６号住居址出土遺物一覧表(4)

挿図番号	器種	石　質	法　量cm			備　考
			長さ	巾	厚さ	
39-1	不明	安山岩	12.8	6.7	4.3	擦石の可能性有す
39-2	不明	安山岩	12.1	7.0	4.3	擦石の可能性有す
39-3	不明	石英安山岩	10.2	7.2	4.5	表面に擦過痕 擦石の可能性有す
39-4	不明	安山岩	(9.0)	5.2	4.2	端部を擦面として使用
39-8	砥石	安山岩	13.8	9.8	5.4	二面（表裏）を使用面として使用
39-6	擦石	細粒安山岩	10.8	7.3	5.2	表裏二面を擦面として使用
39-7	擦石	軽石	7.5×6.7		3.4	表面に擦過痕
39-8	擦石	安山岩	5.9	4.9	3.2	表面に擦過痕

7）Ｈ７号住居址



第40図　Ｈ７号住居址出土遺物実測図



1　暗褐色土層　攪乱。10YR1.7/1　　10YR1.3/3

2　黒色土層　粘性やや弱し。ローム粒子微量含む。10YR1.7/1

3　黒褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子・炭化材小片少量含む。10YR2/3

4　黒色土層　粘性やや弱し。ローム粒子微量含む。10YR1.7/1

5　褐色土層　粘性弱し。ローム粒子多量、含む。10YR4/6

6　にぶい黄褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子多量、パミス微量含む。10YR5/3

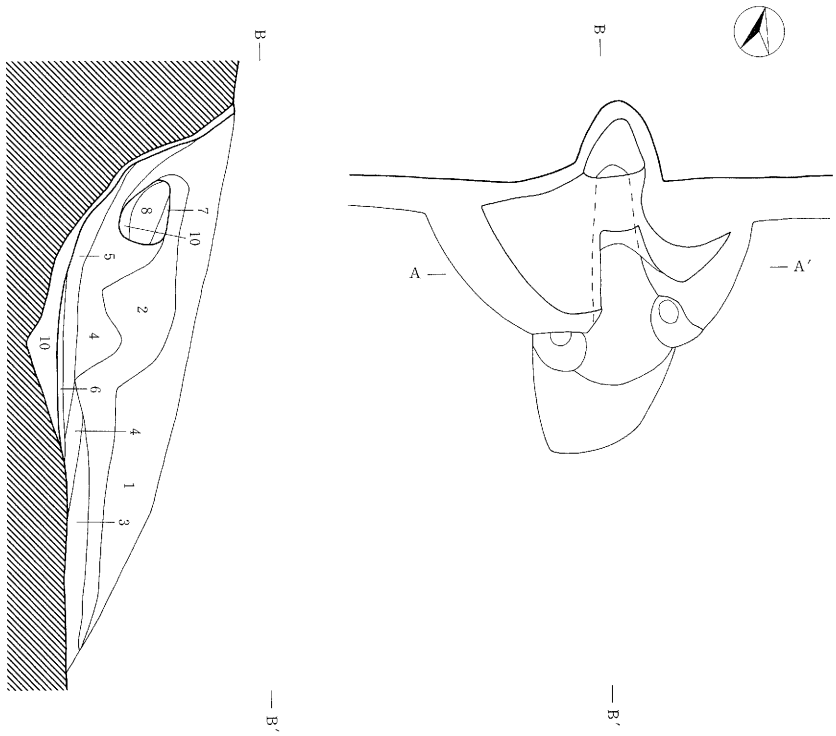
第41図　H7号住居址実測図

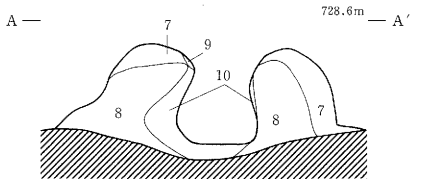
H7号住居址は、下芝宮遺跡IVの調査区南側、す・せ－12～14グリッド内に位置し、全体層序第VII層上面において単独で検出された。なお南側半分は調査区域外である。

平面形態は、南北347cm(現存値)、東西671cmを測り、方形を呈すると考えられる。主軸方位はN－17°－Wを指す。

覆土は5層に分割された。

確認面からの壁残高は、48～67.5cmを測り、壁体は全体層序第VII層を利用し、平滑で堅固である。床面は平坦で貼床と周溝が認められた。貼床は第6層のにぶい黄褐色土によって貼られていた。





0 (1：30) 1m

1　黒褐色土層　粘性やや弱し。粘土粒子・パミス極小粒微量含む。7.5YR3/1

2　にぶい褐色土層　粘性強し。粘土粒子多量含む。7.5YR5/3

3　暗褐色土層　粘性やや強し。粘土粒子・焼土粒子微量、炭化材微片少量含む。7.5YR3/3

4　灰褐色土層　粘性やや強し。粘土粒子・焼土粒子少量含む。5YR5/2

5　にぶい赤褐色土層　粘性やや強し。粘土粒子・焼土粒子多量含む。2.5YR5/3

6　赤褐色土層　粘性やや強し。焼土主体。2.5YR4/6

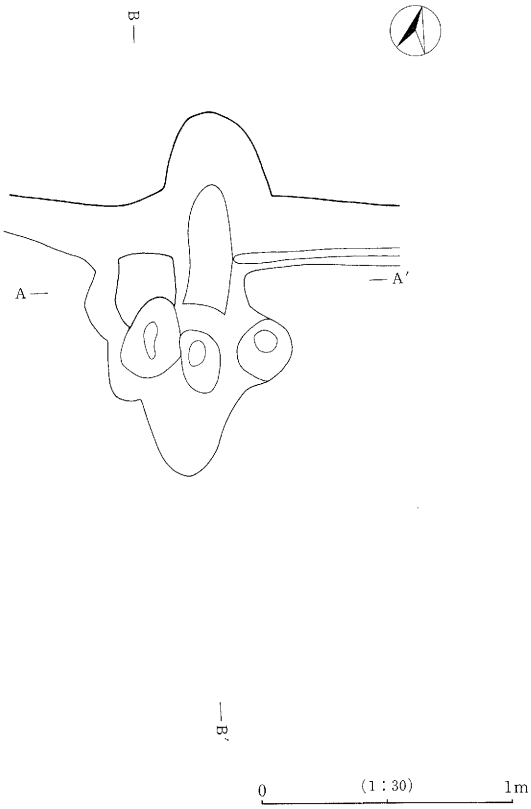
7　にぶい褐色土層　粘性強し。粘土主体。ローム粒子少量含む。7.5YR6/3

8　明褐灰色土層　粘性強し。粘土主体。ローム粒子少量含む。7.5YR7/1

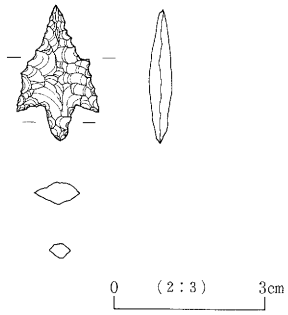
9　にぶい赤褐色土層　粘性強し。第7層が熱を受け変色。5YR5/4

10　灰赤色土層　粘性強し。第8層が熱を受け変色。2.5YR5/2

第42図　H7号住居址1号カマド実測図



第43図　Ｈ７号住居址１号カマド掘方実測図



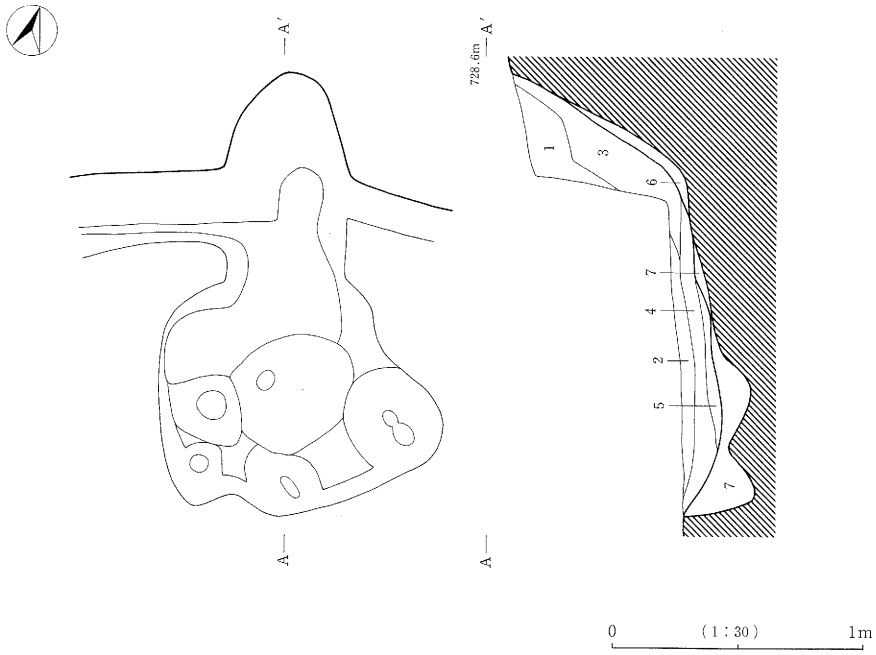
第44図　Ｈ７号住居址出土遺物実測図

第32表　Ｈ７号住居址出土遺物一覧表

挿図番号	器　種	石　質
44	石鏃	黒曜石
法　量		
長さ	巾	厚さ
2.6	1.6	0.45

第33表　Ｈ７号住居址出土遺物一覧表

挿図番号	器種	法　量cm	形　態　の　特　徴	手　法　の　特　徴	備　考
40-1	甕	口径　15.0 胴径　17.2 現高　13.5	口縁部外反 球胴	口縁部外面ヨコナデ 口縁部内面ヘラミガキ 胴部内外面ヘラミガキ	7.5Y R4/6
40-2	坏	口径　14.0 器高　5.4	底部丸底 外稜を持つ	口縁部内外面ヨコナデ 体部外面ヘラケズリ 体部内面ヘラナデ 内面黒色処理	外面 7.5YR4/6
	紡鐘車	径　3.9 孔径　0.68 厚さ　2.4	滑石製 表面に無数の擦過痕		



1　黒褐色土層　粘性やや強し。ローム粒子・粘土粒子微量含む。5YR3/1

2　灰褐色土層　粘性やや強し。ローム粒子・粘土粒子少量含む。7.5YR4/2

3　にぶい赤褐色土層　粘性強し。粘土粒子多量含む。5YR5/3

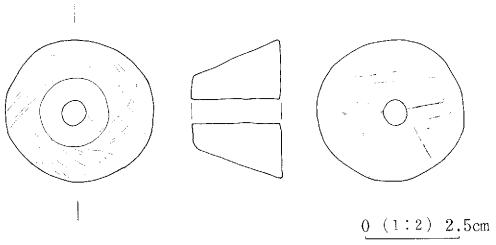
4　にぶい赤褐色土層　粘性やや強し。ローム粒子・粘土粒子・焼土粒子少量含む。5YR4/4

5　明赤褐色土層　粘性やや弱し。焼土主体。5YR5/8

6　明褐灰色土層　粘性強し。粘土主体。5YR7/1

7　褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子多量、粘土粒子少量含む。7.5YR4/4

第45図　H7号住居址2号カマド掘方実測図



第46図　Ｈ７号住居址出土遺物実測図

周溝は、カマド西側の一部と東側を除く全周で、深さ6～4.5cmの規模で確認された。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーはほぼ直角を呈している。

ピットは、主柱穴１個（P_1）のみが検出された。

カマドは北壁中央で検出された。第１号カマドの残存状況は、比較的良好で、煙道天井部が残存していた。なお袖石・袖天井石は検出されなかった。現存する規模は、焚口より煙道出口まで139cm、袖部巾101cmを測る。また残存する右側の袖は長さ66cmで巾37.5cm・高さ35～48cm、左側の袖は長さ62cmで巾51cm・高さ36～46cmを測る。覆土は６層に分割された。またカマド各部の構築状況は以下のとおりである。袖部は第７層・第８層によって、燃焼部と焚口・煙道下部は第10層によって構築される。第２号カマドは第１号カマド構築時に破壊されたと考えられる。第１層～第４層は破壊後に貼られた層で、第６層・第７層上面が使用面と考えられる。

遺物は土師器の甕・坏と、石鏃、紡錘車等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代後期中葉に位置付けられる。

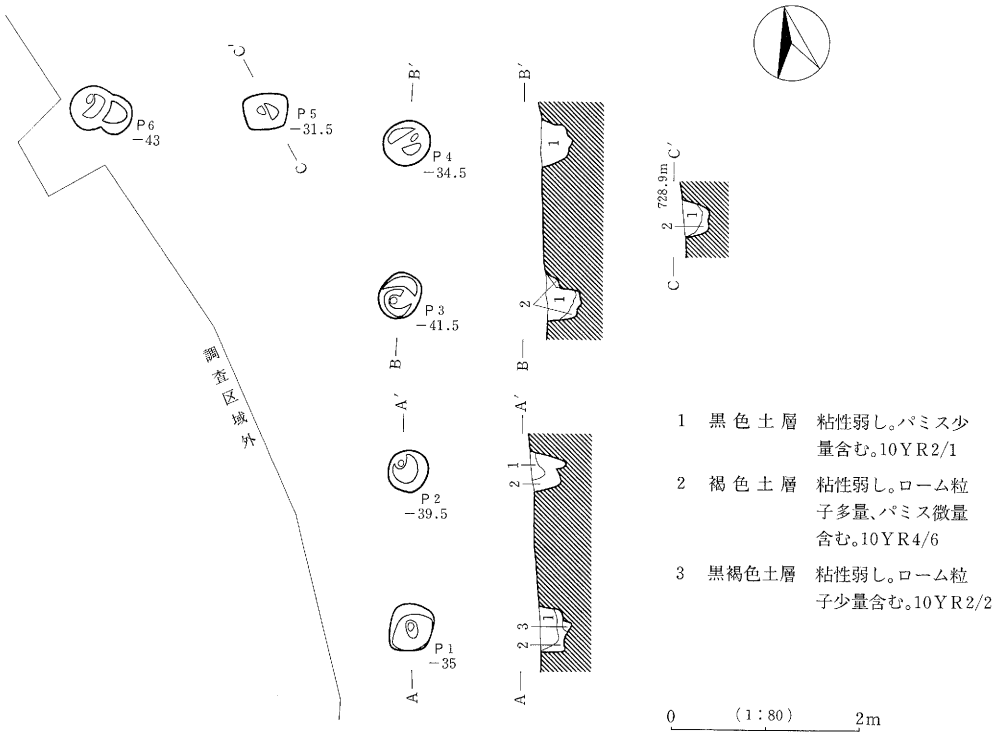
8）Ｈ８号・Ｈ９号住居址

Ｈ８号住居址は、下芝宮遺跡Ⅳの調査区南側、ち・つ－14グリッド内において確認された。著しく攪乱され、計測不可能な状態であった。遺物は、土師器の甕・坏の破片と須恵器の坏身の底部が出土した。これら遺物より本住居址の所産期は古墳時代後期と考えられる。

Ｈ９号住居址は、下芝宮遺跡Ｉの東側調査区外より、農業用道路拡幅工事中に確認された。遺物は貯蔵穴と考えられる落ち込みから球胴甕が出土した。所産期は古墳時代後期と考えられる。

2　掘立柱建物址

1）Ｆ１号掘立柱建物址



第47図　Ｆ１号掘立柱建物址実測図

Ｆ１号掘立柱建物址は、下芝宮遺跡Ⅳの調査区南側、す～そ－13・14グリッド内に位置し、全体層序第Ⅶ層上面において検出された。なお西側半分は調査区域外である。

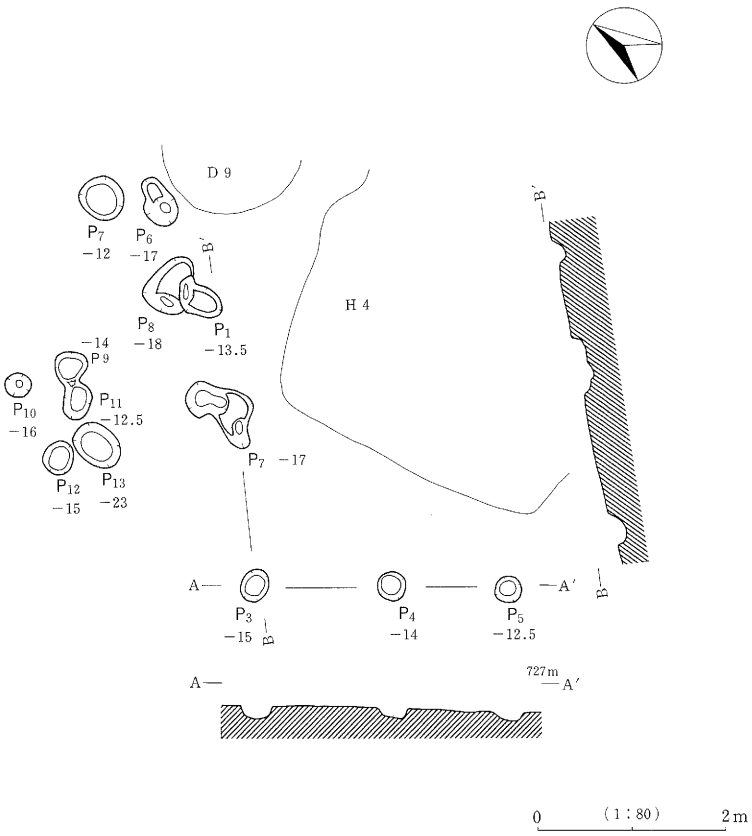
本址は２間×３間の掘立柱建物址と考えられるが、３間×３間の可能性もある。主たる柱間は、P_1-P_2が175cm、P_2-P_3が173cm、P_3-P_4が175cm、P_4-P_5が167cm、P_5-P_6が181cmを測る。

主軸方位はＮ－12°－Ｅを指す。

遺物は、土師器甕の口縁部片・胴部片、土師器坏の底部片・口縁部片等が出土している。

以上より本建物址の所産期は、古墳時代の後期と推定される。

2） F 2 号掘立柱建物址



第48図　F 2 号掘立柱建物址

F 2 号掘立柱建物址は、下芝宮遺跡IIの調査区南側、お・か－５・６グリッド内に位置し、全体層序第VII層及び第VIII層上面において検出された。

本址は、不規則であるが３間×２間の掘立柱建物址と考えられるが、ピット群の可能性もある。主たる柱間は、P_2-P_3で165cm、P_3-P_4で146cm、P_4-P_5で126cmを測る。

遺物は出土せず、所産期は不明である。

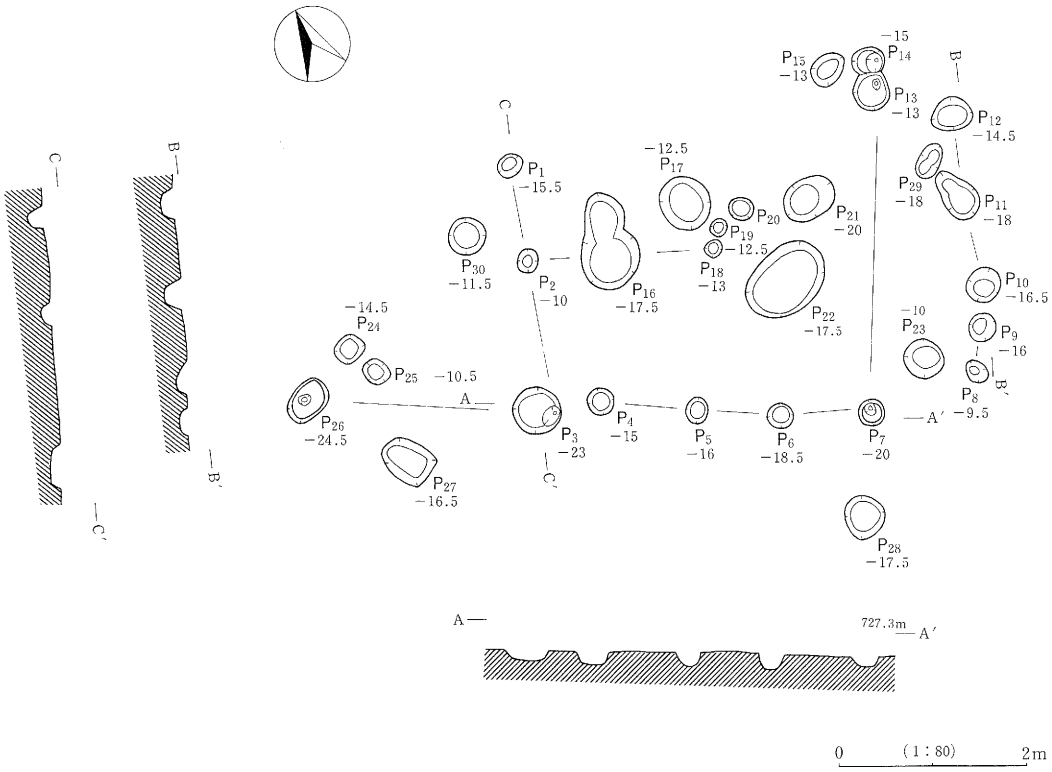
3） F 3 号掘立柱建物址

F 3 号掘立柱建物址は、下芝宮遺跡IIの調査区中央、き～け－７～９グリッド内に位置し、全体層序第VII層上面において検出された。

本址は、短軸が２間で長軸が不規則な柱間の掘立柱建物址と考えられるが、ピット群の可能性もある。主たる柱間は、P_1-P_2で255cm、P_1-P_3で426cm、P_3-P_4で275cm、P_4-P_6で310cm、P_6-P_7で235cm、P_7-P_{14}で262cm、$P_{14}-P_{17}$で408cm、P_1-P_{11}で150cm、$P_{11}-P_{10}$で276cmを測る。

遺物は出土せず、所産期は不明である。

4）Ｆ４号掘立柱建物址

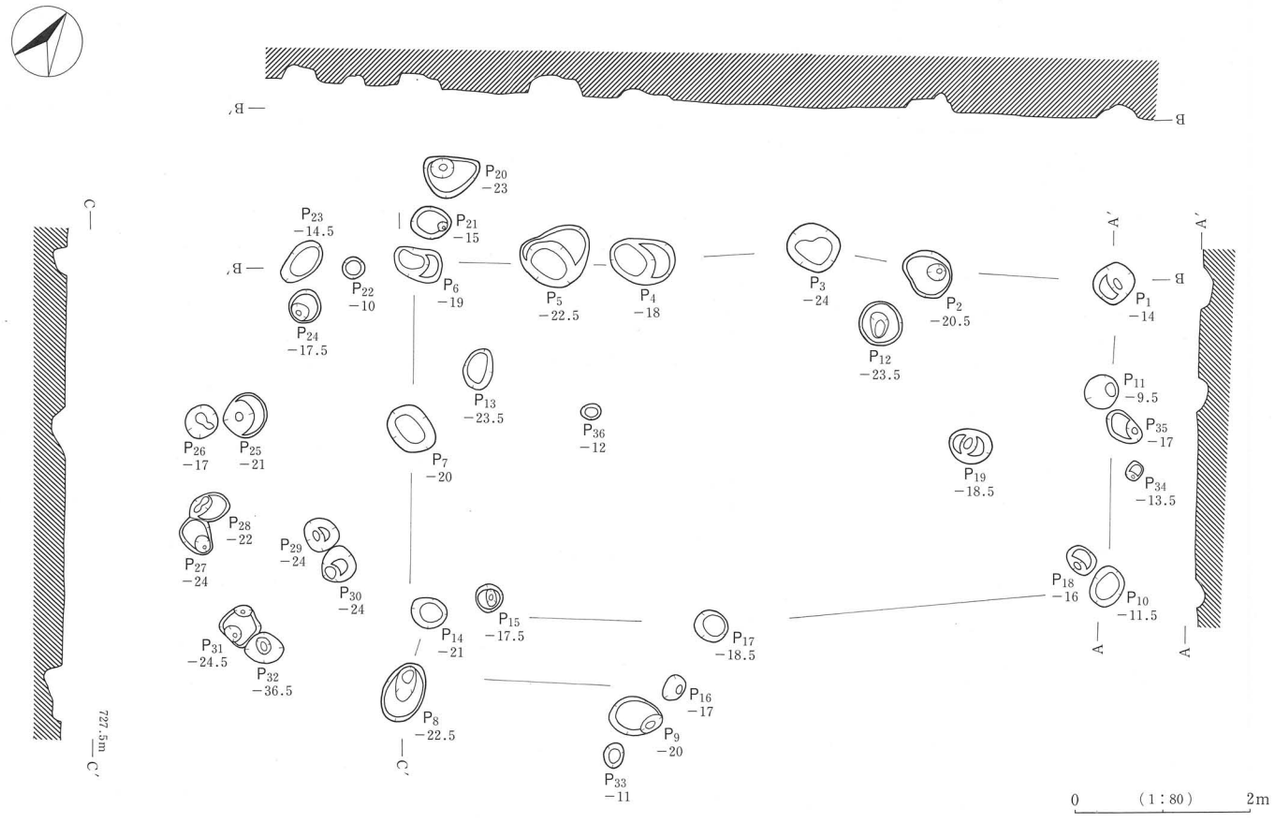


第49図　Ｆ４号掘立柱建物址

Ｆ４号掘立柱建物址は、下芝宮遺跡Ⅱの調査区南側、か・き－６・７グリッド内に位置し、全体層序第Ⅶ層および第Ⅷ層上面において検出された。

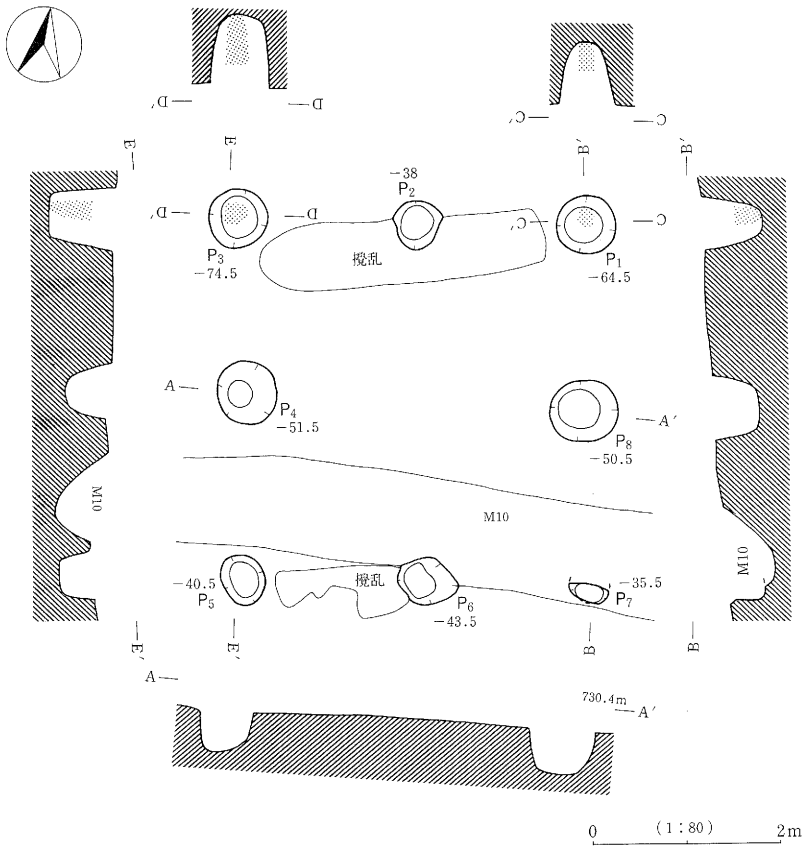
本址は不規則な柱間の掘立柱建物址と考えられるが、ピット群の可能性もある。主たる柱間は、P_1-P_2で106cm、P_2-P_3で165cm、P_4-P_5で103cm、P_5-P_6で90cm、P_6-P_7で94cm、P_7-P_{13}で343cmを測る。

遺物は出土せず、所産期は不明である。



第50図　Ｆ３号掘立柱建物址

5）Ｆ５号掘立柱建物址



第51図　Ｆ５号掘立柱建物址実測図

Ｆ５号掘立柱建物址は、下芝宮遺跡Ⅲの調査区中央、ち・つ−10・11グリッド内に位置し、全体層序第Ⅶ層上面において検出され、M10号溝状遺構に破壊される。

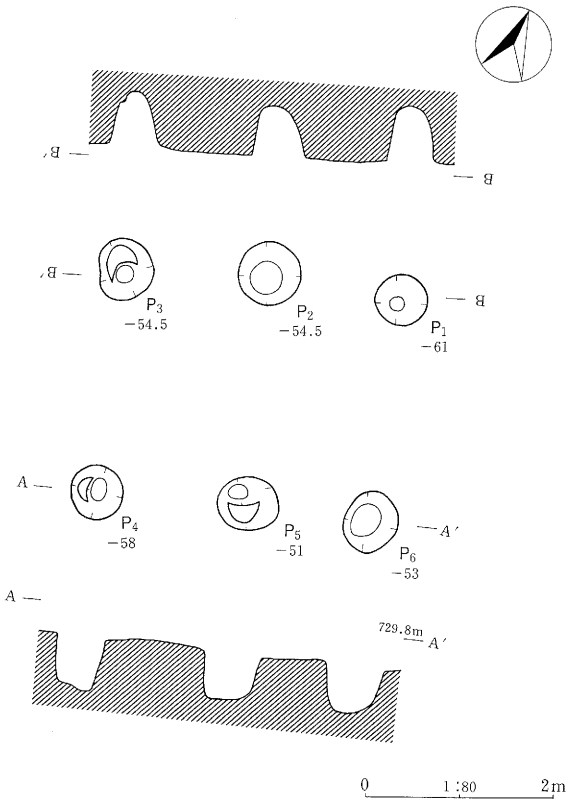
本址は２間×２間の掘立柱建物址である。主たる柱間は、P_1-P_2が178cm、P_2-P_3が192cm、P_3-P_4が192cm、P_4-P_5が197cm、P_1-P_3が370cm、P_3-P_5が389cmを測る。

主軸方位はN−20°−Wを指す。

遺物はP_5とP_6より土師器の甕の胴部片が出土している。

以上より本建物址の所産期は、古墳時代の後期と推定される。

6）Ｆ６号掘立柱建物址



第52図　Ｆ６号掘立柱建物址実測図

Ｆ６号掘立柱建物址は、下芝宮遺跡Ⅲの調査区南側、た・ち－９・10グリッド内に位置し、全体層序第Ⅶ層上面において検出され、M10号溝状遺構に破壊される。

本址は１間×２間の掘立柱建物址である。主たる柱間は、P_1-P_2が144cm、P_2-P_3が148cm、P_3-P_4が233cm、P_6-P_1が234cmを測る。

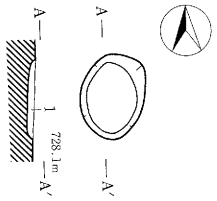
主軸方位はN－25°－Wを指す。

遺物はP_1より須恵器甕の頸部片、P_2より土師器坏の底部片、P_3より土師器甕の胴部片等が出土している。

以上より本建物址の所産期は、古墳時代の後期と推定される。

3　土　坑

1）Ｄ１号土坑



1　暗褐色土層　粘性やや弱し。パミス小～中とローム粒子・炭化粒子を少量含む。

0　(1：60)　1m

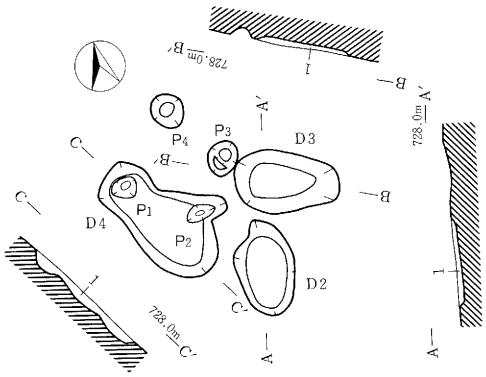
第53図　Ｄ１号土坑実測図

Ｄ１号土坑は、下芝宮遺跡Ｉの調査区中央、き－４グリッド内に位置し、全体層序第Ⅵ層中より検出された。

規模は長軸が68cm、短軸が52cmを測り、長軸方位はＮ－２°－Ｅを指す。

遺物は出土せず、所産期は不明である。

2）Ｄ２号土坑



1　暗褐色土層　パミス小とローム粒子を少量含む。

0　(1：60)　1m

第54図　Ｄ２号・Ｄ３号・Ｄ４号土坑実測図

Ｄ２号土坑は、下芝宮遺跡Ｉの調査区中央、き－５グリッド内に位置し、全体層序第Ⅵ層中より検出された。

規模は長軸が77cm、短軸が43cm、深さ8cmを測り、楕円形を呈する。長軸方位はＮ－１°－Ｅを指す。

遺物は出土せず、所産期は不明である。

3）Ｄ３号土坑

Ｄ３号土坑は、下芝宮遺跡Ｉの調査区中央、き－５グリッド内に位置し、全体層序第Ⅵ層中より検出された。

規模は長軸が86cm、短軸が48cm、深さ6.5cmを測り、楕円形を呈する。長軸方位はＷ－15°－Ｎを指す。

遺物は出土せず、所産期は不明である。

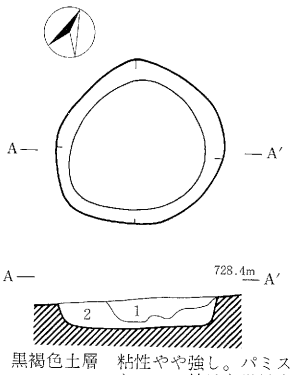
4）Ｄ４号土坑

Ｄ４号土坑は、下芝宮遺跡Ｉの調査区中央、き－５グリッド内に位置し、全体層序第VI層中より検出された。

規模は長軸が110cm、短軸が37cm、深さ8cmを測り、不整楕円形を呈する。長軸方位はＮ－32°－Ｗを指す。

遺物は出土せず、所産期は不明である。

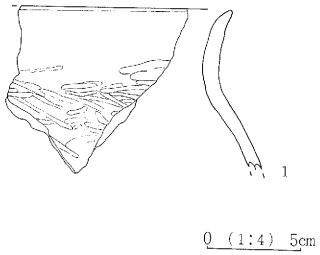
5）Ｄ５号土坑



1　黒褐色土層　粘性やや強し。パミス小とローム粒子を微量含む。
2　黒褐色土層　粘性強し。パミス小とローム粒子・炭化粒子を微量含む。

0　(1：60)　1m

第55図　Ｄ５号土坑実測図



第56図　Ｄ５号土坑出土遺物実測図

Ｄ５号土坑は、下芝宮遺跡Ｉの調査区中央、く・け－４グリッド内に位置し、全体層序第VII層上面において検出された。

規模は径132×130cmで深さ29.5cmを測り、円形を呈する。

遺物は古墳時代の後期と考えられる土師器の甕が出土し、所産期はその頃と推定される。

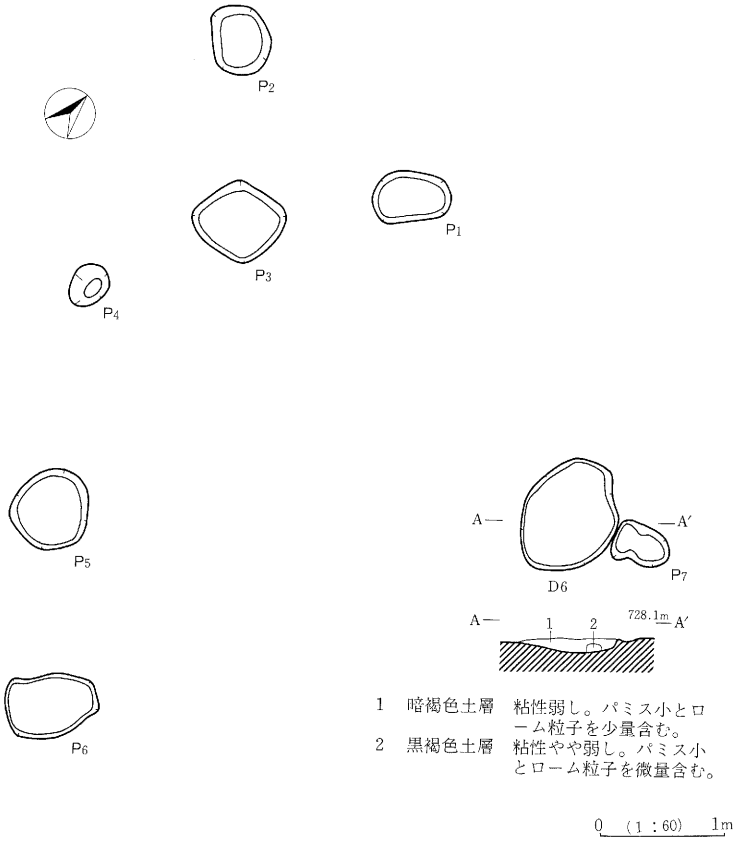
6）Ｄ６号土坑

Ｄ６号土坑は、下芝宮遺跡Ｉの調査区南側、お－３グリッド内に位置し、全体層序第VII層上面において検出された。

規模は長軸が98cm、短軸が76cm、深さ11.5cmを測り、楕円形を呈する。長軸方位はＮ－２°－Ｗ

を指す。

遺物は出土せず、所産期は不明である。



第57図　Ｄ６号土坑およびピット群実測図

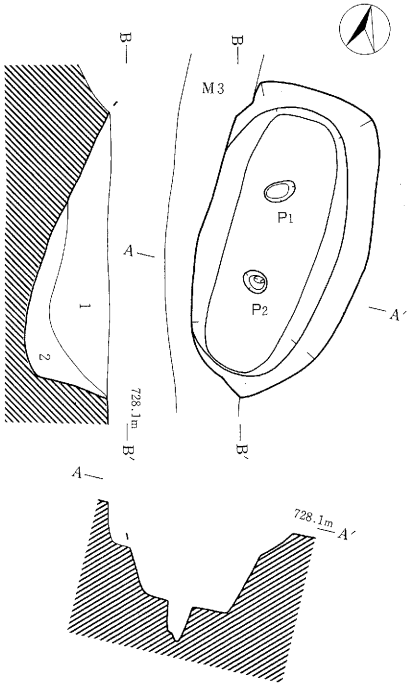
7）Ｄ７号土坑

Ｄ７号土坑は、下芝宮遺跡Ｉの調査区中央、こ－５・６グリッド内に位置し、全体層序第Ⅶ層上面において検出され、Ｍ３号溝状遺構に破壊される。

規模は長軸が244cm、短軸が133cm、深さ80cmを測り、長楕円形を呈する。また床面の規模は、長軸が206cm、短軸が71cmを測る。長軸方位はＮ－１°－Ｅを指す。

ピットは床面長軸線上に２個検出された。P_1は深さ38cm、P_2は深さ30cmを測る。

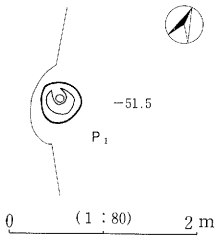
遺物は出土せず、所産期は不明だが、形状より落し穴と考えられる。



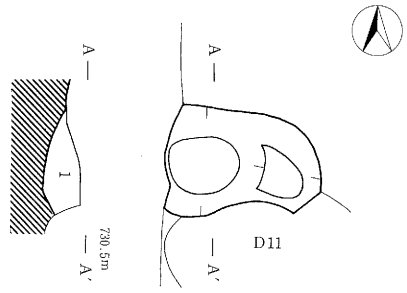
1　黒褐色土層　粘性やや強し。パミス小～大とスコリア、ローム粒子を微量含む。
2　暗褐色土層　粘性弱し。パミス小～大とローム粒子を少量含む。

0　(1：60)　1m

第58図　D７号土坑実測図



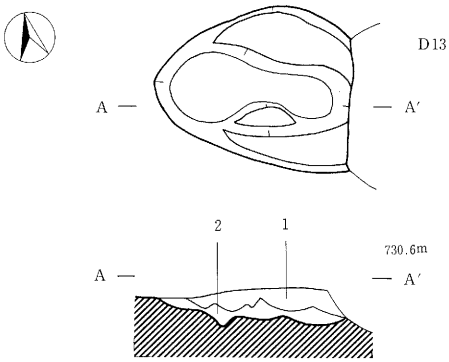
第61図　D13号土坑実測図



1　黒褐色土層　粘性弱し。パミス大粒を少量含む。

0　(1：60)　1m

第59図　D10号土坑実測図

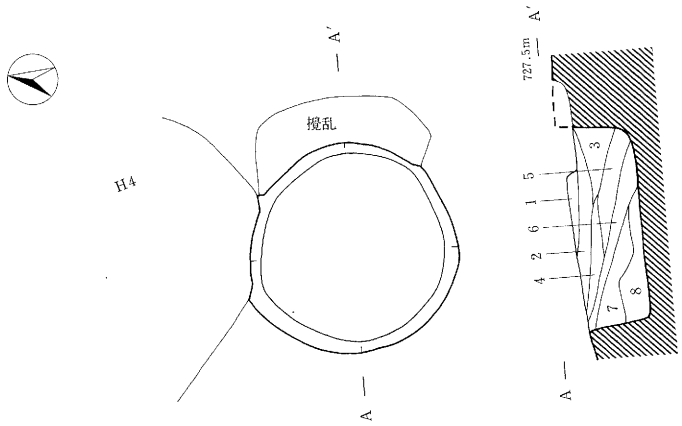


1　黒褐色土層　粘性弱し。パミス極大粒を少量含む。
2　暗褐色土層　粘性弱し。軽石（径２～３㎝）を少量含む。

0　(1：60)　1m

第60図　D11号土坑実測図

8）Ｄ８号土坑



1　黒褐色土層　粘性弱し。パミスを少量、ローム粒子を多量に含む。

2　暗褐色土層　粘性弱し。パミス小粒とローム粒子を多量に含む。

3　黒褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子を微量に含む。

4　褐 色 土 層　粘性弱し。ローム粒子を多量に含む。

5　暗褐色土層　粘性弱し。ローム粒子をやや多量含む。

6　黒 色 土 層　粘性やや強し。ローム粒子を微量含む。

7　褐 色 土 層　粘性弱し。パミス極小粒・ローム粒子を少量含む。

8　黒褐色土層　粘性やや弱し。パミス小粒・ローム粒子を微量含む。

0　1:60　1m

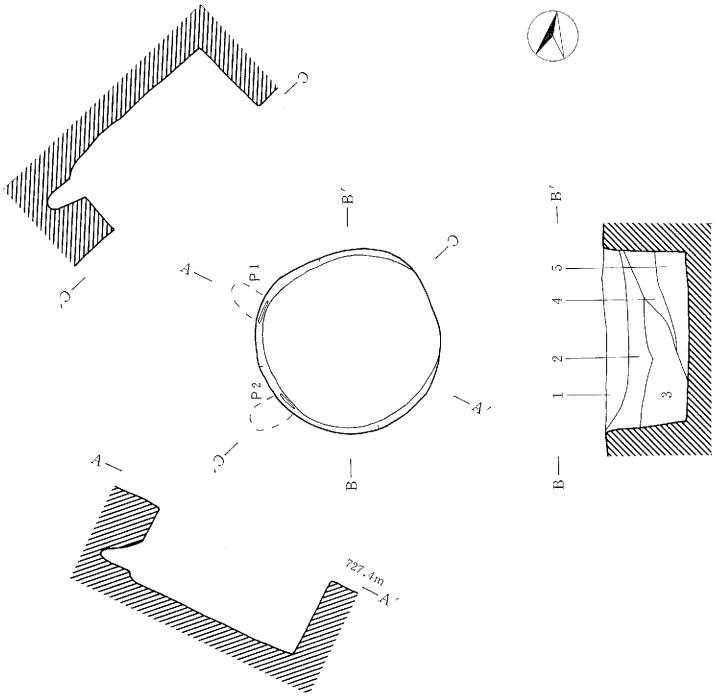
第62図　Ｄ８号土坑実測図

Ｄ８号土坑は、下芝宮遺跡Ⅱの調査区の南側、おー６グリッド内に位置し、全体層序第Ⅶ層上面において検出され、Ｈ４号住居址と攪乱により破壊される。

規模は径166×173cm、深さ53cmを測り、円形を呈する。

遺物は出土しなかったが、重複関係にあるＨ４号住居址より古い所産期を与えることができよう。

9）Ｄ９号土坑



1　褐色土層　粘性弱し。パミス（極小～中粒）を微量、ローム粒子を多量に含む。

2　黒褐色土層　粘性弱し。パミスを微量、ローム粒子を多量に含む。む。

3　黒色土層　粘性やや強し。パミス・ローム粒子を微量に含む。

4　黒褐色土層　粘性やや強し。パミスを少量、ローム粒子を微量含む。

5　黒色土層　粘性やや強し。パミスを微量含む。

0　（1：60）　1m

第63図　Ｄ９号土坑実測図

Ｄ９号土坑は、下芝宮遺跡Ⅱの調査区の南側、か－５グリッド内に位置し、全体層序第Ⅶ層上面において検出された。

規模は径151×145cm、深さ68cmを測り、円形を呈する。

ピットは西側壁中より２個検出された。P_1は奥行27cm、P_2は奥行27.5cmを測る。

遺物は、古墳時代の後期の甕と甑の破片が出土した。

10）D10号土坑

D10号土坑は、下芝宮遺跡IIIの調査区の北側、と－９グリッド内に位置し、全体層序第VII層上面において検出され、H５号住居址とD11号土坑に破壊される。

規模は長軸が125cm、短軸が89.5cm、深さ35.5cmを測る。

遺物は出土せず、所産期は不明だが、H５号住居址より古い位置付けができる。

11）D11号土坑

D11号土坑は、下芝宮遺跡IIIの調査区の北側、と－９グリッド内に位置し、全体層序第VII層上面において検出され、D12号土坑に破壊される。

規模は長軸が155cm、短軸が127cm、深さ33.5cmを測る。

遺物は出土せず、所産期は不明である。

12）D12号土坑

D12号土坑は、下芝宮遺跡IIIの調査区の北側、と－８・９グリッド内に位置し、全体層序第VII層上面において検出された。

規模は長軸が137cm、短軸が117cm、深さ32cmを測る。

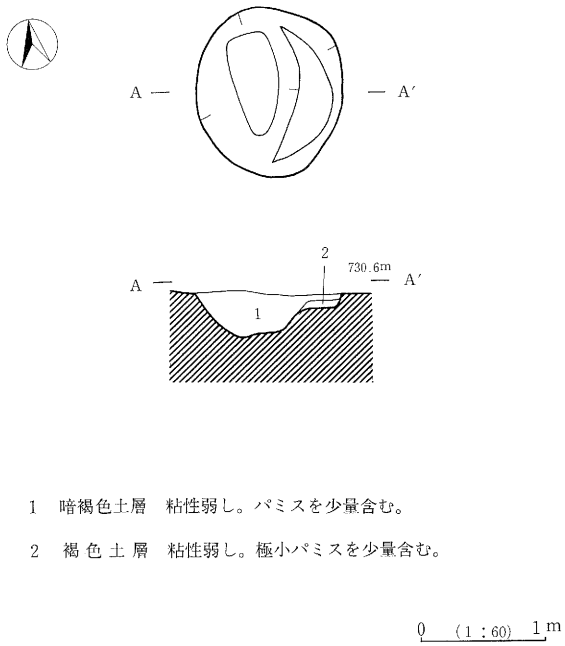
遺物は出土せず、所産期は不明である。

13）D13号土坑

D13号土坑は、下芝宮遺跡IVの調査区中央、そ－16グリッド内に位置し、全体層序第VII層上面において検出された

規模は径44×43cm、深さ51.5cmを測り、円形を呈する。

遺物は出土せず、所産期は不明である。



1　暗褐色土層　粘性弱し。パミスを少量含む。

2　褐色土層　粘性弱し。極小パミスを少量含む。

第64図　D12号土坑実測図

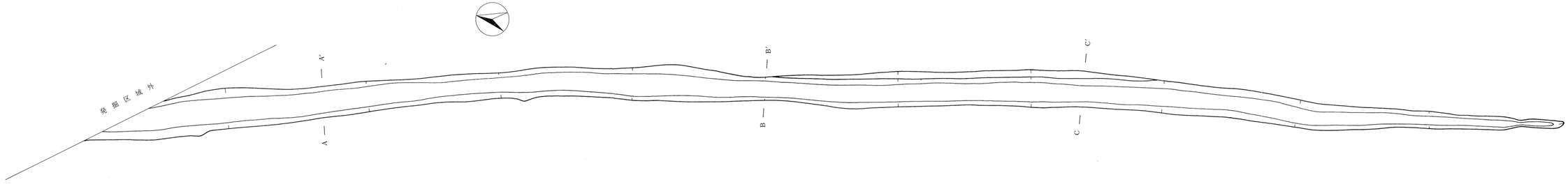
4　溝状遺構

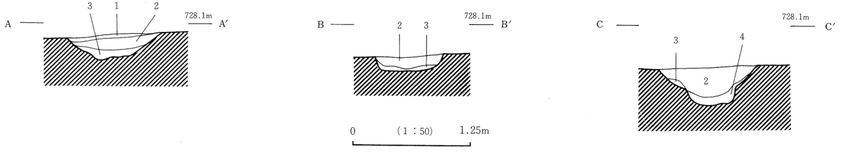
溝状遺構は、全調査区で11条が検出された。

いずれも、遺物は出土しているが、明確な所産期を与えることのできるものはない。なお、新旧関係は以下のとおりである。

M1号溝状遺構はD6号土坑より新しい。M2号溝状遺構はH1号住居址・M3号・M8号・M9号溝状遺構より新しい。M3号溝状遺構はM2号溝状遺構より古くD7号土坑より新しい。M4号溝状遺構はH1号住居址より新しい。M6号溝状遺構はM5号溝状遺構より古くM9号溝状遺構より新しい。M7号溝状遺構はM8号・M9号溝状遺構より新しい。M10号溝状遺構はF5号掘立柱建物址より新しい。

M5号溝状遺構は道の跡と考えられる。

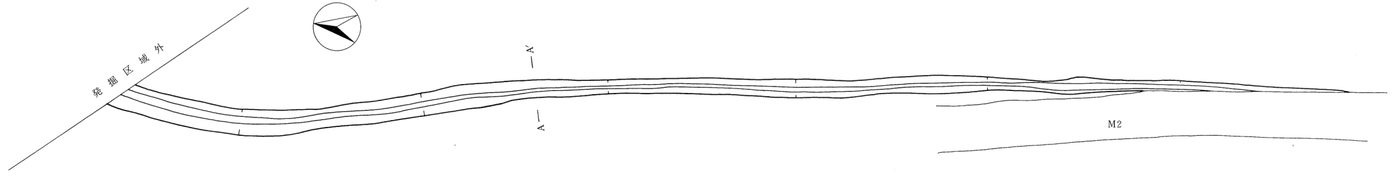


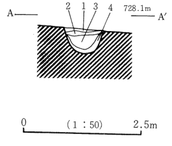


1　褐　色　土　層　粘性弱し。ローム粒子を少量含む。
2　暗 褐 色 土 層　粘性弱し。ローム粒子・砂粒を少量含む。
3　暗 褐 色 土 層　粘性弱し。ローム粒子・パミスを微量、砂粒を少量含む。
4　にぶい黄褐色土層　粘性弱し。ローム粒子・パミス・砂粒を多く含む。

0　(1：100)　2.5m

第65図　M２号溝状遺構実測図

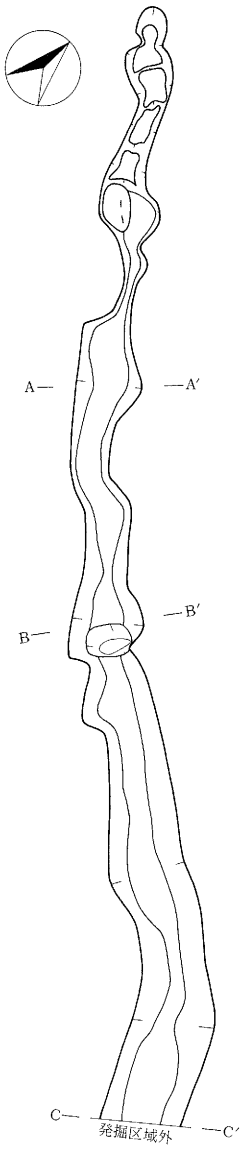


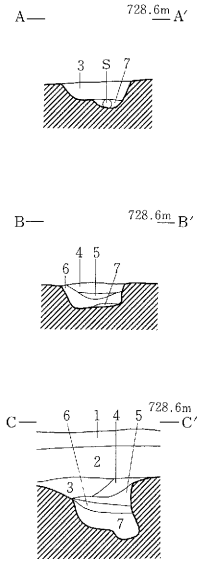


1　黄 褐 色 土 層　粘性弱し。パミス小・砂粒・ローム粒子を多く含む。
2　褐　色　土　層　粘性弱し。砂粒・ローム粒子を少量含む。
3　黒 褐 色 土 層　粘性やや弱し。パミス・ローム粒子を微量含む。
4　にぶい黄褐色土層　粘性弱し。ローム粒子・砂粒を多く含む。

0　(1：100)　1.25m

第66図　M３号溝状遺構実測図

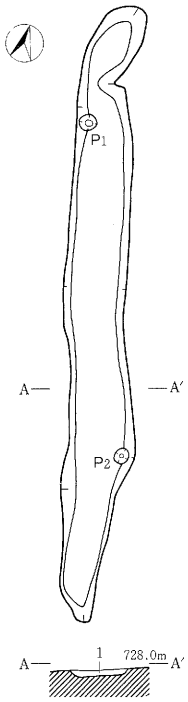




1　黒褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子を微量含む。
2　褐色土層　粘性やや弱し。パミス小～中とローム粒子を少量含む。
3　黒色土層　粘性やや強し。ローム粒子を微量含む。
4　暗褐色土層　粘性弱し。パミス小とローム粒子を少量含む。
5　にぶい黄褐色土層　粘性弱し。砂礫を多量に含む。
6　黒褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子を微量含む。
7　にぶい黄橙色土層　粘性弱し。砂礫・パミスを多量に含む。

0 (1:80) 1m

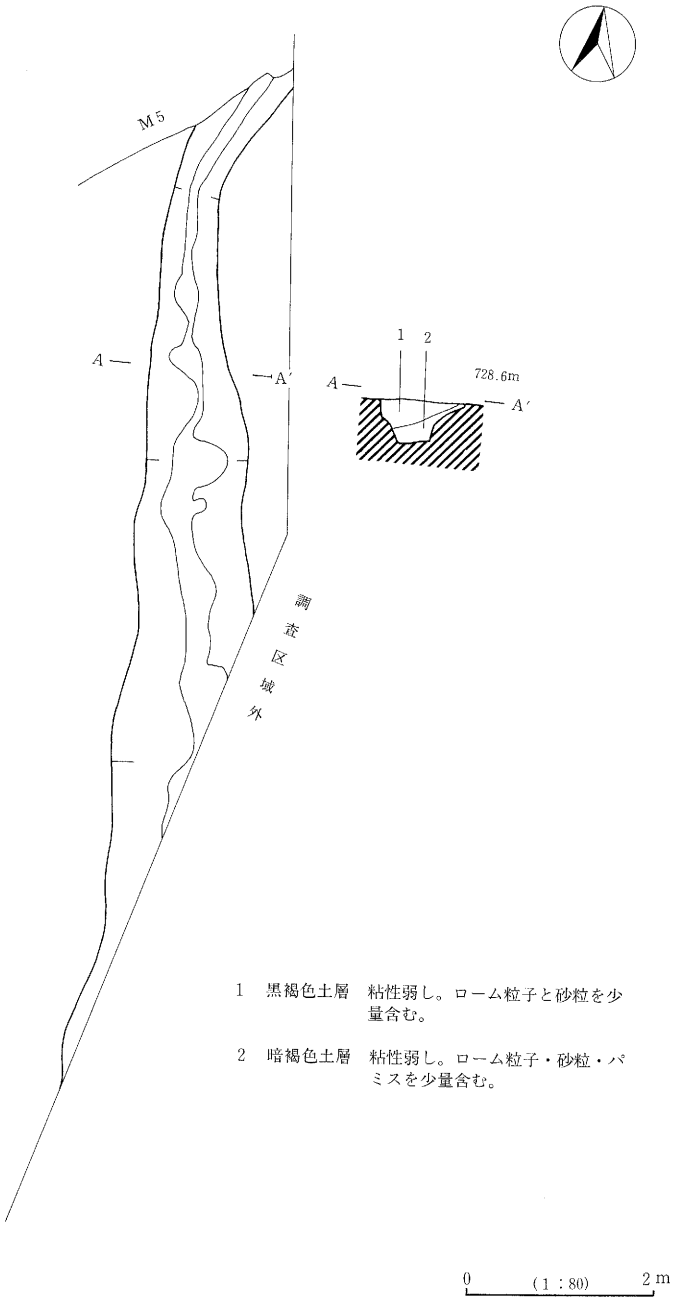
第67図　M１号溝状遺構実測図



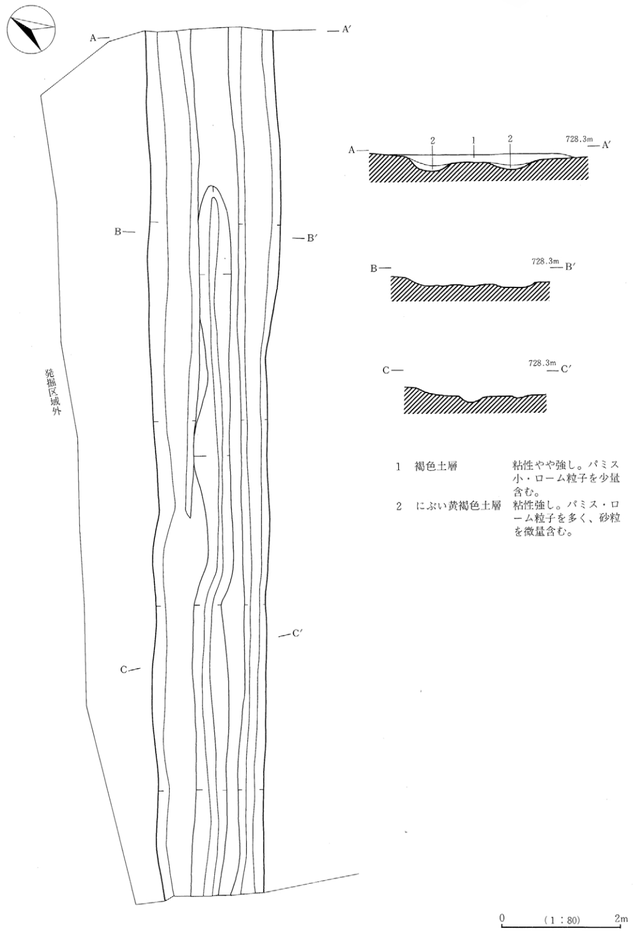
1　暗褐色土層　粘性やや弱し。パミス・ローム粒子を少量含む。

0 (1:80) 1m

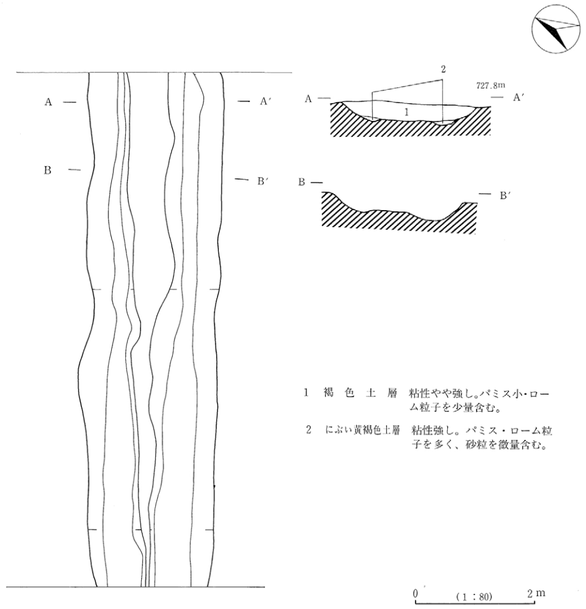
第68図　M４号溝状遺構実測図



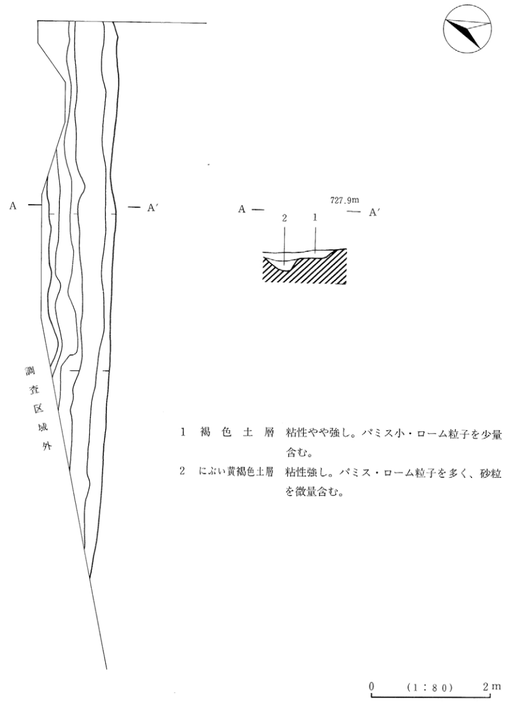
第69図　M2号溝状遺構実測図



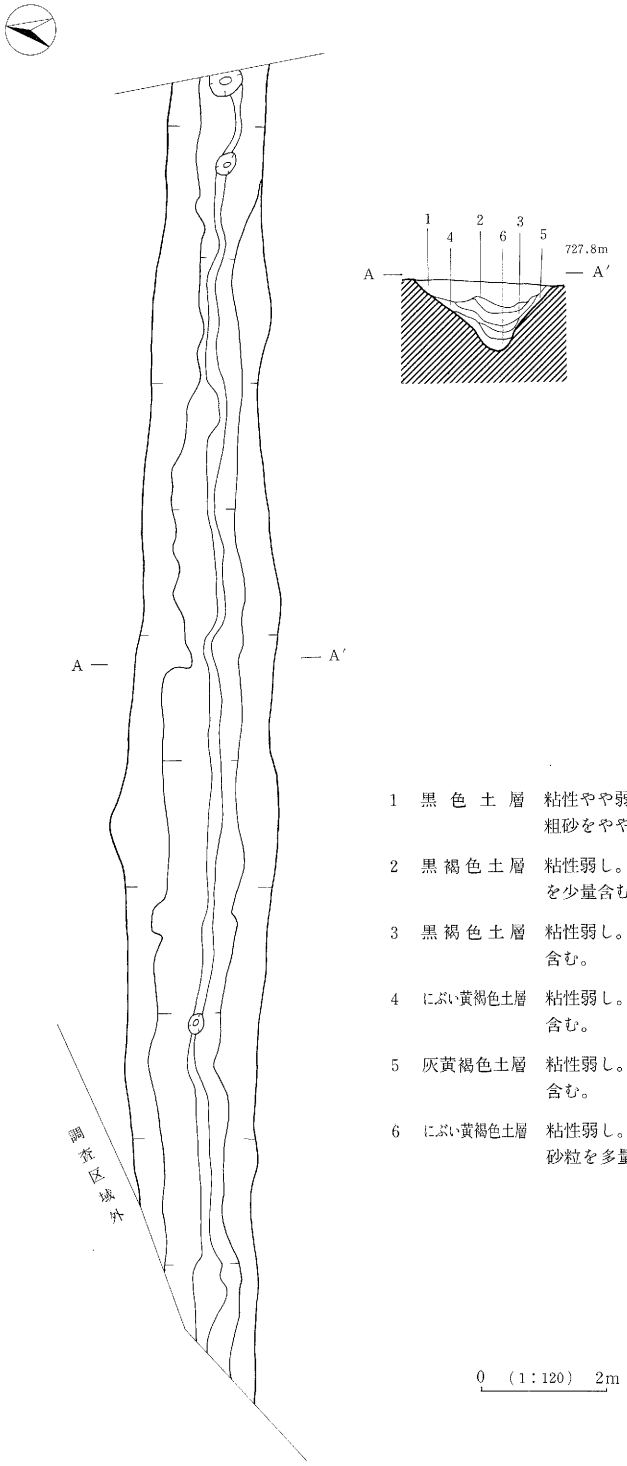
第70図　M５号溝状遺構実測図(Ⅰ)



第71図　M５号溝状遺構実測図(Ⅱ)



第72図　M５号溝状遺構実測図(Ⅱ)



1 黒色土層 粘性やや弱し。パミス・砂粒を少量、粗砂をやや多量に含む。

2 黒褐色土層 粘性弱し。パミス・ローム粒子・粗砂を少量含む。

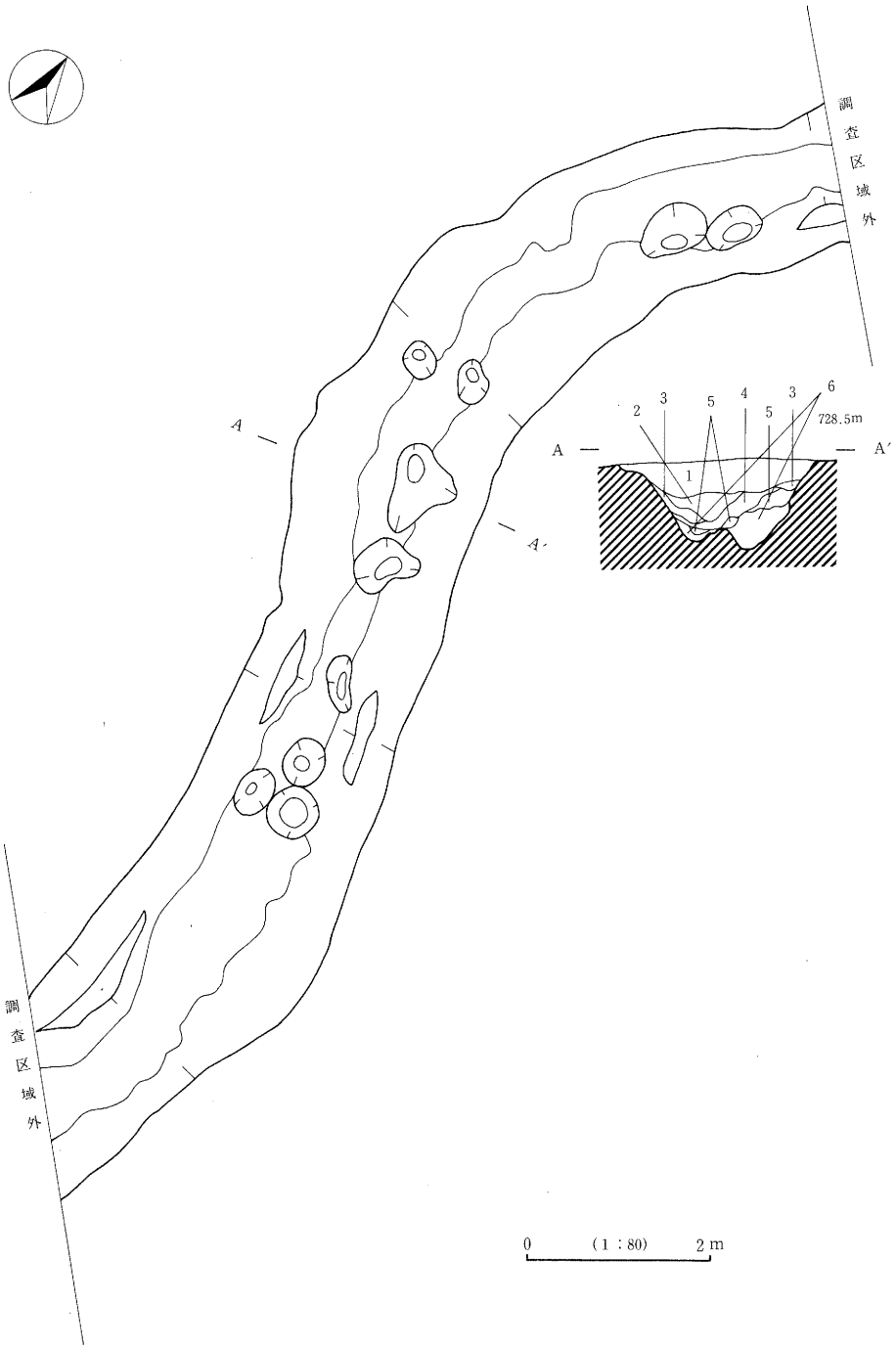
3 黒褐色土層 粘性弱し。パミス・砂粒・粗砂を少量含む。

4 にぶい黄褐色土層 粘性弱し。ローム粒子・砂粒を多量に含む。

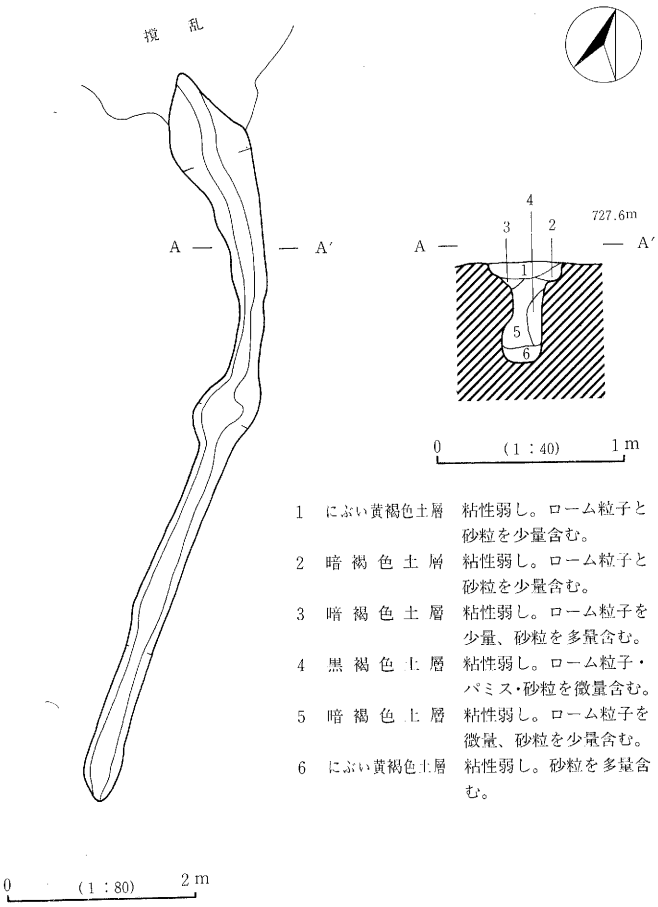
5 灰黄褐色土層 粘性弱し。ローム粒子・砂粒を多量に含む。

6 にぶい黄褐色土層 粘性弱し。パミスを微量、ローム粒子・砂粒を多量に含む。

第73図 M6号溝状遺構実測図

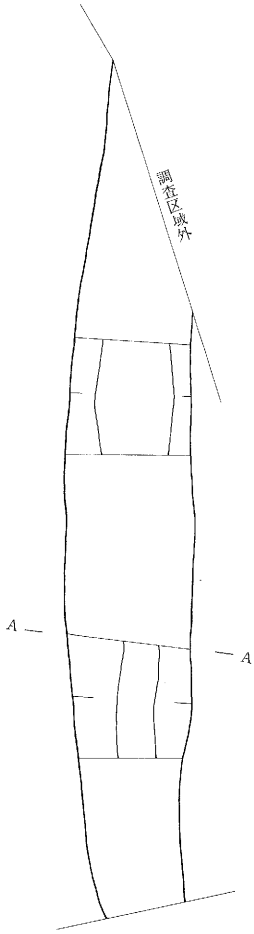


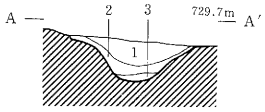
第74図　M6号溝状遺構実測図



1　にぶい黄褐色土層　粘性弱し。ローム粒子と砂粒を少量含む。
2　暗褐色土層　粘性弱し。ローム粒子と砂粒を少量含む。
3　暗褐色土層　粘性弱し。ローム粒子を少量、砂粒を多量含む。
4　黒褐色土層　粘性弱し。ローム粒子・パミス・砂粒を微量含む。
5　暗褐色土層　粘性弱し。ローム粒子を微量、砂粒を少量含む。
6　にぶい黄褐色土層　粘性弱し。砂粒を多量含む。

第75図　M７号溝状遺構実測図





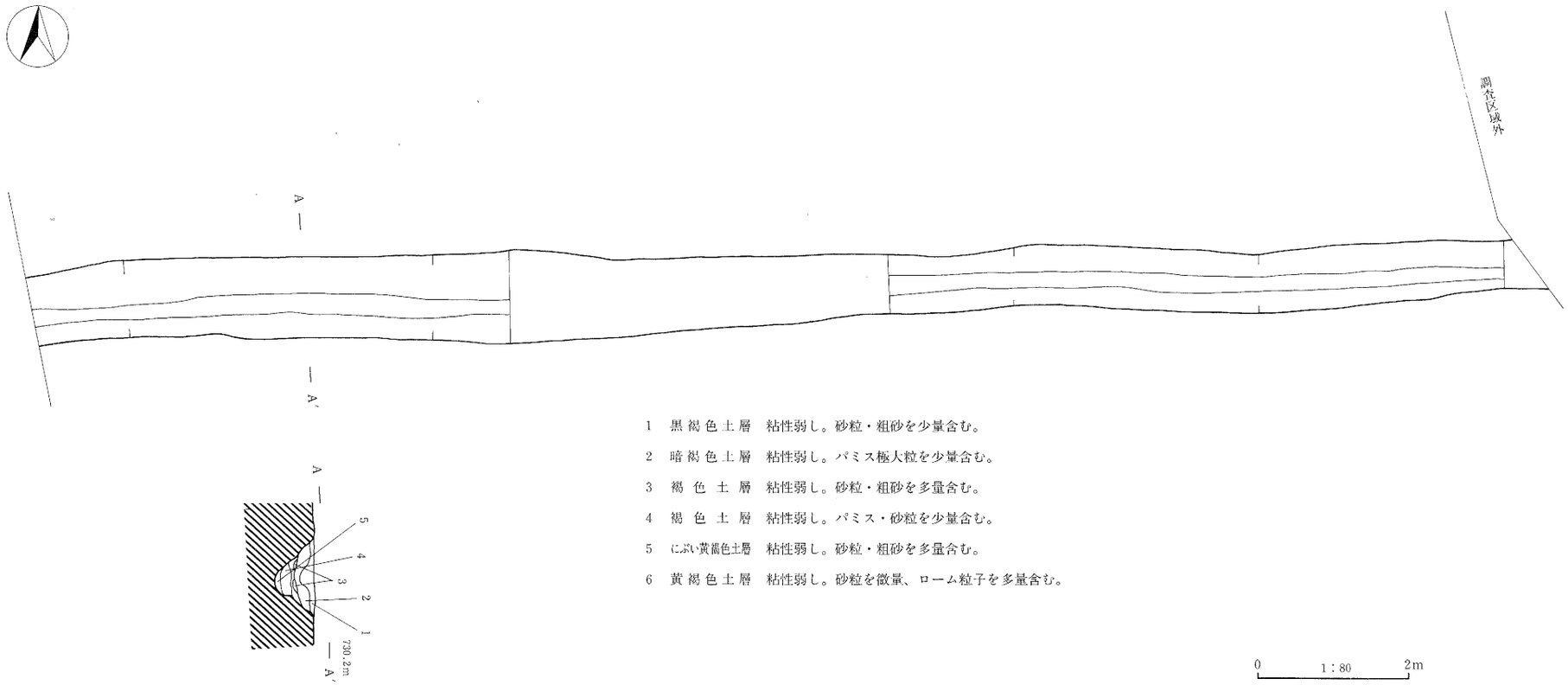
1　黒色土層　粘性やや強し。パミス極大粒を少量、砂粒を微量含む。

2　暗褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子と砂粒を少量含む。

3　暗褐色土層　粘性弱し。ローム粒子を少量、パミス極大粒を多量含む。

0　1：150　2m

第76図　M11号溝状遺構実測図



1　黒褐色土層　粘性弱し。砂粒・粗砂を少量含む。

2　暗褐色土層　粘性弱し。パミス極大粒を少量含む。

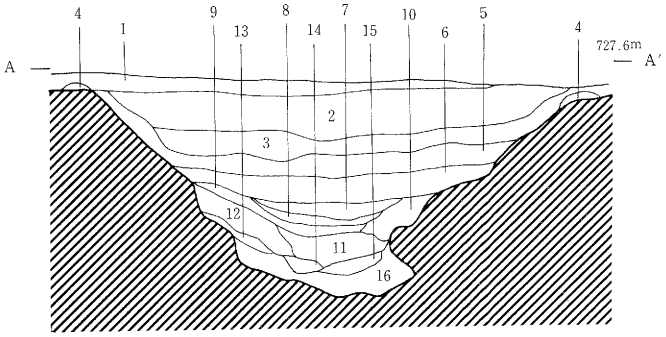
3　褐色土層　粘性弱し。砂粒・粗砂を多量含む。

4　褐色土層　粘性弱し。パミス・砂粒を少量含む。

5　にぶい黄褐色土層　粘性弱し。砂粒・粗砂を多量含む。

6　黄褐色土層　粘性弱し。砂粒を微量、ローム粒子を多量含む。

第77図　M10号溝状遺構実測図



1　暗褐色土層　ローム粗砂・パミス・砂粒を少量含む。

2　褐　色　土　層　砂粒・粗粒・パミスを多量に含む。

3　褐　色　土　層　ローム粒子・砂粒・パミスを少量含む。

4　褐　色　土　層　ローム粒子を多量に含む。

5　黒褐色土層　パミス・砂粒を微量含む。

6　黒　色　土　層　パミスを微量含む。

7　黒　色　土　層　パミス・砂粒を微量含む。

8　黒褐色土層　パミス・砂粒を少量含む。

9　黒褐色土層　パミスを微量、砂粒を多量含む。

10　黒　色　土　層　パミスを微量含む。

11　褐　色　土　層　パミスを少量、砂粒を多量含む。

12　黒褐色土層　パミス・ローム粒子を多量含む。

13　にぶい黄褐色土層　パミスを少量、ローム粒子を多量含む。

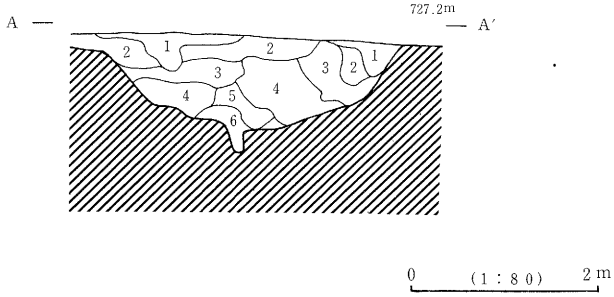
14　暗褐色土層　パミス・ローム粒子を微量、砂粒・粗粒を少量含む。

15　褐　色　土　層　パミス・ローム粒子・砂粒を少量含む。

16　褐　色　土　層　ローム粒子・砂粒をやや多量含む。

0　(1：80)　2 m

第78図　M 9 号溝状遺構土層断面図



1　黒　色　土　層　粘性やや弱し。パミス（中～極大粒）と砂粒を微量含む。

2　黒 褐 色 土 層　粘性弱し。パミスを微量、砂粒を少量含む。

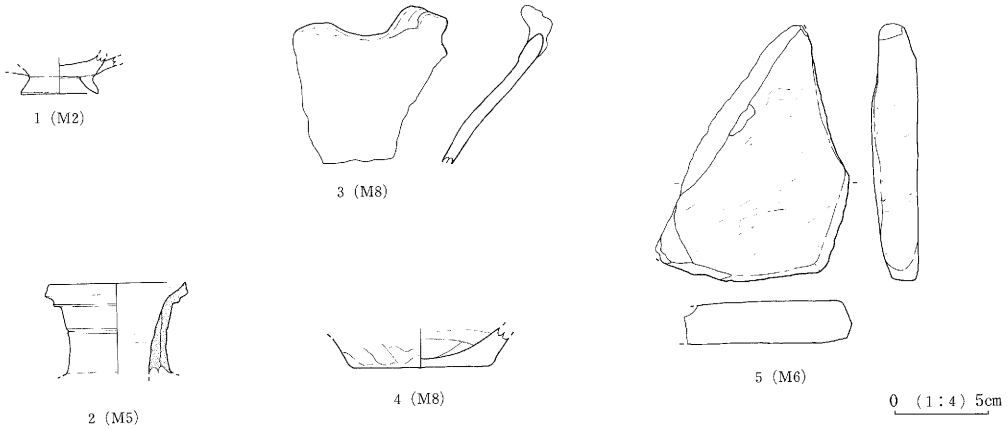
3　暗 褐 色 土 層　粘性弱し。パミスを微量、砂粒を多量含む。

4　にぶい黄褐色土層　粘性弱し。砂粒を多量含む。

5　黒 褐 色 土 層　粘性弱し。パミス・砂粒を少量含む。

6　にぶい黄褐色土層　粘性弱し。砂粒を多量含む。

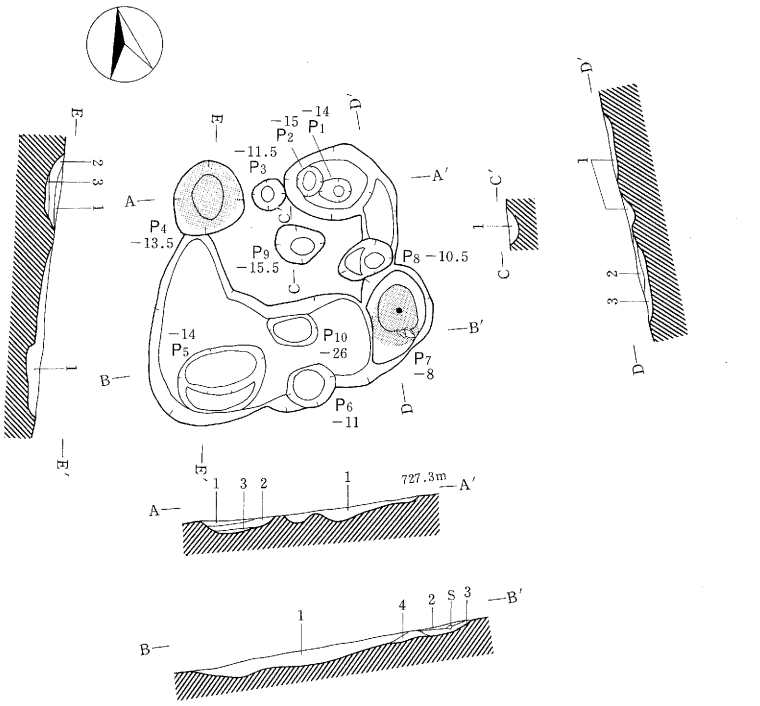
第79図　Ｍ８号溝状遺構土層断面図



第80図　溝状遺構出土遺物実測図

5　特殊遺構

1）Ｔ１号特殊遺構



1　暗褐色土層　粘性やや強し。ローム粒子を微量含む。

2　暗赤褐色土層　粘性やや強し。焼土粒子・炭化粒子を多量に含む。

3　褐色土層　粘性弱し。焼土粒子を微量、ローム粒子を多量に含む。

4　暗褐色土層　粘性弱し。ローム粒子を多量に含む。

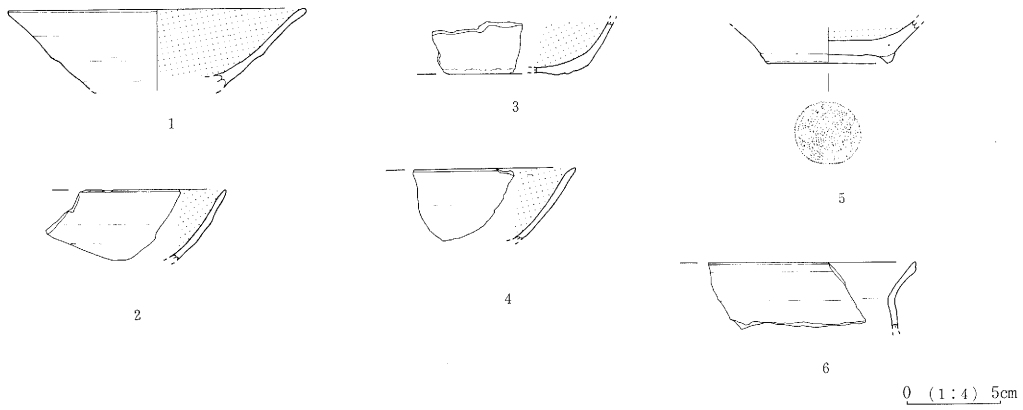
0　(1:80)　2m

第81図　Ｔ１号特殊遺構実測図

Ｔ１号特殊遺構は、下芝宮遺跡IIの調査区南側、か－６・７グリッドに位置し、全体層序第VII層および第VIII層上面において検出された。

覆土は４層に分割された。

ピットは10個が確認された。なおP_4とP_7は、覆土の状態や遺物の出土量から「炉」と考えられる。



第82図　Ｔ１号特殊遺構出土遺物実測図

遺物は、土師器の甕と坏が出土した。

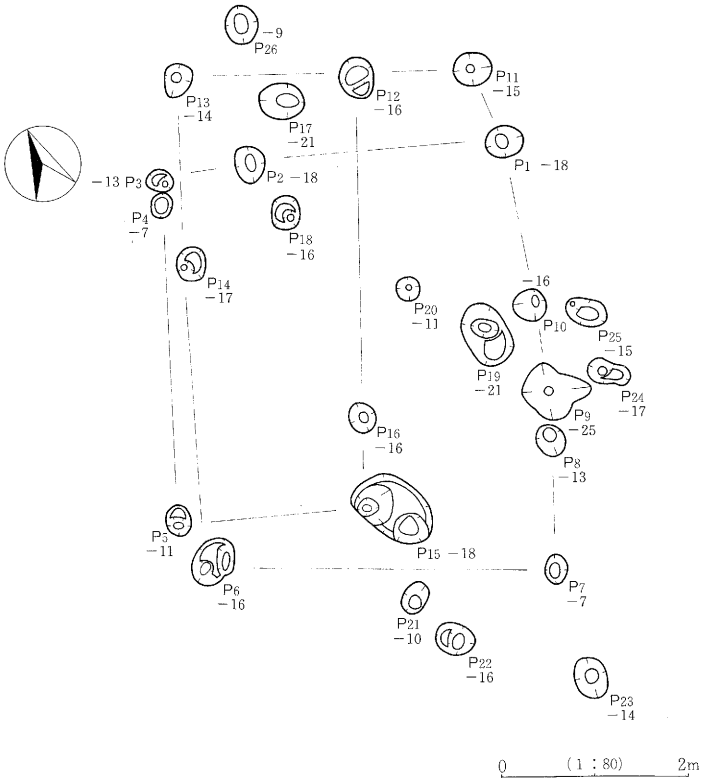
以上より本遺構の所産期は、平安時代中期に位置付けられる。

第34表　Ｔ１号特殊遺構出土遺物一覧表

挿図番号	器種	法　量cm	形　態　の　特　徴	手　法　の　特　徴	備　　考
82-1	坏	口径（15.5） 器高（ 4.5）	体部・口辺直線的に外傾	外面ロクロヨコナデ 内面ヘラミガキ・黒色	外５YR5/6
82-2	坏		体部内彎気味に外傾	外面ロクロヨコナデ 内面ヘラミガキ・黒色	外7.5ＹＲ 5/6
82-3	坏		底部回転糸切り	外面ロクロヨコナデ 内面ヘラミガキ・黒色	10ＹＲ4/6
82-4	坏		体部内彎気味に外傾	外面ロクロヨコナデ 内面ヘラミガキ・黒色	外7.5ＹＲ 5/6
82-5	坏	台径　6.3	底部回転糸切り 貼付高台	外面ロクロヨコナデ 内面ヘラミガキ・黒色	外５YR4/6
82-6	甕		頸部「コ」の字	内外面ヨコナデ	５ＹＲ3/3 10ＹＲ6/4

6　その他

1）Ｐ１号ピット群

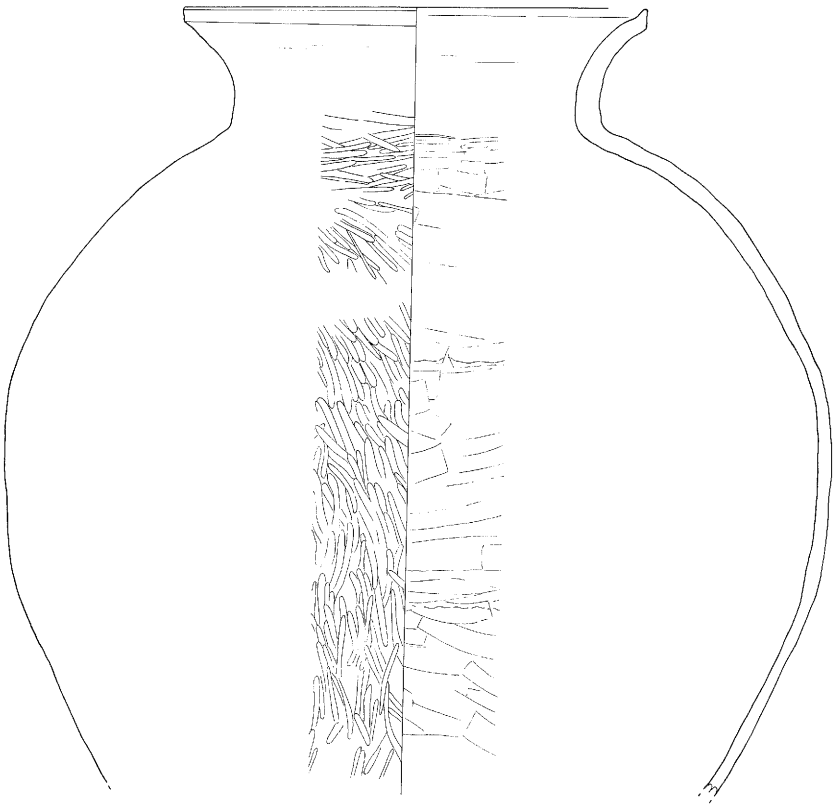


第83図　Ｐ１号ピット群実測図

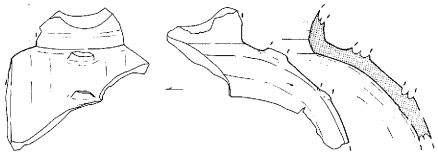
2）グリッド及び表採遺物

第35表　グリッド及び表採遺物

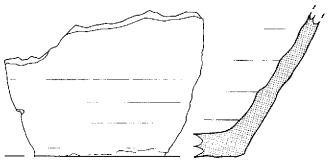
挿図番号	器種	法　量cm	形　態　の　特　徴	手　法　の　特　徴	備　　考
84-1	甕	口径　24.6 現高　41.7 最大径 43.8	大型球胴甕 口縁部外反し、端部でやや直立する受口状を呈する。	口縁部内外面ヨコナデ 胴部外面ヘラミガキ 胴部外面ヘラナデ	7.5Y R5/4 H9号住居址
84-2	提瓶 (須)	――――		胴部回転ヘラケズリ	N4/0～3/0 お-３Ｇ
84-3	甕 (須)			内外面ロクロヨコナデ	N3/0 表採



1



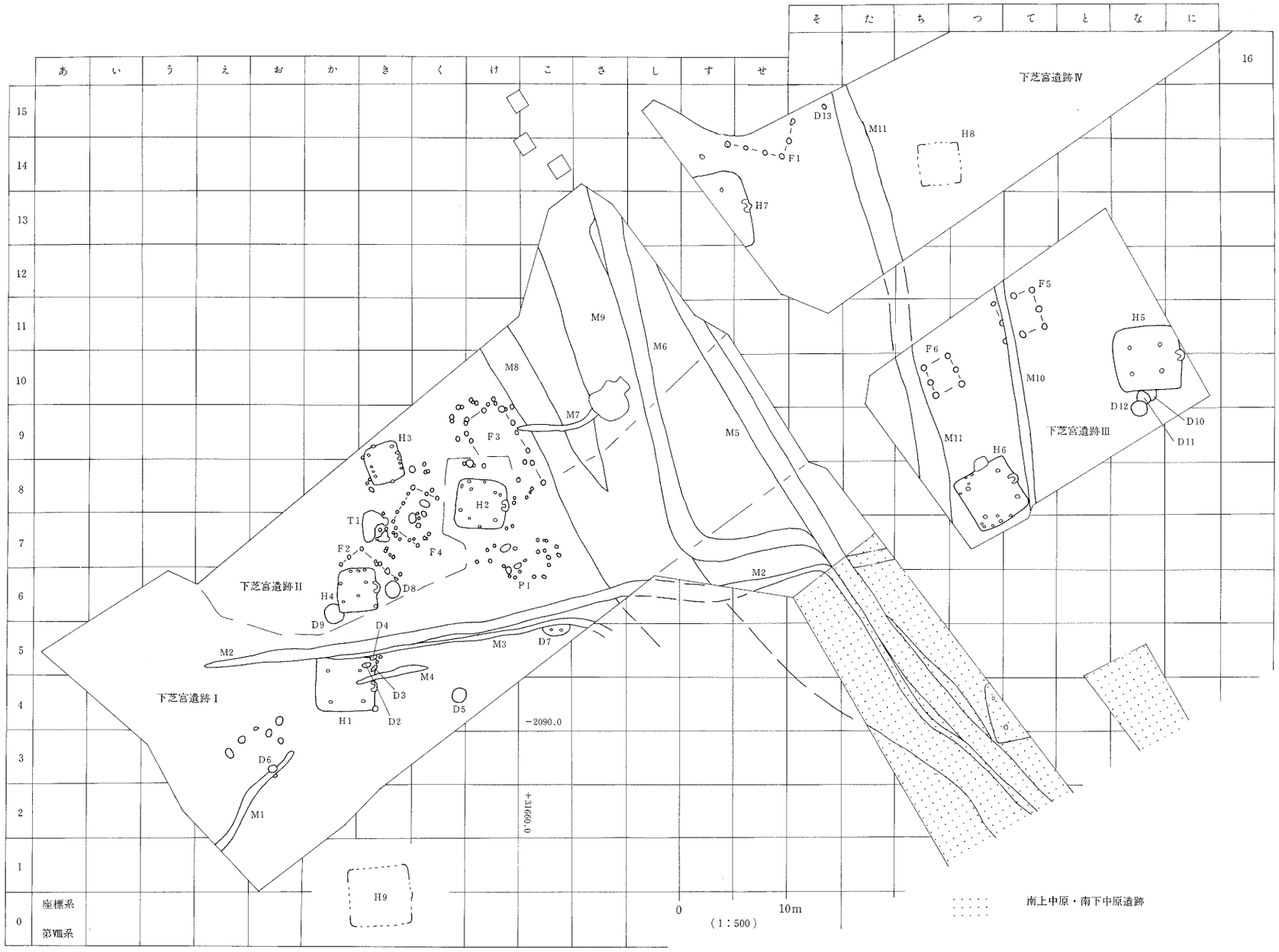
2



3

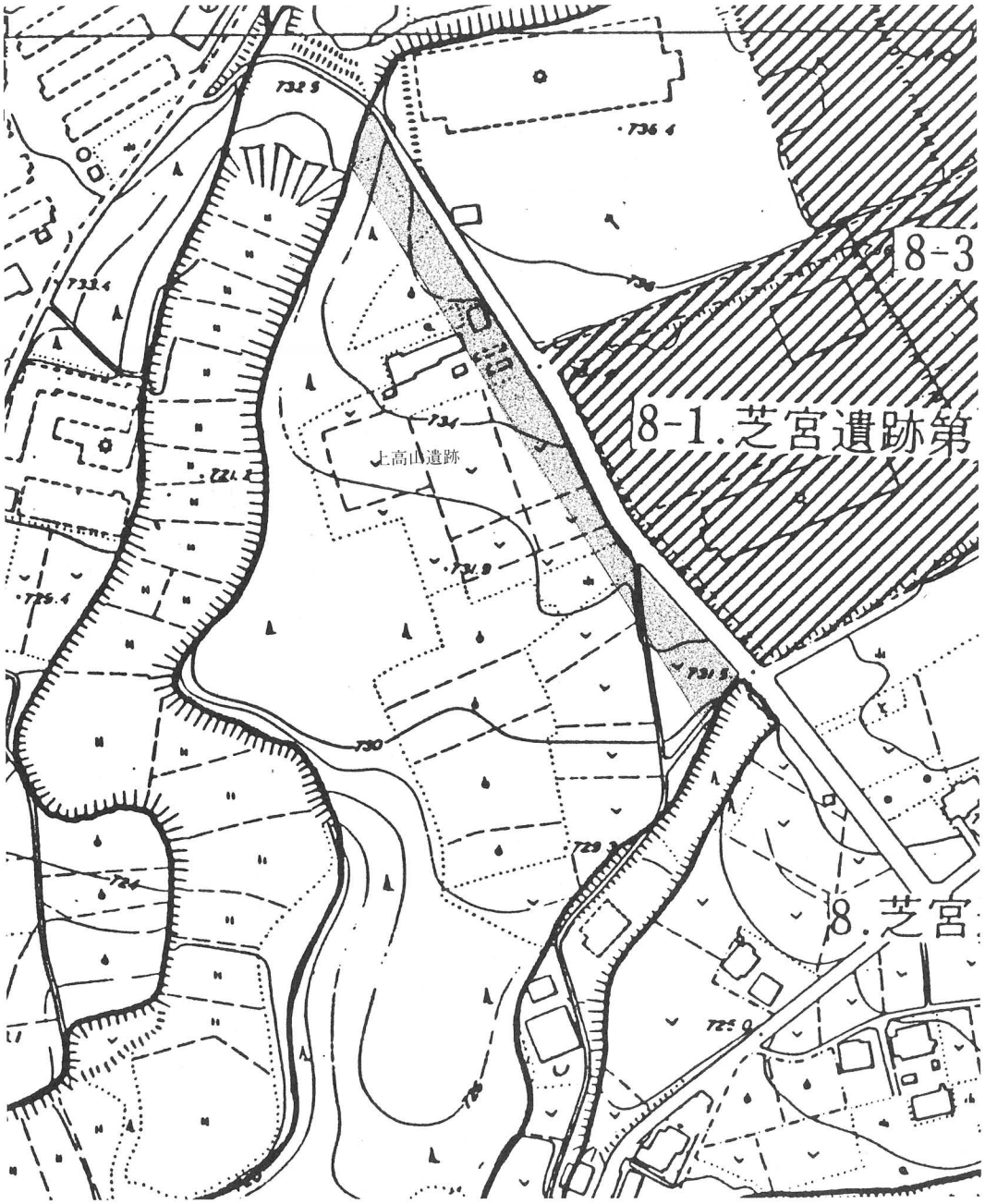
0 (1：4) 5cm

第84図　グリッド及び表採遺物実測図

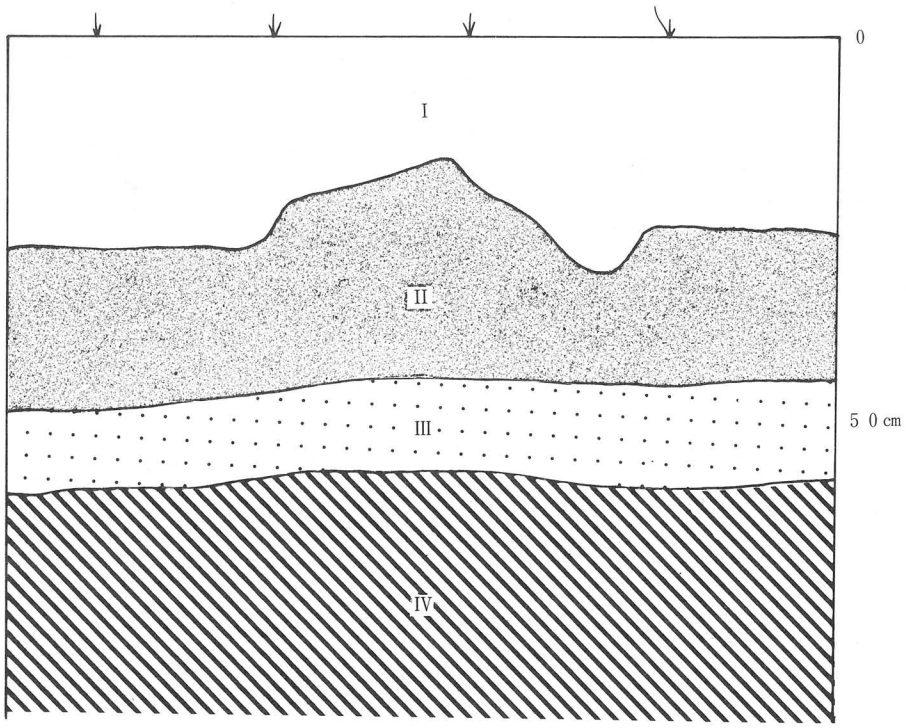


第85図　下芝宮遺跡全体図

第Ⅳ章　芝宮遺跡群上高山遺跡



第86図　上高山遺跡位置図（1：2,500）



第87図　上高山遺跡層序模式図

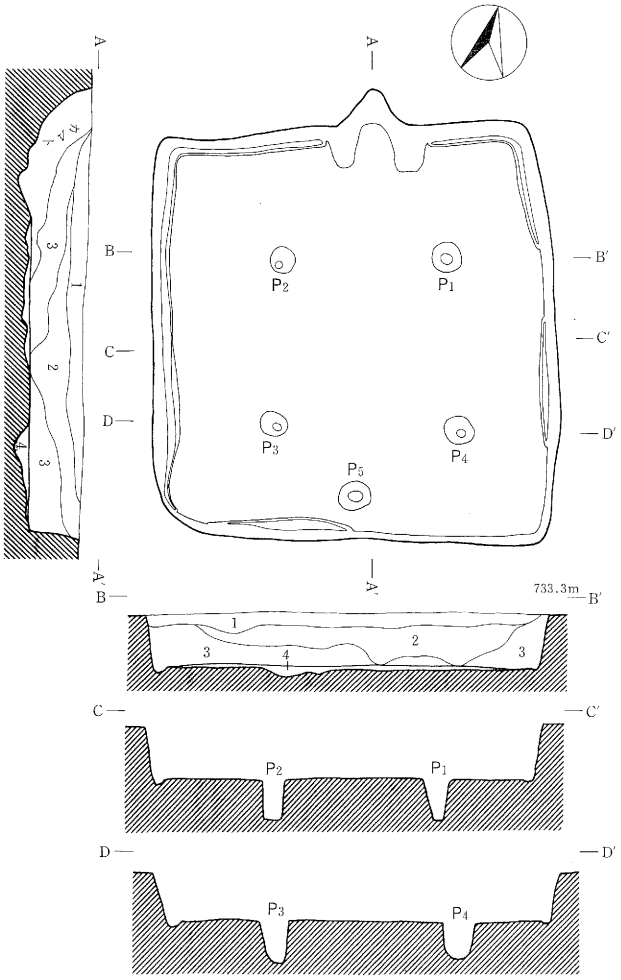
上高山遺跡は、海抜標高733m内外を測り南西方向に向かってやや傾斜する。基本とする層序は調査区側面において観察した。

第Ⅰ層は、耕作による影響下で成立した砂質の暗褐色土(10ＹＲ３／３)、第Ⅱ層は、砂質の黒褐色土（10ＹＲ２／２)、第Ⅲ層は、ローム粒子とパミスを多量に含む褐色土（10ＹＲ４／６)、第Ⅳ層は、パミスを多量に含む明黄褐色ローム（10ＹＲ６／６）である。

遺構は、第Ⅳ層上面において検出された。

1　竪穴住居址

1）Ｈ１号住居址



1　暗褐色土層(10YR3/3)
　砂質。パミス・ローム粒子少量含む。

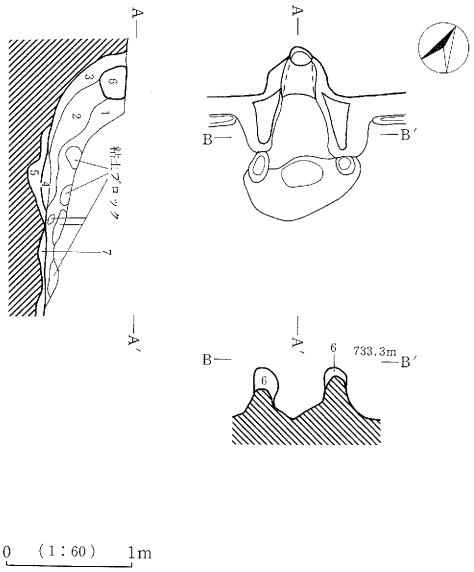
2　褐色土層(10YR4/4)
　砂質。パミス・ローム粒子多量含む。

3　黒褐色土層(10YR3/1)
　砂質。パミス・ローム粒子微量含む。

4　褐色土層(10XR4/4)
　ローム粒子(ブロック状)多量含む。

0　(1：80)　2m

第88図　Ｈ１号住居址実測図



1 黒褐色土層（10YR3/2）
粘土ブロック多量含む。

2 橙色土層（2.5YR7/8）
粘土多量含む。

3 黒褐色土層（10YR3/2）
砂質。ローム粒子を少量含む。

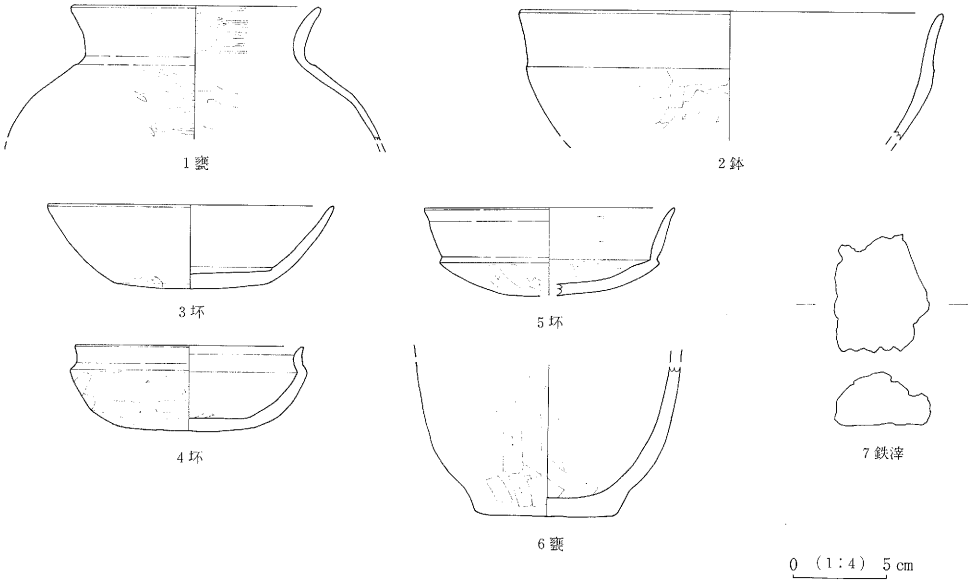
4 黒褐色土層（10YR3/1）
砂質。炭化粒子多量含む。

5 黒褐色土層（10YR2/2）
ローム粒子少量含む。

6 橙色土層（2.5YR7/8）
粘土主体。

7 住居址第4層と同じ。

第89図　H1号住居址カマド実測図



第90図　H1号住居址出土遺物実測図

H1号住居址は、調査区南側に位置し、全体層序第Ⅳ層上面において単独で検出された。

平面形態は、東西416cm、南北393cmを測り、長方形を呈する。主軸方位はN－22°－Wを指す。また床面積は現存で15.51m²を測る。

覆土は3層に分割された。

確認面からの壁残高は、45～62cmを測り、壁体は平滑で堅固である。床面は平坦で貼床と周溝が認められた。貼床は第4層によって貼られていた。

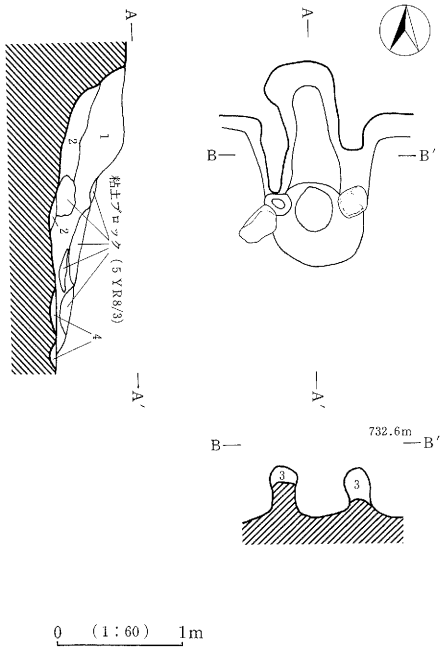
ピットは、主柱穴4個（P_1～P_4）、入口施設1個（P_5）の計5個が検出された。

カマドは北壁中央で検出された。残存状況は比較的良好で、現存する規模は、焚口より煙道出口まで139cm、袖部巾101cmを測る。覆土は4層に分割された。またカマド各部の構築状況は以下のとおりである。袖部はローム造り出しを基礎として第6層によって、燃焼部と煙道下部は第5層によって構築される。

遺物は土師器の・甕・坏と、鉄滓等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代後期中葉に位置付けられる。

2）H2号住居址



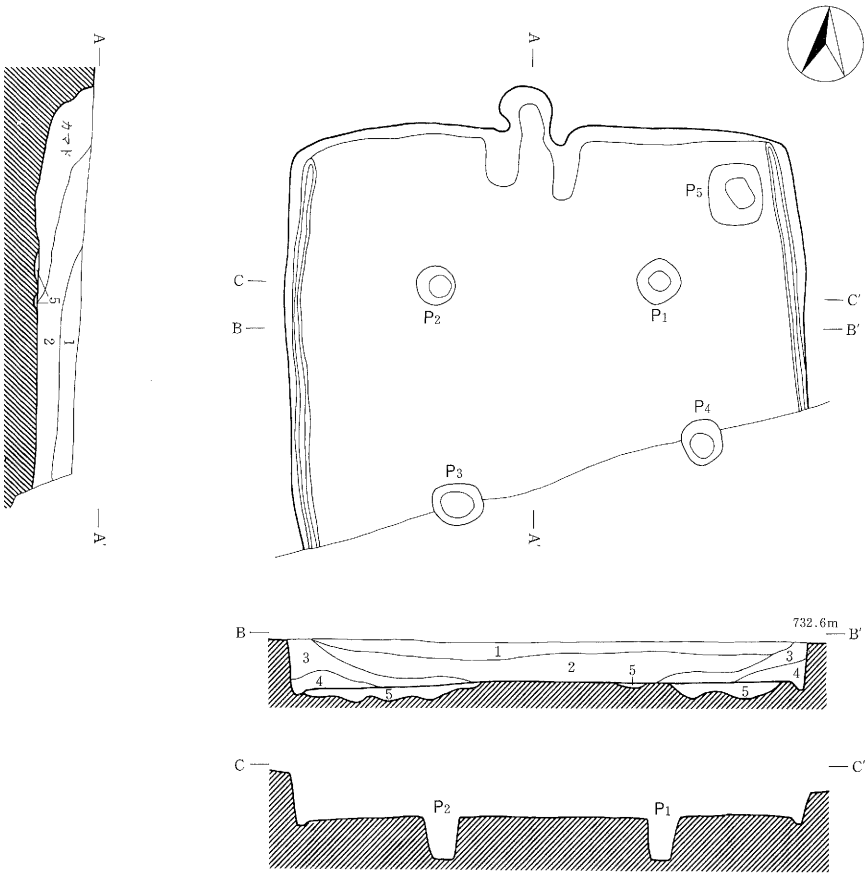
1　暗褐色土層（10YR3/3）
　　ローム粘子・パミス微量、
　　粘子粒子多量含む。

2　褐灰色土層（10YR4/1）
　　粘土粒子・炭化粒子多量含む。

3　淡橙色土層（5YR8/3）
　　粘土主体。

4　住居址第5層と同じ。

第91図　H2号住居址カマド実測図



1　黒褐色土層(10YR3/2)　砂質。パミス・ローム粒子微量含む。
2　暗褐色土層(10YR3/4)　砂質。パミス・ローム粒子少量含む。
3　黒褐色土層(10YR3/1)　やや粘質。ローム粒子微量含む。
4　褐色土層(10YR4/4)　砂質。パミス・ローム粒子多量含む。
5　黄褐色土層(10YR5/6)　ローム主体。ブロック状。

0　(1：80)　2m

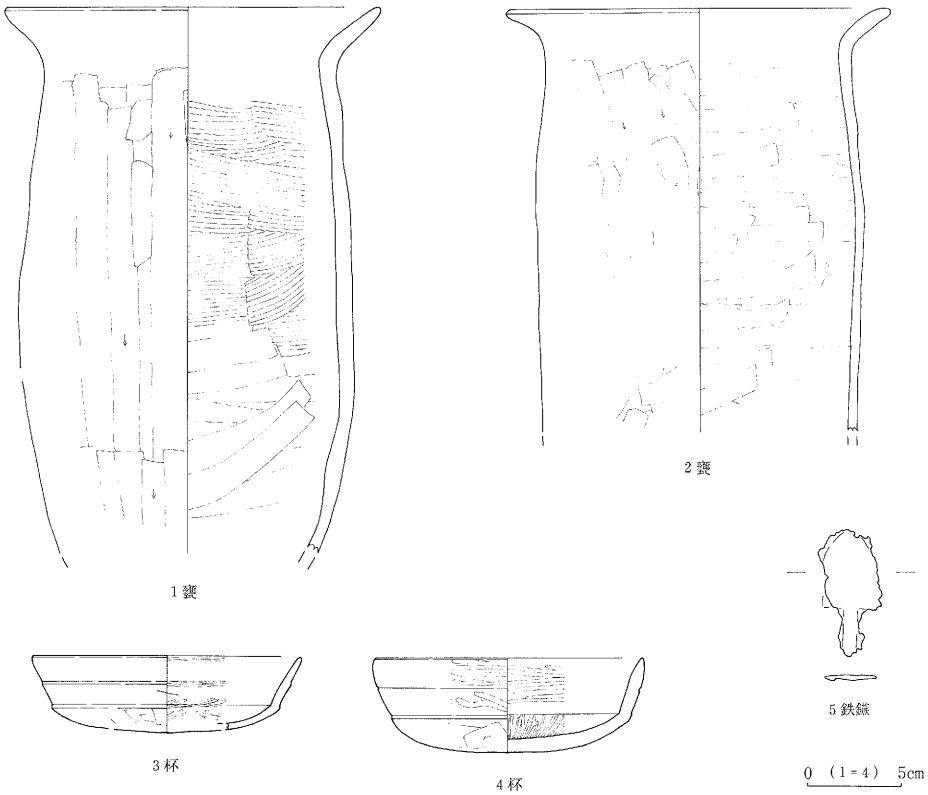
第92図　H２号住居址実測図

H２号住居址は、調査区南側に位置し、全体層序第Ⅳ層上面において検出された。なお南側をM１号溝状遺構により破壊される。

平面形態は、南北422cm(現存値)、東西513cmを測り、方形を呈すると考えられる。主軸方位はN－４°－Wを指す。また床面積は18.15m²を測る。

覆土は４層に分割された。

確認面からの壁残高は、45～66cmを測り、壁体は平滑で堅固である。床面は平坦で貼床と周溝



第93図　H２号住居址出土遺物実測図

が認められた。貼床は第５層によって貼られていた。

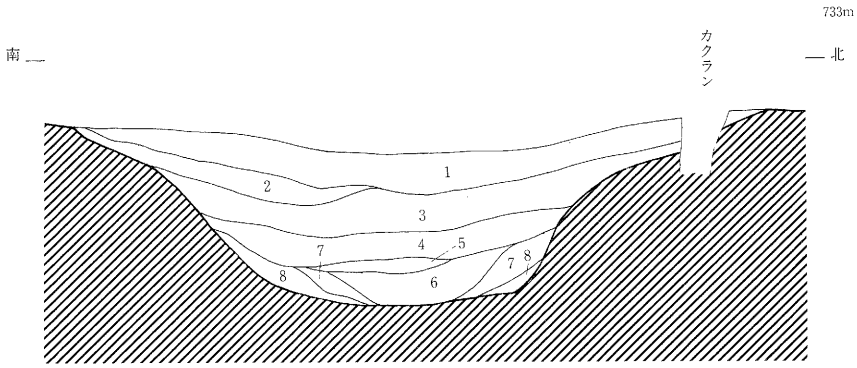
ピットは、主柱穴４個（P_1～P_4）、貯蔵穴１個（P_5）の計５個が検出された。

カマドは北壁中央で検出された。残存状況は悪く、現存する規模は、焚口より煙道出口まで163㎝、袖部巾90㎝を測る。覆土は２層に分割された。またカマド各部の構築状況は以下のとおりである。袖部はローム造り出しを基礎として第３層によって、燃焼部は第４層によって構築される。

遺物は土師器の甕・坏と、鉄鏃等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代後期中葉に位置付けられる。

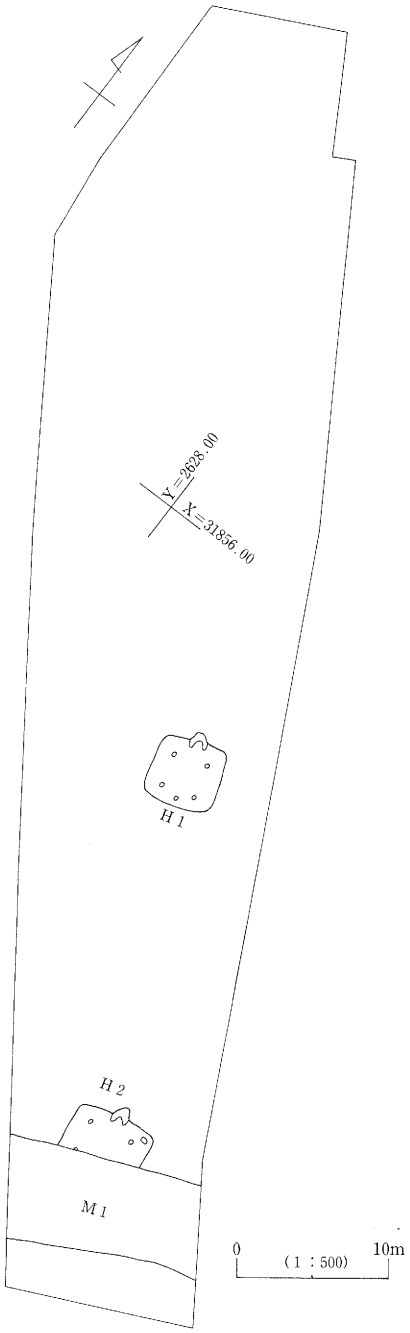
2　溝状遺構



1　黒褐色土層　パミス多量含む。(10Y R3/2)
2　暗褐色土層　パミス多量含む。(10Y R3/3)
3　黒褐色土層　パミス少量含む。(10Y R2/3)
4　褐 色 土 層　パミス・ローム粒子多量含む。(10Y R4/4)
5　にぶい黄褐色土層　ローム主体。(10YR5/4)
6　黒褐色土層　パミス少量含む。(10Y R3/1)
7　黄褐色土層　ローム主体。(10Y R5/6)
8　にぶい黄褐色土層　ローム主体。(10Y R5/4)

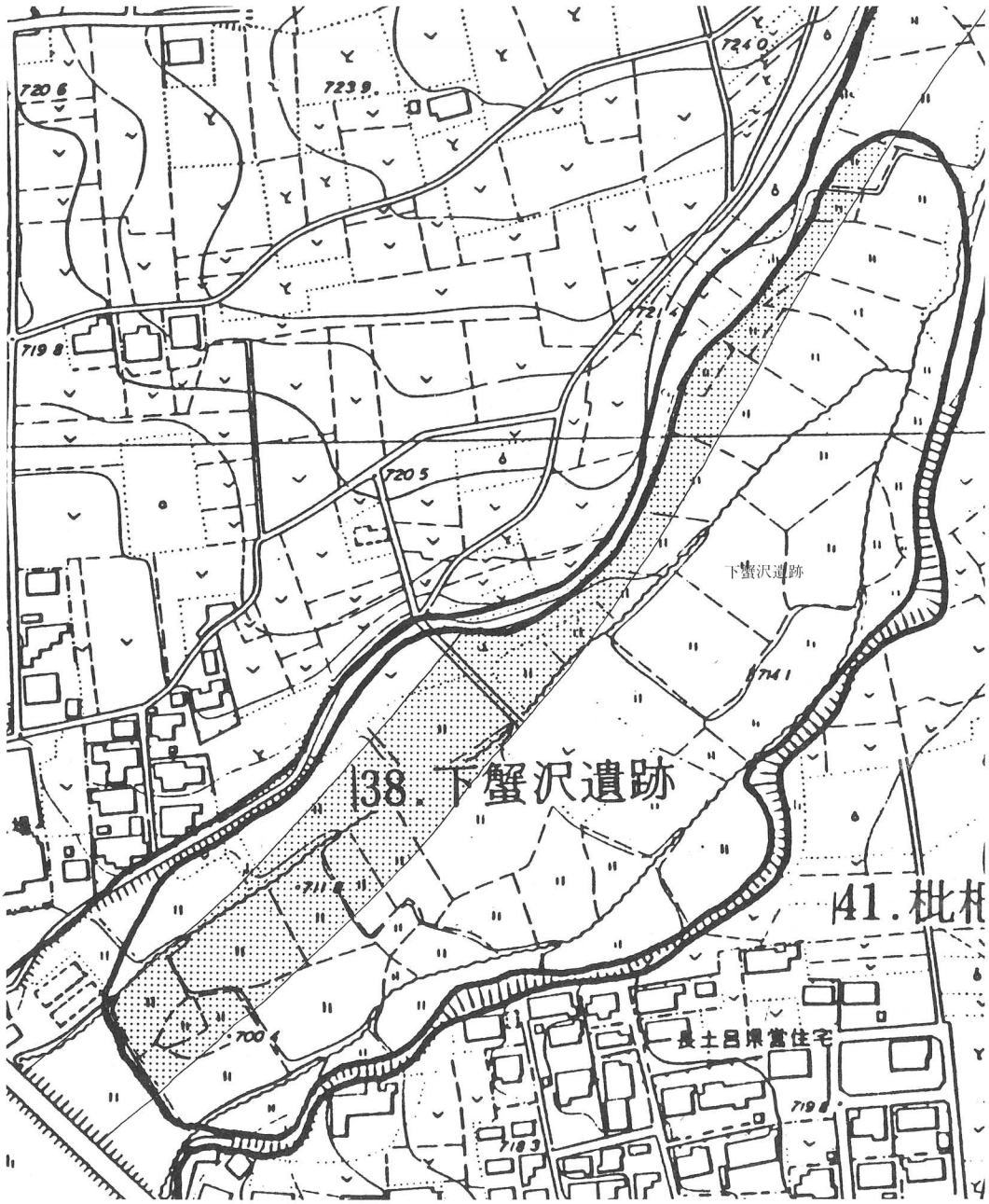
0　(1：40)　1m

第94図　M1号溝状遺構土層断面図

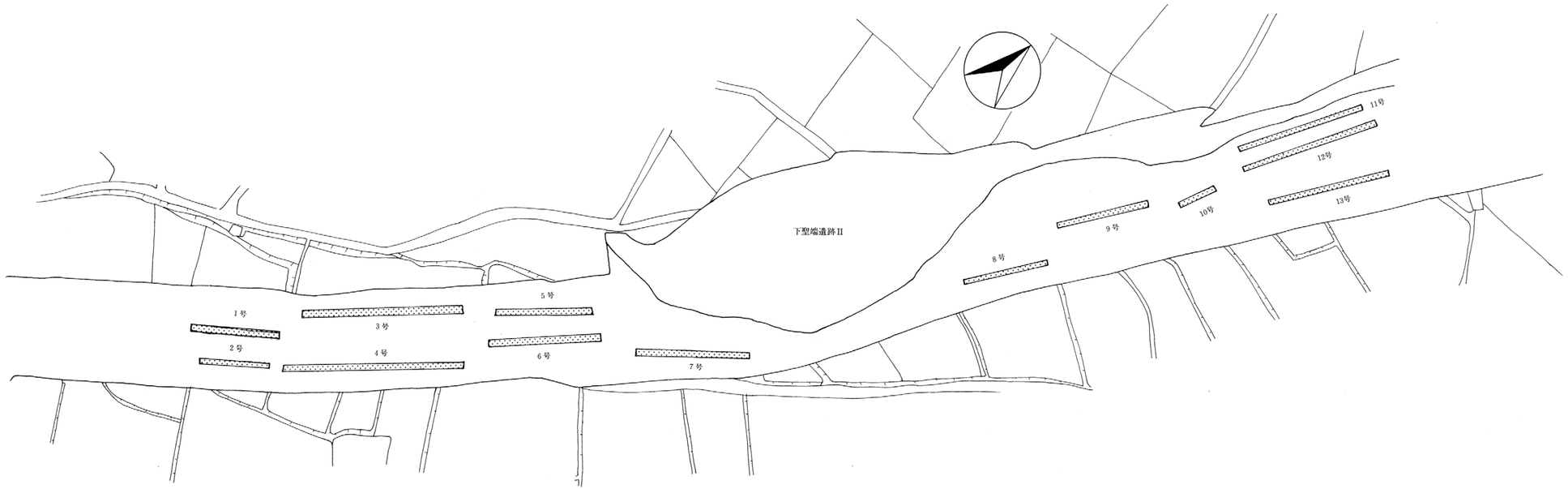


第95図　上高山遺跡調査区全体図

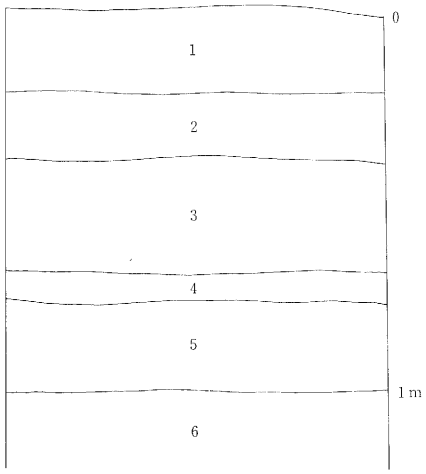
第Ⅴ章　下蟹沢遺跡



第96図　下蟹沢遺跡位置図（1：2,500）

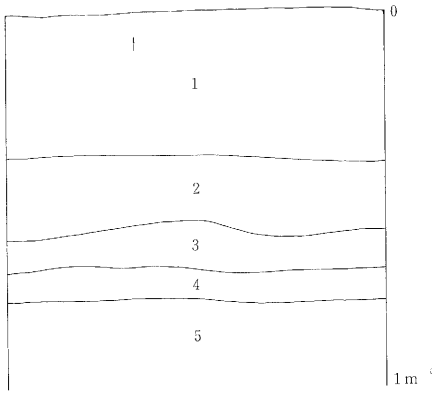


第97図　下蟹沢遺跡、トレンチ設定図(1：1,250)



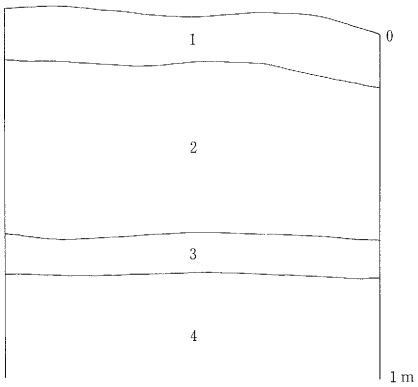
1　水田耕作土(10Y R3/1)
2　水田耕作土　砂礫層
3　褐灰色泥炭層(10Y R5/1)
4　砂礫層
5　黒褐色泥炭層(10Y R3/1)
6　黒褐色泥炭層　砂を多量含む。(10Y R3/1)

第98図　2～5号トレンチ層序模式図



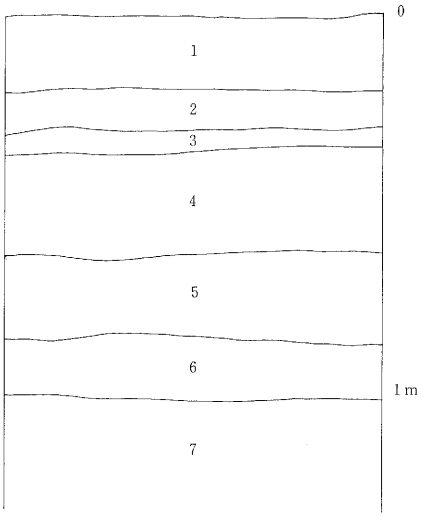
1　水田耕作土(10Y R4/1)
2　水田耕作土(10Y R3/1)
3　灰黄褐色砂層　水田耕作土(10Y R4/2)
4　黒褐色土層　水田耕作土(10Y R3/1)
5　灰黄褐色砂層(10YR4/2)

第99図　7号トレンチ層序模式図



1　暗色褐土層　耕作土(10YR3/3)
2　暗褐色土層　砂礫多く含む。耕作土。(10YR3/3)
3　黄褐色砂層(10YR5/6)
4　褐灰色土層(10YR4/4)

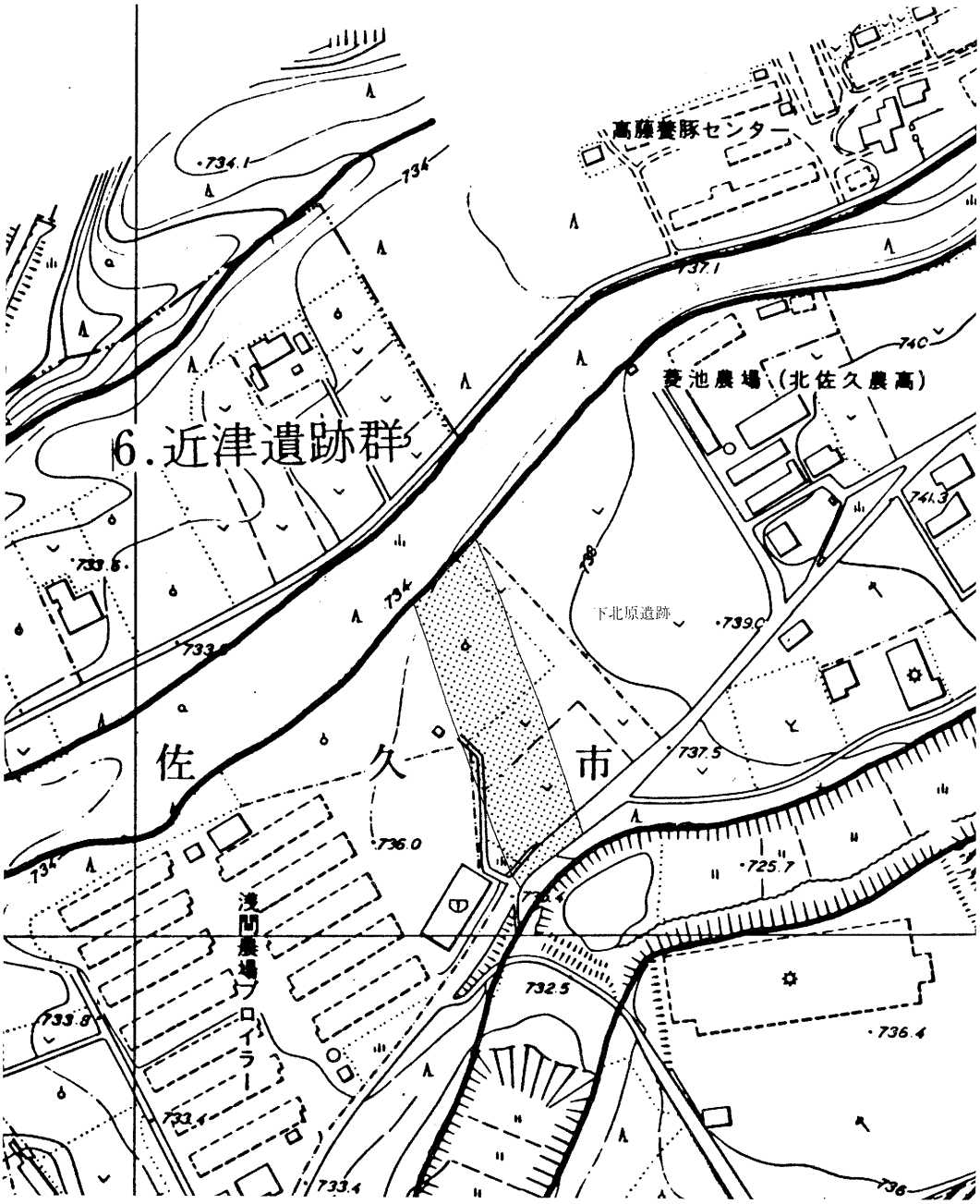
第100図　11・12号トレンチ層序模式図



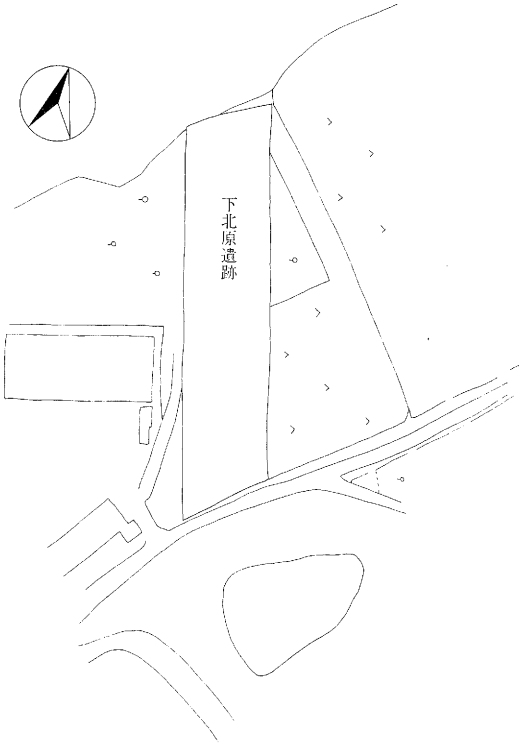
1　水田耕作土(10YR3/1)
2　水田耕作土(10YR3/1)
3　水田床土(10YR6/8)
4　灰黄褐色砂層(10YR5/2)
5　褐灰色土層　粘質、砂礫多く含む。(10YR4/1)
6　黒褐色砂層　砂礫・鉄分多く含む。(10YR3/1)
7　黒褐色泥炭層(10YR3/1)

第101図　8・13号トレンチ層序模式図

第VI章　周防畑遺跡群下北原遺跡

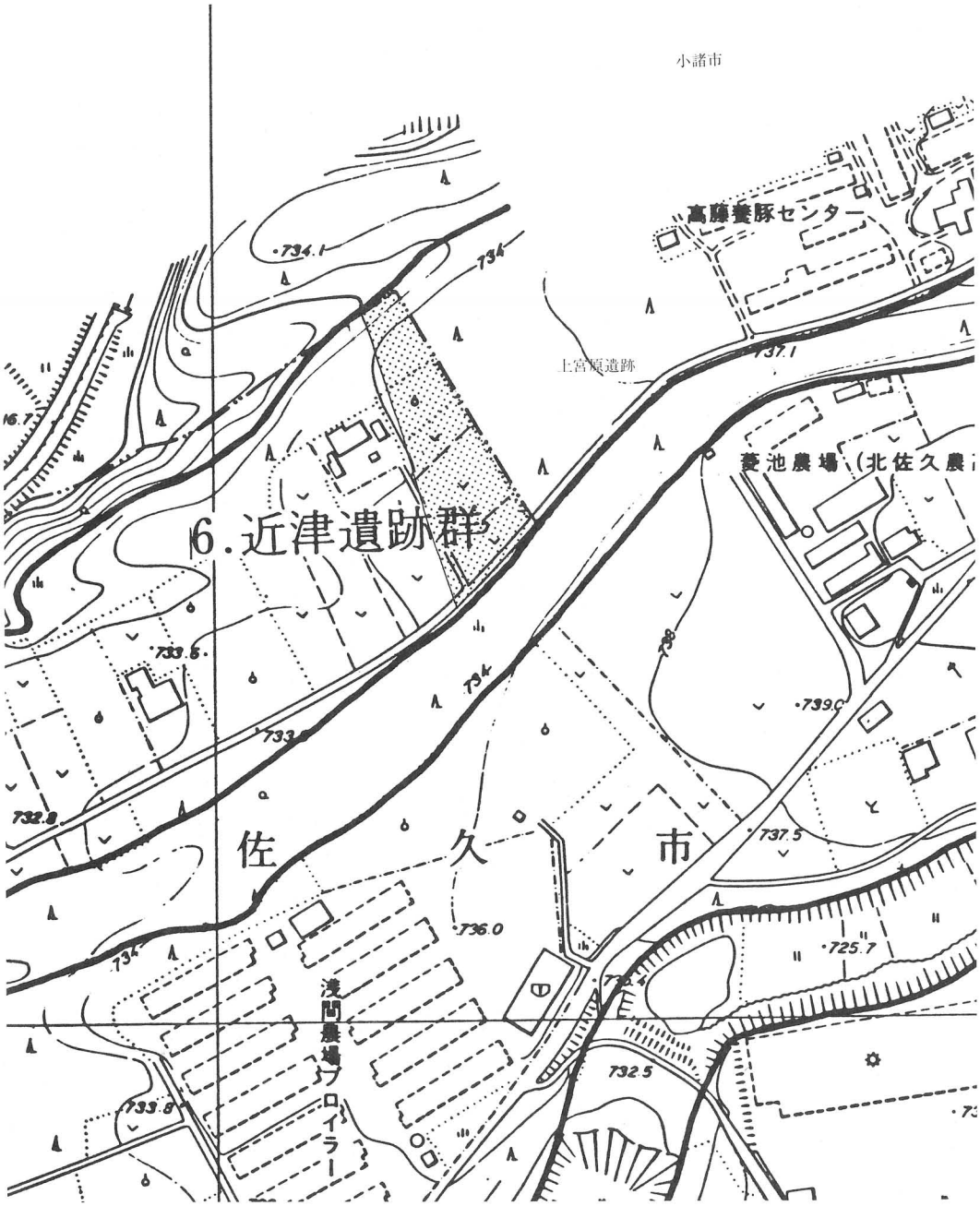


第102図　下北原遺跡位置図



第103図　下北原遺跡調査区全体図（1：2,000）

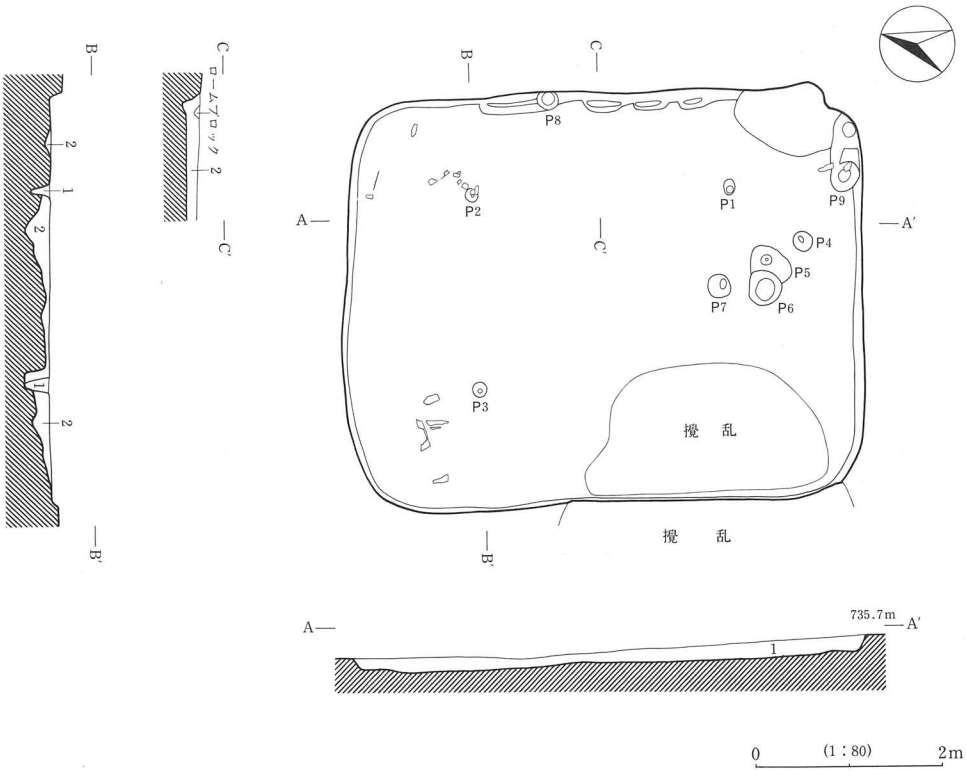
第Ⅶ章　近津遺跡群上宮原遺跡



第104図　上宮原遺跡位置図

1　竪穴住居址

1）Ｈ１号住居址



1　黒褐色土層　粘性なし。パミス・小石・炭化物を少量含む。10YR2/3

2　黒褐色土層　粘性やや弱し。パミス極小粒微量、ローム粒子少量含む。10YR2/3

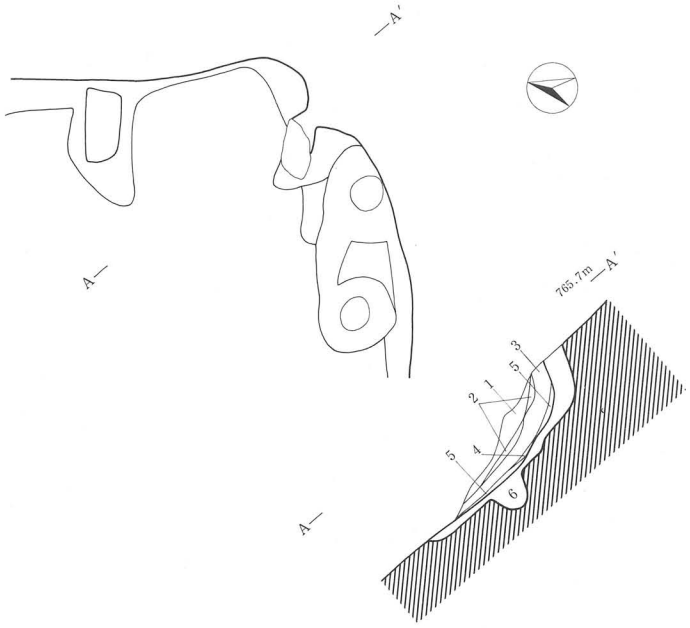
第105図　Ｈ１号住居址実測図

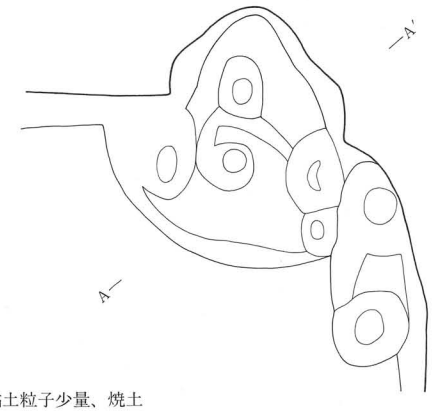
Ｈ１号住居址は、上宮原遺跡の調査区北側に位置する。

平面形態は、東西416㎝、南北533㎝を測り、長方形を呈する。主軸方位はＮ－16°－Ｗを指す。また床面積は現存で21.66㎡を測る。

覆土は１層に分割された。

確認面からの壁残高は、7～26㎝を測る。貼床は第２層によって貼られていた。





1　褐色土層　粘性弱し。粘土粒子少量、焼土粒子少量含む。7.5YR4/6

2　暗赤褐色土層　粘性弱し。焼土粒子多量含む。5YR3/6

3　暗褐色土層　粘性弱し。粘土・焼土粒子少量含む。7.5YR3/3

4　灰褐色土層　粘性強し。粘土主体。5YR6/2

5　赤褐色土層　粘性弱し。焼土主体。5YR4/8

6　黒褐色土層　粘性強し。粘土主体。10YR2/2

0　(1:30)　1m

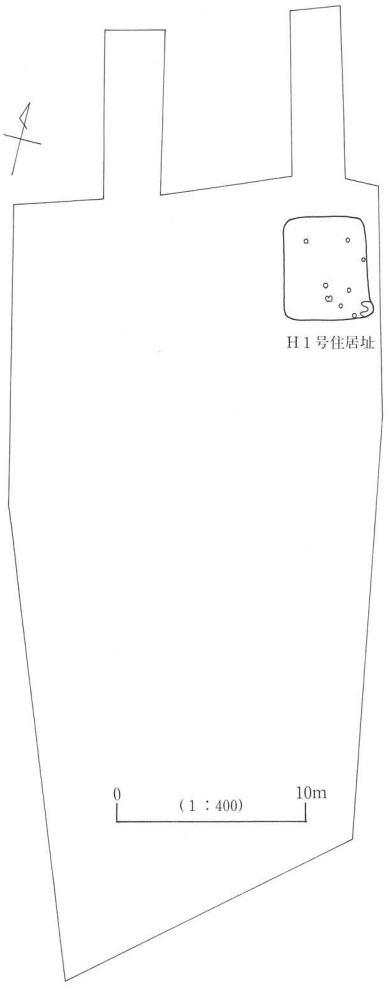
第106図　H1号住居址カマド実測図

ピットは、９個が検出された。

カマドは東南隅で検出された。残存状況はきわめて悪く、現存する規模は、焚口より煙道出口まで78cm、袖部巾116cmを測る。覆土は５層に分割された。カマド各部の構築状況は以下のとおりである。袖部と燃焼部・焚口・煙道下部は第６層によって構築される。

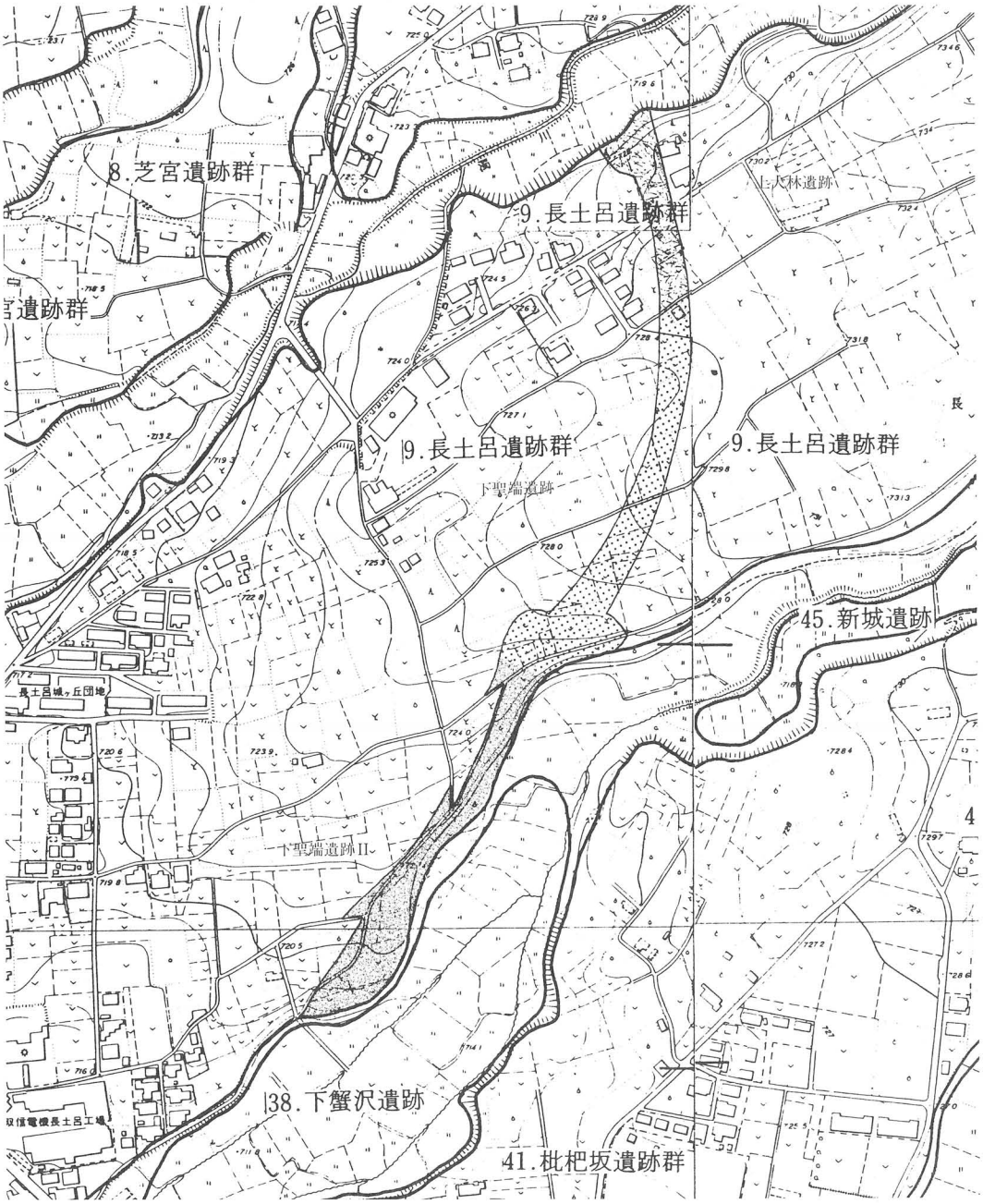
遺物は土師器の羽釜・甕・坏と、須恵器の甕等が出土したが、すべてが破片で図示できるものはなかった。また、本住居址は焼失住居址で、覆土および床面より炭化材が出土した。

以上より本住居址は、平安時代後期に位置付けられる。

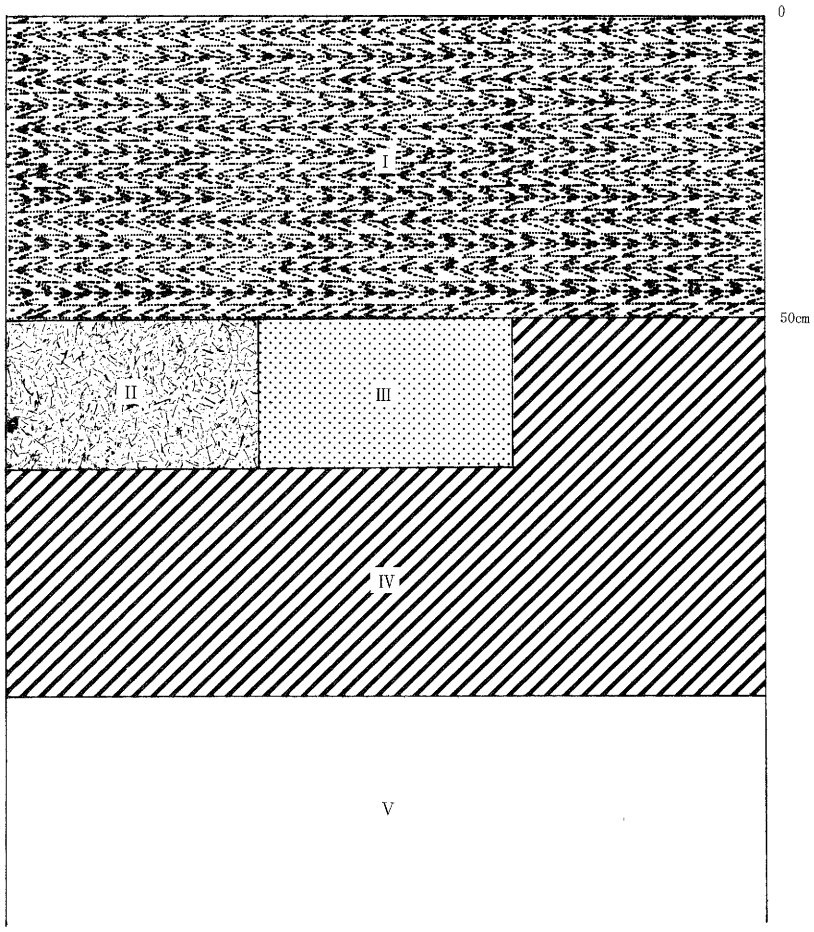


第107図　上宮原遺跡調査区全体図

第Ⅷ章　長土呂遺跡群下聖端Ⅰ・Ⅱ、上大林遺跡



第108図　上大林・下聖端遺跡図位置図(1：5,000)



第109図　下聖端・上大林遺跡全体層序模式図

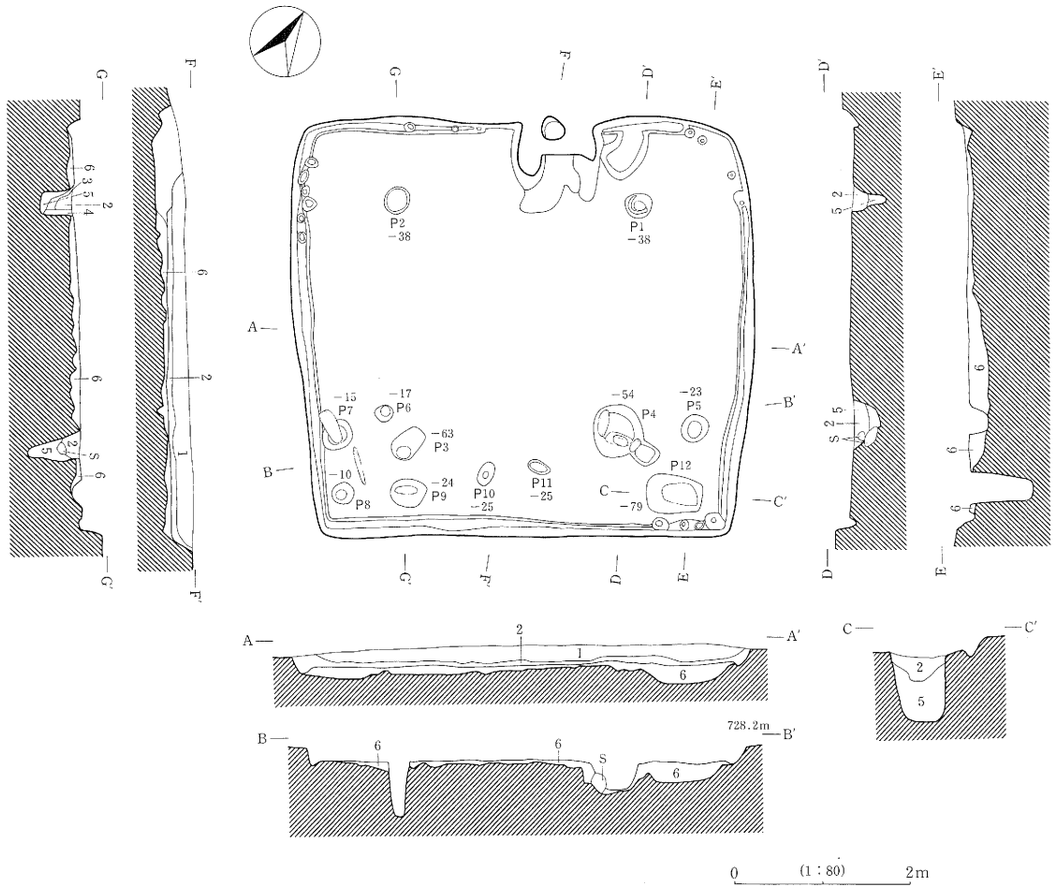
I　黒褐色土層　耕作土10ＹＲ２／３

II　黒色土層　砂質、ローム粒子を微量含む。10ＹＲ２／１

III　灰黄褐色土層　砂質、砂礫主体。10ＹＲ４／２

IV　明黄褐色ローム　パミスを多量含む。10ＹＲ６／８

V　にぶい黄橙色ローム　パミスを多量含む。10ＹＲ６／４



1　黒 色 土 層　粘性やや弱し。炭化粒子・パミス中粒以下微量含む。10YR1.7/1

2　黒褐色土層　粘性弱し。ローム粒子・炭化粒子・パミス中粒以下微量含む。10YR2/2

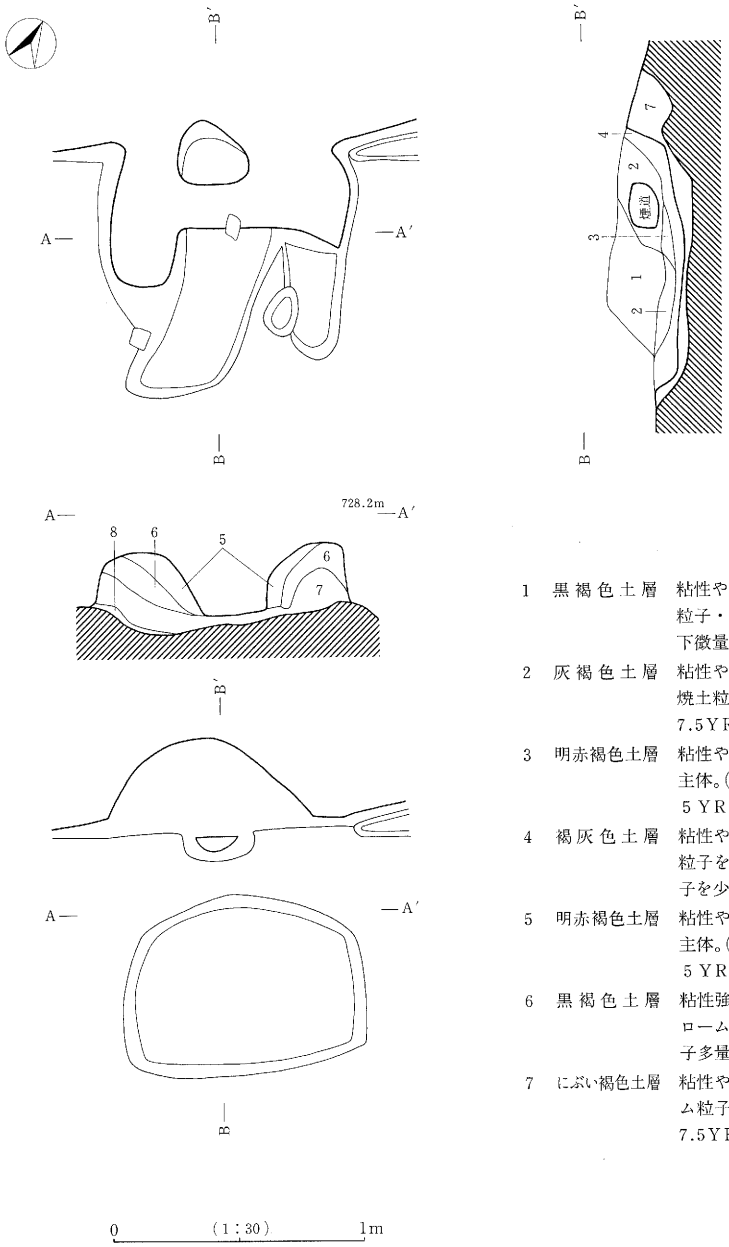
3　黄褐色土層　粘性弱し。スコリア・パミス小粒以下微量、ローム粒子多量含む。10YR5/6

4　暗褐色土層　粘性弱し。スコリア・パミス小粒以下微量、ローム粒子少量含む。10YR3/4

5　褐 色 土 層　粘性弱し。スコリア・パミス小粒以下微量、ローム粒子少量含む。10YR4/4

6　黒褐色土層　粘性弱し。スコリア・パミス小粒以下微量、ローム粒子少量含む。10YR2/3

第110図　H１号住居址実測図



1　黒褐色土層　粘性やや強し。炭化粒子・パミス小粒以下微量含む。7.5YR2/2

2　灰褐色土層　粘性やや強し。粘土・焼土粒子少量含む。7.5YR4/2

3　明赤褐色土層　粘性やや弱し。焼土主体。(ブロック状)。5YR5/8

4　褐灰色土層　粘性やや強し。焼土粒子を多量、粘土粒子を少量含む。5YR4/1

5　明赤褐色土層　粘性やや弱し。焼土主体。(ブロック状)。5YR5/8

6　黒褐色土層　粘性強し。炭化粒子・ローム粒子少量、粘土粒子多量含む。5YR2/1

7　にぶい褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子を多量含む。7.5YR5/4

第111図　H1号住居址カマド実測図

1　竪穴住居址

1）Ｈ１号住居址

Ｈ１号住居址は、上大林遺跡の調査区北側、か・き－３～５グリッド内に位置し、上大林遺跡全体層序第Ⅳ層上面において単独で検出された。

平面形態は、南北460cm、東西504cmを測り、東西にやや長い方形を呈している。主軸方位はＮ－30.5°－Ｗを指す。また床面積は20.25m²を測る。

覆土は５層に分割された。なお第２層中より炭化材が出土し、南西コーナーの床面では焼土の堆積が確認された。

確認面からの壁残高は、9.5～32cmを測り、壁体は全体層序第Ⅳ層の明黄褐色ロームを利用し、平滑で堅固である。床面はおおむね平坦で貼床と周溝が認められた。貼床は住居址覆土第６層によって貼られている。周溝は一部を除いて全周する。

ピットは、主柱穴４個（P_1～P_4）、補助柱穴５個（P_5～P_9）、入口施設に伴う柱穴２個（P_{10}・P_{11}）、貯蔵穴１個（P_{12}）の計12個が検出された。また周溝内より17個のピットが確認された。

カマドは北壁中央やや東寄りで検出された。残存状況は比較的良好で、煙道天井部が残存していた。規模は、焚口より煙道出口まで114cm、袖部最大巾104cmを測る。また右側の袖は長さ83cmで巾32cm・高さ5.5～22cm、左側の袖は長さ79cmで巾35cm・高さ16～21.5cmを測る。覆土は４層に分割された。またカマド各部の構築状況は以下のとおりである。袖部は第８層・第７層・第６層・第５層によって、燃焼部と焚口・煙道下部は第７層によって構築される。なお第５層は第６層が熱を受けて変色したと認識した。

本住居址は焼失住居で、住居址南西コーナーを中心に炭化材が出土した。

遺物は土師器の甕・坏・高坏等が出土した。

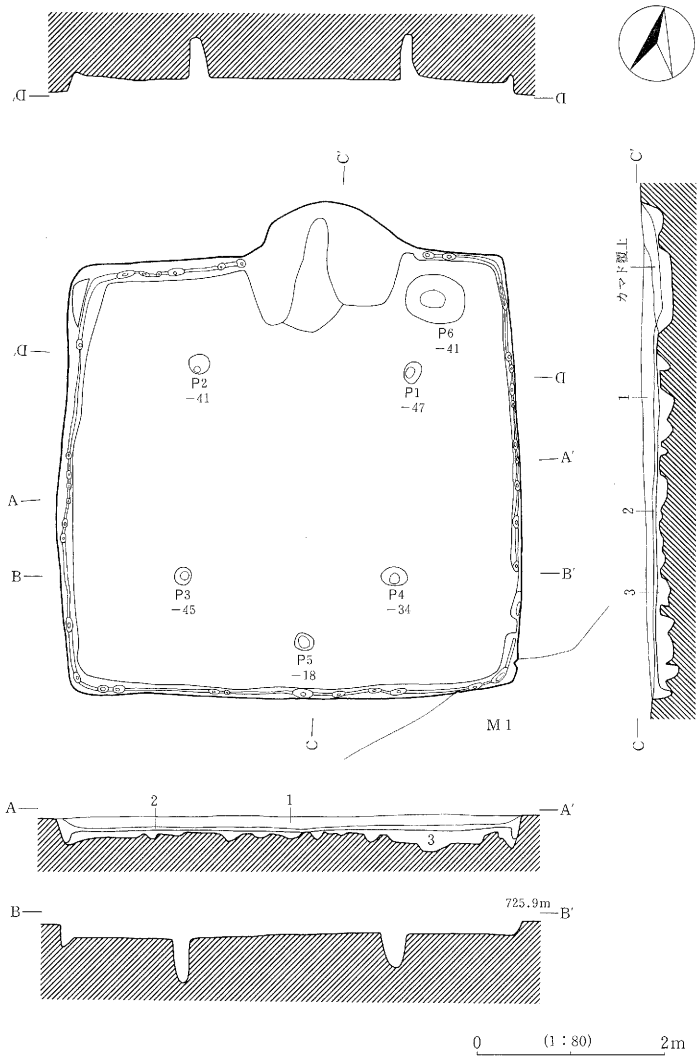
以上より本住居址は、古墳時代後期中葉に位置付けられる。

2）Ｈ２号住居址

Ｈ２号住居址は、下聖端遺跡の調査区南側、ふ・へ－86～88グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第Ⅳ層上面において検出され、東南隅をＭ１号溝状遺構に破壊される。

平面形態は、南北450cm、東西478cmを測り、方形を呈している。主軸方位はＮ－11°－Ｗを指す。また床面積は19.26m²を測る。

覆土は２層に分割された。なお第２層中より炭化材が出土した。



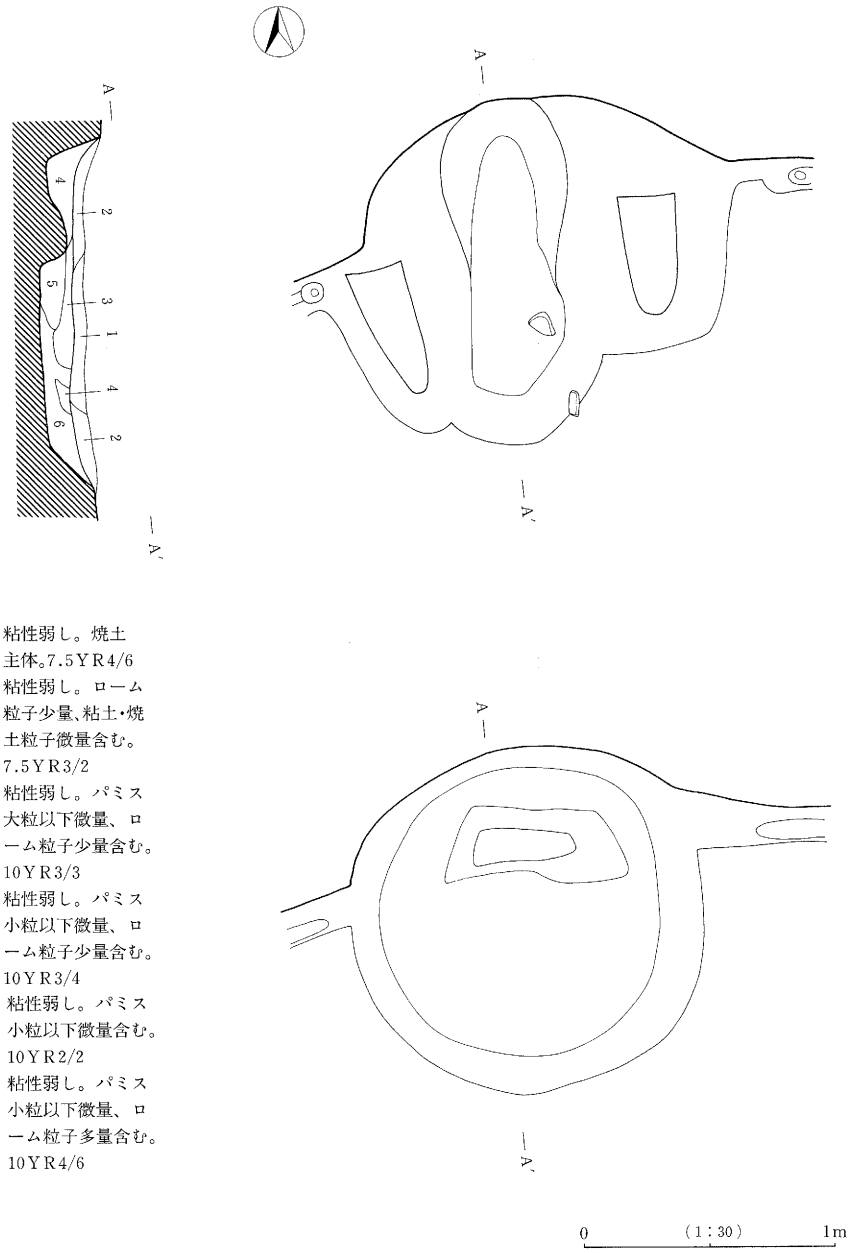
1　黒褐色土層　粘性やや強し。ローム粒子・パミス小粒以下微量含む。
10YR2/2

2　暗褐色土層　粘性弱し。ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・炭化材
小片を微量含む。10YR3/3

3　黒褐色土層　粘性弱し。パミス・ローム粒子微量含む。10YR2/2

第112図　H 2 号住居址実測図

確認面からの壁残高は、7.5～18.5cmを測り、壁体は全体層序第Ⅳ層の明黄褐色ロームを利用し、平滑で堅固である。床面はおおむね平坦で貼床と周溝が認められた。貼床は第 3 層によって貼られている。周溝は一部を除いて全周する。



1　褐色土層　粘性弱し。焼土主体。7.5YR4/6
2　黒褐色土層　粘性弱し。ローム粒子少量、粘土・焼土粒子微量含む。7.5YR3/2
3　暗褐色土層　粘性弱し。パミス大粒以下微量、ローム粒子少量含む。10YR3/3
4　暗褐色土層　粘性弱し。パミス小粒以下微量、ローム粒子少量含む。10YR3/4
5　黒褐色土層　粘性弱し。パミス小粒以下微量含む。10YR2/2
6　褐色土層　粘性弱し。パミス小粒以下微量、ローム粒子多量含む。10YR4/6

第113図　H２号住居址カマド実測図

ピットは、主柱穴４個（P_1～P_4）、入口施設に伴う柱穴１個（P_5）、貯蔵穴１個（P_6）の計６個が検出された。また周溝内より38個のピットが確認された。

カマドは北壁中央やや東寄りで検出された。残存状況は極めて悪く、燃焼部・袖部の一部が残

存するのみであった。残存する規模は、焚口より煙道出口まで138cm、袖部最大巾164cmを測る。また右側の袖は長さ67cmで巾58cm・高さ1.5～3.5cm、左側の袖は長さ80cmで巾52cm・高さ3.5～9cmを測る。覆土は2層に分割された。また残存するカマド各部の構築状況は以下のとおりである。袖部は第3層・第4層によって、燃焼部と焚口・煙道下部は第3層・第4層・第5層・第6層によって構築される。

遺物は土師器の甕・甑・坏等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代後期中葉に位置付けられる。

3）H3号住居址

H3号住居址は、下聖端遺跡の調査区南側、へ・ほ－89・90グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第Ⅳ層上面において検出され、北側をM1号溝状遺構に床面中央をT6号・T7号特殊遺構によって破壊される。

平面形態は、南北458cm、東西546cmを測り、東西に長い方形を呈している。主軸方位はN－11°－Wを指す。また現存する床面積はT6・T7を含め20.15m²を測る。

覆土は9層に分割された。なお第5層と第6層はT6・T7の構築によって成立した層と考えられる。

確認面からの壁残高は、28～49cmを測り、壁体は全体層序第Ⅳ層の明黄褐色ロームを利用し、平滑で堅固である。床面はおおむね平坦で貼床と周溝が認められた。貼床は第10層によって貼られている。

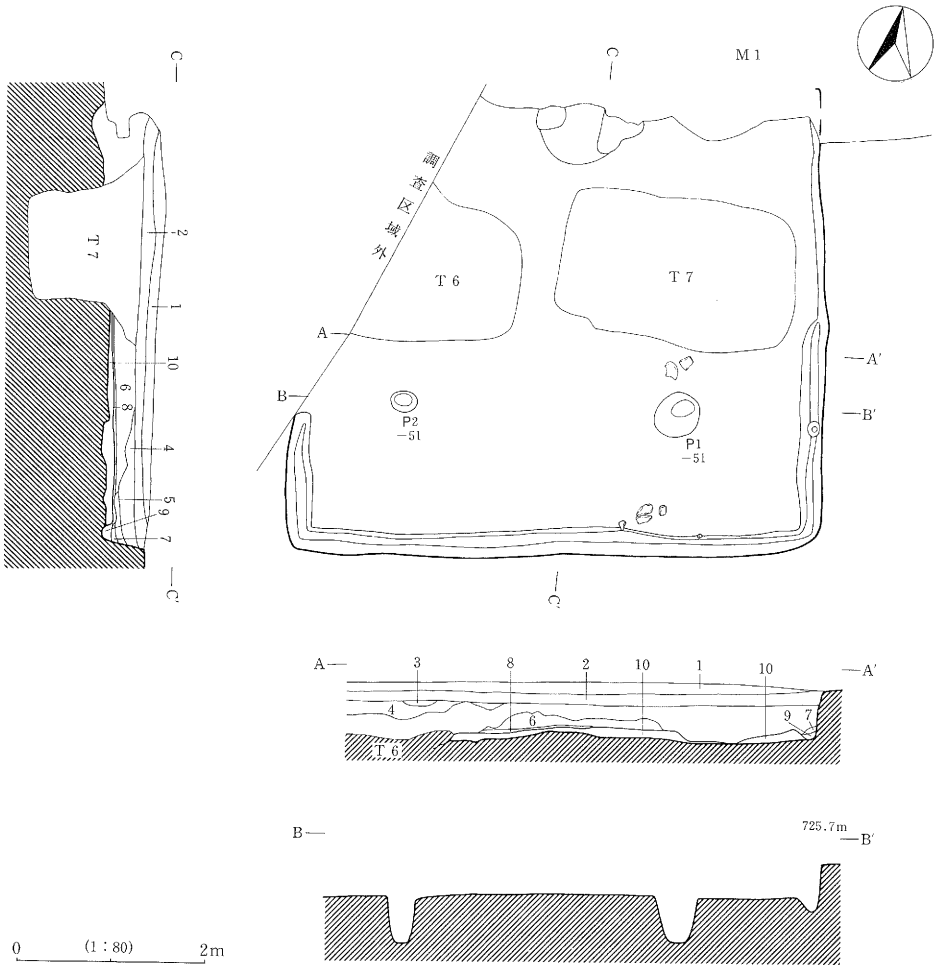
ピットは、主柱穴2個（P_1・P_2）のみが検出された。

カマドは北壁中央やや東寄りで検出され、北側半分をM1によって破壊される。残存する規模は、南北52cm、袖部最大巾113cmを測る。また右側の袖は長さ42cmで巾49cm・高さ5～20cm、左側の袖は長さ27cmで巾30cm・高さ6～26cmを測る。なお左右の袖石と袖の天井石が残存していた。覆土は7層に分割された。残存するカマド各部の構築状況は以下のとおりである。袖部は第8層・第9層によって、燃焼部と焚口は第9層によって構築される。

また覆土より次の事が確認された。住居址廃棄→住居址焼失→第8・9層成立→T6・T7構築→第5・6層成立→T6・T7埋土（T6・T7覆土）→第4～1層成立

遺物は土師器の甕・甑・坏、須恵器の鼎・蓋坏等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代中期後葉に位置付けられる。



1　黒　褐　色　土　層　パミス極小粒微量含む。10YR2/2

2　暗　褐　色　土　層　パミス極小粒・炭化材小片・ローム粒子微量含む。10YR3/3

3　黒　色　土　層　パミス微量含む。10YR2/1

4　黒　褐　色　土　層　炭化材小片・パミス微量含む。10YR2/3

5　暗　褐　色　土　層　ローム粒子(ブロック状)小量含む。10YR3/3

6　にぶい黄橙色土層　ローム(ブロック状)主体。10YR6/4

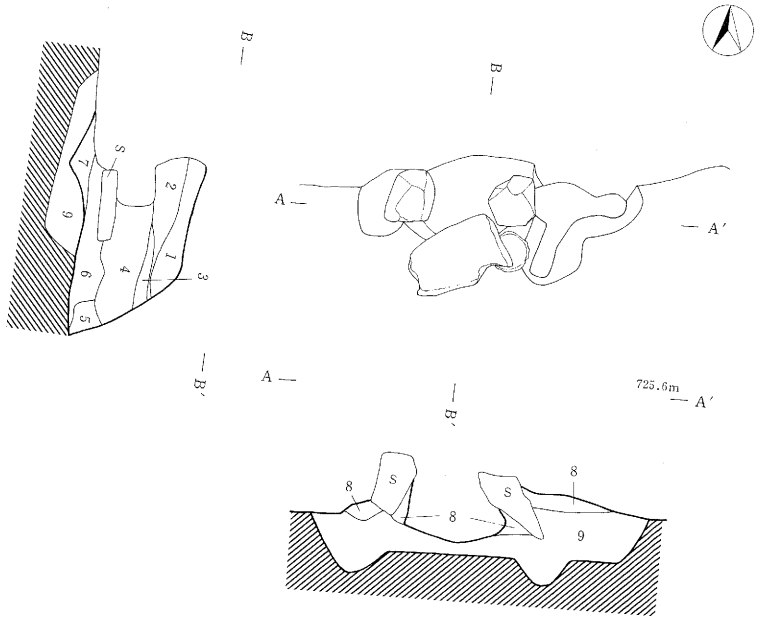
7　暗　褐　色　土　層　ローム粒子少量、パミス微量含む。10YR3/3

8　黒　褐　色　土　層　炭化粒子微量含む。10YR2/2

9　にぶい黄褐色土層　ローム主体。10YR5/3

10　黄　褐　色　土　層　ローム主体。10YR5/6

第114図　H3号住居址実測図



1　暗赤褐色土層　ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量含む。5YR3/3

2　にぶい赤褐色土層　ローム粒子・焼土粒子少量含む。5YR4/3

3　暗褐色土層　ローム粒子微量含む。10YR3/3

4　にぶい黄褐色土層　ローム主体。10YR5/3

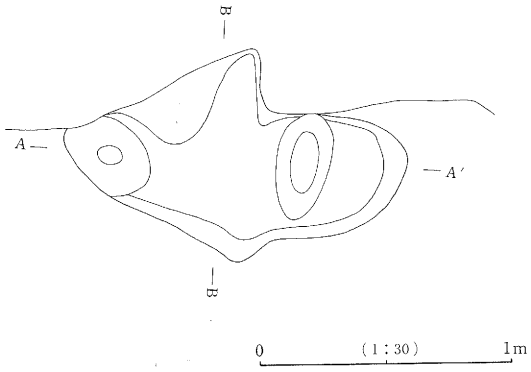
5　黒褐色土層　ローム粒子微量含む。10YR2/3

6　褐色土層　ローム主体。10YR4/4

7　明赤褐色土層　焼土主体。5YR5/6

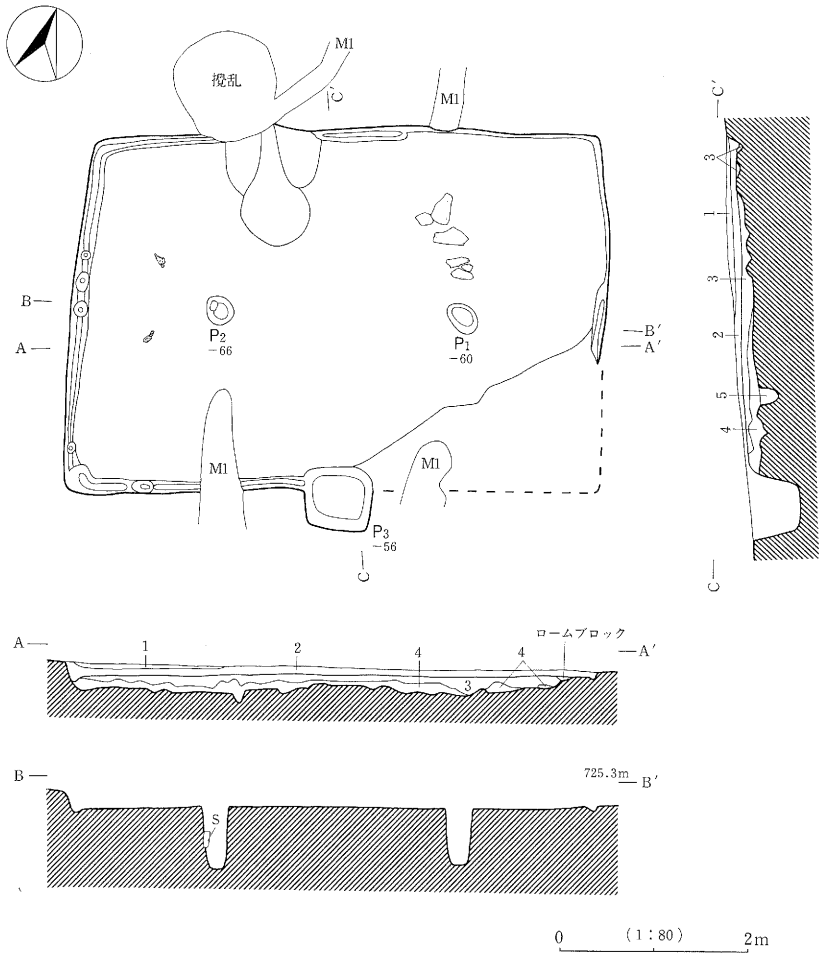
8　黒褐色土層　粘土主体。10YR2/2

9　褐色土層　ローム主体。パミス中粒以下微量含む。7.5YR4/3



第115図　H3号住居址カマド実測図

4）Ｈ４号住居址



1　黒褐色土層　粘性やや弱し。パミス極小粒・砂粒を微量含む。5YR3/1

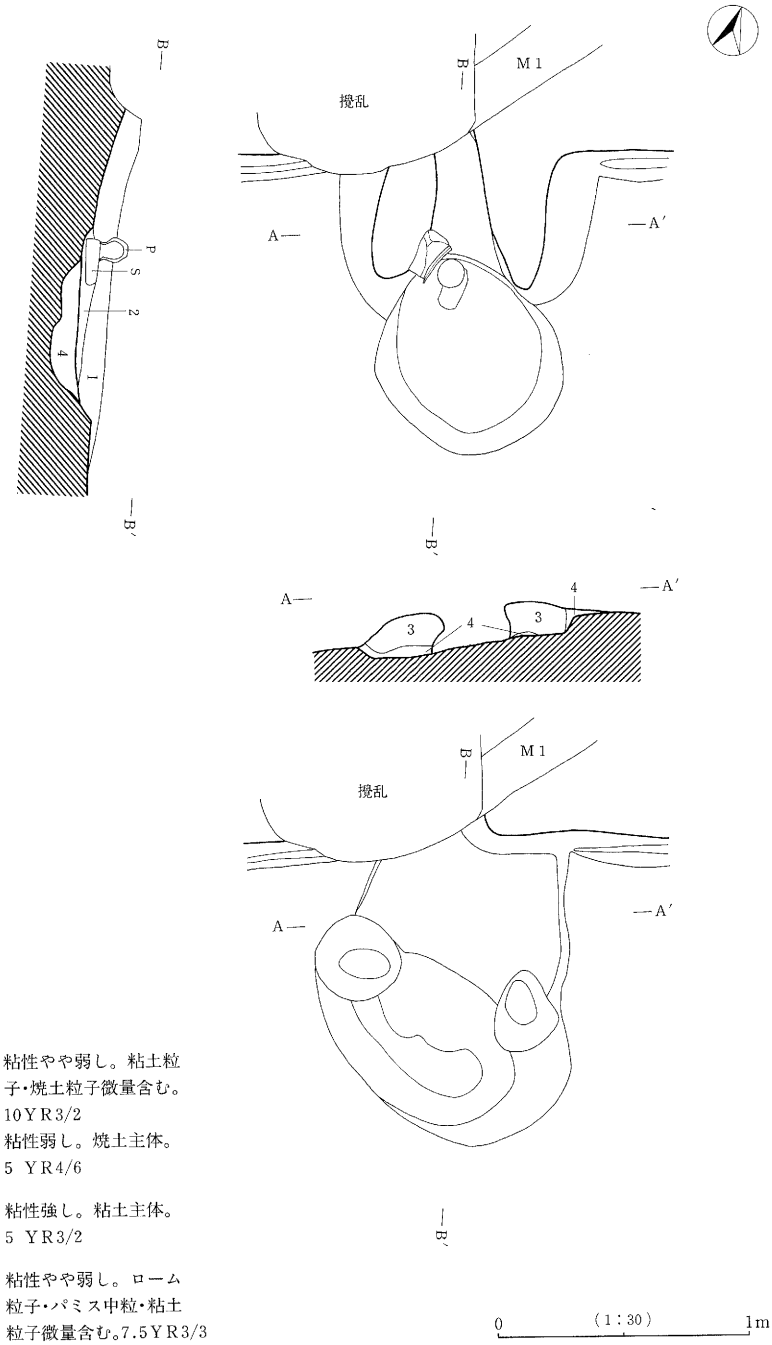
2　極暗褐色土層　粘性弱し。ローム粒子少量、焼土・炭化粒子を微量含む。5YR2/3

3　黒褐色土層　粘性やや弱し。パミス中粒以下微量含む。10YR2/3

4　にぶい黄褐色土層　粘性弱し。パミス中粒以下微量含む。ローム主体。10YR5/4

5　黒褐色土層　粘性弱し。パミス中粒微量含む。10YR3/2

第116図　Ｈ４号住居址実測図



1　黒褐色土層　粘性やや弱し。粘土粒子・焼土粒子微量含む。10YR3/2

2　赤褐色土層　粘性弱し。焼土主体。5 YR4/6

3　暗赤褐色土層　粘性強し。粘土主体。5 YR3/2

4　暗褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子・パミス中粒・粘土粒子微量含む。7.5YR3/3

第117図　H 4 号住居址カマド実測図

Ｈ４号住居址は、下聖端遺跡の調査区南側、は・ひ－90・91グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第Ⅳ層上面において検出され、Ｍ１号溝状遺構と攪乱によって破壊される。

平面形態は、南北378cm（南壁張出部を含めた場合424cm）、東西556cmを測り、東西に長い方形を呈している。主軸方位はＮ－19°－Ｗを指す。また現存する床面積は15.78m²を測る。

覆土は２層に分割された。なお第２層中より炭化材が出土した。

確認面からの壁残高は、4.5～20cmを測り、壁体は全体層序第Ⅳ層の明黄褐色ロームを利用し、平滑で堅固である。床面はおおむね平坦で貼床と周溝が認められた。貼床は第３層・第４層・第５層によって貼られる。周溝は北東コーナーを除く全周を廻っていたと考えられる。

ピットは、主柱穴２個（P_1・P_2）のみが検出された。

カマドは北壁中央東寄りで検出され、北側をＭ１と攪乱によって破壊される。残存する規模は、南北128cm、袖部最大巾103cmを測る。また右側の袖は長さ58cmで巾45cm・高さ3.5～7.5cm、左側の袖は長さ60cmで巾37cm・高さ9～14cmを測る。なお甕転用支脚と安山岩製支脚石を転用した支脚固定台が残存していた。覆土は２層に分割された。残存するカマド各部の構築状況は以下のとおりである。袖部は第３層・第４層によって、燃焼部は第４層によって構築される。また右の袖部には安山岩が構築材として使われていた。

本住居址は焼失住居址で北東隅の床面から多量の焼土が、床面北西部を中心に炭化材が検出された。

遺物は土師器の甕・甑・坏・手捏、須恵器の坏蓋等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代後期前葉に位置付けられる。

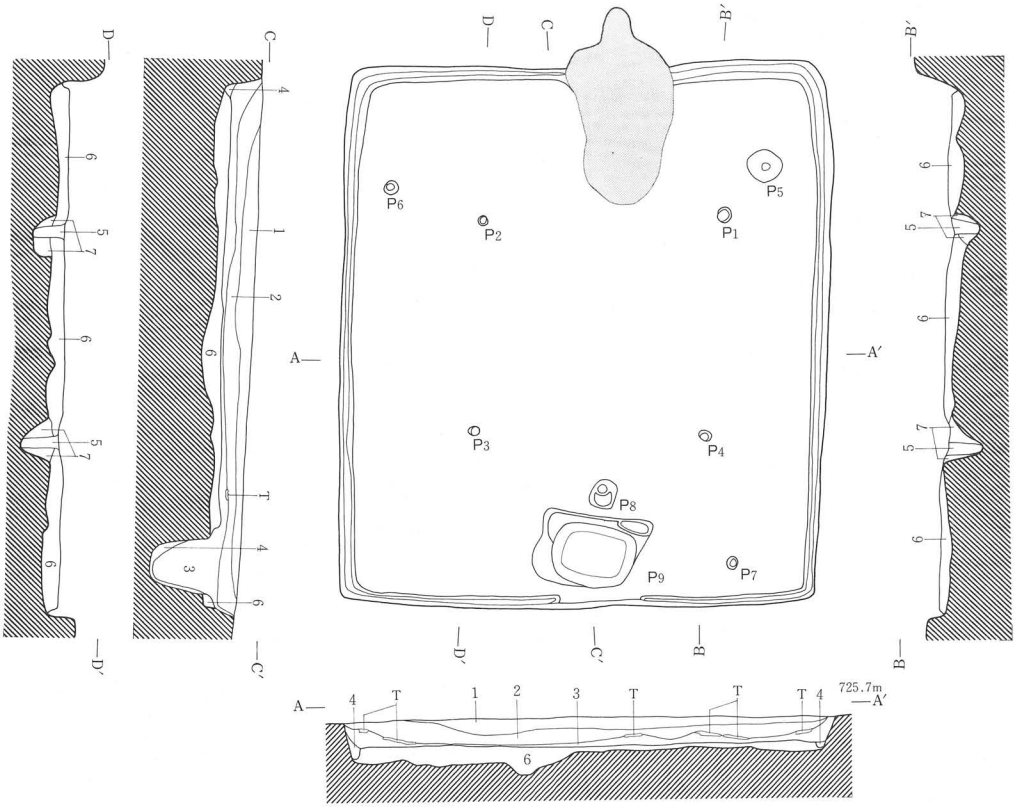
５）Ｈ５号住居址

Ｈ５号住居址は、下聖端遺跡の調査区中央、の～ひ－87～89グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第Ⅳ層上面において単独で検出された。

平面形態は、南北551cm、東西は519cmを測り、やや南北に長い方形を呈している。主軸方位はＮ－16°－Ｅを指す。また床面積は28.15m²を測る。

覆土は５層に分割された。なお、炭化材は第３層中及び第３層上面において検出された。また第５層は柱痕である。

確認面からの壁残高は、12.5～41cmを測り、壁体は全体層序第Ⅳ層を利用し、平滑で堅固である。床面はおおむね平坦で貼床と周溝が認められた。貼床は第６層によって貼られていた。また第７層は柱を据える際の埋土と考えられる。周溝は、貯蔵穴南側で途切れる他は全周していた。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは直角を呈している。



1　黒褐色土層　粘性やや弱し。パミス極小粒とローム粒子を微量、炭化材小片を少量含む。

2　暗褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子と炭化粒子を少量含む。

3　褐色土層　粘性やや弱し。焼土ブロック(にぶい赤褐色土)・焼土粒子・炭化材小片・炭化粒子を多量含む。

4　にぶい黄褐色土層　粘性弱し。ローム粒子を多量、炭化粒子と焼土粒子を少量含む。

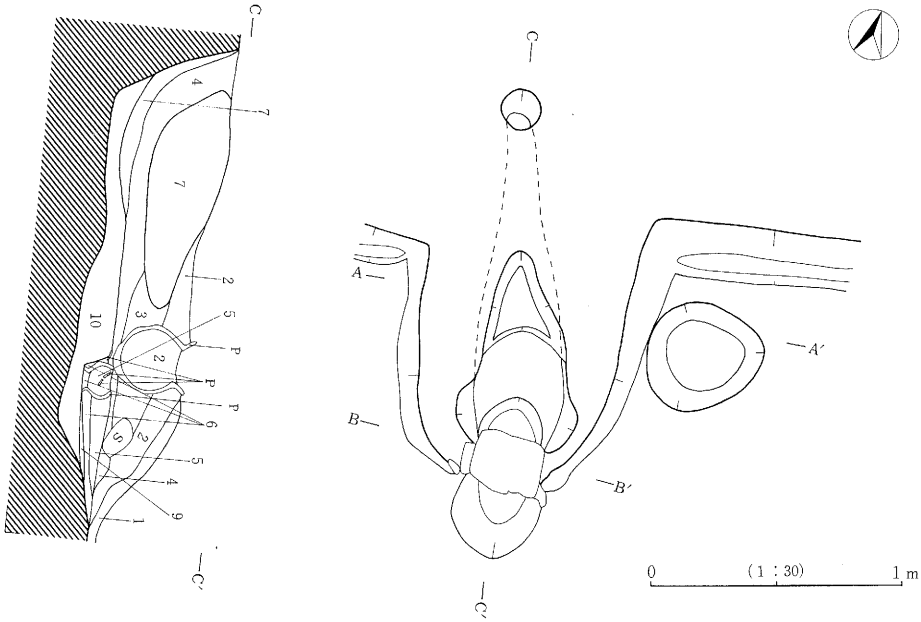
5　黒色土層　粘性やや弱し。炭化材小片と炭化粒子を少量含む。

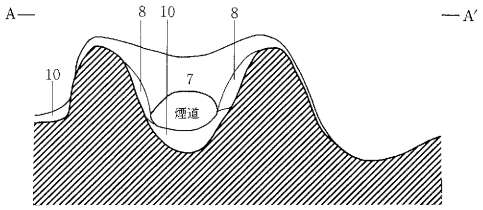
6　黄褐色土層　粘性やや強し。ローム粒子を多量含む。

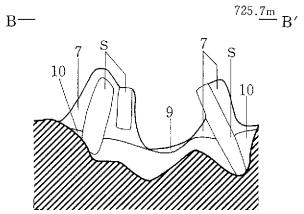
7　黒褐色土層　粘性やや強し。ローム粒子を微量含む。

0　(1：80)　2m

第118図　H5号住居址実測図







1　黒褐色土層　粘性やや弱し。炭化材小片と粘土粒子を微量含む。

2　暗赤褐色土層　粘性やや弱し。炭化材小片と粘土粒子を少量含む。

3　灰褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子と粘土粒子・焼土粒子を少量含む。

4　黒褐色土層　粘性弱し。炭化粒子と焼土粒子を少量含む。

5　赤褐色土層　粘性弱し。ローム粒子と焼土粒子を少量含む。

6　赤褐色土層　粘性弱し。焼土主体。炭化粒子を微量含む。

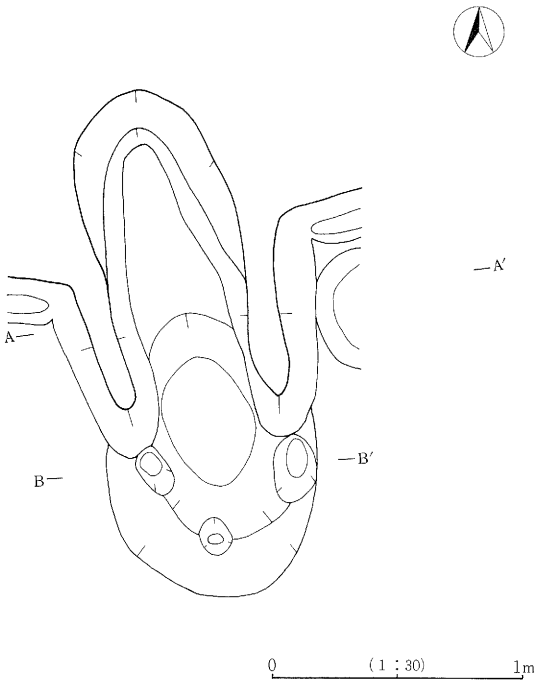
7　赤灰色土層　粘性強し。粘土主体。被熱で変色。

8　灰赤色土層　粘性やや強し。粘土主体。ローム粒子を少量含む。被熱で変色。

9　にぶい赤褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子を多く含む。被熱で変色。

10　暗褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子と炭化粒子を少量含む。

第119図　H５号住居址カマド実測図



第120図　H５号住居址カマド掘方実測図

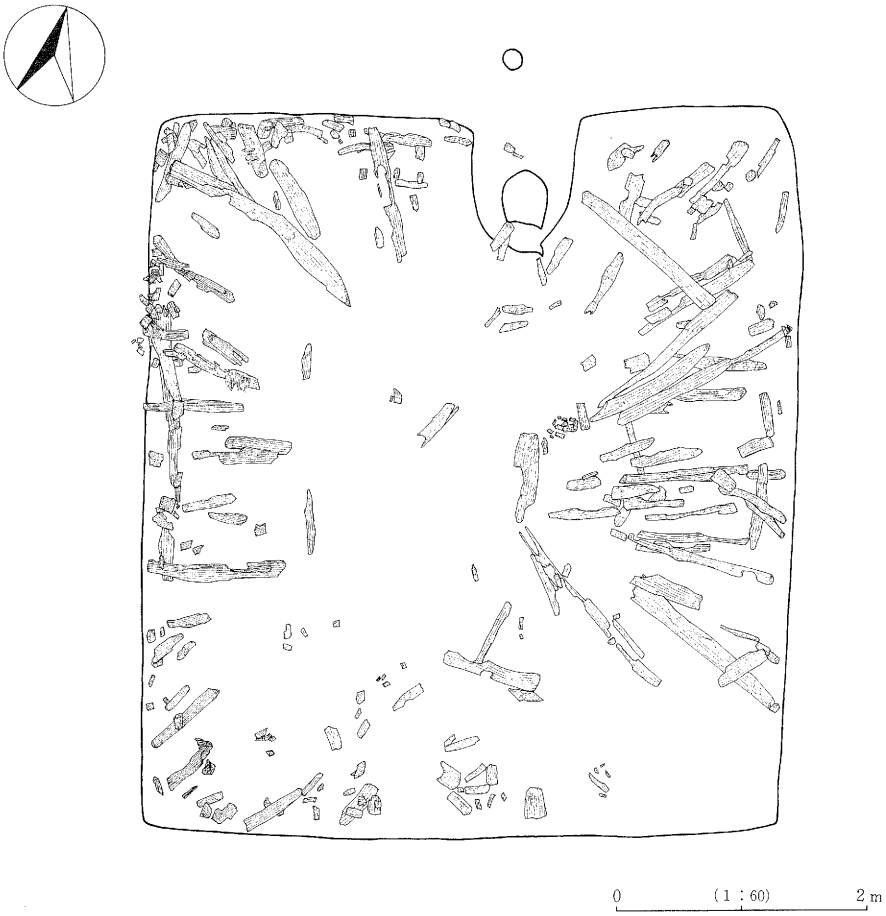
ピットは、主柱穴４個（P_1～P_4）、補助柱穴３個（P_5～P_7）、入口施設１個（P_8）、貯蔵穴１個（P_9）の計９個が検出された。P_9は北側にテラスを持つことより板蓋が想定される。

カマドは北壁中央よりほぼ完全な形で検出された。規模は、焚口より煙道出口まで187cm、袖部最大巾117cm、かけ穴の巾44cmを測る。また右側の袖は長さ89cmで巾36cm・高さ30～20cm、左側の袖は長さ104cmで巾45cm・高さ32.5～23.5cmを測る。東側の袖石は２個で長さ32cmと17cmの安山岩で、左側の袖石は長さ38cmの安山岩である。袖部の天井石は安山岩製で、長さ28cm×23cmで厚さ8～10cmを測り、左袖石よりずり落ちた状態で検出された。覆土は６層に分割された。またカマド各部の構築状況は以下のとおりである。袖部は全体層序第Ⅳ層の明黄褐色ロームを基礎とし、第７層と第８層によって構築される。燃焼部と焚口は、第10層が貼られて構築される。煙道の天井部は第７層によって構築され、煙道下部は第10層と第７層が貼られて構築される。

本住居址からは屋根材を中心とした炭化材が多量に出土した。

遺物は土師器の甕・甕転用甑・坏・高坏と須恵器の高坏、土製支脚、鉄鏃、臼玉、石製模造品、不明銅製品等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代中期後葉に位置付けられる。



第121図　Ｈ５号住居址炭化材出土状況実測図

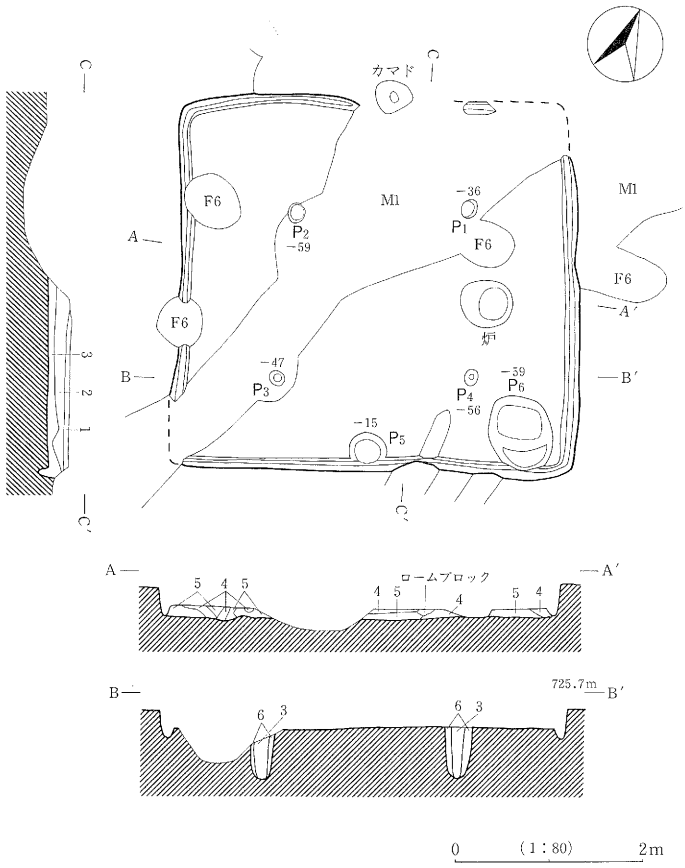
6）Ｈ６号住居址

Ｈ６号住居址は、下聖端遺跡の調査区南側、ひ・ふ－88・89グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第Ⅳ層上面において検出され、Ｍ１号溝状遺構とＦ６号掘立柱建物址によって破壊される。

平面形態は、南北368cm、東西395cmを測り、方形を呈している。主軸方位はＮ－22°－Ｗを指す。また現存する床面積は9.31m²を、推定で14.63cmを測る。

覆土は３層に分割された。なお第３層中より多量の炭化材が出土した。

確認面からの壁残高は、14～27cmを測り、壁体は全体層序第Ⅳ層の明黄褐色ロームを利用し、平滑で堅固である。床面はおおむね平坦で貼床と周溝が認められた。貼床は第４層・第５層によっ



1　褐灰色土層　粘性弱し。砂粒を多量含む。10YR5/1

2　黒褐色土層　粘性やや強し。焼土粒子・炭化粒子を少量含む。
5YR2/1

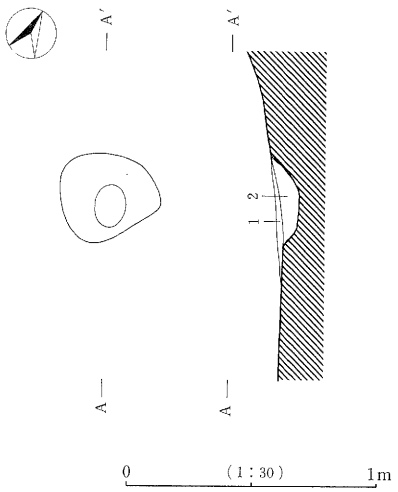
3　にぶい赤褐色土層　粘性やや強し。焼土粒子多量、炭化材を少量含む。
2.5YR4/3

4　暗褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子(ブロック状)少量、
パミス極大粒を微量含む。10YR3/4

5　褐色土層　粘性弱し。ローム主体。・パミス大粒を微量含む。
10YR4/4

6　褐色土層　粘性弱し。ローム主体。10YR4/6

第122図　H6号住居址実測図



1　暗赤褐色土層　焼土主体。2.5YR3/6

2　黒褐色土層　粘性弱し。炭化粒子微量含む。10YR2/2

第123図　H6号住居址カマド実測図

て貼られる。

ピットは、主柱穴4個（P_1～P_4）、入口施設に伴う柱穴1個（P_5）、貯蔵穴1個（P_6）の計6個が検出された。

カマドは北壁中央で検出され、北側をM1によって破壊される。残存状況は極めて悪く、燃焼部の一部が残存するのみだった。残存する規模は、南北36cm、東西38cmを測る。覆土は1層のみが確認された。残存する燃焼部は、第2層によって構築される。

また、P_1とP_4間で炉が検出された。規模は59cm×53cmで東西に長い楕円形を呈する。深さは10cm内外を測り、焼土が確認された。

本住居址は焼失住居址で、床面はかなり焼け、燃え残った炭化材が散乱していた。

遺物は土師器の甕・甑・坏等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代中期後葉に位置付けられる。

7）H7号住居址

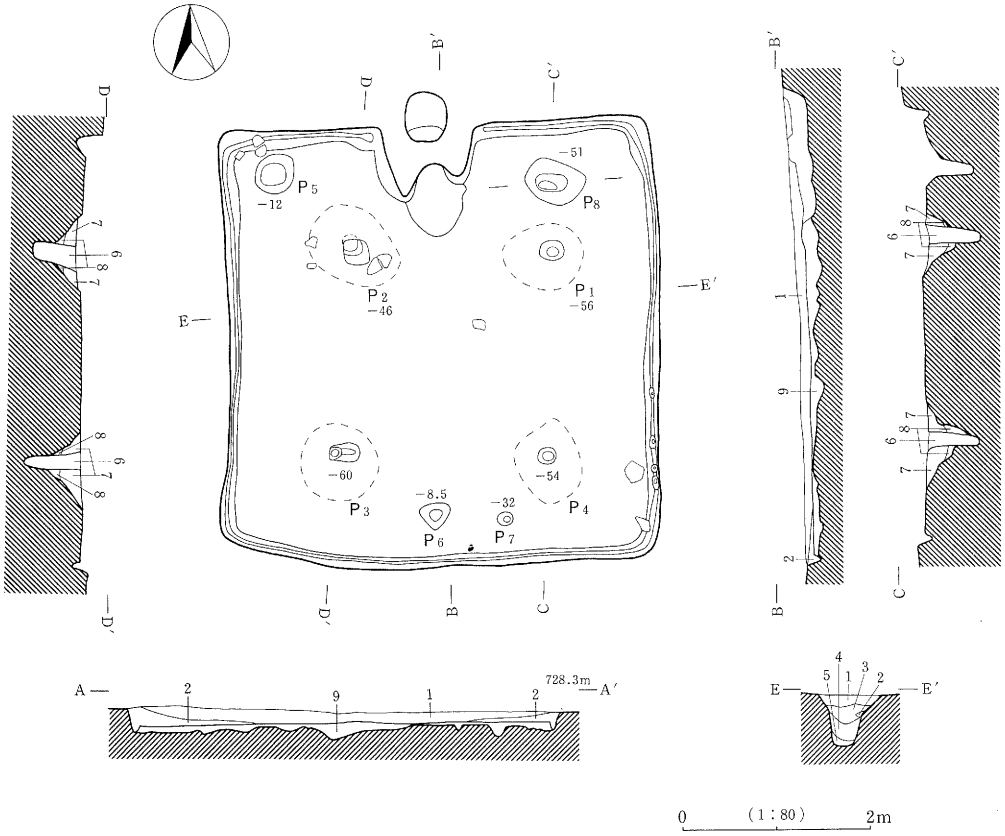
H7号住居址は、下聖端遺跡の調査区南側、そ・た－84・85グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第Ⅳ層上面において単独で検出された。

平面形態は、南北456cm、東西444cmを測り、方形を呈し、主軸方位はN－4°－Eを指す。また現存する床面積は18.03m²を測る。

覆土は6層に分割された。なお第6層は柱痕である。

確認面からの壁残高は、0.5～25.5cmを測り、壁体は全体層序第Ⅳ層の明黄褐色ロームを利用し、平滑で堅固である。床面はおおむね平坦で貼床と周溝が認められた。貼床は第9層によって貼られる。また第7層・第8層は柱を据える際の埋土と考えられる。

ピットは、主柱穴4個（P_1～P_4）、入口施設に伴う柱穴2個（P_6・P_7）、貯蔵穴1個（P_8）、



1　にぶい黄褐色土層　粘性やや弱し。焼土粒子・炭化粒子・炭化材小片・ローム粒子を少量、パミス小粒微量含む。10YR4/3

2　暗褐色土層　粘性やや弱し。炭化材小片・ローム粒子少量含む。10YR3/4

3　極暗褐色土層　粘性弱し。焼土粒子・ローム粒子少量含む。5YR2/3

4　暗褐色土層　粘性弱し。焼土粒子・ローム粒子少量、炭化材小片多量含む。7.5YR3/3

5　灰褐色土層　粘性弱し。炭化材小片少量、ローム粒子多量含む。7.5YR4/2

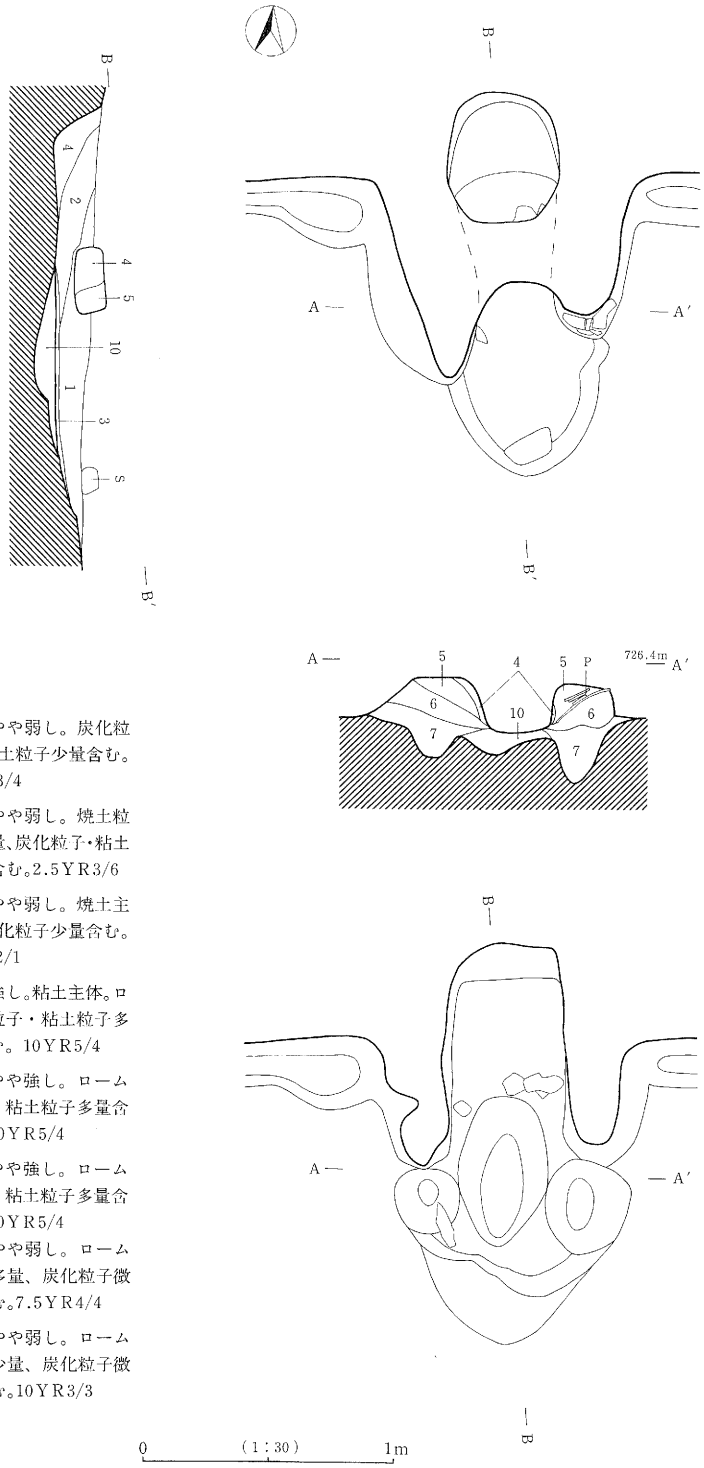
6　黒褐色土層　粘性やや強し。炭化粒子・炭化材小片多量含む。10YR2/2

7　暗褐色土層　粘性やや弱し。炭化粒子微量、ローム粒子・パミス極小粒少量含む。10YR3/3

8　褐色土層　粘性弱し。ローム粒子多量含む。10YR4/6

9　黒褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子少量、パミス微量含む。10YR2/2

第124図　H7号住居址実測図



1　暗赤褐色土層　粘性やや弱し。炭化粒子・焼土粒子少量含む。5YR3/4

2　暗赤褐色土層　粘性やや弱し。焼土粒子多量、炭化粒子・粘土少量含む。2.5YR3/6

3　黒褐色土層　粘性やや弱し。焼土主体。炭化粒子少量含む。5YR2/1

4　暗赤灰色土層　粘性強し。粘土主体。ローム粒子・粘土粒子多量含む。10YR5/4

5　にぶい黄褐色土層　粘性やや強し。ローム粒子・粘土粒子多量含む。10YR5/4

6　にぶい赤褐色土層　粘性やや強し。ローム粒子・粘土粒子多量含む。10YR5/4

7　褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子多量、炭化粒子微量含む。7.5YR4/4

8　暗褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子少量、炭化粒子微量含む。10YR3/3

第125図　H7号住居址カマド実測図

その他１個（P_5）の計８個が検出された。また周溝内より４個のピットが検出された。カマドは北壁中央やや西寄りで検出された。残存状況は、煙道天井部は残っていたものの左右袖石・袖天井石は失われていた。残存する規模は焚口より煙道出口まで153cm、袖部の巾107cmを測る。また東側の袖は長さ65cmで巾31cm・高さ13～16.5cm、西側の袖は長さ78cmで巾43cm・高さ15～17cmを測る。覆土は３層に分割された。残存するカマド各部の構築状況は以下のとおりである。袖部は第４層～第７層によって、燃焼部と焚口は第10層によって、煙道下部は第４層によって、煙道天井部は第４層と第５層によって構築される。また袖部には高坏の破片が、煙道天井部には甕の破片が補強材として使われていた。

本住居址は焼失住居址で、床面はかなり焼け、覆土中より焼土と炭化材小片が検出された。

遺物は土師器の甕・坏・高坏・臼玉等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代後期中葉に位置付けられる。

８）Ｈ８号住居址

Ｈ８号住居址は、下聖端遺跡の調査区南側、し～せ－81～83グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第Ⅳ層上面において検出され、東壁の一部をＤ78号土坑に、北壁のカマド付近を攪乱によって破壊される。

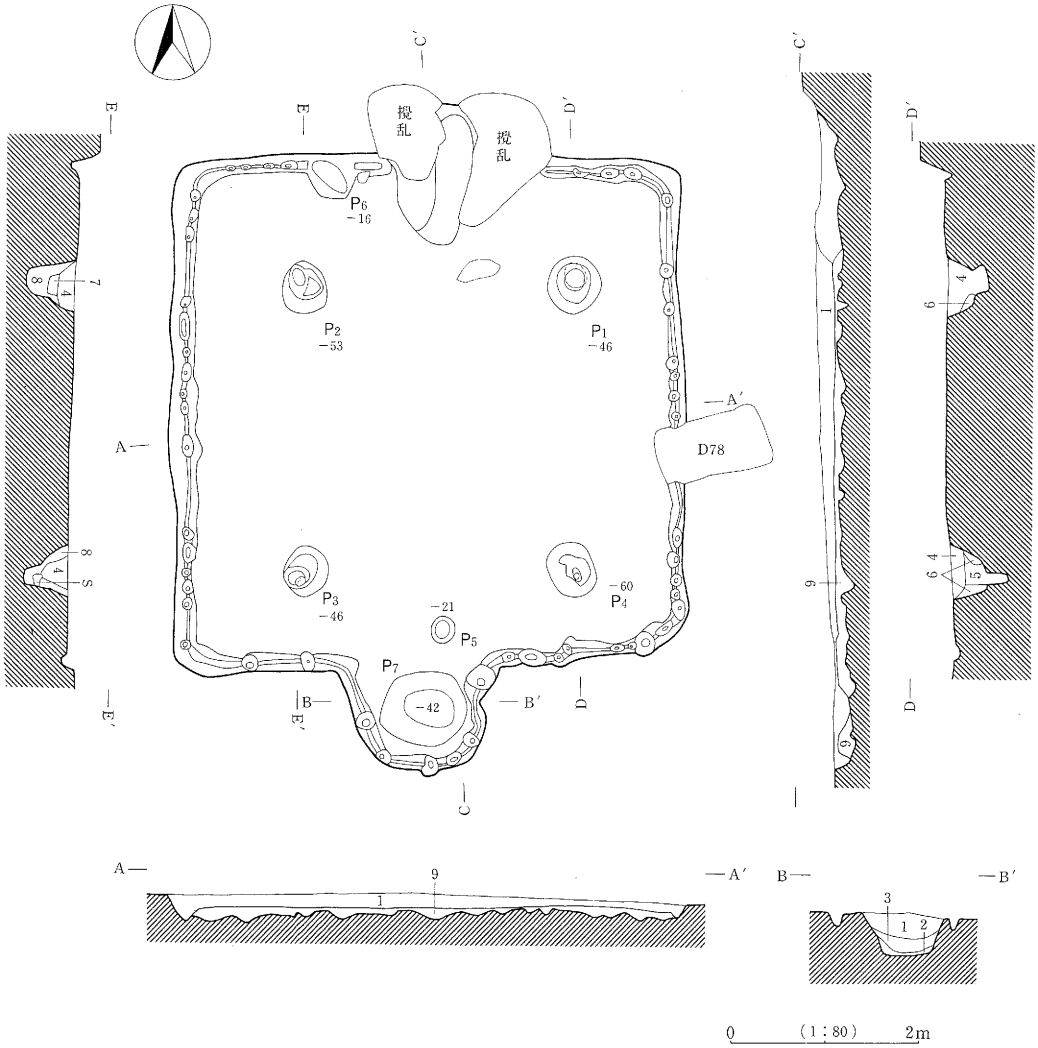
平面形態は、南北524cm（南壁張出部を含めると634cm）、東西526cmを測り、方形を呈し、主軸方位はＮ－1°－Ｅを指す。また床面積は25.23m²を測る。

覆土は８層に分割された。

確認面からの壁残高は、8～27cmを測り、壁体は全体層序第Ⅳ層の明黄褐色ロームを利用し、平滑で堅固である。床面はおおむね平坦で貼床と周溝が認められた。貼床は第９層によって貼られる。またピットの柱痕は確認できなかった。

ピットは、主柱穴４個（P_1～P_4）、入口施設に伴う柱穴１個（P_5）、貯蔵穴１個（P_7）、その他１個（P_6）の計７個が検出された。また周溝内より51個のピットが検出された。

カマドは北壁中央で検出され、攪乱により北側を破壊される。残存状況は極めて悪く、攪乱によりほとんど破壊されていた。安山岩製の左側袖石と袖天井石は残存していたが、袖構築材・袖石・煙道天井石等はカマド東側を中心に散乱していた。残存する規模は焚口より煙道出口まで167cm、袖部の巾112cm（推定値）を測る。また現存する左側の袖は長さ55cmで巾40cm・高さ16～18cmを測る。覆土は３層に分割された。残存するカマド各部の構築状況は以下のとおりである。袖部はローム造り出しで、その上に第４層・第６層～第８層が貼られて構築される。また燃焼部と焚口は第４層・第５層によって、煙道下部は第６層によって構築される。なお袖天井石は上からの



1　黒褐色土層　粘性やや弱し。炭化粒子少量、焼土粒子微量含む。7.5YR3/1

2　暗褐色土層　粘性弱し。ローム粒子・焼土粒子微量含む。7.5YR3/3

3　褐 色 土 層　粘性弱し。ローム粒子多量含む。7.5YR4/6

4　黒褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子・パミス微量含む。10YR3/2

5　黒褐色土層　粘性やや弱し。パミス・炭化粒子微量含む。10YR2/2

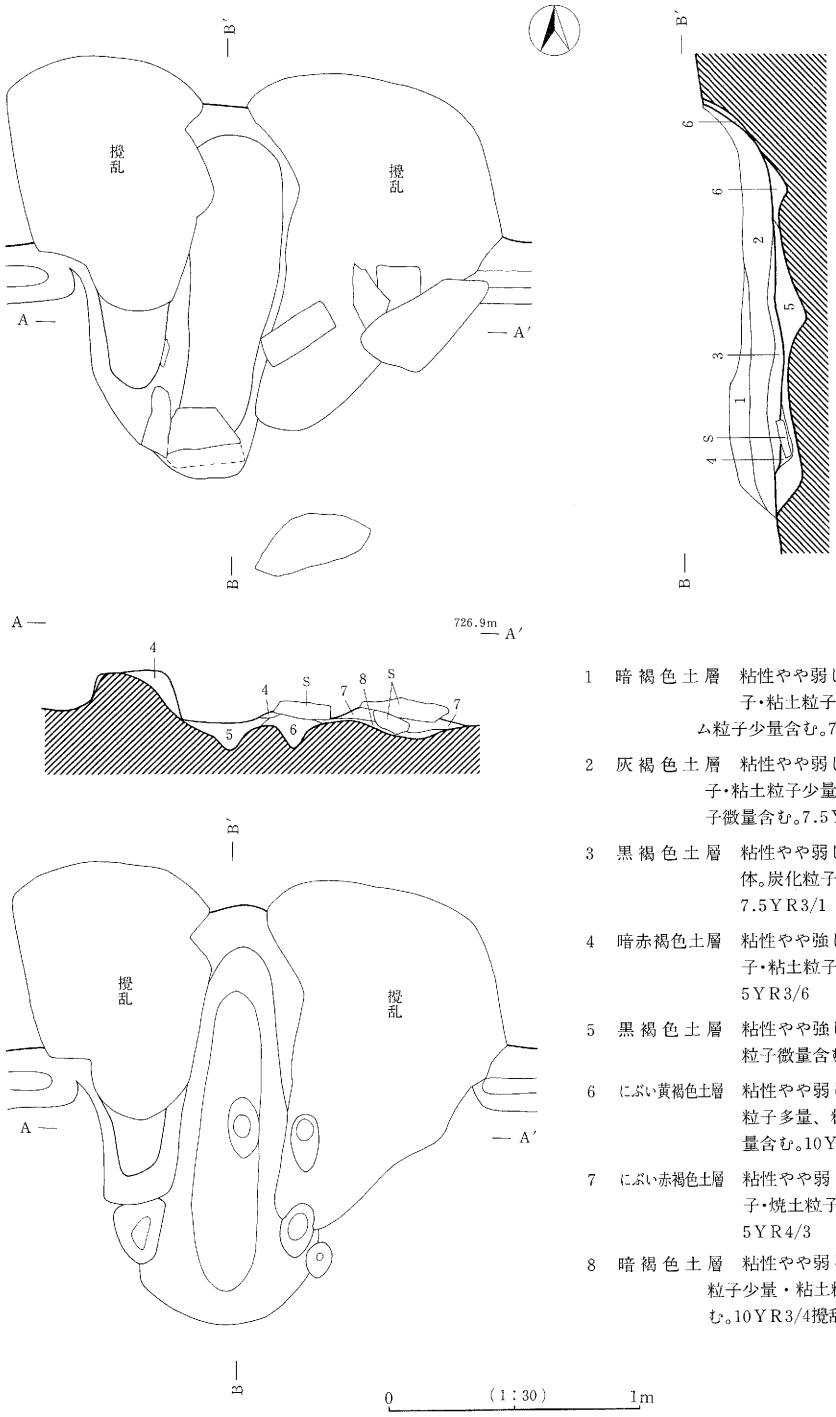
6　褐 色 土 層　粘性弱し。ローム粒子多量、パミス微量含む。10YR4/6

7　暗褐色土層　粘性弱し。ローム粒子少量、パミス微量含む。10YR3/3

8　暗褐色土層　粘性弱し。ローム粒子・パミス微量含む。10YR3/4

9　黒褐色土層　粘性弱し。ローム粒子・パミス微量含む。10YR2/3

第126図　H 8 号住居址実測図



1　暗褐色土層　粘性やや弱し。焼土粒子・粘土粒子微量、ローム粒子少量含む。7.5YR3/4

2　灰褐色土層　粘性やや弱し。焼土粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量含む。7.5YR4/2

3　黒褐色土層　粘性やや弱し。焼土主体。炭化粒子多量含む。7.5YR3/1

4　暗赤褐色土層　粘性やや強し。炭化粒子・粘土粒子多量含む。5YR3/6

5　黒褐色土層　粘性やや強し。ローム粒子微量含む。5YR2/1

6　にぶい黄褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子多量、粘土粒子少量含む。10YR5/4

7　にぶい赤褐色土層　粘性やや弱し。粘土粒子・焼土粒子少量含む。5YR4/3

8　暗褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子少量・粘土粒子微量含む。10YR3/4撹乱影響成立層

第127図　H8号住居址カマド実測図

圧力により、焚口に食い込んでいたと想定される。

本住居址は焼失住居址で、床面はかなり焼け、覆土中より焼土と炭化材が検出された。

遺物は土師器の甕・甑・坏等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代後期中葉に位置付けられる。

9）H 9号住居址

H 9号住居址は、下聖端遺跡の調査区南側、ち・つ－77～79グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第Ⅳ層上面において単独で検出され、北壁カマド付近を攪乱によって破壊される。

平面形態は、南北438cm、東西464cmを測り、方形を呈し、主軸方位はN－10°－Eを指す。また床面積は17.01m²を測る。

覆土は5層に分割された。なお第6層は柱痕である。

確認面からの壁残高は、40～51cmを測り、壁体は全体層序第Ⅳ層の明黄褐色ロームを利用し、平滑で堅固である。床面はおおむね平坦で貼床と周溝が認められた。貼床は第7層によって貼られる。また第6層は柱を据える際の埋土と考えられる。

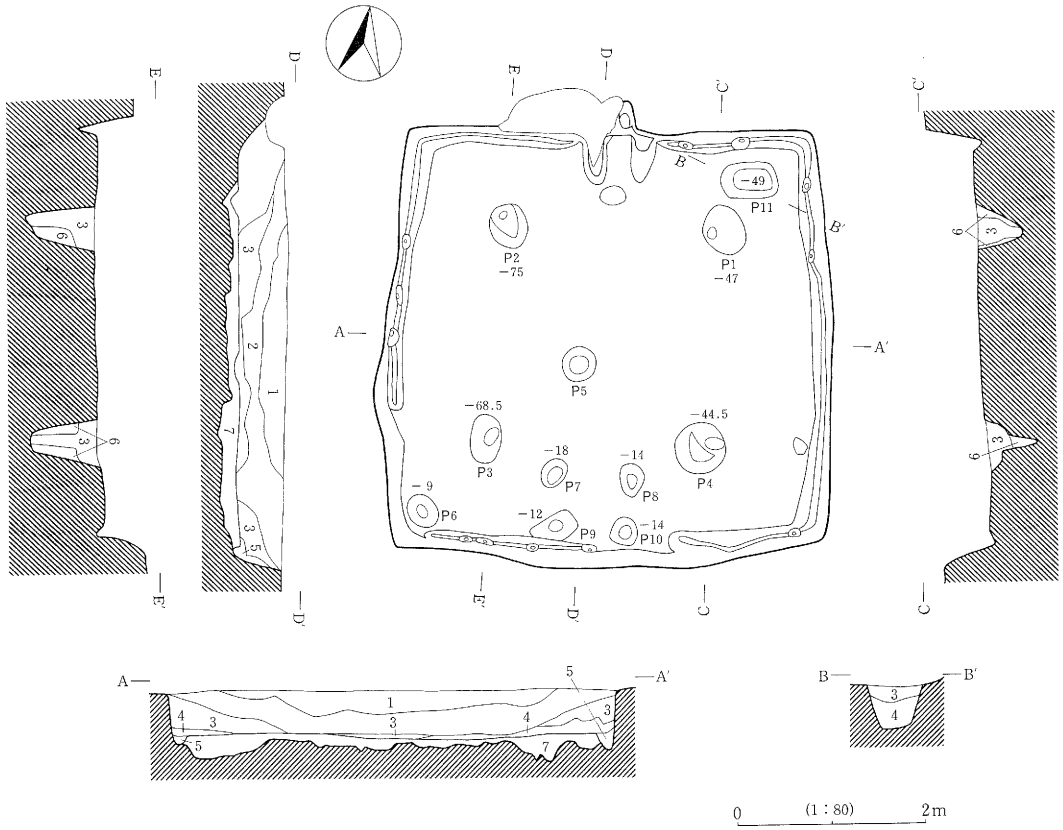
ピットは、主柱穴4個（P_1～P_4）、補助柱穴2個（P_5・P_6）、入口施設に伴う柱穴4個（P_7～P_{10}）、貯蔵穴1個（P_{11}）の計11個が検出された。また周溝内より12個のピットが検出された。

カマドは北壁中央で検出され、西側袖と煙道左側を攪乱により破壊される。残存状況は、煙道天井部は残っていたものの左右袖石・袖天井石は失われていた。残存する規模は焚口より煙道出口まで113cm、袖部の巾73cmを測る。また右側の袖は長さ51cmで巾25cm・高さ31～16.5cm、左側の袖は長さ56cm（推定値）で巾24cm・高さ10～15.5cmを測る。覆土は6層に分割された。残存するカマド各部の構築状況は以下のとおりである。袖部は第7層～第9層によって、燃焼部と焚口は第9層によって、煙道下部と煙道天井部は第7層によって構築される。

本住居址は焼失住居址で、覆土第4層中より焼土と炭化材小片が検出された。

遺物は土師器の甕・坏等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代後期中葉に位置付けられる。



1　黒褐色土層　粘性弱し。パミス砂粒微量含む。10YR2/3

2　黒褐色土層　粘性弱し。パミス砂粒・ローム粒子微量含む。10YR3/2

3　暗褐色土層　粘性弱し。パミス砂粒・ローム粒子微量含む。10YR3/4

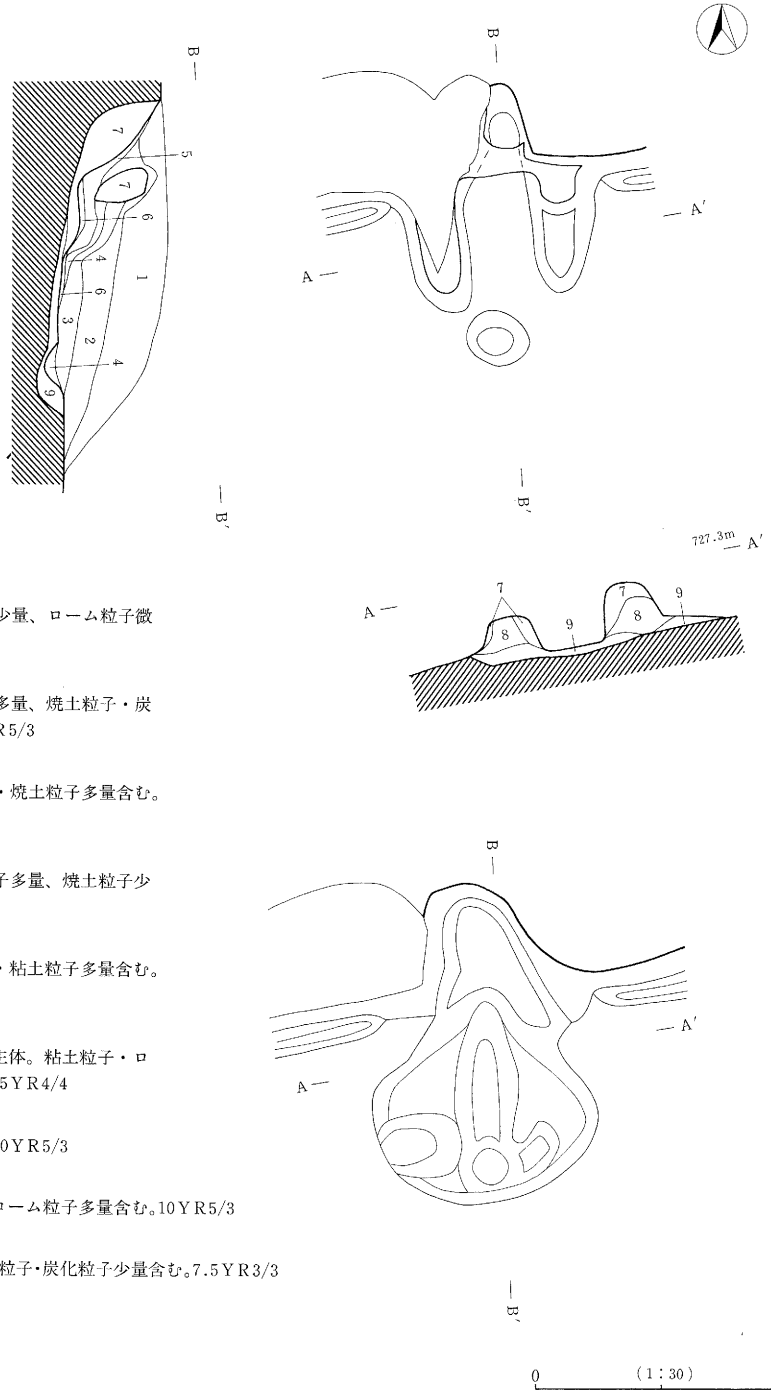
4　暗褐色土層　粘性弱し。炭化粒子多量、焼土粒子少量含む。10YR3/3

5　黄褐色土層　粘性弱し。ローム粒子多量含む。10YR5/6

6　褐色土層　粘性弱し。ローム粒子多量含む。10YR4/6

7　褐色土層　粘性弱し。ローム粒子少量含む。10YR4/4

第128図　H 9 号住居址実測図



1　暗赤褐色土層
　粘性弱し。焼土粒子少量、ローム粒子微量含む。5YR3/2

2　にぶい赤褐色土層
　粘性強し。粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量含む。5YR5/3

3　にぶい赤褐色土層
　粘性強し。粘土粒子・焼土粒子多量含む。2.5YR4/3

4　褐色土層
　粘性弱し。ローム粒子多量、焼土粒子少量含む。7.5YR4/4

5　暗赤褐色土層
　粘性やや強し。焼土・粘土粒子多量含む。2.5YR3/2

6　褐色土層
　粘性やや弱し。焼土主体。粘土粒子・ローム粒子少量含む。7.5YR4/4

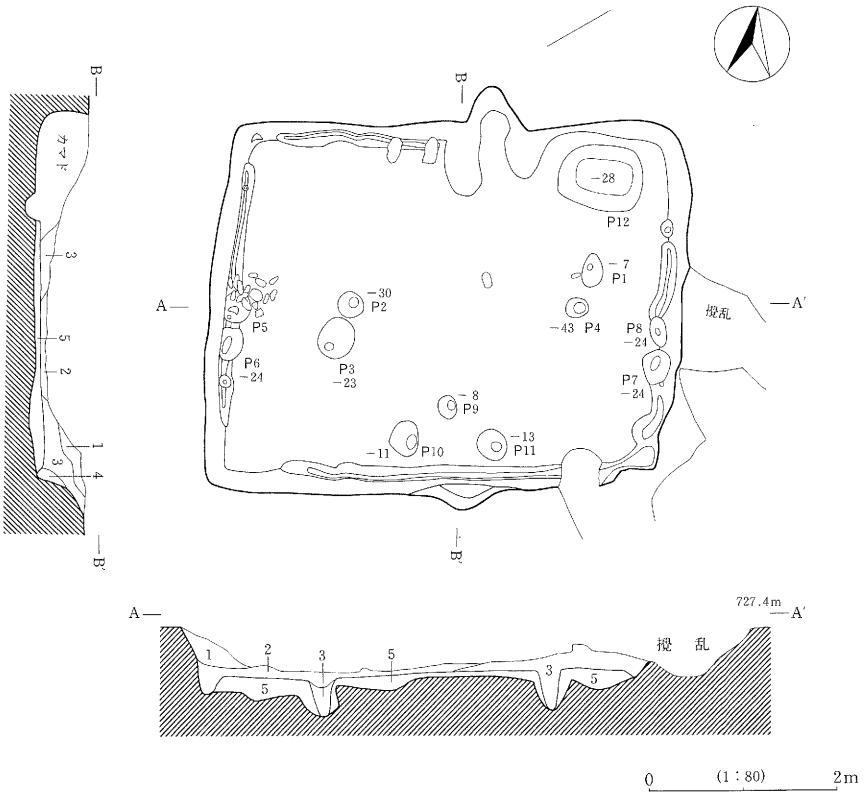
7　赤褐色土層
　粘性強し。粘土主体。10YR5/3

8　にぶい黄褐色土層
　粘性強し。粘土粒子・ローム粒子多量含む。10YR5/3

9　暗褐色土層
　粘性やや弱し。ローム粒子・炭化粒子少量含む。7.5YR3/3

第129図　H９号住居址カマド実測図

10) H10号住居址



1 暗 褐 色 土 層 粘性弱し。パミス砂粒・ローム粒子微量含む。10YR3/3

2 にぶい黄褐色土層 粘性弱し。ローム粒子少量、パミス・砂粒微量含む。10YR4/3

3 黒 褐 色 土 層 粘性弱し。パミス微量含む。10YR3/2

4 暗 褐 色 土 層 粘性弱し。ローム粒子少量、パミス・砂粒微量含む。10YR3/3

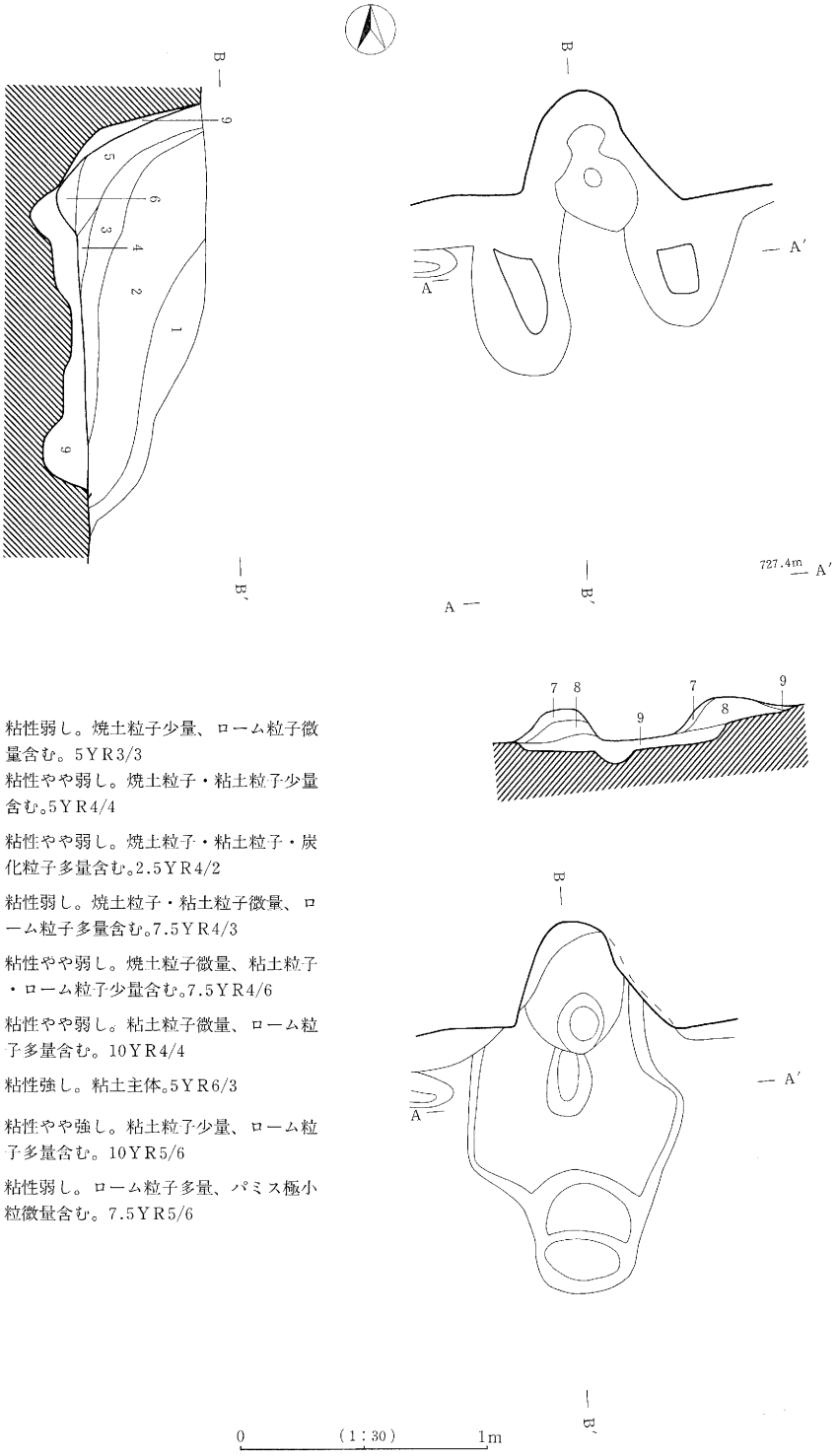
5 褐 色 土 層 粘性弱し。ローム粒子多量、パミス微量含む。10YR4/4

第130図 H10号住居址実測図

H10号住居址は、下聖端遺跡の調査区南側、せ・そ－77・78グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第Ⅳ層上面において単独で検出され、東壁と南東コーナー・南東床面の一部を撹乱によって破壊される。

平面形態は、南北349cm、東西454cmを測り、東西に長い方形を呈する。主軸方位はN－7°－Wを指す。また床面積は14.81m²を測る。

覆土は3層に分割された。



1　暗赤褐色土層　粘性弱し。焼土粒子少量、ローム粒子微量含む。5YR3/3

2　にぶい赤褐色土層　粘性やや弱し。焼土粒子・粘土粒子少量含む。5YR4/4

3　灰褐色土層　粘性やや弱し。焼土粒子・粘土粒子・炭化粒子多量含む。2.5YR4/2

4　褐色土層　粘性弱し。焼土粒子・粘土粒子微量、ローム粒子多量含む。7.5YR4/3

5　褐色土層　粘性やや弱し。焼土粒子微量、粘土粒子・ローム粒子少量含む。7.5YR4/6

6　褐色土層　粘性やや弱し。粘土粒子微量、ローム粒子多量含む。10YR4/4

7　にぶい橙色土層　粘性強し。粘土主体。5YR6/3

8　黄褐色土層　粘性やや強し。粘土粒子少量、ローム粒子多量含む。10YR5/6

9　明褐色土層　粘性弱し。ローム粒子多量、パミス極小粒微量含む。7.5YR5/6

第131図　H10号住居址カマド実測図

確認面からの壁残高は38.5～59cmを測る。壁体は全体層序第Ⅳ層の明黄褐色ロームを利用し、平滑で堅固である。床面はおおむね平坦で貼床と周溝が認められた。貼床は第５層によって貼られる。

ピットは、主柱穴４個（P_1～P_4）、補助柱穴４個（P_5～P_8）、入口施設に伴う柱穴３個（P_9～P_{11}）、貯蔵穴１個（P_{12}）の計12個が検出された。

カマドは北壁中央やや東寄りで検出された。残存状況は、極めて悪く左右の袖がかろうじて残るのみであった。また袖石と考えられる安山岩が２個、北壁西側で検出された。残存する規模は焚口（推定）より煙道出口まで148cm、袖部の巾101cmを測る。また右側の袖は長さ49cmで巾41cm・高さ5.5～10.5cm、左側の袖は長さ74cmで巾38cm・高さ7～18cmを測る。覆土は６層に分割された。残存するカマド各部の構築状況は以下のとおりである。袖部は第７層～第９層によって、燃焼部と焚口・煙道下部は第９層によって構築される。

遺物は土師器の甕・坏等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代後期中葉に位置付けられる。

11）H11号住居址

H11号住居址は、下聖端遺跡の調査区南側、け～さ－73～75グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第Ⅳ層上面において単独で検出された。

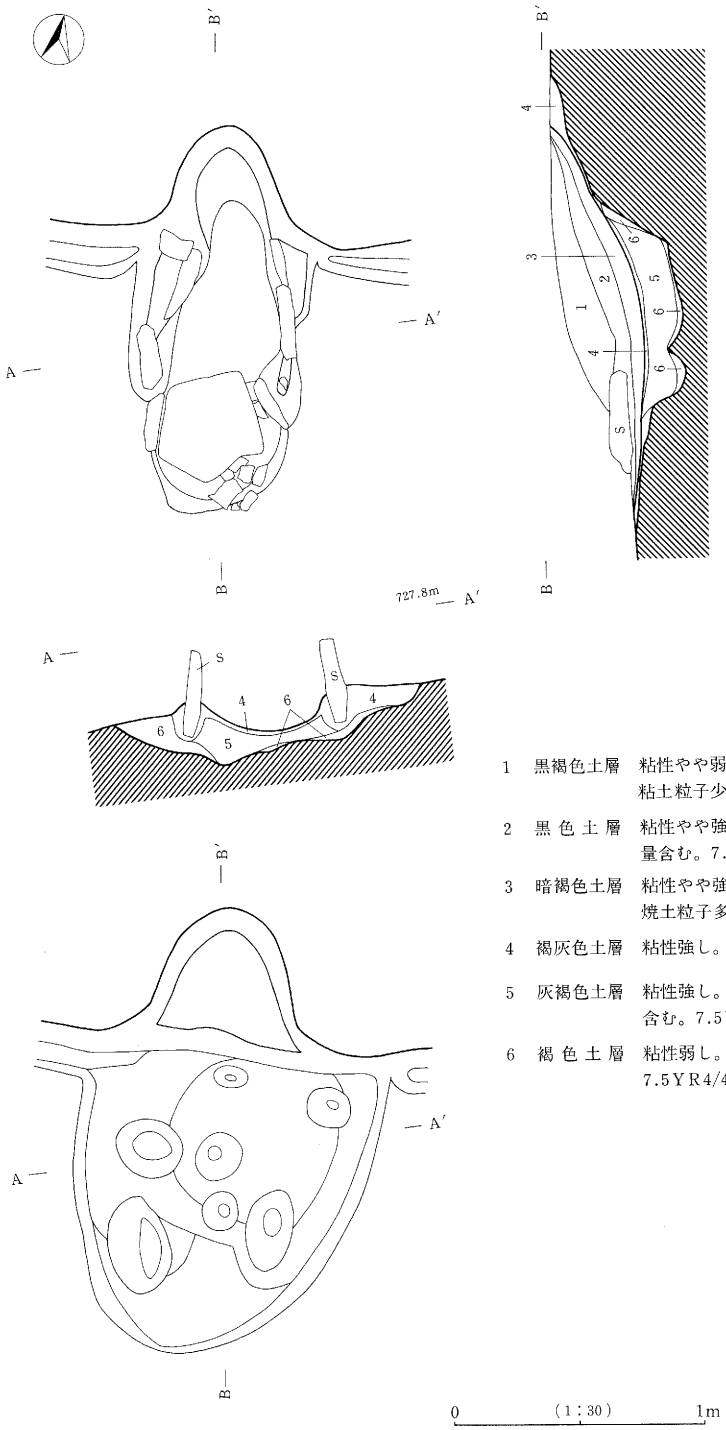
平面形態は、南北624cm（南側貼出部を含めると747cm）、東西662cmを測る方形を呈する。主軸方位はN－6°－Wを指す。また床面積は37.1m²を測る。

覆土は５層に分割された。

確認面からの壁残高は20.5～33cmを測る。壁体は全体層序第Ⅳ層の明黄褐色ロームを利用し、平滑で堅固である。床面はおおむね平坦で貼床と周溝が認められた。貼床は第６層によって貼られる。

ピットは、主柱穴６個（P_1～P_6）、補助柱穴４個（P_7～P_{10}）、入口施設に伴う柱穴１個（P_{11}）、貯蔵穴１個（P_{12}）の計12個が検出された。また周溝内より59個のピットが検出された。

カマドは北壁中央で検出された。残存状況は比較的悪く、煙道天井部が失われていた。また煙道の天井石・袖の構築材としての安山岩が床面に散乱していた。残存する規模は焚口より煙道出口まで154cm、袖部の巾70cmを測る。また右側の袖は長さ78cmで巾19cm・高さ6～26cm、左側の袖は長さ96cmで巾29cm・高さ10～25.5cmを測る。覆土は３層に分割された。残存するカマド各部の構築状況は以下のとおりである。袖部は第４層～第６層および安山岩によって、燃焼部と焚口は第４層～第６層によって、煙道下部は第４層・第６層によって構築される。



1　黒褐色土層　粘性やや弱し。パミス小粒・炭化粒子・粘土粒子少量含む。7.5YR2/1

2　黒色土層　粘性やや強し。炭化粒子・粘土粒子多量含む。7.5YR2/1

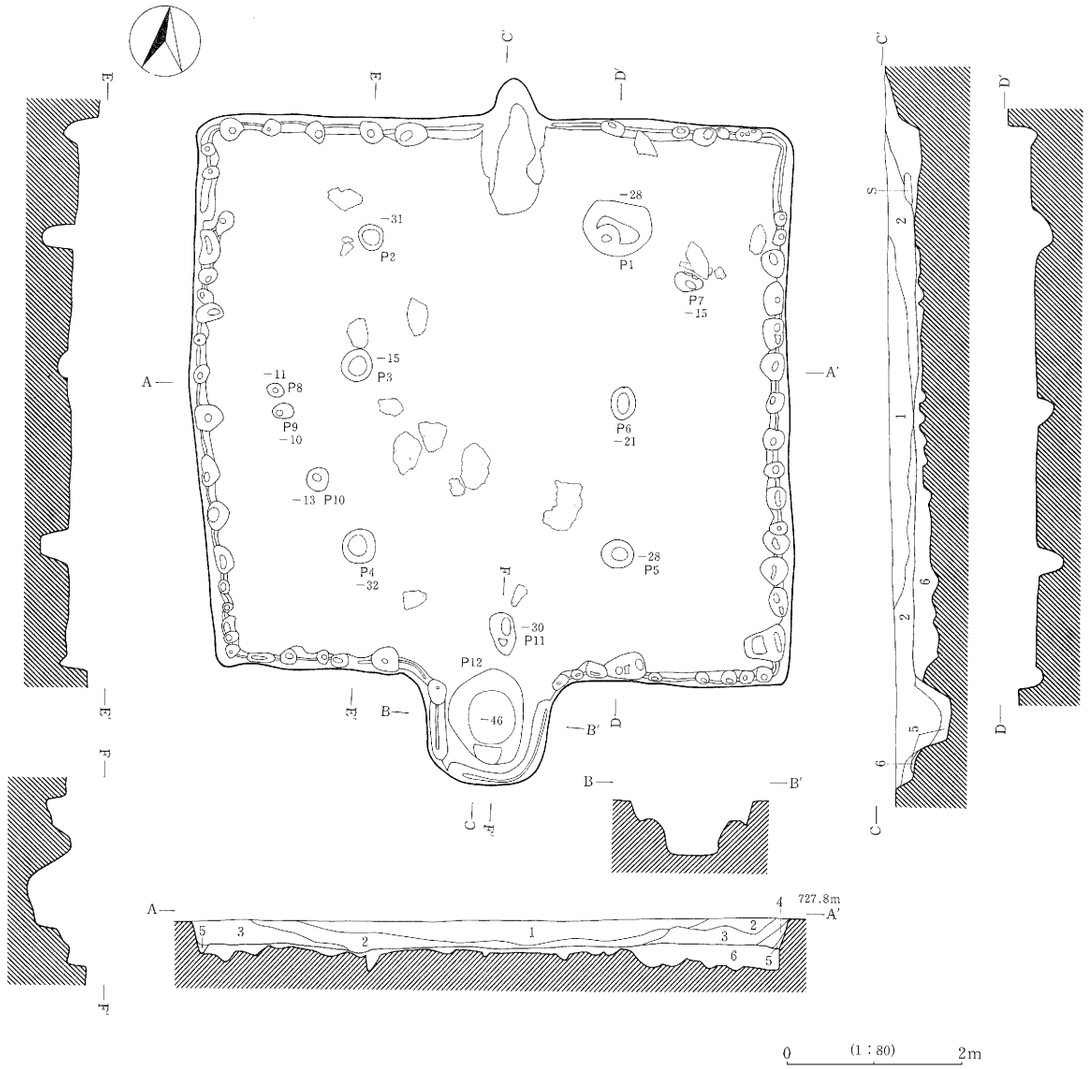
3　暗褐色土層　粘性やや強し。炭化粒子・粘土粒子・焼土粒子多量含む。7.5YR3/3

4　褐灰色土層　粘性強し。粘土主体。7.5YR4/1

5　灰褐色土層　粘性強し。粘土主体。ローム粒子少量含む。7.5YR4/2

6　褐色土層　粘性弱し。ローム粒子多量含む。7.5YR4/4

第132図　H11号住居址カマド実測図



1　黒　褐　色　土　層　粘性やや弱し。ローム粒子・パミス微量含む。10YR2/2

2　黒　褐　色　土　層　粘性やや弱し。ローム粒子・パミス・焼土粒子・炭化粒子微量含む。10YR2/3

3　暗　褐　色　土　層　粘性弱し。ローム粒子少量、パミス・炭化粒子微量含む。10YR3/3

4　黒　褐　色　土　層　粘性やや弱し。ローム粒子・パミス・炭化粒子微量含む。10YR3/2

5　褐　色　土　層　粘性弱し。ローム粒子少量、パミス微量含む。10YR4/4

6　にぶい黄褐色土層　粘性弱し。ローム粒子多量、パミス微量含む。10YR5/3

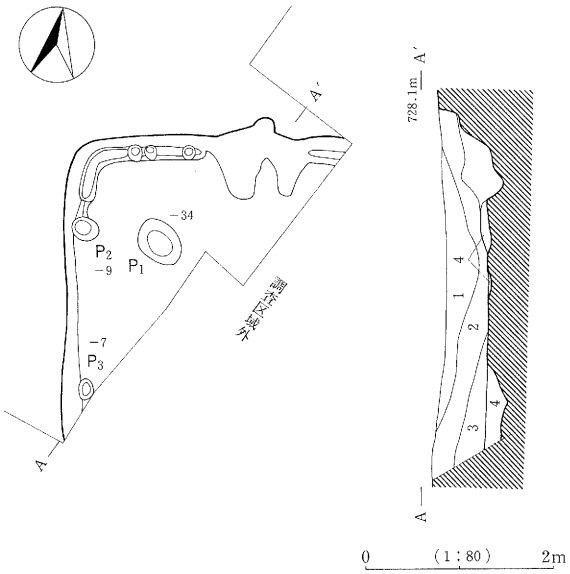
第133図　H11号住居址実測図

本住居址は焼失住居址で、床面北東部を中心に焼土と炭化材が検出された。

遺物は土師器の甕・坏等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代後期中葉に位置付けられる。

12) H12号住居址



1　黒褐色土層　粘性弱し。パミス微量含む。10YR3/2

2　黒褐色土層　粘性やや強し。パミス・炭化粒子微量含む。10YR2/2

3　暗褐色土層　粘性弱し。ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量含む。10YR3/3

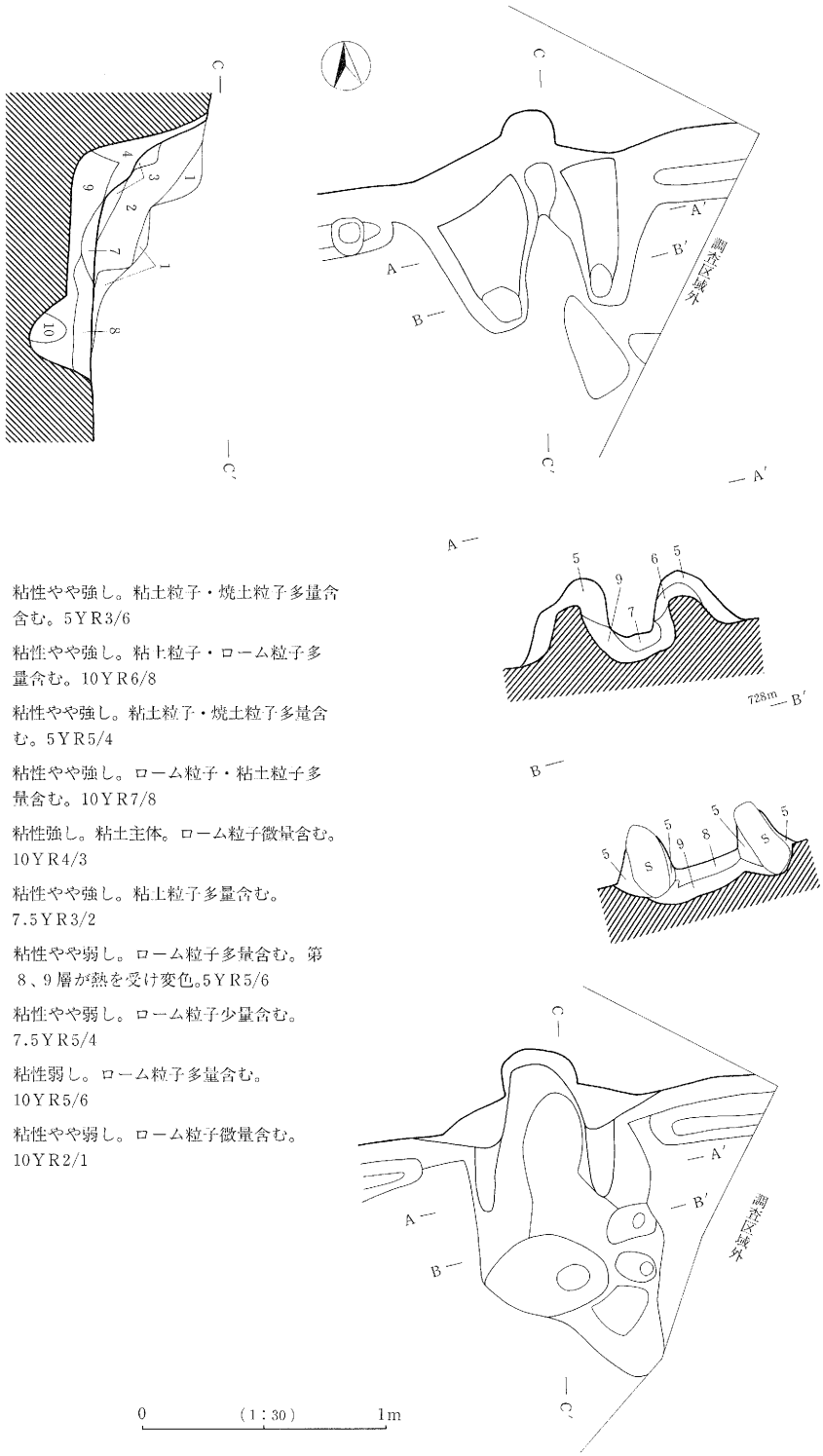
4　黒褐色土層　粘性弱し。パミス・ローム粒子微量含む。10YR2/3

第134図　H12号住居址実測図

H12号住居址は、下聖端遺跡の調査区南側、お・か−71・72グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第Ⅳ層上面において単独で検出された。なお南東半分は調査区域外である。

確認された現存規模は、北壁で274cm、西壁で286cmを測り、方形を呈すると考えられる。主軸方位はN−9°−Wを指す。また現存する床面積は3.25m²を測る。

覆土は3層に分割された。



1　暗赤褐色土層　粘性やや強し。粘土粒子・焼土粒子多量含含む。5YR3/6

2　明黄褐色土層　粘性やや強し。粘土粒子・ローム粒子多量含む。10YR6/8

3　にぶい赤褐色土層　粘性やや強し。粘土粒子・焼土粒子多量含む。5YR5/4

4　黄橙色土層　粘性やや強し。ローム粒子・粘土粒子多量含む。10YR7/8

5　にぶい黄褐色土層　粘性強し。粘土主体。ローム粒子微量含む。10YR4/3

6　黒褐色土層　粘性やや強し。粘土粒子多量含む。7.5YR3/2

7　明赤褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子多量含む。第8、9層が熱を受け変色。5YR5/6

8　にぶい褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子少量含む。7.5YR5/4

9　黄褐色土層　粘性弱し。ローム粒子多量含む。10YR5/6

10　黒色土層　粘性やや弱し。ローム粒子微量含む。10YR2/1

第135図　H12号住居址カマド実測図

確認面からの壁残高は36～48cmを測る。壁体は全体層序第Ⅳ層の明黄褐色ロームを利用し、平滑で堅固である。床面はおおむね平坦で貼床と周溝が認められた。貼床は第４層によって貼られる。

ピットは主柱穴１個（P_1）のみが検出された。また周溝内より５個のピットが検出された。カマドは北壁で検出された。残存状況は比較的悪く、煙道・袖天井部が失われていた。また安山岩製の袖の天井石が焚口付近で検出された。残存する規模は焚口より煙道出口まで109cm、袖部の巾88cmを測る。また右側の袖は長さ62cmで巾29cm・高さ19.5～34cm、左側の袖は長さ71cmで巾35cm・高さ24～33.5cmを測る。覆土は３層に分割された。残存するカマド各部の構築状況は以下のとおりである。袖部はローム造り出しで、その上に第５層～第９層が貼られる。燃焼部と焚口は第７層～第10層によって、煙道下部は第４層・第９層によって構築される。

本住居址は焼失住居址で、住居址覆土第３層中において焼土と炭化材微小片が確認された。

遺物は土師器の甕・坏等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代後期中葉に位置付けられる。

13）H13号住居址

H13号住居址は、上大林遺跡の調査区南側、い～え－22･23グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第Ⅳ層上面において単独で検出された。

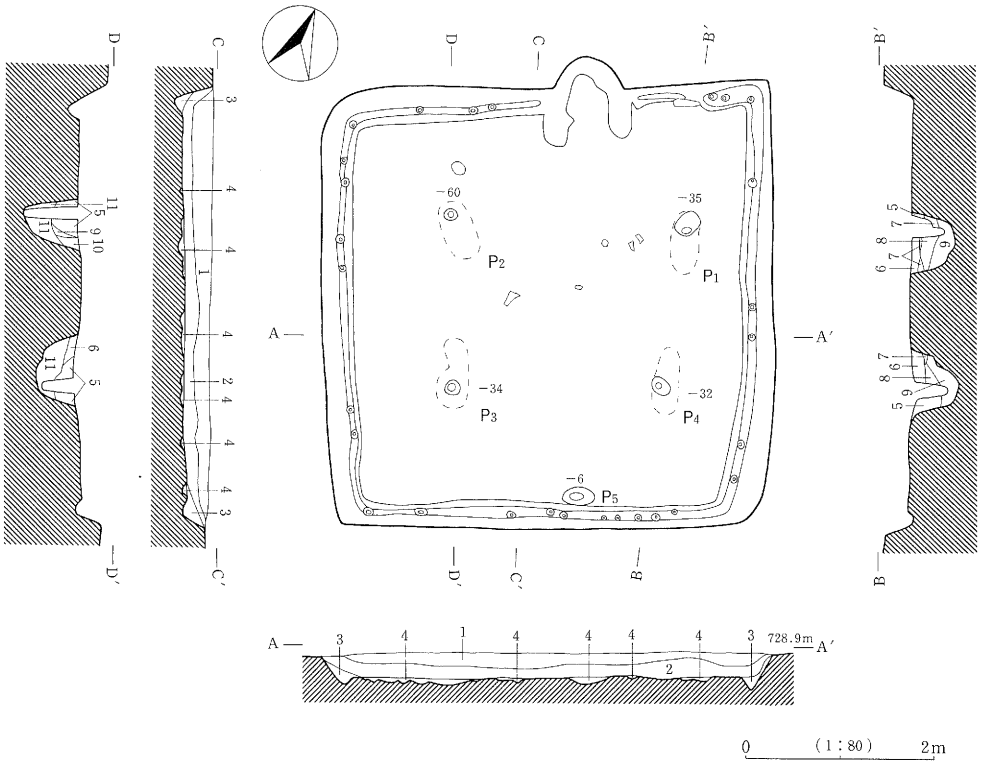
平面形態は、南北437cm・東西443cmを測る方形を呈する。主軸方位はN－22°－Wを指す。また床面積は16.77m²を測る。

覆土は３層に分割された。

確認面からの壁残高は18～32.5cmを測る。壁体は全体層序第Ⅳ層の明黄褐色ロームを利用し、平滑で堅固である。床面はおおむね平坦で貼床と周溝が認められた。貼床は第４層によって貼られる。また第５層～第11層は柱を据える際の埋土と考えられる。

ピットは主柱穴４個（P_1～P_4）、入口施設に伴う柱穴１個（P_5）の計５個が検出された。また周溝内より28個のピットが検出された。

カマドは北壁中央やや東寄りで検出された。残存状況は比較的悪く、煙道・袖天井部は失われていたが、安山岩製の袖石と軽石製の支脚石が残存していた。残存する規模は焚口より煙道出口まで99cm、袖部の巾93cmを測る。また右側の袖は長さ53cmで巾23cm・高さ17.5～27cm、左側の袖は長さ61cmで巾25cm・高さ21.5～28cmを測る。覆土は４層に分割された。残存するカマド各部の構築状況は以下のとおりである。袖部は第８層・第９層によって、燃焼部と焚口は第６層・第７層によって、煙道下部は第５層によって構築される。



1　黒褐色土層　粘性やや強し。ローム粒子・炭化粒子・炭化材小片微量含む。10YR2/2

2　暗褐色土層　粘性やや弱し。パミス極小粒・炭化材微小片微量、ローム粒子少量含む。10YR3/3

3　褐色土層　粘性弱し。ローム粒子多量含む。10YR4/6

4　黒褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子少量含む。10YR3/2

5　暗褐色土層　粘性弱し。ローム粒子少量含む。10YR3/4

6　黄褐色土層　粘性弱し。ローム主体。10YR5/6

7　黒褐色土層　粘性やや弱し。ローム粒子(ブロック状)少量含む。10YR2/3

8　褐色土層　粘性弱し。ローム粒子(ブロック状)多量含む。10YR4/4

9　褐色土層　粘性弱し。ローム粒子(ブロック状)多量、パミス微量含む。10YR4/6

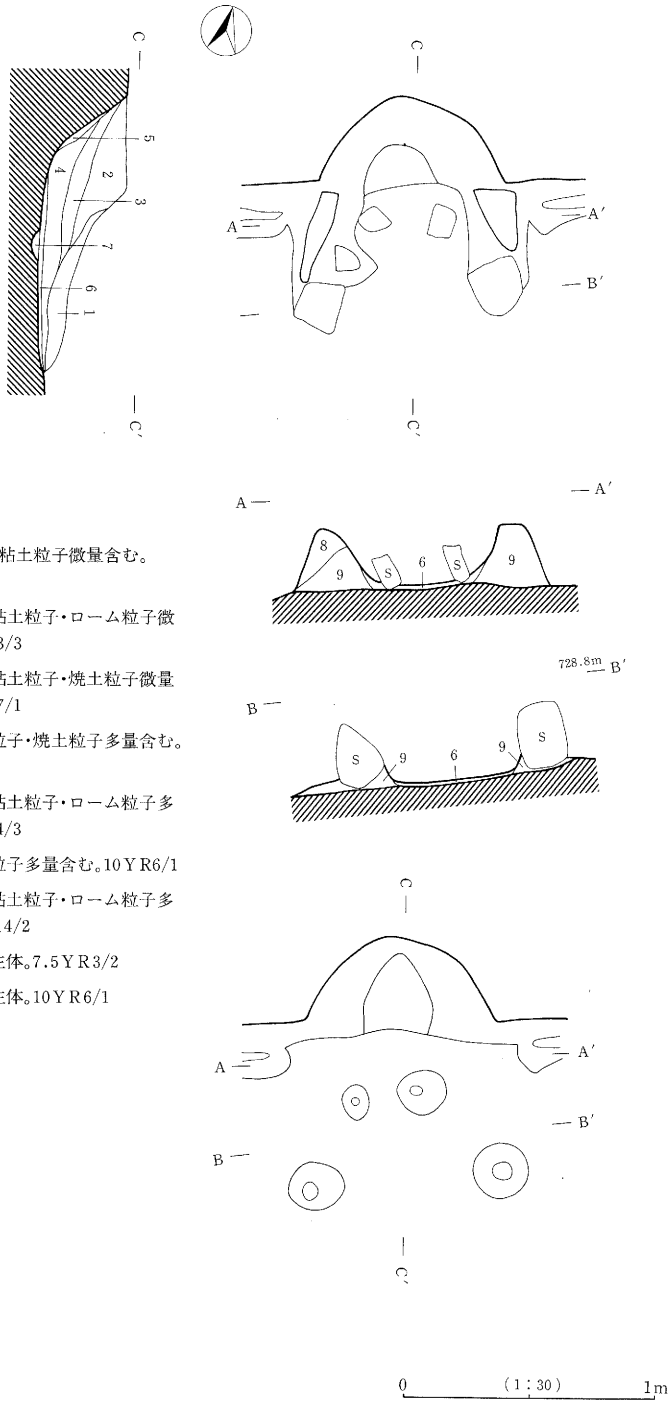
10　暗褐色土層　粘性弱し。ローム粒子少量、パミス微量含む。10YR3/4

11　明黄褐色土層　粘性弱し。ローム粒子多量含む。10YR6/6

第136図　H13号住居址実測図

遺物は土師器の甕・坏・高坏、須恵器の坏蓋等が出土した。

以上より本住居址は、奈良時代に位置付けられる。



1　黒褐色土層　粘性やや強し。粘土粒子微量含む。10YR3/2

2　暗褐色土層　粘性やや強し。粘土粒子・ローム粒子微量含む。10YR3/3

3　黒色土層　粘性やや強し。粘土粒子・焼土粒子微量含む。10YR1.7/1

4　黒褐色土層　粘性強し。粘土粒子・焼土粒子多量含む。10YR2/2

5　にぶい黄褐色土層　粘性やや弱し。粘土粒子・ローム粒子多量含む。10YR4/3

6　赤灰色土層　粘性強し。粘土粒子多量含む。10YR6/1

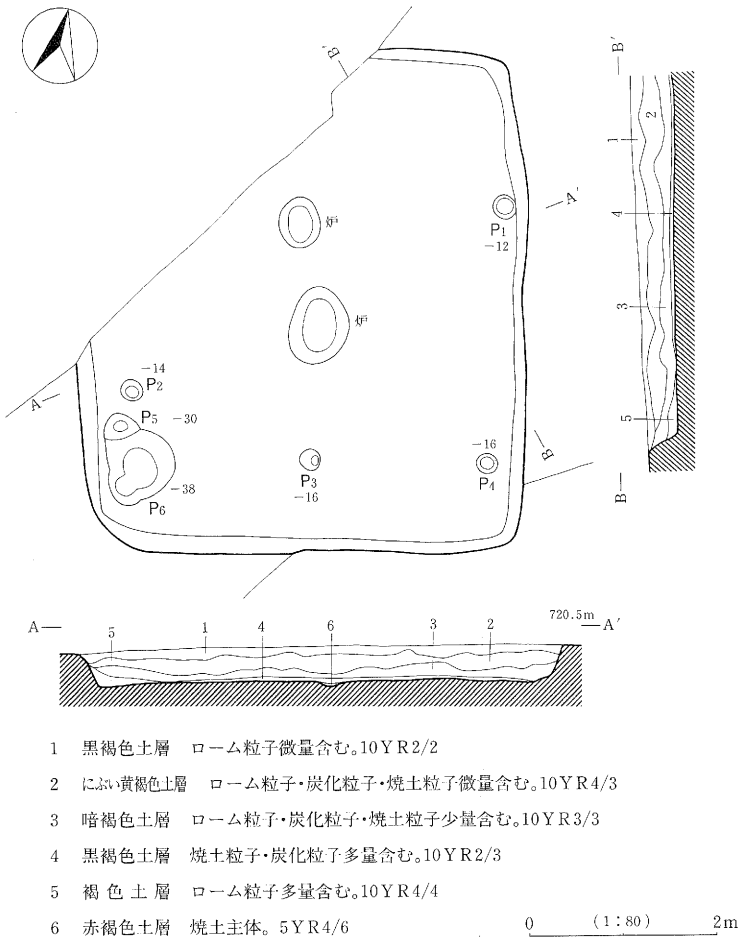
7　灰褐色土層　粘性やや強し。粘土粒子・ローム粒子多量含む。7.5YR4/2

8　黒褐色土層　粘性強し。粘土主体。7.5YR3/2

9　赤灰色土層　粘性強し。粘土主体。10YR6/1

第137図　H13号住居址カマド実測図

14) H14号住居址



第138図 H14号住居址実測図

H14号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区北側、ふ・へ−44・45グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第IV層上面において検出され、北西部をM8号溝状遺構に南東上部をM6号溝状遺構に破壊される。

平面形態は、南北で512cm、東西で442cmを測り、南北にやや長い方形を呈する。主軸方位はN−18°−Eを指す。床面積は17.91m²を測る。

覆土は3層に分割された。

確認面からの壁残高は27〜48cmを測る。壁体は全体層序第IV層の明黄褐色ロームを利用し堅固である。床面はおおむね平坦で固く締まっていた。

ピットは6個が検出された。

炉は住居址中央と北側中央において検出された。前者は82cm×61cm・深さ4.5を測り、後者は54cm×44cm・深さ5cmを測る。覆土は住居址土層第6層のみが確認された。

本住居址は焼失住居址で、床面が焼け、覆土中より焼土と炭化材小片が確認された。

遺物は土師器の甕・坏等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代中期後葉に位置付けられる。

15) H15号住居址

H15号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区南側、と～に－44～46グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第IV層上面において単独で検出された。

平面形態は、南北で494cm、東西で466cmを測り、方形を呈する。主軸方位はN－14°－Wを指す。また床面積は22.68m²を測る。

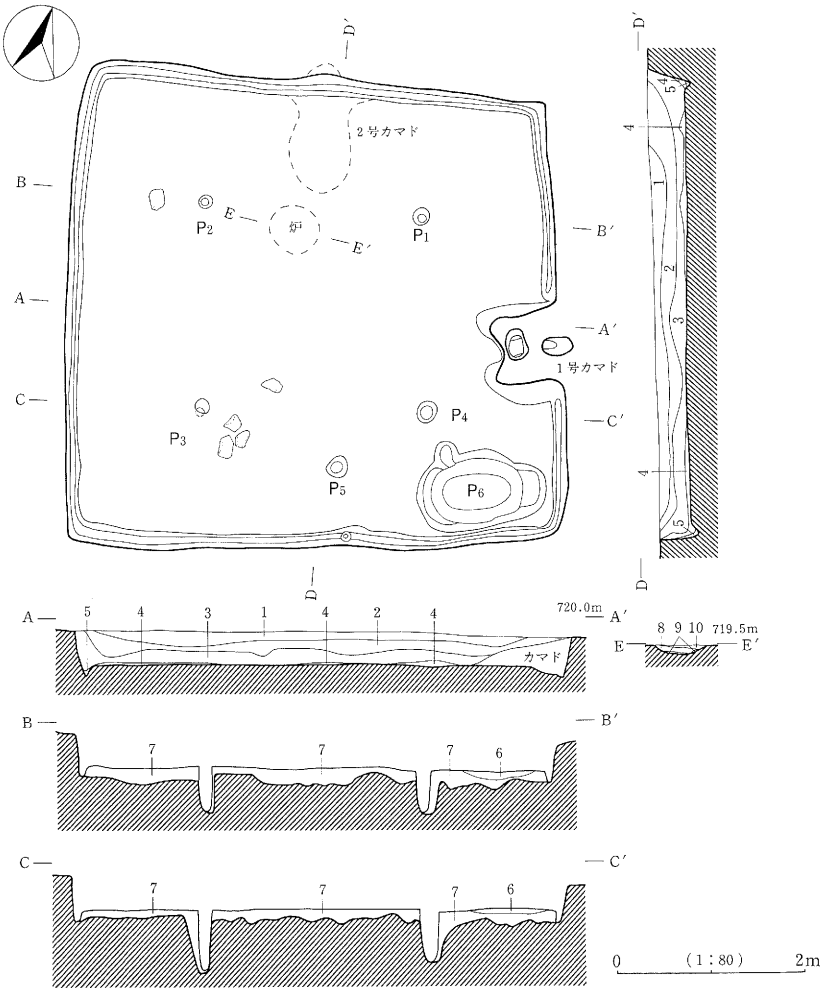
覆土は5層に分割された。

確認面からの壁残高は28～41cmを測る。壁体は全体層序第IV層の明黄褐色ロームを利用し、平滑で堅固である。床面はおおむね平坦で貼床と周溝が認められた。貼床は第6層と第7層によって貼られる。

ピットは主柱穴4個（P_1～P_4）、入口施設に伴う柱穴1個（P_5）、貯蔵穴1個（P_6）の計6個が検出された。

カマドは北壁中央と東壁中央やや南寄りの2ヵ所で検出された。便宜上、北壁のカマドを第2号カマド、東壁のカマドを第1号カマドとした。第1号カマドはほぼ完全な形で検出された。規模は、焚口より煙道出口まで105cmで袖部の巾108cm、かけ穴の巾33cmを測る。また右側の袖は長さ81cmで巾54cm・高さ15～22cm、左側の袖は長さ84cmで巾32cm・高さ15～25cmを測る。覆土は7層に分割された。カマド各部の構築状況は以下のとおりである。袖部は第8層と第9層によって、焚口は第9層によって、燃焼部は第8層と第9層によって、煙道下部は第8層によって、煙道天井部は第10層によって、袖焚口天井部は第8層によって構築される。またかけ穴中央部より安山岩製の支脚石が検出された。この支脚石は床に打ち込まれていた。なお袖石・袖天井石が使用されず全て粘土によって構築されたカマドは初見である。第2号カマドは故意に破壊された状態で検出された。土層は2層に分割され、共にカマド破棄時に埋めた層と考えられる。つまり第2号カマドは何等かの事情により破壊・破棄され、新しく東壁に第1号カマドが構築されたと考えられる。なお第1号・第2号カマド共に掘方より周溝が検出された。

炉は北壁主柱穴間において検出された。土層は3層確認され、第3層が使用時の焼土で、第1



1　黒褐色土層　ローム粒子・炭化粒子微量含む。10YR2/2

2　暗褐色土層　ローム粒子少量、パミス・炭化材小片微量含む。
10YR3/3

3　褐色土層　ローム粒子・炭化材小片・焼土粒子少量含む。10YR4/4

4　明褐色土層　焼土主体。炭化材小片多量含む。7.5YR5/8

5　黄褐色土層　ローム粒子多量含む。10YR5/8

6　黒褐色土層　ローム粒子微量含む。10YR2/3

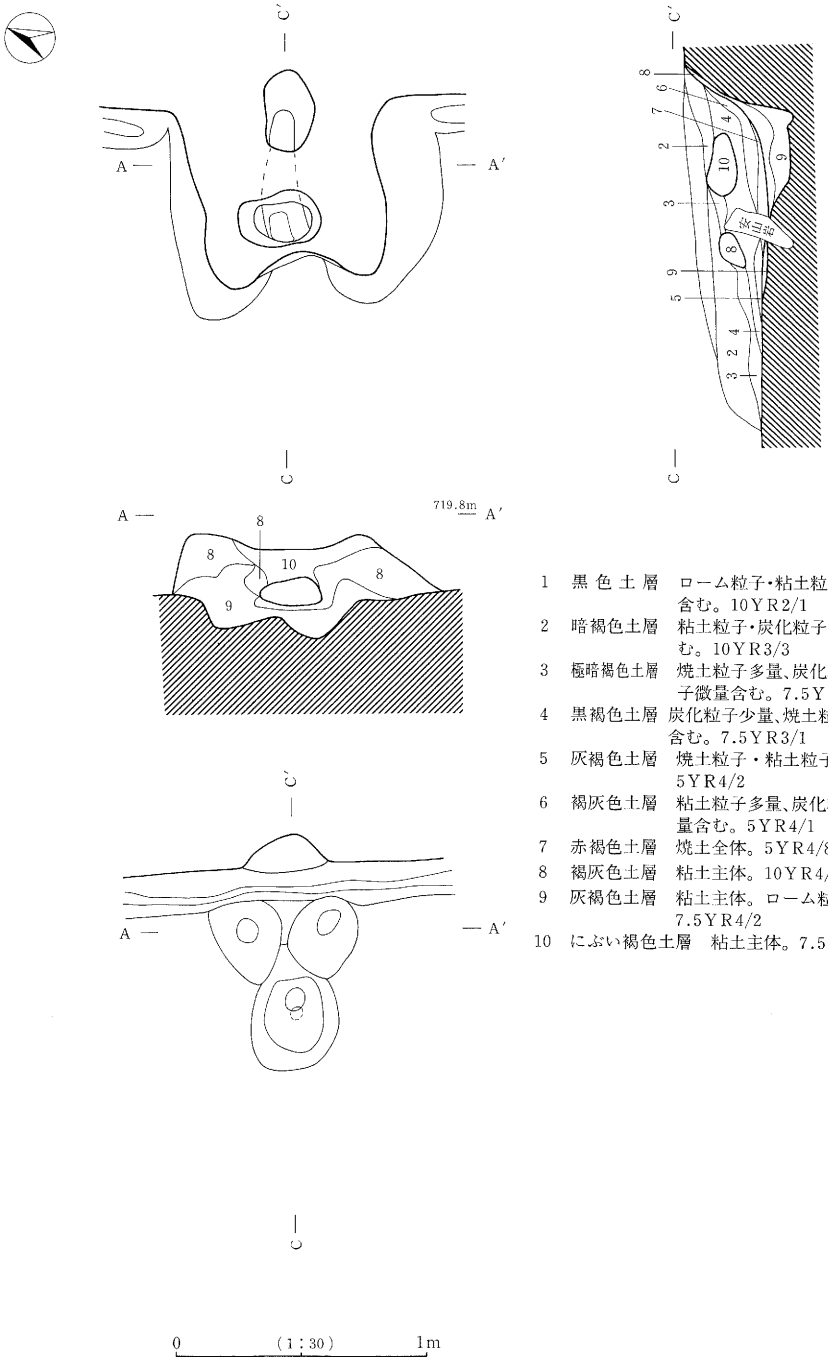
7　にぶい黄褐色土層　ローム(ブロック状)主体。パミス少量含む。
10YR6/4

8　にぶい黄褐色土層　ローム粒子・粘土粒子少量含む。10YR4/3

9　灰黄褐色土層　粘土主体。ローム粒子少量含む。1．10YR4/2

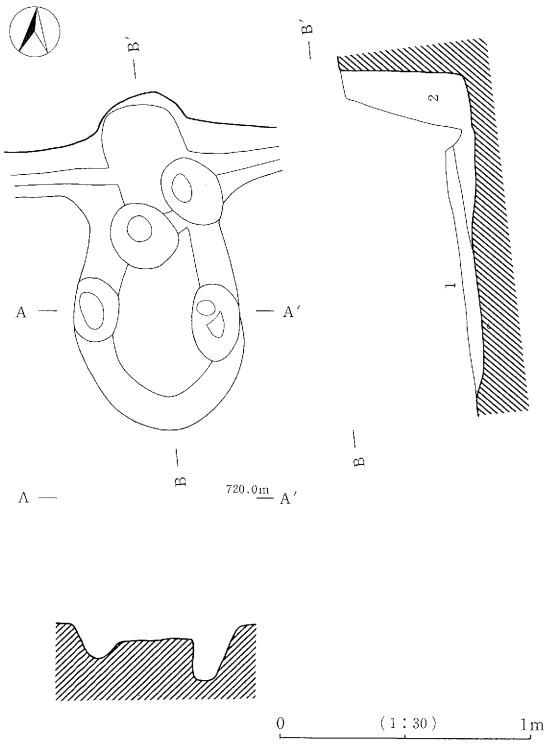
10　明褐色土層　焼土主体。7.5YR5/8

第139図　H15号住居址実測図



1　黒色土層　ローム粒子・粘土粒子・炭化粒子微量含む。10YR2/1
2　暗褐色土層　粘土粒子・炭化粒子・焼土粒子微量含む。10YR3/3
3　極暗褐色土層　焼土粒子多量、炭化粒子少量、粘土粒子微量含む。7.5YR2/3
4　黒褐色土層　炭化粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量含む。7.5YR3/1
5　灰褐色土層　焼土粒子・粘土粒子多量含む。5YR4/2
6　褐灰色土層　粘土粒子多量、炭化粒子・焼土粒子微量含む。5YR4/1
7　赤褐色土層　焼土全体。5YR4/8
8　褐灰色土層　粘土主体。10YR4/1
9　灰褐色土層　粘土主体。ローム粒子微量含む。7.5YR4/2
10　にぶい褐色土層　粘土主体。7.5YR5/4

第140図　H15号住居址1号カマド実測図



1　灰黄褐色土層　粘土粒子多量、ローム粒子少量含む。
　　10YR4/2

2　灰褐色土層　粘土主体。ローム粒子微量含む。
　　7.5YR5/2

第141図　H15号住居址2号カマド実測図

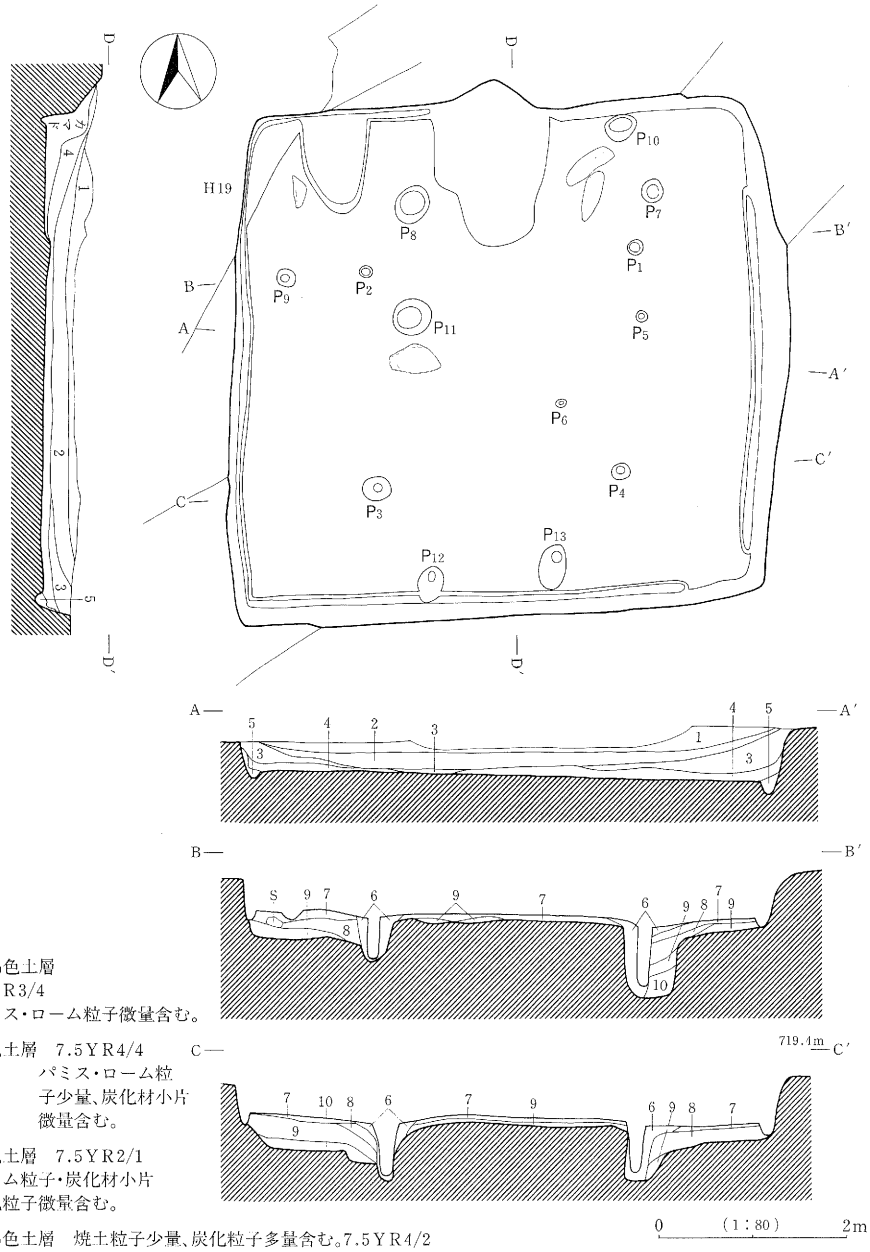
層・第2層が破棄時の埋土と考えられる。

炉とカマドの関係は以下のとおりである。炉→破棄→第2号カマド→破棄→第1号カマド。

本住居址は焼失住居址で、床面がかなり焼け、覆土中より焼土と炭化材小片が確認された。なお第4層は床面直上の焼土層である。

遺物は土師器の甕・坏等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代中期後葉に位置付けられる。



1　暗褐色土層
10YR3/4
パミス・ローム粒子微量含む。

2　褐色土層　7.5YR4/4
パミス・ローム粒子少量、炭化材小片微量含む。

3　黒色土層　7.5YR2/1
ローム粒子・炭化材小片炭化粒子微量含む。

4　灰褐色土層　焼土粒子少量、炭化粒子多量含む。7.5YR4/2

5　暗褐色土層　ローム粒子少量含む。10YR3/3

6　暗褐色土層　ローム粒子微量含む。10YR3/4

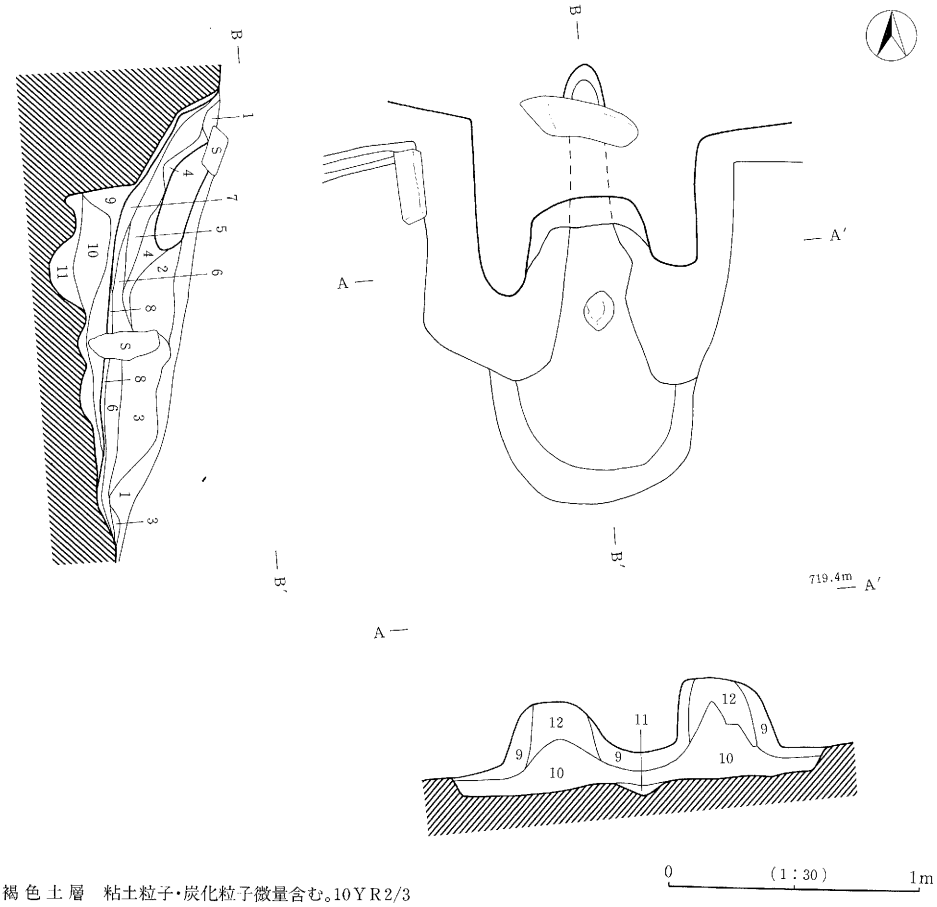
7　にぶい黄褐色土層　ローム粒子・炭化粒子少量含む。10YR5/4

8　黒色土層　パミス微量含む。10YR1.7/1

9　橙色土層　ローム粒子多量含む。7.5YR6/6

10　褐色土層　ローム粒子多量含む。10YR4/6

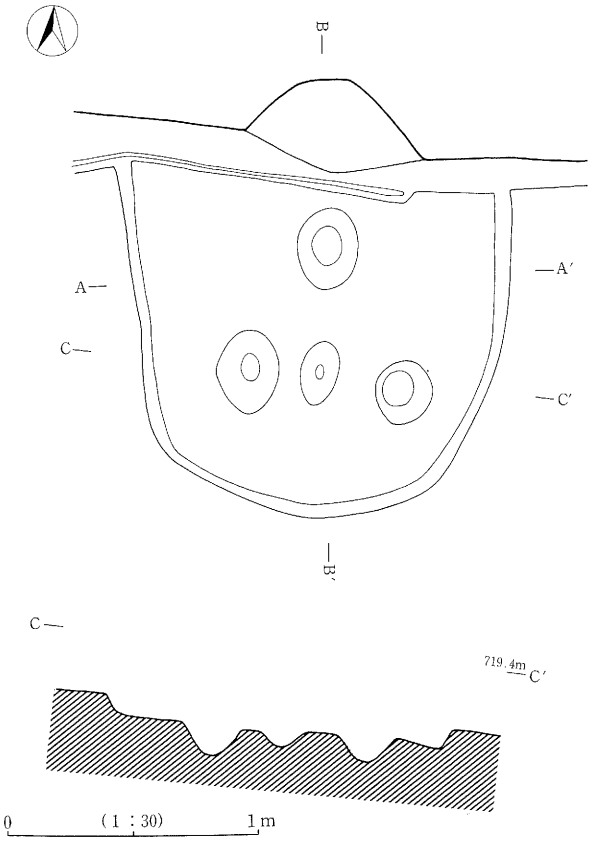
第142図　H16号住居址実測図



1　黒褐色土層　粘土粒子・炭化粒子微量含む。10YR2/3
2　暗褐色土層　焼土粒子・粘土粒子少量含む。7.5YR3/3
3　灰褐色土層　粘土粒子多量含む。7.5YR4/2
4　褐色土層　粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量含む。7.5YR4/3
5　暗褐色土層　粘土粒子・焼土粒子微量・ローム粒子少量含む。7.5YR3/4
6　暗赤褐色土層　粘土粒子・焼土粒子少量含む。5YR3/4
7　灰褐色土層　粘土粒子・ローム粒子少量含む。7.5YR4/2
8　褐色土層　焼土主体。炭化粒子多量含む。7.5YR4/4
9　褐灰色土層　粘土主体。7.5YR4/1
10　黒褐色土層　ローム粒子・パミス極小粒少量含む。10YR2/2
11　黄褐色土層　ローム粒子多量含む。10YR5/6
12　灰黄褐色土層　粘土粒子・ローム粒子多量含む。10YR4/2

第143図　H16号住居址カマド実測図

16) H16号住居址



第144図　H16号住居址カマド掘方実測図

H16号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区南側、こ・さ－5～7グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第IV層上面において検出された。

平面形態は、南北516cm、東西554cmを測り、方形を呈している。主軸方位はN－1°－Eを指す。また床面積は26.52m²を測る。

覆土は5層が確認された。

確認面からの壁残高は、28～60cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっていた。貼床は第7～10層により貼られる。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。なお第6層は柱を据える際の埋土と考えられる。

ピットは、主柱穴4個（P_1～P_4）、入口施設2個（P_{12}・P_{13}）、その他7個の計13個が検出された。

カマドは北壁中央で検出された。残存状況は良好で、焚口より煙道出口までは175cm、袖部の巾122cmを測る。覆土は8層が確認された。構築状況は以下のとおりである。煙道天井部は第9層によって、袖は第9・10・12層によって、煙道下部は第9層によって、燃焼部は第9～11層によって構築される。

本住居址は焼失住居址で、覆土中及び床面で炭化材小片が確認された。なおH19号住居址と重複関係にあるが、コーナーの切り合いのため断定はできない。貼床の状況から本住居址の方が古いと考えたが、時期差はほとんどない。

遺物は土師器の甕・坏、臼玉、石製模造品等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代中期後葉に位置付けられる。

17) H17号住居址

H17号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区南側、は～ふ－47～49グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第IV層上面において検出され、北東上部を現農道に破壊される。

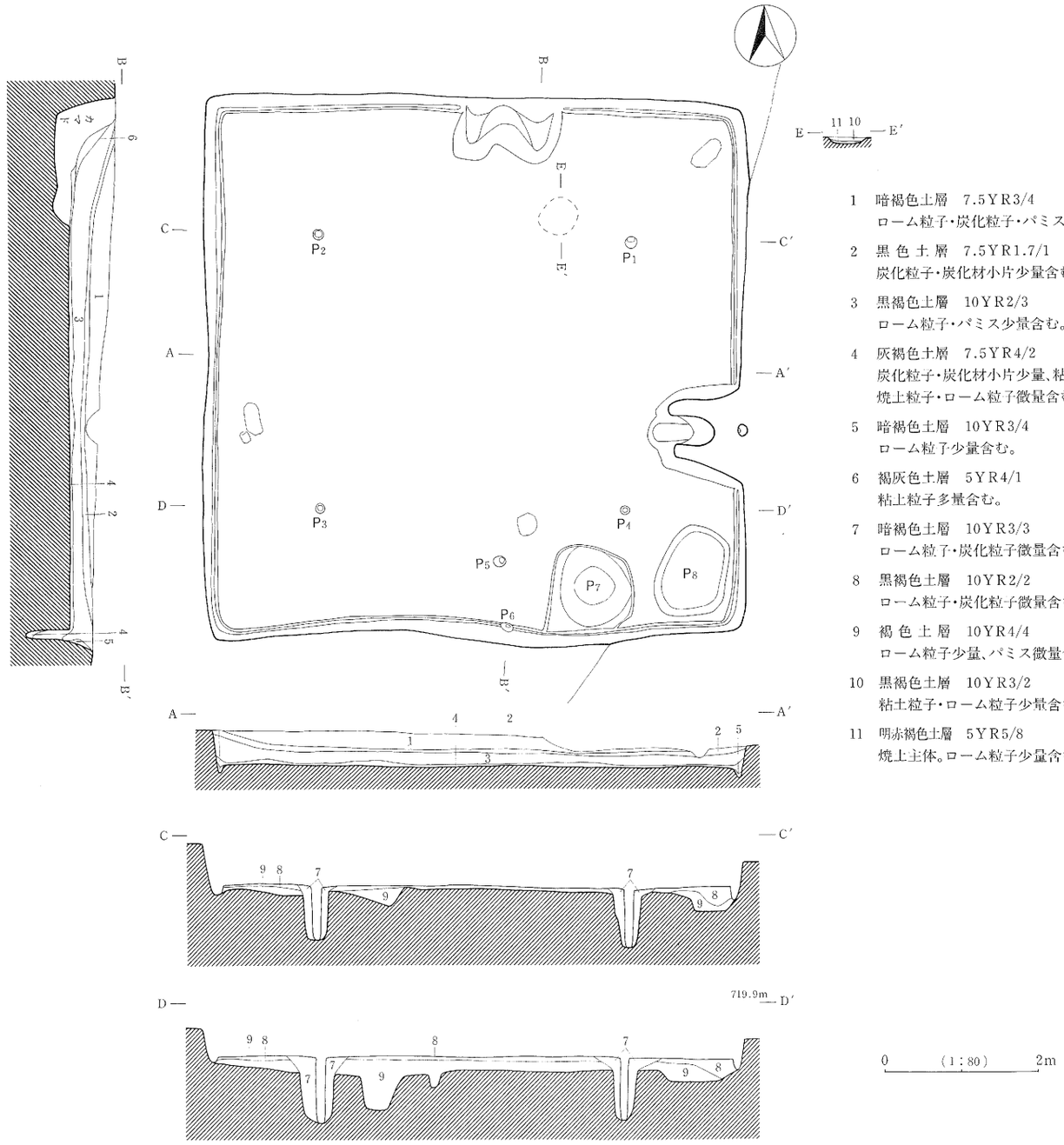
平面形態は、南北で684cm、東西で680cmを測り、方形を呈する。主軸方位はN－2°－Eを指す。また床面積は44.49m²を測る。

覆土は6層に分割された。

確認面からの壁残高は25.5～65cmを測る。壁体は全体層序第IV層の明黄褐色ロームを利用し、平滑で堅固である。床面はおおむね平坦で貼床と周溝が認められた。貼床は第8層と第9層によって貼られる。なお第7層は柱を据える際の埋土と考えられる。

ピットは主柱穴4個（P_1～P_4）、入口施設に伴う柱穴2個（P_5・P_6）、貯蔵穴1個（P_7）、その他1個（P_8）の計8個が検出された。

カマドは北壁中央やや東寄りと東壁中央やや南寄りの2ヵ所で検出された。便宜上、北壁のカマドを第2号カマド、東壁のカマドを第1号カマドとした。第1号カマドは袖天井石が失われた状態で検出された。この袖天井石と考えられる安山岩が南壁中央の床面より検出された。残存する規模は、焚口より煙道出口まで127cmで袖部の巾114cm、かけ穴の巾37cmを測る。また右側の袖は長さ104cmで巾40cm・高さ16.5～24cm、左側の袖は長さ103cmで巾41cm・高さ20.5～27.5cmを測る。覆土は7層に分割された。残存するカマド各部の構築状況は以下のとおりである。袖部は第9層～第13層によって、焚口は第10層によって、燃焼部は第8層～第10層・第12層・第13層によって、煙道下部は第8層～第10層・第12層・第14層によって、煙道天井部は第7層と第8層によって構築される。なおかけ穴中央部より安山岩製の支脚石が検出された。第2号カマドは故意に破壊された状態で検出された。土層は9層に分割された。第3層下面が使用面、第1層が煙道天井



1　暗褐色土層　7.5YR3/4
ローム粒子・炭化粒子・パミス微量含む。

2　黒 色 土 層　7.5YR1.7/1
炭化粒子・炭化材小片少量含む。

3　黒褐色土層　10YR2/3
ローム粒子・パミス少量含む。

4　灰褐色土層　7.5YR4/2
炭化粒子・炭化材小片少量、粘土粒子・焼土粒子・ローム粒子微量含む。

5　暗褐色土層　10YR3/4
ローム粒子少量含む。

6　褐灰色土層　5YR4/1
粘土粒子多量含む。

7　暗褐色土層　10YR3/3
ローム粒子・炭化粒子微量含む。

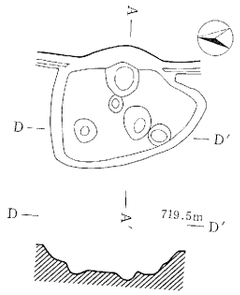
8　黒褐色土層　10YR2/2
ローム粒子・炭化粒子微量含む。

9　褐 色 土 層　10YR4/4
ローム粒子少量、パミス微量含む。

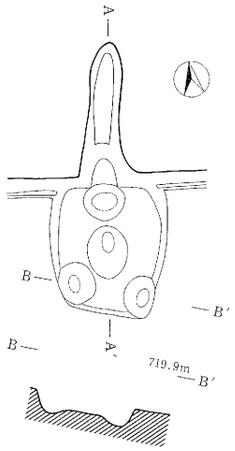
10　黒褐色土層　10YR3/2
粘土粒子・ローム粒子少量含む。

11　明赤褐色土層　5YR5/8
焼土主体。ローム粒子少量含む。

0　(1:80)　2m

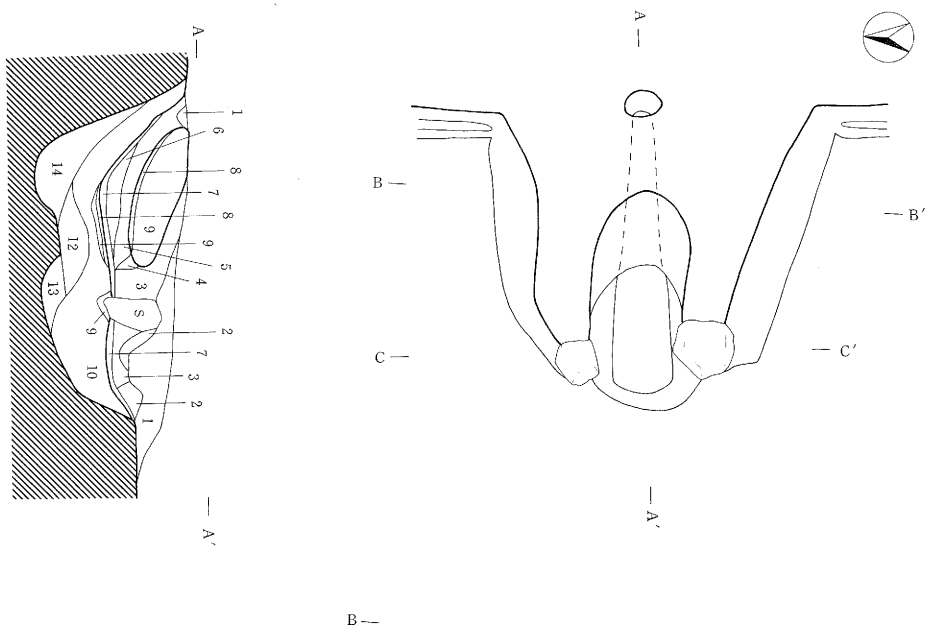


1号カマド掘方実測図



2号カマド掘方実測図

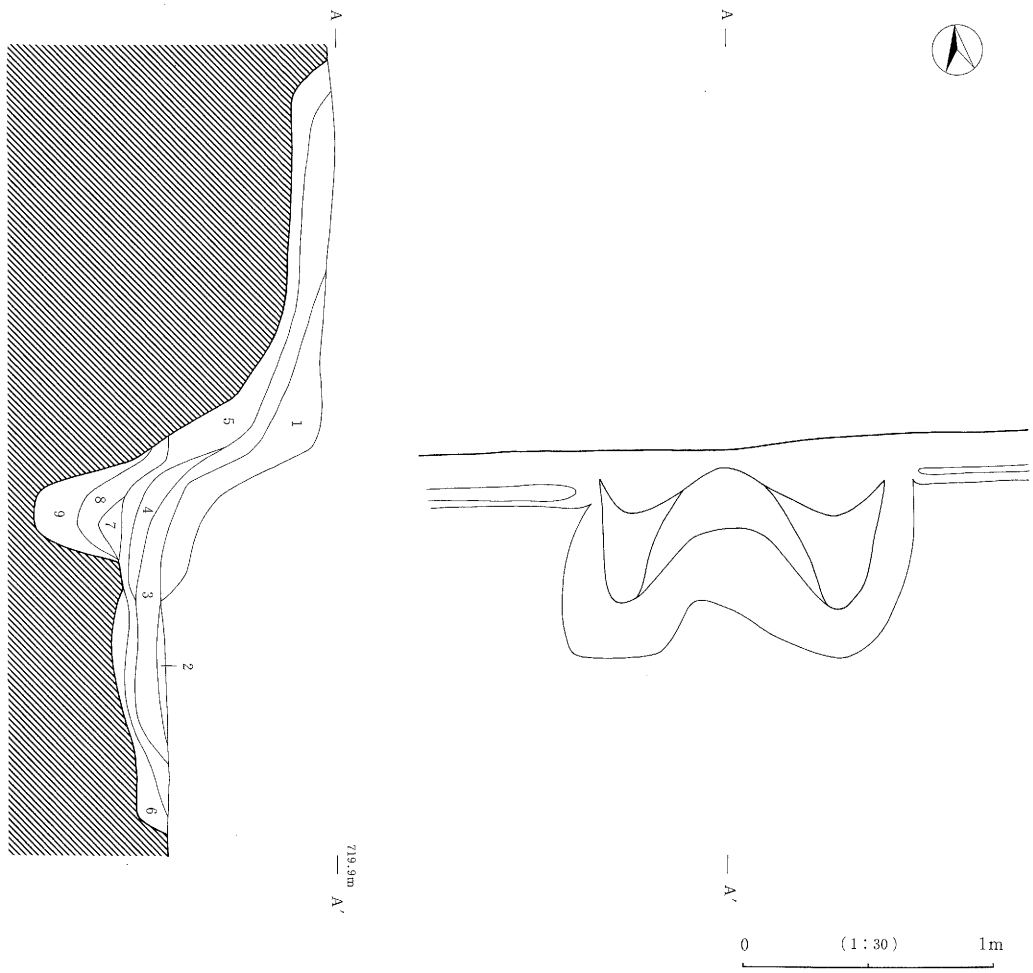
第145図　H17号住居址カマド掘方実測図



1　黒褐色土層　粘土粒子・ローム粒子微量含む。10YR3/2
2　黒褐色土層　粘土粒子・炭化粒子少量含む。10YR3/1
3　褐灰色土層　粘土粒子多量含む。10YR4/1
4　褐灰色土層　粘土主体。10YR5/1
5　褐色土層　焼土粒子・ローム粒子少量、粘土粒子微量含む。10YR4/4
6　にぶい赤褐色土層　焼土粒子・ローム粒子少量含む。5YR4/3
7　暗赤褐色土層　焼土主体。炭化粒子多量含む。5YR3/6
8　灰褐色土層　粘土主体。第9層が熱により変色。5YR4/2
9　褐灰色土層　粘土主体。5YR4/1
10　褐色土層　粘土粒子多量、ローム粒子・炭化材小片・炭化粒子少量含む。7.5YR4/4
11　灰黄褐色土層　粘土主体。10YR5/2
12　にぶい黄褐色土層　粘土粒子多量、ローム粒子炭化粒子少量含む。10YR4/3
13　暗褐色土層　ローム粒子多量、粘土粒子・炭化材小片少量含む。10YR3/4
14　褐灰色土層　粘土主体。7.5YR4/1

0　(1:30)　1m

第146図　H17号住居址1号カマド実測図



1　褐灰色土層　粘土主体。10YR4/1

2　明赤褐色土層　焼土粒子多量、ローム粒子少量含む。5YR5/8

3　黒褐色土層　粘土粒子・ローム粒子少量含む。10YR3/2

4　黒褐色土層　粘土粒子多量含む。10YR3/1

5　灰褐色土層　粘土主体。7.5YR4/2

6　褐色土層　ローム粒子多量、粘土粒子少量含む。10YR4/4

7　黄褐色土層　ローム粒子多量含む。10YR5/6

8　にぶい赤褐色土層　炭化粒子・焼土粒子多量含む。5YR4/3

9　にぶい黄褐色土層　ローム粒子多量、炭化粒子微量含む。10YR4/3

第147図　H17号住居址2号カマド実測図

部の構築土と考えられる。また第２層と第３層はカマド破棄時に埋めた層と考えられる。つまり第２号カマドは何等かの事情により破壊・破棄され、新しく東壁に第１号カマドが構築されたと考えられる。

炉は北壁主柱穴間において検出され、北西部を第２号カマドにより破壊される。土層は２層確認され、第２層が使用時の焼土で、第１層が破棄時の埋土と考えられる。

炉とカマドの関係は以下のとおりである。炉→破棄→第２号カマド→破棄→第１号カマド。

本住居址は焼失住居址で、床面がかなり焼け、覆土中より焼土と炭化材小片が確認された。遺物は土師器の甕・坏、臼玉、管玉、石製模造品等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代中期後葉に位置付けられる。

18) H18号住居址

H18号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区南側、こ・さ－８・９グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第IV層上面において検出された。

平面形態は、南北444cm、東西448cmを測り、方形を呈している。主軸方位はN－６°－Wを指す。また床面積は18.55m²を測る。

覆土は６層が確認された。

確認面からの壁残高は、32～65cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっていた。貼床は第８層により貼られる。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。なお第７層は柱を据える際の埋土と考えられる。

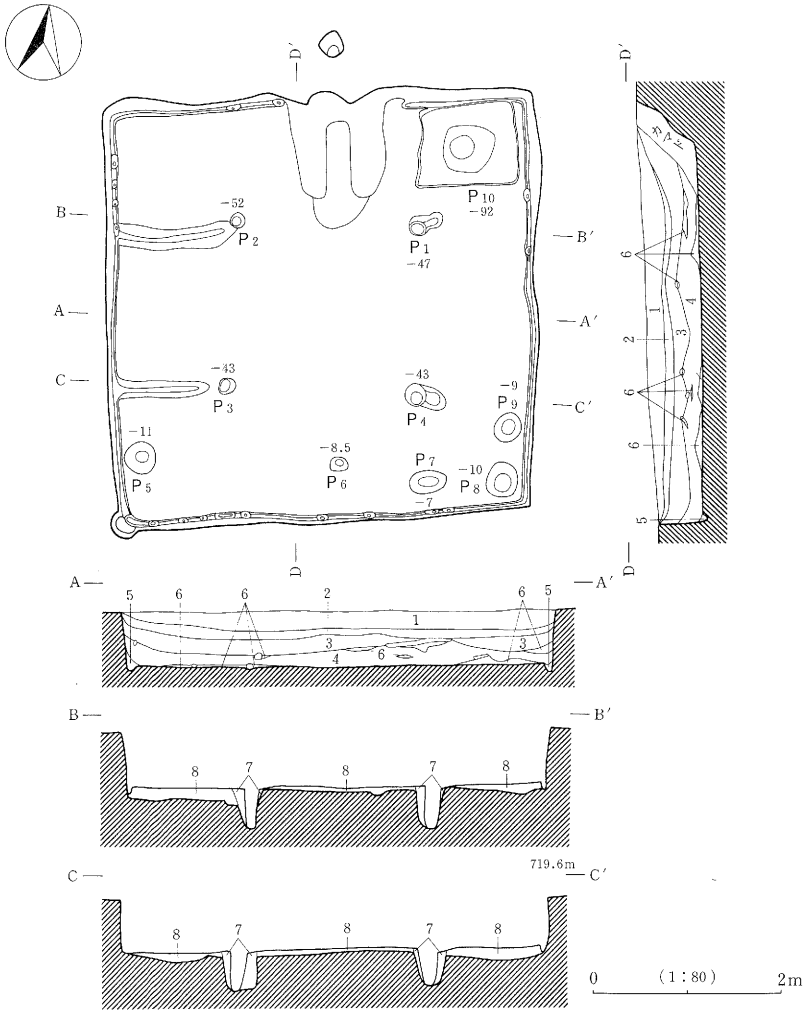
ピットは、主柱穴が４個（P_1～P_4）、貯蔵穴１個（P_{10}）、その他５個の計10個が検出された。

カマドは北壁中央で検出された。残存状況は良好で、焚口より煙道出口までは191cm、袖部の巾96cmを測る。覆土は６層が確認された。構築状況は以下のとおりである。煙道天井部は第８層によって、袖は第８・７層によって、煙道下部は第８層によって、燃焼部は第７・８層によって構築される。

本住居址は焼失住居址で、覆土中及び床面で多量の炭化材が確認された。

遺物は土師器の甕・坏・甑、須恵器の高坏蓋、臼玉等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代中期後葉に位置付けられる。



1　黒褐色土層　ローム粒子・パミス小～中粒微量含む。10YR2/3

2　黒 色 土 層　炭化粒子・パミス小粒微量含む。10YR2/1

3　褐 色 土 層　ローム粒子多量、炭化材小片・炭化粒子・焼土粒子・パミス小～中粒少量含む。10YR4/6

4　黒褐色土層　焼土粒子・炭化粒子・炭化材小片を多量、ローム粒子少量含む。7.5YR3/2

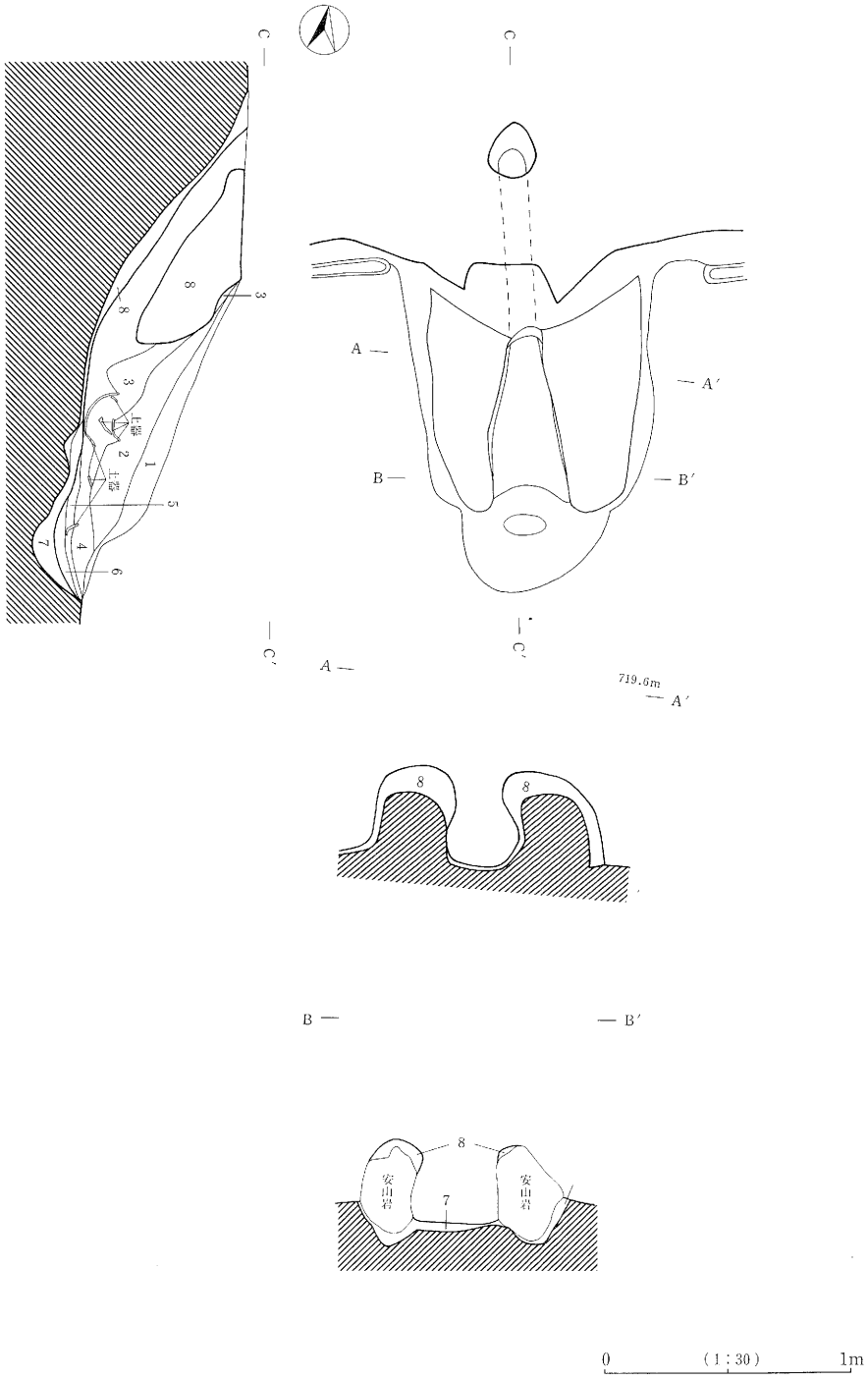
5　暗褐色土層　ローム粒子少量、炭化粒子・炭化材小片を微量含む。7.5YR3/3

6　赤褐色土層　焼土主体。5YR4/8

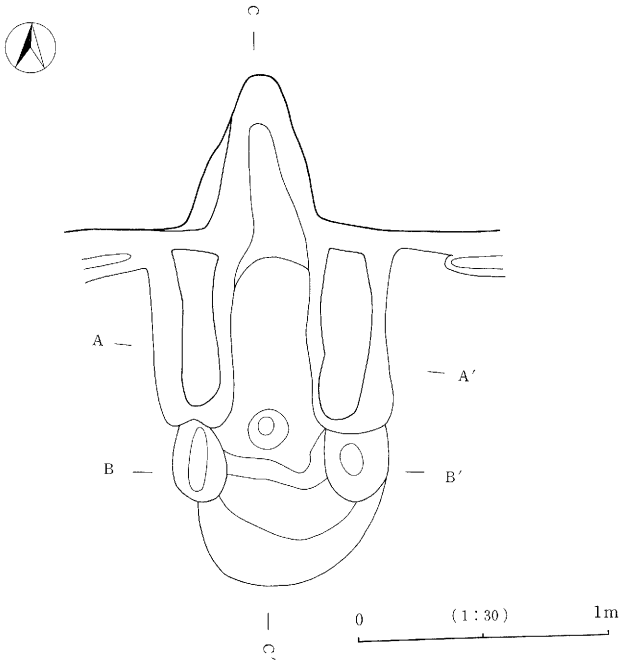
7　黒褐色土層　パミス・ローム粒子微量含む。10YR2/3

8　暗褐色土層　ローム粒子少量、パミス微量含む。10YR3/4

第148図　H18号住居址実測図



第149図　H18号住居址カマド実測図



1　黒褐色土層　炭化材小片・炭化粒子を少量、粘土粒子微量含む。7.5YR2/2

2　褐 色 土 層　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量含む。7.5YR4/3

3　灰褐色土層　粘土粒子・焼土粒子多量、炭化粒子微量含む。5YR4/2

4　暗褐色土層　粘土粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・ローム粒子少量含む。7.5YR3/4

5　極暗赤褐色土層　焼土粒子多量、炭化粒子少量含む。5YR2/4

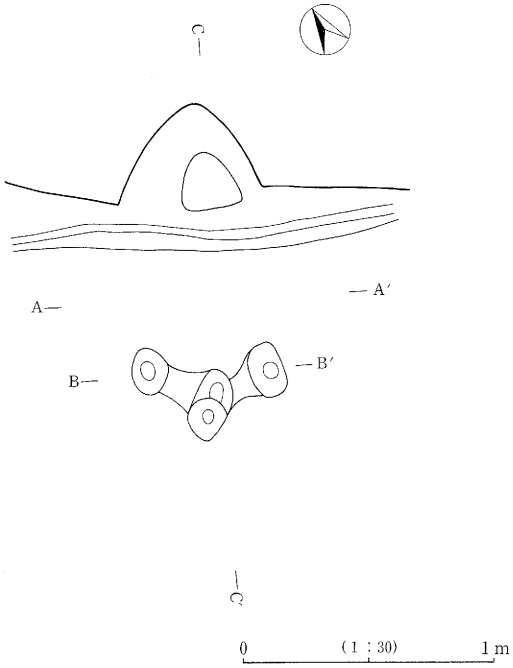
6　赤褐色土層　焼土主体。5YR4/8

7　暗褐色土層　ローム粒子多量、パミス極小粒少量含む。10YR3/4

8　褐灰色土層　粘土主体。7.5YR4/2

第150図　H18号住居址カマド掘方実測図

19) H19号住居址



第151図　H19号住居址１号カマド掘方実測図

H19号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区南側、こ～し－４・５グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第IV層上面において検出された。

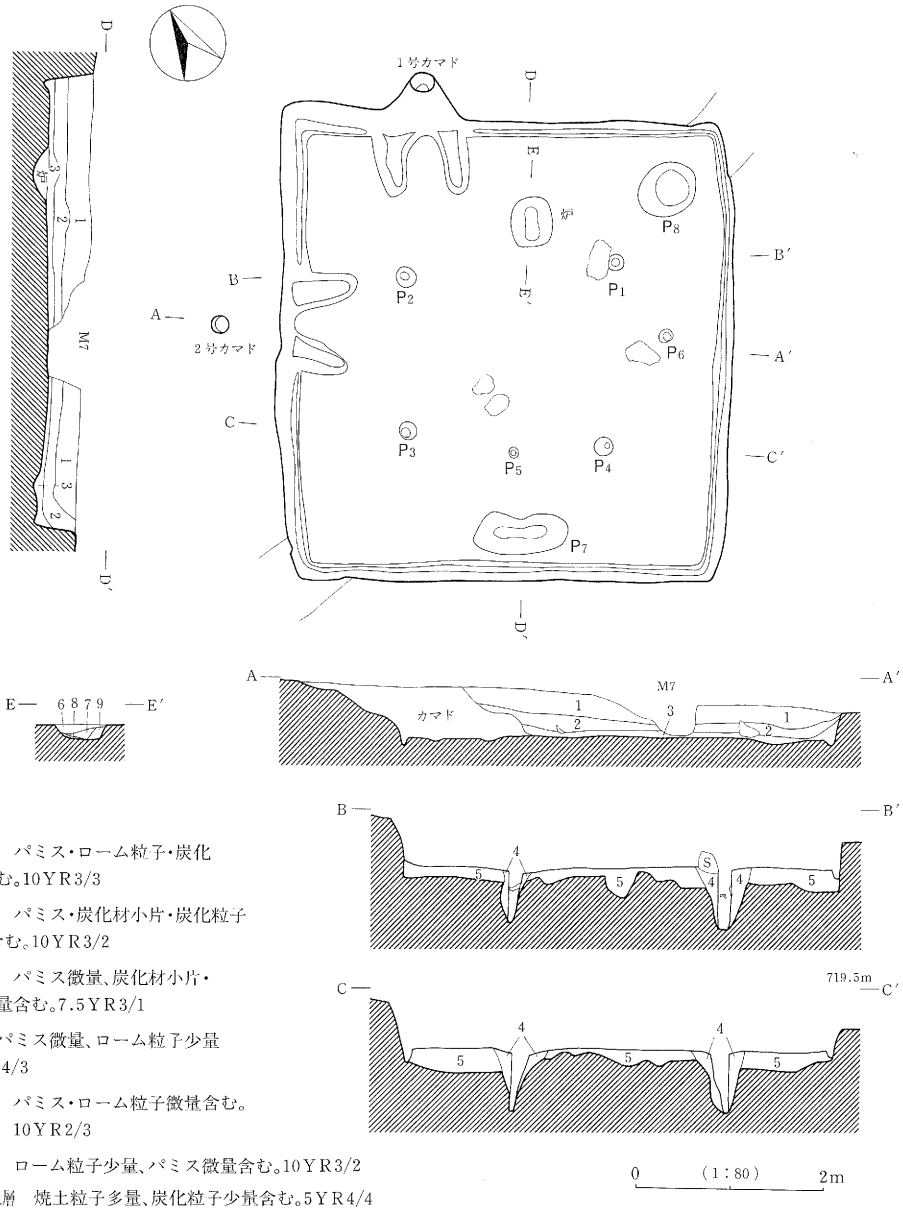
平面形態は、南北456cm、東西472cmを測り、方形を呈している。主軸方位はN－35°－Eを指す。また床面積は19.64m²を測る。

覆土は３層が確認された。

確認面からの壁残高は、9～65cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっていた。貼床は第５層により貼られる。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。なお第４層は柱を据える際の埋土と考えられる。

ピットは、主柱穴４個（P_1～P_4）、貯蔵穴１個（P_8）、入口施設１個（P_7）、その他２個の計６個が検出された。

カマドは北壁中央（１号）と西壁中央（２号）で検出された。１号カマドの残存状況は良好で、焚口より煙道出口までは111cm、袖部の巾85cmを測る。覆土は８層が確認された。構築状況は以下のとおりである。煙道天井部は第８層によって、袖は第９～11層によって、煙道下部と燃焼部は



1 暗褐色土層　パミス・ローム粒子・炭化粒子微量含む。10YR3/3

2 黒褐色土層　パミス・炭化材小片・炭化粒子粒子・微量含む。10YR3/2

3 黒褐色土層　パミス微量、炭化材小片・焼土粒子少量含む。7.5YR3/1

4 褐色土層　パミス微量、ローム粒子少量含む。10YR4/3

5 黒褐色土層　パミス・ローム粒子微量含む。10YR2/3

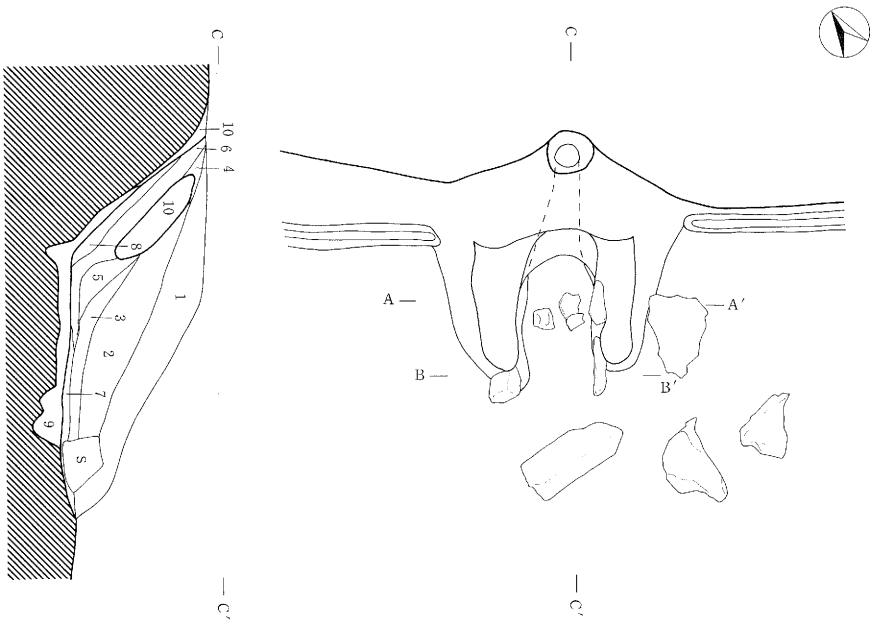
6 黒褐色土層　ローム粒子少量、パミス微量含む。10YR3/2

7 にぶい赤褐色土層　焼土粒子多量、炭化粒子少量含む。5YR4/4

8 赤褐色土層　焼土主体。5YR4/8

9 黒色土層　焼土粒子・炭化粒子微量含む。5YR1.7/1

第152図　H19号住居址実測図



1　灰褐色土層　粘土粒子多量、炭化粒子・ローム粒子を少量含む。5YR4/2

2　黒褐色土層　粘土粒子少量、炭化粒子・ローム粒子・焼土粒子微量含む。7.5YR3/2

3　暗褐色土層　粘土粒子・炭化粒子・焼土粒子を少量含む。7.5YR3/4

4　褐灰色土層　粘土粒子多量、ローム粒子微量含む。7.5YR4/1

5　黒褐色土層　粘土粒子少量、焼土粒子・ローム粒子を微量含む。7.5YR3/1

6　極暗褐色土層　粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒を微量含む。7.5YR2/3

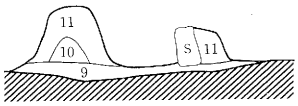
7　赤褐色土層　焼土主体。5YR4/8

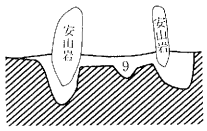
8　黒褐色土層　粘土粒子・炭化粒子少量含む。7.5YR3/2

9　黒褐色土層　炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量含む。10YR2/2

10　褐灰色土層　粘土主体。7.5YR5/1

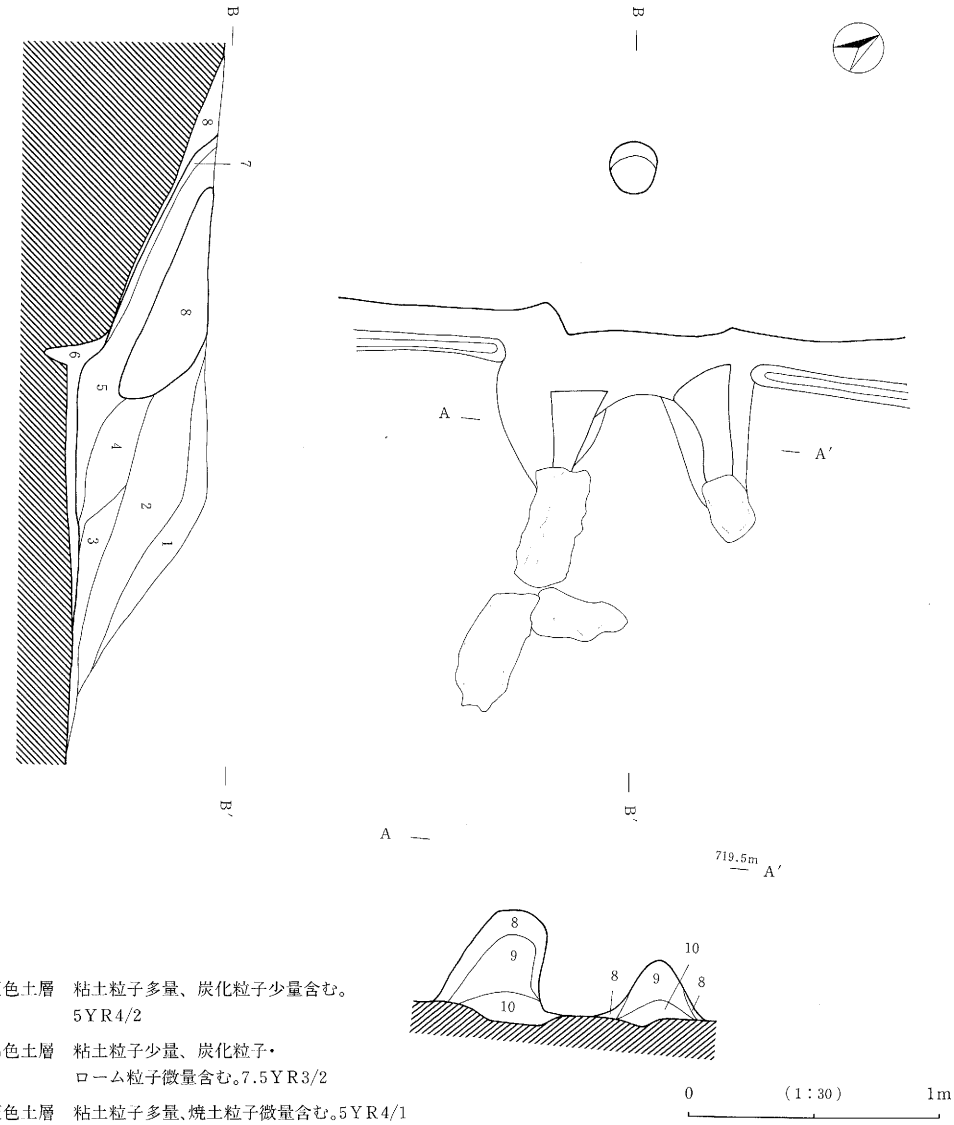
11　にぶい褐色土層　粘土粒子多量、ローム粒子少量含む。7.5YR5/3





0　(1:30)　1m

第156図　H20号住居址・カマド掘方実測図



1　褐灰色土層　粘土粒子多量、炭化粒子少量含む。5YR4/2

2　黒褐色土層　粘土粒子少量、炭化粒子・ローム粒子微量含む。7.5YR3/2

3　褐灰色土層　粘土粒子多量、焼土粒子微量含む。5YR4/1

4　黒褐色土層　粘土粒子・焼土粒子・炭化粒子少量含む。7.5YR3/2

5　極暗褐色土層　粘土粒子・焼土粒子少量含む。7.5YR2/3

6　暗赤褐色土層　焼土主体。5YR3/6

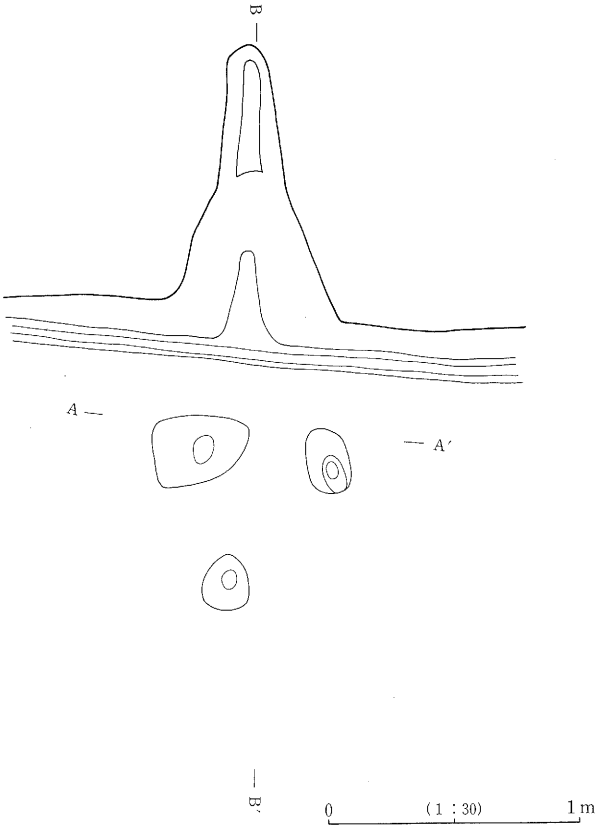
7　暗褐色土層　焼土粒子多量、粘土粒子少量含む。7.5YR3/4

8　褐灰色土層　粘土主体。7.5YR4/1

9　灰褐色土層　粘土粒子多量、ローム粒子少量含む。7.5YR4/2

10　黒褐色土層　粘土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量含む。10YR2/3

第154図　H19号住居址2号カマド実測図



第155図　H19号住居址２号カマド掘方実測図

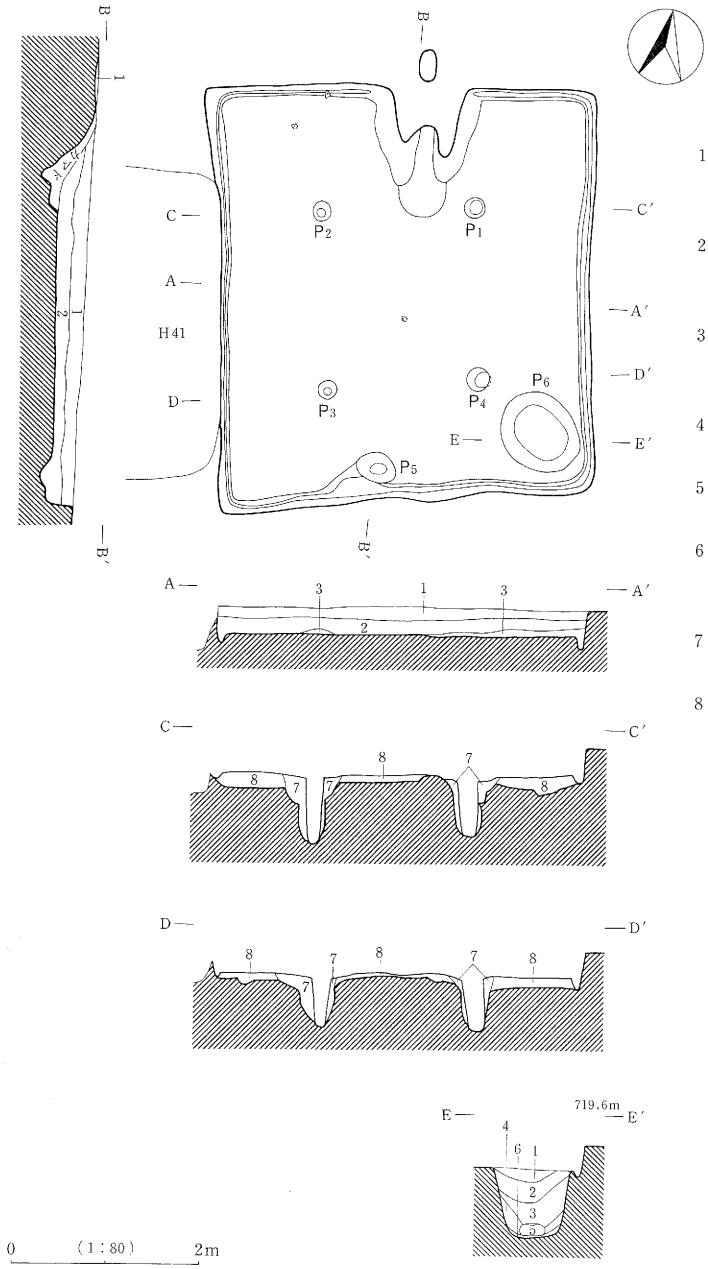
第９層によって構築される。２号カマドの残存状況は比較的良好で、焚口より煙道出口までは181cm、袖部の巾98cmを測る。覆土は７層が確認された。構築状況は以下のとおりである。煙道天井部は第８層によって、袖は第８～10層によって、煙道下部と燃焼部は第８層によって構築される。

本住居址は焼失住居址で、覆土中及び床面で炭化材小片が確認された。

遺物は土師器の甕・坏・甑、須恵器の坏蓋（H16・17と遺構間接合）、臼玉、ガラス小玉、石製模造品等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代中期後葉に位置付けられる。

20) H20号住居址



1 暗褐色土層　10YR3/4
ローム粒子少量、パミス・砂粒微量含む。

2 黒褐色土層　10YR2/3
ローム粒子少量、パミス・炭化粒子微量含む。

3 黒褐色土層　10YR3/1
ローム粒子・パミス微量、炭化粒子少量含む。

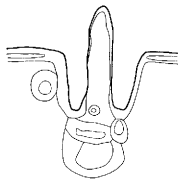
4 褐色土層　7.5YR4/6
ローム粒子少量含む。

5 にぶい褐色土層　7.5YR5/3
粘土主体。

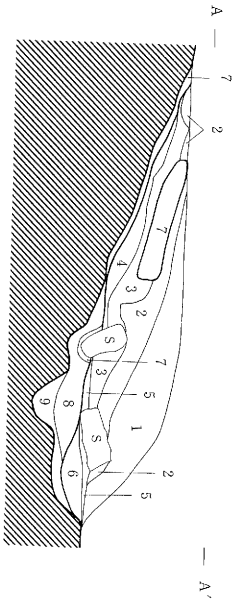
6 褐色土層　10YR4/6
ローム粒子多量、パミス微量含む。

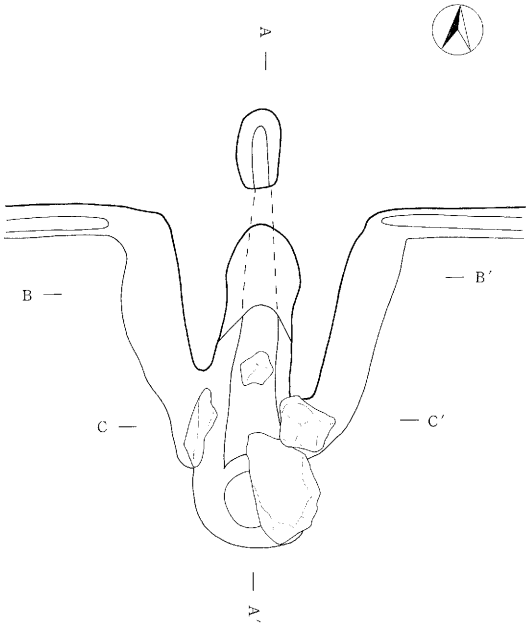
7 黒褐色土層　10YR2/3
ローム粒子少量含む。

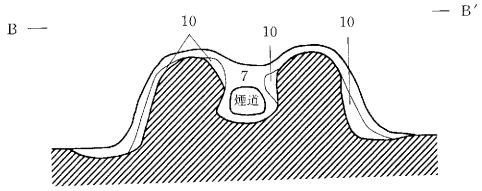
8 にぶい黄褐色土層　10YR4/3
ローム粒子多量、パミス微量含む。

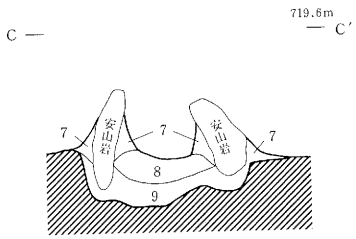


第156図　H20号住居址実測図









1　暗褐色土層　パミス中粒・ローム粒子・粘土粒子微量含む。
7.5YR3/3

2　暗赤褐色土層　ローム粒子微量、粘土粒子少量含む。
5YR3/2

3　黒褐色土層　粘土粒子・ローム粒子・砂粒少量含む。
5YR3/1

4　灰褐色土層　粘土粒子・ローム粒子・砂粒少量含む。
7.5YR4/2

5　暗赤褐色土層　焼土粒子多量、粘土粒子・炭化粒子少量含む。
5YR3/6

6　明赤褐色土層　焼土主体。炭化粒子多量含む。5YR5/8

7　褐灰色土層　粘土主体。7.5YR4/1

8　明赤褐色土層　ローム主体。5YR5/6

9　暗赤褐色土層　ローム粒子・パミス中粒以下少量含む。
5YR3/4

10　にぶい黄褐色土層　ローム粒子少量、粘土粒子多量含む。
10YR4/3

0　(1：30)　1m

第157図　H20号住居址カマド実測図

H20号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区中央、こ・さ－10・11グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第VII層上面において検出された。なおH41号住居址に西壁を破壊される。

平面形態は、南北432cm、東西392cmを測り、南北に長い方形を呈している。主軸方位はN－11°－Eを指す。また床面積は15.34m²を測る。

覆土は6層が確認された。

確認面からの壁残高は、17～38cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっていた。貼床は第8層により貼られる。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。なお第7層は柱を据える際の埋土と考えられる。

ピットは、主柱穴4個（P_1～P_4）、貯蔵穴1個（P_6）、入口施設1個（P_5）の計6個が検出された。

カマドは北壁中央で検出された。残存状況は良好で、焚口より煙道出口までは176cm、袖部の巾102cmを測る。覆土は6層が確認された。構築状況は以下のとおりである。煙道天井部は第7層によって、袖は第7・10層によって、煙道下部は第7層によって、燃焼部は第8・9層によって構築される。

本住居址は焼失住居址で、覆土中及び床面で炭化材が確認された。

遺物は土師器の甕・坏、臼玉等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代中期後葉に位置付けられる。

21）H21号住居址

H21号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区南側、て～に－9～11グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第IV層上面において検出された。なおM6・8号溝状遺構に一部破壊される。

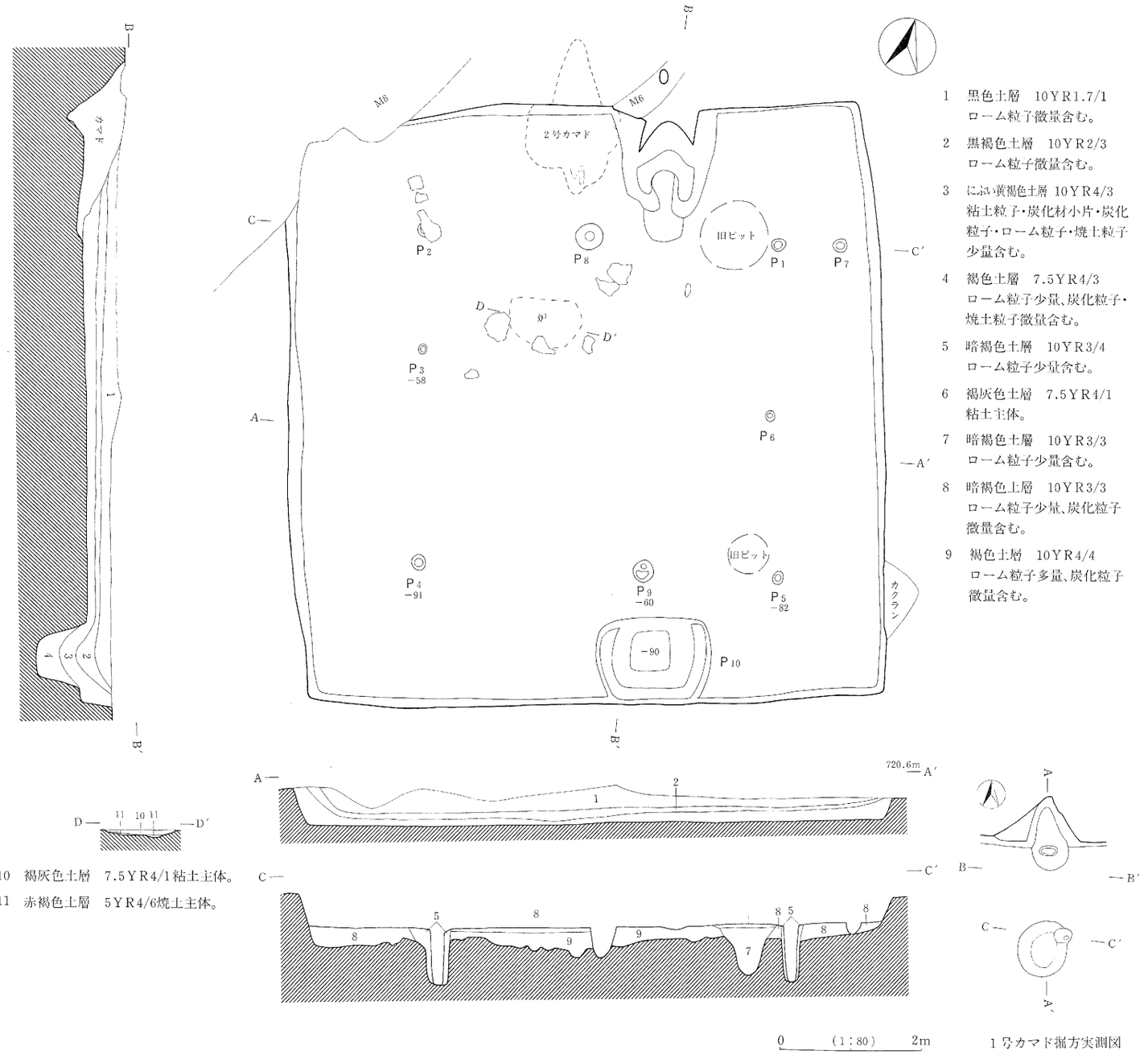
平面形態は、南北818cm、東西807cmを測り、方形を呈している。主軸方位はN－19°－Wを指す。また床面積は65.41m²を測る。

覆土は4層が確認された。

確認面からの壁残高は、29～58cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっていた。貼床は第8・9層により貼られる。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。なお第5層は柱を据える際の埋土と考えられる。

ピットは、主柱穴6個（P_1～P_6）、貯蔵穴1個（P_{10}）、入口施設1個（P_9）、その他2個の計10個が検出された。また、P_1とP_5の西側より旧ピットが確認された。

1号カマドは北壁中央東よりで検出された。残存状況は良好で、焚口より煙道出口までは240cm、袖部の巾132cmを測る。覆土は6層が確認された。構築状況は以下のとおりである。煙道天井部は



1 黒色土層 10YR1.7/1
ローム粒子微量含む。

2 黒褐色土層 10YR2/3
ローム粒子微量含む。

3 にぶい黄褐色土層 10YR4/3
粘土粒子・炭化材小片・炭化粒子・ローム粒子・焼土粒子少量含む。

4 褐色土層 7.5YR4/3
ローム粒子少量、炭化粒子・焼土粒子微量含む。

5 暗褐色土層 10YR3/4
ローム粒子少量含む。

6 褐灰色土層 7.5YR4/1
粘土主体。

7 暗褐色土層 10YR3/3
ローム粒子少量含む。

8 暗褐色土層 10YR3/3
ローム粒子少量、炭化粒子微量含む。

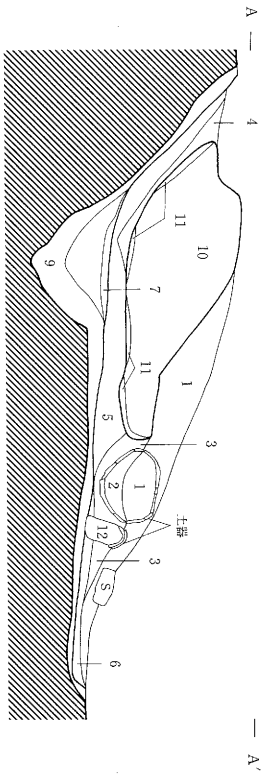
9 褐色土層 10YR4/4
ローム粒子多量、炭化粒子微量含む。

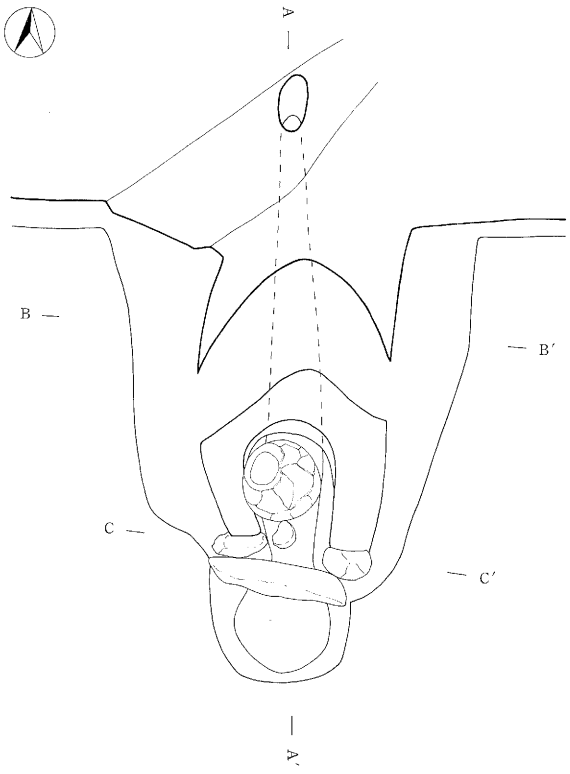
10 褐灰色土層 7.5YR4/1粘土主体。

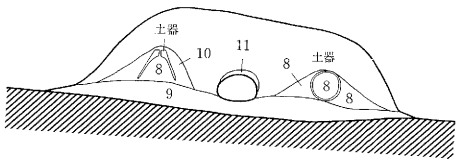
11 赤褐色土層 5YR4/6焼土主体。

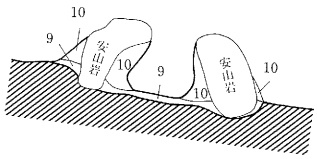
1号カマド掘方実測図

第158図 H21号住居址1号カマド掘方実測図









1　黒褐色土層　粘土粒子・炭化材小片少量含む。10YR3/2

2　灰黄褐色土層　粘土粒子多量含む。10YR4/2

3　褐色土層　粘土粒子・焼土粒子少量含む。7.5YR4/3

4　黒褐色土層　ローム粒子・粘土粒子少量含む。10YR3/2

5　灰褐色土層　粘土粒子・焼土粒子少量含む。7.5YR4/2

6　暗赤褐色土層　焼土主体。炭化粒子少量含む。5YR3/6

7　灰褐色土層　粘土主体。5YR4/2

8　にぶい赤褐色土層　粘土粒子多量、炭化粒子少量含む。5YR4/3

9　黒褐色土層　粘土粒子多量、パミス・炭化材小片少量含む。7.5YR3/1

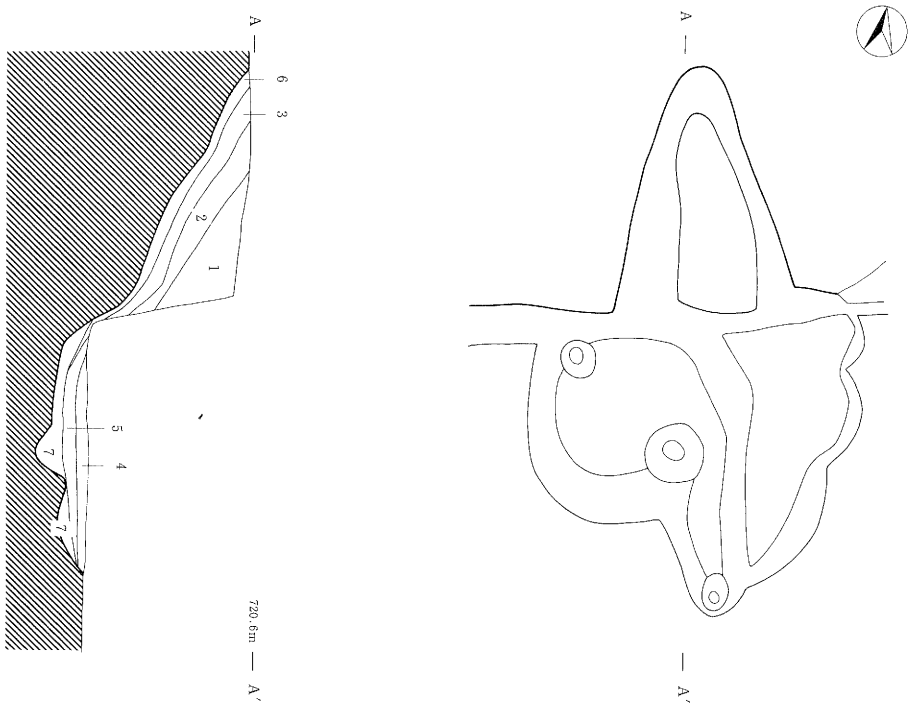
10　褐灰色土層　粘土主体。7.5YR4/1

11　にぶい赤褐色土層　粘土主体。第10層が熱を受け変色。5YR4/3

12　灰褐色土層　粘土主体。(支脚) 5YR5/2

0　(1:30)　1m

第159図　H21号住居址1号カマド実測図



1　灰褐色土層　粘土粒子多量、パミス中粒以下・焼土粒子微量含む。7.5YR4/2

2　暗赤褐色土層　粘土粒子・焼土粒子少量含む。5YR3/3

3　暗赤褐色土層　粘土粒子少量、焼土粒子多量含む。5YR3/4

4　褐灰色土層　粘土主体。5YR4/1

5　灰褐色土層　粘土粒子多量、焼土粒子少量含む。5YR4/2

6　褐灰色土層　粘土主体。7.5YR4/1

7　黒褐色土層　粘土粒子少量、ローム粒子・パミス中粒以下微量含む。10YR3/2

0　(1:30)　1m

第160図　H21号住居址2号カマド実測図

第10・11層によって、袖は第９・10層によって、煙道下部は第７～９層によって、燃焼部は第９層によって構築される。２号カマドは北壁中央西よりで検出された。１号カマド構築時に破棄されたと考えられる。覆土は７層が確認された。炉は北側中央の貼床内より確認された。

本住居址は焼失住居址で、覆土中及び床面で炭化材が確認された。

遺物は土師器の甕・坏・甑、臼玉等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代中期後葉に位置付けられる。

22) H22号住居址

H22号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区南側、て・と－12・13グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第IV層上面において検出された。なおF11号掘立柱建物址に一部破壊される。

平面形態は、南北386㎝、東西414㎝を測り、方形を呈している。主軸方位はN－３°－Eを指す。また床面積は15.62㎡を測る。

覆土は４層が確認された。

確認面からの壁残高は、7～22㎝を測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっていた。貼床は第６層により貼られる。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。なお第５層は柱を据える際の埋土と考えられる。

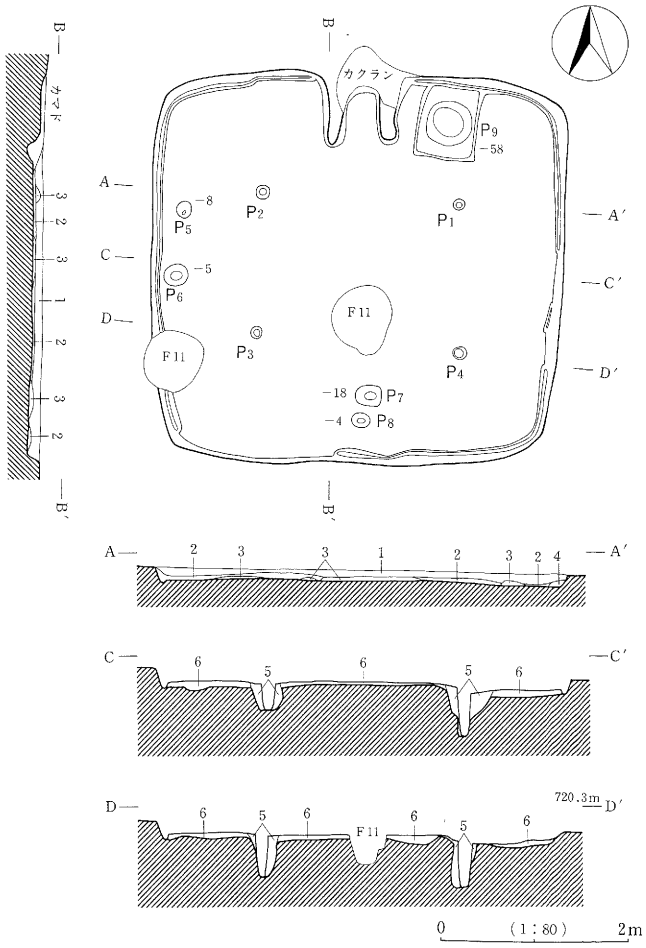
ピットは、主柱穴４個（P_1～P_4）、貯蔵穴１個（P_9）、入口施設２個（P_7・P_8）、その他２個の計９個が検出された。

カマドは北壁中央東よりで検出された。残存状況は悪く、焚口より煙道出口までは147㎝、袖部の巾79㎝を測る。覆土は３層が確認された。構築状況は以下のとおりである。煙道下部は第４層によって、燃焼部は第５層によって構築される。

本住居址は焼失住居址で、覆土中及び床面で多量の炭化材が確認された。

遺物は土師器の甕・坏・甑、多量の臼玉等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代中期後葉に位置付けられる。



1　黒褐色土層　炭化材小片・炭化粒子微量含む。10YR2/2

2　暗褐色土層　炭化材小片・炭化粒子・焼土粒子少量含む。7.5YR3/3

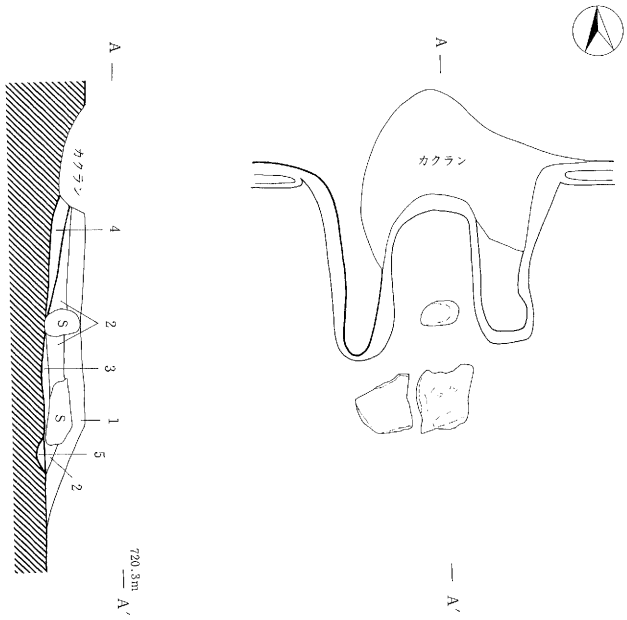
3　暗赤褐色土層　焼土主体。炭化粒子多量含む。5YR3/4

4　暗褐色土層　ローム粒子少量、炭化材小片微量含む。10YR3/4

5　暗褐色土層　ローム粒子微量含む。10YR3/3

6　暗褐色土層　ローム粒子少量含む。10YR3/4

第161図　H22号住居址実測図



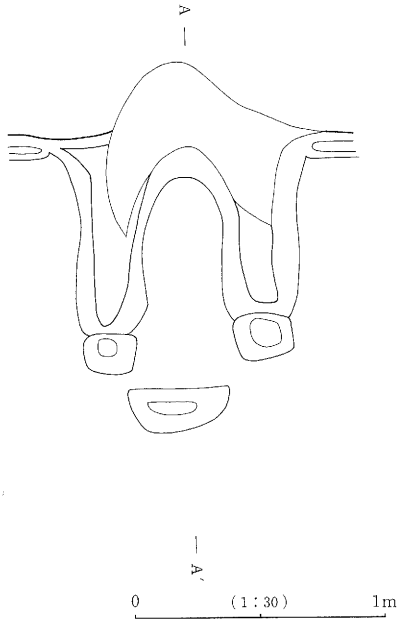
1　黒褐色土層　粘土粒子・炭化粒子少量含む。
　　10YR3/2

2　灰褐色土層　ローム粒子、粘土粒子微量含む。
　　7.5YR4/2

3　赤褐色土層　焼土主体。5YR4/6

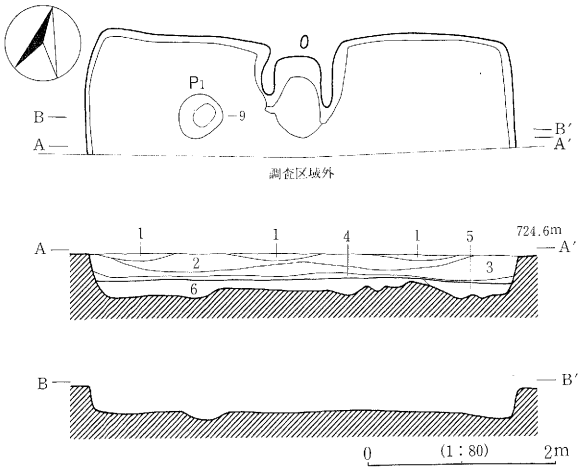
4　褐灰色土層　粘土主体。7.5YR4/1

5　黒褐色土層　ローム粒子微量含む。
　　10YR2/3



第162図　H22号住居址カマド実測図

23) H23号住居址



1　暗褐色土層　ローム粒子・砂粒を微量含む。10YR3/4

2　黒褐色土層　ローム粒子少量、パミス微量含む。10YR2/2

3　黒色土層　炭化材小片・炭化粒子少量含む。10YR2/1

4　暗褐色土層　焼土粒子・炭化材小片少量含む。7.5YR3/4

5　褐色土層　パミス・ローム粒子少量含む。10YR4/4

6　にぶい黄褐色土層　ローム粒子多量、パミス少量含む。10YR5/4

第163図　H23号住居址実測図

H23号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区北側、う・え－4・5グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第IV層上面において検出された。なお中央部と南側は調査区域外である。

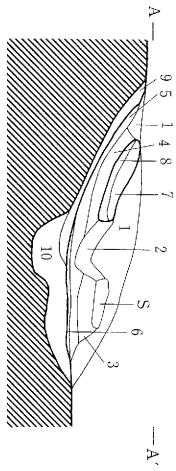
平面形態は、南北で122cm、東西で428cmを測り、方形を呈すると考えられる。主軸方位はN－31°－Wを指す。また現存する床面積は5.15m²を測る。

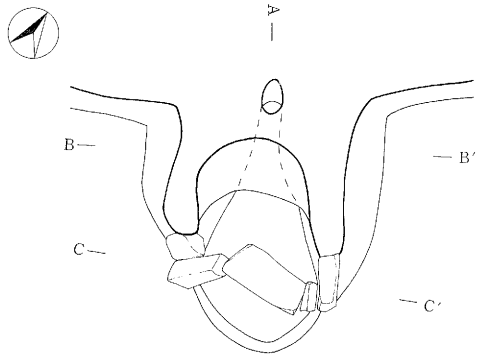
覆土は4層に分割された。

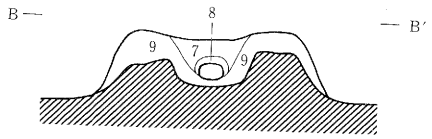
確認面からの壁残高は25.5～40cmを測る。壁体は全体層序第IV層の明黄褐色ロームを利用し、平滑で堅固である。床面はおおむね平坦で貼床が認められた。貼床は第5層と第6層によって貼られる。

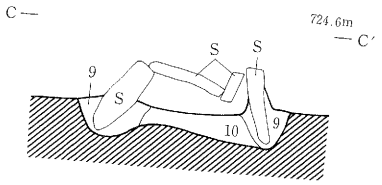
ピットは1個（P_1）のみが検出された。

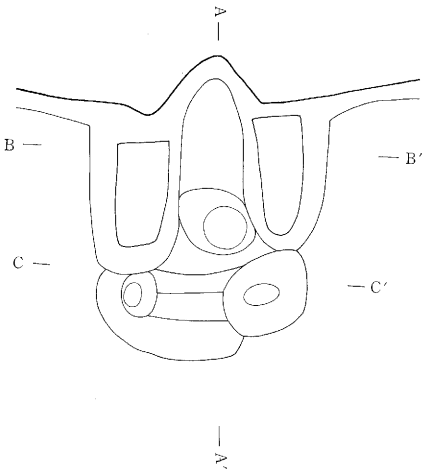
カマドは北壁中央において検出された。残存状況は良好で、袖天井石が折損する他はほぼ完全な状態であった。残存する規模は、焚口より煙道出口まで109cmで袖部の巾94cm、かけ穴の巾41cmを測る。また右側の袖は長さ82cmで巾30cm・高さ15～24.5cm、左側の袖は長さ71cmで巾31cm・高さ13～22cmを測る。覆土は6層に分割された。残存するカマド各部の構築状況は以下のとおりで











1　黒褐色土層　粘土粒子微量、砂粒少量含む。10YR2/3

2　暗褐色土層　粘土粒子微量、焼土粒子少量含む。7.5YR3/4

3　褐灰色土層　粘土粒子多量含む。7.5YR4/1

4　黒褐色土層　粘土粒子・焼土粒子微量含む。7.5YR3/2

5　にぶい赤褐色土層　粘土粒子・焼土粒子少量、ローム粒子・砂粒微量含む。5YR4/4

6　赤褐色土層　焼土主体。炭化粒子少量含む。5YR4/8

7　灰褐色土層　粘土主体。ローム粒子少量含む。7.5YR4/2

8　灰褐色土層　粘土主体。5YR4/2

9　褐灰色土層　粘土主体。5YR4/1

10　褐色土層　ローム粒子多量含む。10YR4/4

0　(1：30)　1m

第164図　H23号住居址カマド実測図

ある。袖部は明黄褐色ロームを基礎とし第７層～第10層によって、焚口は第10層によって、燃焼部は第９層と第10層によって、煙道下部は第９層によって構築される。なお第８層は第７層が熱を受けて変色した層と認識した。また袖石と袖天井石は安山岩が用いられていた。

本住居址は焼失住居址で、床面が焼け、第３層・第４層中より焼土と炭化材微小片が確認された。

遺物は土師器の甕・坏、須恵器の瑳等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代中期後葉に位置付けられる。

24）H24号住居址

H24号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区南側、た～つ－10・11グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第IV層上面において検出された。なおH44号住居址に北西部を破壊される。

平面形態は、南北568cm、東西362cmを測り、南北に長い長方形を呈している。主軸方位はN－17°－Wを指す。

覆土は２層が確認された。

確認面からの壁残高は、4～14cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっていた。貼床は第３層により貼られる。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。なお第５層は柱を据える際の埋土と考えられる。

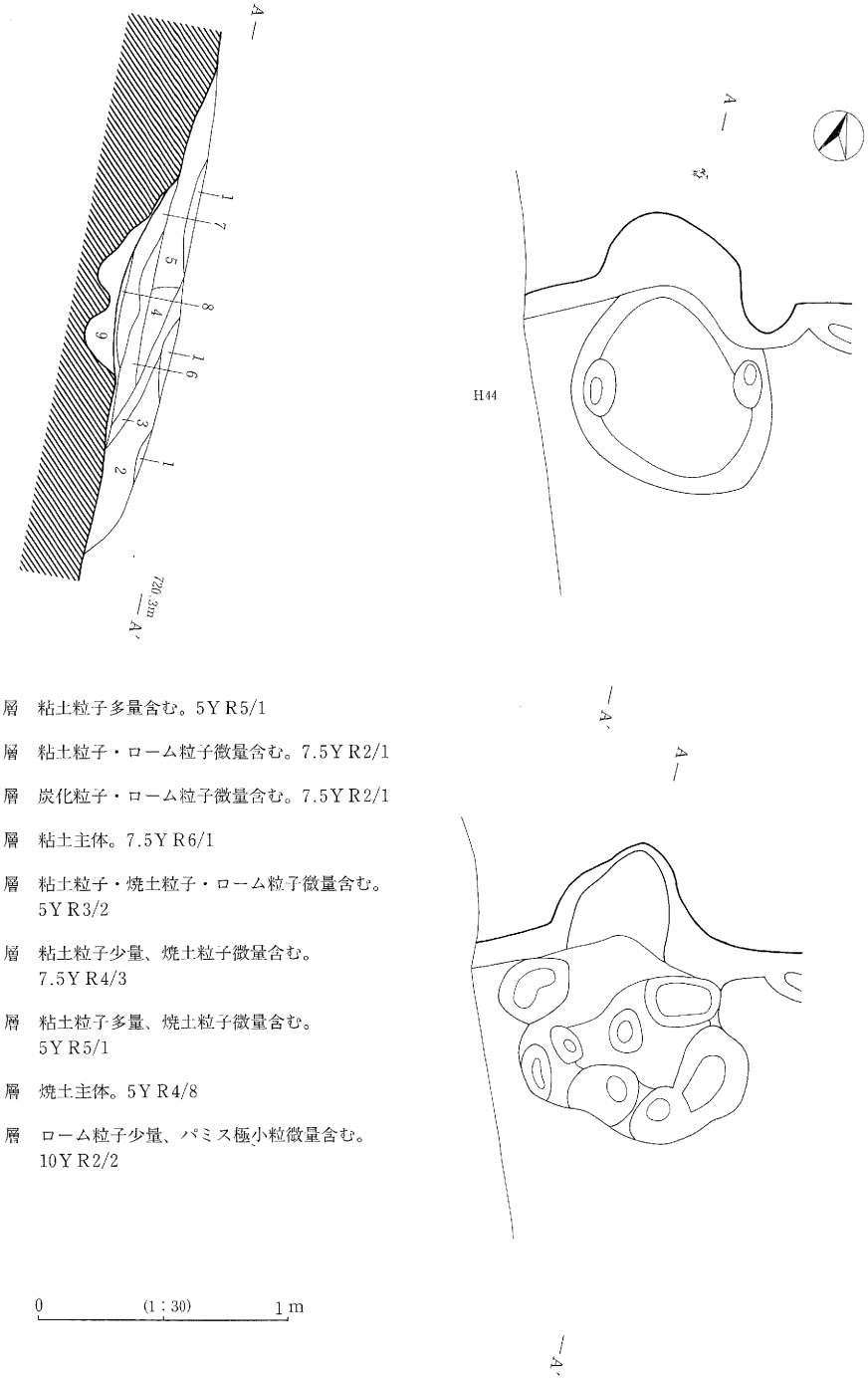
ピットは、主柱穴３個（P_1～P_3）、その他７個の計10個が検出された。

カマドは北壁中央で検出された。残存状況は悪く、焚口より煙道出口までは112cmを測る。覆土は８層が確認された。炉は南側中央より検出された。

本住居址は焼失住居址で、覆土中及び床面で炭化材が確認された。

遺物は土師器の甕・坏、臼玉等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代後期中葉に位置付けられる。



1　褐灰色土層　粘土粒子多量含む。5YR5/1

2　褐色土層　粘土粒子・ローム粒子微量含む。7.5YR2/1

3　黒色土層　炭化粒子・ローム粒子微量含む。7.5YR2/1

4　褐灰色土層　粘土主体。7.5YR6/1

5　暗赤褐色土層　粘土粒子・焼土粒子・ローム粒子微量含む。5YR3/2

6　褐色土層　粘土粒子少量、焼土粒子微量含む。7.5YR4/3

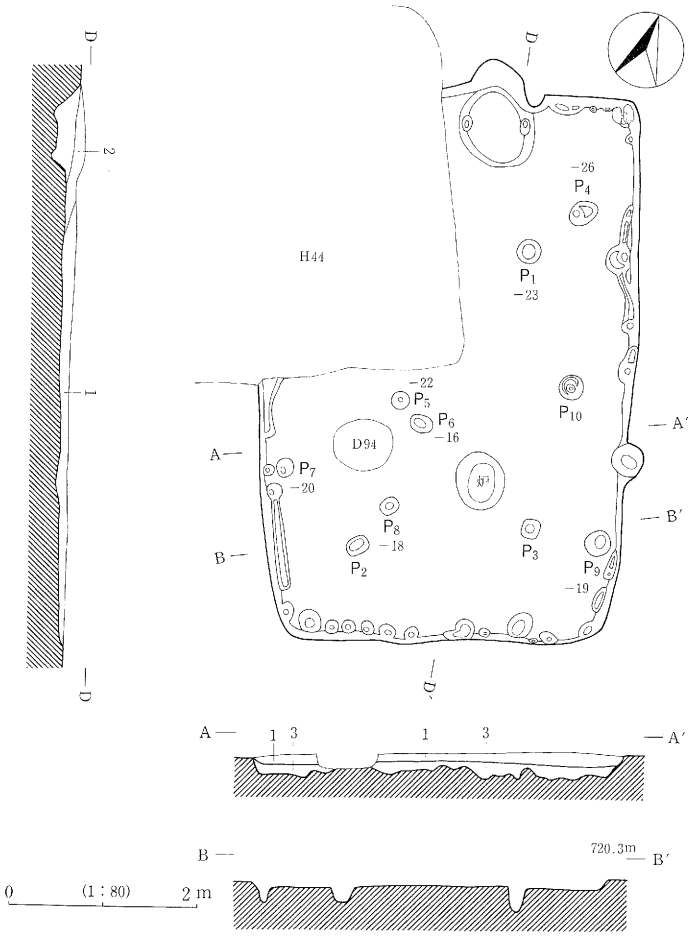
7　褐灰色土層　粘土粒子多量、焼土粒子微量含む。5YR5/1

8　赤褐色土層　焼土主体。5YR4/8

9　黒褐色土層　ローム粒子少量、パミス極小粒微量含む。10YR2/2

0　(1：30)　1m

第165図　H24号住居址カマド実測図



1　黒褐色土層　粘土粒子（ブロック状）・ローム粒子・パミス微量含む。10YR2/3

2　黒褐色土層　粘土粒子（ブロック状）・炭化粒子少量含む。10YR2/2

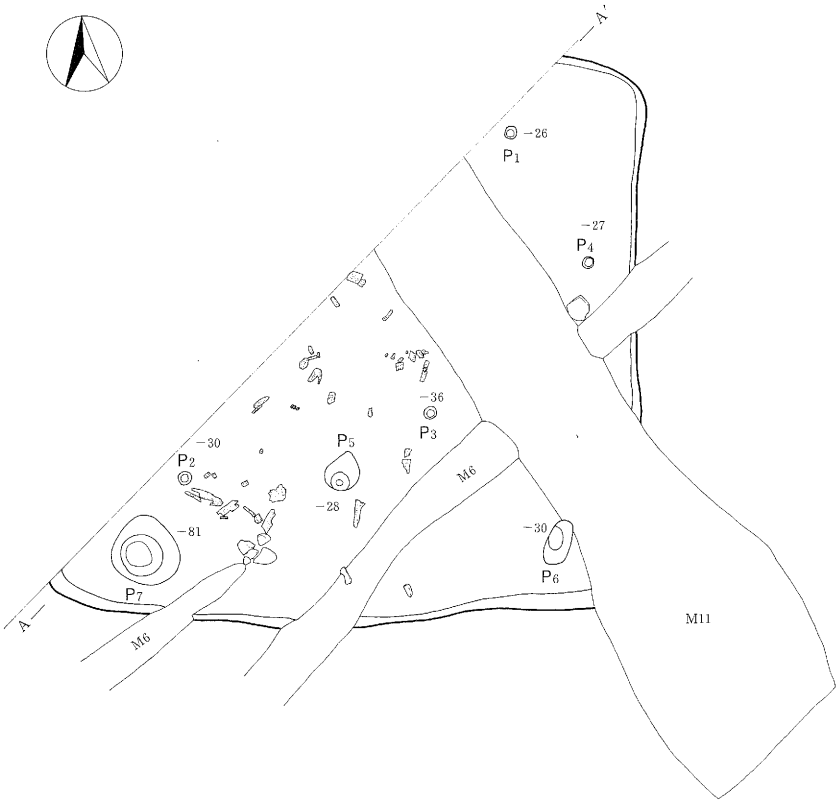
3　黒褐色土層　ローム粒子（ブロック状）少量、炭化粒子微量含む。10YR2/3

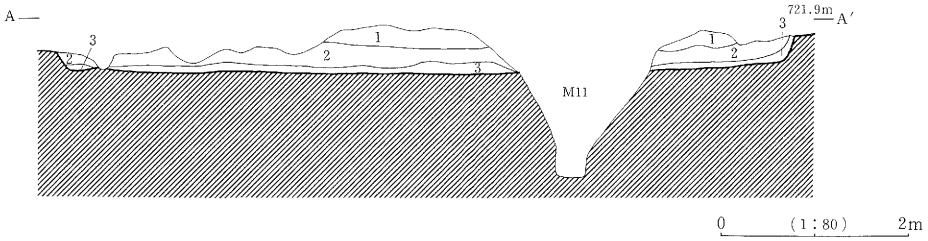
第166図　H24号住居址実測図

25）H25号住居址

H25号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区中央、ま～む－17・18グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第IV層上面において検出された。なおM6・10号溝状遺構によって破壊される。

平面形態は不明だが、方形を呈すると考えられる。





1　黒褐色土層　ローム粒子・パミス微量含む。10YR3/2

2　黒褐色土層　パミス微量含む。10YR2/2

3　黒褐色土層　炭化材小片・炭化粒子・焼土粒子多量含む。10YR2/2

第167図　H25号住居址実測図

覆土は3層が確認された。

確認面からの壁残高は、13～27cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっていた。壁はほとんど垂直に立ち上がる。

ピットは計７個が検出された。

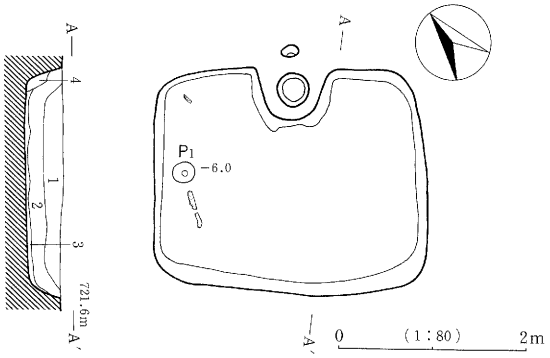
カマドは検出されなかった。

本住居址は焼失住居址で、覆土中及び床面で炭化材が確認された。

遺物は土師器の甕・坏、臼玉、土製丸玉等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代後期前葉に位置付けられる。

26）H26号住居址



1　黒色土層　パミス・ローム粒子微量含む。10YR1.7/1

2　褐色土層　ローム粒子少量含む。10YR4/4

3　灰褐色土層　炭化材小片・炭化粒子・焼土粒子多量、ローム粒子少量含む。7.5YR4/2

4　明褐色土層　炭化材小片・炭化粒子・焼土粒子・ローム粒子多量含む。7.5YR5/8

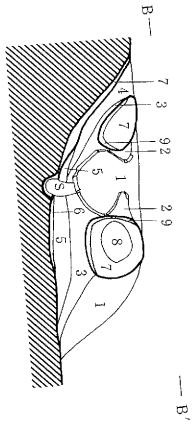
第168図　H26号住居址実測図

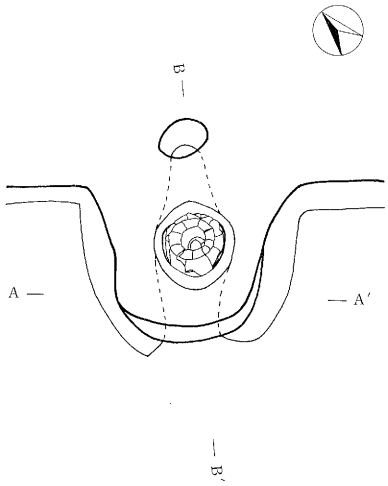
H26号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区中央、ま・み－18・19グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第IV層上面において検出された。

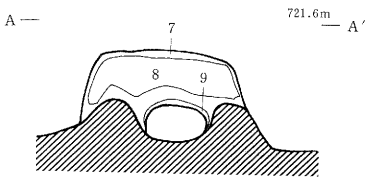
平面形態は、南北200cm、東西266cmを測り、東西に長い方形を呈している。主軸方位はN－32°－Eを指す。また床面積は5.5m²を測る。

覆土は４層が確認された。

確認面からの壁残高は、23～37cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっており、貼床は認められなかった。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。







1　褐色土層　炭化材小片・炭化粒子・焼土粒子少量、ローム粒子微量含む。7.5YR4/3

2　灰褐色土層　粘土粒子・焼土粒子少量含む。7.5YR4/2

3　褐灰色土層　粘土粒子多量、焼土粒子微量含む。7.5YR4/1

4　黒褐色土層　粘土粒子・焼土粒子少量、ローム粒子微量含む。5YR2/2

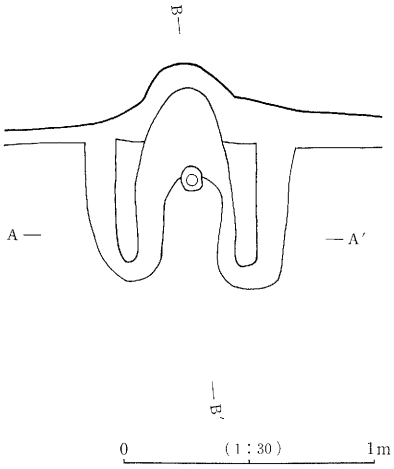
5　暗赤褐色土層　粘土粒子・ローム粒子少量、焼土粒子多量含む。5YR3/6

6　赤褐色土層　焼土主体。5YR4/8

7　褐灰色土層　粘土主体。5YR4/1

8　黒褐色土層　粘土粒子多量、ローム粒子少量含む。5YR3/1

9　灰赤色土層　第7層が熱を受け変色。2.5YR4/2



第169図　H26号住居址カマド実測図

ピットは計１個が検出された。

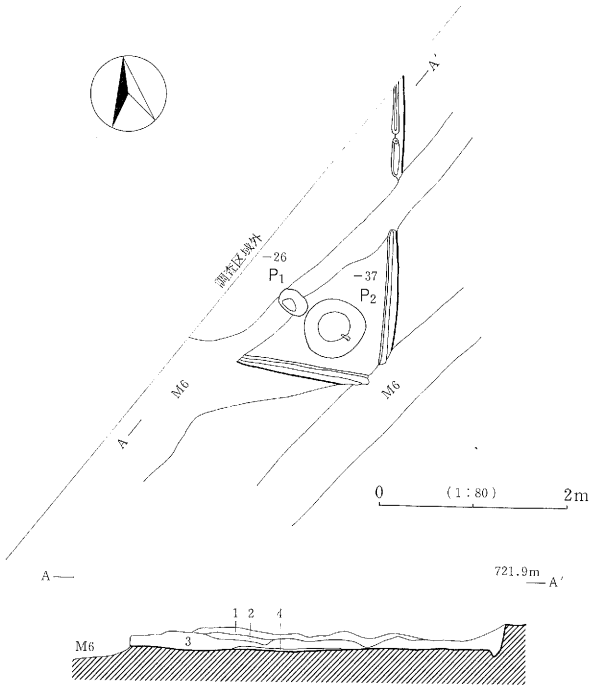
カマドは北壁中央で検出された。残存状況は良好で、焚口より煙道出口までは92cm、袖部の巾82cmを測る。覆土は６層が確認された。構築状況は以下のとおりである。煙道天井部は第７・９層によって、袖天井部は第７～９層によって、袖は第７・８層によって、煙道下部と燃焼部は第７層によって構築される。

本住居址は焼失住居址で、覆土中及び床面で炭化材が確認された。

遺物は土師器の甕・坏等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代後期前葉に位置付けられる。

27）H27号住居址



1　黒色土層　炭化粒子・焼土粒子少量含む。10YR2/1

2　暗褐色土層　ローム粒子・焼土粒子少量含む。10YR3/4

3　黒褐色土層　ローム粒子微量含む。10YR3/2

4　黒色土層　炭化粒子・焼土粒子多量含む。10YR1.7/1

第170図　H27号住居址実測図

H27号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区中央、ほ・ま－16グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第IV層上面において検出された。なおM６号溝状遺構によって破壊される。

平面形態は不明だが、方形を呈すると考えられる。

覆土は４層が確認された。

確認面からの壁残高は、5～29cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっていた。壁はほとんど垂直に立ち上がる。

ピットは計２個が検出された。

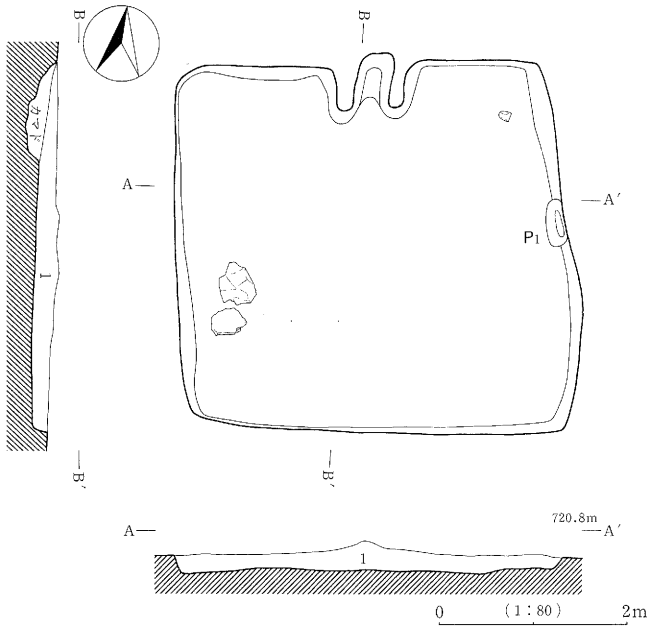
カマドは検出されなかった。

本住居址は焼失住居址で、覆土中及び床面で炭化材が確認された。

遺物は土師器の甕・坏、臼玉等が出土した。

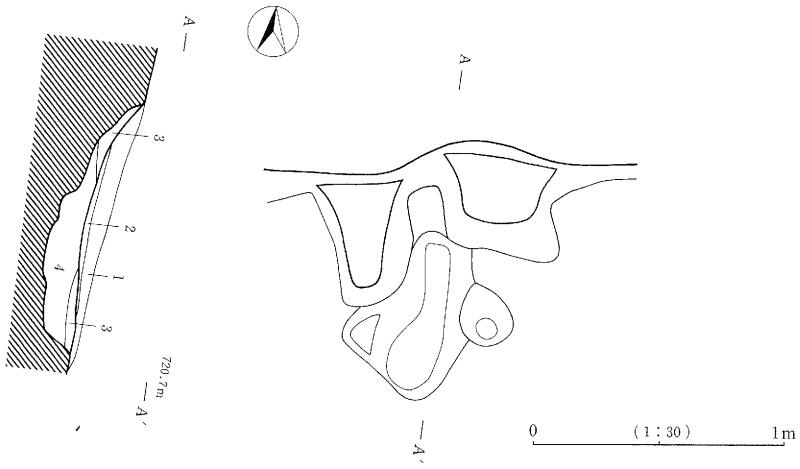
以上より本住居址は、古墳時代後期前葉に位置付けられる。

28）H28号住居址



1　暗褐色土層　ローム粒子・パミス中粒以下・炭化粒子微量含む。10YR3/3

第171図　H28号住居址実測図



1　灰褐色土層　粘土粒子多量、焼土粒子少量含む。5YR4/2
2　赤褐色土層　焼土主体。炭化粒子少量含む。5YR4/6
3　褐灰色土層　粘土主体。5YR4/1
4　黒褐色土層　粘土粒子・ローム粒子少量含む。10YR3/1

第172図　H28号住居址カマド実測図

H28号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区南側、ぬ・ね－11・12グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第IV層上面において検出された。

平面形態は、南北380cm、東西398cmを測り、方形を呈している。主軸方位はN－12°－Wを指す。また床面積は14.56m²を測る。

覆土は1層が確認された。

確認面からの壁残高は、8～22cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっていた。貼床は認められなかった。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。

ピットは1個が検出された。

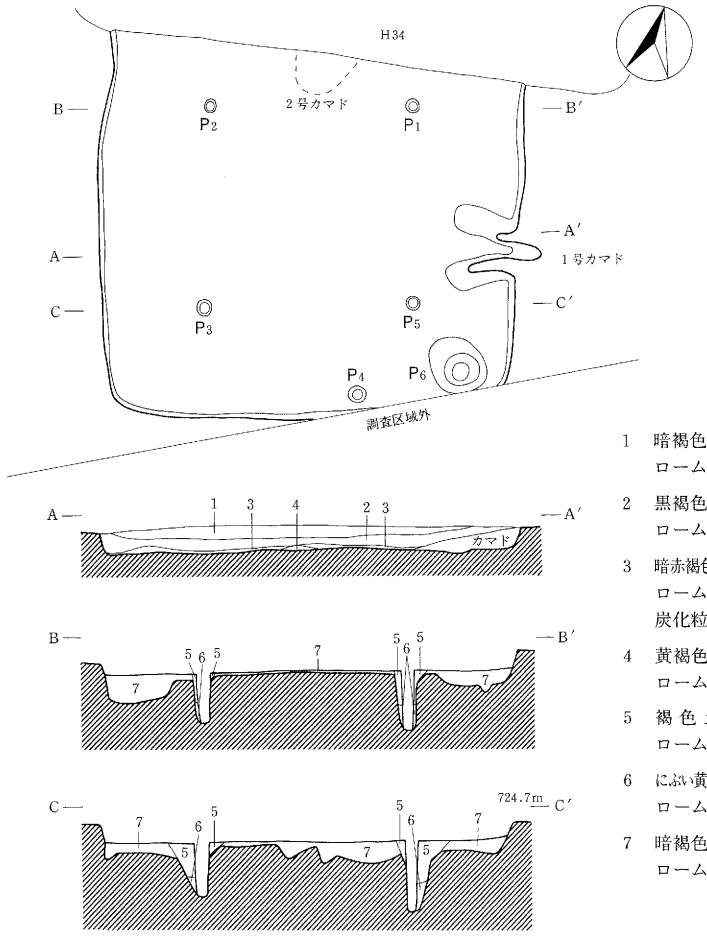
カマドは北壁中央で検出された。残存状況は悪く、焚口より煙道出口まで72cm、袖部の巾96cmを測る。覆土は2層が確認された。燃焼部は第3・4層によって構築される。

本住居址は焼失住居址で、覆土中及び床面で炭化材小片が確認された。

遺物は土師器の甕・坏等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代後期前葉に位置付けられる。

29) H29号住居址



1　暗褐色土層　10YR3/4
ローム粒子微量、砂粒少量含む。

2　黒褐色土層　10YR3/2
ローム粒子微量含む。

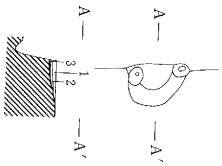
3　暗赤褐色土層　5YR3/4
ローム粒子少量、炭化材小片・炭化粒子・焼土粒子少量含む。

4　黄褐色土層　10YR5/8
ローム粒子多量含む。(ブロック状)

5　褐色土層　10YR4/4
ローム粒子少量含む。

6　にぶい黄褐色土層　10YR5/4
ローム粒子多量含む。

7　暗褐色土層　10YR3/4
ローム粒子少量含む。



2号カマド実測図

2号カマド土層説明

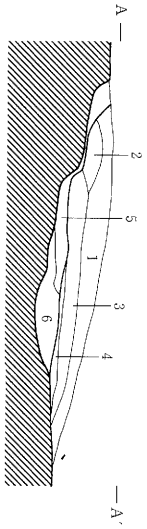
1　褐色土層　粘土粒子多量、ローム粒子少量含む。10YR4/4

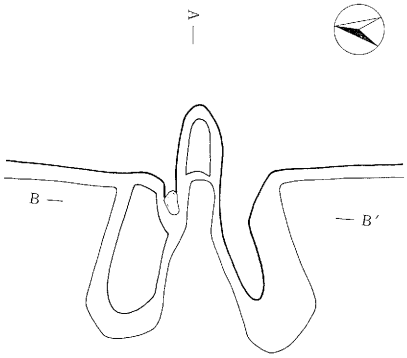
2　赤褐色土層　焼土主体。5YR5/8

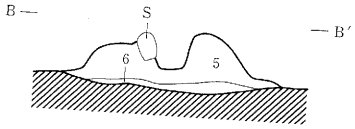
3　灰黄褐色土層　粘土主体。10YR4/2

0　(1：80)　2m

第173図　H29号住居址実測図







1　黒褐色土層　粘土粒子少量、砂粒・ローム粒子微量含む。7.5YR3/2

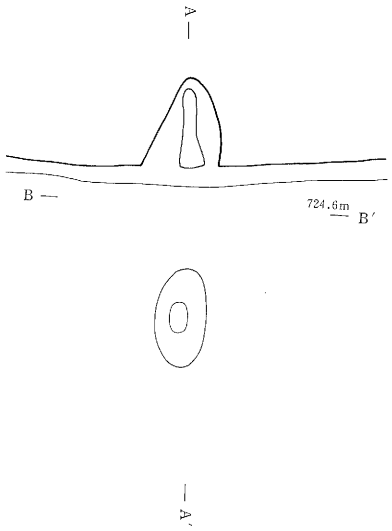
2　灰褐色土層　粘土主体。焼土粒子微量含む。7.5YR4/2

3　にぶい赤褐色土層　粘土粒子・焼土粒子少量含む。5YR4/4

4　赤褐色土層　焼土主体。炭化粒子少量含む。5YR4/8

5　暗赤褐色土層　粘土主体。5YR3/3

6　黒褐色土層　ローム粒子微量含む。10YR2/3



0　(1:30)　1m

第174図　H29号住居址カマド実測図

H29号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区北側、お・か－4・5グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第IV層上面において検出され、北側をH34号住居址に破壊される。なお南東コーナーは調査区域外である。

平面形態は、南北で376cm、東西で426cmを測り、方形を呈すると考えられる。主軸方位はN－14°－Wを指す。また現存する床面積は15.99m²を測る。

覆土は4層に分割された。

確認面からの壁残高は9～22.5cmを測る。壁体は全体層序第IV層の明黄褐色ロームを利用し、平滑で堅固である。床面はおおむね平坦で貼床が認められた。貼床は第7層によって貼られる。なお第5層と第6層は柱を据える際の埋土と考えられる。

ピットは主柱穴4個（P_1～P_4）、入口施設に伴う柱穴1個（P_5）、貯蔵穴1個（P_6）の計6個が検出された。

カマドは北壁中央と東壁中央の2ヵ所で検出された。便宜上、北壁のカマドを第2号カマド、東壁のカマドを第1号カマドとした。第1号カマドは袖部と煙道天井部が失われた状態で検出された。残存する規模は、焚口より煙道出口まで123cm、袖部の巾91cmを測る。また右側の袖は長さ72cmで巾31cm・高さ21.5cm、左側の袖は長さ66cmで巾31cm・高さ12cmを測る。覆土は4層に分割された。残存するカマド各部の構築状況は以下のとおりである。袖部と燃焼部は第5層と第6層によって、煙道下部は第5層によって構築される。第2号カマドはH34号住居址によって北側半分を破壊される。土層は3層に分割された。第1層はカマド破棄時に埋めた層で、第2層は使用時に成立した層、第3層は構築土と考えられる。つまり第2号カマドは何等かの事情により破壊・破棄され、新しく東壁に第1号カマドが構築されたと考えられる。

本住居址は焼失住居址で、床面がかなり焼け、第3層中より焼土と炭化材小片が確認された。遺物は土師器の甕・坏等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代後期中葉に位置付けられる。

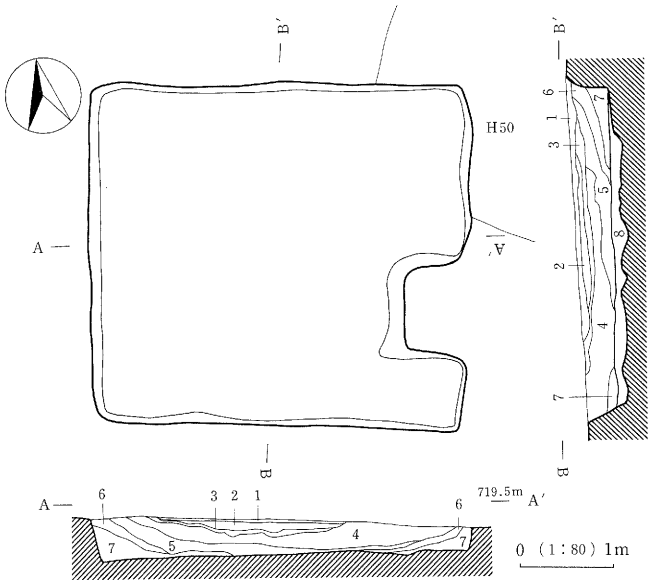
30）H30号住居址

H30号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区南側、な・に－49・50グリッド内に位置し、下聖端遺跡II全体層序第IV層上面において検出され、北東コーナー上部をH50号住居址により破壊される。

平面形態は、南北で353cm、東西で378cmを測り、方形を呈する。主軸方位はN－12°－Eを指す。また現存する床面積はカマド部を含め13.35m²を測る。

覆土は7層に分割された。

貼床は第8層によって貼られる。



1　灰オリーブ色土層　ローム粒子少量、パミス微量含む。5YR4/2
2　にぶい黄褐色土層　ローム粒子多量、パミス少量含む。10YR4/3
3　黒褐色土層　ローム粒子少量、パミス微量含む。10YR2/3
4　褐色土層　ローム粒子多量、パミス少量含む。10YR4/4
5　黒褐色土層　ローム粒子・パミス微量含む。10YR2/2
6　暗褐色土層　ローム粒子少量、パミス微量含む。10YR3/3
7　黒褐色土層　ローム粒子少量、パミス微量含む。10YR3/2
8　褐色土層　ローム粒子多量、パミス微量含む。10YR4/6

第175図　H30号住居址実測図

ピットは検出されなかった。

カマドは東壁中央やや南寄りで検出された。なおカマドは構築途中で、ロームを方形に造り出した時点で放棄されていた。

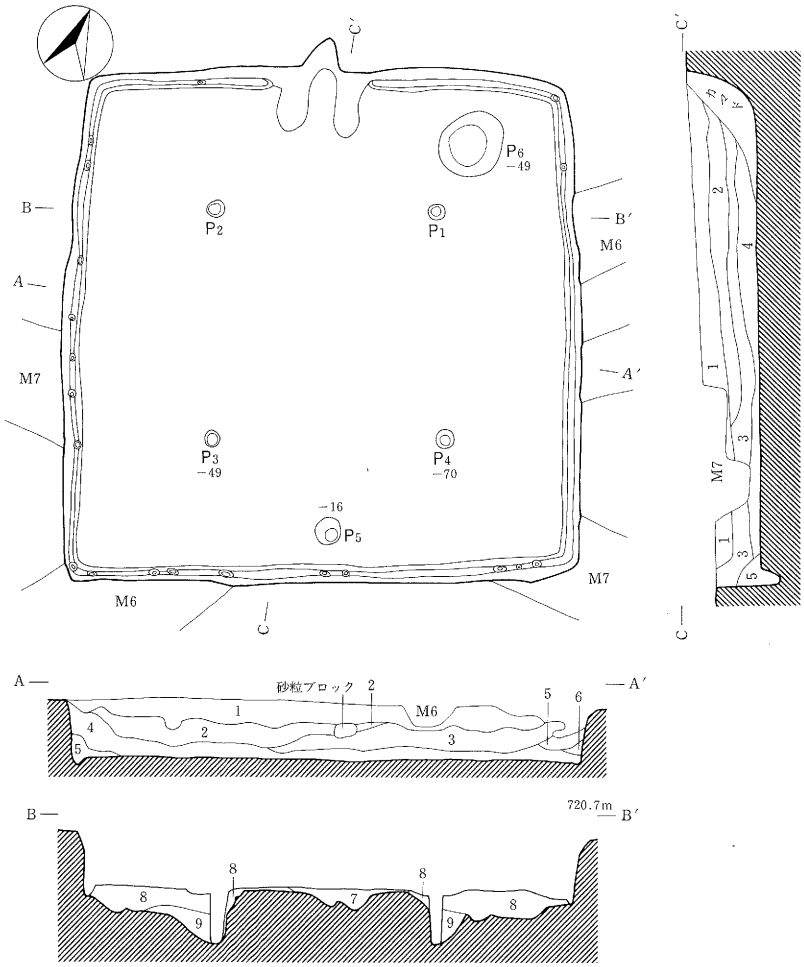
本住居址は、貼床を貼った時点で放棄されており、ピットはまだ掘られていない。またカマドは床を貼った時点ではまだ手を加えていないことがわかる。

遺物は土師器の甕・坏、巡方（混入遺物）等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代後期に位置付けられる。

31）H31号住居址

H31号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区南側、こ～し－１～３グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第Ⅳ層上面において検出された。なおM７・８号溝状遺構により一部破壊される。平



1　にぶい黄褐色土層　パミス微量、ローム粒子多量含む。10YR4/3

2　暗褐色土層　ローム粒子・焼土粒子少量、炭化材小片微量含む。10YR3/3

3　暗褐色土層　ローム粒子少量、焼土粒子微量含む。10YR3/4

4　黒褐色土層　焼土粒子多量、炭化材小片少量含む。10YR3/2

5　黒褐色土層　焼土粒子多量含む。10YR2/2

6　褐色土層　ローム主体。10YR4/4

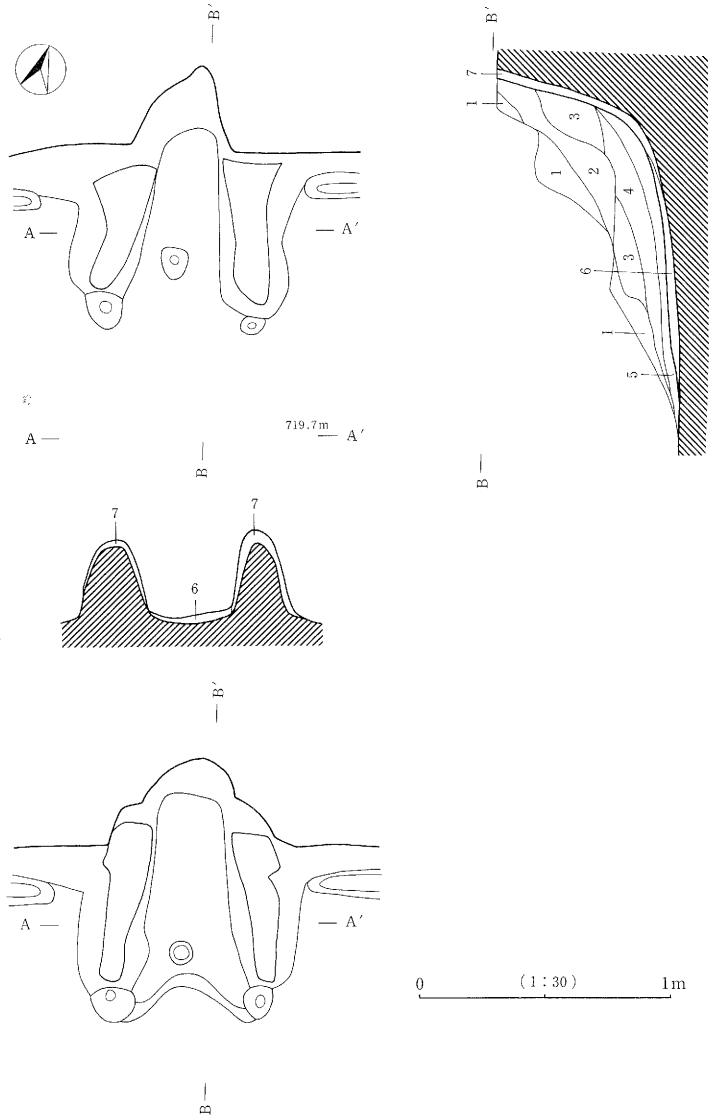
7　褐色土層　ローム粒子(ブロック状)多量含む。10YR4/4

8　暗褐色土層　ローム粒子(ブロック状)多量含む。10YR3/4

9　暗褐色土層　ローム粒子(ブロック状)多量含む。10YR3/3

0　(1:80)　2m

第176図　H31号住居址実測図



1　褐灰色土層　粘土粒子多量含む。10YR6/1

2　灰黄褐色土層　粘土粒子多量、ローム粒子少量含む。10YR4/2

3　褐灰色土層　粘土粒子多量、炭化粒子少量含む。10YR4/1

4　黒褐色土層　粘土粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量含む。7.5YR3/1

5　暗褐色土層　焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量含む。7.5YR3/3

6　明褐色土層　ローム粒子多量、焼土粒子少量含む。7.5YR5/8

7　明褐灰色土層　粘土主体。5YR7/1

第177図　H31号住居址カマド実測図

面形態は、南北534cm、東西528cmを測り、方形を呈している。主軸方位はN－23°－Wを指す。また床面積は25.26m²を測る。

覆土は6層が確認された。

確認面からの壁残高は、43～72cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっていた。貼床は第7・8層により貼られる。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。なお第9層は柱を据える際の埋土と考えられる。

ピットは、主柱穴4個（P_1～P_4）、入口施設1個（P_5）、貯蔵穴1個（P_6）の計6個が検出された。

カマドは北壁中央で検出された。残存状況は悪く、焚口より煙道出口まで109cm、袖部の巾83cmを測る。覆土は5層が確認された。燃焼部は第6層によって、煙道下部7層によって、袖部はローム造り出しを基礎とし第7層により構築される。

本住居址は焼失住居址で、覆土中及び床面で炭化材小片が確認された。

遺物は土師器の甕・坏等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代後期中葉に位置付けられる。

32）H32号住居址

H32号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区中央、く～こ－20･21グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第IV層上面において検出され、南西部をH37号住居址に破壊される。

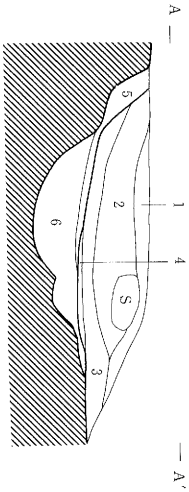
平面形態は、南北で488cm、東西で508cmを測り、方形を呈する。主軸方位はN－3°－Eを指す。床面積は17.13m²を測る。

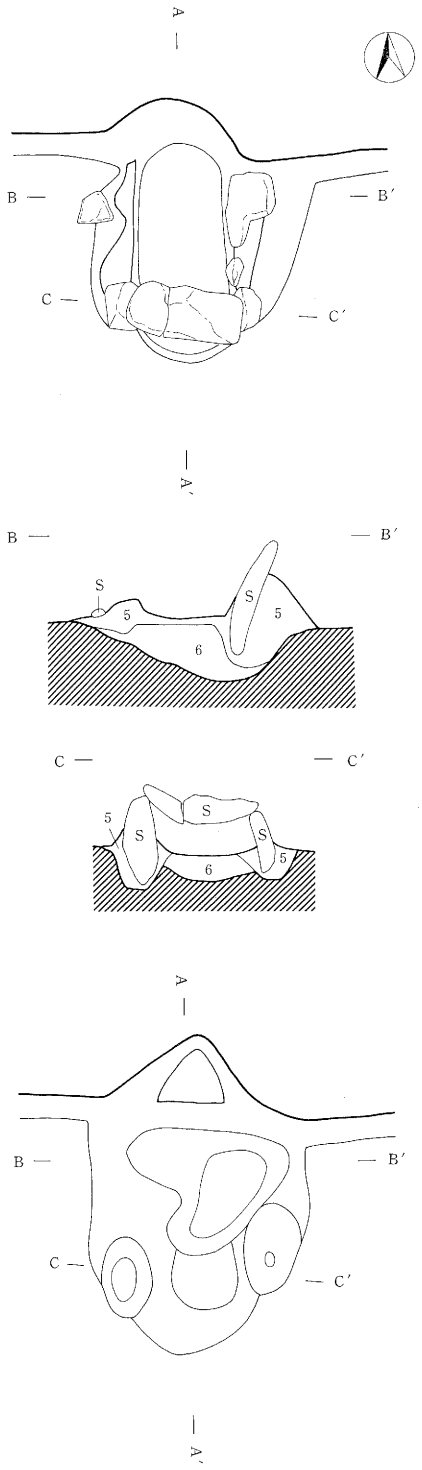
覆土は3層に分割された。

確認面からの壁残高4～31.5cmを測る。壁体は全体層序第IV層の明黄褐色ロームを利用し平滑で堅固である。床面はおおむね平坦で固く締まっていた。貼床は1cm未満で使用時の混入土砂と考えられる。

ピットは主柱穴3個（P_1～P_3）、貯蔵穴1個（P_4）の計4個が検出された。

カマドは北壁中央において検出された。残存状況は悪く、袖の上部・煙道天井部が失われていた。また袖の構築材と考えられる安山岩が床面に散乱していた。なお安山岩製の袖石と袖天井石が使用時の状態を保って残存していた。残存する規模は、焚口より煙道出口まで109cmで袖部の巾94cm、かけ穴の巾41cmを測る。また右側の袖は長さ82cmで巾30cm・高さ15～24.5cm、左側の袖は長さ71cmで巾31cm・高さ13～22cmを測る。覆土は6層に分割された。残存するカマド各部の構築状況は以下のとおりである。袖部は明黄褐色ロームを基礎とし第7層～第10層によって、焚口は





1　にぶい黄褐色土層　粘土粒子・ローム粒子少量含む。
10YR4/3

2　灰黄褐色土層　粘土粒子・焼土粒子少量含む。
10YR4/2

3　灰褐色土層　粘土粒子多量、焼土粒子少量含む。
7.5YR4/2

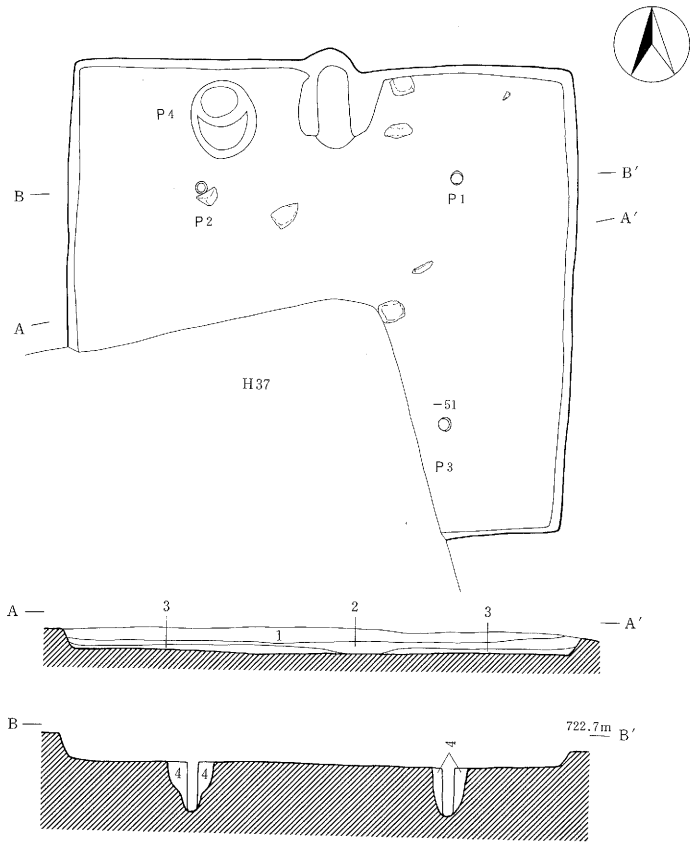
4　にぶい赤褐色土層　焼土主体。炭化粒子少量含む。
5YR4/3

5　灰褐色土層　粘土主体。5YR5/2

6　褐色土層　ローム粒子多量、炭化材小片微量含む。
10XR4/4

0　(1:30)　1m

第178図　H32号住居址カマド実測図



1　黒褐色土層　ローム粒子微量含む。10YR3/2

2　暗褐色土層　ローム粒子・炭化粒子少量含む。10YR3/4

3　暗赤褐色土層　焼土粒子多量、炭化材小片・炭化粒子少量含む。5YR3/4

4　黒褐色土層　ローム粒子少量含む。10YR3/2

0　(1:80)　2m

第179図　H32号住居址実測図

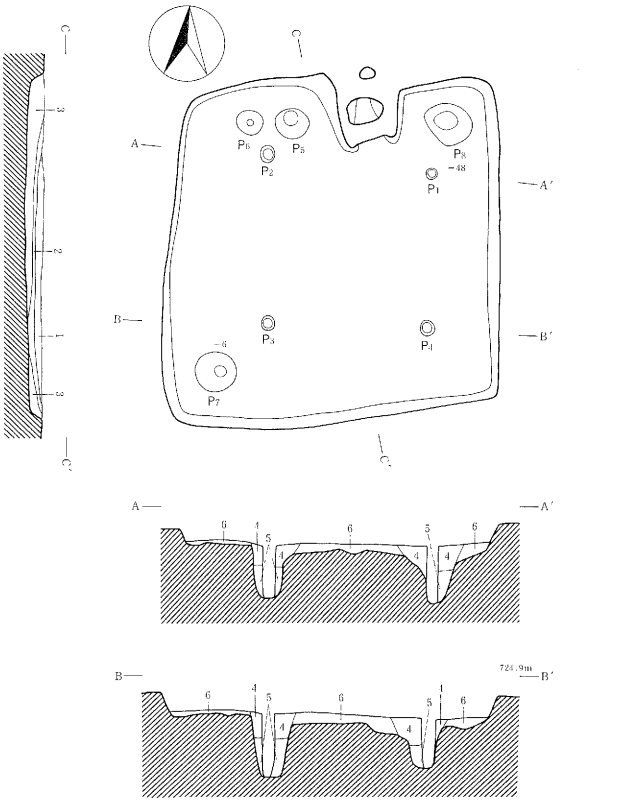
第10層によって、燃焼部は第9層と第10層によって、煙道下部は第9層によって構築される。なお第8層は第7層が熱を受けて変色した層と認識した。また袖石と袖天井石は安山岩が用いられていた。

本住居址は焼失住居址で、床面が焼け、第3層・第4層中より焼土と炭化材微小片が確認された。

遺物は土師器の甕・坏、臼玉、編み物石等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代後期中葉に位置付けられる。

33) H33号住居址



1　暗褐色土層　ローム粒子・砂粒少量含む。10YR3/4
2　黒色土層　炭化粒子・炭化材小片多量、焼土粒子少量含む。10YR1.7/1
3　暗褐色土層　ローム粒子・炭化粒子・炭化材小片少量含む。10YR3/3
4　にぶい黄褐色土層　ローム粒子多量含む。10YR4/3
5　暗褐色土層　ローム粒子少量含む。10YR3/3
6　褐色土層　ローム粒子多量含む。10YR4/4

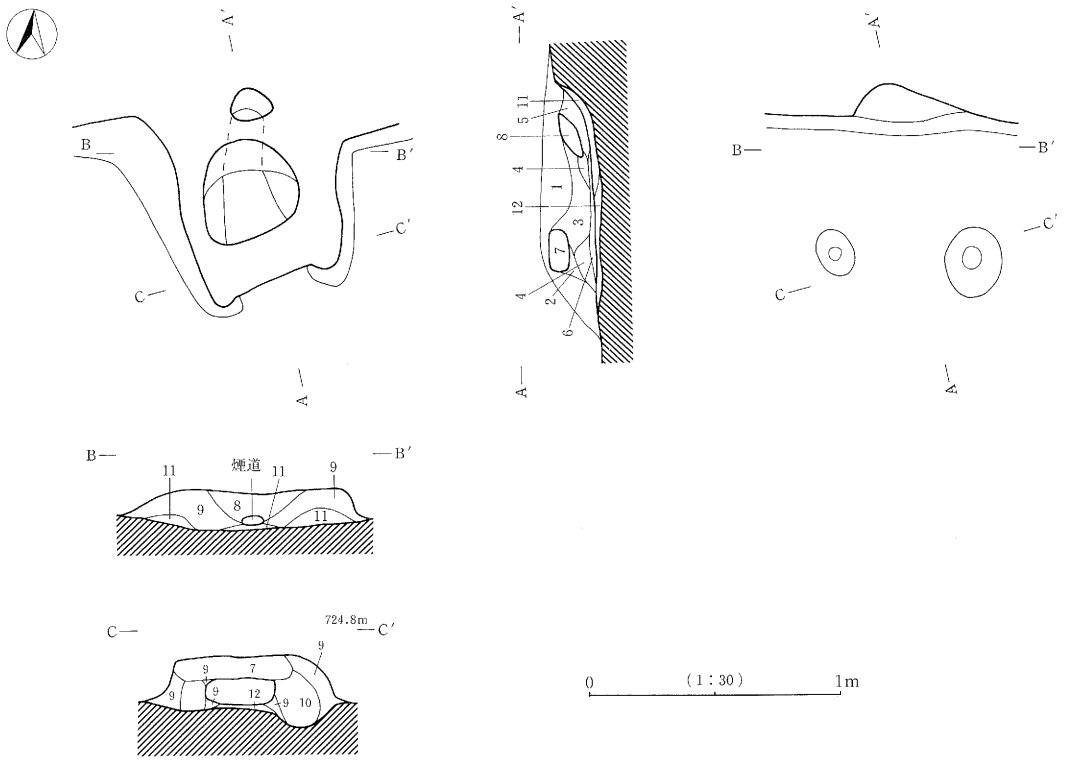
0　(1:80)　2m

第180図　H33号住居址実測図

H33号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区北側、い・う－2・3グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第IV層上面において単独で検出された。

平面形態は、南北で342cm、東西で334cmを測り、方形を呈する。主軸方位はN－6°－Wを指す。また床面積は11.04m²を測る。

覆土は3層に分割された。



1　暗褐色土層　粘土粒子少量、ローム粒子微量含む。7.5YR3/4

2　灰褐色土層　粘土粒子多量、焼土粒子微量含む。5YR4/2

3　暗赤褐色土層　粘土粒子・焼土粒子多量含む。5YR3/4

4　褐灰色土層　粘土(ブロック状)主体。焼土粒子微量含む。5YR4/1

5　黒褐色土層　焼土粒子多量、粘土粒子少量含む。5YR2/1

6　赤褐色土層　焼土主体。炭化粒子多量含む。5YR4/6

7　にぶい黄褐色土層　粘土主体。10YR5/3

8　灰赤色土層　粘土主体。2.5YR4/2

9　灰褐色土層　粘土主体。5YR4/2

10　灰黄褐色土層　粘土主体。10YR4/2

11　褐灰色土層　粘土主体。ローム粒子少量含む。5YR5/1

12　暗褐色土層　粘土粒子・ローム粒子少量含む。10YR3/3

第181図　H33号住居址カマド実測図

確認面からの壁残高は10～26cmを測る。壁体は全体層序第Ⅳ層の明黄褐色ロームを利用し、平滑で堅固である。床面はおおむね平坦で貼床が認められた。貼床は第6層によって貼られる。なお第4層と第5層は柱を吸える際の埋土と考えられる。

ピットは主柱穴4個（P_1～P_4）、貯蔵穴1個（P_8）、その他3個（P_5～P_7）の計8個が検出された。なおP_5とP_6は、遺物の出土状況等から、甕等の食器を置くための凹みと考えられる。

カマドは北壁中央やや東寄りにおいて検出された。残存状況は良好で、ほぼ完全な状態であった。残存する規模は、焚口より煙道出口まで91cmで袖部の巾79cm、かけ穴の巾37cmを測る。また右側の袖は長さ57cmで巾28cm・高さ10.5～16cm、左側の袖は長さ81cmで巾26cm・高さ10～13.5cmを測る。覆土は6層に分割された。残存するカマド各部の構築状況は以下のとおりである。袖部は第7層～第10層によって、焚口は第12層によって、燃焼部は第11層と第12層によって、煙道下部は第11層によって、煙道天井部は第8層によって構築される。なお袖の天井部は石ではなく粘土によって構築されていた。

本住居址は焼失住居址で、床面がかなり焼け、第2層・第3層中より焼土と炭化材微小片が確認された。

遺物は土師器の甕・坏等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代後期中葉に位置付けられる。

34）H34号住居址

H34号住居址は、下聖端遺跡Ⅱの調査区北側、お・か－3・4グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第Ⅳ層上面において検出された。なお北西半分は調査区域外である。

確認された現存規模は、南壁で565cm、東壁で414cmを測り、方形を呈すると考えられる。主軸方位はN－6°－Wを指す。また現存する床面積は12.63m²を測る。

覆土は8層に分割された。なお第1層は耕作土、第8層は柱痕である。

確認面からの壁残高は41～65cmを測る。壁体は全体層序第Ⅳ層の明黄褐色ロームを利用し、平滑で堅固である。床面はおおむね平坦で貼床と周溝が認められた。

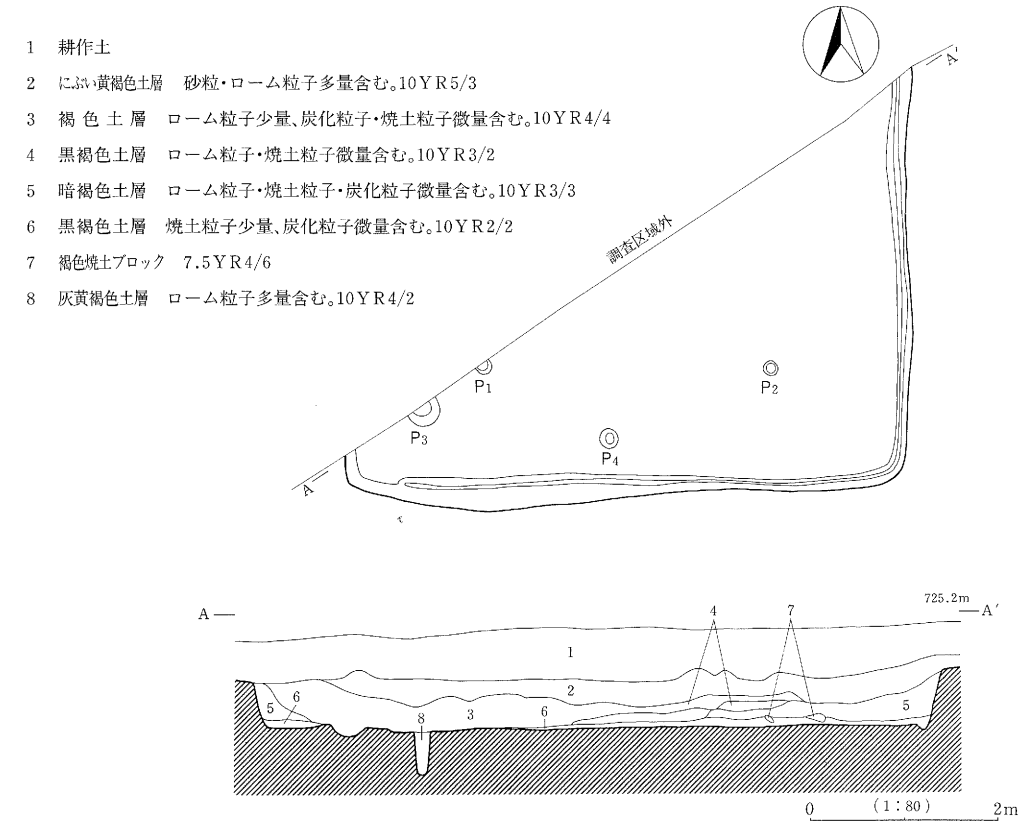
ピットは主柱穴2個（P_1・P_2）、補助柱穴1個（P_3）、入口施設に伴う柱穴1個（P_4）の計4個が検出された。

カマドは検出されなかったが、調査区域外である北壁に存在していると考えられる。

本住居址は焼失住居址で、床面がかなり焼け、焼土と炭化材微小片が確認された。

遺物は土師器の甕・坏等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代後期中葉に位置付けられる。



第182図 H34号住居址実測図

35) H35号住居址

H35号住居址は、下聖端遺跡IIの調査中央、ひ～へ－13～15グリット内に位置し、下聖端遺跡全体層序第IV層上面において検出された。なおM6・10号溝状遺構により一部破壊される。

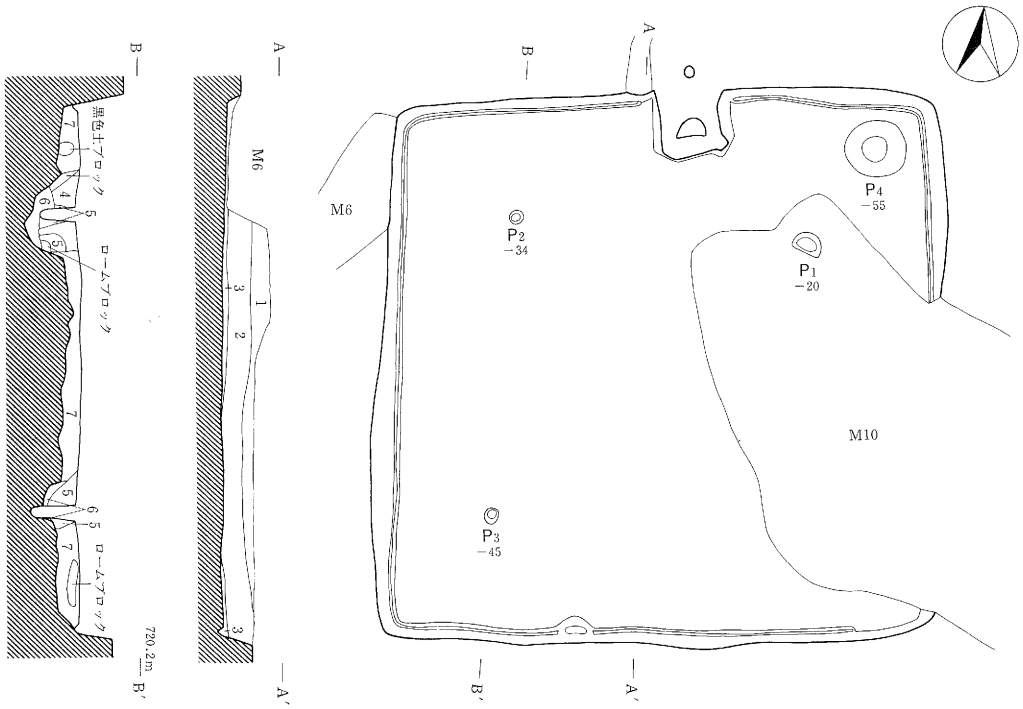
平面形態は、南北552cm、東西560cmを測り、方形を呈している。主軸方位はN－1°－Eを指す。

覆土は3層から確認された。

確認面からの壁残高は、20～61cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっていた。貼床は第7層により貼られる。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。なお第4～6層は柱を据える際の埋土と考えられる。

ピットは、主柱穴3個（P_1～P_3）、貯蔵穴1個（P_4）の計4個が検出された。

カマドは北壁中央で検出された。残存状況は良好で、焚口より煙道出口まで110cm、袖部の巾84cmを測る。覆土は7層が確認された。構築状況は以下のとおりである。燃焼部は第8・11層によっ



1　黒 色 土 層　ローム粒子微量含む。10YR1.7/1

2　暗褐色土層　ローム粒子少量、パミス微量含む。10YR3/3

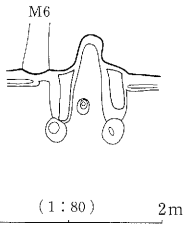
3　褐 色 土 層　焼土粒子・炭化材小片・ローム粒子少量含む。10YR4/4

4　にぶい黄褐色土層　ローム粒子多量含む。10YR3/4

5　黒褐色土層　ローム粒子・パミス少量含む。10YR3/2

6　暗褐色土層　ローム粒子多量含む。10YR3/3

7　にぶい黄褐色土層　パミス少量・ローム粒子多量含む。10YR4/3



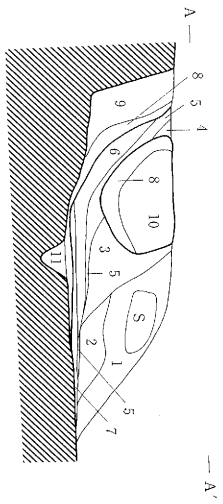
第183図　H35号住居址・カマド掘方実測図

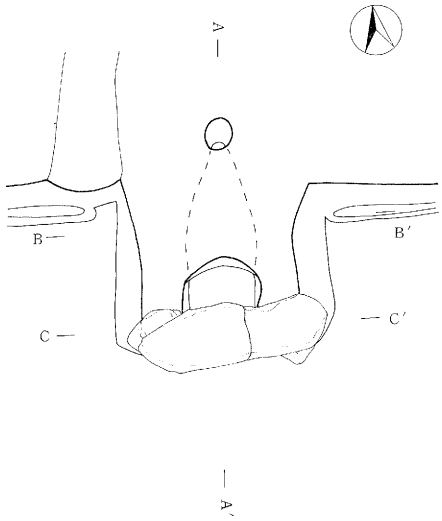
て、煙道下部は第9層によって、袖部はロームの造り出しを基礎とし第8層により構築される。

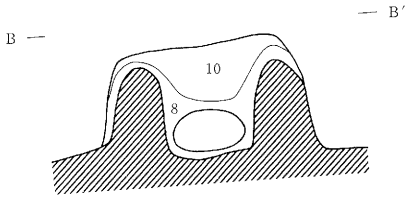
本住居址は焼失住居址で、覆土中及び床面で炭化小片が確認された。

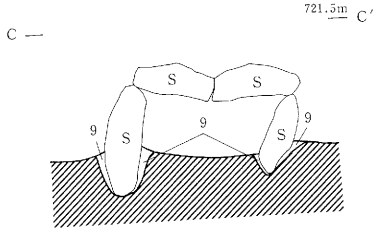
遺物は土師器の甕・坏、編み物石、紡錘車等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代後期中葉に位置付けられる。







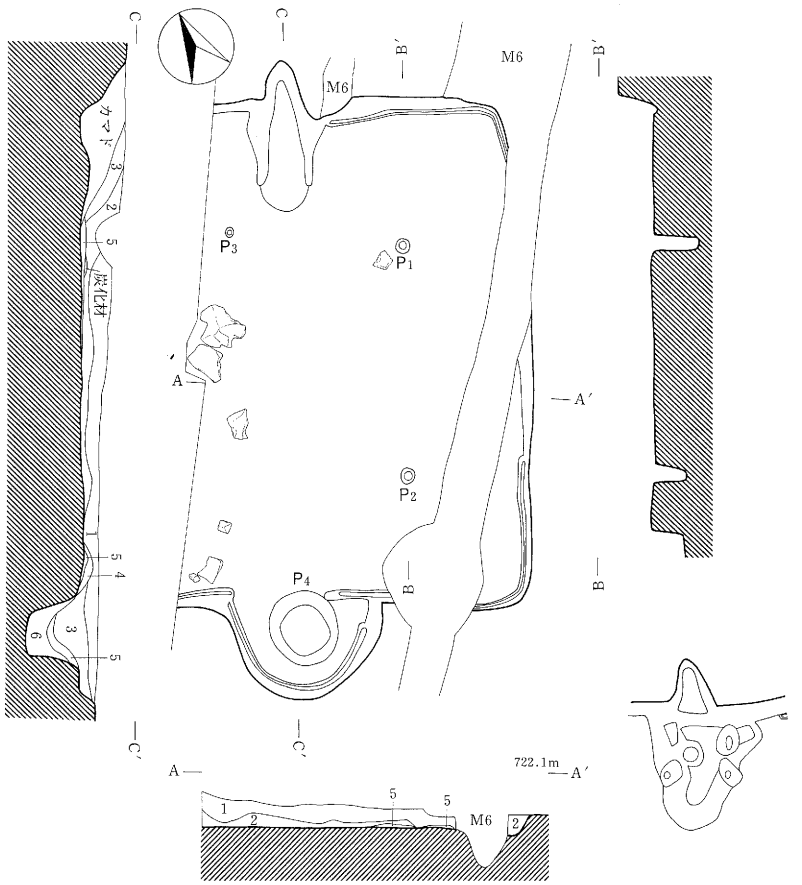


1　暗褐色土層　粘土粒子・焼土粒子少量含む。10YR3/3
2　褐灰色土層　粘土粒子多量含む。10YR4/1
3　灰褐色土層　粘土粒子・焼土粒子少量含む。7.5YR4/2
4　黒褐色土層　ローム粒子・粘土粒子微量含む。10YR2/2
5　暗褐色土層　粘土粒子少量、ローム粒子微量含む。7.5YR3/4
6　にぶい赤褐色土層　粘土粒子・焼土粒子少量含む。5YR4/3
7　赤褐色土層　焼土主体。5YR4/8
8　にぶい橙色土層　粘土主体。7.5YR6/4
9　灰褐色土層　粘土粒子、ローム粒子少量含む。7.5YR5/2
10　明褐灰色土層　粘土主体。7.5YR7/1
11　極暗褐色土層　粘土粒子・ローム粒子少量含む。

0　(1:30)　1m

第184図　H35号住居址カマド実測図

36）H36号住居址



1　暗褐色土層　ローム粒子少量、パミス中粒以下・炭化粒子微量含む。
　　む。10YR3/4

2　黒 色 土 層　炭化粒子・焼土粒子少量、ローム粒子微量含む。
　　10YR2/1

3　黒褐色土層　ローム粒子微量、炭化粒子少量含む。10YR2/2

4　暗褐色土層　ローム粒子少量、炭化粒子微量含む。10YR3/3

5　黒褐色土層　炭化粒子・焼土粒子少量含む。7.5YR3/1

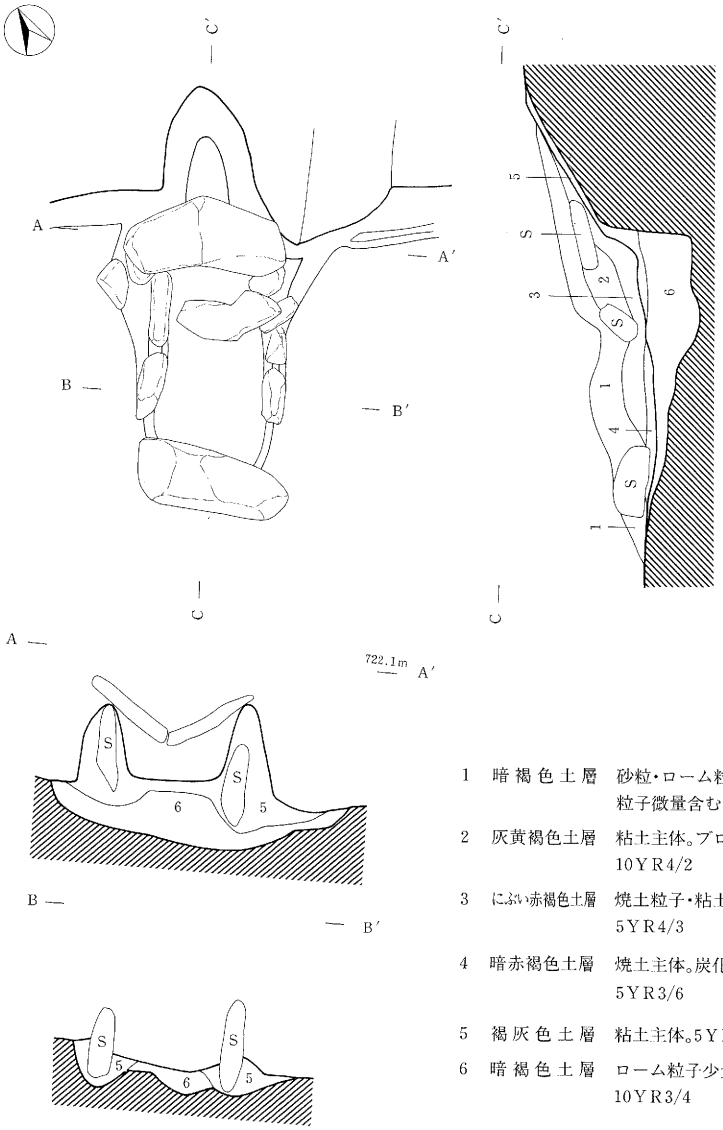
6　暗褐色土層　ローム粒子少量含む。10YR3/4

0　（1：80）　2m

第185図　H36号住居址・カマド掘方実測図

H36号住居址は、下聖端遺跡IIの調査中央、む・め－18～19グリット内に位置し、下聖端遺跡全体層序第IV層上面において検出された。なおM6号溝状遺構により一部破壊される。

平面形態は、南北497cmを測り、方形を呈している。主軸方位はN－26°－Wを指す。



1　暗褐色土層　砂粒・ローム粒子少量、粘土粒子微量含む。10YR3/3

2　灰黄褐色土層　粘土主体。ブロック状。10YR4/2

3　にぶい赤褐色土層　焼土粒子・粘土粒子多量含む。5YR4/3

4　暗赤褐色土層　焼土主体。炭化粒子少量含む。5YR3/6

5　褐灰色土層　粘土主体。5YR4/1

6　暗褐色土層　ローム粒子少量含む。10YR3/4

0　(1:30)　1m

第186図　H36号住居址カマド実測図

覆土は6層が確認された。

確認面からの壁残高は、9～39cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっていた。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。

ピットは、主柱穴2個（P_1～P_2）、貯蔵穴1個（P_4）の計4個が検出された。

カマドは北壁中央で検出された。残存状況は良好で、焚口より煙道出口まで167cm、袖部の巾61cmを測る。覆土は4層が確認された。構築状況は以下のとおりである。燃焼部は第6層によって、煙道下部は第5層によって、袖部は安山岩を基礎とし第5・6層により構築される。

本住居址は焼失住居址で、覆土中及び床面で炭化材が確認された。

遺物は土師器の甕・坏、臼玉等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代後期中葉に位置付けられる。

37）H37号住居址

H37号住居址は、下聖端遺跡IIの調査中央、よ～る－23～26グリット内に位置し、下聖端遺跡全体層序第IV層上面において検出された。なおH49号住居址により一部破壊される。

平面形態は、南北852cm、東西851cmを測り、方形を呈している。主軸方位はN－11°－Wを指す。また床面積は71.45m²を測る。

覆土は3層から確認された。

確認面からの壁残高は、2～78cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっていた。貼床は第7層によって貼られる。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。なお第4～6層は柱を据える際の埋土と考えられる。

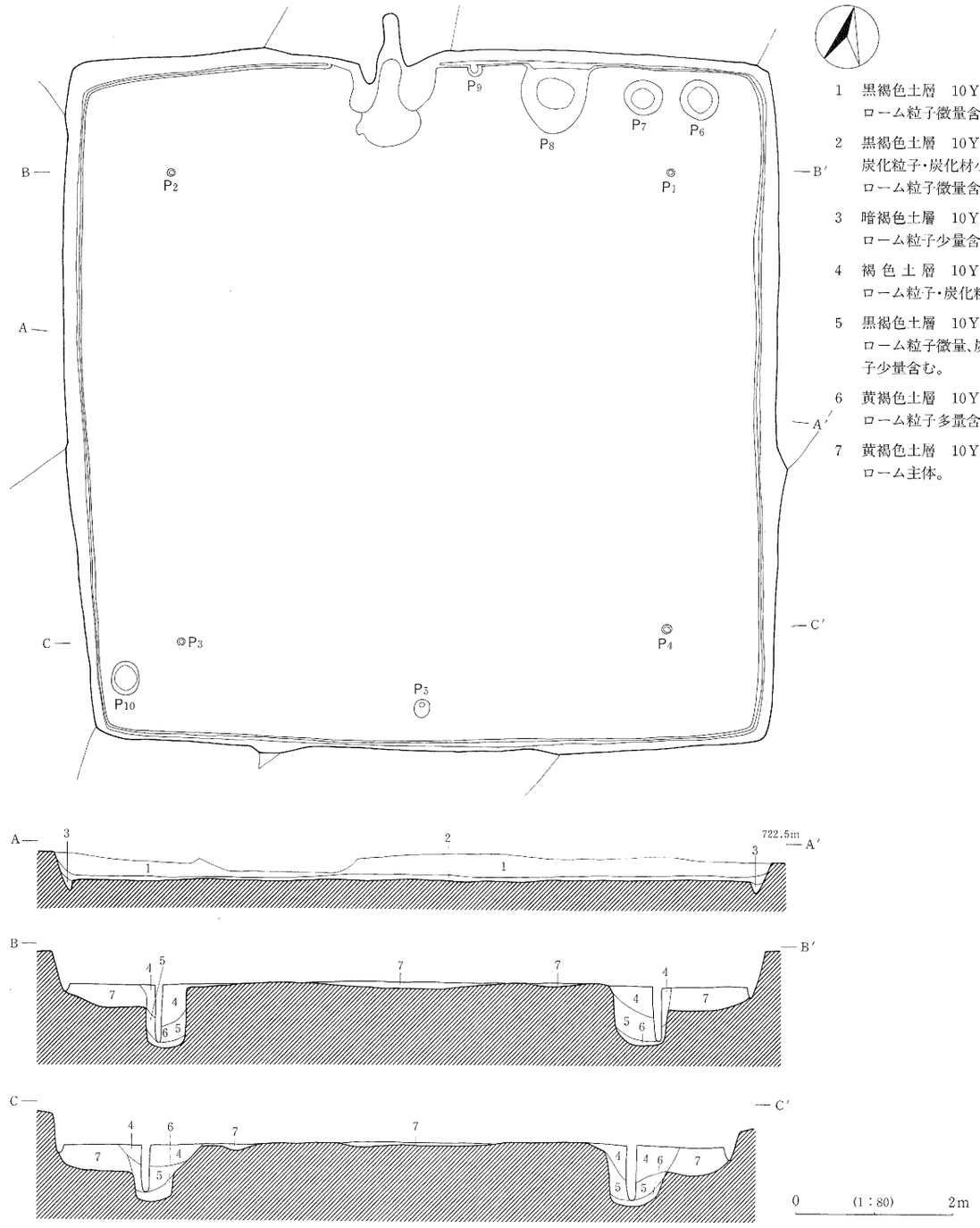
ピットは、主柱穴4個（P_1～P_4）、入口施設1個（P_5）、その他5個（P_6～P_{10}）の計10個が検出された。

カマドは北壁中央で検出された。残存状況は悪く、焚口より煙道出口まで169cm、袖部の巾103cmを測る。覆土は5層が確認された。構築状況は以下のとおりである。燃焼部は第6・7層によって、煙道下部は第5層によって、袖部はローム造り出しを基礎とし第5・7層により構築される。

本住居址は焼失住居址で、覆土中及び床面で炭化小片が確認された。

遺物は土師器の甕・坏、須恵器の坏蓋・坏身、編み物石、臼玉等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代後期中葉に位置付けられる。



1　黒褐色土層　10YR3/2
ローム粒子微量含む。

2　黒褐色土層　10YR2/2
炭化粒子・炭化材小片・
ローム粒子微量含む。

3　暗褐色土層　10YR3/4
ローム粒子少量含む。

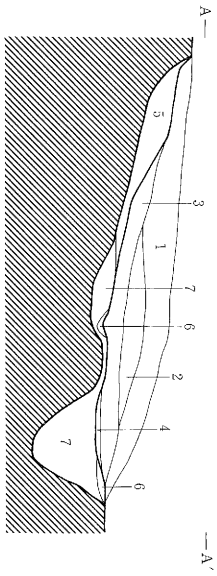
4　褐 色 土 層　10YR4/6
ローム粒子・炭化粒子少量含む。

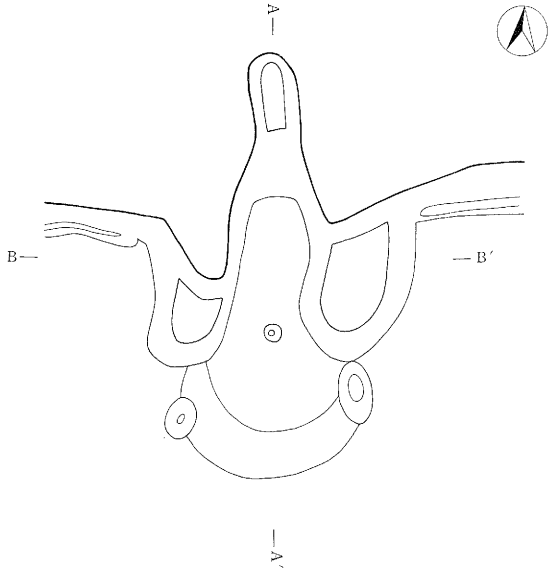
5　黒褐色土層　10YR2/2
ローム粒子微量、炭化粒
子少量含む。

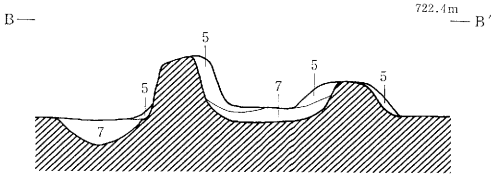
6　黄褐色土層　10YR5/6
ローム粒子多量含む。

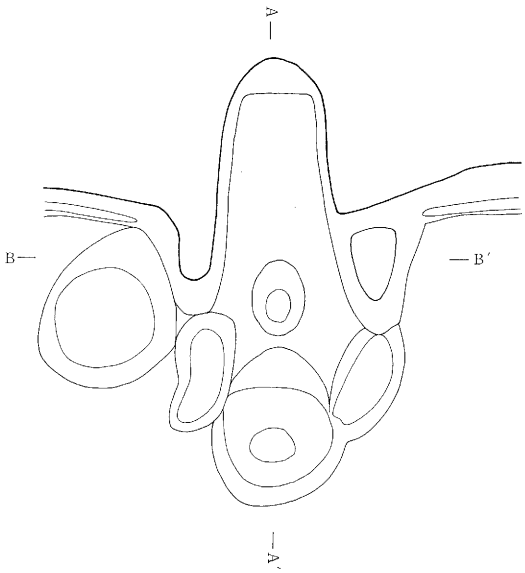
7　黄褐色土層　10YR5/6
ローム主体。

第187図　H37号住居址実測図









1　灰褐色土層　5YR4/2
　　粘土粒子・ローム粒子少量含む。

2　灰赤色土層　2.5YR5/2
　　粘土主体。焼土粒子・炭化粒子微量含む。

3　灰褐色土層　5YR5/2
　　粘土粒子多量、焼土粒子少量含む。

4　赤褐色土層　5YR4/6
　　焼土主体。炭化粒子多量含む。

5　灰褐色土層　粘土主体。5YR6/1

6　灰褐色土層　粘土主体。5YR4/2

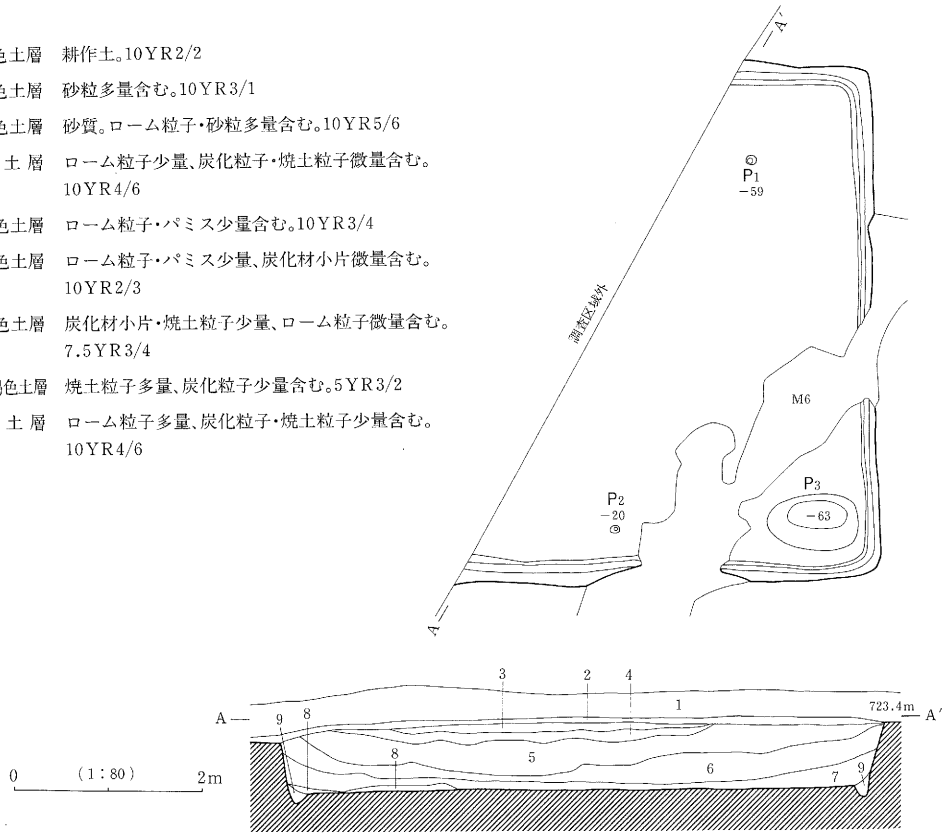
7　褐色土層　7.5YR4/4
　　粘土粒子・ローム粒子少量含む。

0　(1:30)　1m

第188図　H37号住居址カマド実測図

38) H38号住居址

1　黒褐色土層　耕作土。10YR2/2
2　黒褐色土層　砂粒多量含む。10YR3/1
3　黄褐色土層　砂質。ローム粒子・砂粒多量含む。10YR5/6
4　褐色土層　ローム粒子少量、炭化粒子・焼土粒子微量含む。10YR4/6
5　暗褐色土層　ローム粒子・パミス少量含む。10YR3/4
6　黒褐色土層　ローム粒子・パミス少量、炭化材小片微量含む。10YR2/3
7　暗褐色土層　炭化材小片・焼土粒子少量、ローム粒子微量含む。7.5YR3/4
8　暗赤褐色土層　焼土粒子多量、炭化粒子少量含む。5YR3/2
9　褐色土層　ローム粒子多量、炭化粒子・焼土粒子少量含む。10YR4/6



第189図　H38号住居址実測図

H38号住居址は、下聖端遺跡IIの調査中央、り～れ－22～24グリット内に位置し、下聖端遺跡全体層序第IV層上面において検出された。なおM6号溝状遺構により一部破壊される。

平面形態は、南北532cmを測り、方形を呈すると考えられる。主軸方位はN－1°－Wを指す。

覆土は9層が確認された。

確認面からの壁残高は、28～53cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっていた。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。

ピットは、主柱穴1個（P_1）、入口施設1個（P_2）、貯蔵穴1個（P_3）の計3個が検出された。

カマドは検出されなかった。

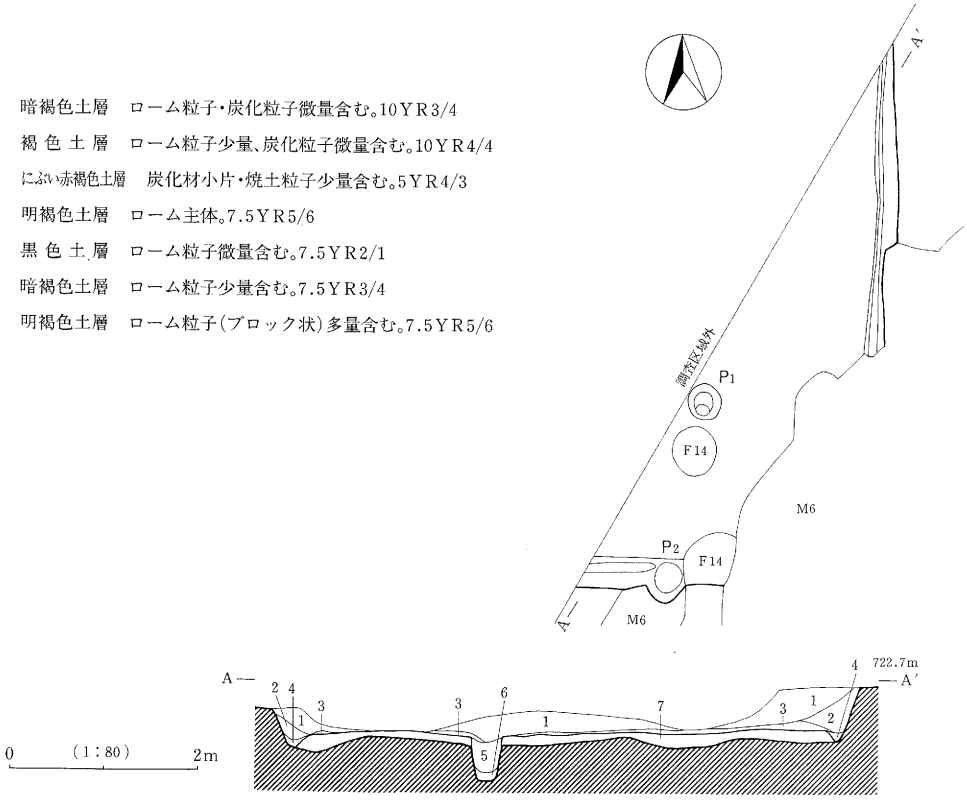
本住居址は焼失住居址で、覆土中及び床面で炭化材小片が確認された。

遺物は土師器の甕・坏等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代後期中葉に位置付けられる。

39) H39号住居址

1　暗褐色土層　ローム粒子・炭化粒子微量含む。10YR3/4
2　褐色土層　ローム粒子少量、炭化粒子微量含む。10YR4/4
3　にぶい赤褐色土層　炭化材小片・焼土粒子少量含む。5YR4/3
4　明褐色土層　ローム主体。7.5YR5/6
5　黒色土層　ローム粒子微量含む。7.5YR2/1
6　暗褐色土層　ローム粒子少量含む。7.5YR3/4
7　明褐色土層　ローム粒子(ブロック状)多量含む。7.5YR5/6



第190図　H39号住居址実測図

H39号住居址は、下聖端遺跡IIの調査中央、よ・ら－21・22グリット内に位置し、下聖端遺跡全体層序第IV層上面において検出された。なおM6号溝状遺構・H45号住居址により一部破壊される。

平面形態は方形を呈すると考えられる。

覆土は6層が確認された。

確認面からの壁残高は、28～43cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっていた。貼床は第7層によって貼られる。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。

ピットは、主柱穴1個（P_1）、貯蔵穴1個（P_2）の計2個が検出された。

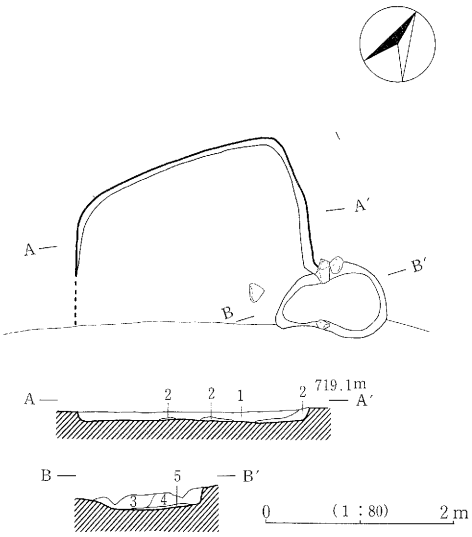
カマドは検出されなかった。

本住居址は焼失住居址で、覆土中及び床面で炭化材小片が確認された。

遺物は土師器の甕・坏等が出土した。

以上より本住居址は、古墳時代後期に位置付けられる。

40) H40号住居址



1　黒褐色土層　ローム粒子微量含む。10YR2/3

2　暗赤褐色土層　炭化材小片・焼土粒子多量含む。5YR2/3

3　暗褐色土層　粘土粒子・炭化粒子少量含む。7.5YR3/3

4　暗赤褐色土層　粘土粒子・焼土粒子少量含む。5YR3/2

5　暗赤褐色土層　焼土主体。5YR3/6

第191図　H40号住居址実測図

H40号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区南側、く・け－2・3グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第IV層上面において検出された。なお南側を農道により破壊される。

平面形態は、南北242cmを測り、方形を呈している。主軸方位はN－50°－Eを指す。

覆土は2層が確認された。

確認面からの壁残高は、14～20cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっており、貼床は認められなかった。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。

ピットは検出されなかった。

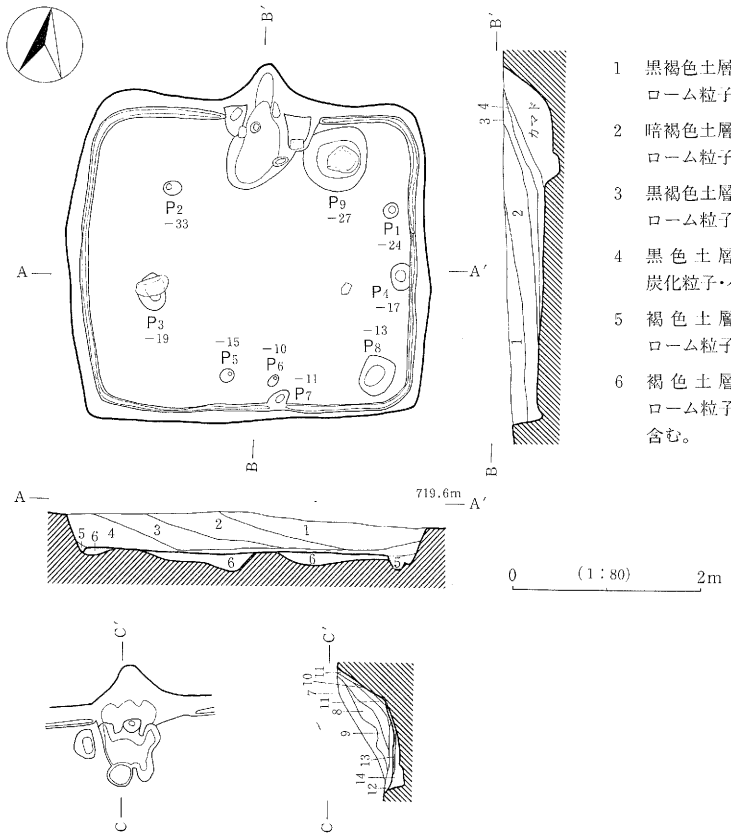
カマドは北壁中央で検出された。残存状況は極めて悪く、焚口から煙道出口まで118cmを測る。

覆土は3層に分割された。

遺物は土師器の甕・坏・鉢等が出土した。

以上より本住居址は、平安時代中期に位置付けられる。

41) H41号住居址



1 黒褐色土層 10YR3/2
ローム粒子微量含む。

2 暗褐色土層 10YR3/4
ローム粒子・パミス少量含む。

3 黒褐色土層 10YR3/2
ローム粒子微量含む。

4 黒色土層 10YR2/1
炭化粒子・パミス微量含む。

5 褐色土層 10YR4/6
ローム粒子多量含む。

6 褐色土層 10YR4/4
ローム粒子多量、パミス少量含む。

7 黒褐色土層 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量含む。7.5YR3/2

8 褐灰色土層 粘土粒子少量含む。5YR4/1

9 黒褐色土層 粘土粒子少量、炭化粒子・焼土粒子微量含む。5YR3/1

10 にぶい赤褐色土層 粘土粒子多量、焼土粒子少量含む。5YR4/3

11 灰赤色土層 粘土主体。2.5YR4/2

12 赤褐色土層 焼土主体。5YR4/8

13 褐灰色土層 粘土主体。7.5YR4/1

14 黄褐色土層 粘土粒子・炭化粒子微量、ローム粒子多量含む。10YR5/8

第192図 H41号住居址・カマド掘方実測図

H41号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区南側、こ・さ－9・10グリッド内に位置し、下聖端遺

跡全体層序第Ⅳ層上面において検出された。

平面形態は、南北318cm、東西358cmを測り、方形を呈している。主軸方位はN－8°－Eを指す。また床面積は9.92m²を測る。

覆土は5層が確認された。

確認面からの壁残高は、20～47cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっており、貼床は第6層により貼られる。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。

ピットは、主柱穴4個（P_1～P_4）、入口施設3個（P_5～P_7）、その他2個の計9個が検出された。

カマドは北壁中央で検出された。残存状況は極めて悪く、焚口から煙道出口まで132cm、袖の巾97cmを測る。覆土は12層に分割された。燃焼部の下部は第13・14層により構築される。

遺物は土師器の甕・坏、鉄製品等が出土した。

以上より本住居址は、平安時代中期に位置付けられる。

42）H42号住居址

H42号住居址は、下聖端遺跡Ⅱの調査区南側、て～な－15・16グリット内に位置し、下聖端遺跡全体層序第Ⅳ層上面において検出された。

平面形態は方形を呈すると考えられる。

覆土は1層が確認された。

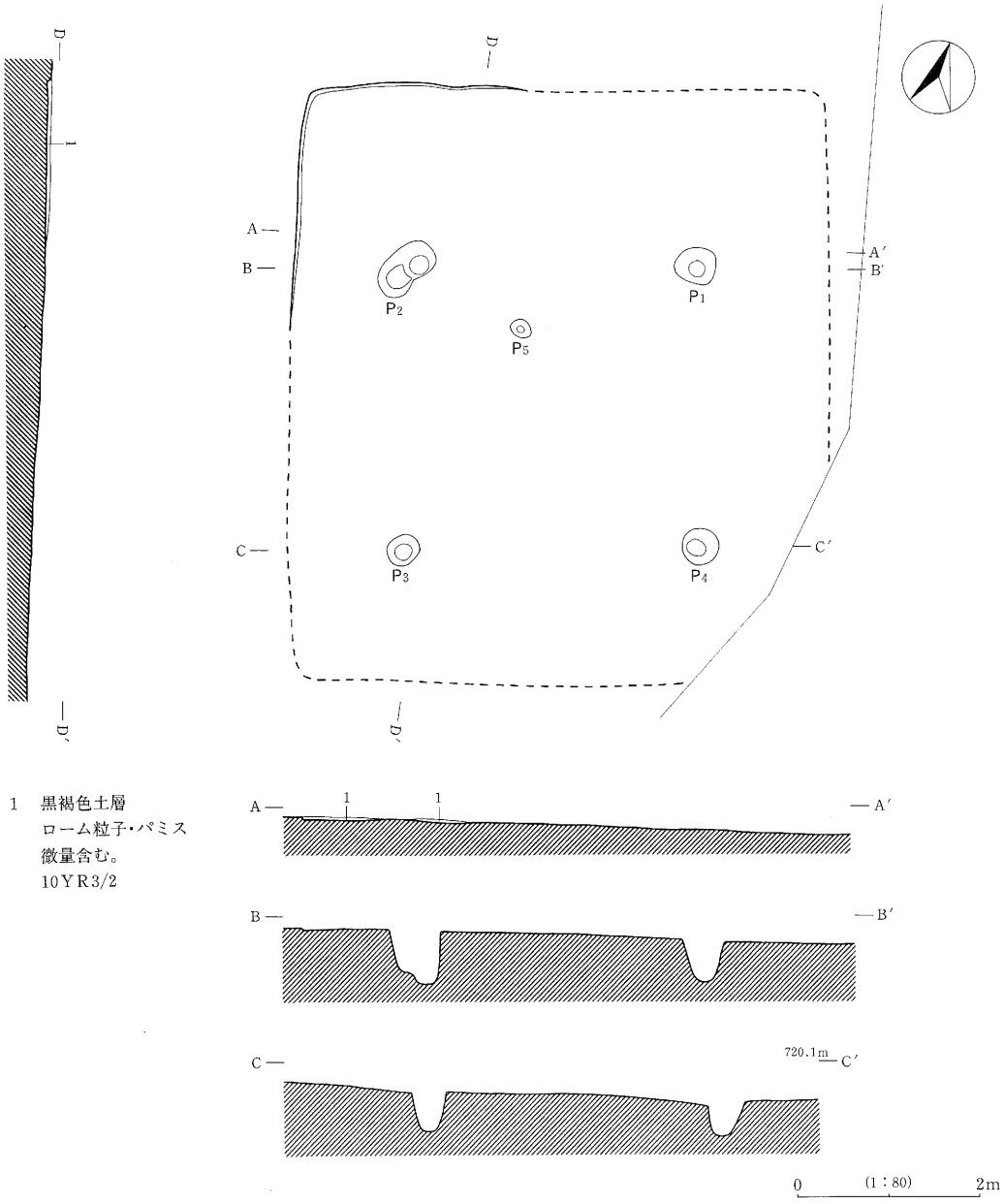
確認面からの壁残高は、0～5cmを測る。

ピットは、主柱穴4個（P_1～P_4）、その他1個（P_5）の計5個が検出された。

カマドは検出されなかった。

遺物は土師器の甕・坏等が出土した。

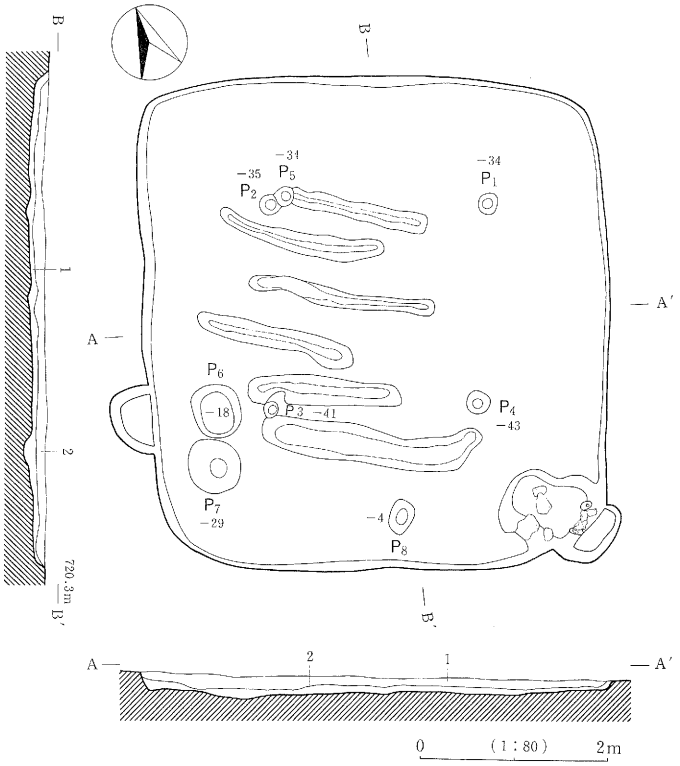
遺物の量は少なく、所産期は不明である。



第193図　H42号住居址実測図

43）H43号住居址

H43号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区南側、つ・て－11・12グリッド内に位置し、下聖端遺



1　黒褐色土層　パミス・ローム粒子微量含む。10YR2/2

2　黒褐色土層　ローム粒子・パミス少量、炭化粒子微量含む。10YR3/2

第194図　H43号住居址実測図

跡全体層序第Ⅳ層上面において検出された。

平面形態は、南北502cm、東西460cmを測り、南北にやや長い方形を呈している。主軸方位はN－16°－Eを指す。また床面積は22.97m²を測る。

覆土は2層が確認された。

確認面からの壁残高は、7～21cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっており、貼床は認められなかった。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。

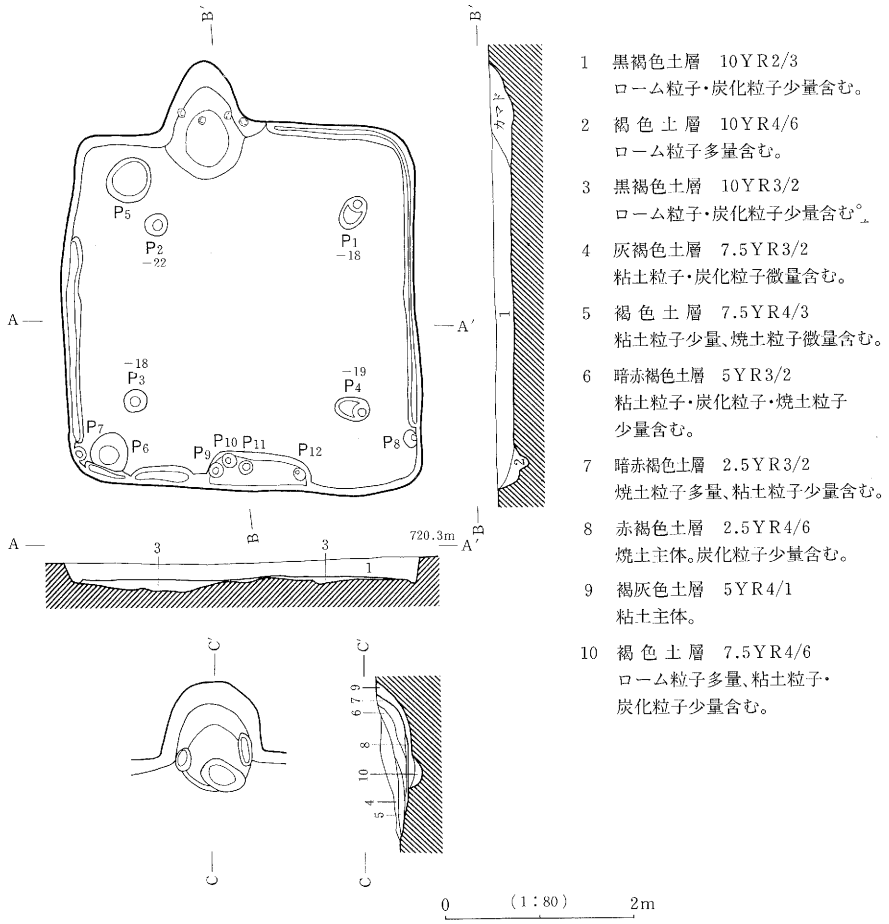
ピットは、主柱穴4個（P_1～P_4）、その他4個の計8個が検出された。

カマドは東南壁隅中央で検出された。残存状況は極めて悪く、構築材と思われるの安山岩が散乱していた。

遺物は土師器の甕・坏等が出土した。

以上より本住居址は、平安時代中期に位置付けられる。

44）H44号住居址



第195図　H44号住居址・カマド掘方実測図

H44号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区南側、ち・つ－9・10グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第IV層上面において検出された。

平面形態は、南北374cm、東西364cmを測り、南北にやや長い方形を呈している。主軸方位はN－21°－Wを指す。また床面積は12.38m²を測る。

覆土は2層が確認された。

確認面からの壁残高は、14～27cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっており、貼床は第3層によって貼られる。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。

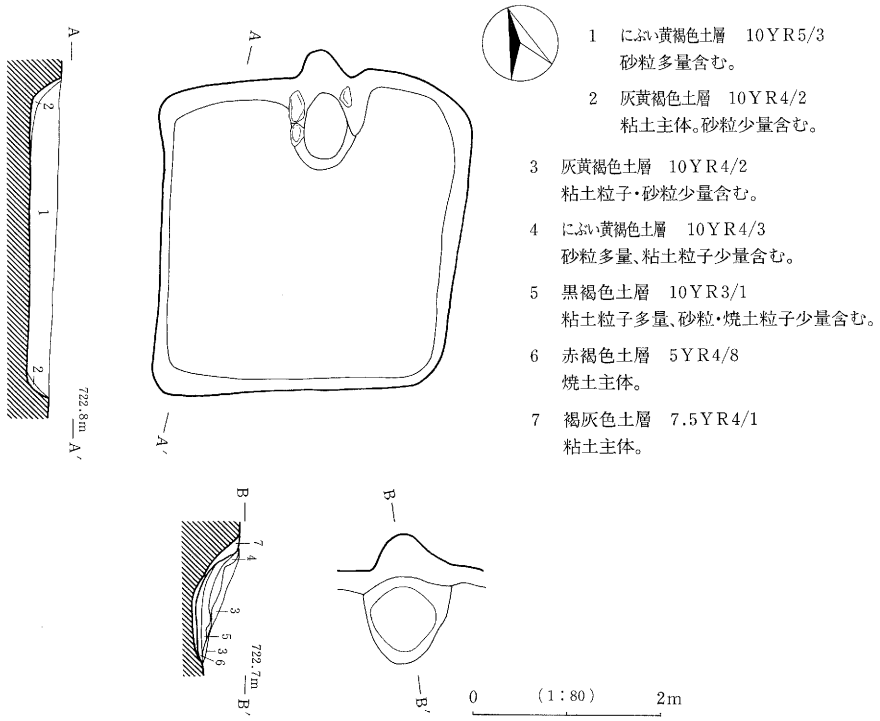
ピットは、主柱穴４個（P_1～P_4）、入口施設４個（P_9～P_{12}）、その他３個の計12個が検出された。

カマドは北壁中央西よりで検出された。残存状況は極めて悪く、焚口から煙道出口まで123cmを測る。覆土は８層に分割された。燃焼部の下部は第９・10層により構築される。

遺物は土師器の甕・坏等が出土した。

以上より本住居址は、平安時代中期に位置付けられる。

45）H45号住居址



第196図　H45号住居址・カマド掘方実測図

H45号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区南側、よ・ら－21・22グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第III層中において検出された。

平面形態は、南北296cm、東西290cmを測り、方形を呈している。主軸方位はN－25°－Eを指す。また床面積は8.65m²を測る。

覆土は２層が確認された。

確認面からの壁残高は、19～35cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっており、貼床は認められなかった。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。

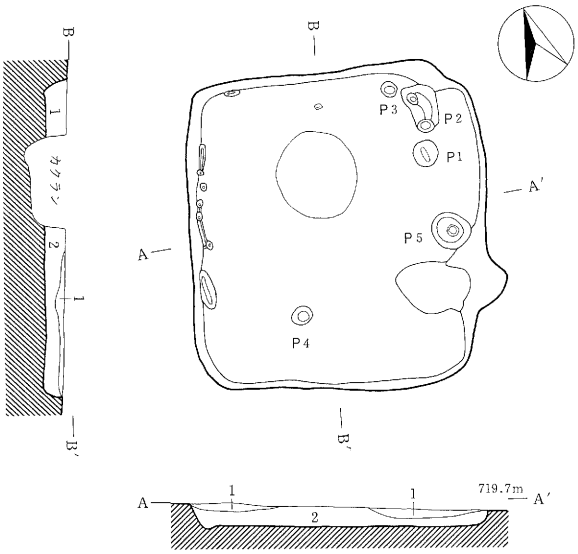
ピットは検出されなかった。

カマドは北壁中央で検出された。残存状況は極めて悪く、焚口から煙道出口まで129cmを測る。覆土は6層に分割された。燃焼部の下部は第7層により構築される。

遺物は土師器の甕・坏、隆平永宝等が出土した。

以上より本住居址は、平安時代中期に位置付けられる。

46) H46号住居址



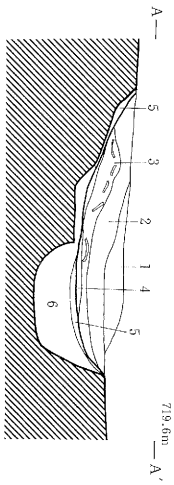
1　暗褐色土層　ローム粒子・砂粒微量含む。10YR3/4
2　黒色土層　炭化粒子微量含む。10YR2/1
3　褐色土層　ローム粒子少量含む。10YR4/6

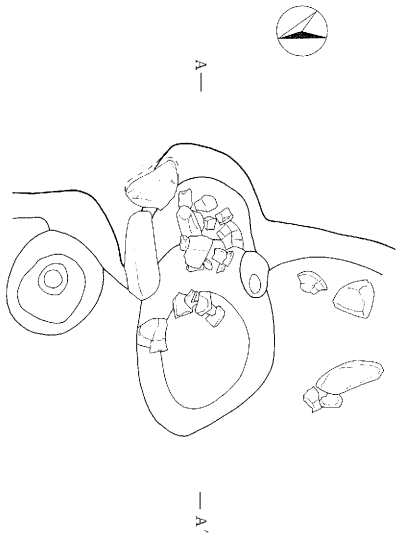
0　(1:80)　2m

第197図　H46号住居址実測図

H46号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区南側、す－12・13グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第IV層上面において検出された。

平面形態は、南北320cm、東西282cmを測り、南北にやや長い方形を呈している。主軸方位はN－





1　灰褐色土層　7.5YR4/2
　　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量含む。

2　暗褐色土層　7.5YR3/4
　　焼土粒子・粘土粒子少量含む。

3　灰褐色土層　5YR4/2
　　焼土粒子・炭化粒子少量、粘土粒子
　　微量含む。

4　暗赤褐色土層　5YR3/6
　　焼土主体。炭化粒子少量含む。

5　褐灰色土層　5YR4/1　粘土主体。

6　暗褐色土層　10YR3/4
　　ローム粒子多量含む。

0　(1：30)　1m

第198図　H46号住居址カマド実測図

16°－Eを指す。また床面積は8．9㎡を測る。

覆土は2層が確認された。

確認面からの壁残高は、13～37cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっており、貼床は認められなかった。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。

ピットは計5個が検出された。

カマドは東壁中央やや南よりで検出された。残存状況は極めて悪く、左側の袖が残るのみである。残存する焚口より煙道出口までは116cmを測る。覆土は4層が確認された。カマド構築状況は以下のとおりである。煙道下部は第6層によって、燃焼部は第5・6層によって構築される。

遺物は土師器の甕・坏と鉄製品等が出土した。

以上より本住居址は、平安時代中期に位置付けられる。

47) H47号住居址

H47号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区南側、て・と－11・12グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第IV層上面において検出された。

平面形態は、南北343cm、東西345cmを測る。主軸方位はN－17°－Eを指す。また床面積は11.32㎡を測る。

覆土は4層が確認された。

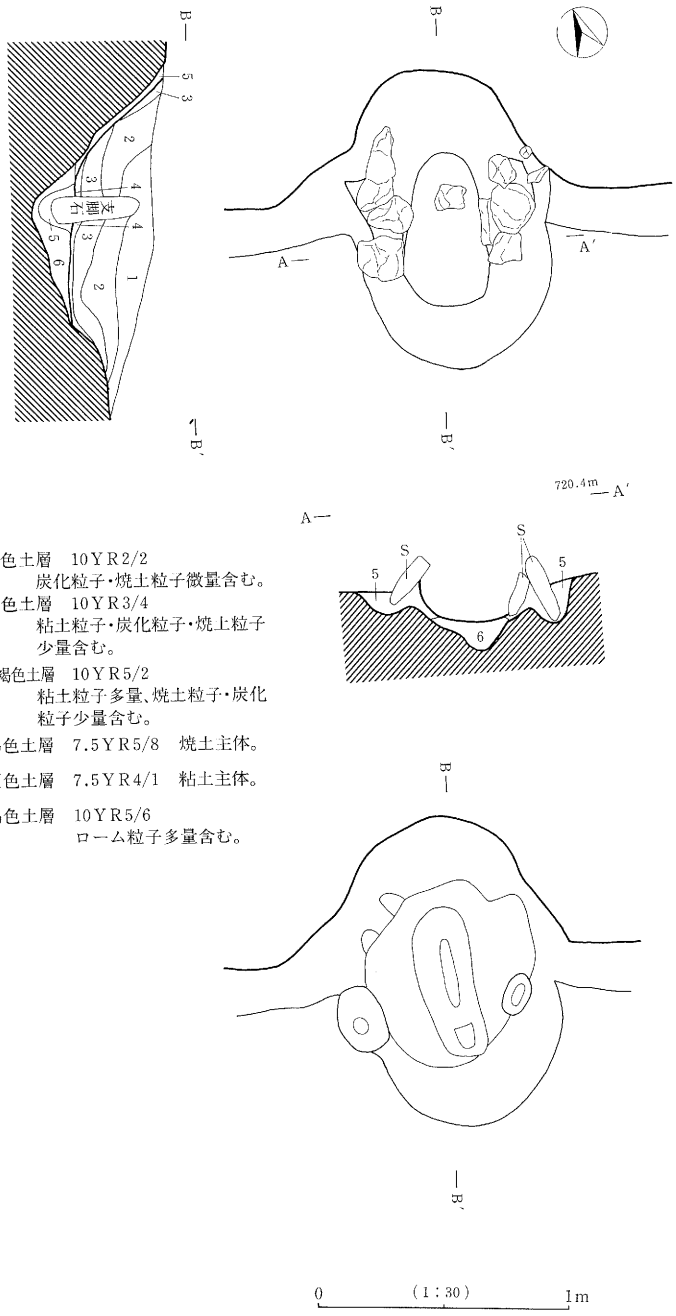
確認面からの壁残高は、9～24cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっており、貼床は第5・6層により貼られる。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。

ピットは計6個が検出された。

カマドは北壁中央やや西よりで検出された。残存状況は極めて悪く、残存する焚口より煙道出口までは118cmを測る。覆土は4層が確認された。煙道下部は第5層によって、燃焼部は第5・6層によって構築される。

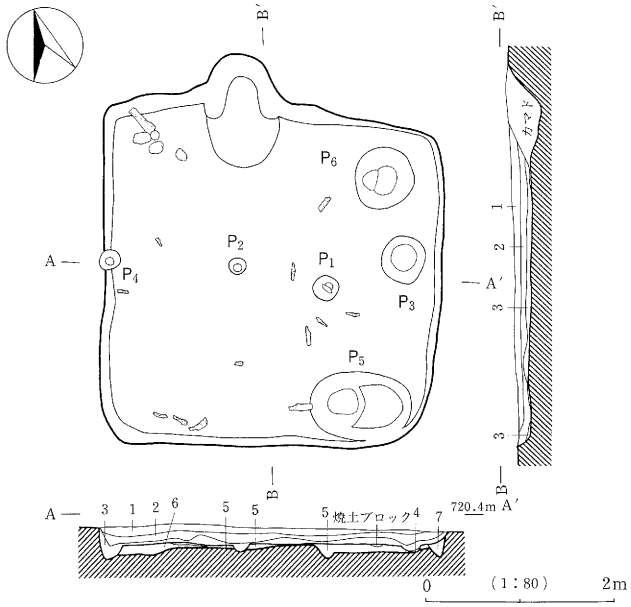
遺物は土師器の甕・坏、鉄製品等が出土した。

以上より本住居址は、平安時代中期に位置付けられる。



1　黒褐色土層　10YR2/2
　　炭化粒子・焼土粒子微量含む。
2　暗褐色土層　10YR3/4
　　粘土粒子・炭化粒子・焼土粒子少量含む。
3　灰黄褐色土層　10YR5/2
　　粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量含む。
4　明褐色土層　7.5YR5/8　焼土主体。
5　褐灰色土層　7.5YR4/1　粘土主体。
6　黄褐色土層　10YR5/6
　　ローム粒子多量含む。

第199図　H47号住居址カマド実測図



1　黒褐色土層　炭化粒子・焼土粒子少量含む。7.5YR2/2
2　赤褐色土層　焼土主体。炭化材小片少量含む。5YR4/6
3　にぶい赤褐色土層　焼土主体。炭化粒子多量含む。5YR5/3
4　褐色土層　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量含む。7.5YR4/6
5　黒褐色土層　ローム粒子微量含む。10YR2/3
6　にぶい黄褐色土層　ローム粒子多量含む。10YR4/3
7　黒褐色土層　ローム粒子少量含む。10YR3/2

第200図　H47号住居址実測図

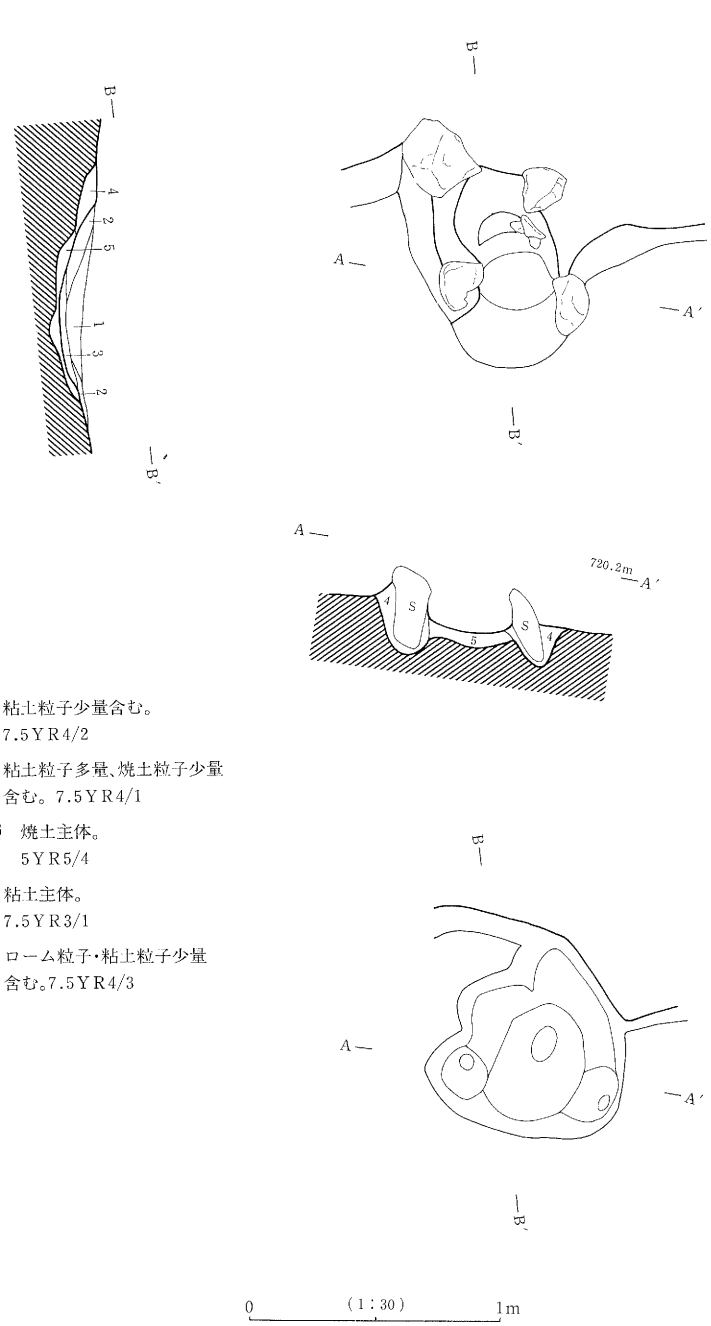
48）H48号住居址

H48号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区南側、すー7グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第IV層上面において検出された。なお南側を農道により破壊される。

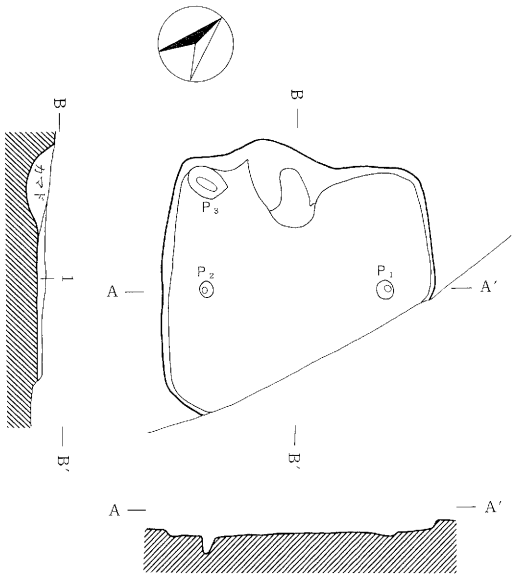
平面形態は、南北214cm（残存値）、東西271cmを測る。主軸方位はN－45°－Wを指す。

覆土は2層が確認された。

確認面からの壁残高は、3～14cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっており、貼床は認められなかった。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。



第201図　H48号住居址カマド実測図



1　黒褐色土層　10YR2/3
ローム粒子・炭化粒子微量含む。

第202図　H48号住居址実測図

ピットは計3個が検出された。

カマドは東壁中央やや西よりで検出された。残存状況は極めて悪く、残存する焚口より煙道出口までは79cmを測る。覆土は3層が確認された。カマド構築状況は以下のとおりである。煙道下部は第4層によって、燃焼部と袖部は第5層によって構築される。

遺物は土師器の甕・坏等が出土した。

以上より本住居址は、平安時代中期に位置付けられる。

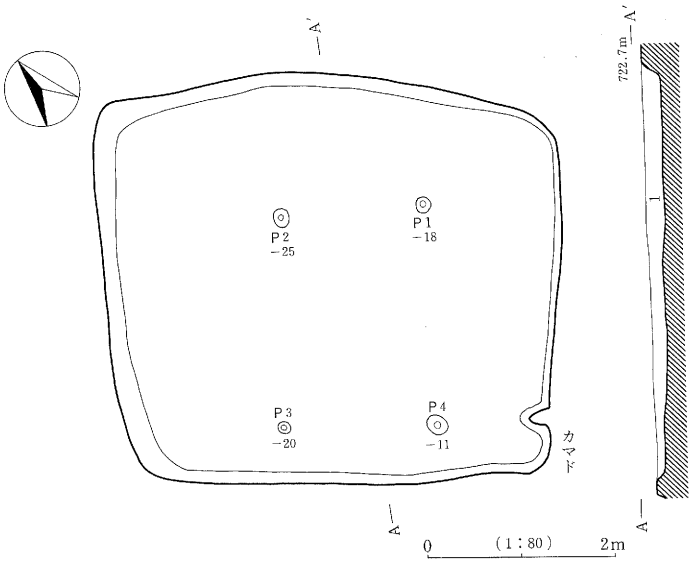
49）H49号住居址

H49号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区中央、ら・り－22～24グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第III層中において検出された。

平面形態は、南北408cm、東西454cmを測る。主軸方位はN－38°－Eを指す。また床面積は17.28㎡を測る。

覆土は1層のみが確認された。

確認面からの壁残高は、9～30cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦



1　灰黄褐色土層　砂粒多量、ローム粒子・パミス少量含む。10YR4/2

第203図　H49号住居址実測図

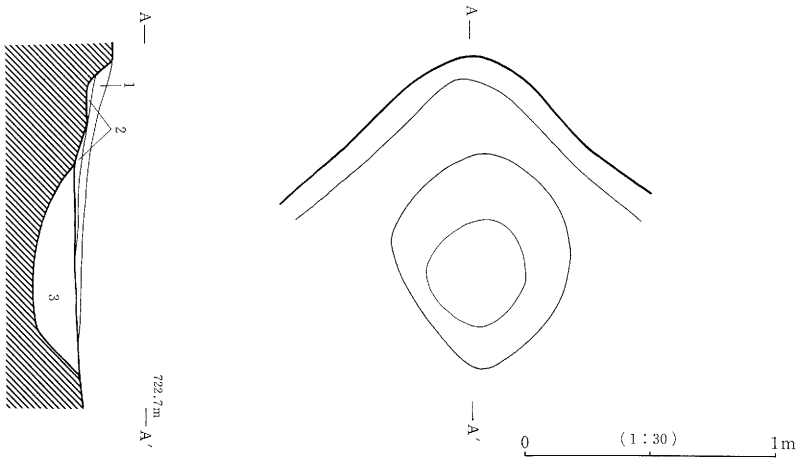
で固くしまっており、貼床は認められなかった。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。

ピットは主柱穴4個が検出された。

カマドは東南隅で検出された。残存状況は極めて悪く、残存する焚口より煙道出口までは122cmを測る。覆土は2層が確認された。燃焼部は第3層によって構築される。

遺物は土師器の甕・坏等が出土した。

以上より本住居址は、平安時代中期に位置付けられる。



1　褐灰色土層　粘土粒子多量、焼土粒子少量含む。5YR4/1

2　暗赤褐色土層　焼土主体。5YR3/6

3　にぶい黄褐色土層　ローム粒子多量、砂粒少量含む。10YR4/3

第204図　H49号住居址カマド掘方実測図

50）H50号住居址

H50号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区南側、し－13・14グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第IV層上面において検出された。

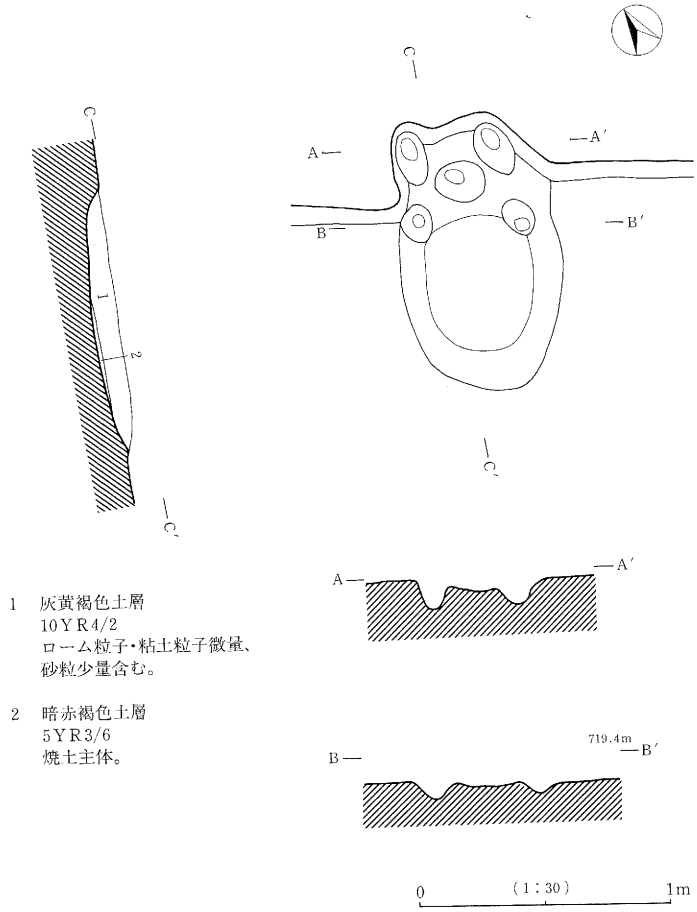
平面形態は、南北290cm、東西292cmを測り、方形を呈している。主軸方位はN－29°－Eを指す。また床面積は8.18m²を測る。

覆土は1層のみが確認された。

確認面からの壁残高は、0～11cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっており、貼床は認められなかった。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。

ピットは計1個が検出された。

カマドは北壁中央で検出された。残存状況は極めて悪く、残存する焚口より煙道出口までは106cmを測る。覆土は2層が確認された。



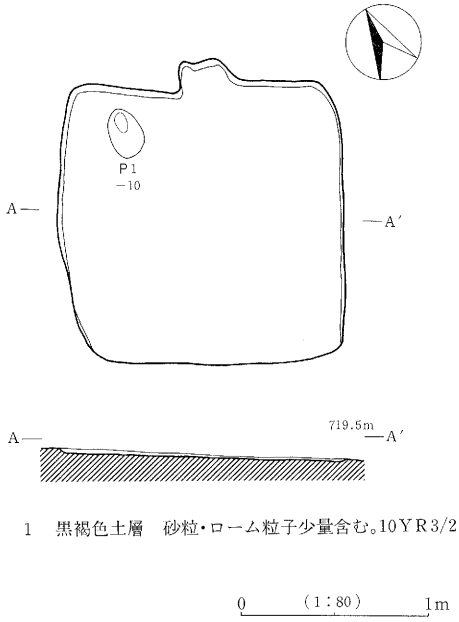
1　灰黄褐色土層
　　10YR4/2
　　ローム粒子・粘土粒子微量、
　　砂粒少量含む。

2　暗赤褐色土層
　　5YR3/6
　　焼土主体。

第205図　H50号住居址カマド掘方実測図

遺物は土師器の甕・坏等が出土した。

以上より本住居址は、平安時代中期に位置付けられる。



第206図　H50号住居址実測図

51）H51号住居址

H51号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区南側、に・ぬ−12・13グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第II層中において検出された。なおM9号溝状遺構により一部破壊される。

平面形態は、南北322cm、東西351cmを測る。主軸方位はN−33°−Eを指す。

覆土は3層が確認された。

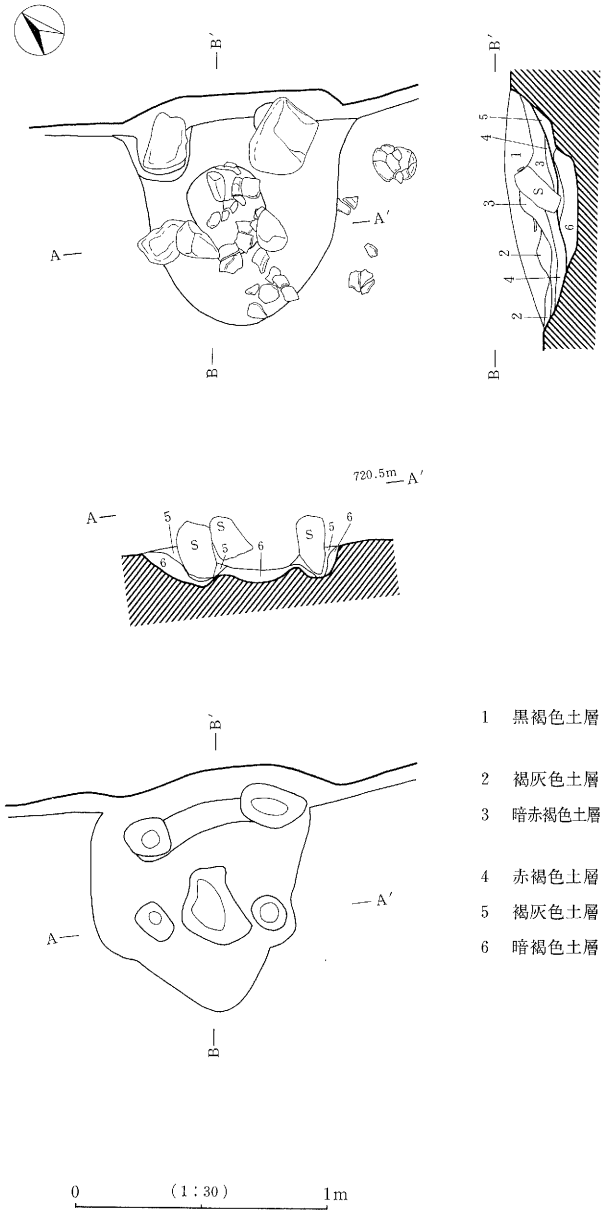
確認面からの壁残高は、1〜9cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっており、貼床は認められなかった。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。

ピットは、主柱穴4個（P_1〜P_4）、その他1個の計5個が検出された。

カマドは北壁中央やや西よりで検出された。残存状況は極めて悪く、残存する焚口より煙道出口までは93cmを測る。覆土は4層が確認された。燃焼部は第5・6層によって構築される。

遺物は土師器の甕・坏等が出土した。

以上より本住居址は、平安時代中期に位置付けられる。



1　黒褐色土層　粘土粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量含む。5YR3/1

2　褐灰色土層　粘土主体。焼土粒子微量含む。5YR4/1

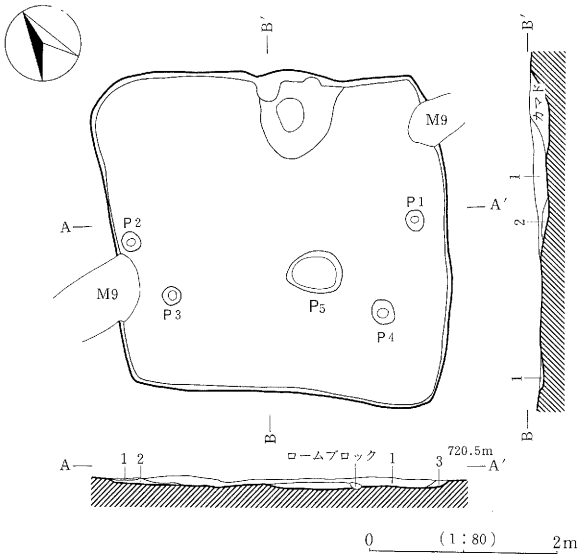
3　暗赤褐色土層　粘土粒子少量、焼土粒子多量含む。5YR3/3

4　赤褐色土層　焼土主体。5YR4/8

5　褐灰色土層　5YR4/1

6　暗褐色土層　粘土粒子微量、ローム粒子少量含む。10YR3/3

第207図　H51号住居址カマド実測図



1　黒褐色土層　ローム粒子少量含む。10YR3/2
2　黒 色 土 層　ローム粒子微量含む。10YR2/1
3　黒褐色土層　ローム粒子・パミス少量含む。10YR2/3

第208図　H51号住居址実測図

52）H52号住居址

H52号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区南側、く・け－10・11グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第II層中において検出された。

平面形態は方形を呈すると考えられる。

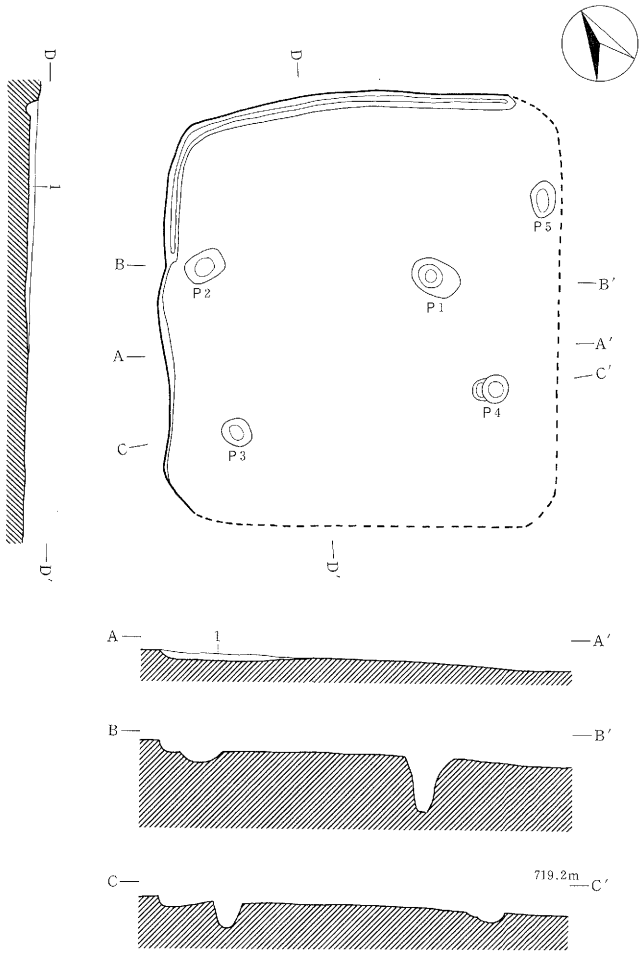
覆土は1層のみが確認された。

確認面からの壁残高は、0～13cmを測る。

ピットは5個が検出された。

カマドは検出されなかった。

遺物の量が少なく、所産期は不明である。



1　暗褐色土層　パミス・ローム粒子微量含む。10YR3/4

0　(1:80)　2m

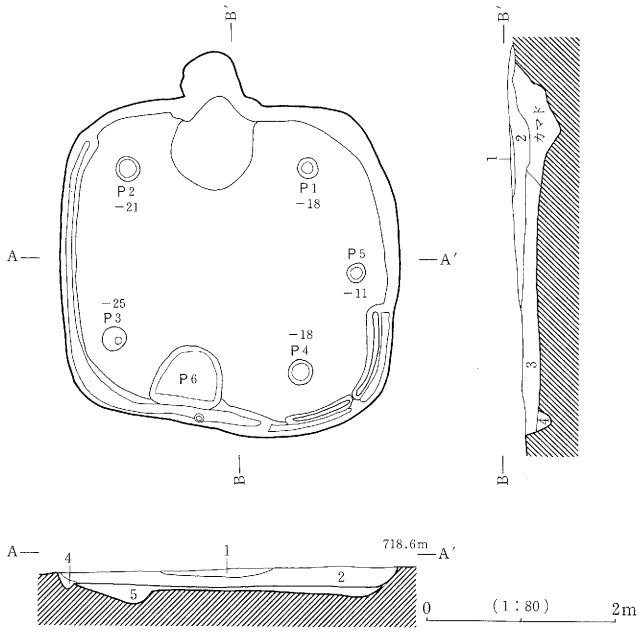
第209図　H52号住居址実測図

53) H53号住居址

H53号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区南側、お・か－6・7グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第II層中において検出された。

平面形態は、南北330cm、東西338cmを測る。主軸方位はN－31°－Wを指す。また床面積は9.01m²を測る。

覆土は4層が確認された。



1　暗褐色土層　耕作土カクラン。10YR3/4
2　黒 色 土 層　パミス微量含む。10YR1.7/1
3　黒褐色土層　パミス・ローム粒子微量含む。10YR3/2
4　褐 色 土 層　ローム粒子多量含む。7.5YR4/6
5　褐 色 土 層　ローム粒子(ブロック状)多量含む。7.5YR4/6

第210図　H53号住居址実測図

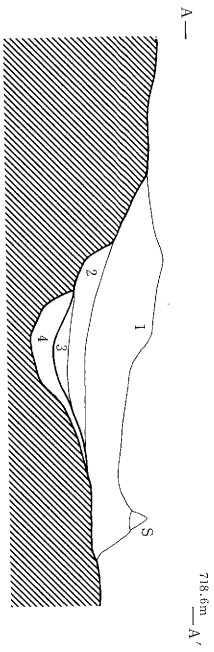
確認面からの壁残高は、5～26cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっており、貼床は第5層により貼られる。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。

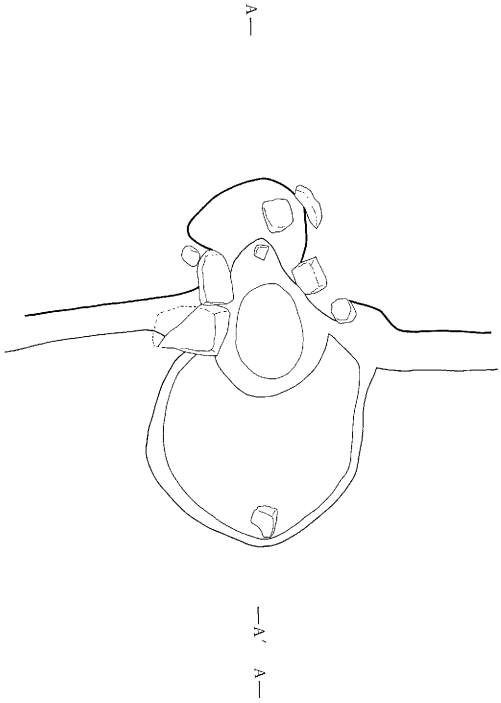
ピットは、主柱穴4個（P_1～P_4）、その他1個の計5個が検出された。

カマドは北壁中央やや西よりで検出された。残存状況は極めて悪く、残存する焚口より煙道出口までは148cmを測る。覆土は3層が確認された。燃焼部は第4層によって構築される。

遺物は土師器の甕・坏等が出土した。

以上より本住居址は、平安時代中期に位置付けられる。



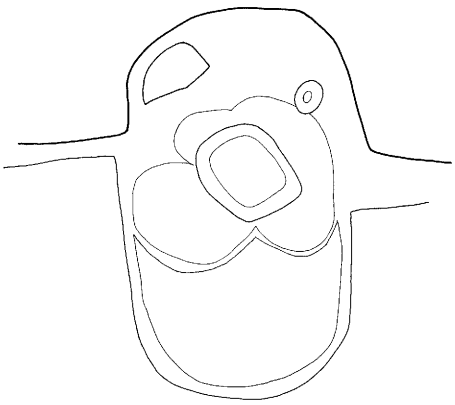


1　褐灰色土層　粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量含む。5YR4/1

2　にぶい赤褐色土層　粘土粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量含む。5YR4/3

3　赤褐色土層　焼土主体。5YR4/6

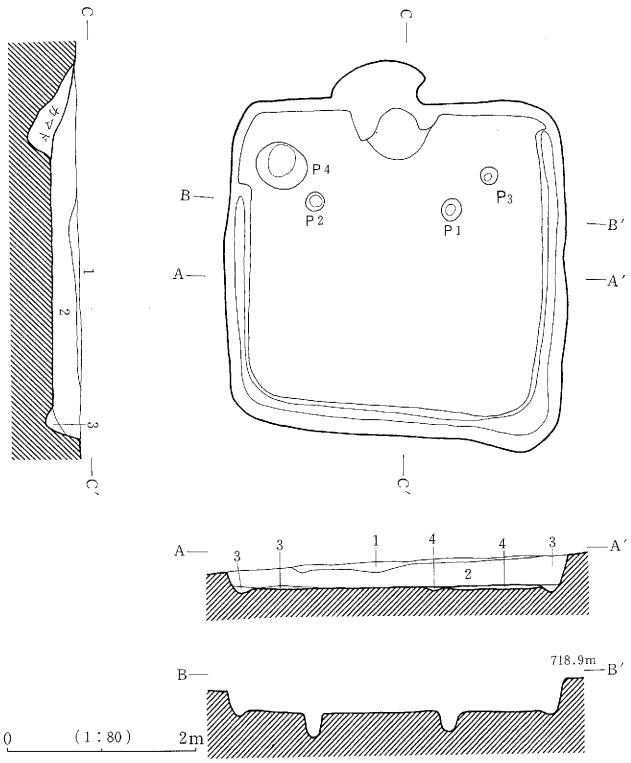
4　黒褐色土層　粘土粒子・ローム粒子少量含む。10YR3/2



0　(1:30)　1m

第211図　H53号住居址カマド実測図

54) H54号住居址



1　黒褐色土層　ローム粒子微量含む。10YR2/2
2　暗褐色土層　ローム粒子・パミス少量含む。10YR3/4
3　褐色土層　ローム粒子多量含む。10YR4/6
4　黄褐色土層　ローム粒子多量含む。10YR5/6

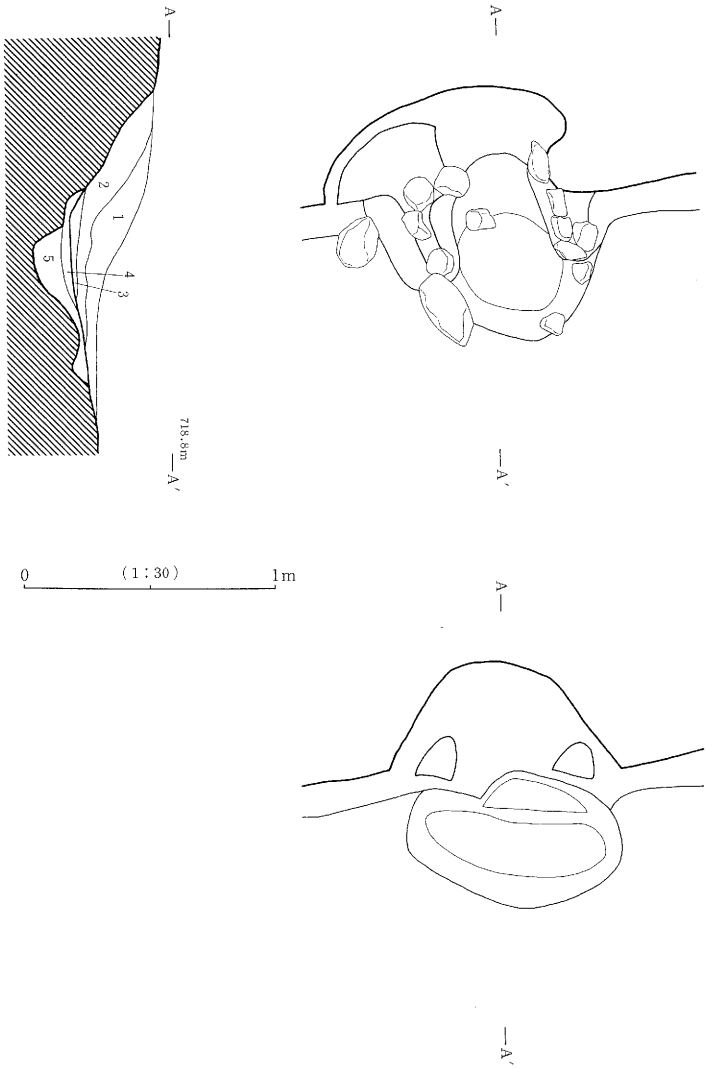
第212図　H54号住居址実測図

H54号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区南側、き・く－7・8グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第II層中において検出された。

平面形態は、南北328cm、東西330cmを測る。主軸方位はN－28°－Wを指す。また床面積は9.5m²を測る。

覆土は3層が確認された。

確認面からの壁残高は、16～37cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっており、貼床は第4層により貼られる。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コー



1　黒褐色土層　粘土粒子少量含む。10YR3/1

2　灰褐色土層　粘土粒子多量、焼土粒子微量含む。7.5YR4/2

3　明褐色土層　焼土主体。7.5YR5/8

4　暗赤褐色土層　粘土粒子多量含む。5YR3/3

5　褐色土層　粘土粒子微量、ローム粒子少量含む。7.5YR4/3

第213図　H54号住居址カマド実測図

ナーは丸味を持っている。

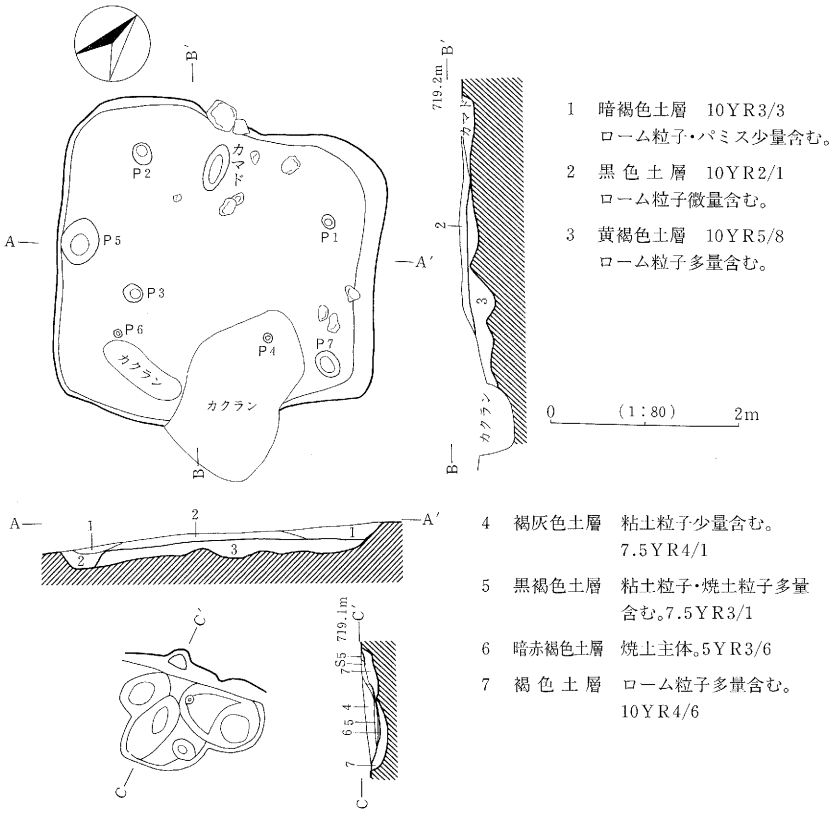
ピットは計４個が検出された。

カマドは北壁中央やや西よりで検出された。残存状況は極めて悪く、残存する焚口より煙道出口までは105cm、袖の巾88cmを測る。覆土は３層が確認された。燃焼部は第４・５層によって構築される。

遺物は土師器の甕・坏、鉄製品等が出土した。

以上より本住居址は、平安時代中期に位置付けられる。

55) H55号住居址



第214図　H55号住居址カマド掘方実測図

H55号住居址は、下聖端遺跡Ⅱの調査区南側、け・こ－７・８グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第Ⅱ層中において検出された。

平面形態は、南北332cm、東西314cmを測り、方形を呈している。主軸方位はN－40°－Wを指す。

覆土は2層が確認された。

確認面からの壁残高は、2～13cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっており、貼床は第3層により貼られる。壁はほとんど垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。

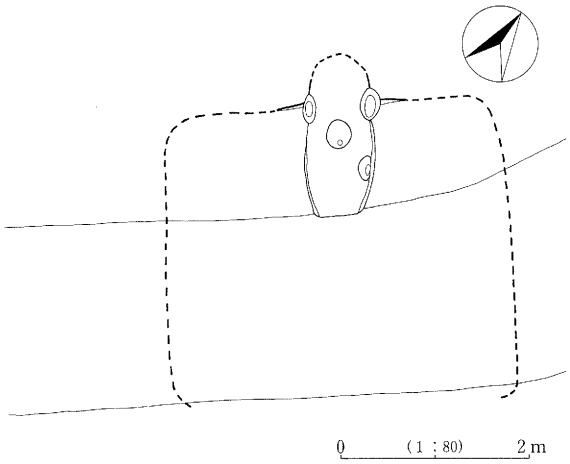
ピットは6個が検出された。

カマドは北壁中央で検出された。残存状況は極めて悪く、焚口から煙道出口まで79cmを測る。覆土は6層に分割された。燃焼部の下部は第7層により構築される。

遺物は土師器の甕・坏、巡方、鉄製品等が出土した。

以上より本住居址は、平安時代中期に位置付けられる。

56）H56号住居址



第215図　H56号住居址実測図

H56号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区南側、こ・さ－6・7グリッド内に位置し、下聖端遺跡IIH16号住居址覆土上面において検出された。なお全体を農道により破壊され、検出されたのはカマドの一部とカマド左右の壁の一部のみである。

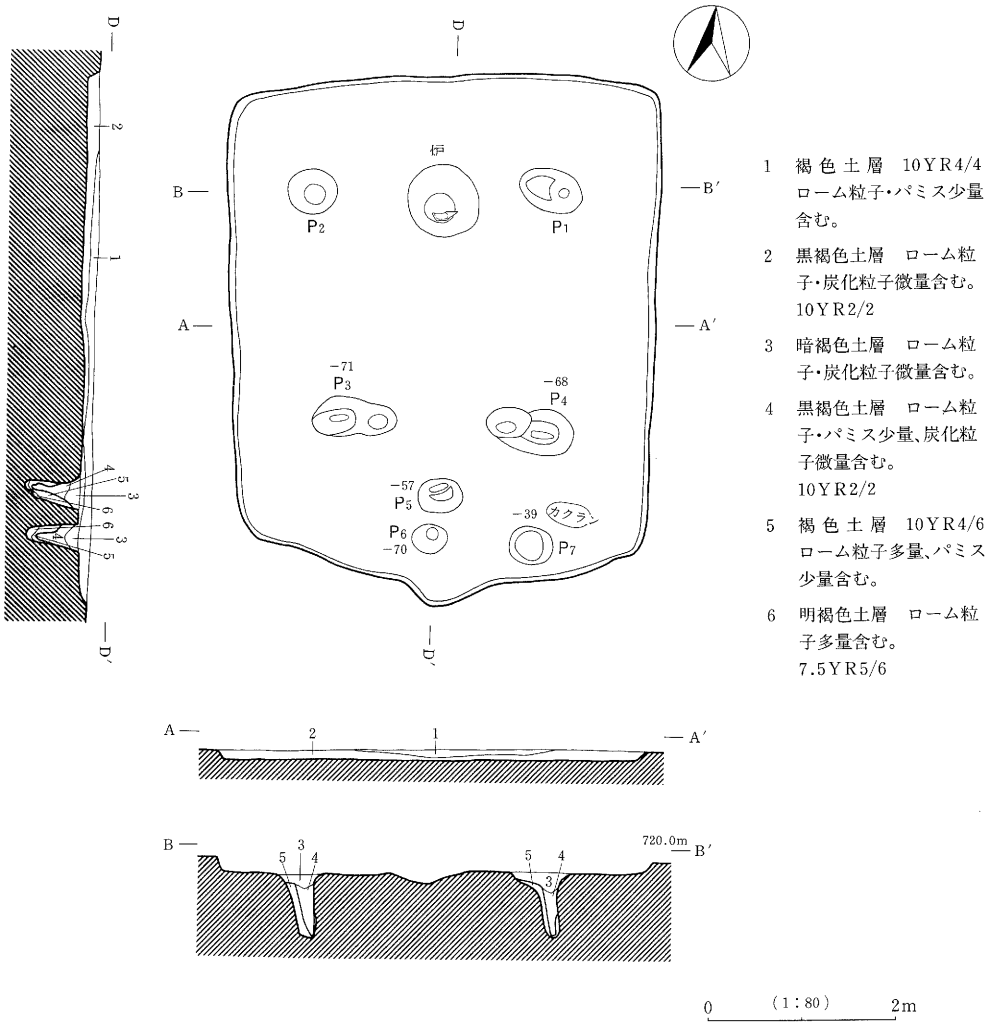
平面形態は方形を呈すると考えられる。

カマドは北壁中央に位置すると考えられる。残存状況は極めて悪く、焚口から煙道出口まで172cmを測る。

遺物は土師器の甕・坏等が出土した。

以上より本住居址は、平安時代中期に位置付けられる。

57) Ｙ１号住居址



第216図　Ｙ１号住居址実測図

Ｙ１号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区南側、せ・そ－10・11グリッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第IV層上面において検出された。

平面形態は、南北547cm、東西436cmを測り、長方形を呈している。主軸方位はN－6°－Wを指す。また床面積は22.12m²を測る。

覆土は９層が確認された。

確認面からの壁残高は、4～16cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっていた。貼床は認められなかった。壁はなだらかに立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。

ピットは、主柱穴が4個（P_1～P_4）、貯蔵穴1個（P_7）、入口施設2個（P_5・P_6）の計7個が検出された。

炉はP_1－P_2間で検出された。規模は73×76cmを測り、炉石を伴っていた。

遺物は甕・壺等が出土した。

以上より本住居址は、弥生時代後期に位置付けられる。

58) Y2号住居址

Y2号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区南側、さ～す－3～5リッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第IV層上面において検出された。なおH19号住居址・F13号掘立柱建物址・M6号溝状遺構に破壊される。

平面形態は東西が583cmを測り、長方形を呈している。主軸方位はN－40°－Wを指す。

覆土は4層が確認された。

確認面からの壁残高は、24～67cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっていた。貼床は第4層により貼られる。壁はほぼ垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。

ピットは、主柱穴が4個（P_1～P_4）、入口施設3個（P_7～P_9）、その他2個の計9個が検出された。

炉はP_1－P_2間で検出された。規模は径47×56cm、深さ9cmを測り、炉石を伴っていた。

遺物は甕・壺等が出土した。

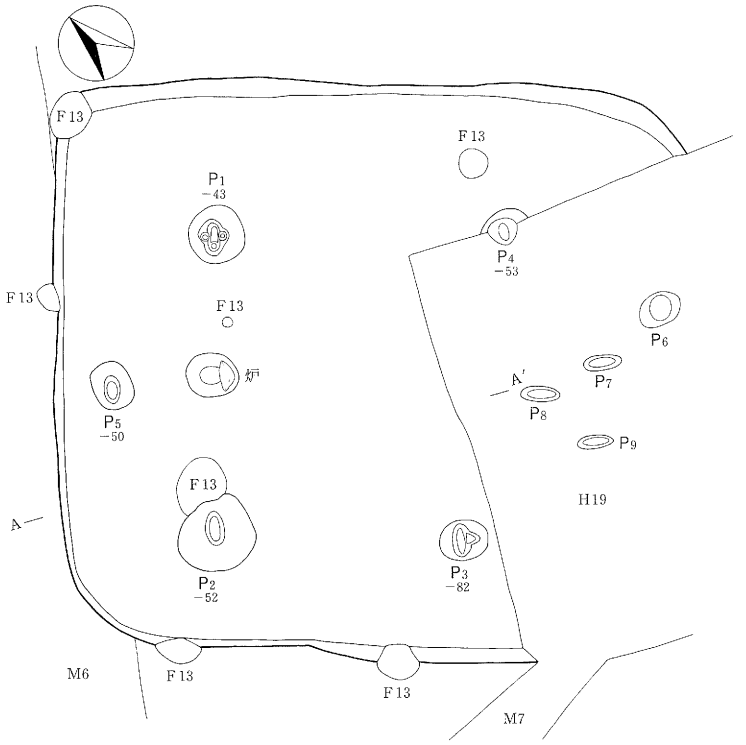
以上より本住居址は、弥生時代後期に位置付けられる。

59) Y3号住居址

Y3号住居址は、下聖端遺跡IIの調査区南側、さ～す－11～13リッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第IV層上面において検出された。なおH30・46号住居址に破壊される。

平面形態は、東西が532cm、南北984cmを測り、長方形を呈している。主軸方位はN－12°－Wを指す。

覆土は4層が確認された。



1　黒色土層　ローム粒子微量含む。10YR2/1

2　黒褐色土層　ローム粒子少量、パミス微量含む。10YR3/2

3　黒褐色土層　ローム粒子微量、炭化粒子少量含む。10YR2/2

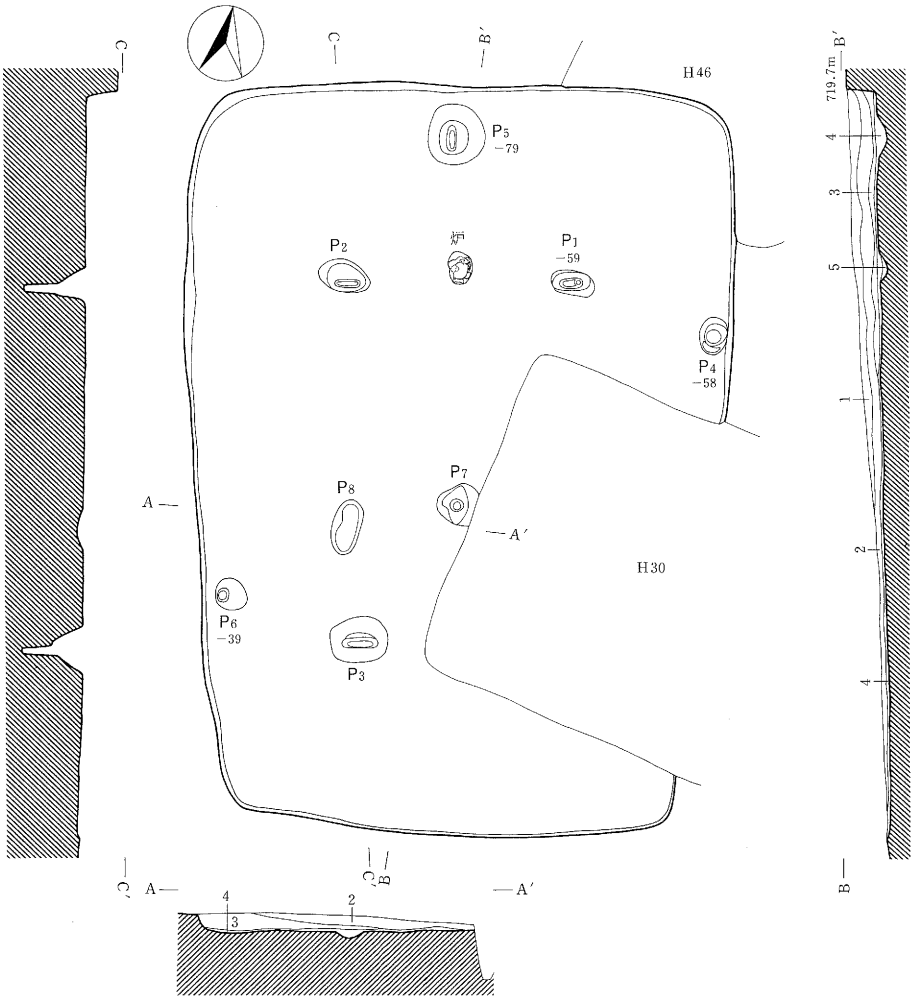
4　にぶい黄褐色土層　ローム粒子多量含む。10YR5/4

第217図　Y2号住居址実測図

確認面からの壁残高は、1～36cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。床面はおおむね平坦で固くしまっていた。貼床は認められなかった。壁はほぼ垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。

ピットは、主柱穴が3個（P_1～P_3）、その他5個の計8個が検出された。

炉はP_1－P_2間で検出された。規模は径39×26cm、深さ10cmを測り、炉石を伴っていた。また全体に甕の底部が敷いてあった。



1　暗褐色土層　ローム粒子・パミス微量含む。10YR3/3

2　暗褐色土層　パミス・ローム粒子少量含む。10YR3/4

3　黒褐色土層　パミス・ローム粒子微量含む。10YR2/2

4　黒褐色土層　パミス・ローム粒子微量含む。10YR2/3

5　黒褐色土層　炭化粒子・焼土粒子多量含む。10YR2/3

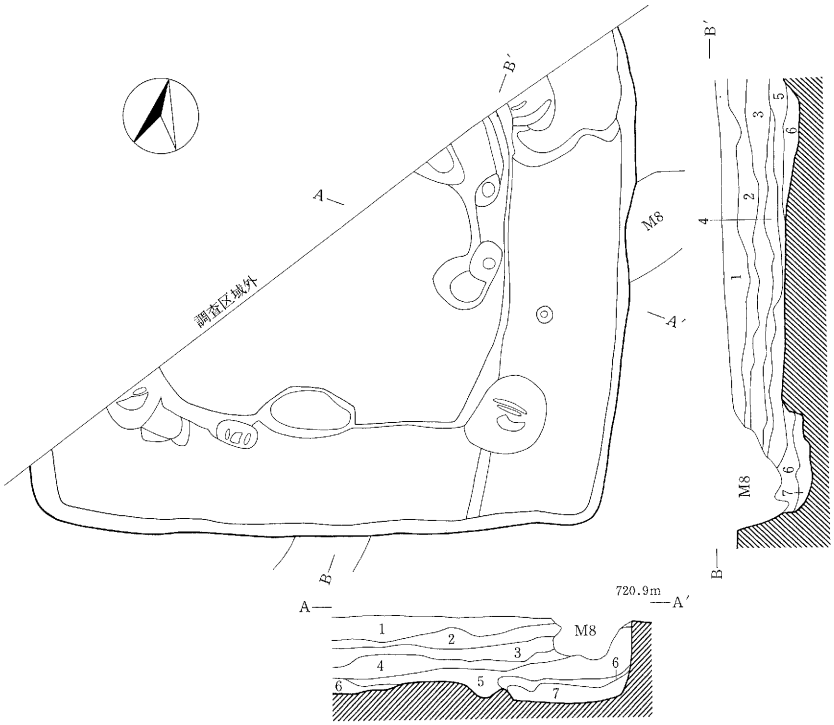
0　(1：80)　2m

第218図　Y３号住居址実測図

遺物は甕・壺等が出土した。

以上より本住居址は、弥生時代後期に位置付けられる。

60) Ｙ４号住居址



1　黒褐色土層　ローム粒子・パミス微量含む。10ＹＲ2/2
2　暗褐色土層　ローム粒子・パミス少量含む。10ＹＲ3/4
3　黒 色 土 層　炭化粒子ローム粒子微量含む。10ＹＲ2/1
4　暗褐色土層　ローム粒子・パミス少量含む。10ＹＲ3/4
5　黒褐色土層　ローム粒子・パミス少量含む。10ＹＲ2/2
6　褐 色 土 層　ローム粒子多量、パミス少量含む。10ＹＲ4/4
7　黒 色 土 層　ローム粒子・パミス微量含む。10ＹＲ2/1

0　(1：80)　2m

第219図　Ｙ４号住居址実測図

Ｙ４号住居址は、下聖端遺跡Ⅱの調査区南側、ぬ・ね－９・10リッド内に位置し、下聖端遺跡全体層序第Ⅳ層上面において検出された。

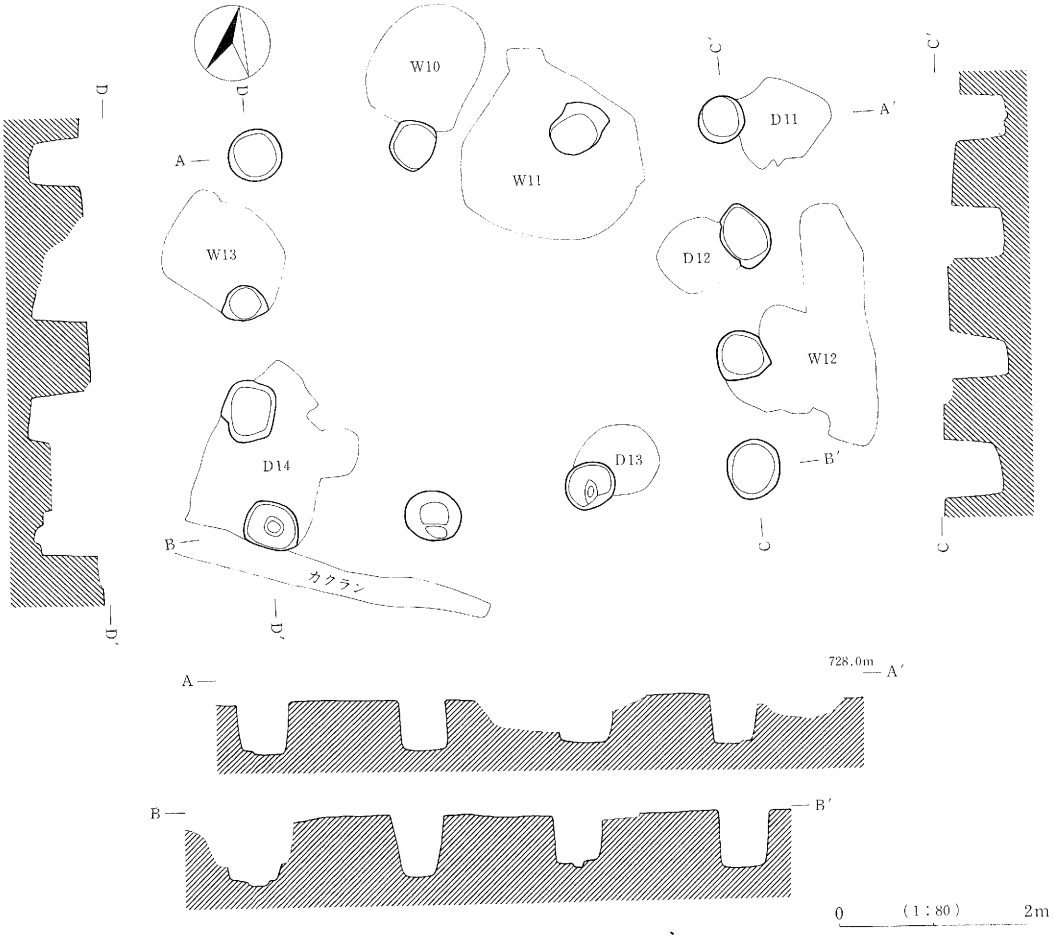
覆土は７層が確認された。

確認面からの壁残高は、58～98cmを測り、壁体は平滑で比較的堅固である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、各コーナーは丸味を持っている。

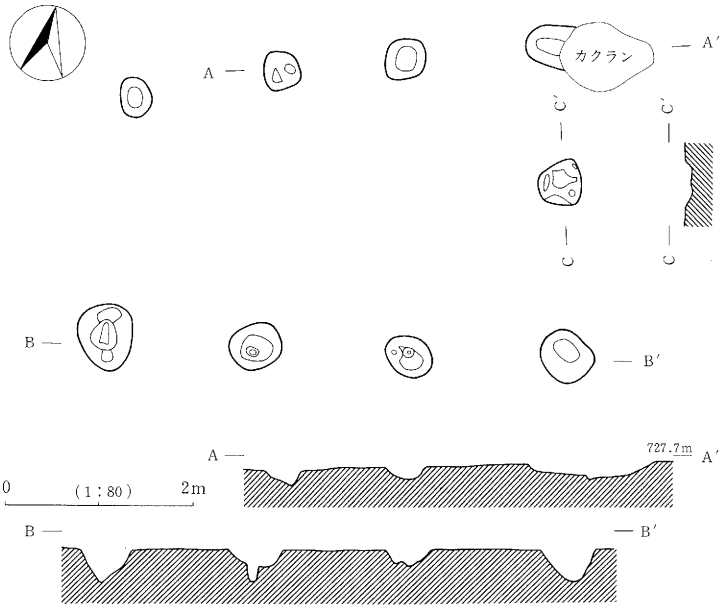
遺物は弥生時代の甕・壺等を中心に出土した。

以上より本住居址は、構築途中で放棄されたものと考えられ、弥生時代後期が所産期と推定される。

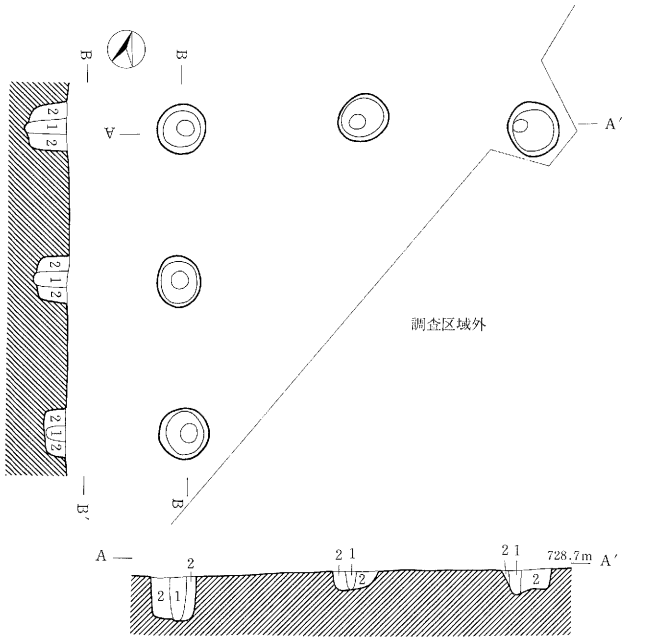
2　掘立柱建物址



第220図　Ｆ１号堀立柱建物址



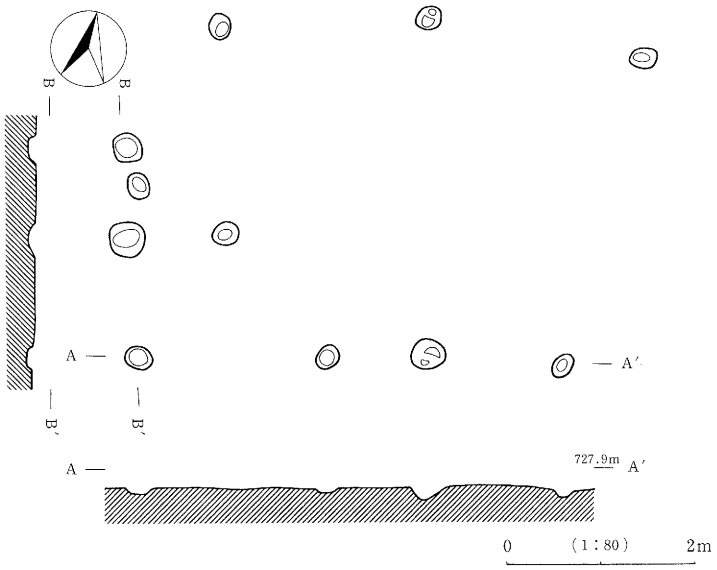
第221図　F２号堀立柱建物址実測図



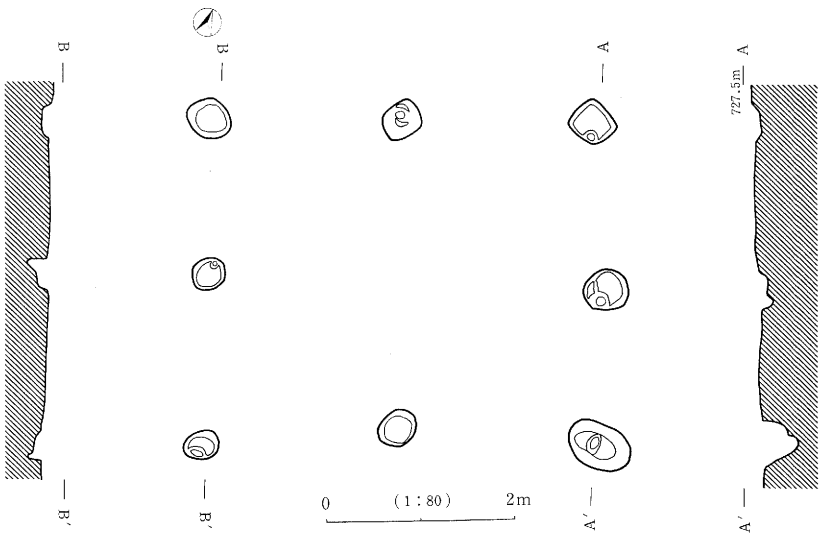
1　黒褐色土層　パミス・炭化粒子微量含む。10YR2/3

2　暗褐色土層　ローム粒子・パミス少量含む。10YR3/4

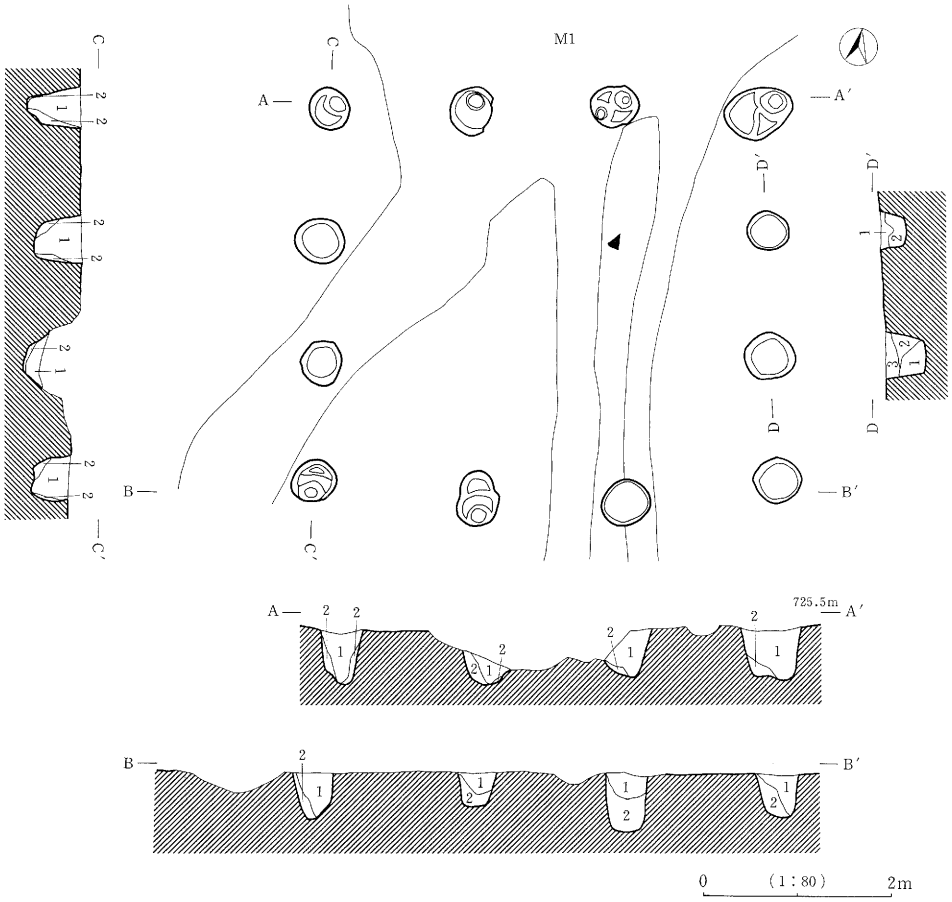
第222図　F３号堀立柱建物址実測図



第223図　F 4 号堀立柱建物址実測図



第224図　F 5 号堀立柱建物址実測図

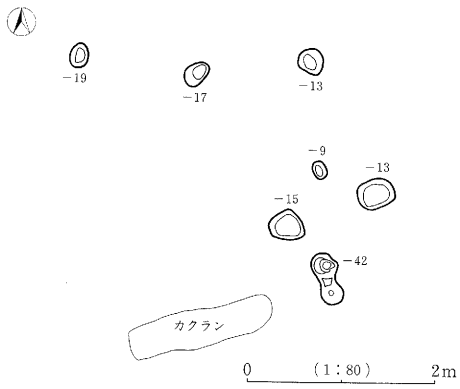


1　黒褐色土層　炭化材小片微量含む。10YR2/2

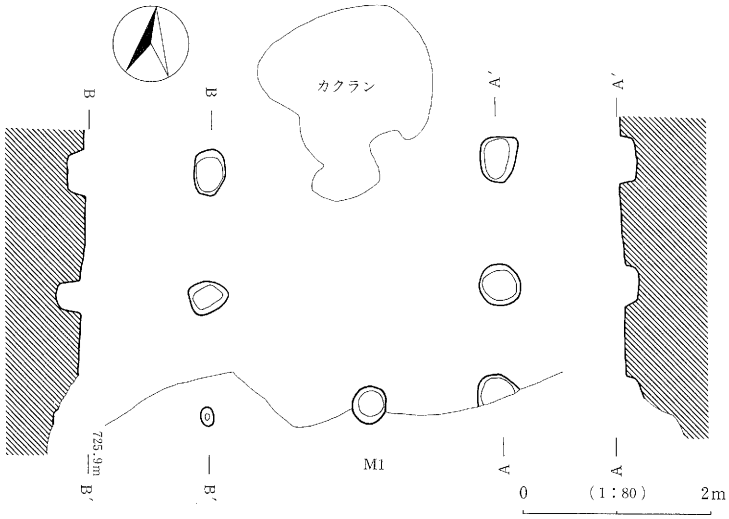
2　褐色土層　ローム粒子多量、炭化粒子微量含む。10YR4/6

3　灰黄褐色土層　ローム粒子多量、炭化粒子微量含む。10YR4/2

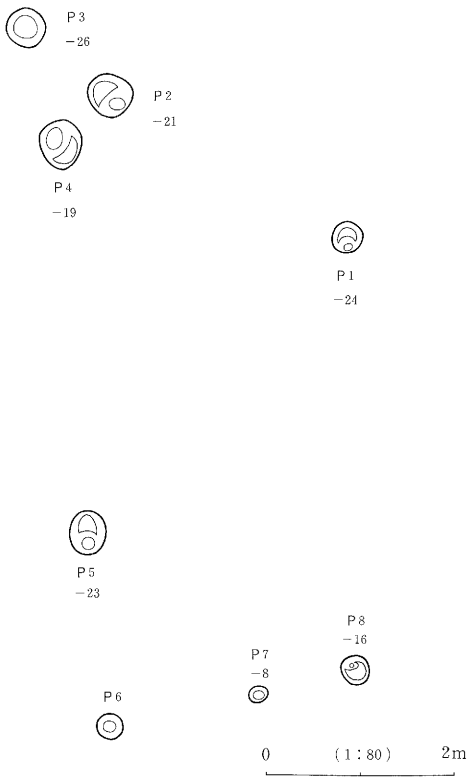
第225図　F6号堀立柱建物址実測図



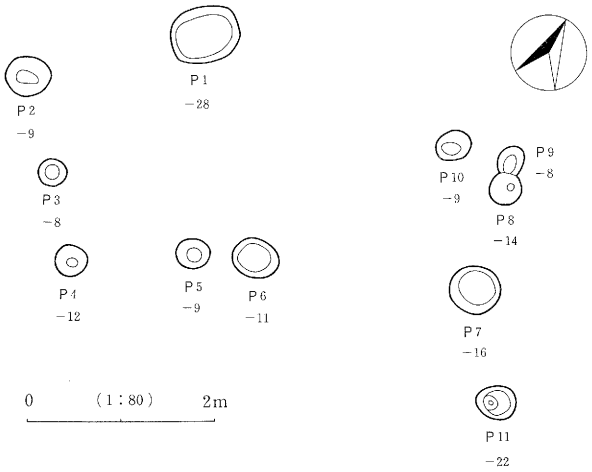
第226図　F10号堀立柱建物址実測図



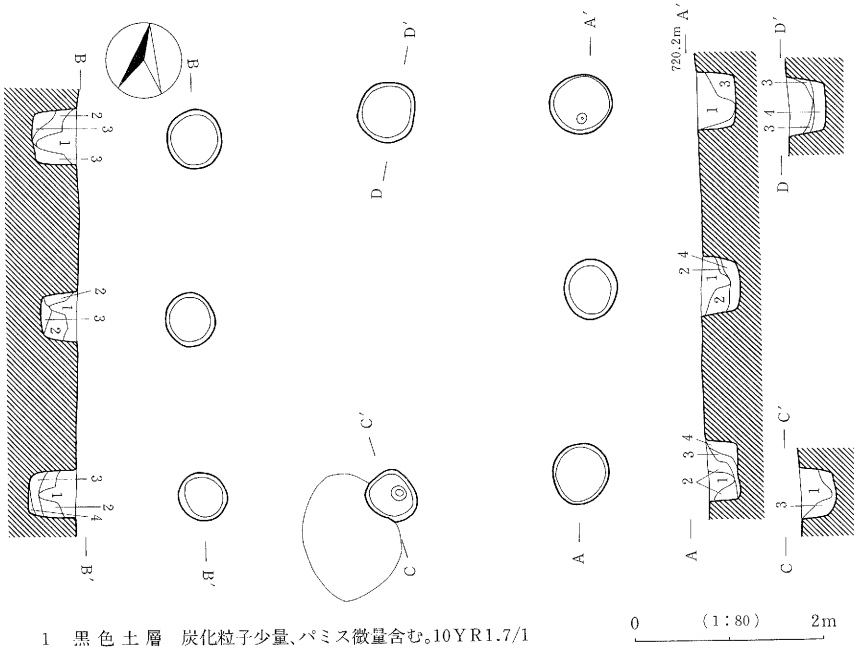
第227図　F 7 号堀立柱建物址実測図



第228図　F 8 号堀立柱建物址実測図

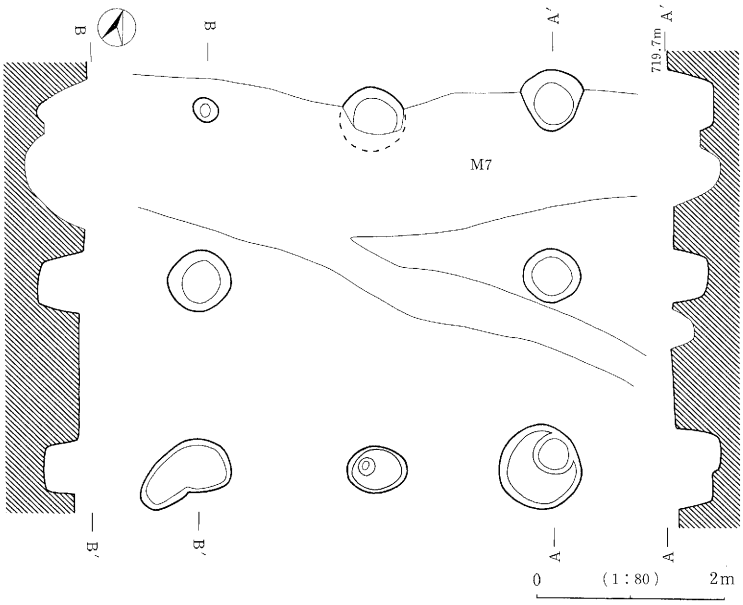


第229図　F 9 号堀立柱建物址実測図

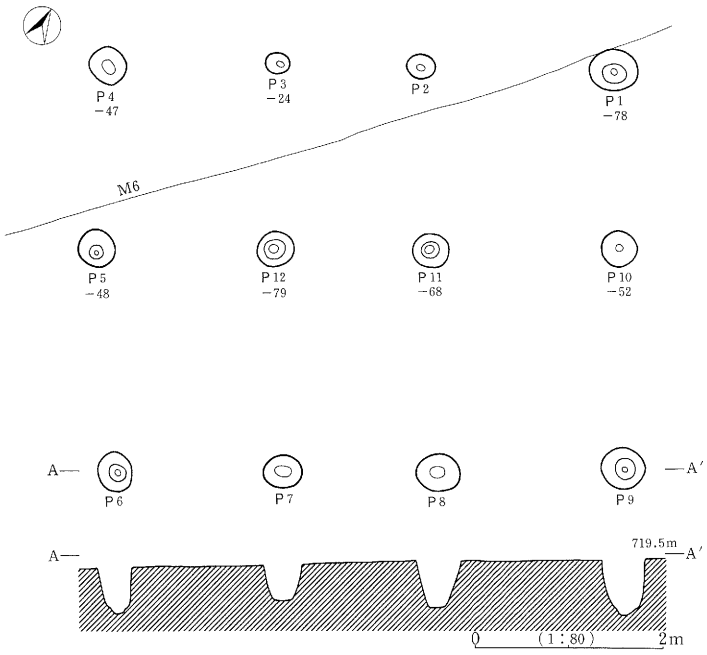


1　黒 色 土 層　炭化粒子少量、パミス微量含む。10YR1.7/1
2　暗褐色土層　ローム粒子少量、パミス微量含む。10YR3/3
3　黒褐色土層　ローム粒子少量含む。10YR2/3
4　褐 色 土 層　ローム粒子多量含む。10YR4/6

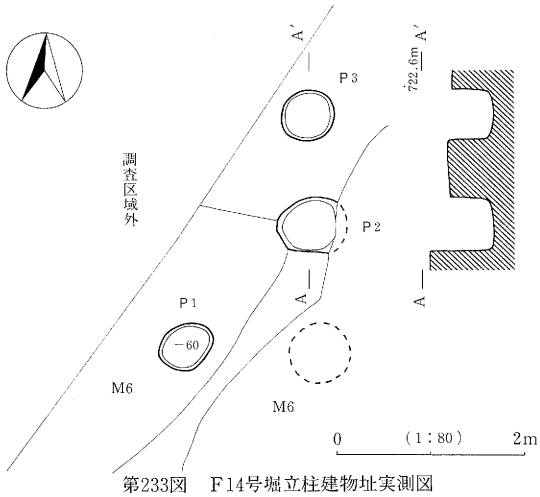
第230図　F11号堀立柱建物址実測図



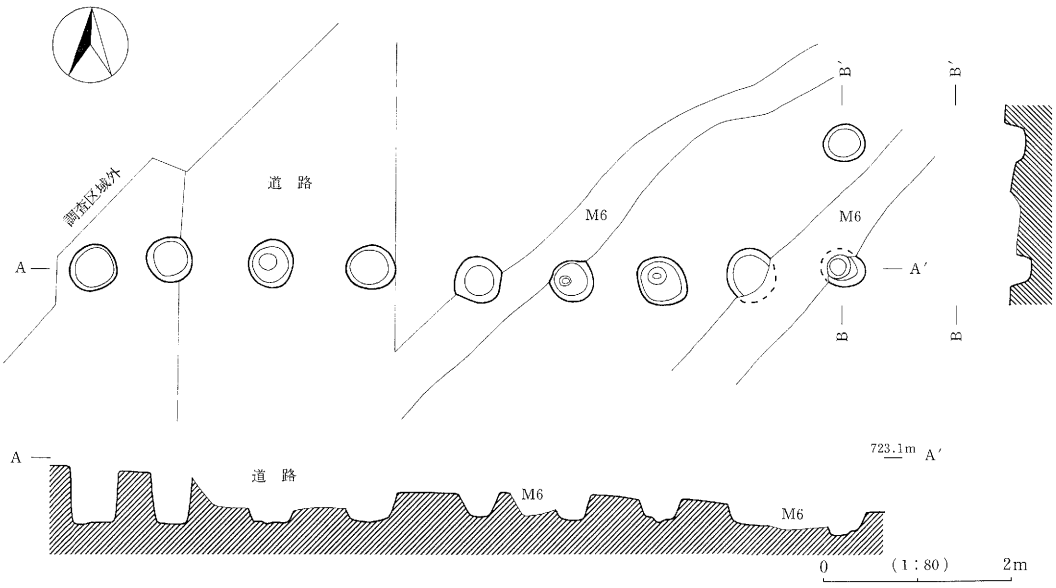
第231図　F12号堀立柱建物址実測図



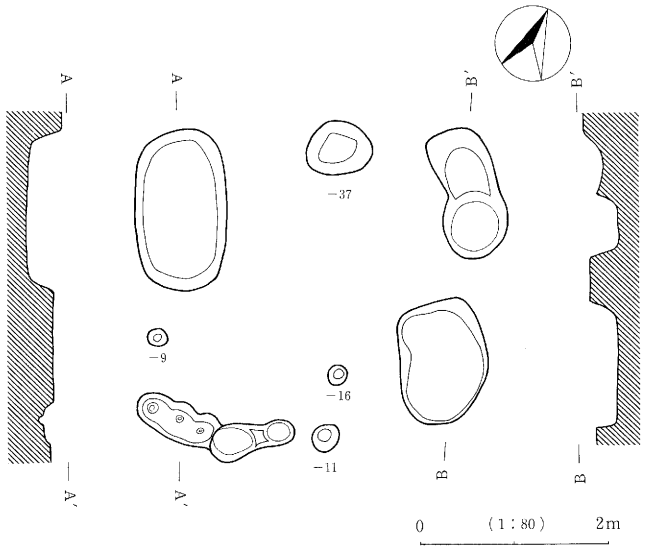
第232図　F13号堀立柱建物址実測図



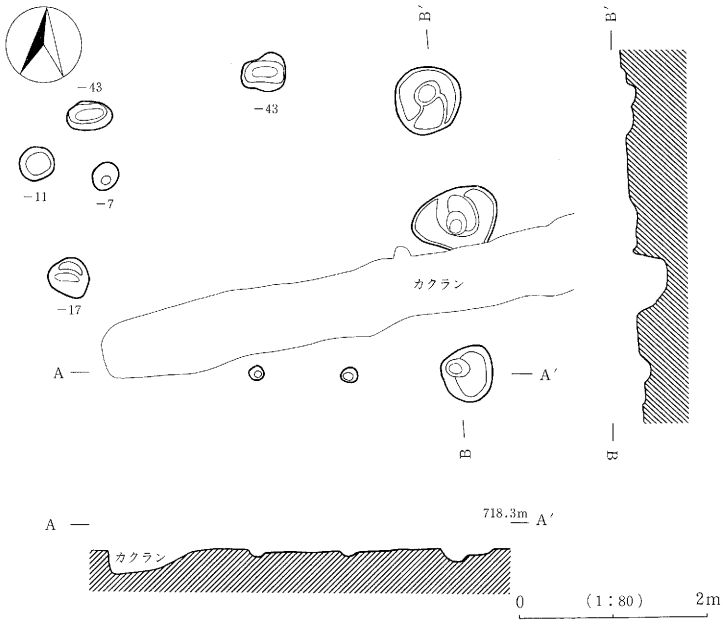
第233図　F14号堀立柱建物址実測図



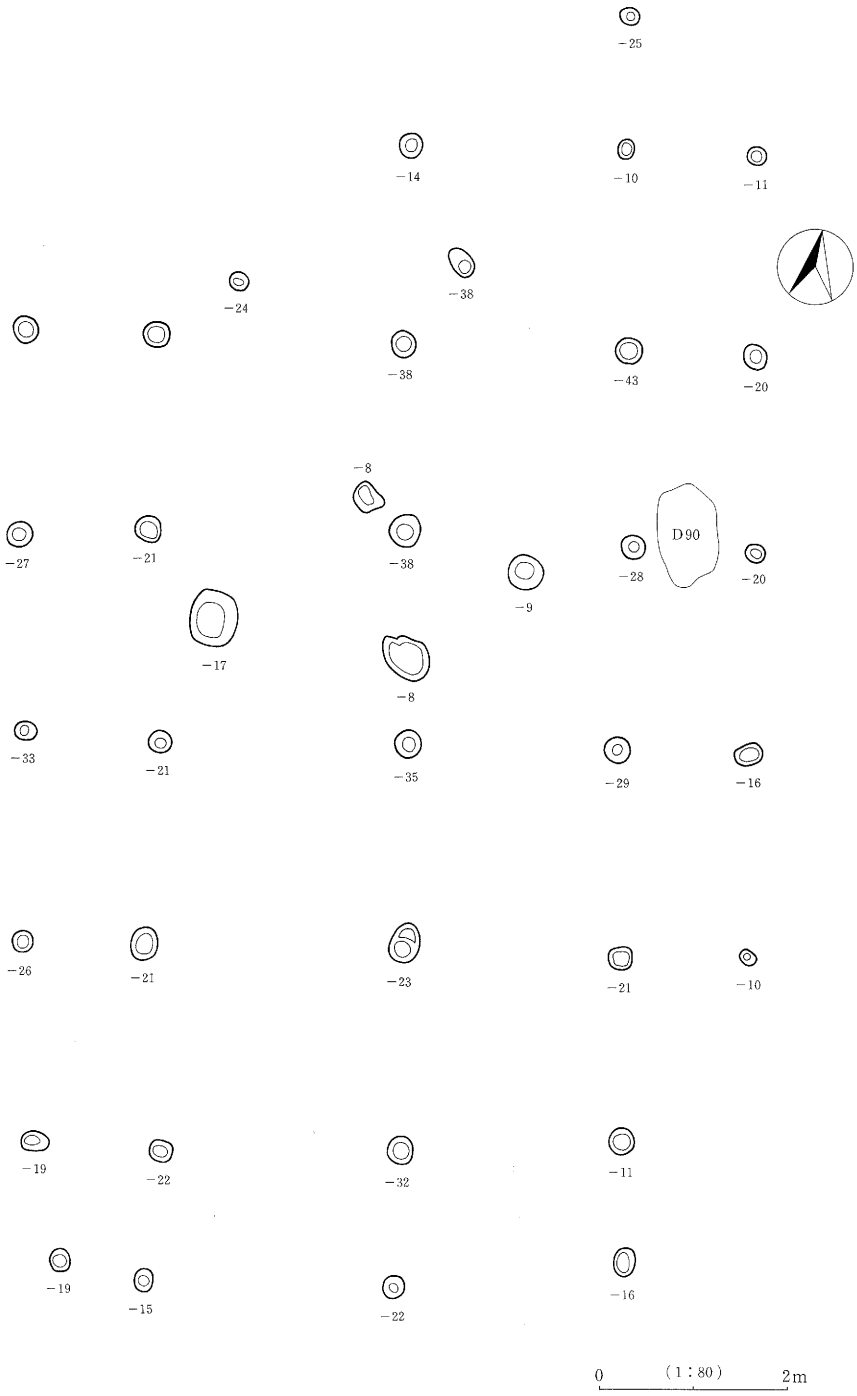
第234図　F15号堀立柱建物址実測図



第235図　F16号堀立柱建物址実測図

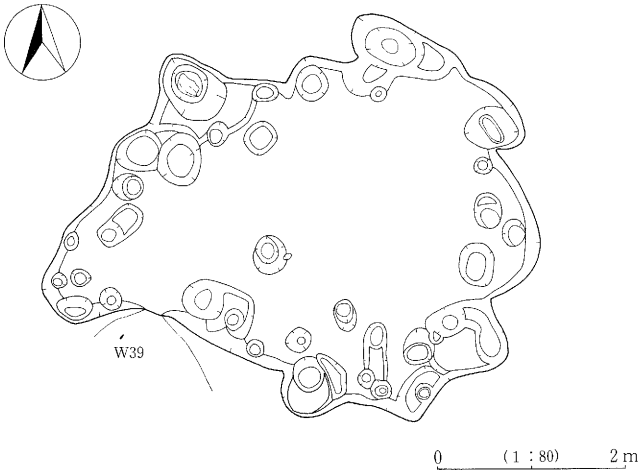


第236図　F18号堀立柱建物址実測図



第237図　F17号堀立柱建物址実測図

3　特殊遺構



第238図　Ｔ２号特殊遺構実測図

Ｔ１号特殊遺構は、下聖端遺跡の中央、あ～お－56～60グリッド内において検出された。本遺構は覆土等の状況から沼か湿地と考えられる。遺物は黒曜石製の有舌尖頭器が出土した。

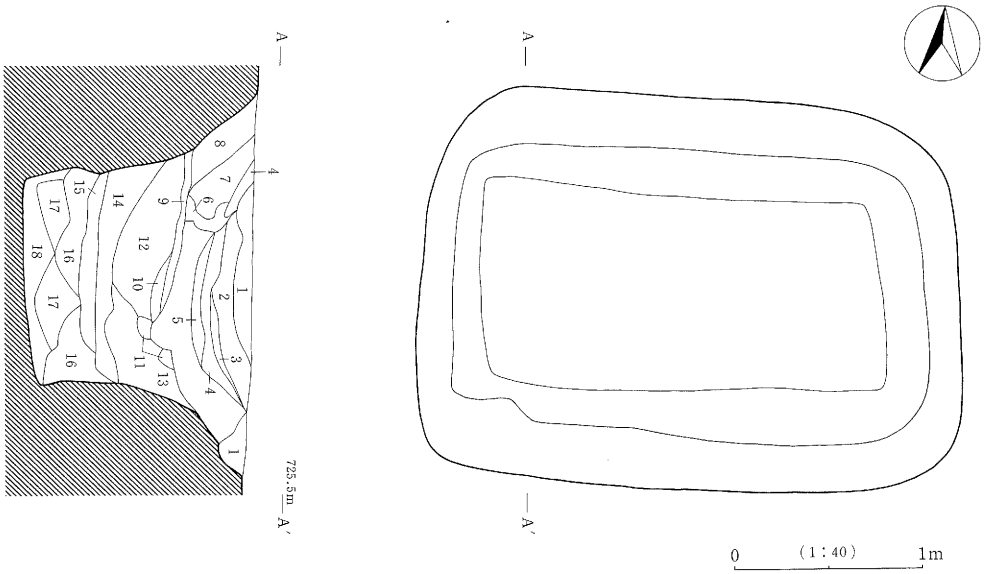
Ｔ２号特殊遺構は、下聖端遺跡の中央、か・お－56・55グリッド内において検出された。本遺構は、掘り込み内を二重にピットが廻り、入口施設らしきものが南西に向かって突出している。遺物は出土せず、所産期・性格ともに不明である。

Ｔ３号特殊遺構は、下聖端遺跡の南側、た・そ－75・76グリッド内において検出された。本遺構は円形にピットが配されているが、所産期・性格ともに不明である。

Ｔ４号特殊遺構は、下聖端遺跡の南側、し～せ－83・84グリッド内において検出された円形周溝である。所産期・性格ともに不明である。

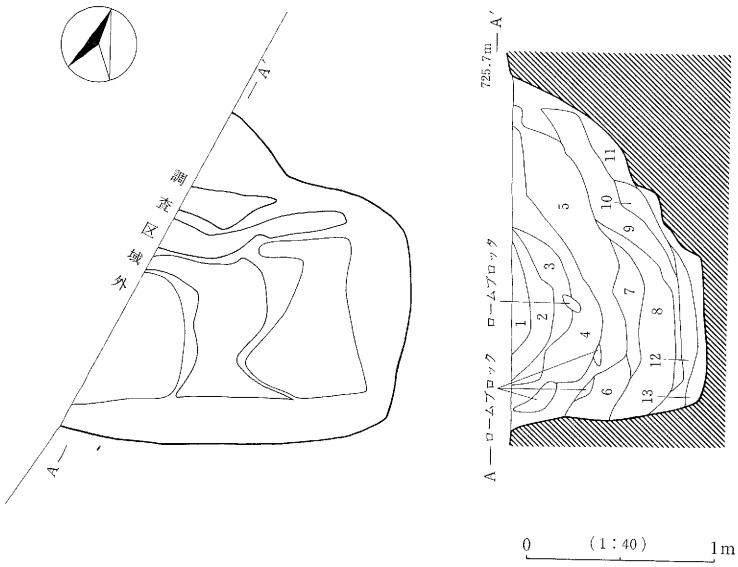
Ｔ５号特殊遺構は、下聖端遺跡の南側、さ・し－82・83グリッド内において検出された。本遺構は覆土等の状況から小さな沼か湿地と考えられる。所産期は不明である。

Ｔ６・７号特殊遺構は、下聖端遺跡の南側、へ・ほ－89・90グリッド内において検出された。両遺構は、覆土・形態・遺物等により、墓壙の可能性が高い。Ｈ３号住居址の床面を掘り込み、その際の土砂を床に盛り上げている。遺物は、臼玉、土師器片、骨片等が出土した。所産期は、Ｈ３号住居址が古墳時代中期後葉に推定されるため、ほぼ同一時期か若干新しいと考えられる。



1　黒褐色土層　炭化材微小片・パミス微量含む10YR3/2
2　黒褐色土層　炭化粒子・パミス微量含む。10YR2/3
3　黒 色 土 層　パミス微量含む。10YR2/1
4　黒褐色土層　パミス微量含む。10YR2/2
5　黒 色 土 層　パミス微量含む。10YR2/1
6　黒褐色土層　撹乱？　10YR2/2
7　暗褐色土層　パミス・炭化粒子微量含む。10YR3/4
8　黒褐色土層　パミス微量含む。10YR2/3
9　暗褐色土層　パミス・炭化粒子微量含む。10YR3/3
10　黒褐色土層　パミス・炭化粒子微量含む。10YR2/3
11　黒褐色土層　パミス微量、ローム粒子少量含む。10YR3/2
12　暗褐色土層　パミス微量、ローム粒子少量含む。10YR3/4
13　黒褐色土層　パミス微量、ローム粒子少量含む。10YR3/2
14　黒褐色土層　パミス・炭化粒子微量含む。10YR2/3
15　褐 色 土 層　パミス微量、ローム粒子多量含む。10YR4/4
16　暗褐色土層　パミス微量、ローム粒子少量含む。10YR3/3
17　暗褐色土層　パミス・炭化粒子微量、ローム粒子多量含む。10YR3/3
18　褐 色 土 層　ローム主体。パミス微量含む。10YR4/4

第239図　T 7 号特殊遺構実測図



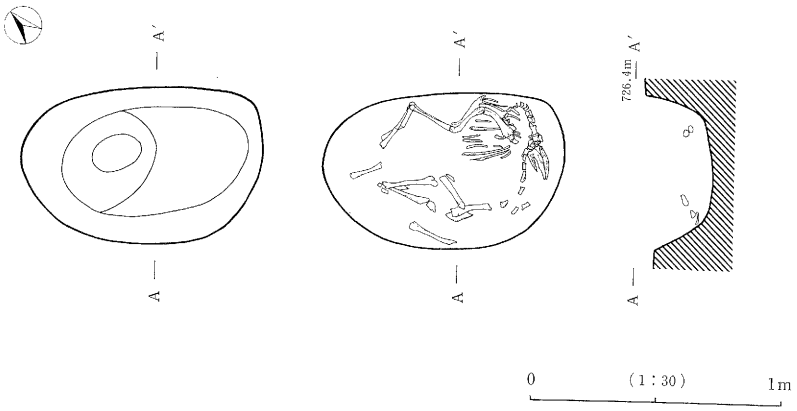
1　黒褐色土層　パミス・炭化粒子微量、ローム粒子少量含む。10YR2/3
2　黒褐色土層　パミス微量、ローム粒子少量、炭化粒子多量含む。10YR2/2
3　黒褐色土層　パミス微量、ローム粒子・炭化粒子少量含む。10YR2/3
4　暗褐色土層　パミス微量、ローム粒子多量含む。10YR3/3
5　暗褐色土層　パミス微量、ローム粒子多量含む。10YR3/4
6　黒褐色土層　パミス・ローム粒子微量含む。10YR2/3
7　暗褐色土層　パミス微量、ローム粒子少量含む。10YR3/3
8　黒褐色土層　パミス微量、ローム粒子少量含む。10YR2/3
9　暗褐色土層　パミス微量、ローム粒子多量、炭化粒子少量含む。10YR3/3
10　暗褐色土層　パミス微量、ローム粒子多量含む。10YR3/3
11　褐色土層　ローム主体。10YR4/4
12　黒褐色土層　パミス微量、ローム粒子少量含む。10YR2/2
13　暗褐色土層　ローム主体。パミス微量含む。10YR3/4

第240図　T6号特殊遺構実測図

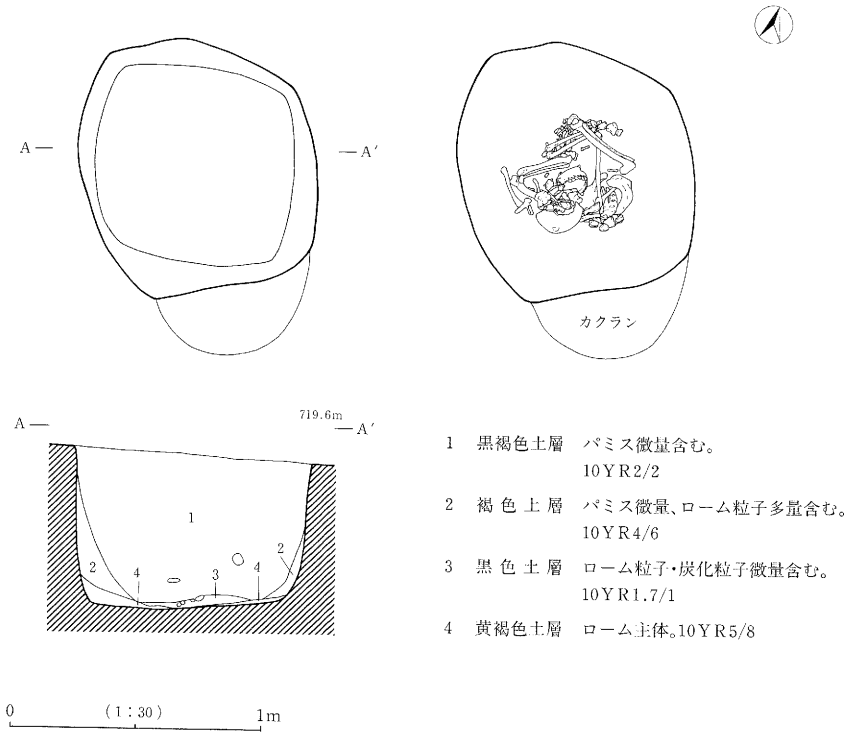
4　墓壙

OT1号墓壙は、下聖端遺跡の南側、て－84グリッド内において検出された。本墓壙からは獣骨（1体分）が出土した。遺物は出土せず、所産期は不明である。

OT2号墓壙は、下聖端遺跡IIの南側、せ－14グリッド内において検出された。本墓壙からは人骨1体分が出土した。遺物は、キセル、寛永通宝5枚と聖宋元宝1枚が出土し、所産期は江戸時代と考えられる。



第241図　ＯＴ１号墓壙実測図



1　黒褐色土層　パミス微量含む。
　　10YR2/2

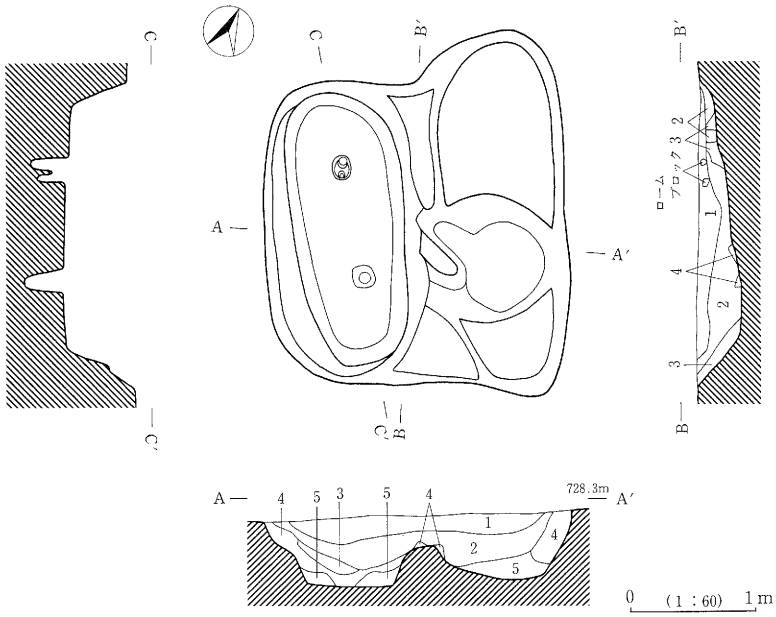
2　褐色土層　パミス微量、ローム粒子多量含む。
　　10YR4/6

3　黒色土層　ローム粒子・炭化粒子微量含む。
　　10YR1.7/1

4　黄褐色土層　ローム主体。10YR5/8

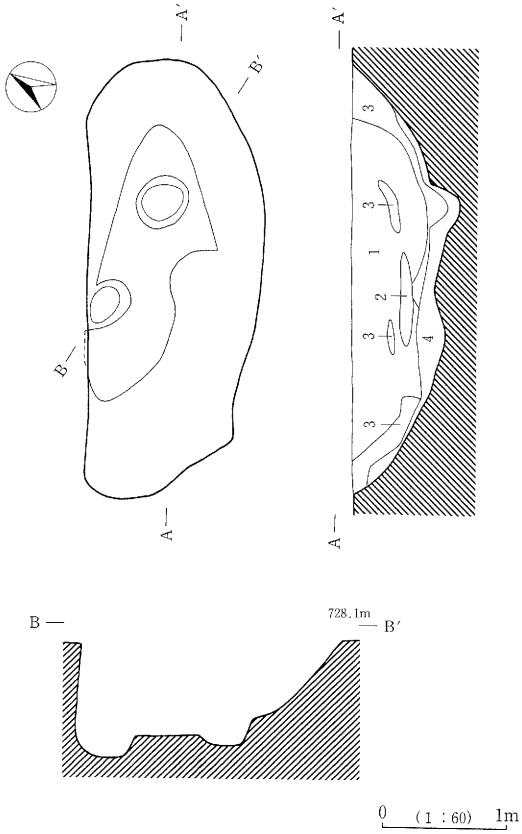
第242図　ＯＴ２号墓壙実測図

5　土坑



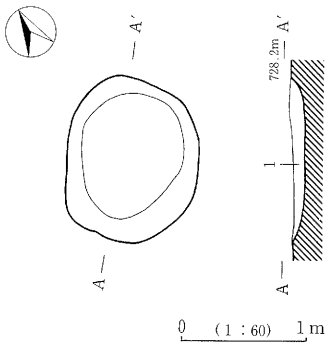
1	黒褐色土層	粘性やや弱し。パミス・スコリア小粒以下を微量、ローム粒子を少量含む。 10YR2/2
2	黒褐色土層	粘性弱し。スコリア小粒以下・パミスを微量、ローム粒子を少量含む。 10YR2/3
3	暗褐色土層	粘性弱し。スコリア小粒以下・パミスを少量、ローム粒子を多量含む。 10YR3/3
4	黄褐色土層	粘性弱し。ローム主体。スコリア中粒以下・パミスを微量含む。 10YR5/6
5	暗褐色土層	粘性弱し。スコリア小粒以下・パミスを少量、ローム粒子を多量含む。 10YR3/3

第243図　D１号土坑実測図



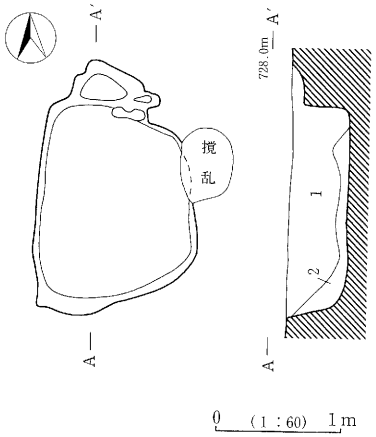
1 黒褐色土層 粘性弱し。パミス小～大粒多量含む。10YR2/2
2 にぶい黄褐色土層 粘性弱し。パミス小～中粒を少量、ローム粒子を多量含む。10YR4/3
3 暗褐色土層 粘性弱し。パミス、ローム粒子を多量含む。10YR3/4
4 褐色土層 粘性弱し。パミス小～中粒・ローム粒子を多量含む。10YR4/4

第244図 D2号土坑実測図



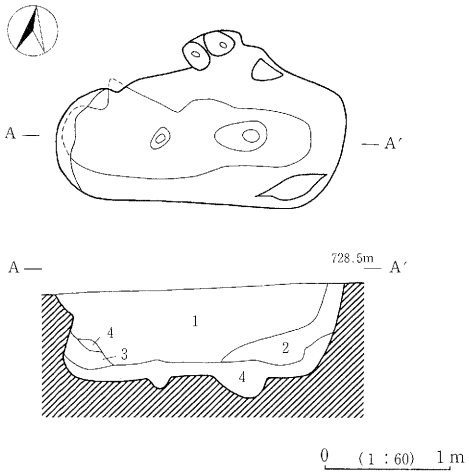
1 褐色土層 粘性弱し。スコリア・パミスを微量、ローム粒子を多量含む。10YR4/4

第245図 D6号土坑実測図



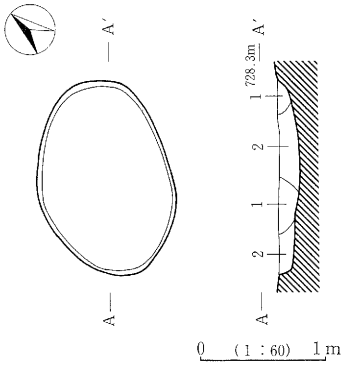
1 黒褐色土層
粘性弱し。パミス小粒を微量、ローム粒子を少量含む。
10YR2/2
2 にぶい黄褐色土層
粘性弱し。ローム粒子を多量、パミスを少量含む。10YR4/3

第246図 D14号土坑実測図



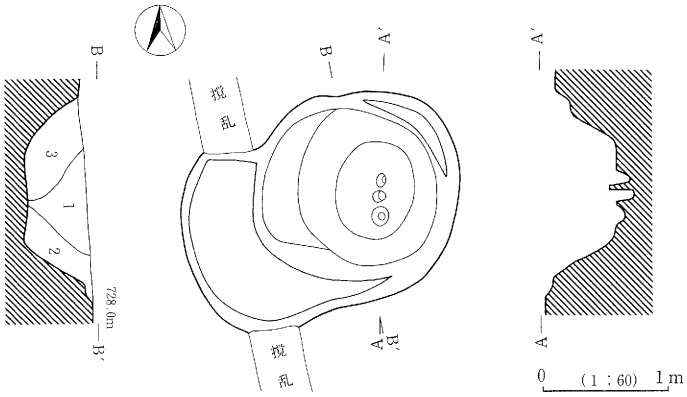
1　黒色土層　粘性弱し。パミス中粒以下を多量含む。10YR1.7/1
2　暗褐色土層　粘性弱し。パミス中粒以下、ローム粒子を少量含む。10YR3/3
3　暗褐色土層　粘性弱し。パミス中粒以下微量、ローム粒子を少量含む。10YR3/4
4　褐色土層　粘性弱し。ローム主体。10YR4/6

第247図　D3号土坑実測図



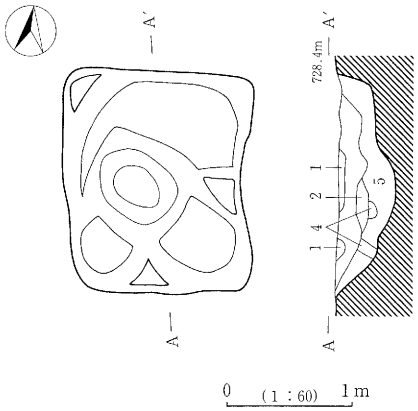
1　褐色土層　粘性弱し。パミス微量、ローム粒子を少量含む。7.5YR4/3
2　褐色土層　粘性弱し。パミスを少量、ローム粒子を多量含む。7.5YR4/4

第248図　D18号土坑実測図



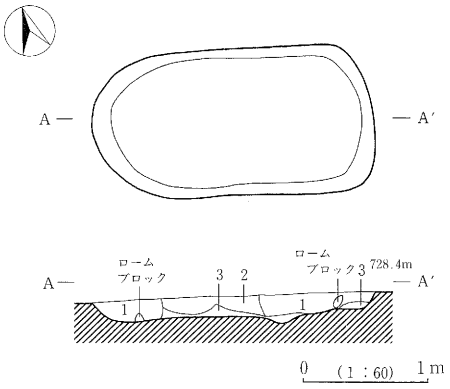
1　黒褐色土層　粘性弱し。スコリア中粒以下。パミス小～中粒・ローム粒子を少量含む。10YR3/4
2　褐色土層　粘性弱し。スコリア中粒以下・パミス小～中粒を少量、ローム粒子を多量含む。10YR4/4
3　黒色土層　粘性弱し。スコリア極小粒・パミス中～大粒・ローム粒子を微量含む。10YR1.7/1

第249図　D4号土坑実測図



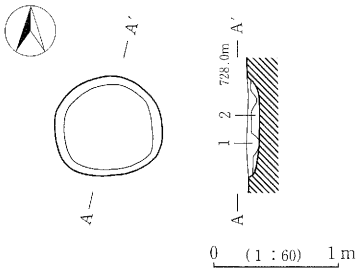
1　黄橙色土層　粘性弱し。ローム主体。パミス・スコリアを微量含む。10YR7/8
2　暗褐色土層　粘性弱し。スコリアを微量、ローム粒子を少量含む。10YR3/3
3　明黄褐色土層　粘性弱し。ローム主体。パミス・スコリアを微量含む。10YR6/8
4　黒褐色土層　粘性弱し。スコリア・パミスを微量含む。10YR2/3
5　明黄褐色土層　粘性弱し。ローム主体。パミス・スコリアを微量含む。10YR6/6

第250図　D5号土坑実測図



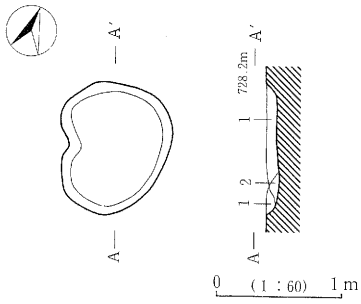
1　黒褐色土層　粘性弱し。パミス小～中粒・ローム粒子を少量含む。7.5YR3/2
2　極暗褐色土層　粘性弱し。パミス小～中粒・ローム粒子を少量含む。7.5YR2/3
3　にぶい褐色土層　粘性弱し。パミスを少量、ローム粒子を多量含む。7.5YR5/4

第251図　D10号土坑実測図



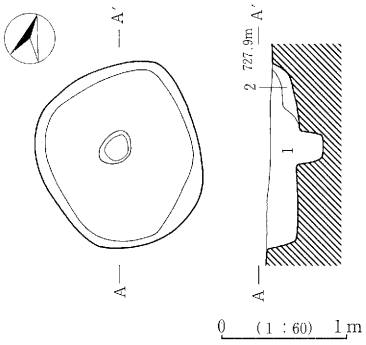
1　黒褐色土層
粘性弱し。スコリア小粒以下・パミス中粒以下を微量、炭化粒子を少量含む。10YR3/2
2　黄褐色土層
粘性弱し。ローム主体。パミス・スコリア中粒以下を微量含む。10YR5/6

第252図　D13号土坑実測図



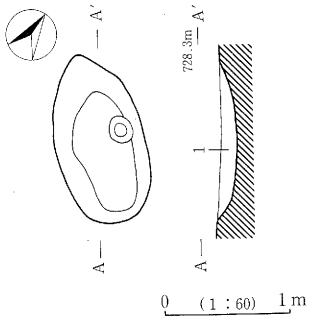
1　暗褐色土層
粘性やや弱し。スコリア・パミス小粒以下とローム粒子を微量含む。10YR3/3
2　褐色土層
粘性弱し。スコリア・パミス小粒以下を微量、ローム粒子を多量含む。10YR4/6

第253図　D16号土坑実測図



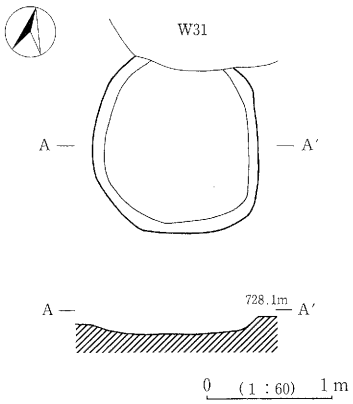
1　暗褐色土層　粘性弱し。ローム粒子を少量、スコリア中粒以下・パミス小粒を微量含む。10YR3/3
2　黄褐色土層　粘性弱し。ローム主体。パミス・スコリア小粒以下を微量含む。10YR5/6

第254図　D7号土坑実測図

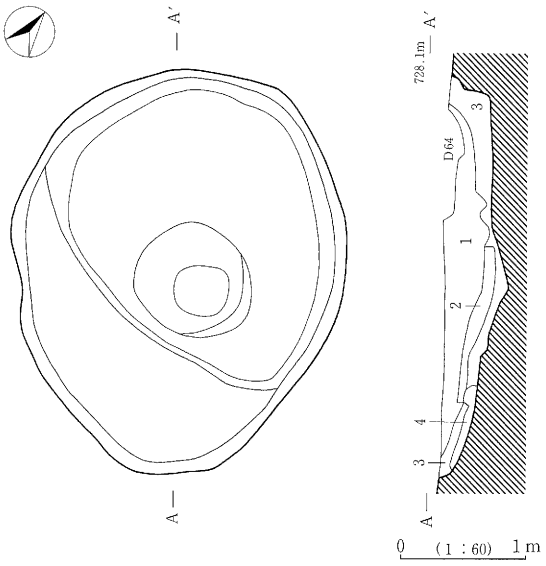


1　暗褐色土層　粘性弱し。パミス小～中粒・ローム粒子を少量含む。7.5YR3/4

第256図　D9号土坑実測図

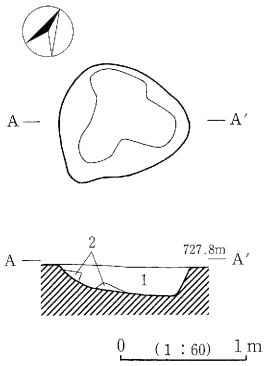


第255図　D8号土坑実測図



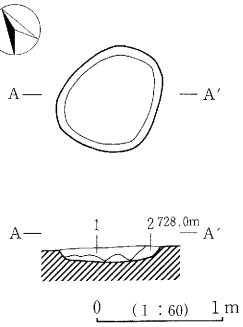
1　にぶい黄褐色土層　粘性弱し。スコリア中粒以下・パミスを微量、炭化粒子を少量、ローム粒子を多量含む。10YR4/3
2　黒褐色土層　粘性弱し。スコリア中粒以下を微量、パミス中粒以下・ローム粒子を少量含む。10YR2/3
3　黄褐色土層　粘性弱し。ローム主体。スコリア・パミスを微量含む。10YR5/6
4　暗褐色土層　粘性弱し。スコリア中粒以下・パミス小粒以下・ローム粒子を微量含む。10YR3/4

第257図　D15号土坑実測図



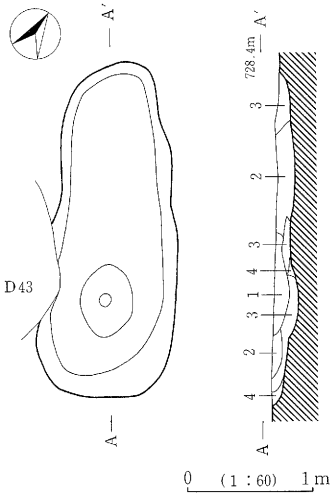
1　黒褐色土層
　粘性弱し。スコリア小粒以下・パミス・ローム粒子を微量含む。10YR2/2
2　黄褐色土層
　粘性弱し。スコリア・パミスを微量含む。10YR5/6

第258図　D11号土坑実測図



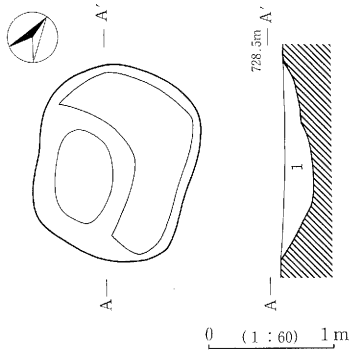
1　褐色土層
　粘性弱し。スコリア小粒以下・パミス小粒以下を微量、ローム粒子を多量含む。10YR4/4
2　黄褐色土層
　粘性弱し。ローム主体。パミス・スコリア中粒以下を微量含む。
　10YR5/6

第259図　D12号土坑実測図



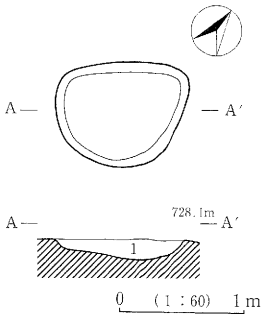
1　黒褐色土層　粘性弱し。スコリア小粒・ローム粒子を少量、パミス小～中粒を多量含む。10YR2/2
2　暗褐色土層　粘性弱し。スコリア小粒・ローム粒子を少量、パミス小～中粒を多量含む。10YR3/3
3　褐色土層　粘性弱し。パミス小～中粒・ローム粒子を少量含む。10YR4/4
4　褐色土層　粘性弱し。ローム粒子を多量含む。10YR4/6

第260図　D21号土坑実測図



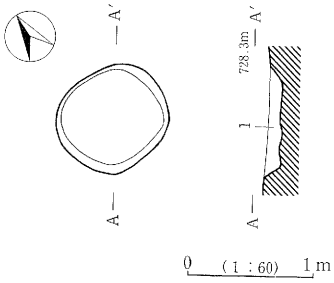
1　褐色土層
　粘性弱し。パミス・ローム粒子を少量含む。
　7.5YR4/4

第261図　D23号土坑実測図



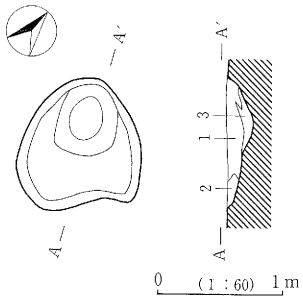
1　暗褐色土層
　粘性弱し。スコリア小粒以下・パミス中粒以下ローム粒子を微量含む。10YR3/4

第262図　D17号土坑実測図



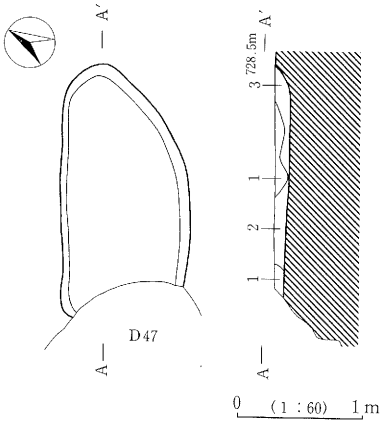
1　暗褐色土層
　粘性弱し。パミス・ローム粒子を少量含む。7.5YR3/3

第263図　D19号土坑実測図



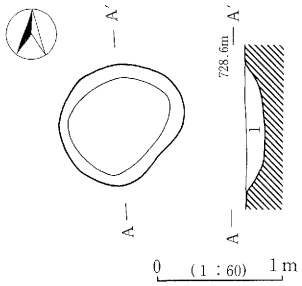
1　黒褐色土層　粘性やや弱し。パミスローム粒子を微量含む。7.5YR2/2
2　褐色土層　粘性弱し。ローム粒子を多量に含む。7.5YR4/6
3　暗褐色土層　粘性弱し。パミス・ローム粒子を少量含む。7.5YR3/4

第264図　D20号土坑実測図



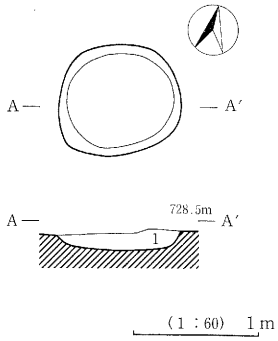
1　黒褐色土層　粘性弱し。スコリア・パミス・ローム粒子を微量含む。10YR3/2
2　褐色土層　粘性弱し。スコリア・パミスを微量、ローム粒子を多量含む。10YR4/4
3　暗褐色土層　粘性弱し。スコリア・パミスを微量、ローム粒子を多量含む。10YR3/4

第265図　D22号土坑実測図



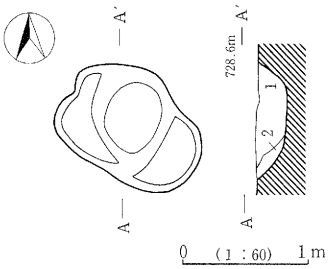
1　暗褐色土層
　粘性弱し。パミス小粒・ローム粒子を少量含む。7.5YR3/3

第266図　D24号土坑実測図



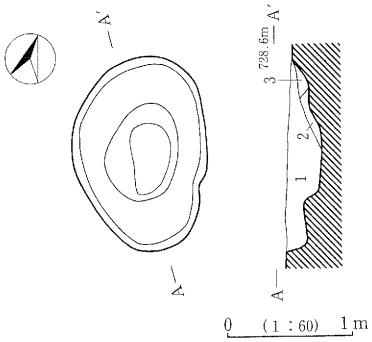
1　褐色土層
　パミス・砂礫を少量、ローム粒子を多量含む。7.5YR4/6

第267図　D28号土坑実測図



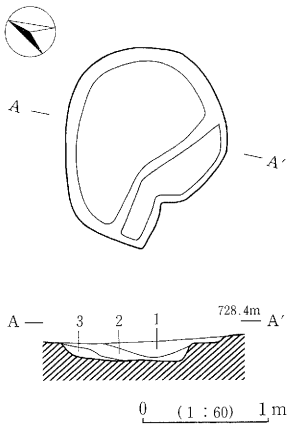
1　暗褐色土層
　粘性弱し。パミスを微量、ローム粒子を少量含む。7.5YR3/3
2　にぶい褐色土層
　粘性やや弱し。ローム粒子を多量含む。7.5YR5/4

第268図　D29号土坑実測図



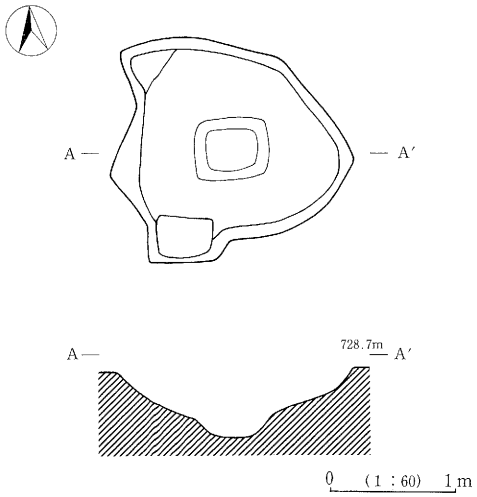
1　暗褐色土層　粘性やや弱し。パミス・ローム粒子を少量含む。7.5YR3/3
2　にぶい褐色土層　粘性弱し。パミスを少量、ローム粒子を多量含む。7.5YR6/3
3　明褐色土層　粘性弱し。ローム主体。パミスを少量含む。7.5YR5/6

第269図　D25号土坑実測図

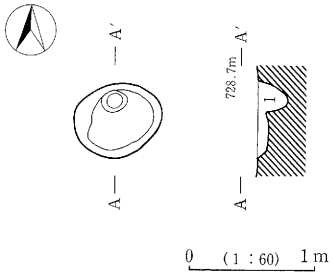


1　暗褐色土層　粘性弱し。パミス・砂礫・ローム粒子を微量含む。7.5YR3/3
2　褐色土層　粘性弱し。パミスを微量、ローム粒子を少量含む。7.5YR4/4
3　褐色土層　粘性弱し。パミス、ローム粒子を多量含む。7.5YR4/3

第270図　D27号土坑実測図

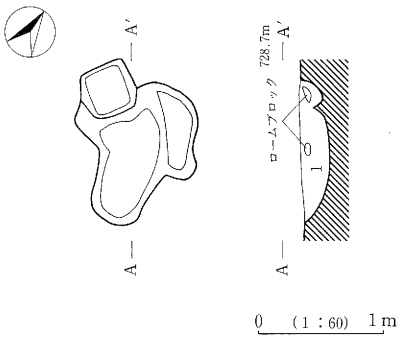


第271図　D31号土坑実測図



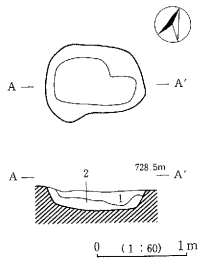
1　暗褐色土層
　粘性弱し。パミス・ローム粒子を
　少量含む。7.5YR 3/3

第272図　D32号土坑実測図



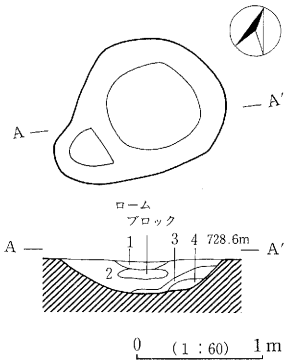
1　黒褐色土層
　粘性弱し。パミス・ローム粒子を
　少量含む。7.5YR 3/2

第273図　D33号土坑実測図



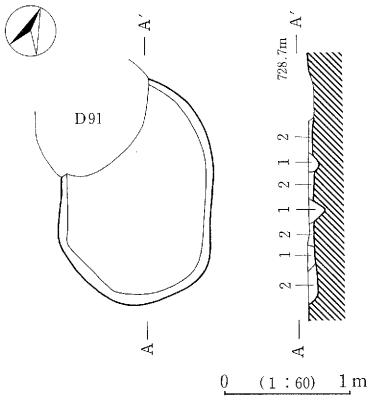
1　黒褐色土層
　粘性弱し。スコリア・パミス小粒
　以下を微量、ローム粒子を少量含
　む。10YR2/3
2　黄褐色土層
　粘性弱し。ローム主体。スコリア・
　パミス小粒以下を微量含む。
　10YR5/8

第274図　D26号土坑実測図



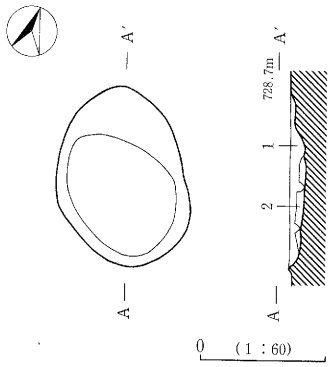
1　褐色土層　粘性弱し。パミス・ローム粒子を
　多量に含む。7.5YR4/6
2　黒褐色土層　粘性弱し。ローム粒子を少量含む。
　7.5YR3/2
3　にぶい褐色土層　粘性弱し。パミスを少量、ロー
　ム粒子を多量含む。7.5YR5/4
4　黒褐色土層　粘性弱し。ローム粒子を少量
　含む。7.5YR2/2

第275図　D30号土坑実測図



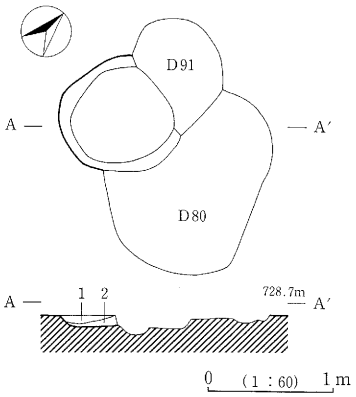
1　黒褐色土層　粘性弱し。スコリア中粒以下・パミス・ローム粒子を微量含む。10YR 3/2
2　褐 色 土 層　粘性弱し。スコリア中粒以下・パミス・ローム粒子を少量含む。10YR4/4

第276図　D34号土坑実測図



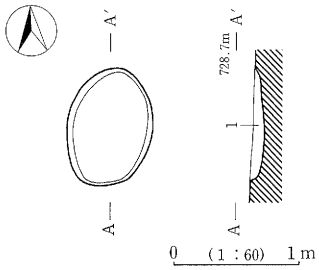
1　黒褐色土層
粘性弱し。パミスを少量含む、7.5YR2/2
2　褐 色 土 層
粘性弱し。パミス・ローム粒子を少量含む。7.5YR4/4

第277図　D35号土坑実測図



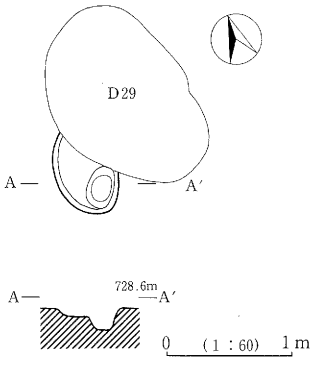
1　黒褐色土層
粘性弱し。スコリア小粒以下を微量、ローム粒子を少量含む。10YR2/3
2　暗褐色土層
粘性弱し。スコリア小粒以下・ローム粒子を少量、パミス小粒を微量含む。10YR3/4

第278図　D36号土坑実測図

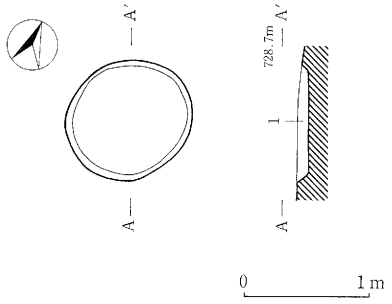


1　褐 色 土 層
粘性弱し。パミス・ローム粒子を多量含む。7.5YR4/3

第279図　D37号土坑実測図

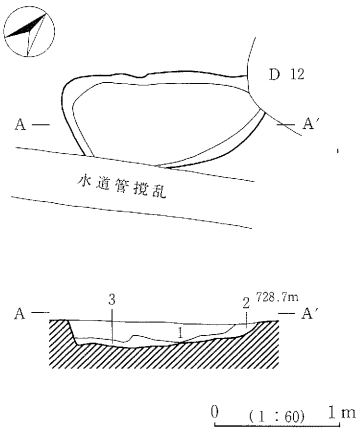


第280図　D39号土坑実測図



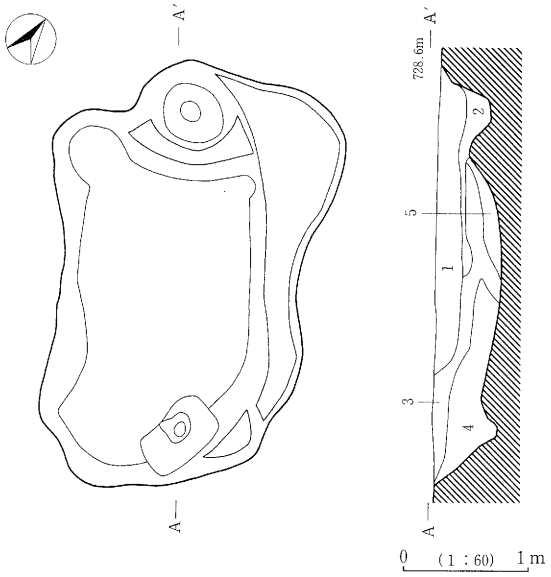
1　褐色土層　粘性弱し。パミス・ローム粒子を多量含む。7.5YR4/3

第281図　D38号土坑実測図



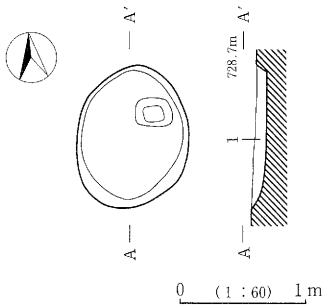
1　黒褐色土層　粘性やや弱し。パミス・スコリア・ローム粒子を微量含む。10YR2/2
2　褐色土層　粘性弱し。パミス・ローム粒子を多量含む。10YR4/4
3　暗褐色土層　粘性弱し。パミス・ローム粒子を少量含む。10YR3/3

第283図　D47号土坑実測図



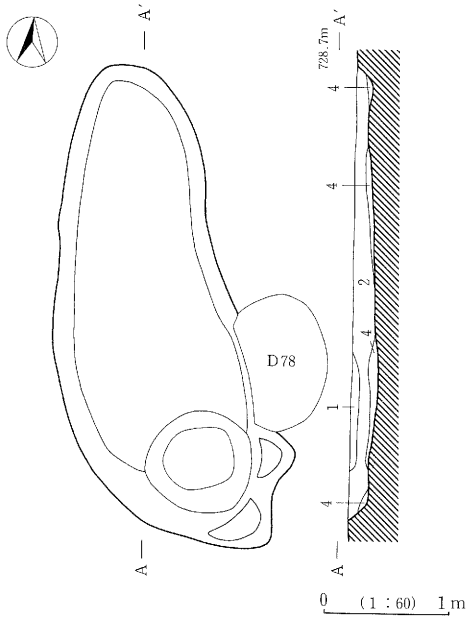
1　黒褐色土層　粘性やや弱し。スコリア・パミス・ローム粒子を微量含む。10YR2/3
2　黄褐色土層　粘性弱し。ローム主体。スコリア・パミスを微量含む。10YR5/6
3　褐色土層　粘性弱し。スコリア・パミスを微量、ローム粒子を多量含む。10YR4/4
4　にぶい黄橙色土層　粘性弱し。スコリア・パミスを微量、ローム粒子を多量含む。10YR6/3
5　にぶい橙色土層　粘性弱し。ローム主体。スコリア・パミスを微量含む。7.5YR6/4

第282図　D40号土坑実測図



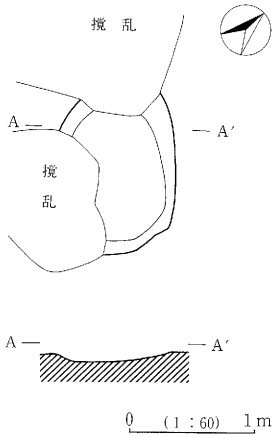
1　暗褐色土層　粘性弱し。スコリア・パミス・ローム粒子を微量含む。10YR3/4

第284図　D45号土坑実測図

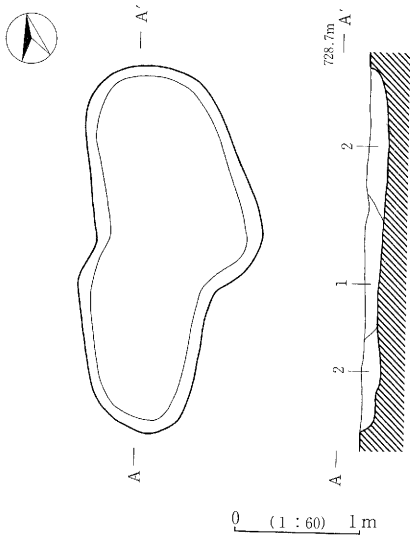


1 黒 褐 色 土 層 粘性弱し。スコリア・パミス・ローム粒子を微量含む。10YR2/3
2 黒 褐 色 土 層 粘性弱し。スコリア・パミス・ローム粒子を微量含む。10YR3/2
3 暗 褐 色 土 層 粘性弱し。スコリア・パミス・ローム粒子を微量含む。10YR3/2
4 にぶい黄褐色土層 粘性弱し。ローム主体。スコリア・パミスを微量含む。10YR5/4

第285図 D41号土坑実測図

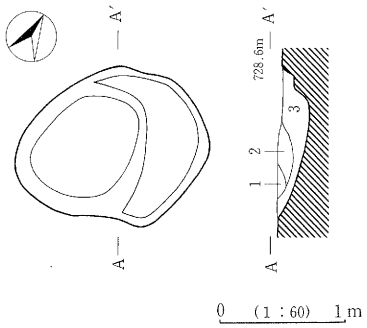


第287図 D50号土坑実測図



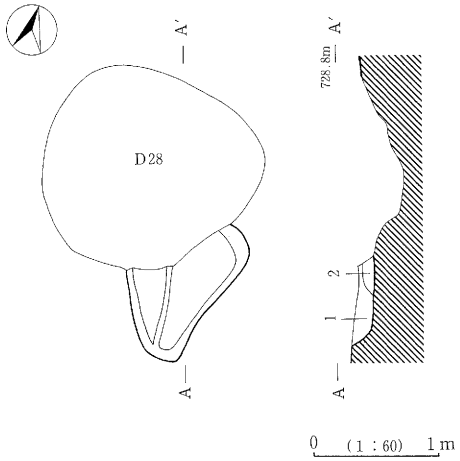
1 黒褐色土層 粘性弱し。パミス中粒以上・スコリアを微量含む。10YR2/3
2 暗褐色土層 粘性弱し。パミス中粒以上・スコリアを微量、ローム粒子を少量含む。10YR3/4

第286図 D42号土坑実測図



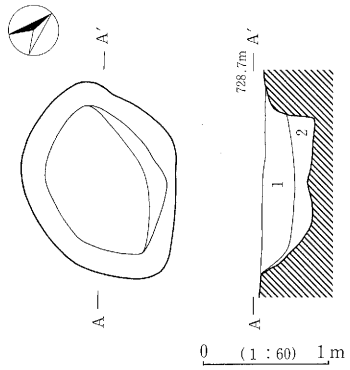
1 褐 色 土 層 粘性弱し。パミス・ローム粒子を少量含む。7.5YR4/3
2 黒褐色土層 粘性弱し。パミス・ローム粒子を微量含む。7.5YR2/2
3 褐 色 土 層 粘性弱し。ローム粒子を多量含む。7.5YR4/4

第288図 D43号土坑実測図



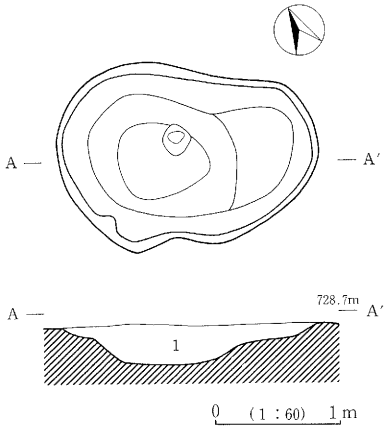
1 黒 褐 色 土 層 粘性弱し。パミス・ローム粒子を少量含む。10YR3/2
2 暗 褐 色 土 層 粘性弱し。パミスを微量、ローム粒子を少量含む。10YR3/3

第289図 D44号土坑実測図



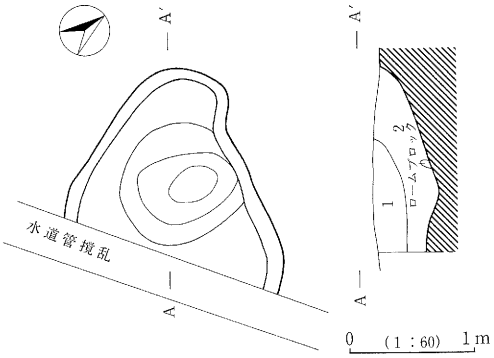
1 褐 色 土 層 粘性弱し。ローム粒子を多量含む。7.5YR4/3
2 褐 色 土 層 粘性弱し。ローム主体。7.5YR4/6

第291図 D48号土坑実測図



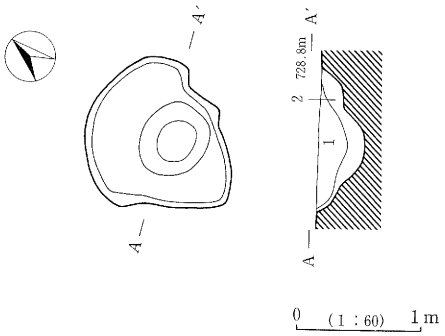
1 にぶい黄褐色土層
粘性やや弱し。ローム粒子を多量含む。
7.5YR4/3

第290図 D46号土坑実測図



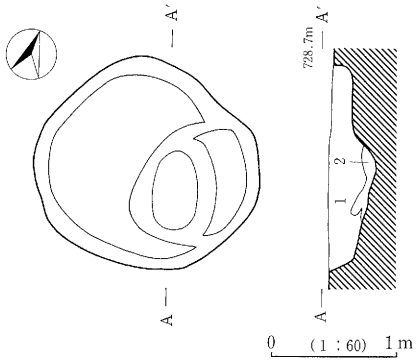
1 黒 色 土 層 粘性弱し。スコリアを微量含む。10YR1.7/1
2 にぶい黄橙色土層 粘性弱し。スコリア・パミスを微量、ローム粒子を多量含む。10YR6/3

第292図 D49号土坑実測図



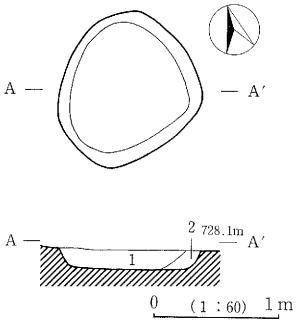
1　黒 褐 色 土 層　粘性弱し。ローム粒子・パミスを少量含む。7.5YR2/2
2　にぶい褐色土層
粘性弱し。パミスを微量、ローム粒子を多量含む。7.5YR5/4

第293図　D51号土坑実測図



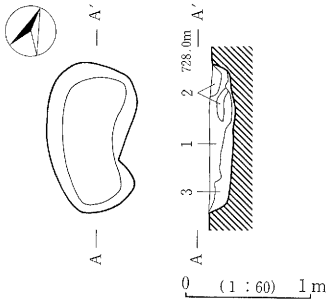
1　黒褐色土層　粘性弱し。パミス・スコリア・ローム粒子を少量含む。7.5YR3/2
2　褐 色 土 層　粘性弱し。ローム主体。7.5YR4/6

第294図　D52号土坑実測図



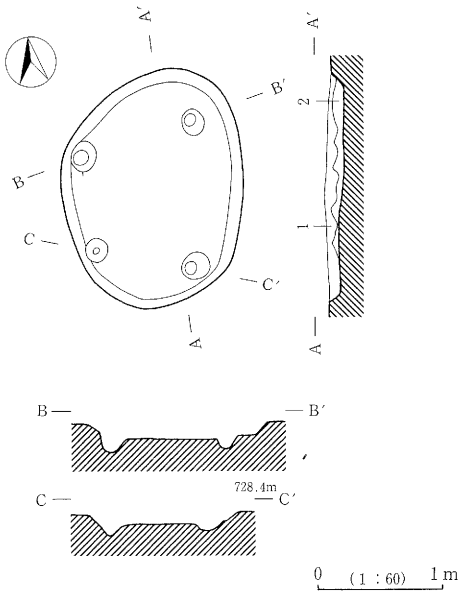
1　暗褐色土層　粘性弱し。スコリア小粒以下・パミス微量、ローム粒子少量含む。
10YR3/4
2　褐 色 土 層　粘性弱し。スコリア小粒以下・パミス微量、ローム粒子多量含む。
10YR4/4

第295図　D53号土坑実測図



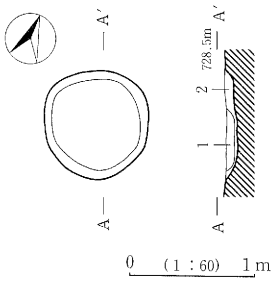
1　黒 褐 色 土 層
粘性弱し。パミス少量、ローム粒子微量含む。
10YR3/2
2　にぶい黄褐色土層
粘性弱し。パミス小粒・ローム粒子少量含む。
10YR4/3
3　褐 色 土 層
粘性弱し。ローム主体。パミス少量含む。
10YR4/6

第296図　D54号土坑実測図



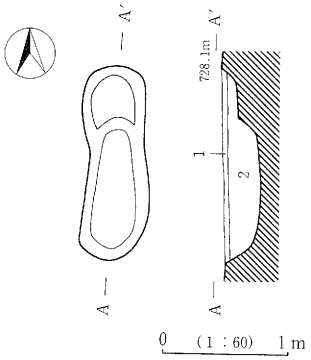
1 褐 色 土 層 粘性やや弱し。パミス・ローム粒子少量含む。7.5YR4/3
2 にぶい赤褐色土層
粘性やや弱し。パミス・ローム粒子少量含む。5YR4/4

第297図 D55号土坑実測図



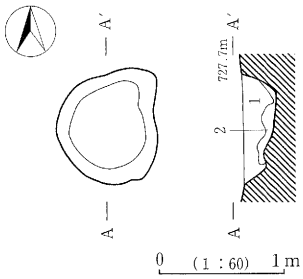
1 褐 色 土 層 粘性弱し。パミス・ローム粒子少量含む。10YR4/4
2 褐 色 土 層 粘性弱し。パミス少量、ローム粒子多量含む。10YR4/6

第298図 D56号土坑実測図



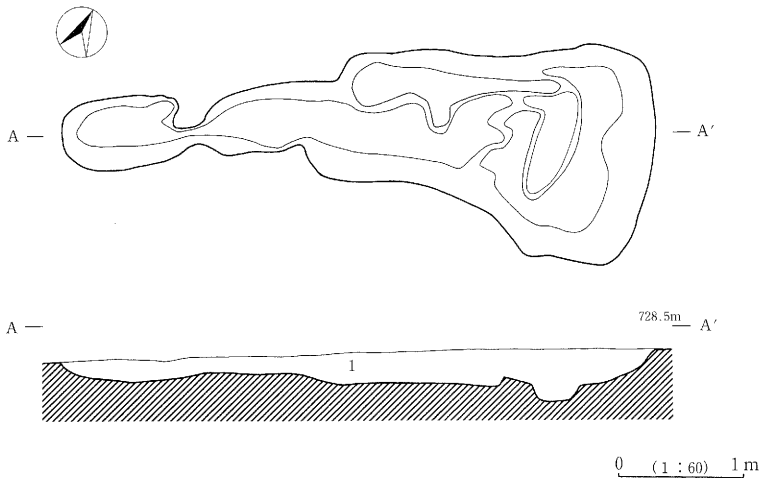
1 黒褐色土層 粘性弱し。パミス少量含む。10YR2/3
2 褐 色 土 層 粘性弱し。パミス小～中粒少量、ローム粒子多量含む。10YR4/6

第299図 D57号土坑実測図



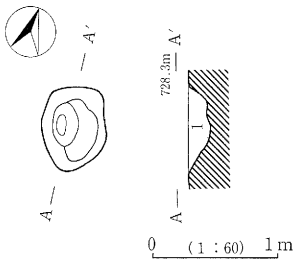
1 褐 色 土 層 粘性弱し。パミス中粒少量、ローム粒子多量含む。10YR4/6
2 黄褐色土層 粘性弱し。パミス中粒微量、ローム粒子多量含む。10YR5/6

第300図 D64号土坑実測図



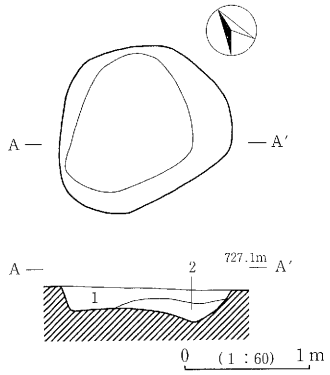
1　黒褐色土層　粘性弱し。パミス・スコリアを微量含む。10YR2/2

第301図　D60号土坑実測図



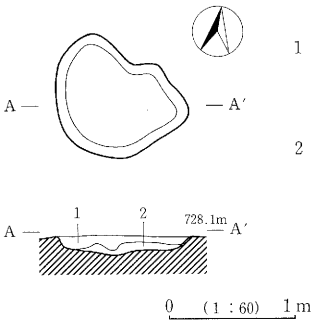
1　黒褐色土層　粘性弱し。スコリア・パミス中粒以下微量含む。
10YR2/3

第302図　D61号土坑実測図



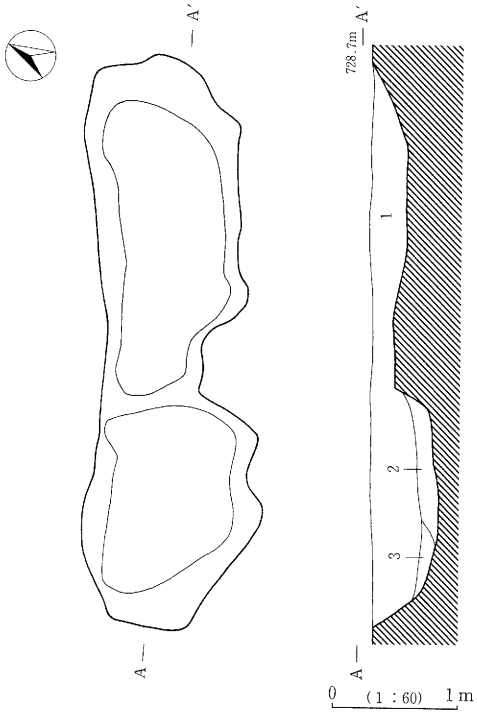
1　暗褐色土層　粘性弱し。パミス・スコリア小粒以下・ローム粒子少量含む。10YR4/3
2　黄褐色土層　粘性弱し。パミス・スコリア小粒以下微量、ローム粒子多量含む。10YR5/6

第304図　D70号土坑実測図



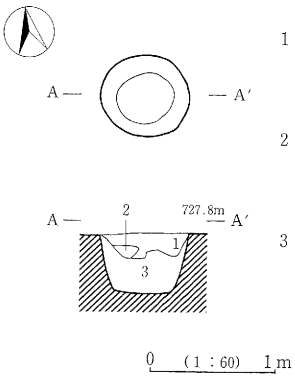
1　暗褐色土層
粘性弱しパミス中粒・ローム粒子少量含む。
10YR3/4
2　褐色土層
粘性弱し。パミス極大粒以下少量、ローム粒子多量含む。10YR4/4

第303図　D58号土坑実測図



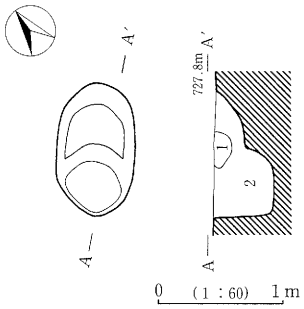
1 黒褐色土層 粘性弱し。スコリアを微量、パミス小粒を少量含む。10YR3/1
2 暗褐色土層 粘性弱し。スコリアを微量、パミス極小粒を少量含む。10YR3/4
3 褐色土層 粘性やや弱し。スコリアを微量、パミス極小粒を少量含む。7.5YR4/4

第305図 D59号土坑実測図



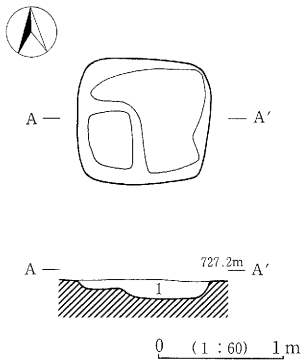
1 黒褐色土層
粘性弱し。パミス中粒微量、ローム粒子少量含む。
10YR2/3
2 黄褐色土層
粘性弱し。パミス中粒微量、ローム粒子多量含む。
10YR5/8
3 褐色土層
粘性弱し。パミス中粒微量、ローム粒子少量含む。
10YR4/4

第307図 D63号土坑実測図



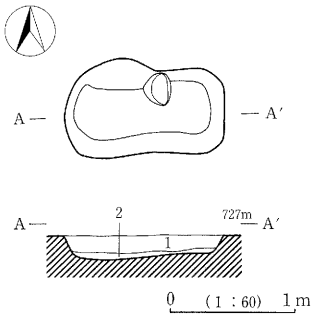
1 黒褐色土層 粘性弱し。パミス少量含む。
10YR2/3
2 褐色土層 粘性弱し。ローム粒子を多量含む。
10YR4/6

第306図 D62号土坑実測図



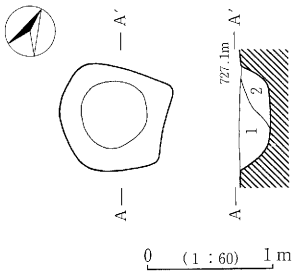
1 にぶい黄褐色土層
粘性弱し。パミス少量、ローム粒子多量含む。
10YR5/4

第308図 D66号土坑実測図



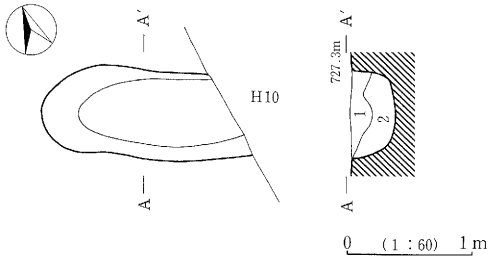
1　暗褐色土層　粘性弱し。パミス少量含む。10YR 3/3
2　黄褐色土層　粘性弱し。ローム主体。パミス少量含む。10YR5/6

第309図　D67号土坑実測図



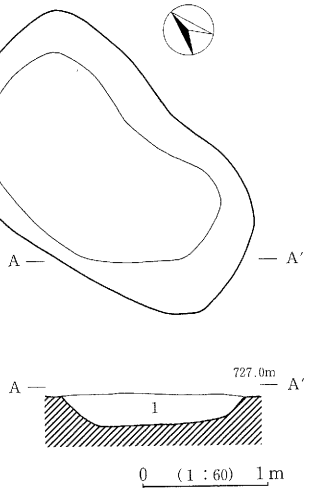
1　黒褐色土層　粘性弱し。パミス・ローム粒子微量含む。10YR 3/2
2　明黄褐色土層　粘性弱し。ローム主体。パミス小～中粒少量含む。10YR6/6

第311図　D69号土坑実測図



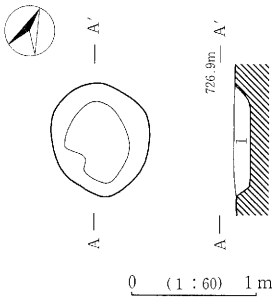
1　暗褐色土層　粘性弱し。パミス大粒・ローム粒子微量含む。10YR 3/3
2　にぶい黄褐色土層　粘性弱し。パミス中粒微量、・ローム粒子少量含む。10YR4/3

第310図　D65号土坑実測図



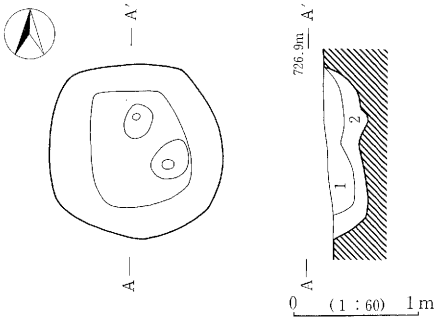
1　暗褐色土層　粘性弱し。パミス・スコリア小粒以下・ローム粒子少量含む。10YR3/3

第312図　D71号土坑実測図



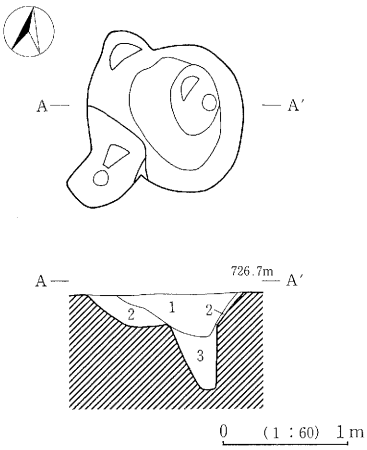
1　暗褐色土層　粘性弱し。パミス中～極大粒多量、ローム粒子少量含む。10YR3/3

第313図　D68号土坑実測図



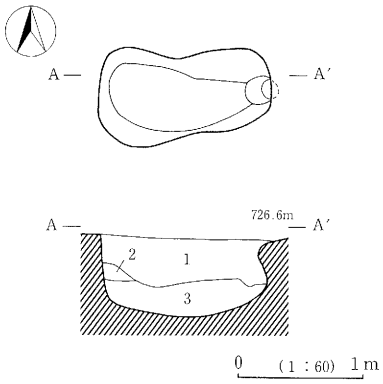
1　にぶい黄褐色土層　粘性弱し。パミス・スコリア小粒以下・ローム粒子少量含む。10YR4/3
2　黄褐色土層　粘性弱し。パミス・スコリア小粒以下少量、ローム粒子多量含む。10YR5/6

第314図　D72号土坑実測図



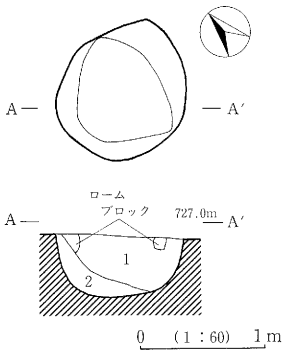
1　暗褐色土層　粘性弱し。パミス・スコリア小粒以下・ローム粒子を少量含む、10YR3/3
2　黄褐色土層　粘性弱し。ローム主体。パミス微量含む。10YR5/6
3　褐色土層　粘性弱し。パミス・スコリア中粒以下を微量、ローム粒子多量含む。10YR4/6

第315図　D74号土坑実測図



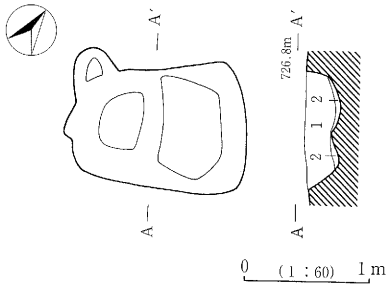
1　暗褐色土層　粘性弱し。パミス・スコリア中粒以下・ローム粒子少量含む。10YR3/3
2　黒褐色土層　粘性弱し。パミス・スコリア小粒以下少量含む。10YR3/2
3　にぶい黄橙色土層　粘性弱し。パミス・スコリア中粒以下少量、ローム粒子多量含む。10YR6/4

第316図　D75号土坑実測図



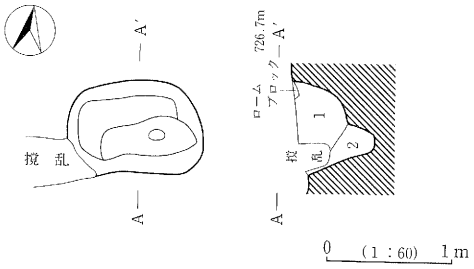
1　黒褐色土層　粘性弱し。パミス・スコリア小粒以下・ローム粒子微量含む。10YR3/2
2　褐色土層　粘性弱し。パミス小～中粒少量、ローム粒子多量含む。10YR4/6

第317図　D76号土坑実測図



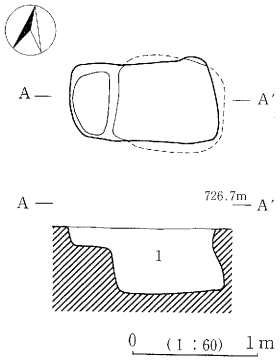
1　黒褐色土層　粘性弱し。パミス・ローム粒子ブロック状に少量、スコリア小粒以下微量含む。10YR2/3
2　黄褐色土層　粘性弱し。パミス・スコリア極小粒少量、ローム粒子多量含む。10YR5/6

第318図　D77号土坑実測図



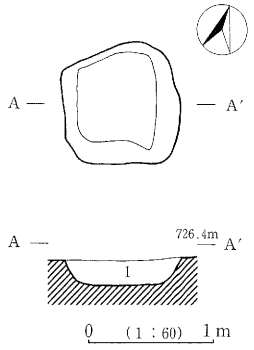
1　黒褐色土層　粘性弱し。パミス微量、スコリア少量含む。10YR3/2
2　暗褐色土層　粘性弱し。パミス微量、砂粒多量含む。10YR3/4

第319図　D73号土坑実測図



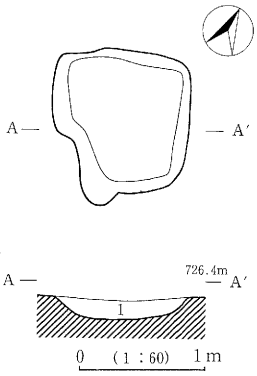
1　黒褐色土層　粘性弱し。スコリア小粒以下・パミス微量、焼土粒子・ローム粒子少量含む。10YR2/3

第320図　D78号土坑実測図



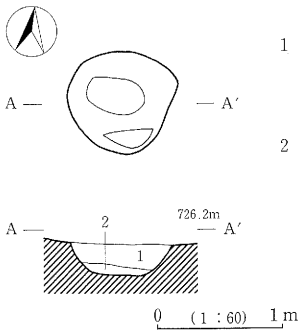
1　黒褐色土層
　粘性弱し。パミス極大・炭化粒子微量、砂粒を少量含む。
　10YR2/2

第321図　D79号土坑実測図



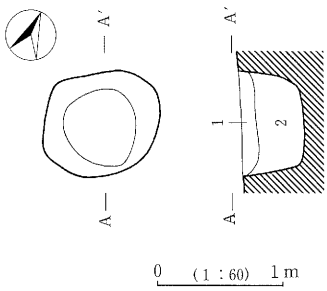
1　黒褐色土層
　砂礫を多量、ローム粒子を少量含む。10YR3/2

第322図　D80号土坑実測図



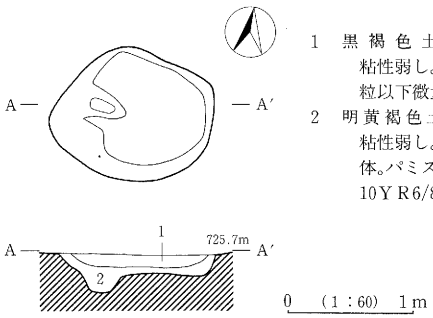
1　黒褐色土層
　粘性やや弱し。
　パミス・砂礫を少量含む。7.5YR2/2
2　褐色土層
　粘性やや弱し。
　パミス中粒以下、極小礫・ローム粒子を少量含む。7.5YR4/6

第323図　D81号土坑実測図



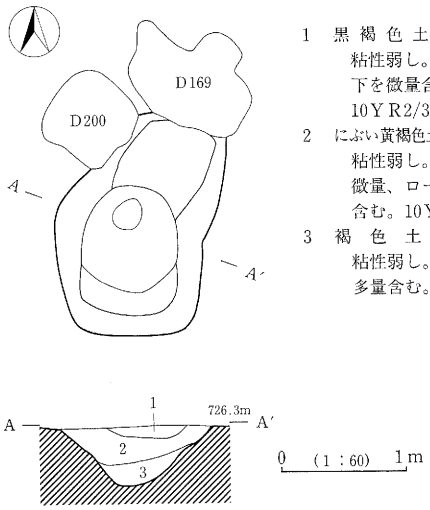
1　にぶい黄褐色土層　粘性弱し。パミス・中小礫微量、ローム粒子多量含む。10YR4/3
2　褐色土層
　粘性弱し。パミス・中小礫微量、ローム粒子少量含む。10YR4/4

第324図　D83号土坑実測図



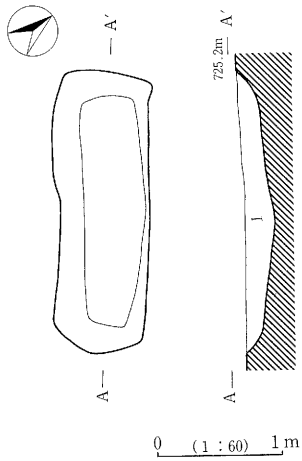
1　黒褐色土層
　粘性弱し。パミス中粒以下微量含む。
2　明黄褐色土層
　粘性弱し。ローム主体。パミス微量含む。
　10YR6/8

第325図　D85号土坑実測図



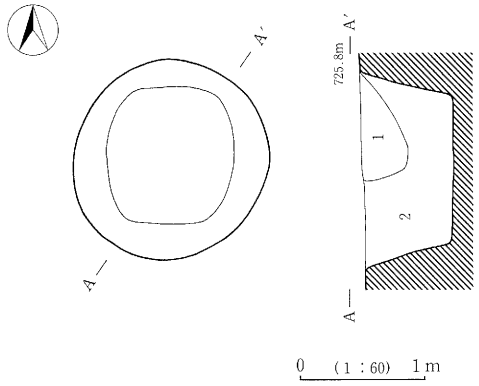
1　黒 褐 色 土 層
　粘性弱し。パミス中粒以下を微量含む。
　10YR2/3
2　にぶい黄褐色土層
　粘性弱し。パミス中粒を微量、ローム粒子を少量含む。10YR4/3
3　褐　色　土　層
　粘性弱し。ローム粒子を多量含む。10YR4/6

第326図　D82号土坑実測図



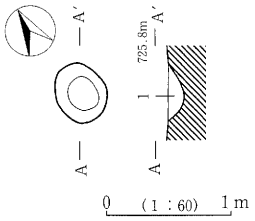
1　黒 色 土 層　粘性やや弱し。パミス・小礫を微量含む。10YR2/1

第328図　D86号土坑実測図



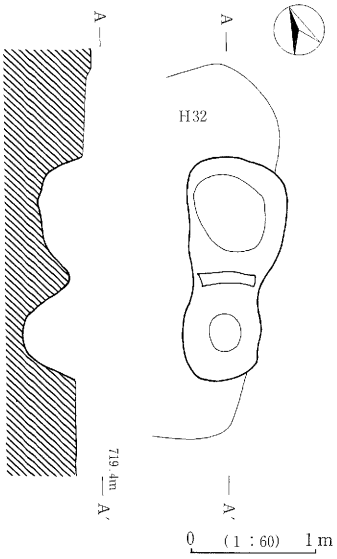
1　暗褐色土層　粘性弱し。パミス・小礫を微量、ローム粒子少量含む。10YR3/3
2　黒褐色土層　粘性弱し。パミス・小礫を微量含む。
　10YR2/3

第327図　D84号土坑実測図

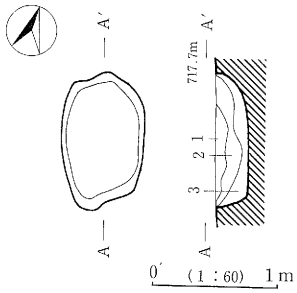


1　黒 褐 色 土 層
　粘性弱し。パミス・極小礫微量含む。
　10YR2/2

第329図　D87号土坑実測図

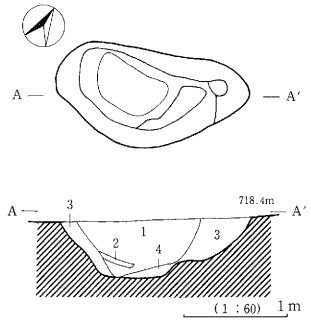


第330図　D88号土坑実測図



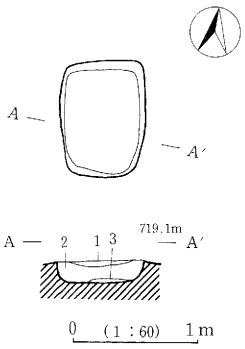
1　黒色土層　ローム粒子微量含む。10YR2/1
2　暗褐色土層　ローム粒子・パミス少量含む。10YR3/4
3　黒褐色土層　ローム粒子少量含む。10YR2/2

第332図　D90号土坑実測図



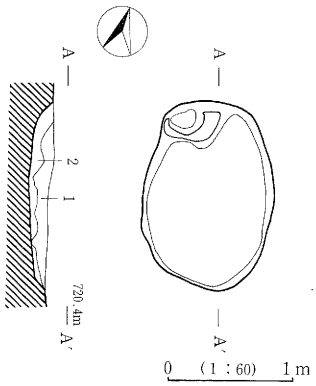
1　黒褐色土層　パミス微量含む。10YR2/2
2　撹　乱
3　暗褐色土層　ローム粒子・パミス少量含む。10YR2/3
4　黒褐色土層　ローム粒子・パミス微量含む。10YR2/3

第333図　D91号土坑実測図



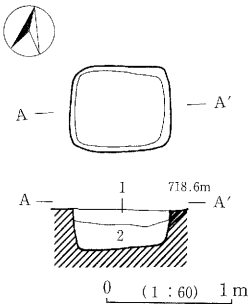
1　にぶい赤褐色土層　ローム粒子、パミス少量含む。5YR4/4
2　黒褐色土層　炭化粒子微量含む。7.5YR2/2
3　黒色土層　炭化粒子・焼土粒子を少量含む。7.5YR1.7/1

第331図　D89号土坑実測図



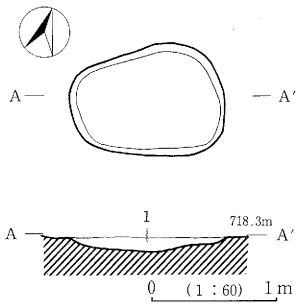
1　黒褐色土層　パミス少量含む。10YR3/2
2　褐色土層　パミス少量、ローム粒子多量含む。10YR4/4

第334図　D93号土坑実測図



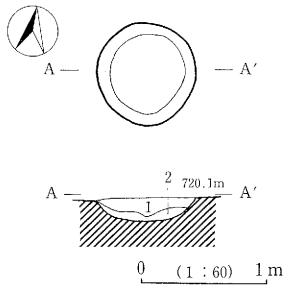
1　暗褐色土層　ローム粒子少量、パミス微量含む。10YR3/4
2　黒色土層　ローム粒子・炭化粒子微量含む。10YR2/1

第335図　D96号土坑実測図



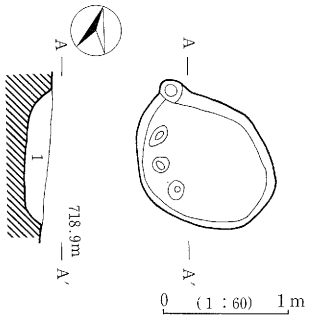
1　黒褐色土層　パミス微量含む。10YR2/3

第336図　D92号土坑実測図



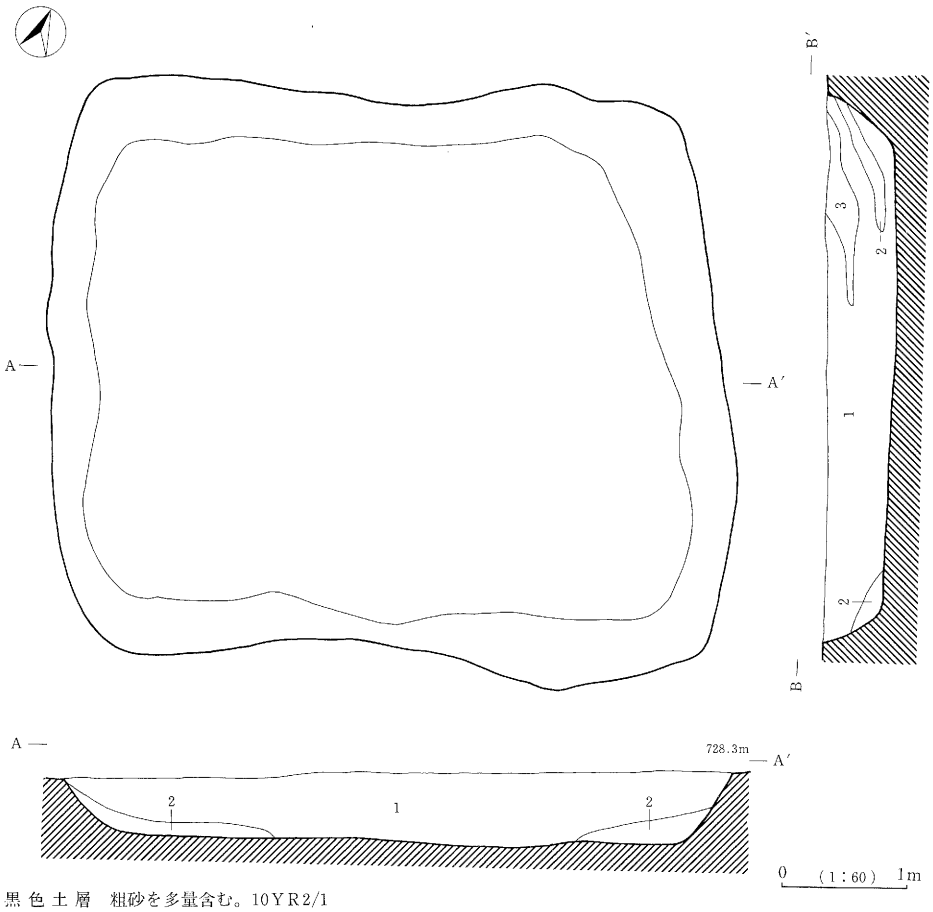
1　黒褐色土層　ローム粒子微量含む。10YR2/3
2　褐色土層　ローム粒子少量含む。10YR4/6

第337図　D94号土坑実測図



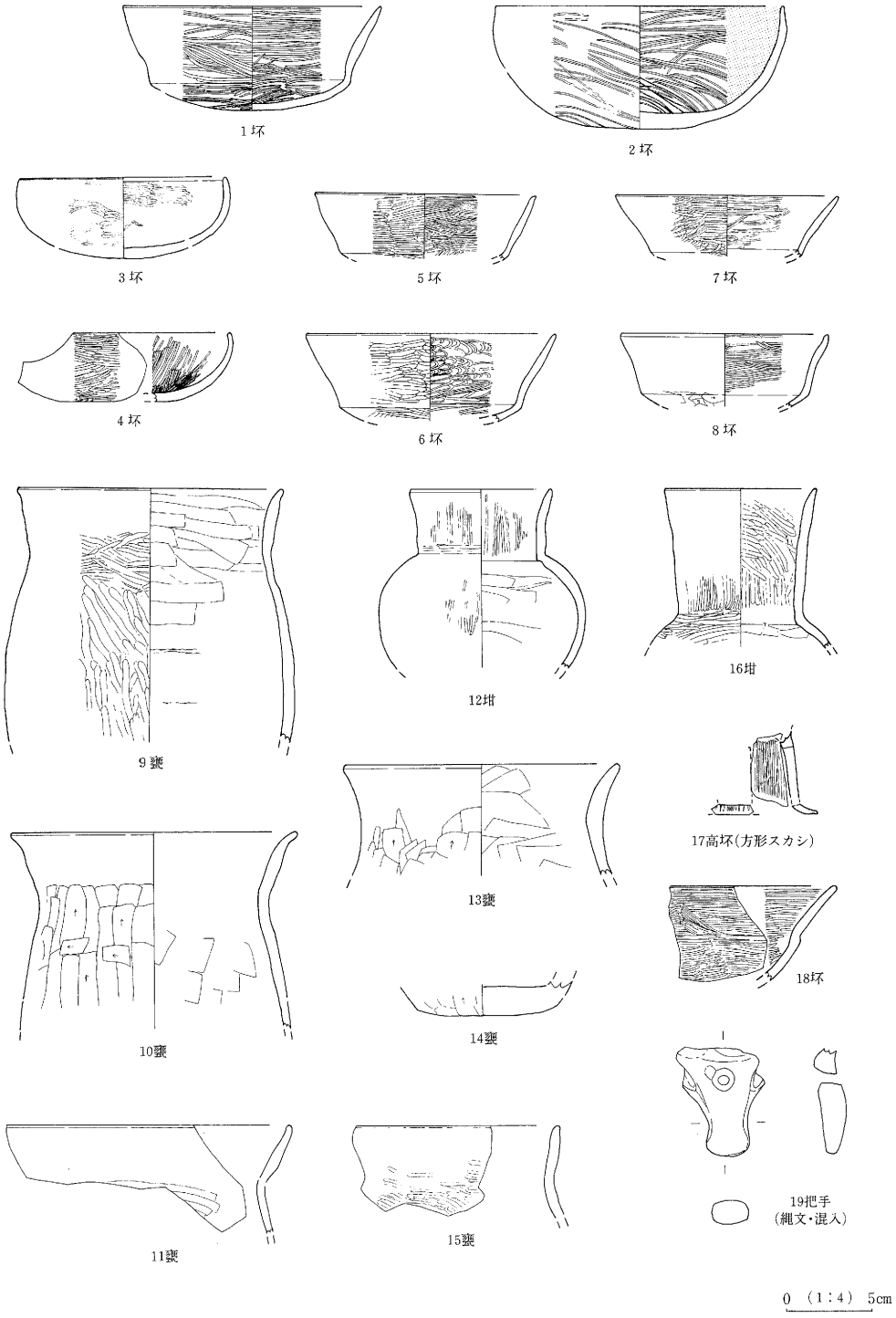
1　黒褐色土層　ローム粒子微量含む。10YR2/3

第338図　D95号土坑実測図

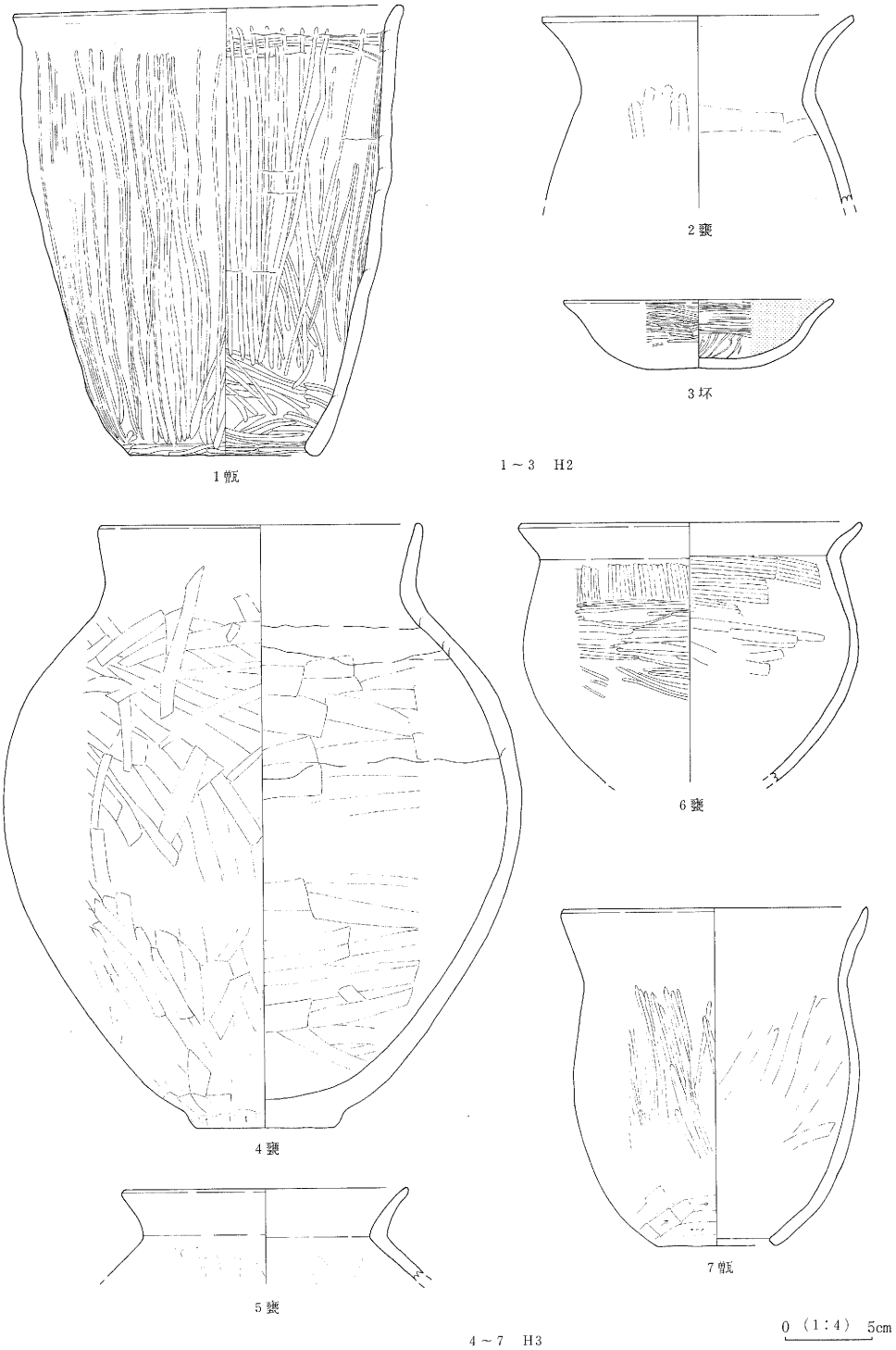


1　黒色土層　粗砂を多量含む。10YR2/1
2　黒色土層　粗砂を少量含む。10YR1.7/1
3　黒褐色土層　粗砂を多量含む。10YR3/1

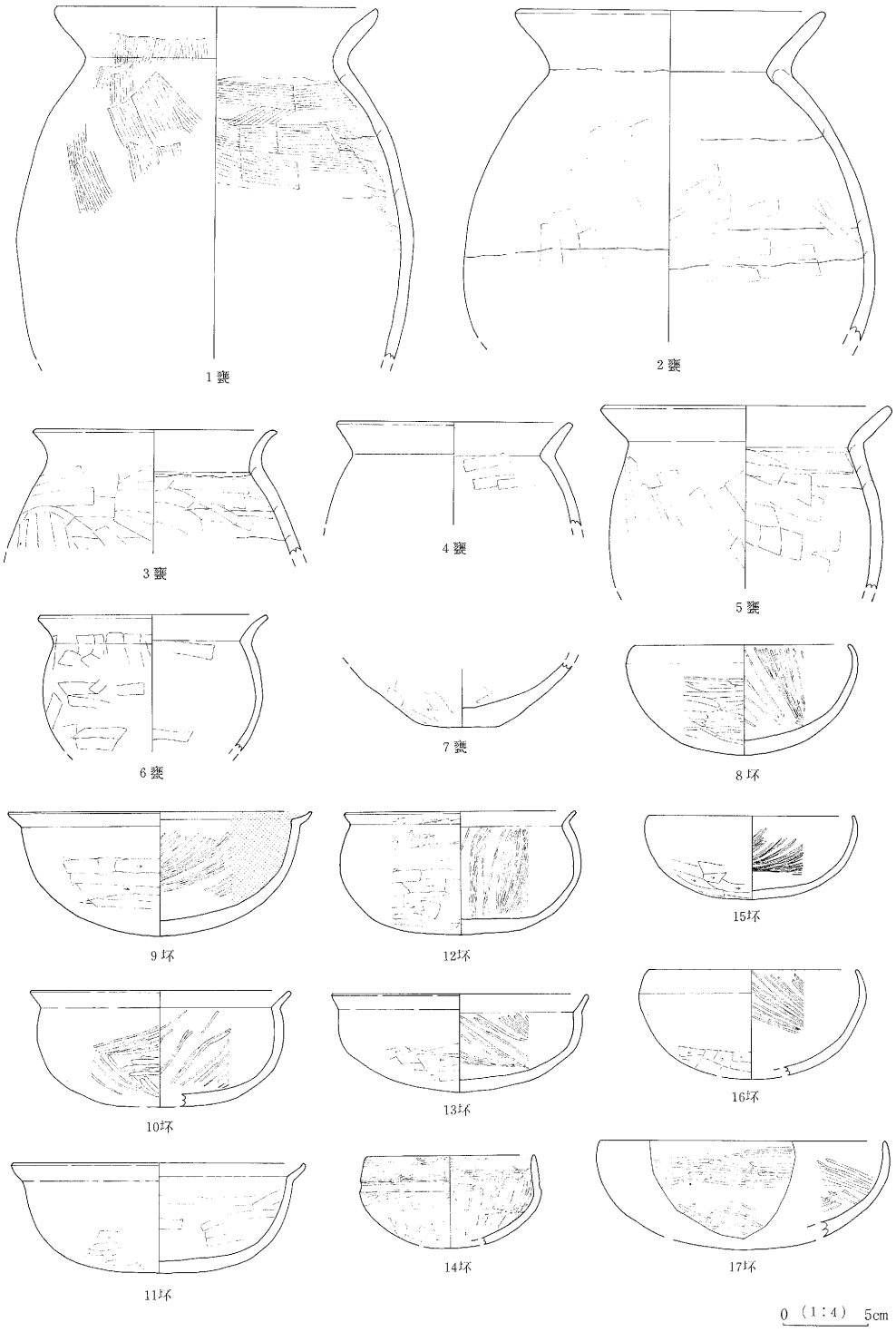
第339図　D97号土坑実測図



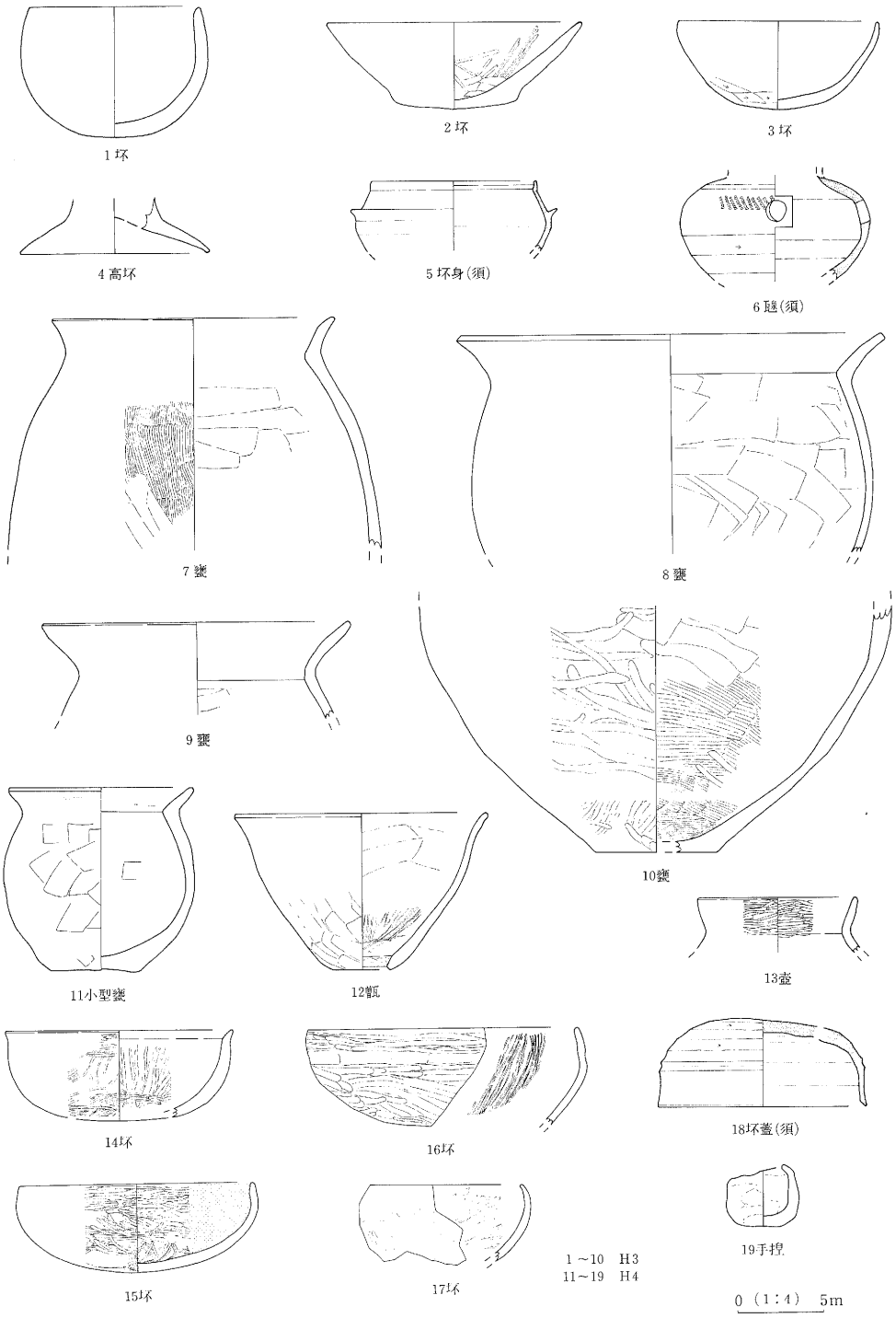
第340図　H１号住居址出土遺物実測図



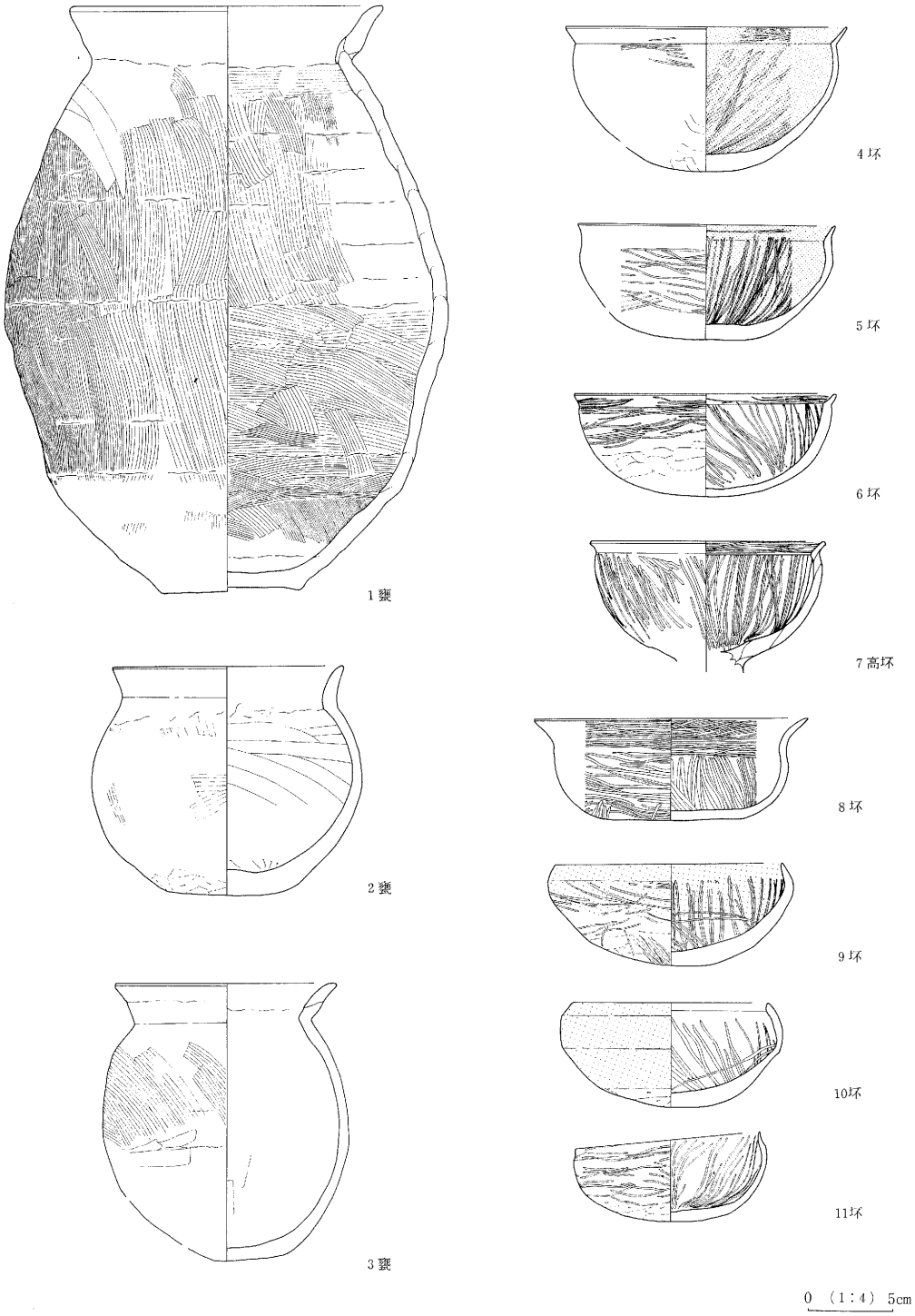
第341図　H2・3号住居址出土遺物実測図



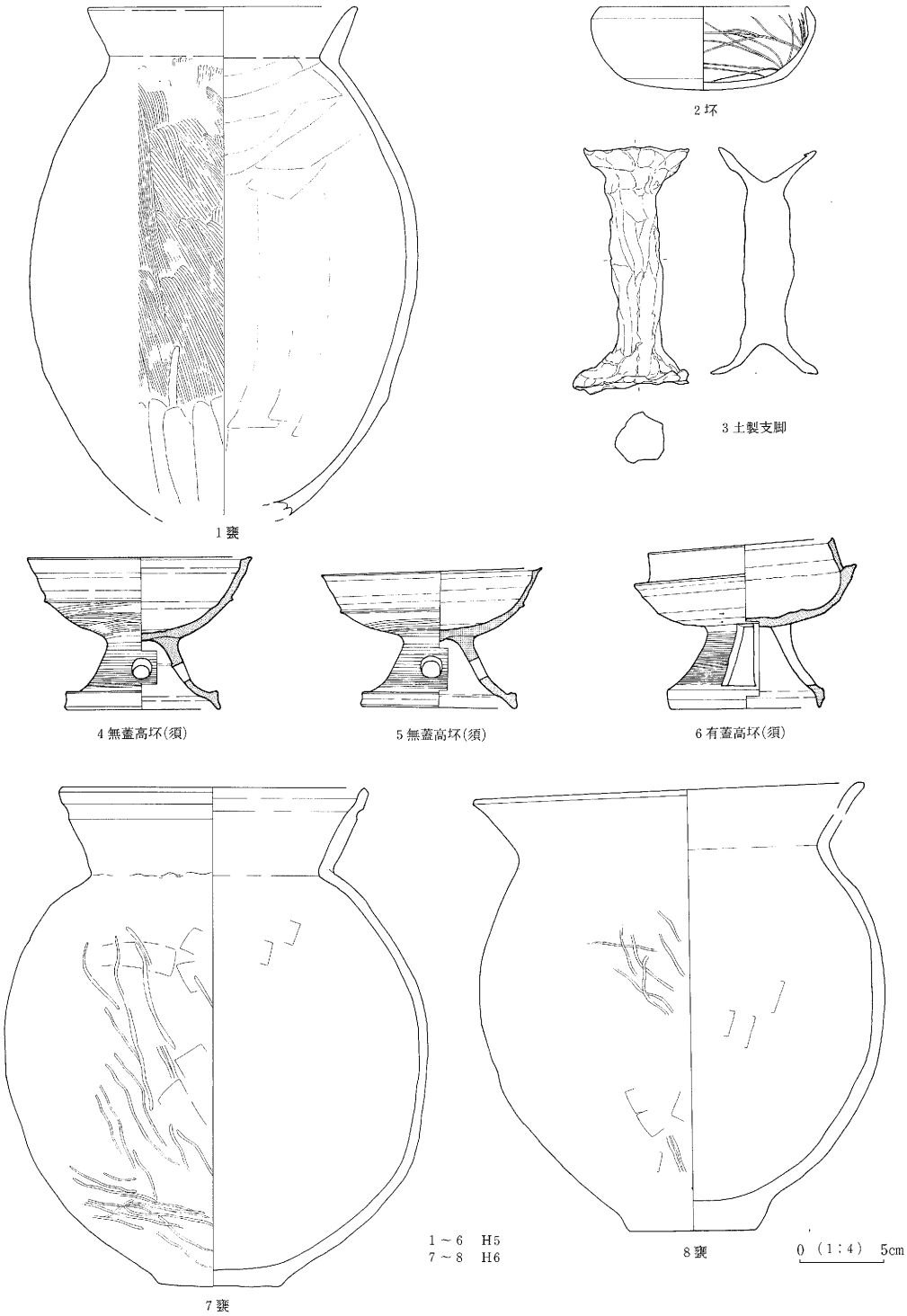
第342図　H 3 号住居址出土遺物実測図



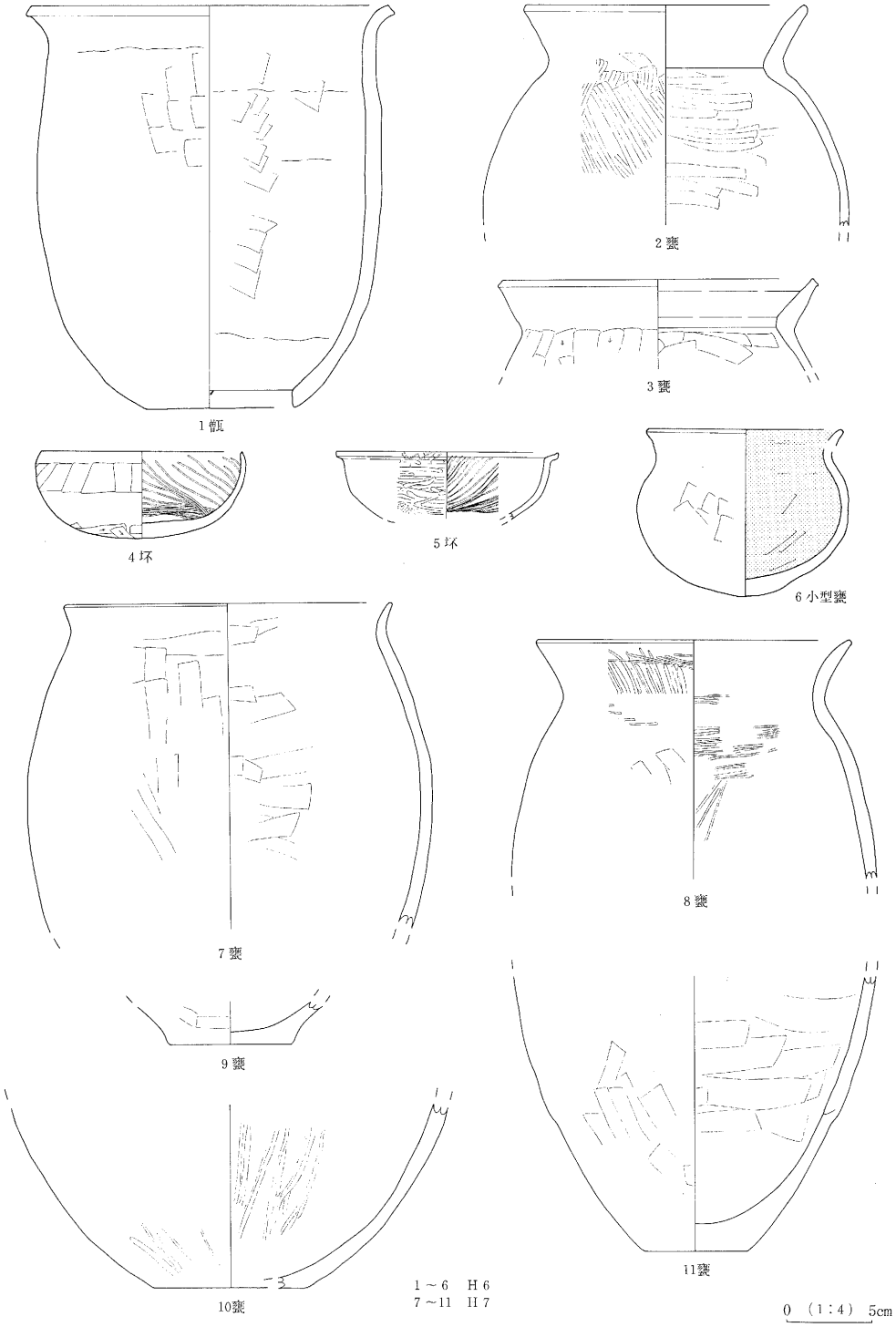
第343図　H 3・4号住居址出土遺物実測図



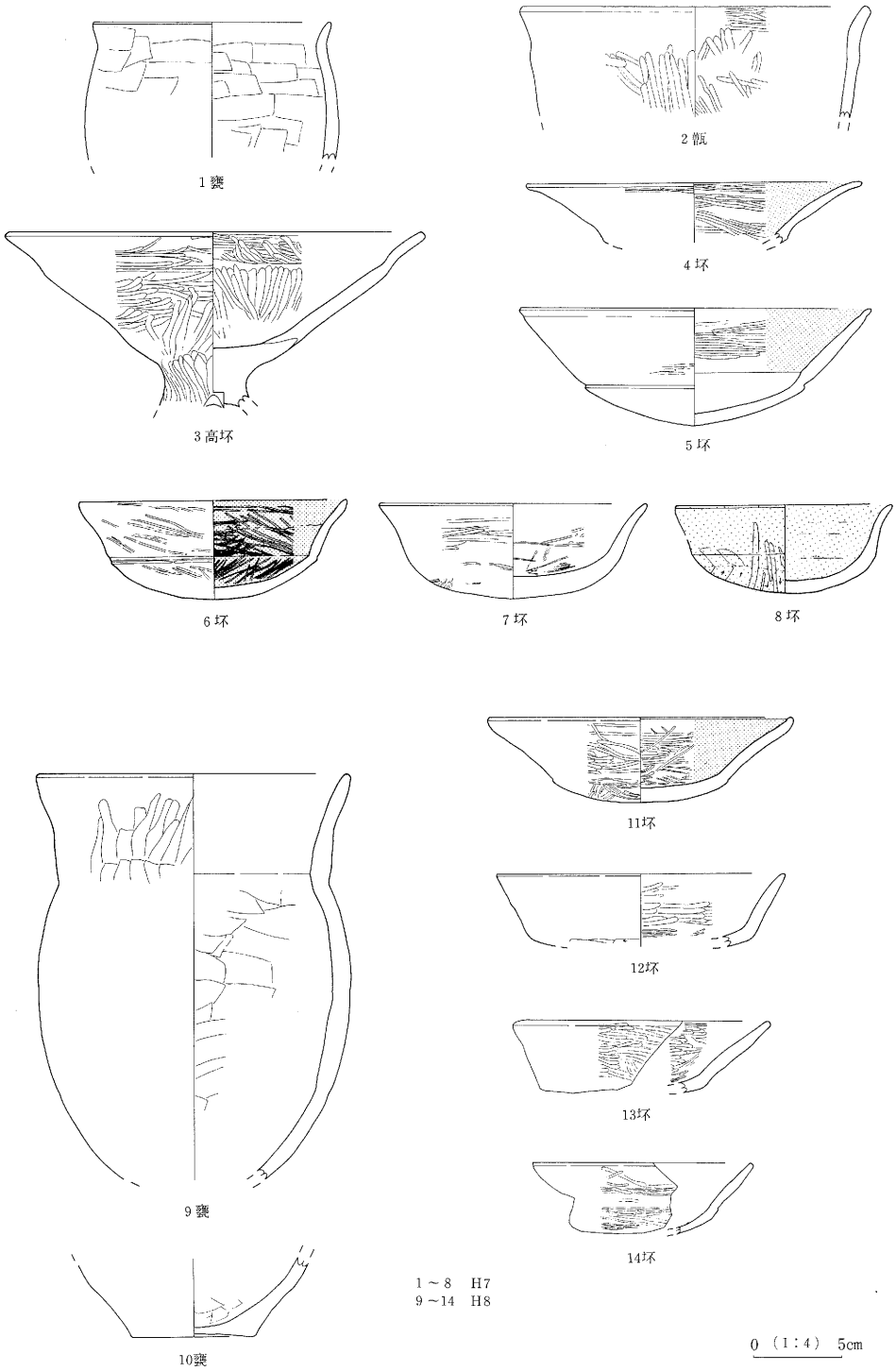
第344図　H５号住居址出土遺物実測図



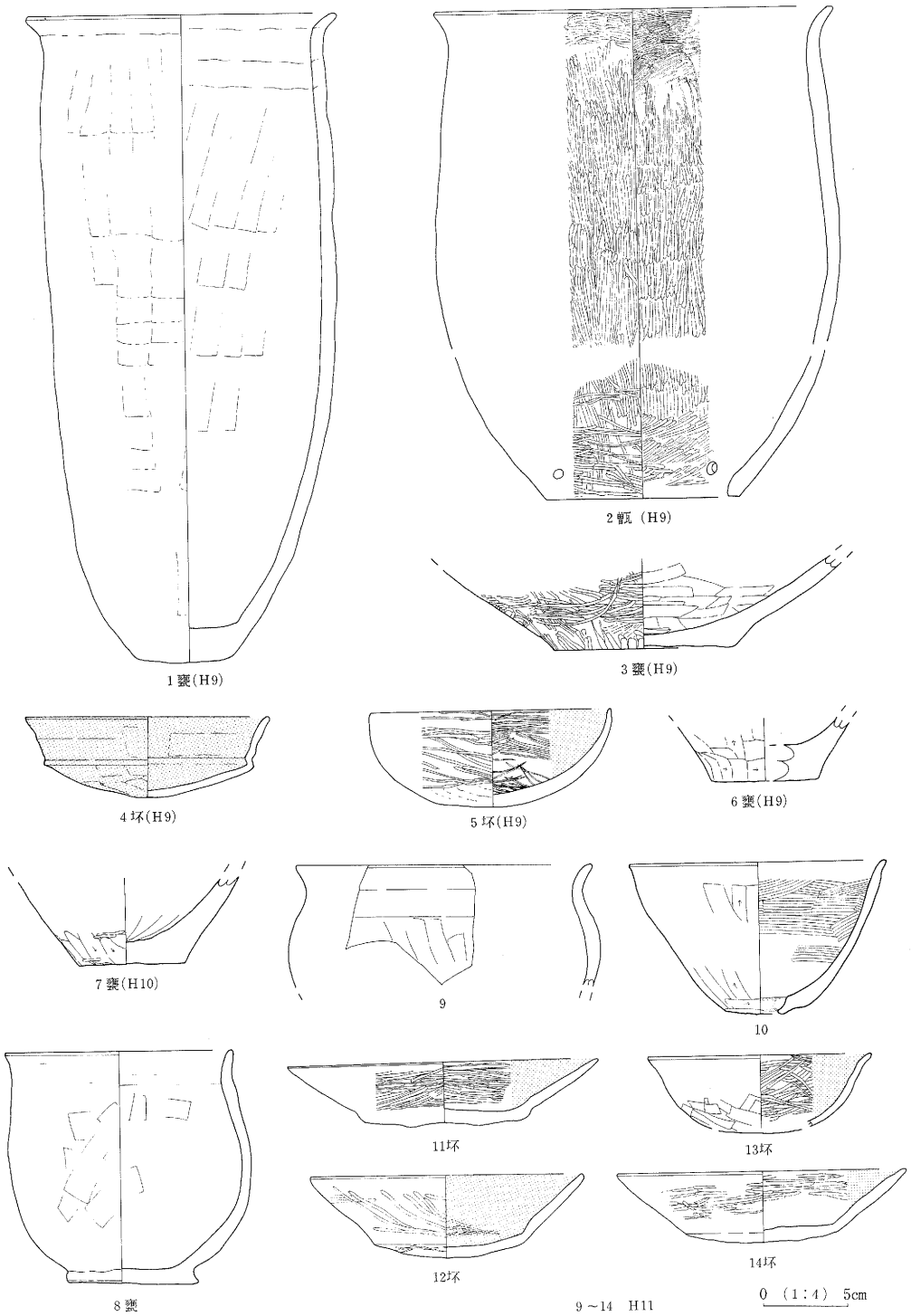
第345図　H５・６号住居址出土遺物実測図



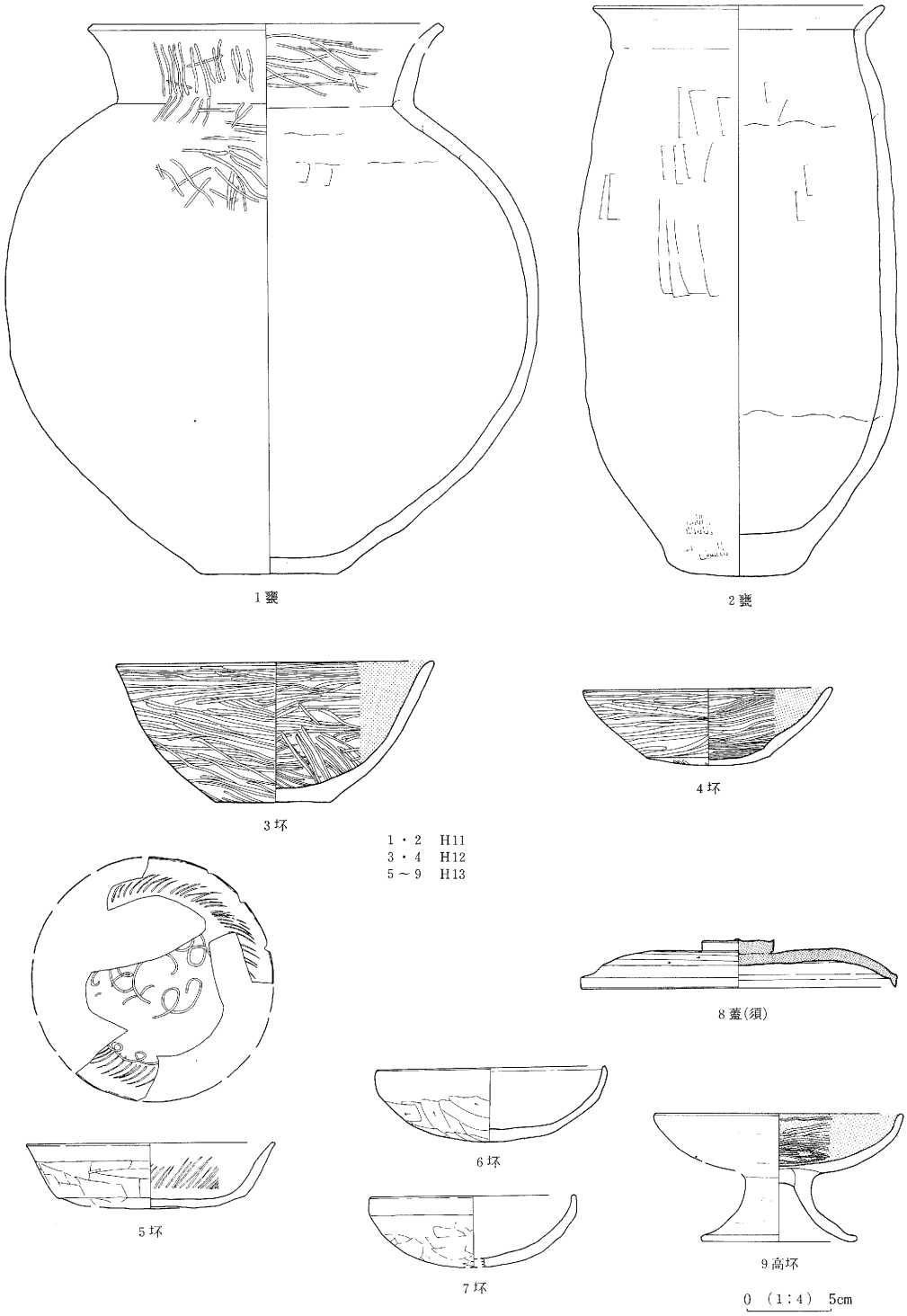
第346図　H 6・7号住居址出土遺物実測図



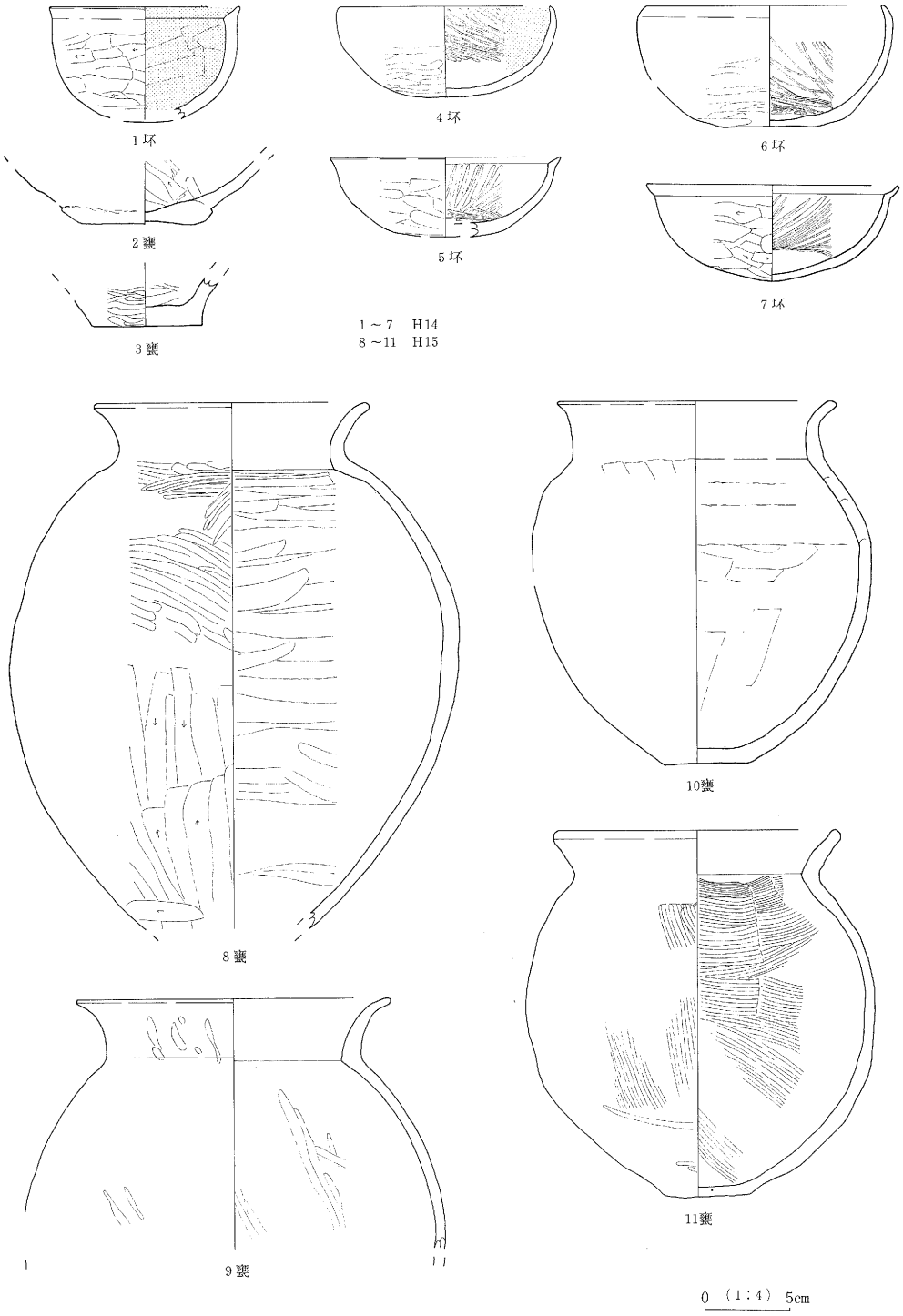
第347図　H７・８号住居址出土遺物実測図



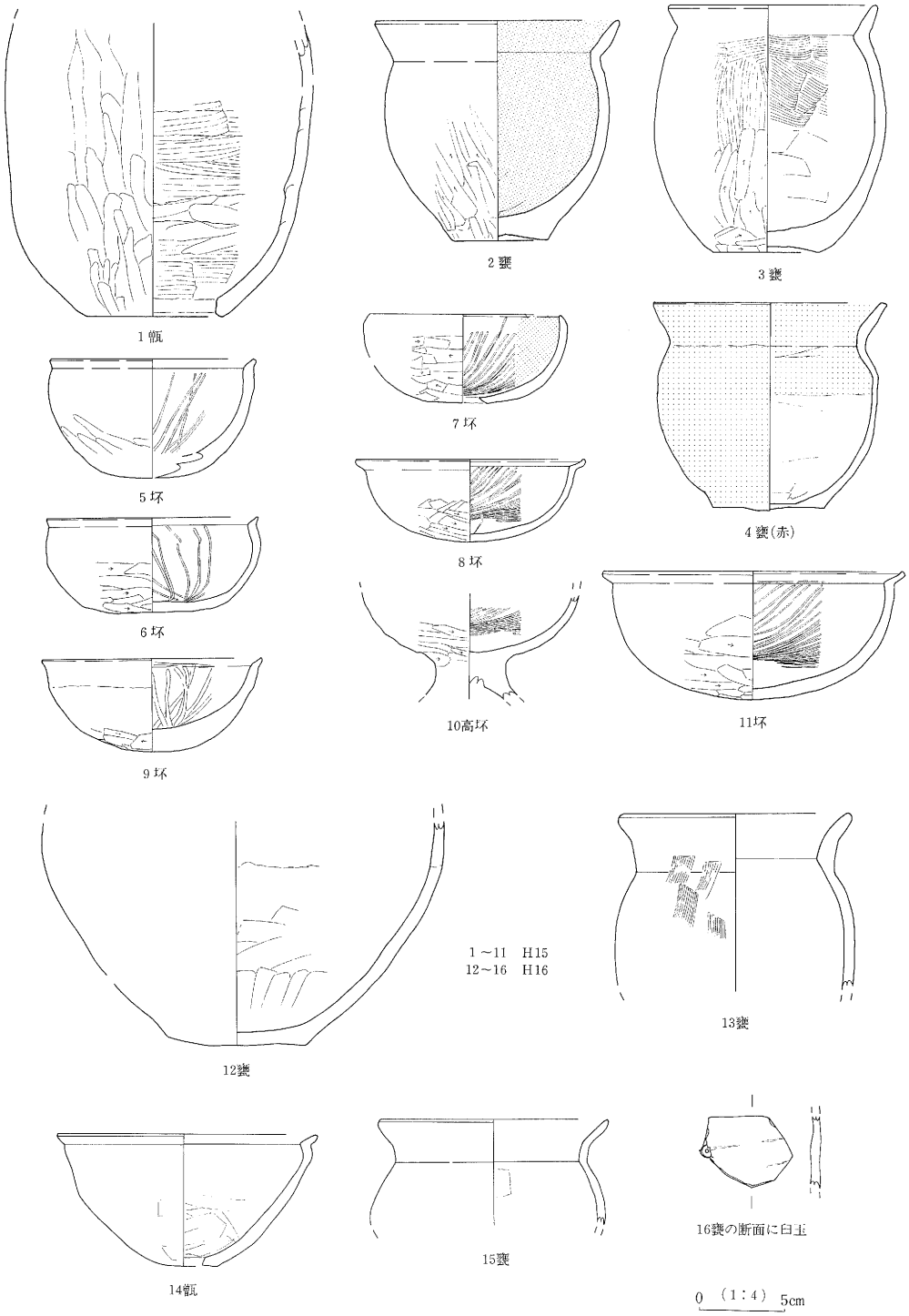
第348図 H 9 ・10・11号住居址出土遺物実測図



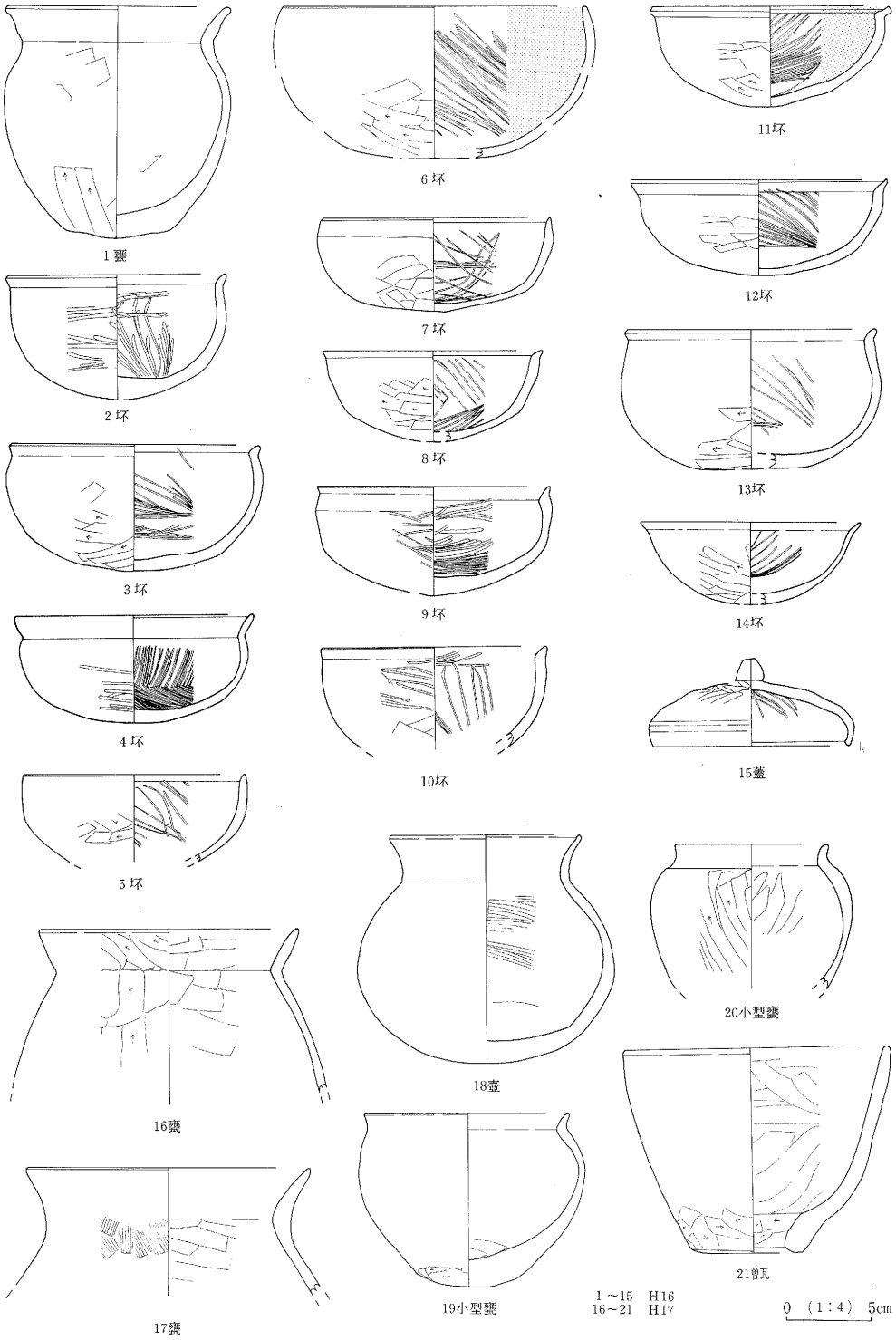
第349図　H11・12・13号住居址出土遺物実測図



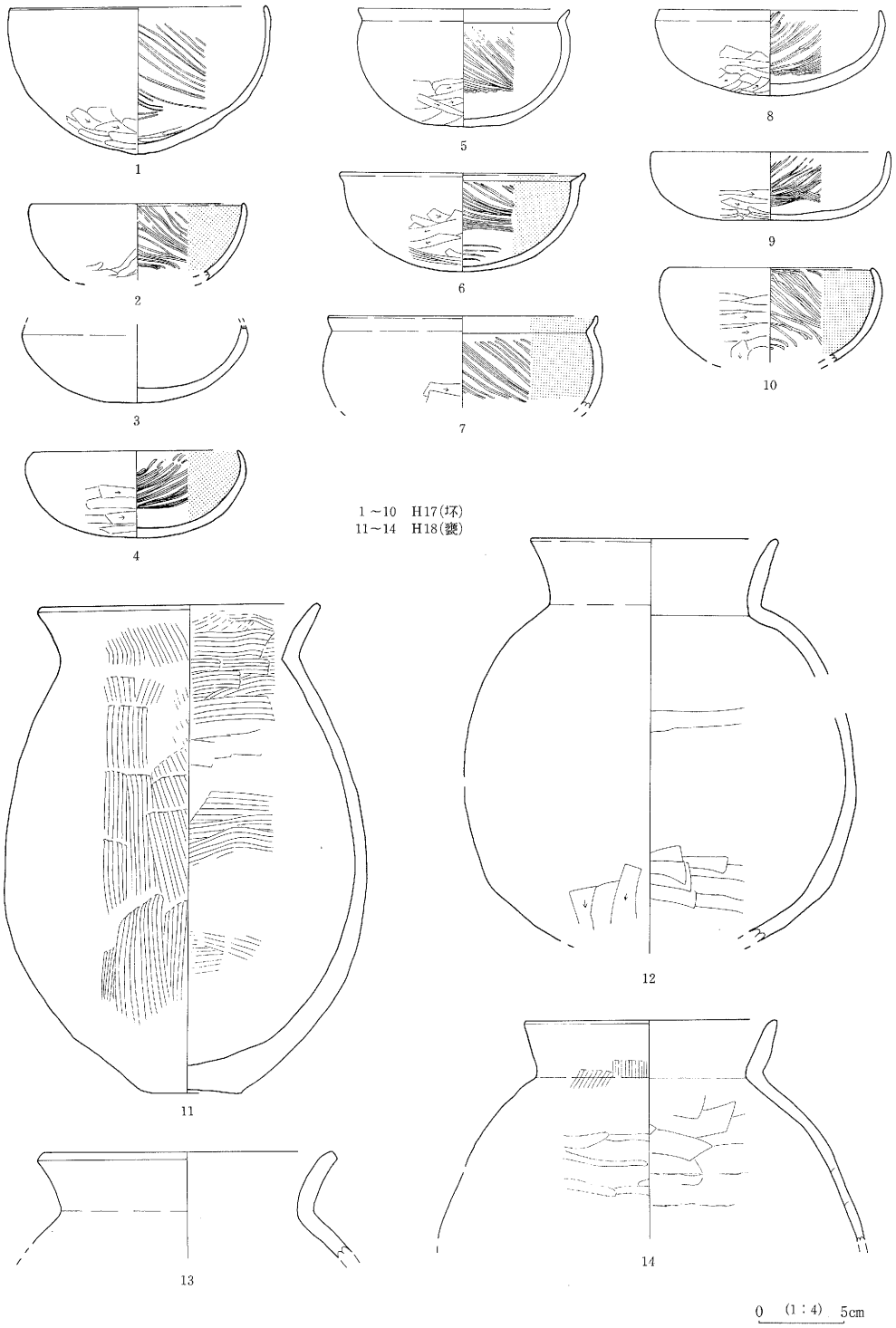
第350図　H14・15号住居址出土遺物実測図



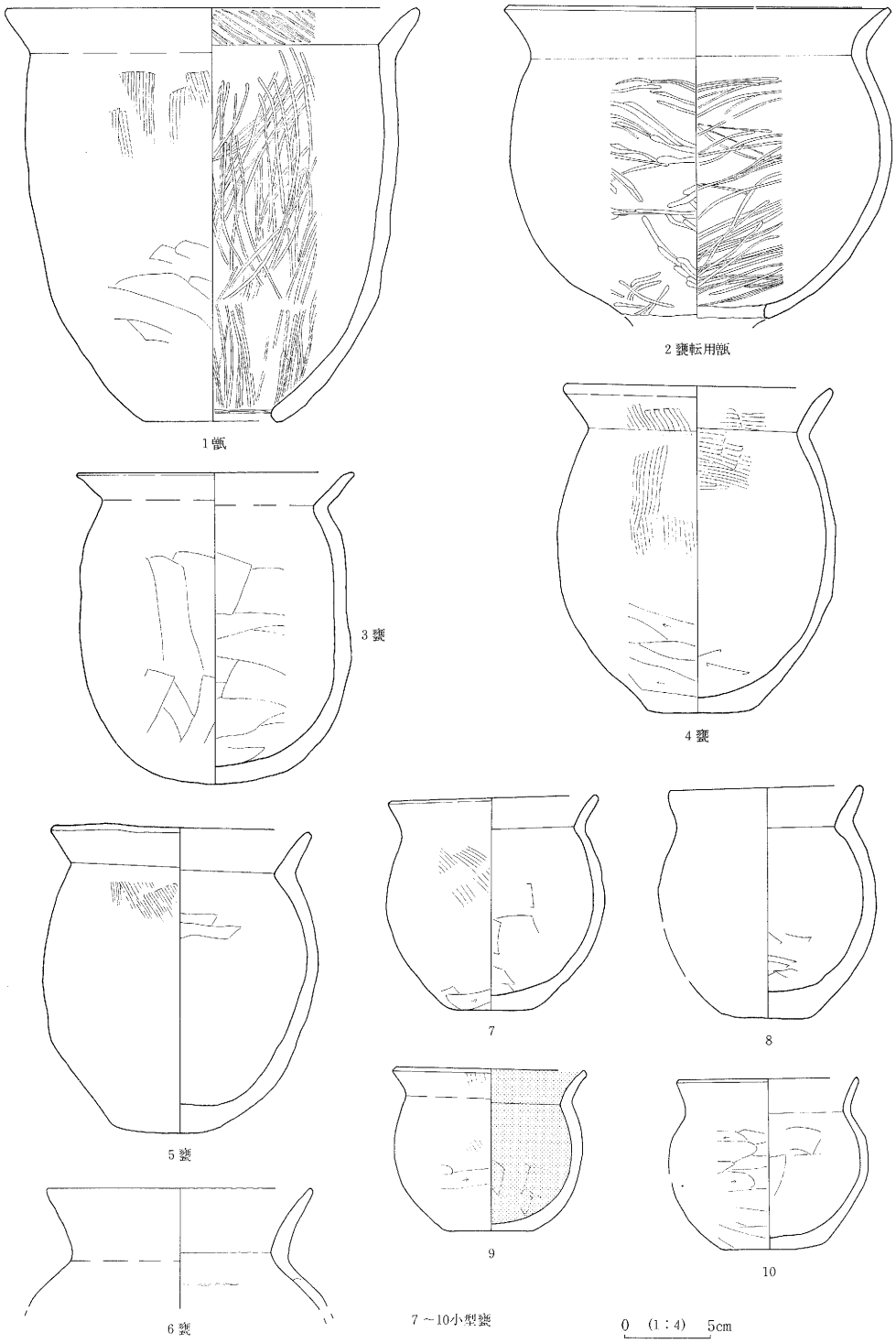
第351図　H15・16号住居址出土遺物実測図



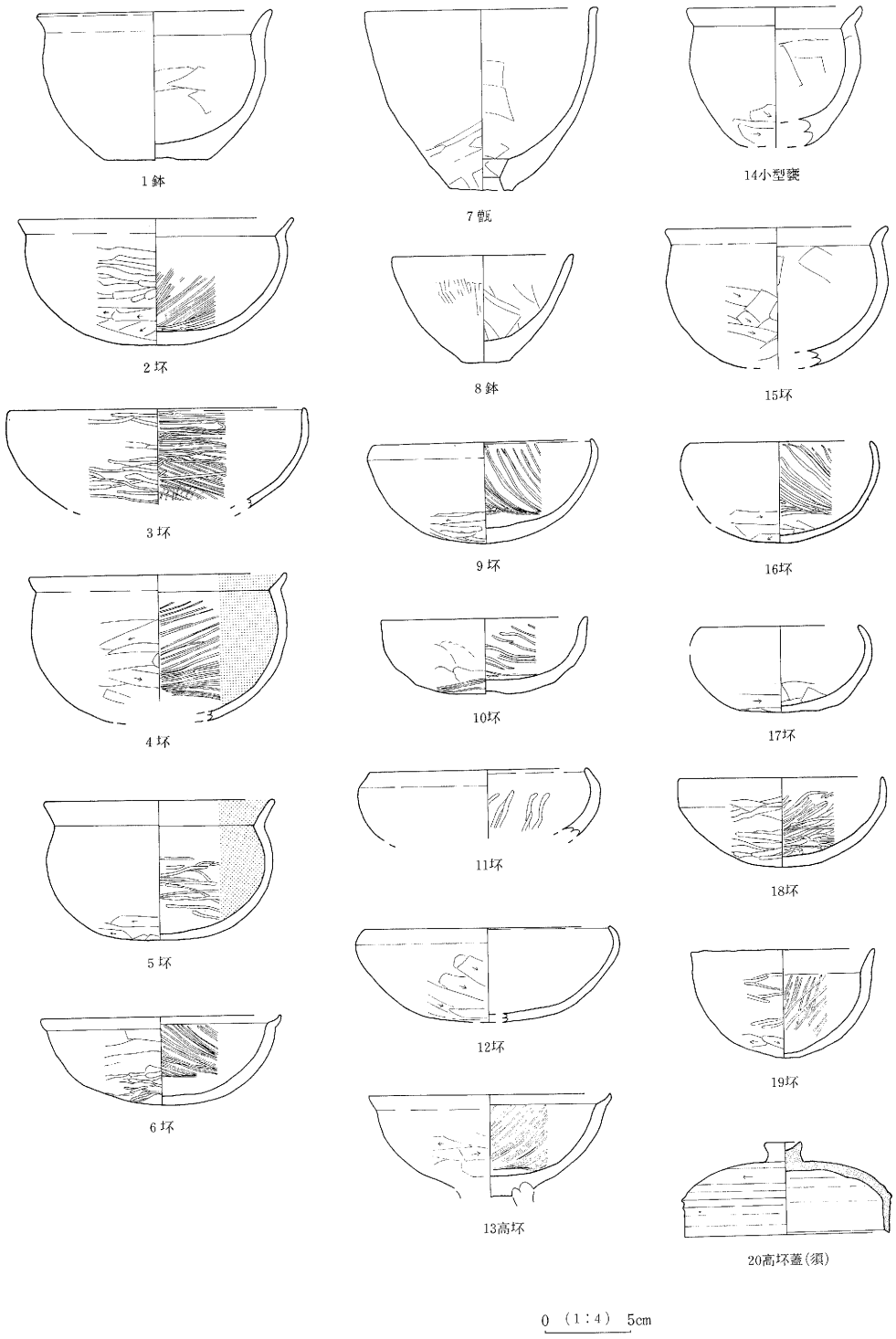
第352図　H16・17号住居址出土遺物実測図



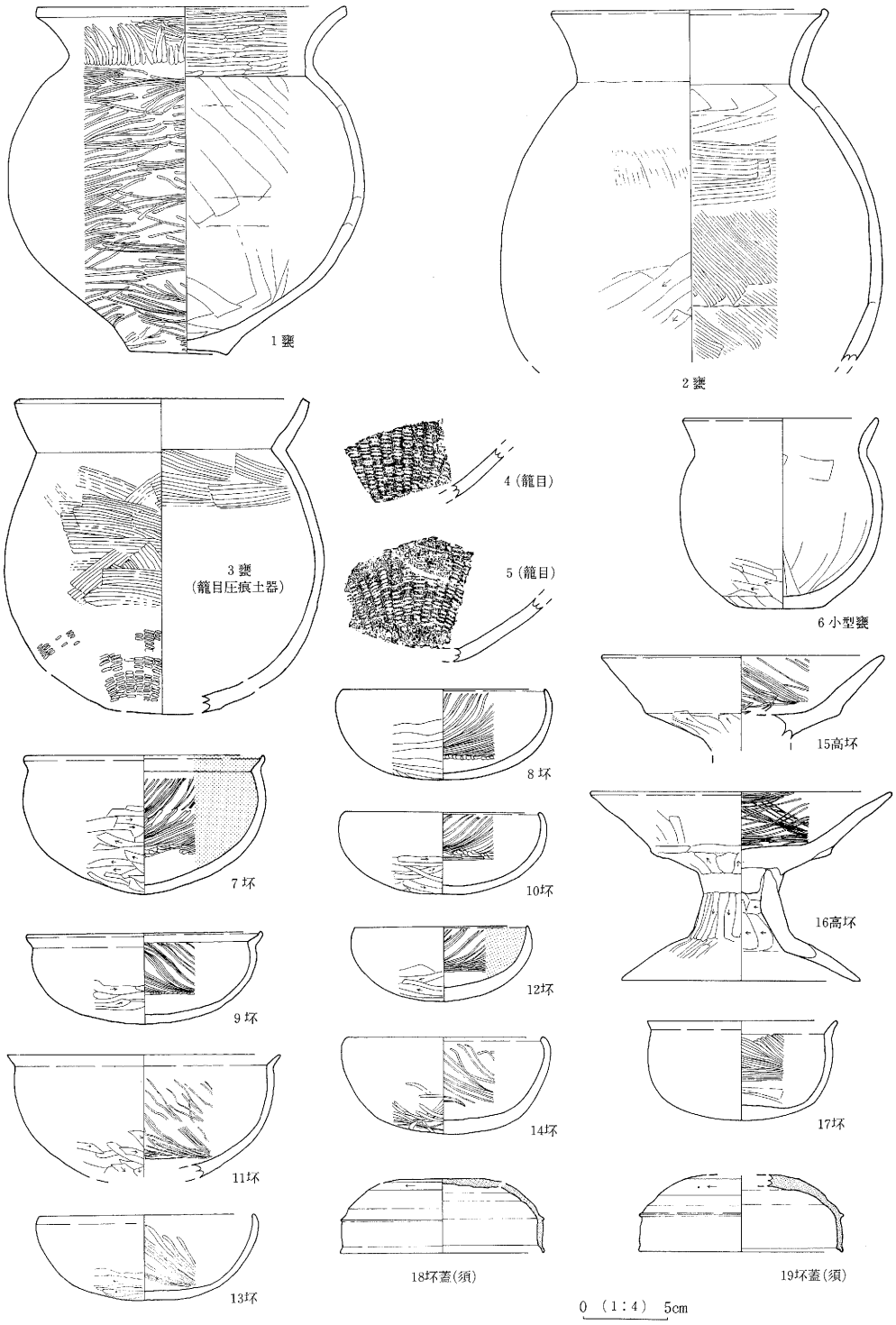
第353図　H17・18号住居址出土遺物実測図



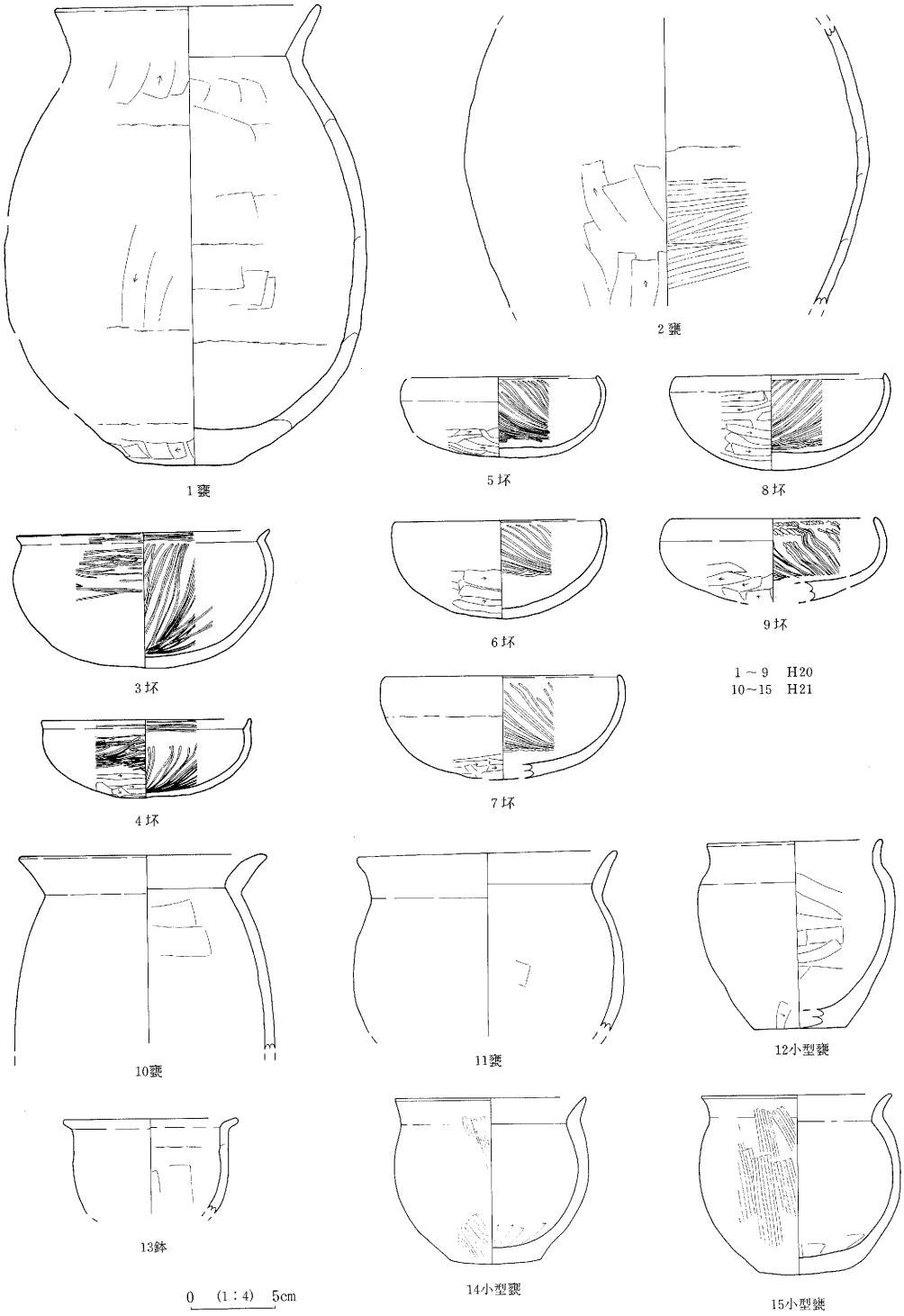
第354図　H18号住居址出土遺物実測図



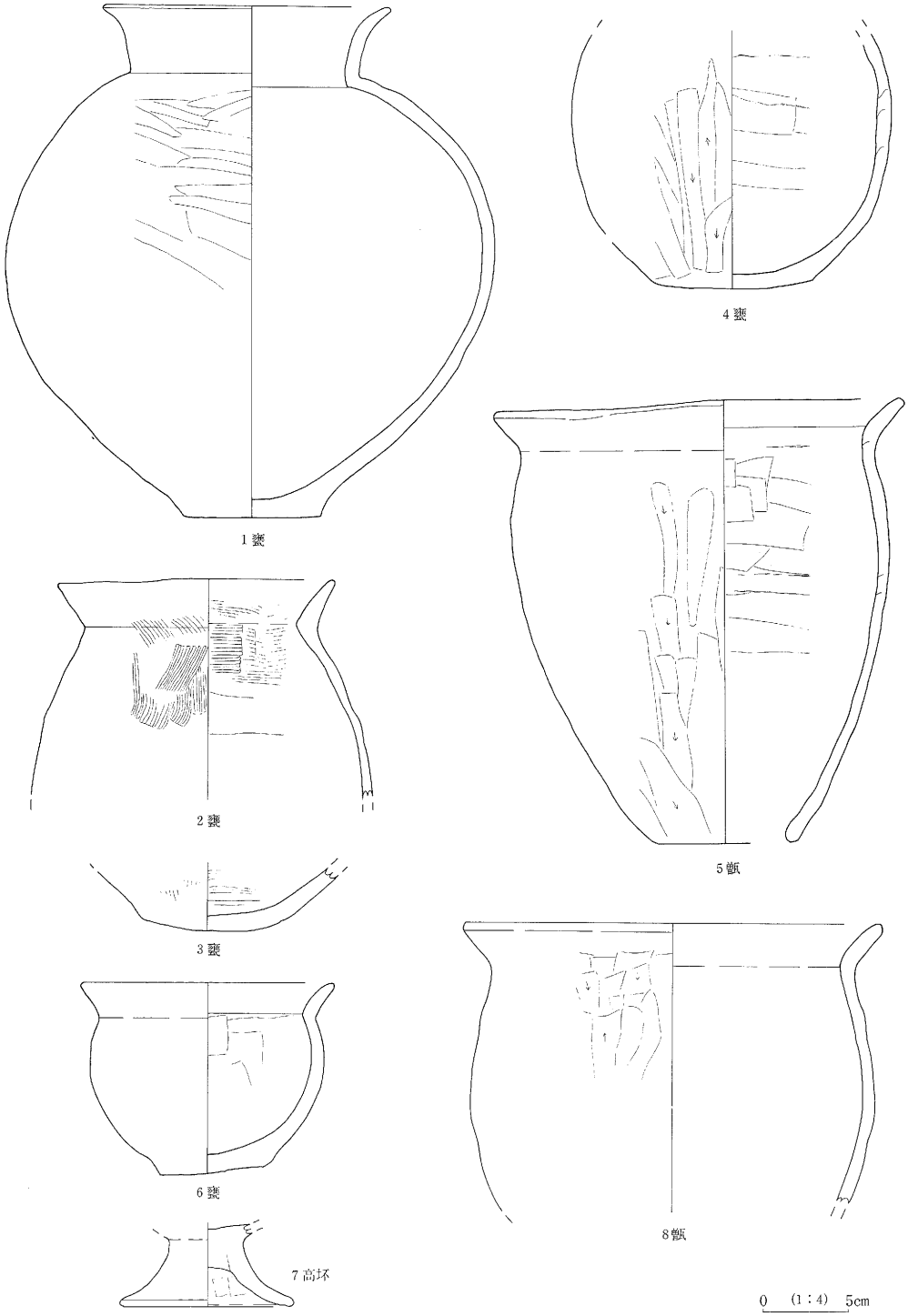
第355図　H18号住居址出土遺物実測図



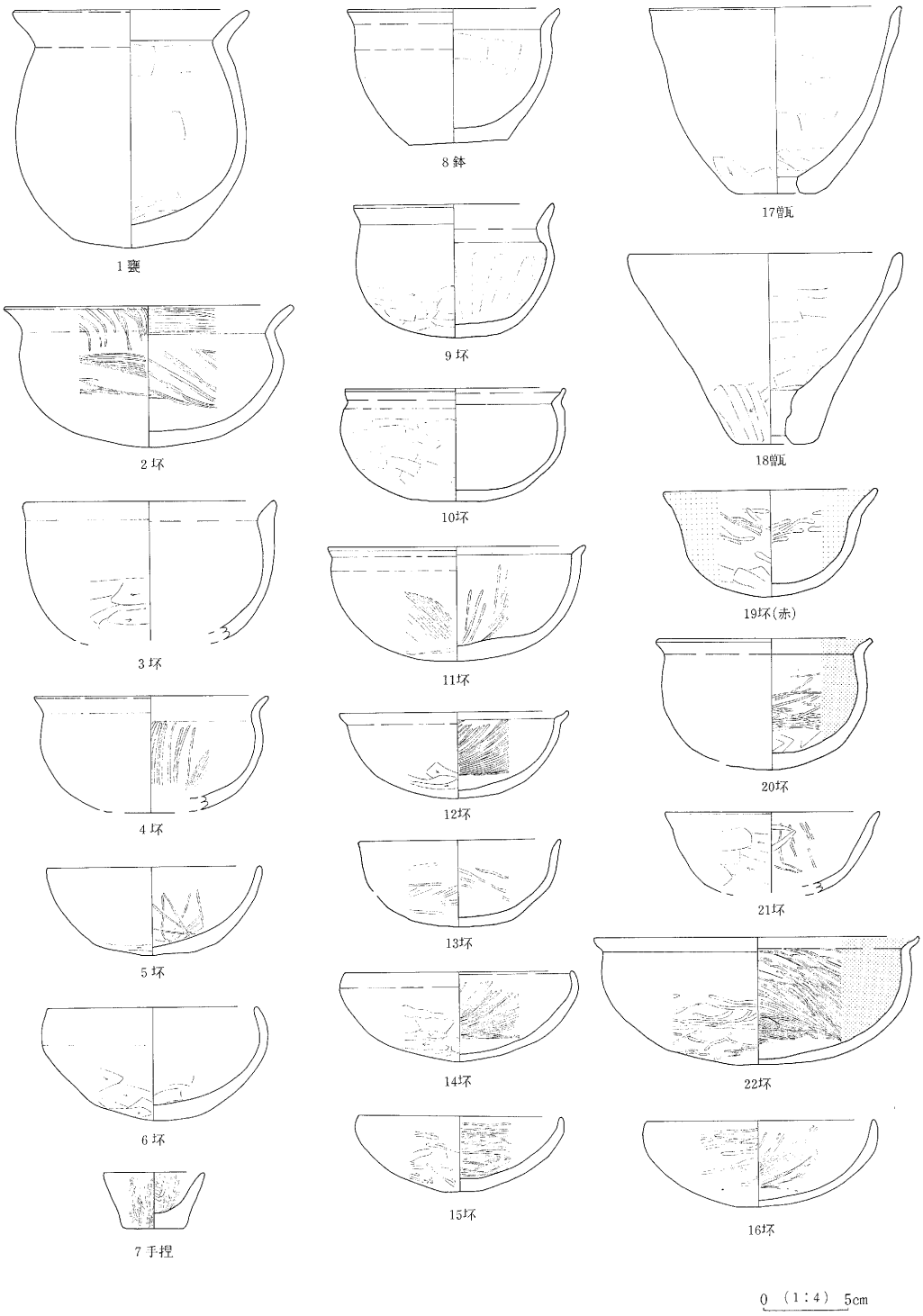
第356図　H19号住居址出土遺物実測図



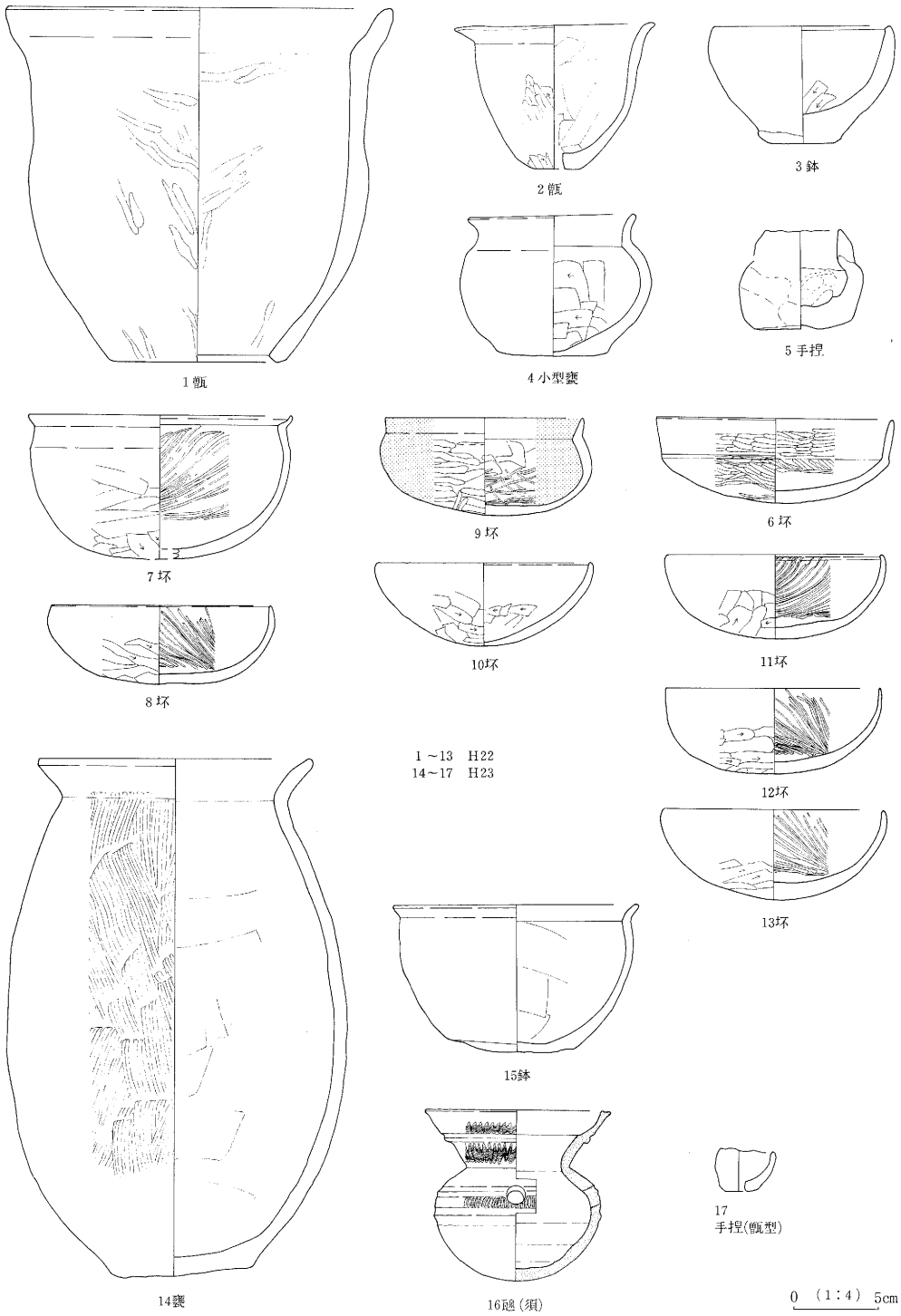
第357図　H20・21号住居址出土遺物実測図



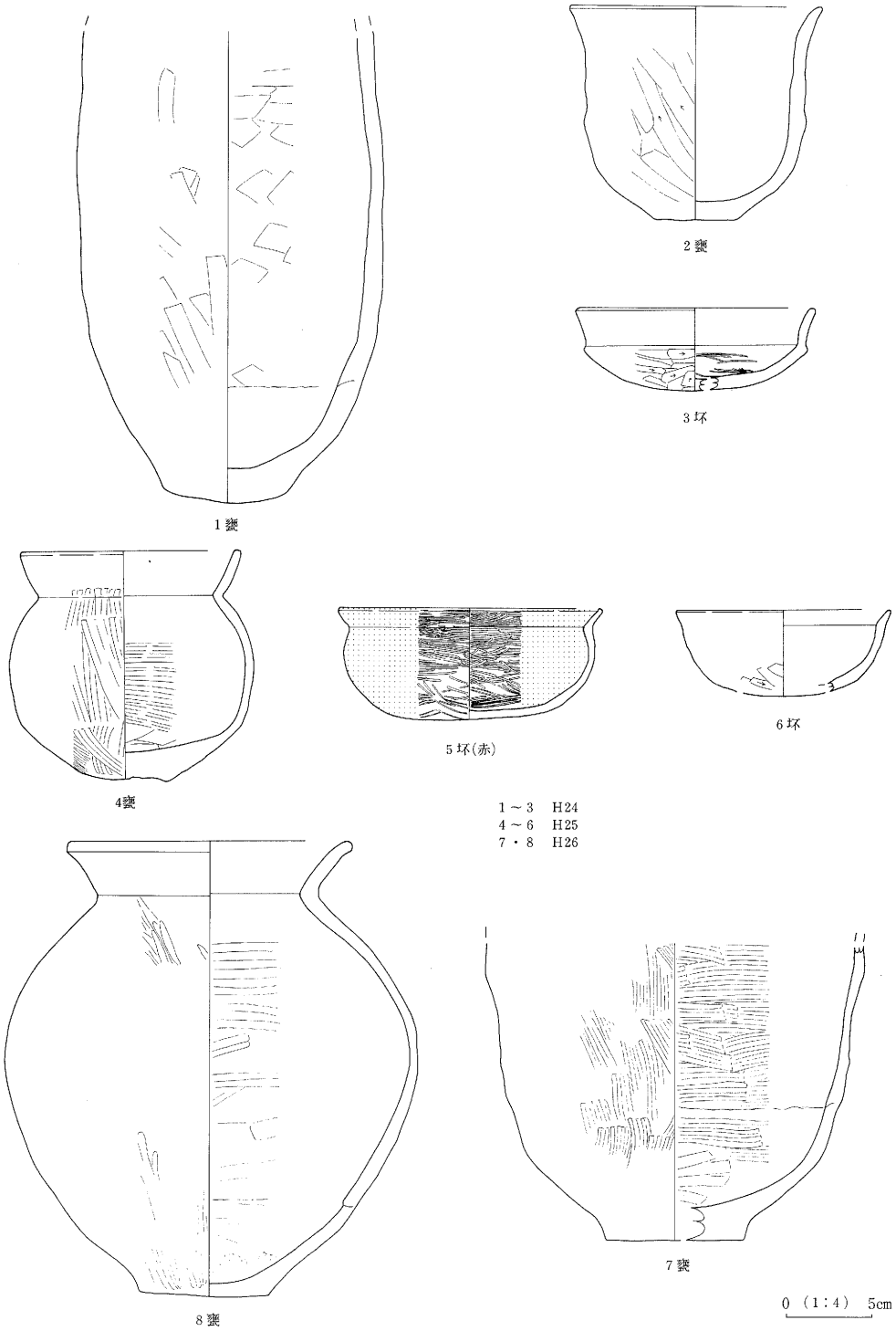
第358図　H21号住居址出土遺物実測図



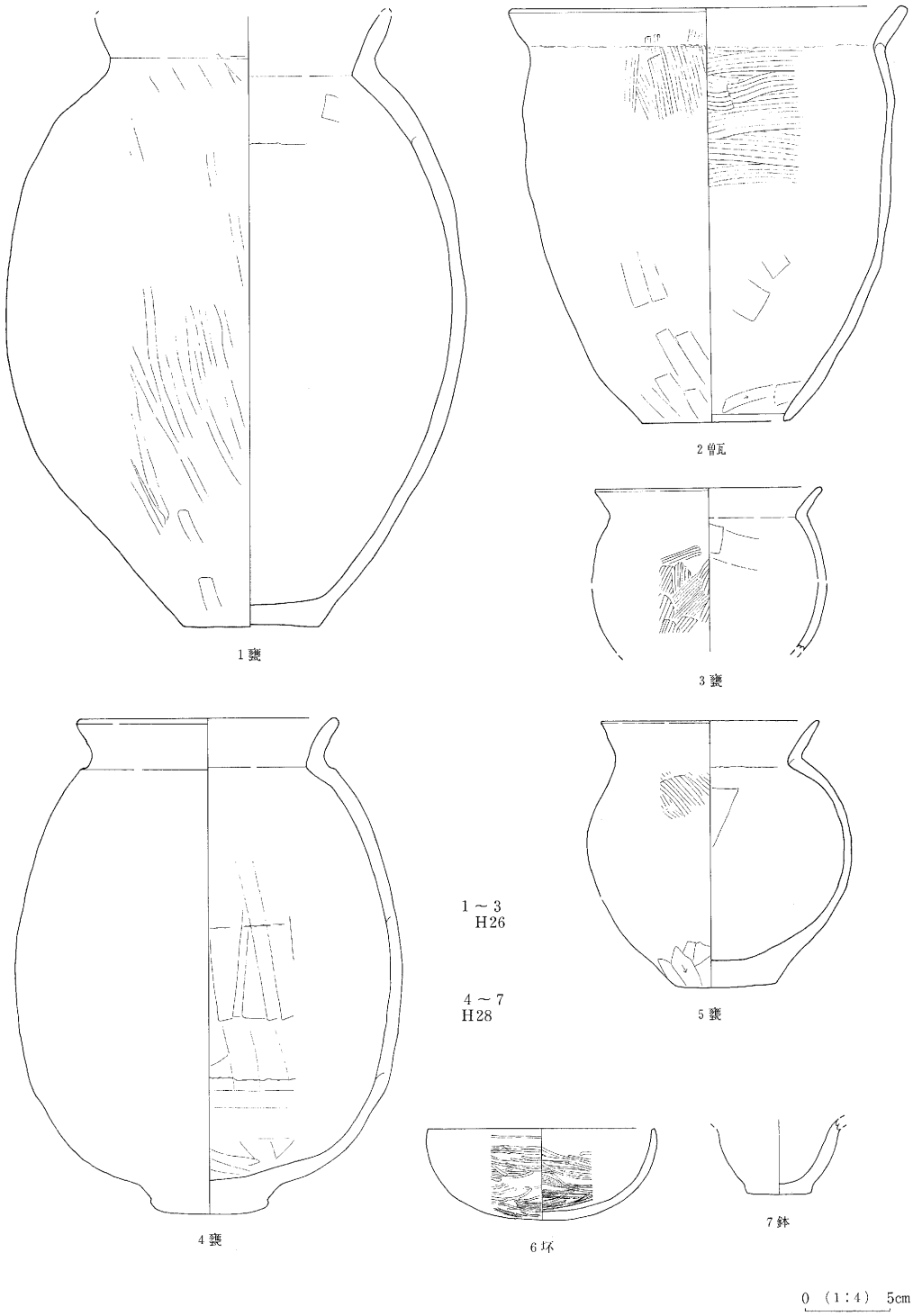
第359図　H21号住居址出土遺物実測図



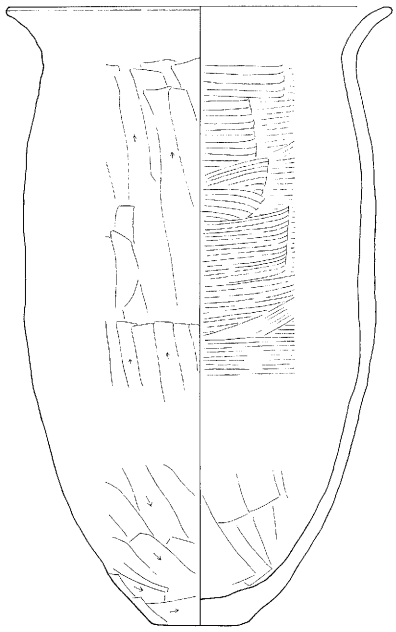
第360図　H22・23号住居址出土遺物実測図



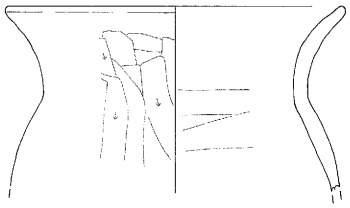
第361図　H24・25・26号住居址出土遺物実測図



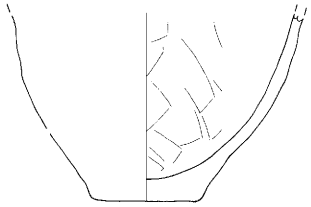
第362図　H26・28号住居址出土遺物実測図



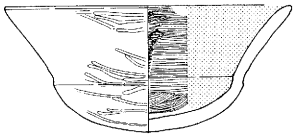
1 甕



2 甕

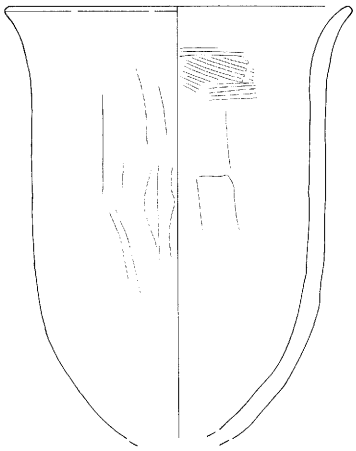


3 甕

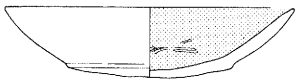


4 坏

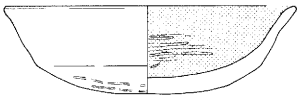
1～4　H29
5～8　H31



5 甕



6 坏

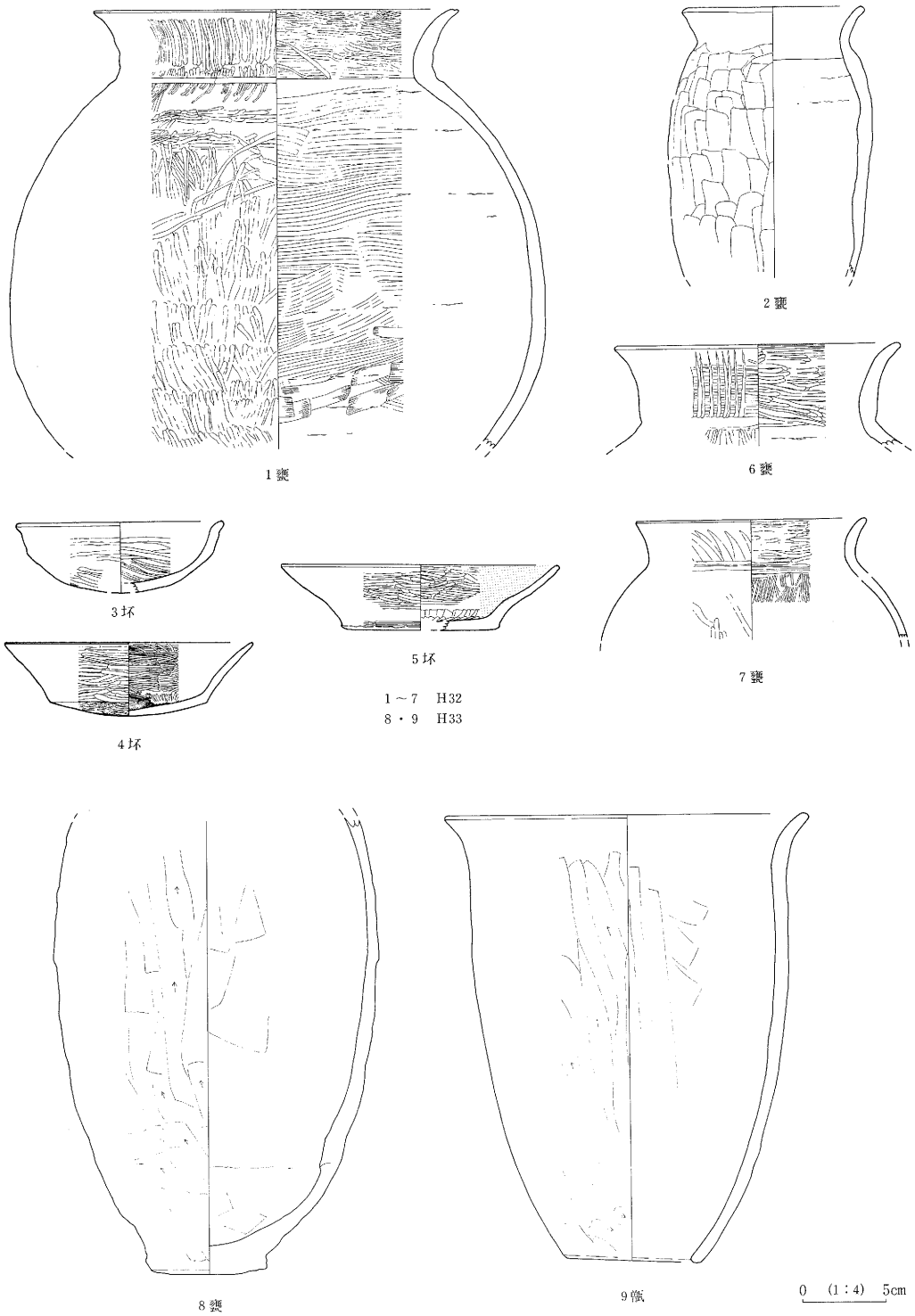


7 坏

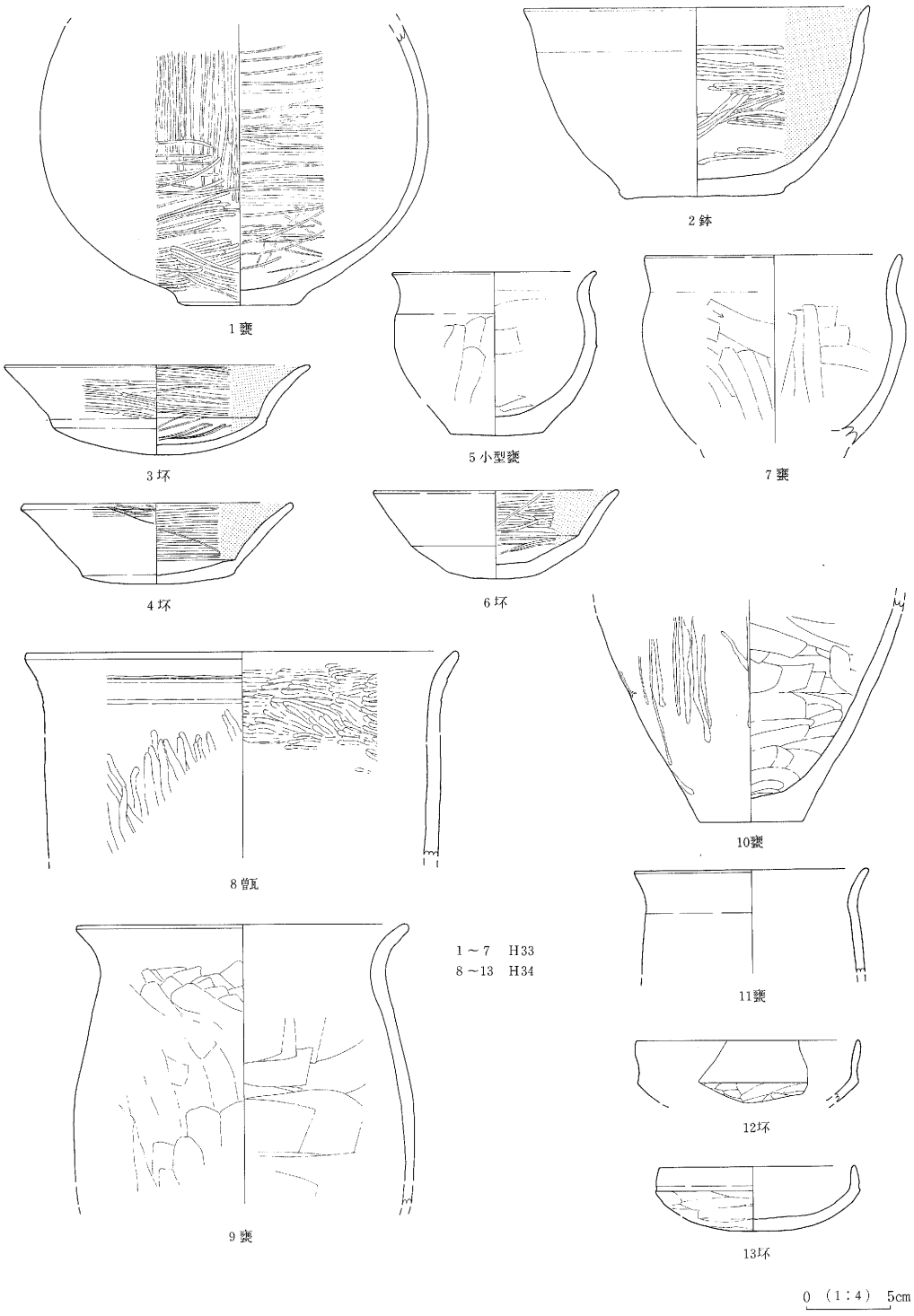
8 坏

0 (1:4) 5cm

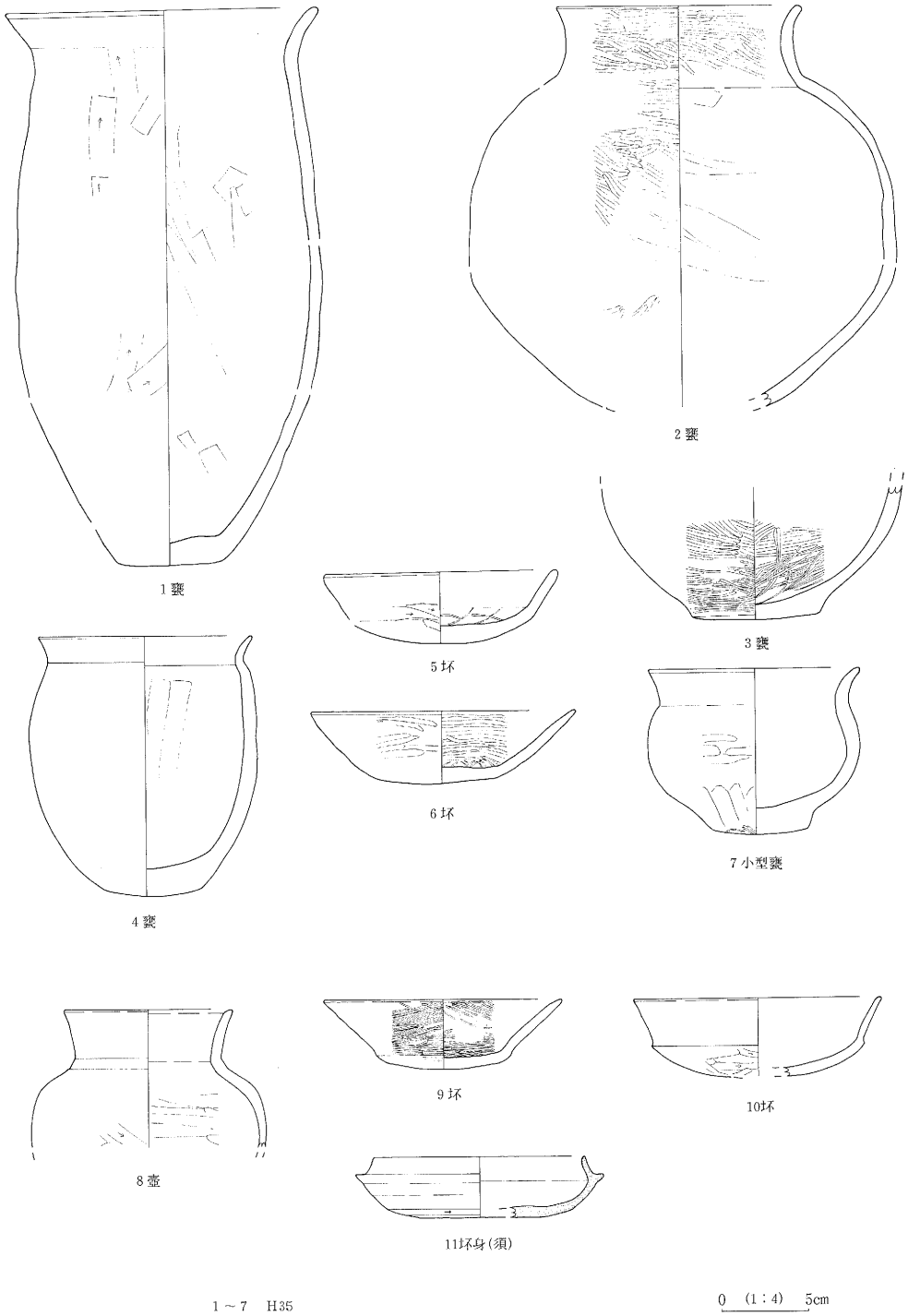
第363図　H29・31号住居址出土遺物実測図



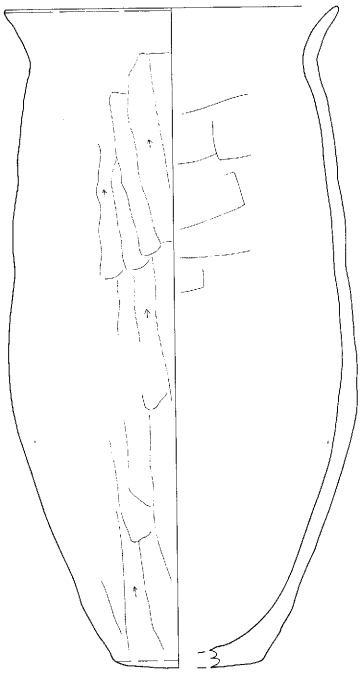
第364図　H32・33号住居址出土遺物実測図



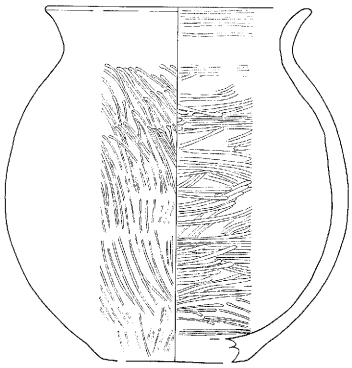
第365図　H33・34号住居址出土遺物実測図



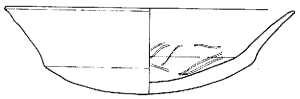
第366図　H35・36号住居址出土遺物実測図



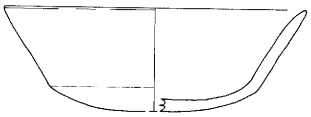
1 甕H36



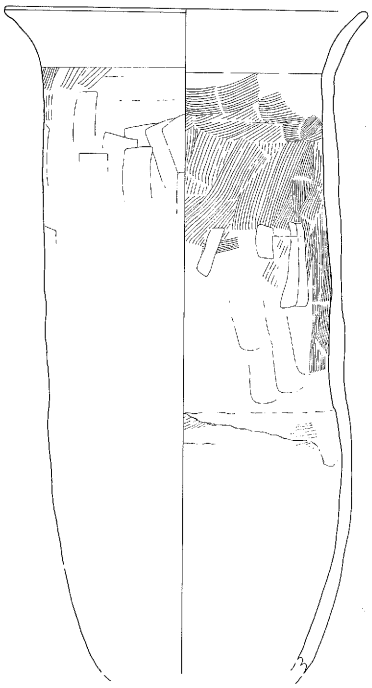
2 甕H36



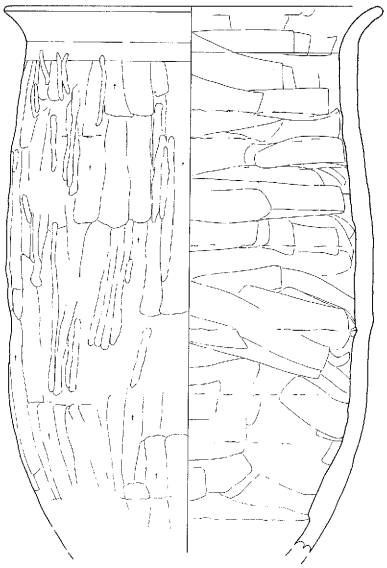
3 坏H36



4 坏H36



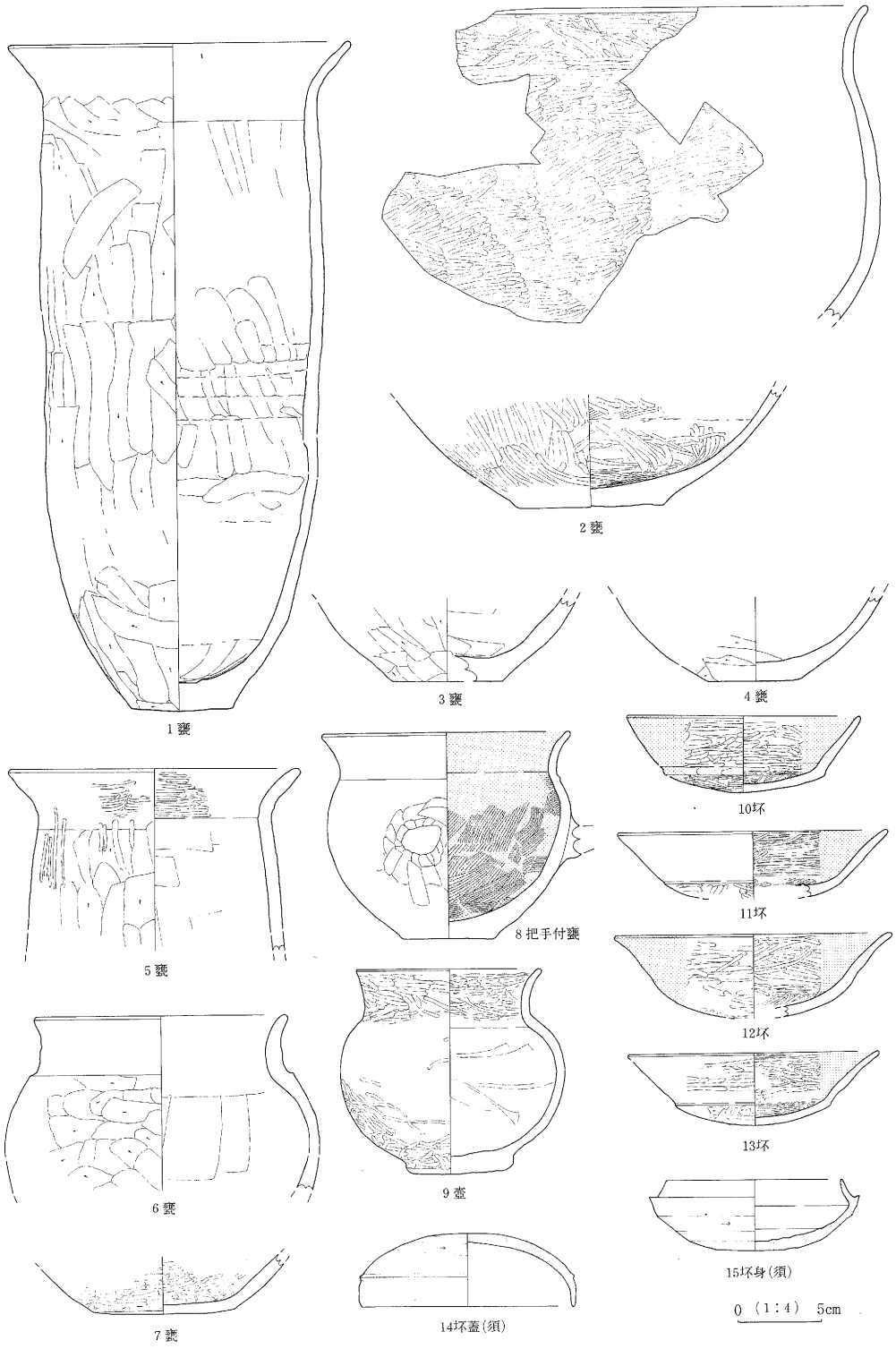
5甕H37



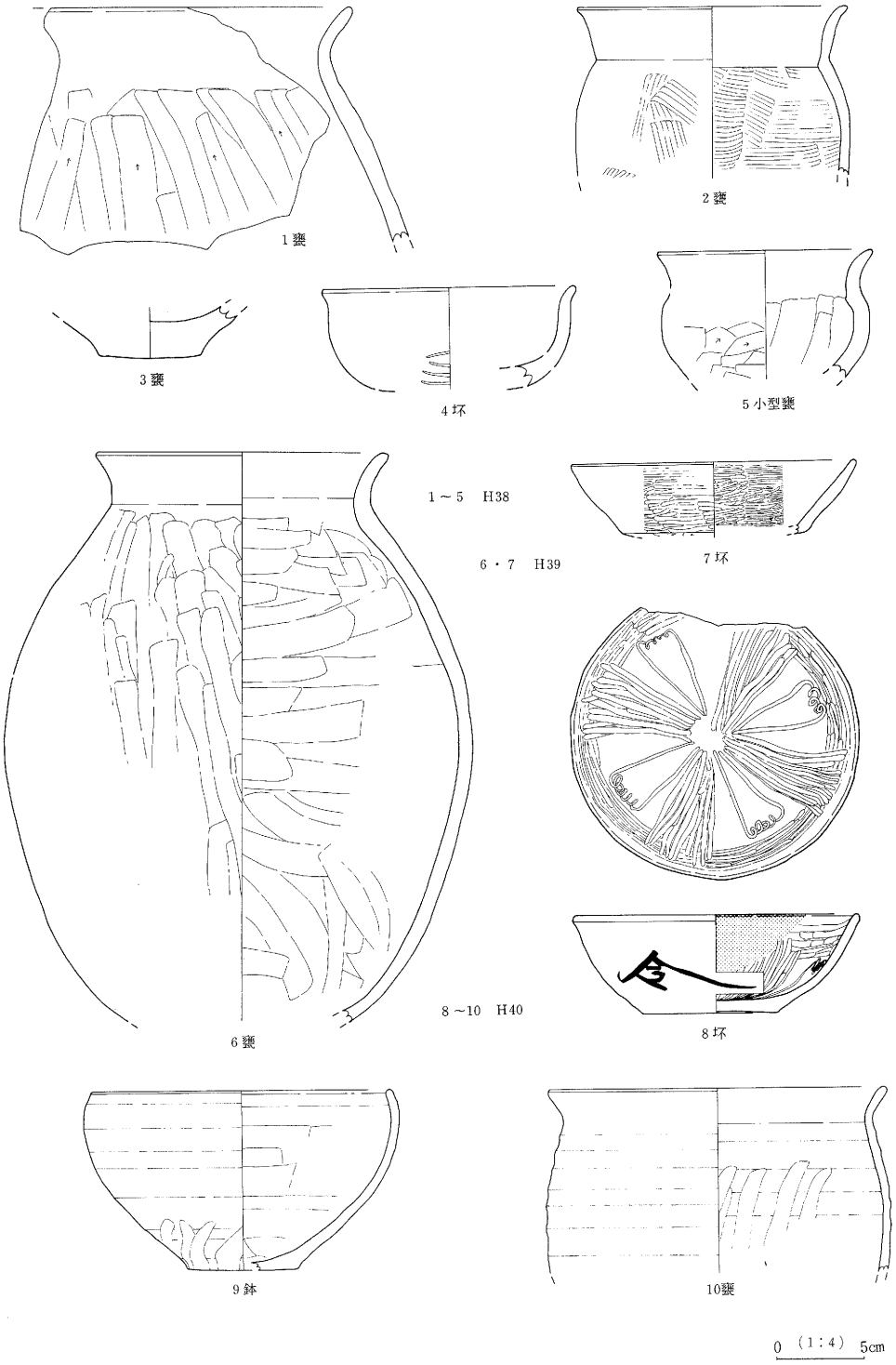
6 甕H37

0 (1:4) 5cm

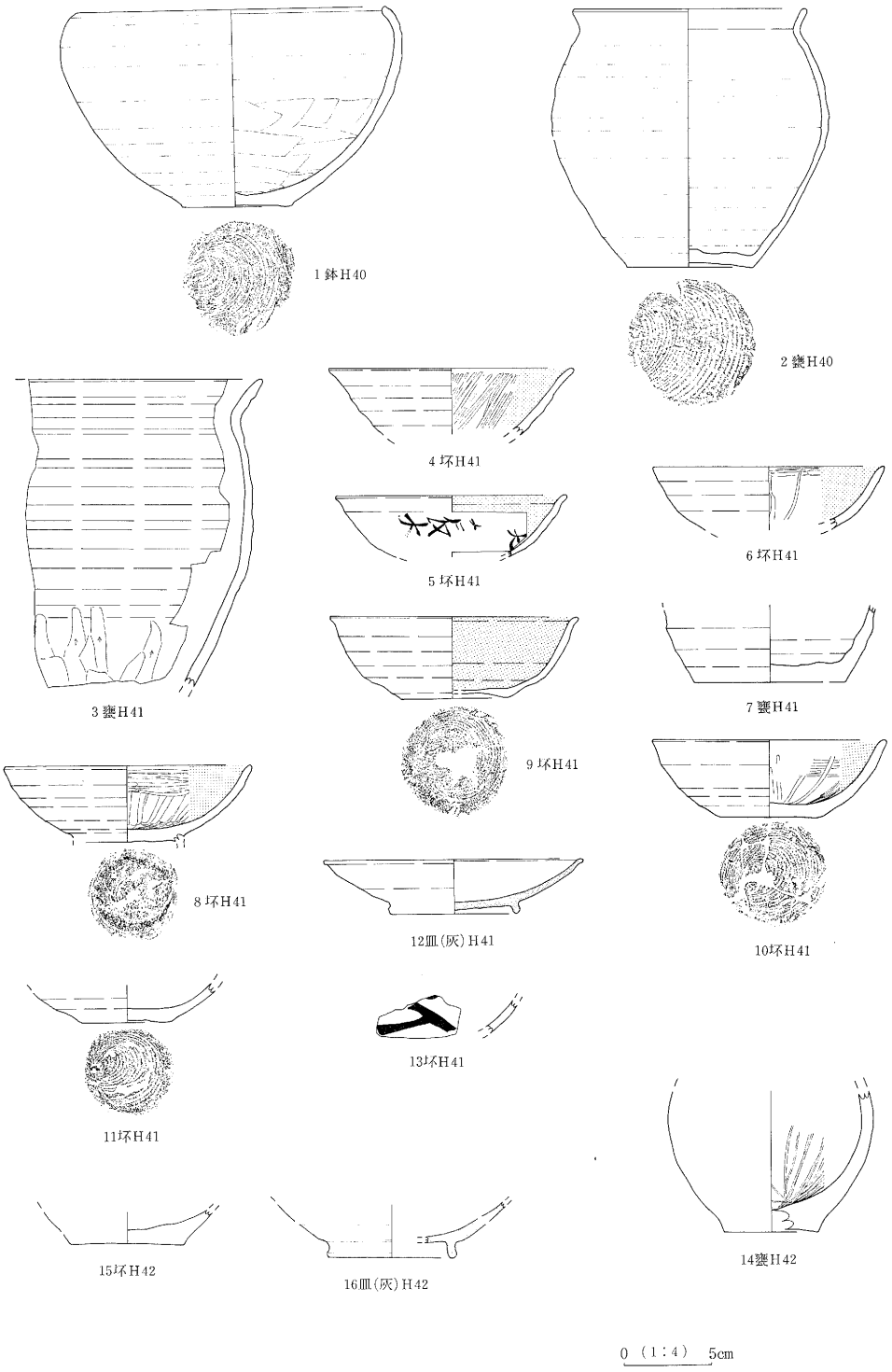
第367図　H36・37号住居址出土遺物実測図



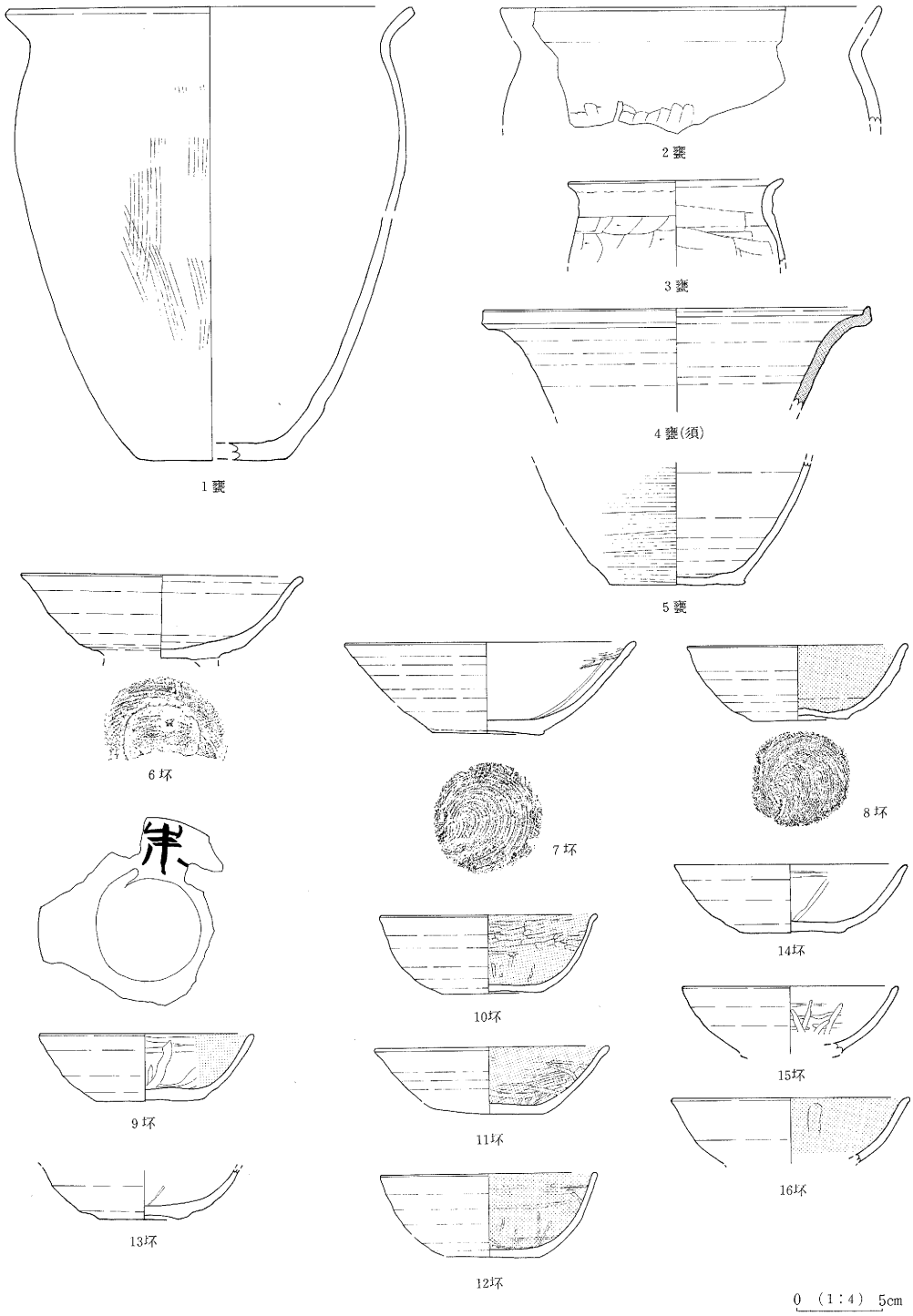
第368図　H37号住居址出土遺物実測図



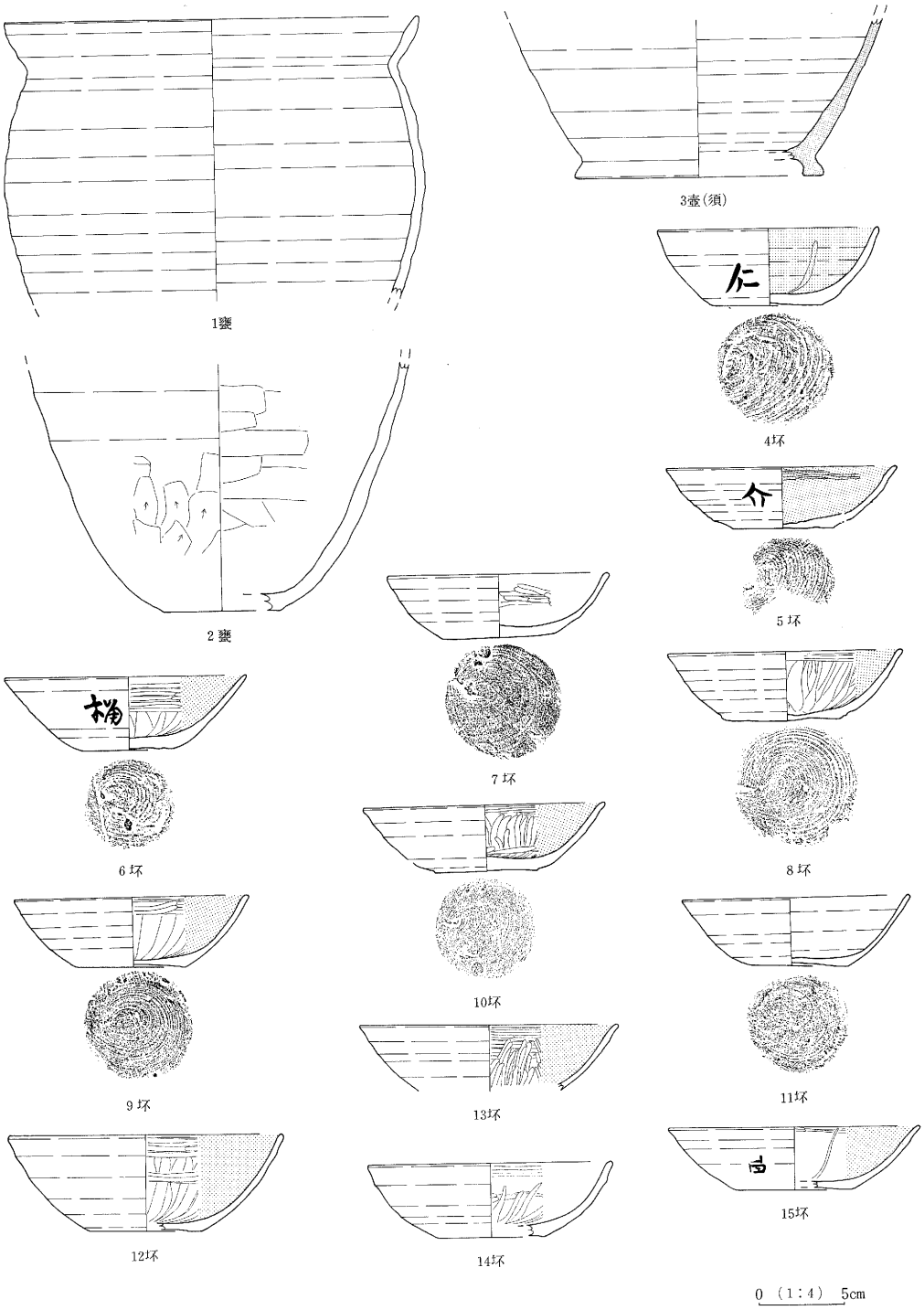
第369図　H38・39・40号住居址出土遺物実測図



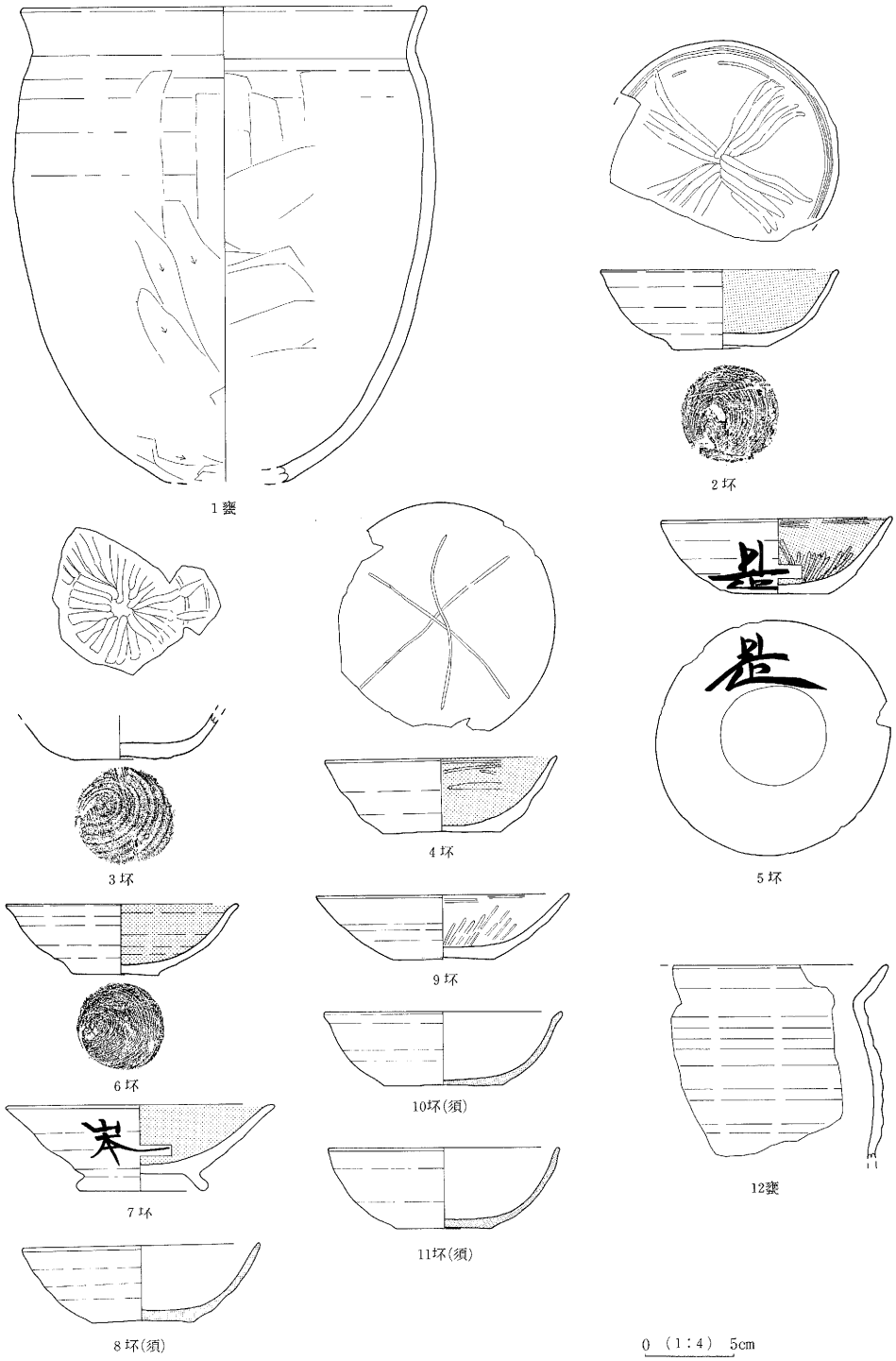
第370図　H40・41・42・43号住居址出土遺物実測図



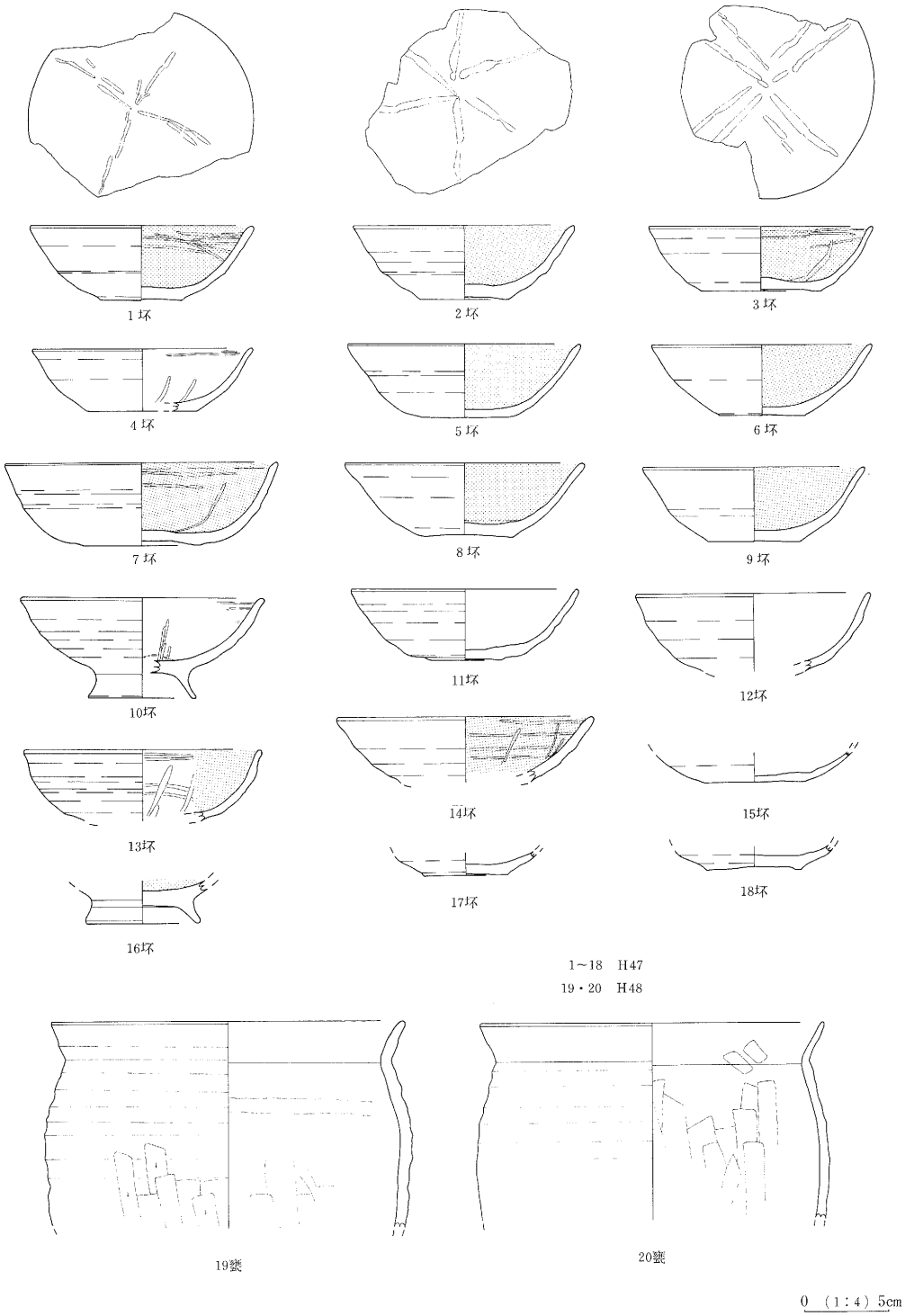
第371図　H44号住居址出土遺物実測図



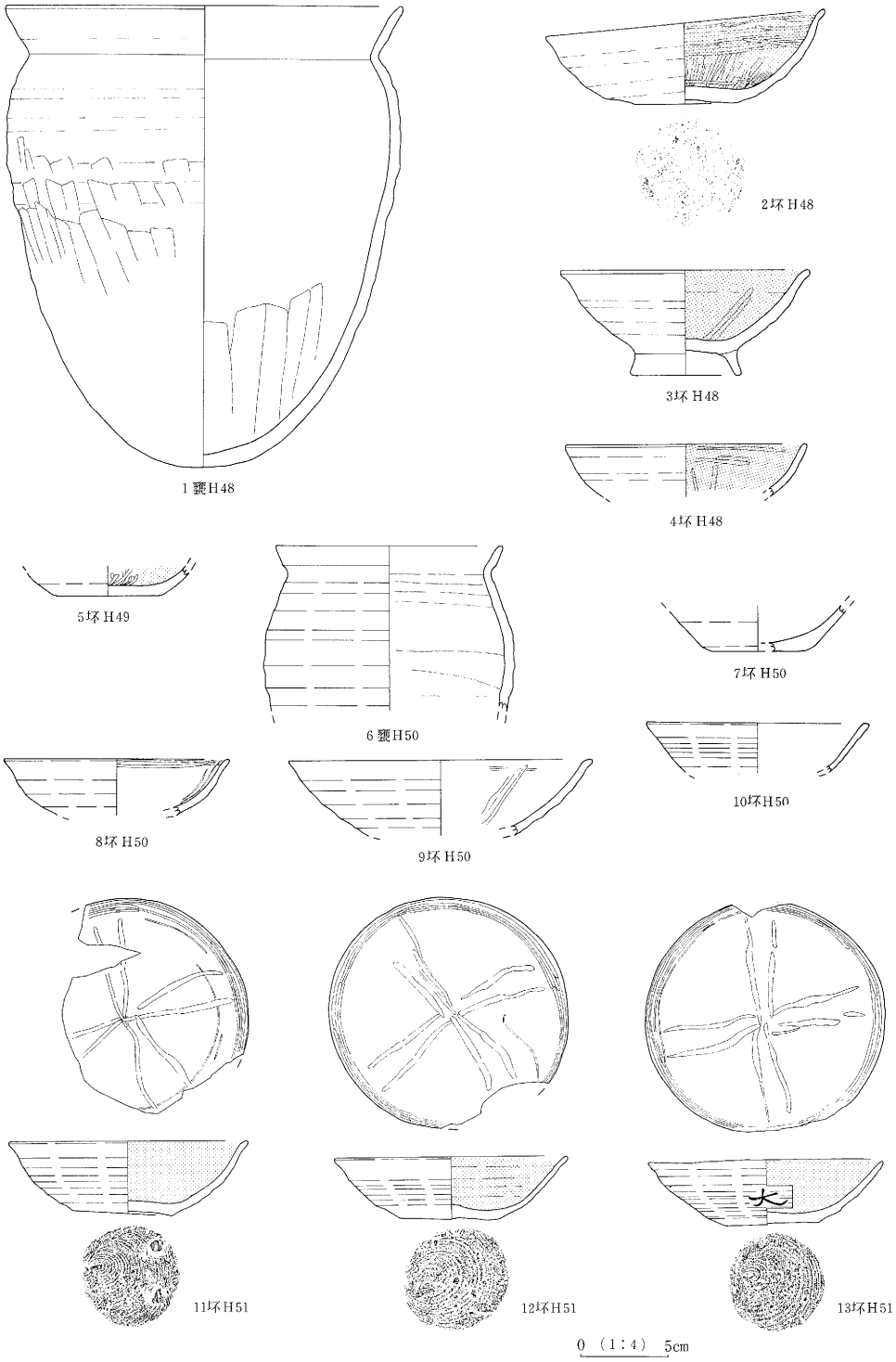
第372図　H45号住居址出土遺物実測図



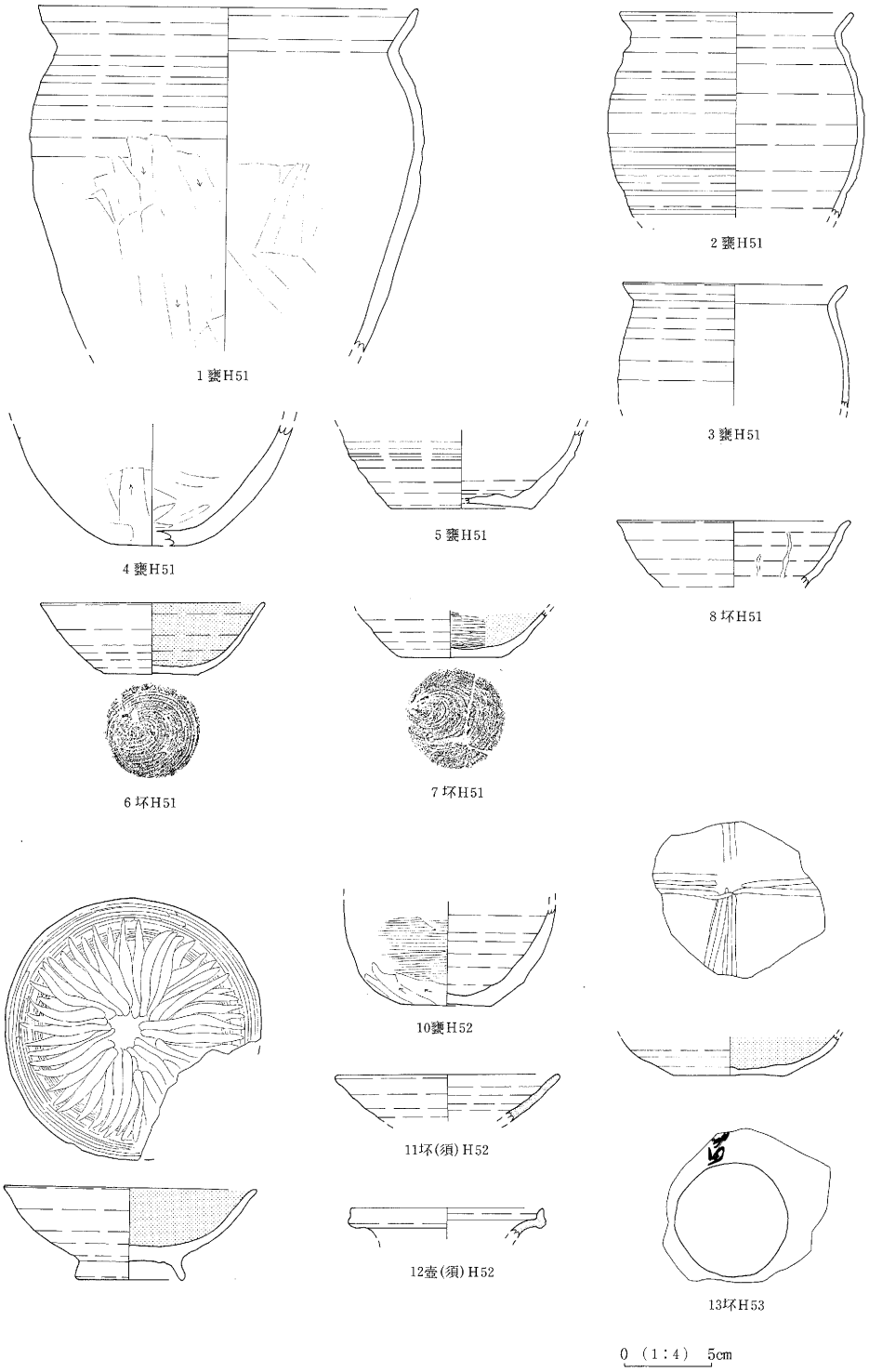
第373図　H46号住居址出土遺物実測図



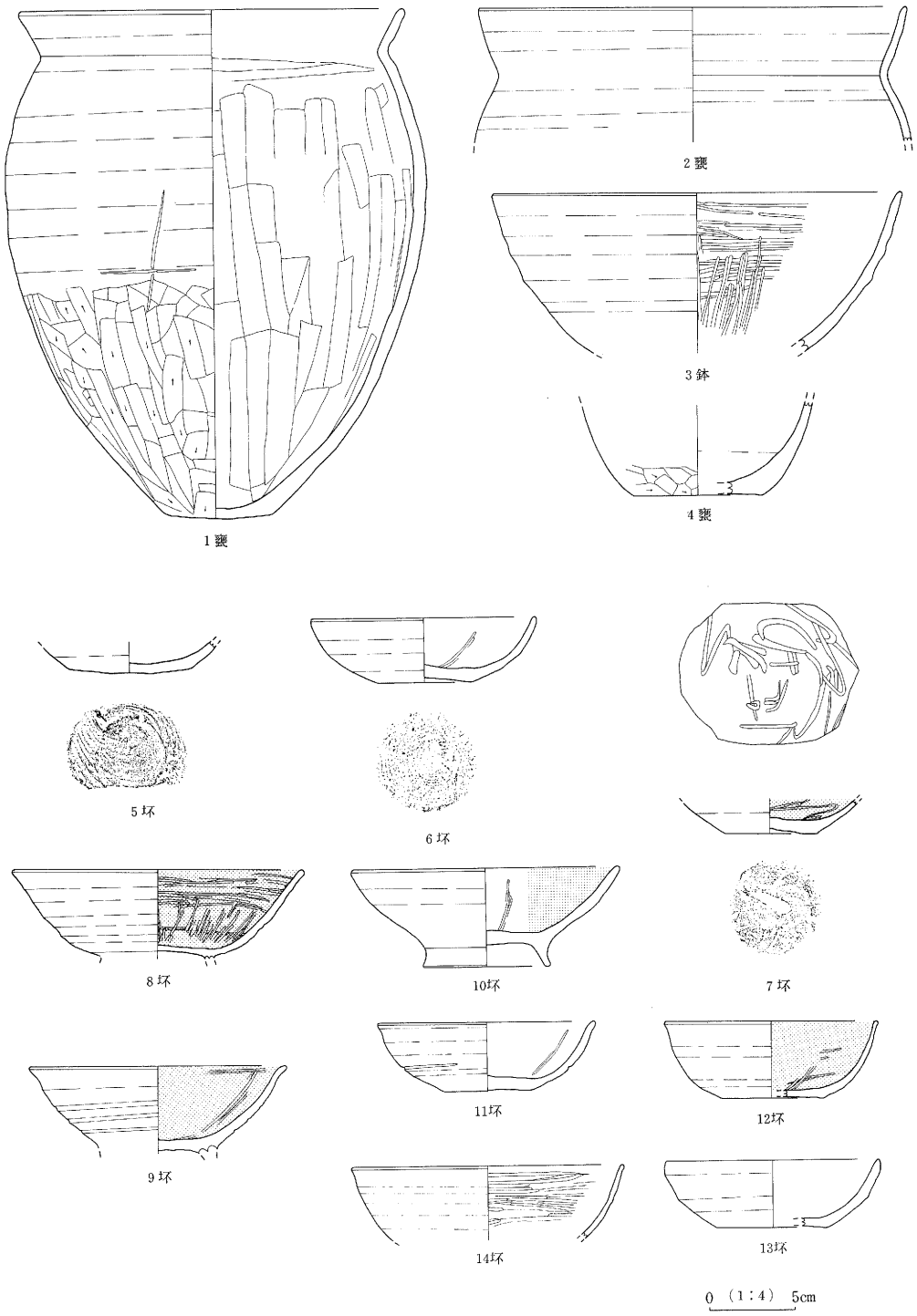
第374図　H47・48号住居址出土遺物実測図



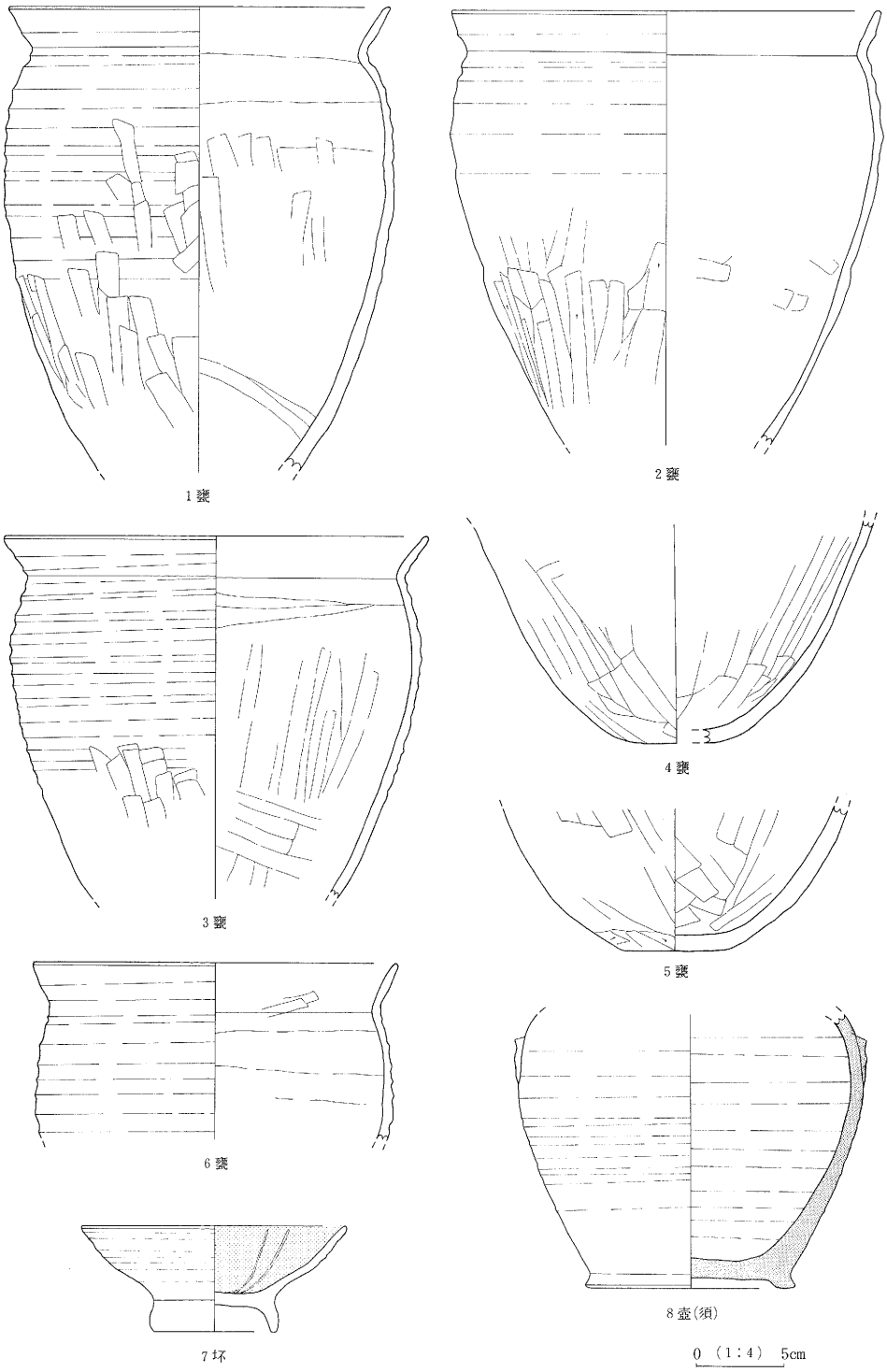
第375図　H48・49・50・51号住居址出土遺物実測図



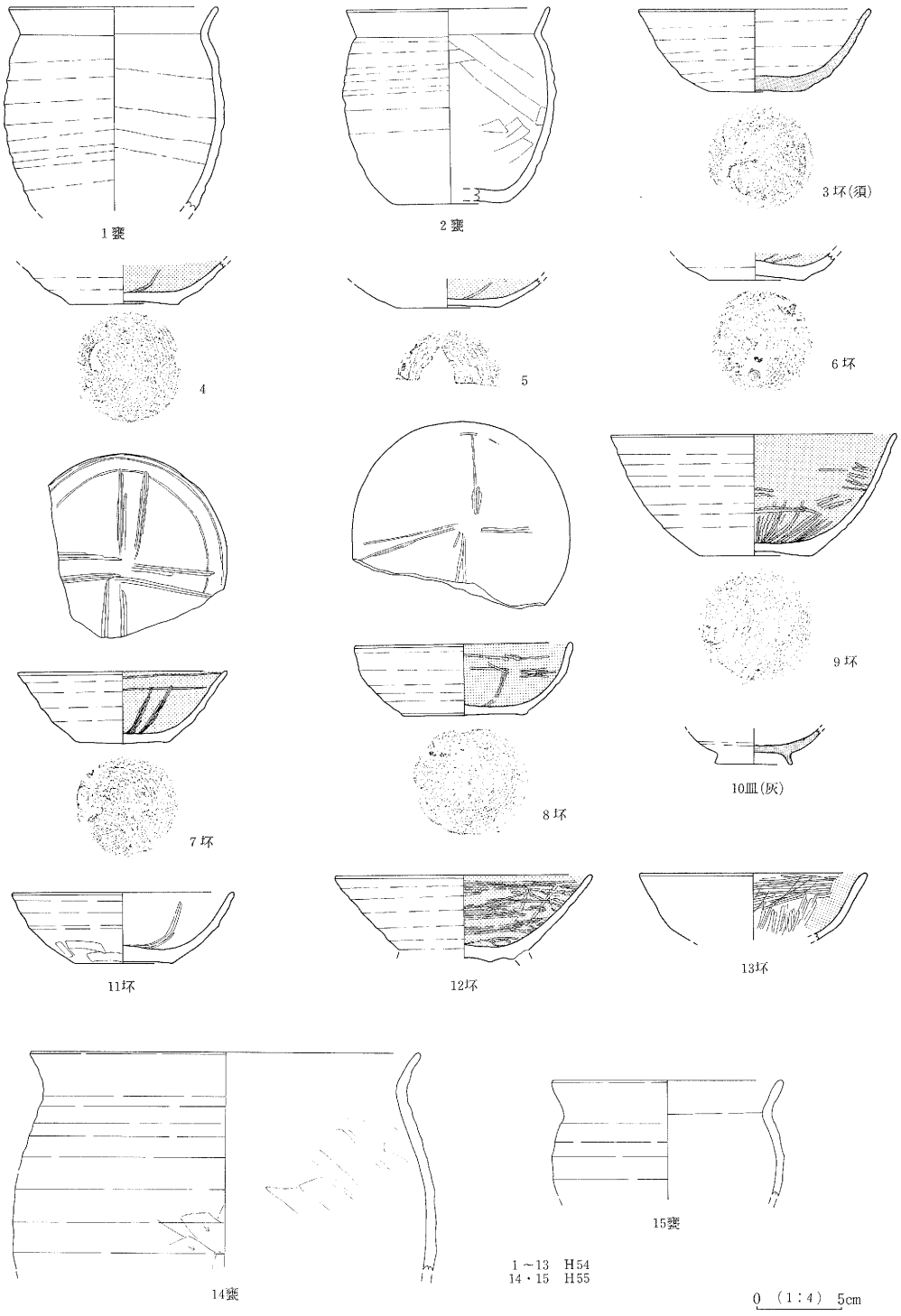
第376図　H51・52・53号住居址出土遺物実測図



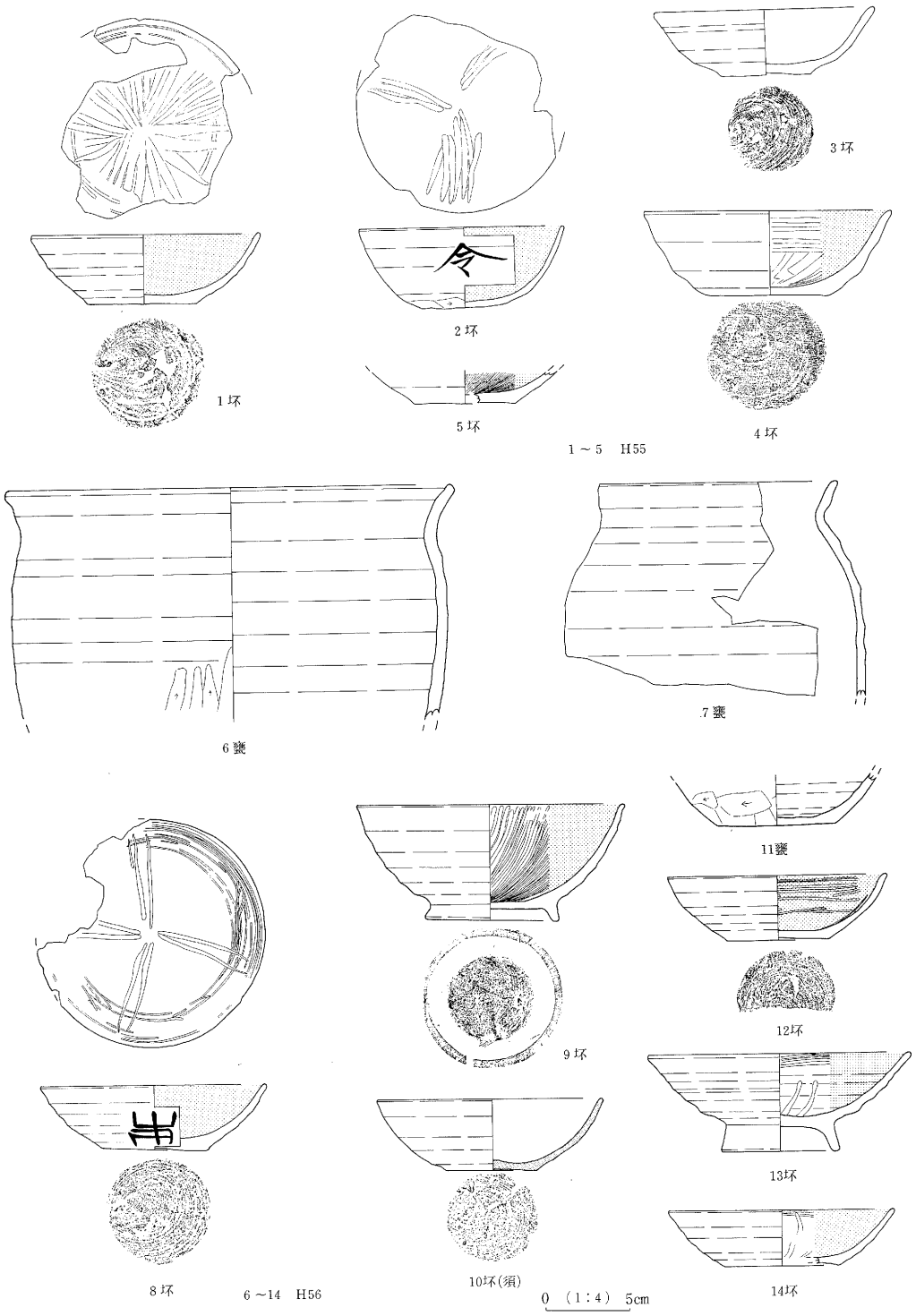
第377図　H53号住居址出土遺物実測図



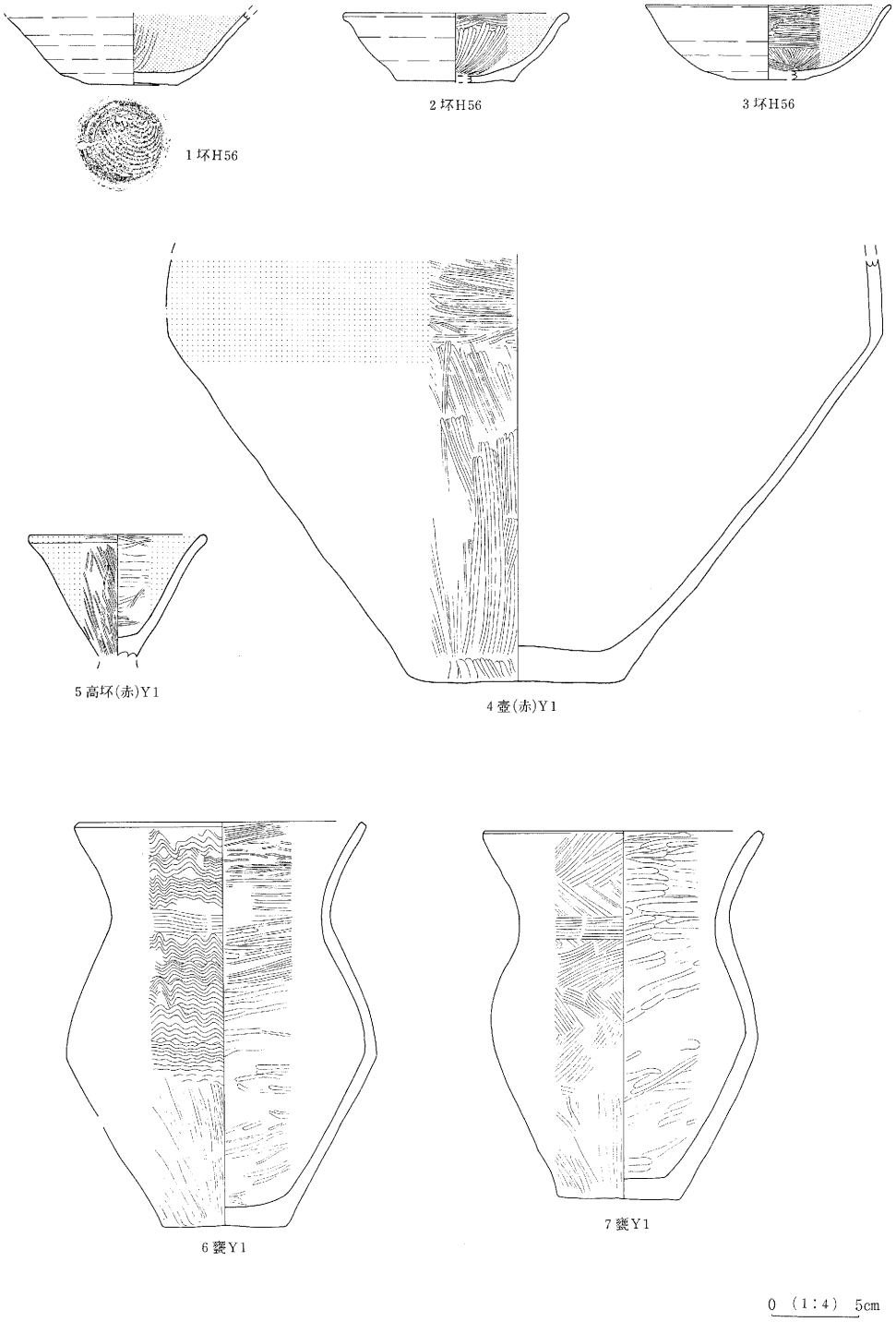
第378図　H54号住居址出土遺物実測図



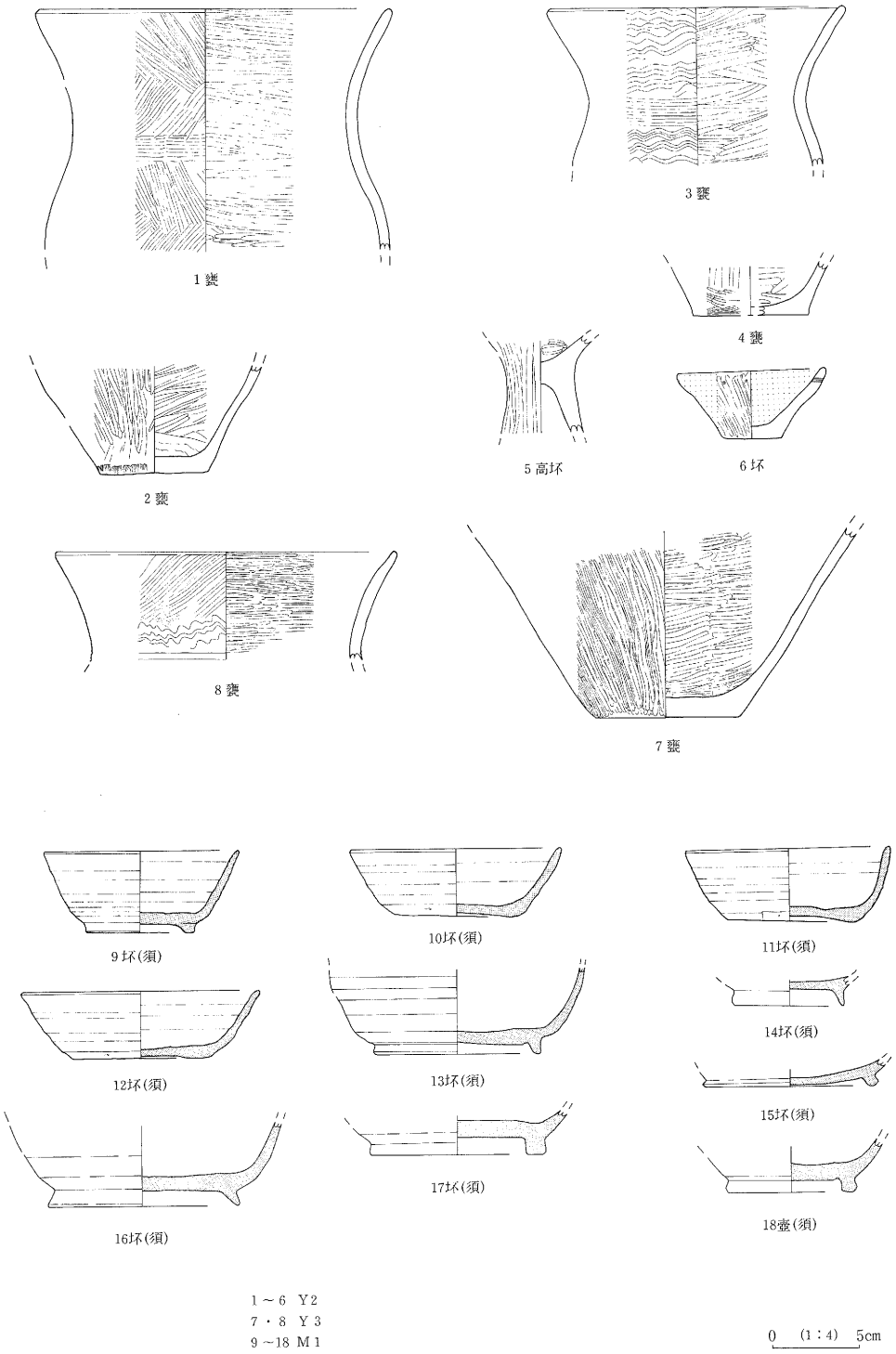
第379図　H54・55号住居址出土遺物実測図



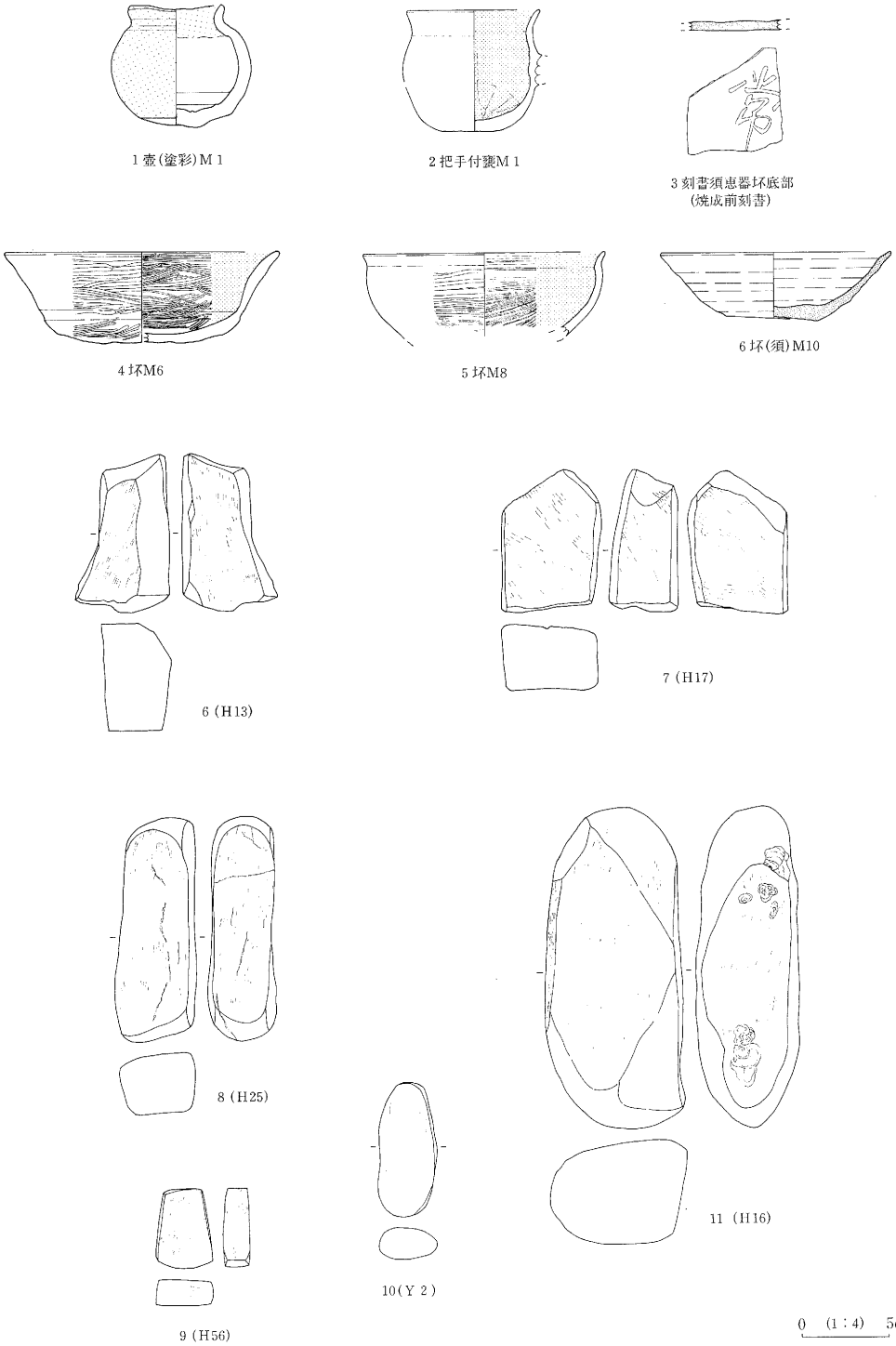
第380図　H55.56号住居址出土遺物実測図



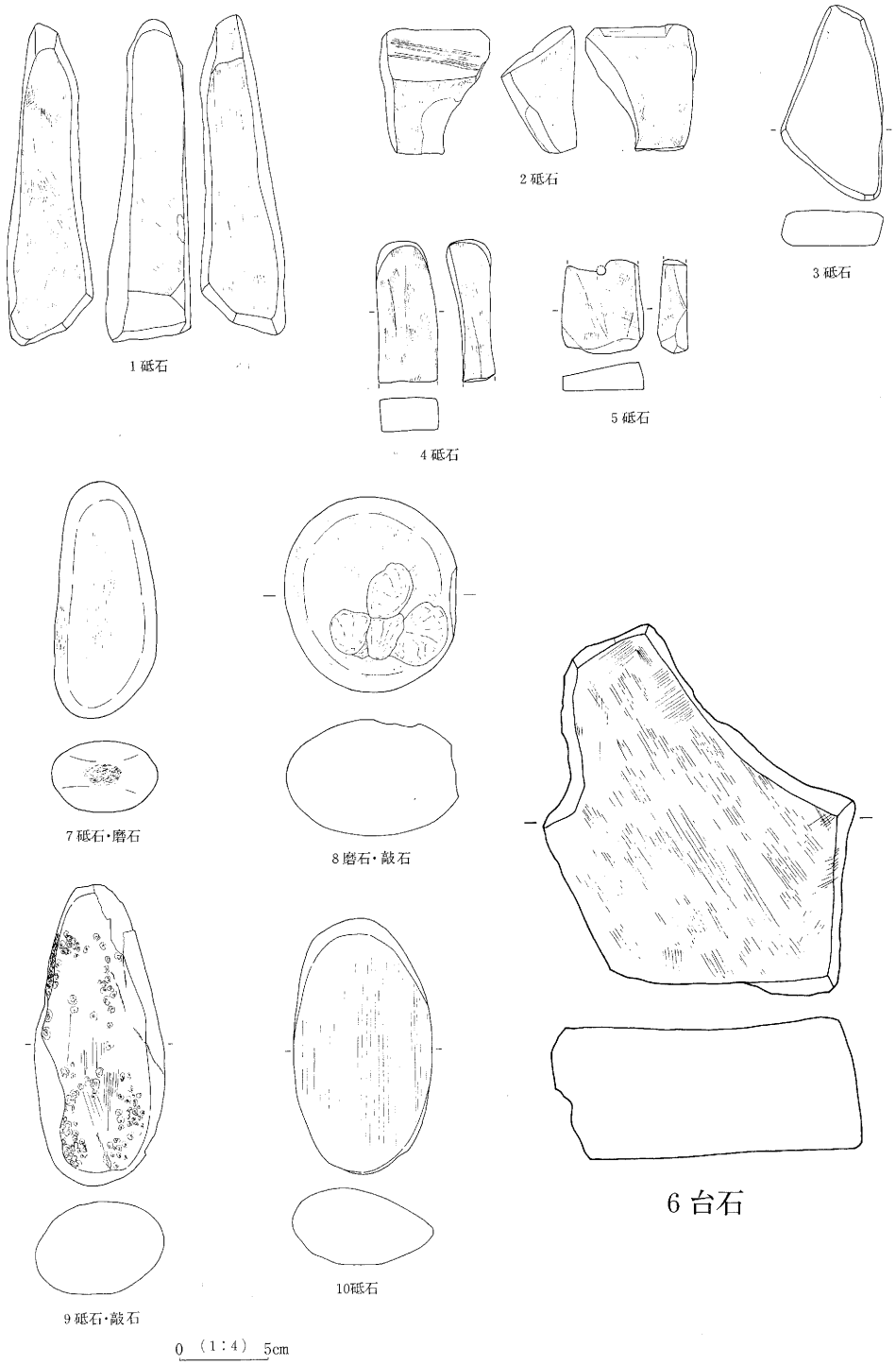
第381図　H56・Y1号住居址出土遺物実測図



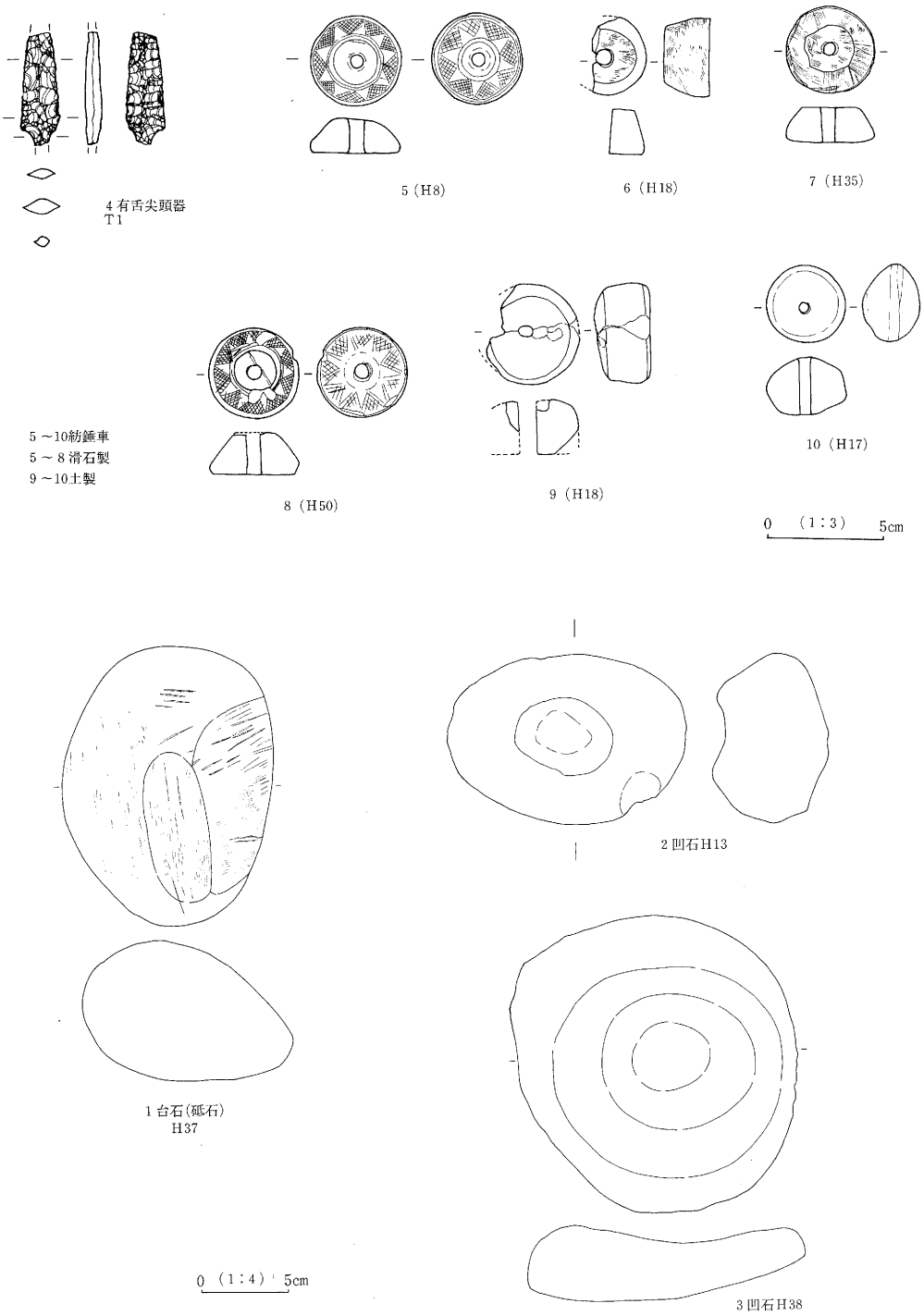
第382図　Y２・３号住居址、Ｍ１号溝状遺構出土遺物実測図



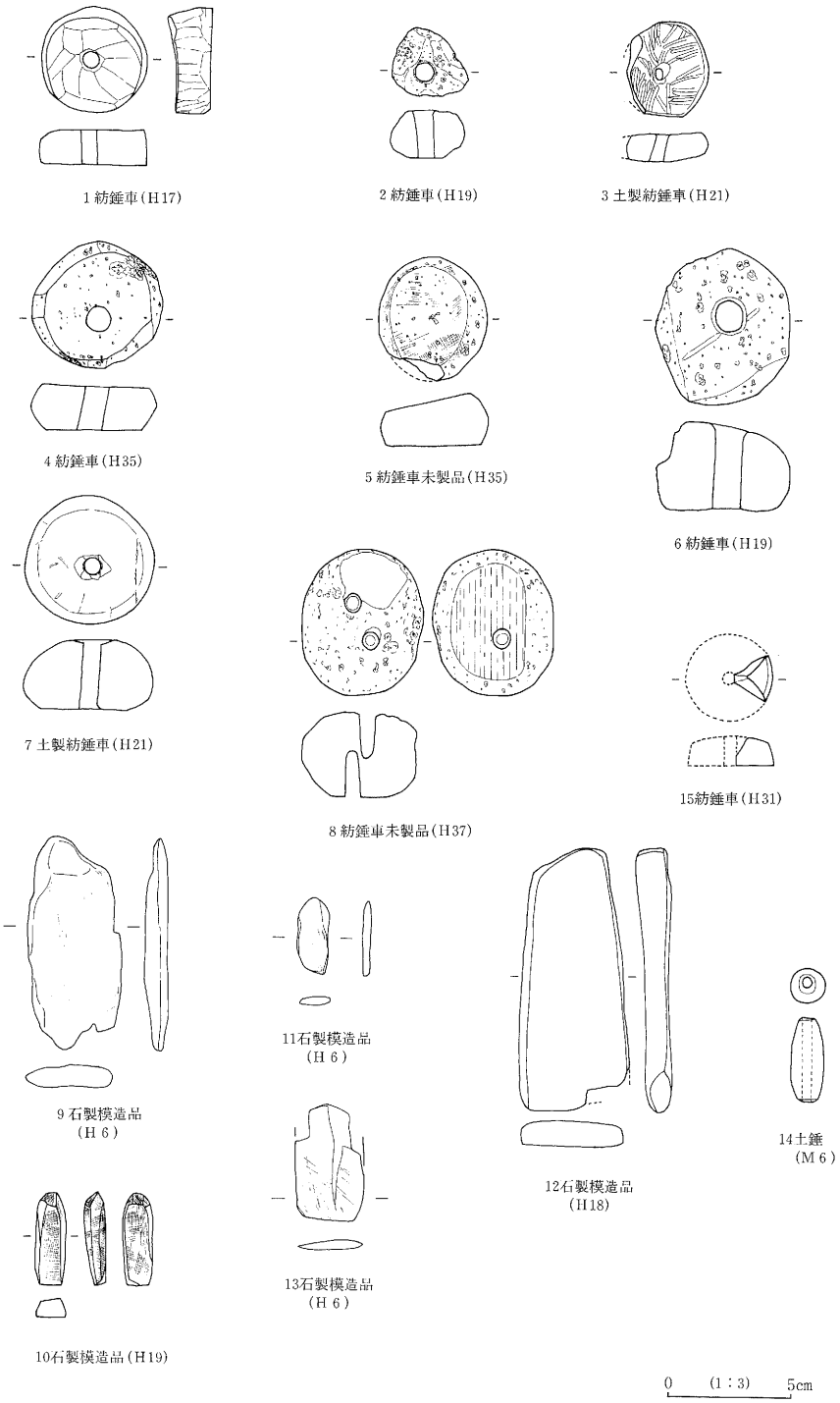
第383図　M 1・6・8・10号溝状遺構出土土器、石器（砥石）実測図



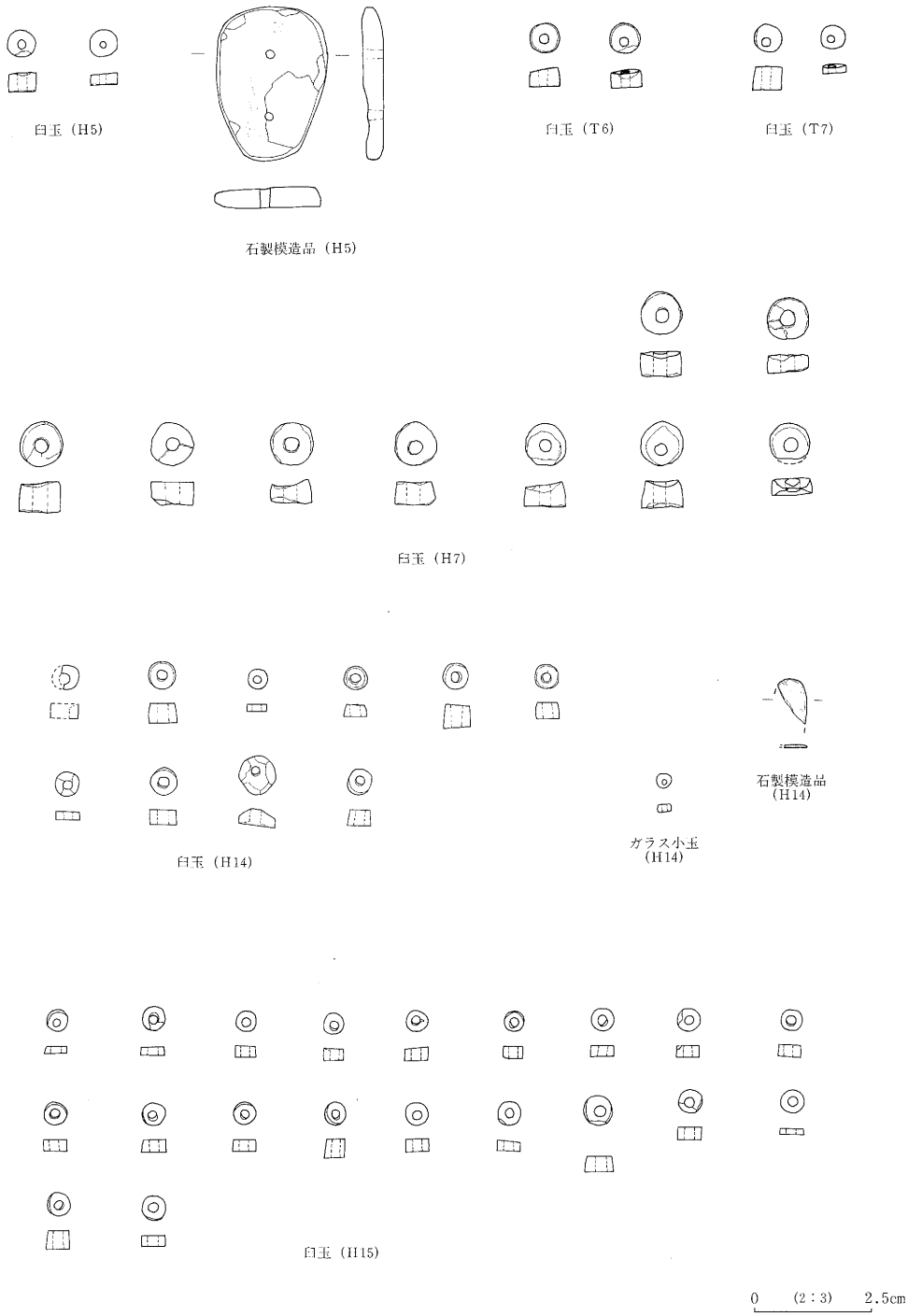
第384図　石器（砥石・台石・磨石・敲石）実測図



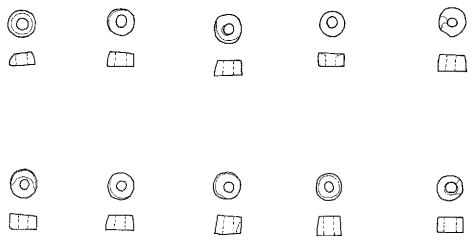
第385図　石器（台石・凹石・有舌尖頭器・紡錘車）実測図



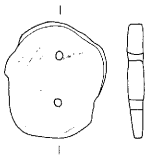
第386図　石器（紡錘車・石製模造品・土錘）実測図



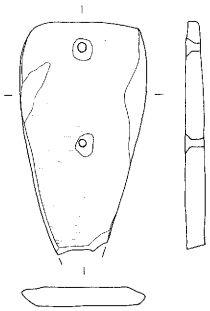
第387図　白玉・ガラス小玉・石製模造品実測図



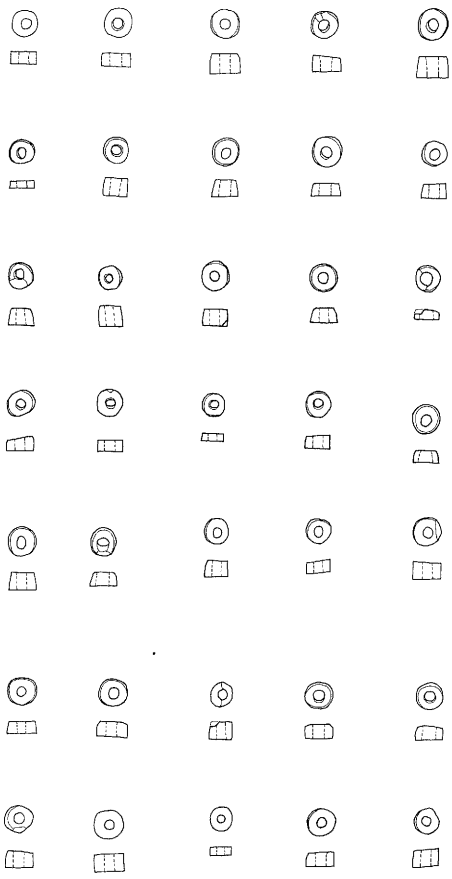
白玉（H16）



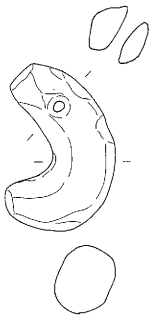
石製模造品（円板・H16）



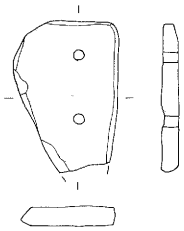
石製模造品（剣型・H16）



白玉（H17）



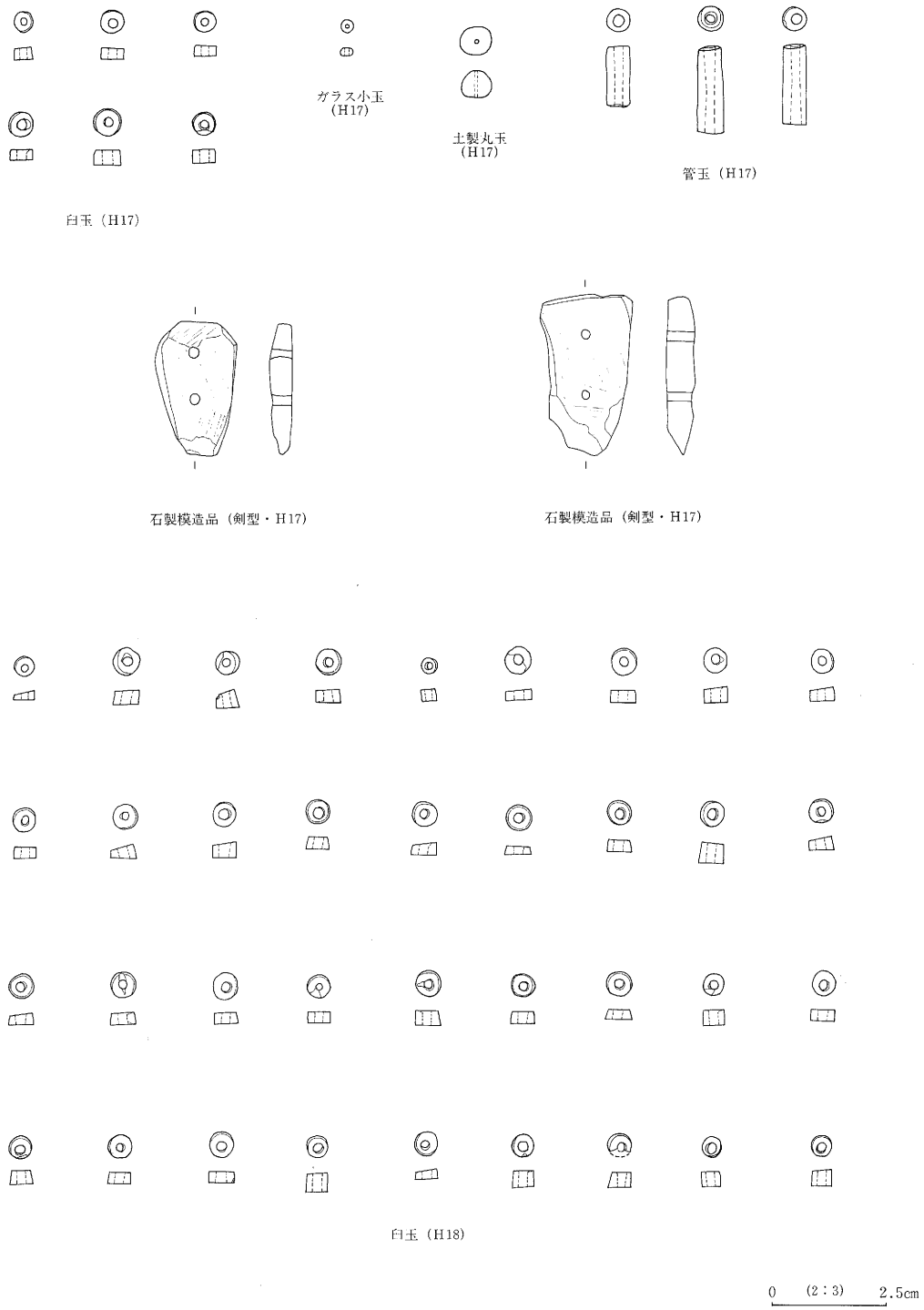
土製勾玉（H17）



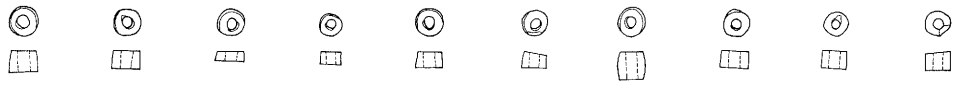
石製模造品（H17）

0　(2：3)　2.5cm

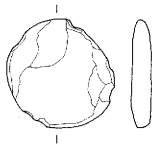
第388図　白玉・石製模造品・土製勾玉実測図



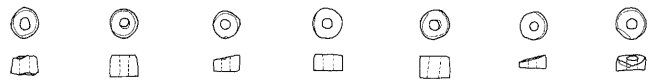
第389図　白玉・ガラス小玉・石製模造品・土製丸玉・管玉実測図

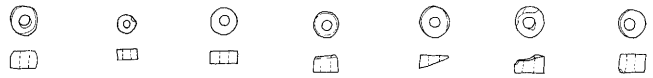


白玉(H18)



石製模造品(H19)





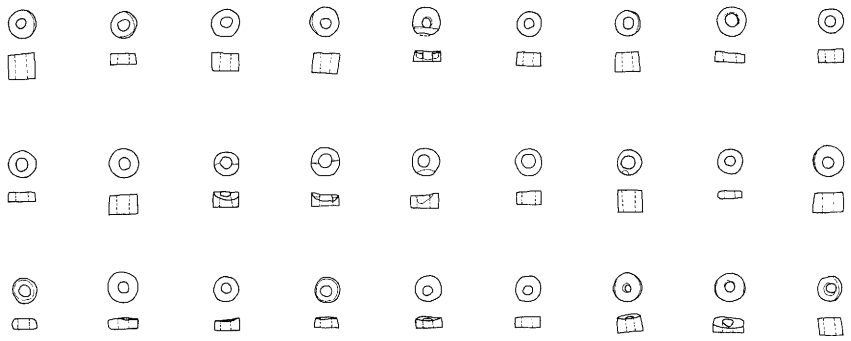
管玉(H19)

白玉(H19)

0　(2：3)　2.5cm

第390図　白玉・管玉・石製模造品実測図

第391図　白玉・ガラス小玉・土製丸玉実測図



白玉（H21）

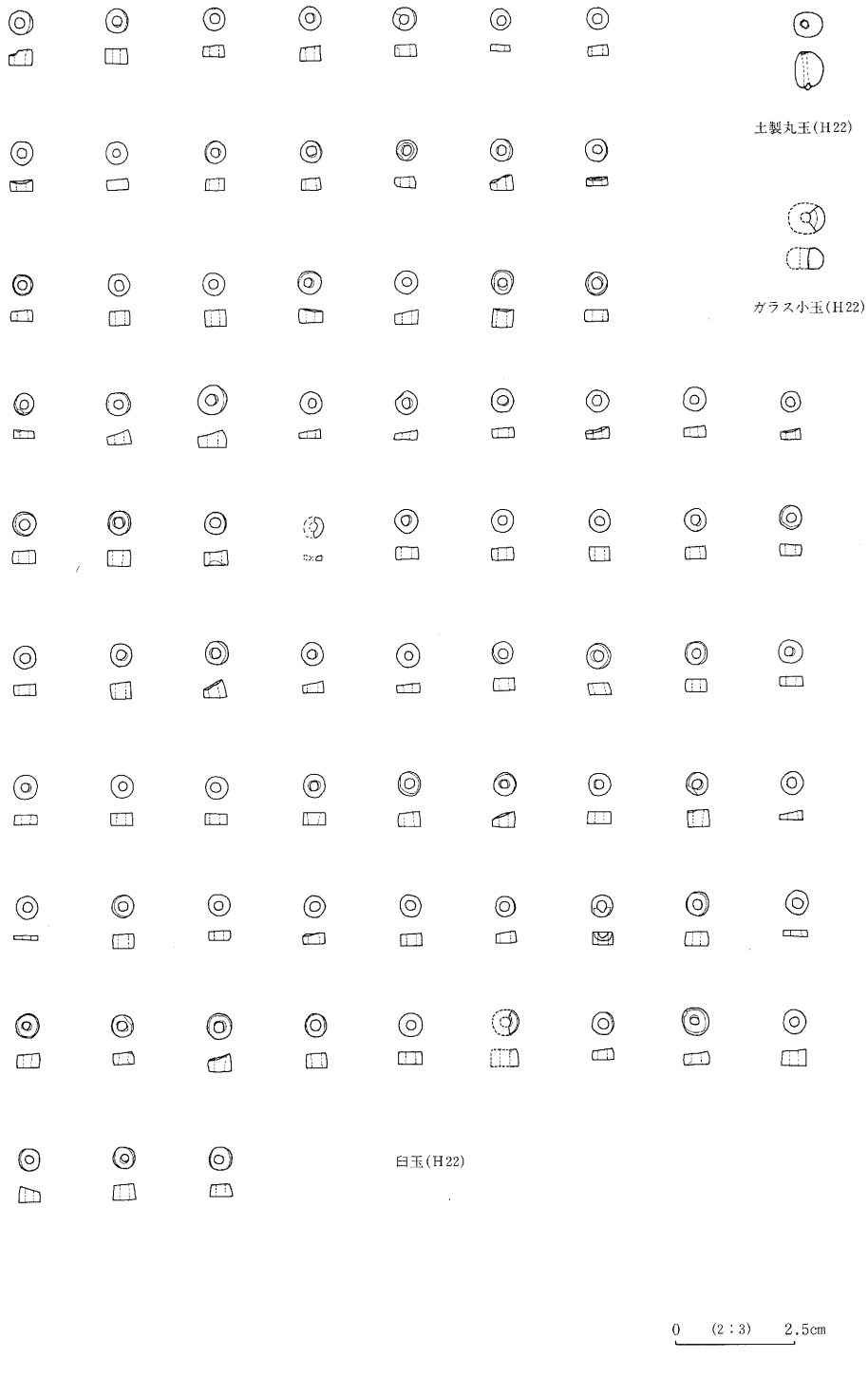
白玉（H22）

管玉（H22）

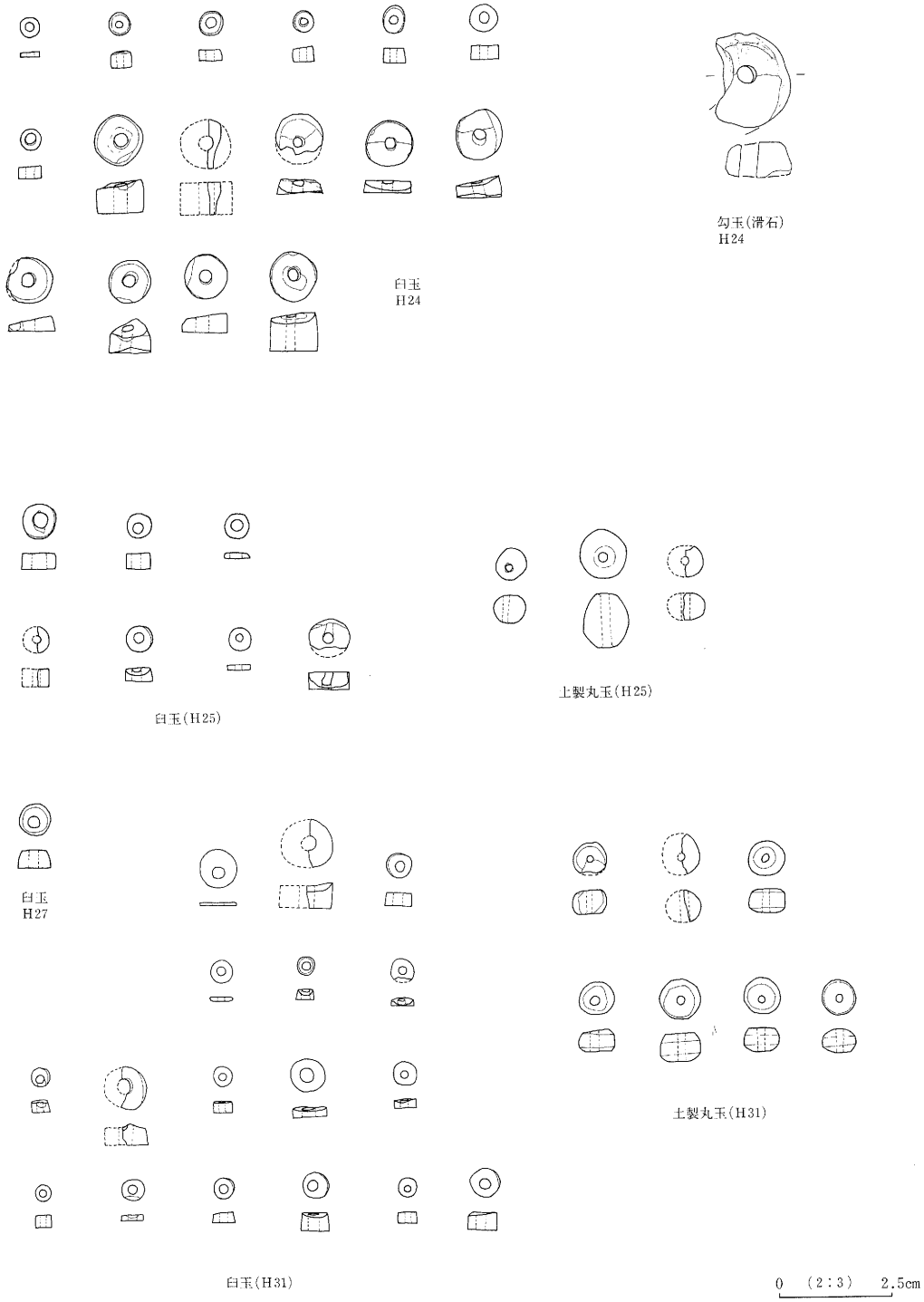
石製模造品（H22）

0　(2：3)　2.5cm

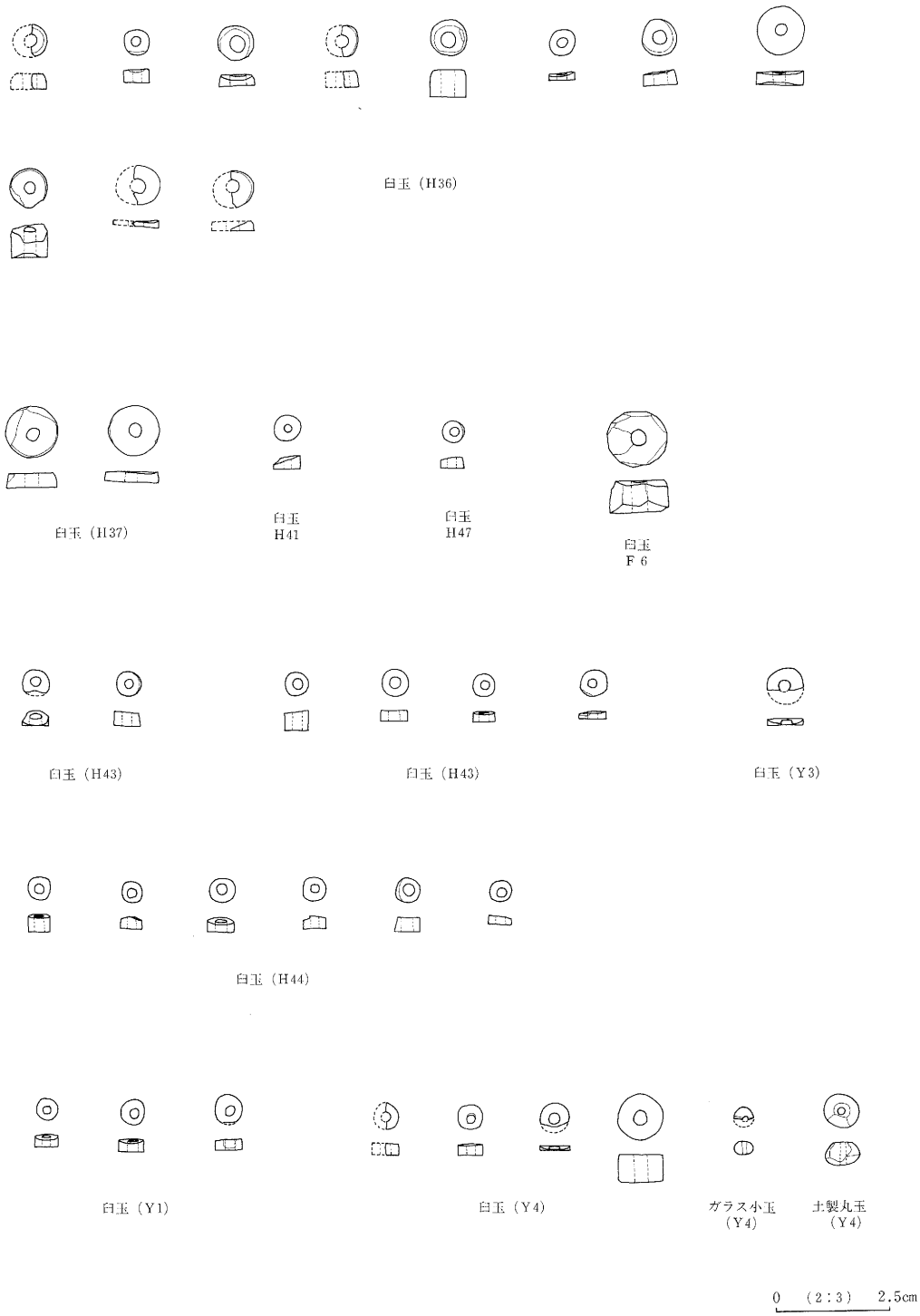
第392図　白玉・管玉・石製模造品実測図



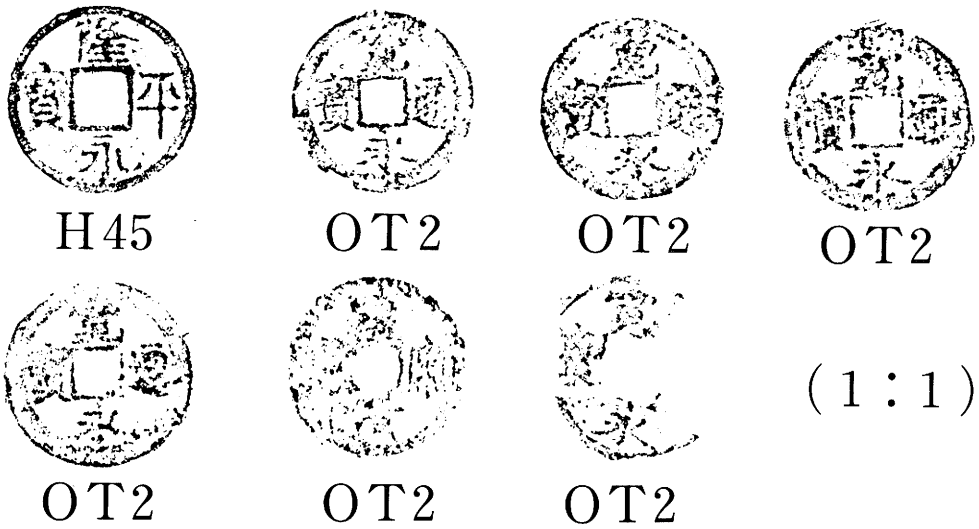
第393図　白玉・ガラス小玉・土製丸玉実測図

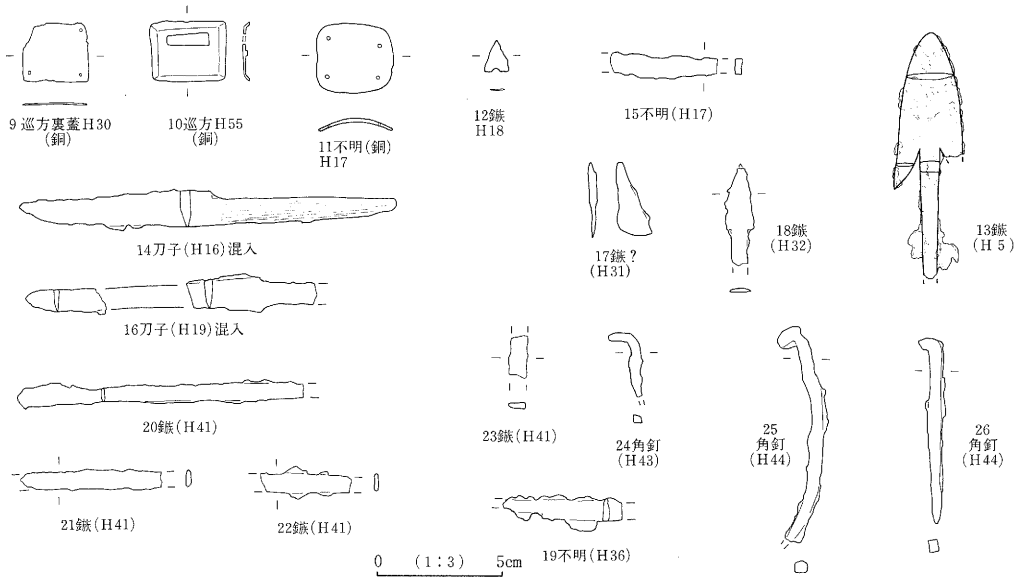


第394図　白玉・勾玉・土製丸玉実測図

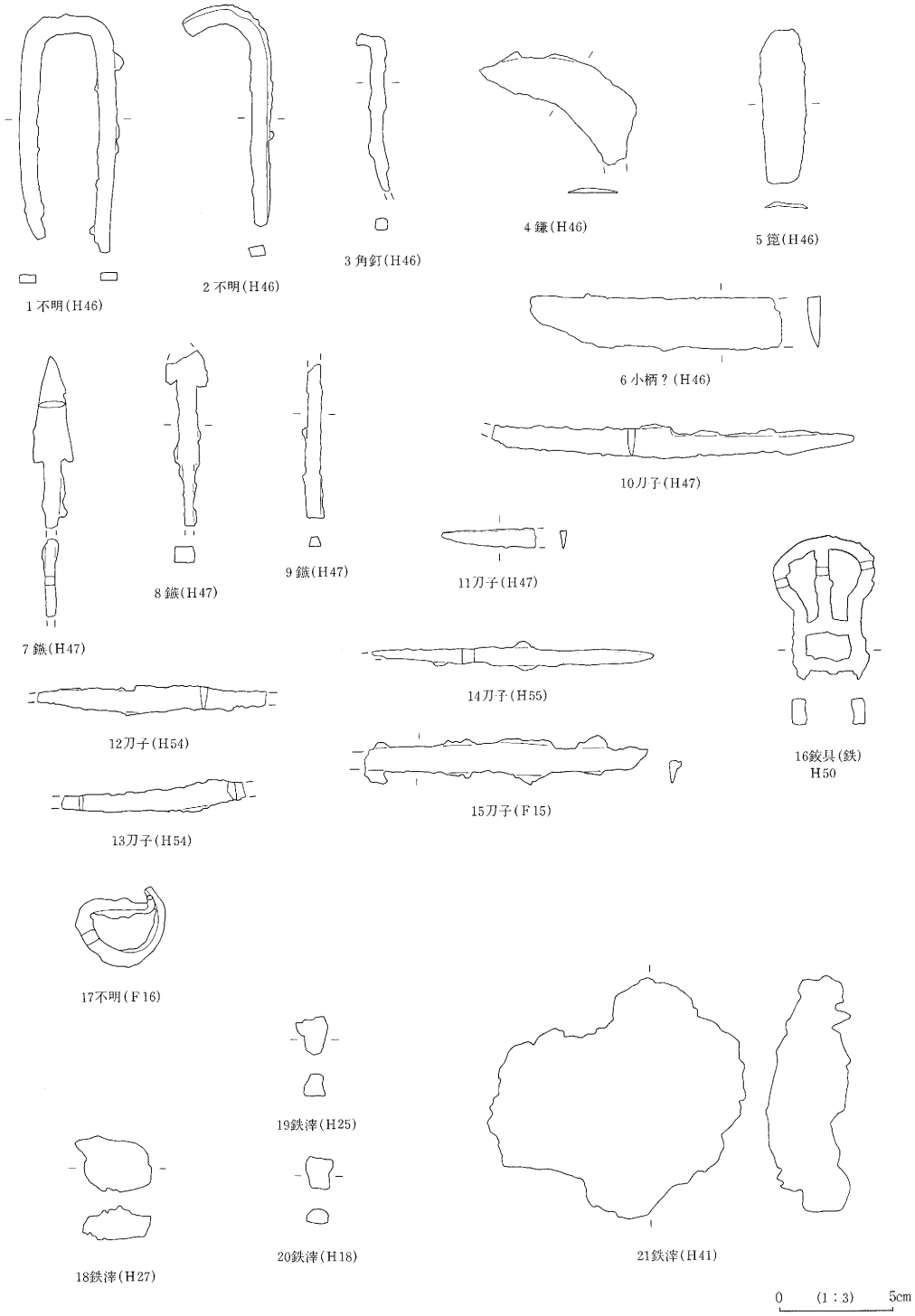


第395図　白玉・ガラス小玉・土製丸玉実測図





第396図　古銭拓影図・金属製品実測図



第397図　金属製品実測図

第IX章　まとめ

今回の調査により検出された遺構は以下のとおりである。

芝宮遺跡群下芝宮遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

住居址	古墳時代中期後葉	1軒（H2）
	古墳時代後期中葉	4軒（H1・5～7）
	古墳時代後期	2軒（H8・9）
	平安時代中期	2軒（H3・4）
	合　計	9軒
掘立柱建物址	古墳時代後期	3棟（F1・5・6）
	不　明	3棟
特殊遺構	平安時代中期	1基
溝状遺構		13条
土坑		13基

芝宮遺跡群上高山遺跡

住居址	古墳時代後期中葉	2軒
溝状遺構		1条

周防畑遺跡群下北原遺跡

近・現代の攪乱土坑と風倒木址で遺構は無し。

近津遺跡群上宮原遺跡

住居址	平安時代後期	1軒

下蟹沢遺跡

近・現代の水田と泥炭層のみで遺構は無し。

長土呂遺跡群上大林遺跡、下聖端遺跡Ⅰ・Ⅱ

住居址	弥生時代後期	4軒（Y1～4）

	古墳時代中期後葉	13軒（H３・５・６・14～23）
	古墳時代後期前葉	５軒（H４・25～28）
	古墳時代後期中葉	18軒（H１・２・７～12・24・29・31～38）
	古墳時代後期	２軒（H30・39）
	奈良時代	１軒（H13）
	平安時代中期	15軒（H40・41・43～51・53～56）
	不　明	２軒（H42・52）
	合　計	60軒
掘立柱建物址		18棟
特殊遺構		７基
墓壙		２基
土坑		97基
風倒木址		105基
ピット群		31ヵ所
溝状遺構		11条

１）遺構

下聖端遺跡では、カマド導入期と考えられる住居址が数軒検出された。特徴は以下のとおりである。

炉だけを持つ	H14
廃棄炉とカマドを持つ	H16
廃棄炉と廃棄カマド、カマドを持つ	H15・H17・H21
炉とカマドを持つ	H６
廃棄炉とカマド２基を持つ	H19

これらの住居址出土の土器に大きな時期差は感じられない。また、これらの住居址より若干新しい様相を持つH５・18号住居址よりＴＫ２０８～２３段階の須恵器が完形で出土している。須恵器型式に空間時期差がないとすれば、本遺跡においてカマドの導入は５世期後葉段階で完成したことになろう。さらに導入段階では、後期以降普遍的に見られる北カマドが完全には定着していないものが数軒あり興味深い。

住居址の構築についてピット・貼床土層断面図およびH30号住居址の検出により以下ふたつのことが考えられる。

１　掘り下げ段階ですでにピット部も掘り下げを行なう。

2　貼床を貼った後にピット部の掘り下げを行なう。

従来よりカマドについては床を貼った後に構築されると認識されている。それについては、カマドの土層断面図により今回も例にもれてはいない。H30号住居址のカマドは床を貼った時点ではまだ方形に造り出したままで袖部の削り出しも燃焼部の掘り込みも行なっていない。本住居址は、住居構築さらにはカマド構築を考える上でも希出であった。

焼失住居址について

下聖端遺跡において古墳時代の焼失住居址と考えられる住居址は34軒で89%にあたる。失火や火事としても、中期から後期までの住居址すべてがそれに該当するとは考えにくい。つまり、何らかの理由・事情により人為的に火を放った可能性が高いのである。人為的とは言っても、時期差が有りすぎるため、度々の戦災とは思えない。さて、人為的に火を放ったと仮定した場合、考えられることは以下のとおりである。

1　習慣（或いは儀礼）としてその住居址を廃棄する際に火を放った。

2　住居址が廃棄され、ある程度時間がたってから焼却した。

これらのことを考えると、焼失住居という言葉は当てはまらないのかもしれない。仮に呼ぶとしたら焼却住居址とでもしたいが、今後の課題であろう。また出土した炭化材については、付編中のパリノ・サーヴェイ社の同定報告の中で詳細に書かれているので省かせていただく。

溝状遺構について

下聖端遺跡より検出されたM１・６・８号溝状遺構は、洪水によって、或いは既存の溝に多量の水が流れ氾濫したことにより成立したと考えられる。特にM６・８号溝状遺構は下聖端遺跡IIの台地上のほぼ前面を５～20cmの厚さ（下聖端遺跡全体層序II・III層）で覆っていた。古墳時代の住居址はこのII・III層の下より検出され、平安時代中期の住居址はこのII・III層中より検出された。これらのことより本遺構は、奈良時代から平安時代前期の間に成立したと考えられる。本遺跡は帯状低地に挟まれた水捌けの良い帯状台地に展開している。この台地上（下聖端遺跡II）を覆う洪水とは、どんな規模であったろうか。おそらく大災害であったと思われる。なお、上記遺構は奈良時代の遺物が中心に出土している。

２）遺物

遺物と住居址の重複関係（下聖端H16とH19、H32とH37など）より、古墳時代中期後葉から後期中葉にかけて細かい分類が可能であるが、今回は省かせていただいた。

出土した古墳時代の須恵器については木下亘氏にご教示をいただいたので参考にしていただきたい。

下芝宮遺跡　Ｈ２　坏身と坏蓋（完形）　ＴＫ２３段階併行

下聖端遺跡　Ｈ３　坏身（破片）　ＴＫ４７段階併行

Ｈ４　坏蓋（１／２）　ＴＫ２３段階併行

Ｈ５　有蓋高坏（完形）　ＴＫ２３－４７古段階併行

無蓋高坏（完形）　ＴＫ２０８古段階併行

H18　高坏蓋（完形）　ＴＫ２０８～２３

H23　瑯（完形）　ＴＫ２３段階併行

H17･18･19　坏蓋（遺構間接合・破片）　ＴＫ２３新段階併行

H17･19　坏蓋（遺構間接合・破片）　ＴＫ２３古段階併行

H36　坏身（破片）　ＴＫ４３古段階

H35･37　坏身（遺構間接合・ほぼ完形）　ＴＫ４３古段階

H37　坏蓋（２／３）　ＴＫ４３古段階

下聖端遺跡H19号住居址から出土した甕（第356図の３・４・５）は、木下亘氏のご教示によると大阪府の国府遺跡・誉田白鳥遺跡、奈良県の纒向遺跡・ウワナベ古墳・巣山古墳・佐味田坊塚古墳・乙女山古墳、岡山県の金蔵山古墳・月の輪古墳・陣場山古墳などで出土している籠目圧痕土器の一種ではないかとのことである。他にH16号住居址より破片が出土している。

下聖端遺跡より出土した玉類については一覧表を付したので参照していただきたい。ちなみに出土した白玉の総数は475個、ガラス小玉は７個、土製丸玉は14個、管玉４個であった。

最後に、古墳時代中期の良好な資料に恵まれながら時間の関係上、土器・石器観察表、器種分類表、編年表まで手がまわらず、中途半端なまとめとなってしまったお詫びと、発掘及び整理調査に携わっていただいた方々に心より感謝のお礼を、この場を借りて申し上げます。

第 36 表　下聖端遺跡出土玉類一覧表

	臼玉	ガラス小玉	土製丸玉	管玉	石製模造品	時　　期	備　　考
H 5	2				1	古墳時代中期後葉	須恵器高坏 3
H 6					1	古墳時代中期後葉	
H 7	9					古墳時代後期中葉	
H 14	10	1			2	古墳時代中期後葉	
H 15	20					古墳時代中期後葉	
H 16	10				3	古墳時代中期後葉	
H 17	41	1	2	3	3	古墳時代中期後葉	土製勾玉 1・須恵器坏蓋 1
H 18	51				1	古墳時代中期後葉	須恵器高坏蓋 1
H 19	64	3	1		2	古墳時代中期後葉	須恵器坏蓋 1
H 20	38					古墳時代中期後葉	
H 21	36					古墳時代中期後葉	
H 22	114	1	1	1	1	古墳時代中期後葉	
H 24	16					古墳時代後期中葉	勾玉 1
H 25	7		3			古墳時代後期前葉	
H 27	1					古墳時代後期前葉	
H 31	16		6			古墳時代後期中葉	
H 36	11					古墳時代後期中葉	土製管玉 1・須恵器坏身 1
H 37	2					古墳時代後期中葉	須恵器坏蓋 1・坏身 1
H 41	1					平安時代中期	混入遺物
H 43	6					平安時代中期	混入遺物
H 44	6					平安時代中期	混入遺物
H 47	1					平安時代中期	混入遺物
Y 1	3					弥生時代後期	
Y 3	1					弥生時代後期	
Y 4	4	1	1			弥生時代後期	
T 6	2					古墳時代後期前葉	
T 7	2					古墳時代後期前葉	
F 6	1						

下芝宮遺跡・下聖端遺跡 炭化材同定報告

株式会社　パリノ・サーヴェイ社

Ⅰ．下芝宮遺跡出土炭化材の樹種

1．試料

試料は、下芝宮遺跡のＨ２号住居址から検出された炭化材である。Ｈ２号住居址からは大量の炭化材が検出されているが、今回同定を行ったのは№10,22,39,68,80,83,121,126,137の９点である。本住居址は古墳時代中期末～後期初頭のものとされ、検出された炭化材は出土状況（図１）から当時の建築材と思われる。

2．方法

試料を乾燥させたのち木口・柾目・板目の３断面を作製、実体鏡で観察・同定した。また、写真図版（図版１）は走査型電子顕微鏡（無蒸着・反射電子検出型）で撮影した。

3．結果

同定結果を検出遺構などとともに表１に示す。９点の試料は、以下の３種類（Taxa）に同定された。試料の主な解剖学的特徴や現生種の一般的な性質は以下のようなものである。なお、一般的性質などについては「木の事典　第１巻～第17巻」（1979～1982）を参考にした。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種（Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Cerris sp.）

ブナ科

環孔材で孔圏部は１列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減しながら放射状に配列する。大道管は横断面では円形、小道管では角張った円形、ともに単独。単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では柵状となる。放射組織は同性、単列、１～20細胞高のものと複合組織よりなる。柔組織は周囲状および短接線状。年輪界は明瞭。

クヌギ節は、コナラ亜属（落葉ナラ類）の中で、果実（いわゆるドングリ）が２年目に熟するグループで、クヌギ（Quercus acutissia）とアベマキ（Q. variabilis）の２種類がある。クヌギは本州（岩手・山形県以南）・四国・九州・琉球に、アベマキは本州（山形・静岡県以西）・四国・

九州（北部）に分布するが、中国地方に多い。クヌギは樹高15mになる高木で、材は重硬である。古くから薪炭材として利用され、人里近くに萌芽林として造林されることも多く、薪炭材としては国産材中第一の重要材である。このほかに器具・杭材・楷木などの用途が知られる。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種（Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Prinussp.）
ブナ科

環孔材で孔圏部は１～２列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減しながら火炎状に配列する。大道管の管壁は厚く、横断面では円形～楕円形、小道管は管壁は中庸～薄く、横断面では多角形、ともに単独。単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では柵状～網目状となる。放射組織は同性、単列、１～20細胞高のものと複合組織よりなる。柔組織は周囲状および短接線状。柔細胞はしばしば結晶を含む。年輪界は明瞭。

コナラ節は、コナラ亜属（落葉ナラ類）の中で、果実（いわゆるドングリ）が１年目に熟するグループで、モンゴリナラ（Quercus mongolica）とその変種ミズナラ（Q.mongolica var. grosseserrata）、コナラ（Q. serrata）、ナラガシワ（Q. aliena）、カシワ（Q. dentata）といくつかの変・品種を含む。モンゴリナラは北海道・本州（丹波地方以北）に、ミズナラ・カシワは北海道・本州・四国・九州に、ナラガシワは本州（岩手・秋田県以南）・四国・九州に分布する。コナラは樹高20mになる高木で、古くから薪炭材として利用され、植栽されることも多かった。材は重硬で、加工は困難、器具・機械・樽材などの用途が知られ、薪炭材としてはクヌギ（Q. acutissima）に次ぐ優良材である。枝葉を緑肥としたり、虫えいを染料とすることもある。

・イネ科（Gramineae）

維管束が基本組織の中に散在する不斉中心柱をもつ。イネ科には稈（茎）が木質化するものとしないものがある。前者にはタケ・ササ類などが含まれる。№80の試料は、肉眼観察の結果から稈が木質化するタケ亜科ではなく、イネやススキのようなイネ科草本と思われる。

４．考察

Ｈ２号住居址から検出された９点の炭化材の樹種は、コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種７点、コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種１点、イネ科草本１点であった。このうち、９点中８点を占めるコナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種とコナラ属コナラ亜属コナラ節の一種は共に強度が強く建築材として優れており、遺跡での報告例も多い樹種である。現在の植生からみて、当時遺跡周辺で入手可能な樹木であったと思われる。イネ科の一種は屋根材等に用いられたものと考えるのが妥当であろう。

今回同定した点数は９点と出土した材の数量からみれば少なく、この結果から当時の建築材の樹種選択の傾向等は判断できない。Ｈ２号住居址からは今回の９点の他にも多くの炭化材が検出されており、今後これらの炭化材の同定を行ったうえで検討すべきと考える。

参考文献

平井信二（1979～1982）　木の事典　第１巻～第17巻，かなえ書房．

表１　下芝宮遺跡出土炭化材の樹種

No.	検出遺構	時　代	用　途	樹　種　名
10	Ｈ２号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
22	Ｈ２号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
39	Ｈ２号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種
68	Ｈ２号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
80	Ｈ２号住居址	古墳時代	建築材	イネ科
83	Ｈ２号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
121	Ｈ２号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
126	Ｈ２号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
137	Ｈ２号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種

II．下聖端遺跡出土炭化材の樹種

１．試料

試料は下聖端遺跡のＨ５号住居址から出土した炭化材166点である。Ｈ５号住居址は古墳時代中期末～後期初頭に属し、試料は出土状況（図２）から建築材と思われる。

２．方法

試料を乾燥させたのち木口・柾目・板目の３断面を作製、実体鏡で観察・同定した。実体鏡での同定が困難な試料については走査型電子顕微鏡（無蒸着･反射電子検出型）で観察･同定を行った。また、写真図版（図版２・３）は電子顕微鏡を用いて撮影した。

３．結果

同定結果を検出遺構などとともに表２(1)～(5)に示す。166点の試料は、確実な同定ができず類似

種としたものもあるが160点が以下の５種類（Taxa）に同定された。試料の主な解剖学的特徴や現生種の一般的な性質は以下のようなものである。なお、一般的性質などについては「木の事典　第１巻～第17巻」(1979～1982) を参考にした。

・モミ属の一種（Abies sp.）　　マツ科

早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は薄く、年齢界は明瞭。樹脂細胞はないが、傷害樹脂道が認められることがある。放射仮道管はなく、放射柔細胞の壁は粗く、末端壁にはじゅず状の肥厚が認められる。分野壁孔はスギ型で１～４個。放射組織は単列、１～20細胞高。

モミ属には、モミ（Abies　firma)、ウラジロモミ（A.　homolepis)、アオモリトドマツ（A. mariesii)、シラベ（A. veitchii)、アカトドマツ（A. sachalinensis）の５種があり、アカトドマツを除く４種はいずれも日本特産種である。モミは本州（秋田・岩手県以南）・四国・九州の低地～山地に、ウラジロモミは本州中部（福島県以南）・紀伊半島・四国の山地～亜高山帯に、アオモリトドマツは本州（福島県以北）の亜高山～高山帯に、シラベは本州中部（福島県以南）・奈良県・四国に、アカトドマツは北海道に分布する常緑高木である。モミを除いては山地～高山・寒冷地に生育する。モミの材はやや軽軟で、強度は小さく、割裂性は大きい。加工は容易で、保存性は低い。棺や卒塔婆など葬祭具に用いられるほか、建具・器具・家具・建築材など各種の用途が知られている。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種（Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Cerris sp.）
ブナ科

環孔材で孔圏部は１列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減しながら放射状に配列する。大道管は横断面では円形、小道管は横断面では角張った円形、ともに単独。単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では柵状となる。放射組織は同性、単列、１～20細胞高のものと複合組織よりなる。柔組織は周囲状および短接線状。年輪界は明瞭。

クヌギ節は、コナラ亜属（落葉ナラ類）の中で、果実（いわゆるドングリ）が２年目に熟するグループで、クヌギ（Quercus acutissima）とアベマキ（Q. variabilis）の２種類がある。クヌギは本州（岩手・山形県以南）・四国・九州・琉球に、アベマキは本州（山形・静岡県以西）・四国・九州（北部）に分布するが、中国地方に多い。クヌギは樹高15mになる高木で、材は重硬である。古くから薪炭材として利用され、人里近くに萌芽林として造林されることも多く、薪炭材としては国産材中第一の重要材である。このほかに器具・杭材・楷木などの用途が知られる。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種（Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Prinus sp.）
ブナ科

環孔材で孔圏部は１～２列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減しながら火炎状に配列する。大道管は管壁は厚く、横断面では円形～楕円形、小道管は管壁は中庸～薄く、横断面では多角形、ともに単独。単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では柵状～網目状となる。放射組織は同性、単列、１～20細胞高のものと複合組織よりなる。柔組織は周囲状および短接線状。柔細胞はしばしば結晶を含む。年輪界は明瞭。

コナラ節は、コナラ亜属（落葉ナラ類）の中で、果実（いわゆるドングリ）が１年目に熟するグループで、モンゴリナラ（Quercus mongolica）とその変種ミズナラ（Q.mongolica var. grosseserrata）、コナラ（Q. serrata）、ナラガシワ（Q. aliena）、カシワ（Q. dentata）といくつかの変・品種を含む。モンゴリナラは北海道・本州（丹波地方以北）に、ミズナラ・カシワは北海道・本州・四国・九州に、ナラガシワは本州（岩手・秋田県以南）・四国・九州に分布する。コナラは樹高20mになる高木で、古くから薪炭材として利用され、植栽されることも多かった。材は重硬で、加工は困難、器具・機械・樽材などの用途が知られ、薪炭材としてはクヌギ（Q. acutissima）に次ぐ優良材である。枝葉を緑肥としたり、虫えいを染料とすることもある。

・コナラ属コナラ亜属の一種（Quercus subgen. Lepidobalanus sp.）　ブナ科

環孔材で単列の放射組織と複合放射組織をもつことからコナラ属コナラ亜属のクヌギ節かコナラ節であるが、試料の保存状態が悪く両者を分けるには至らなかった。そのため、コナラ属コナラ亜属を一種とした。

・クリ類似種（cf. Castanea crenata）　ブナ科

環孔材で孔圏部は１～４列またはそれ以上、孔圏外でやや急激に管径を減じたのち漸減しながら火炎状に配列する。大道管は単独、横断面では円形～楕円形、小道管は単独および２～３個が斜（放射）方向に複合、横断面では角張った楕円形～多角形。道管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では柵状～網目状となる。放射組織は同性、単列、１～15細胞高。柔組織は周囲状および短接線状。年輪界は明瞭。今回同定した試料はいずれも小さく、コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種である可能性もあるため全て類似種とした。

クリは北海道南西部・本州・四国・九州の山野に自生し、また植栽される落葉高木である。材はやや重硬で、強度は大きく、加工はやや困難であるが耐朽性が高い。土木・建築・器具・家具・薪炭材、楷木や海苔粗朶などの用途が知られている。

・イネ科タケ亜科（Gramineae subfam. Bambusoideae）

維管束が基本組織の中に散在する不斉中心柱をもつ。タケ亜科は、タケ・ササ類であるが解剖学的特徴では区別できない。

4．考察

同定の結果はモミの一種５点(類似種を含む)、コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種７点、コナラ属 ナラ亜属コナラ節の一種　143点、コナラ属コナラ亜属の一種１点、クリ類似種３点、タケ亜科の一種１点、不明６点であった。同定した樹種はいずれも建築材として適した樹種であり、現在の植生からみて、当時遺跡周辺で入手可能な樹種であったと思われる。検出された炭化材が住居址のどの部位に用いられていたのか分からないが、コナラ節が圧倒的に多く検出されていることを考えると、Ｈ５号住居址では多くの部位にコナラ節の樹木を使用していたと思われる。周辺の同時代の遺跡でも小諸市の和田原遺跡で４軒の住居址の建築材とされる炭化材は82点中74点がコナラ節という同定結果が得られている（パリノ・サーヴェイ株式会社，1989)。これらをみると、本地域周辺では住居の建築材としてコナラ節の樹木がよく用いられていたのだろう。しかし、コナラ節の材は燃えても比較的残り易い樹種であるため、選択的に残存した可能性もある。今後更に資料の蓄積を待って検討する必要があると同時に、当時の森林植生の復元を他の植物化石（葉・種子・花粉など）から検討してみる必要もある。

参考文献

平井　信二（1979～1982）　「木の事典　第１巻～第17巻」，かなえ書房.

パリノ・サーヴェイ株式会社（1989）　和田原遺跡出土炭化材同定，「和田原・鎌田原―長野県小諸市和田原・鎌田原遺跡発掘調査報告書―」，小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第13集，小諸市教育委員会，p83-88.

表２　下聖端遺跡出土炭化材の樹種(1)

No.	検出遺構	時　　代	用　　途	樹　種　名
1	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
3	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
4	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
5	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
9	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
10	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
13	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
14	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
15	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
17	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
18	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
20	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
26	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
27	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	クリ類以種
28	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
29	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	タケ亜科
31	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
32	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
33	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	広葉樹（環孔材）
35	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
36	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
37	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
38	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
39	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
40	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
42	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
43	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
48	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
49	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
53	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
54	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
55	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	広葉樹（環孔材）
56	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	モミ属の一種
58	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
60	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種

表 2　下聖遺跡出土炭化材の樹種(2)

No.	検出遺構	時　代	用　途	樹　種　名
62	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
65	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
66	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
67	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
71	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
74	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
75	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種
76	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	モミ属類似種
77	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種
78	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
79	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節類似種
80	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	広葉樹
81	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
83	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
84	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
85	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
87	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
89	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
90	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
92	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
95	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種
97	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
101	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
102	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
104	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
105	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
107	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
108	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
110	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
113	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
114	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
115	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
116	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
117	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
118	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種

表２　下聖端遺跡出土炭化材の樹種(3)

No.	検出遺構	時　　代	用　　途	樹　種　名
120	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
121	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
122	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
123	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	広葉樹（環孔材）
124	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
131	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
132	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
134	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
137	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
139	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
140	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
141	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	広葉樹（環孔材）
144	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
145	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	モミ属の一種
146	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種
148	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種
149	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
150	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
151	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
155	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
156	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
157	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
159	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
160	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
161	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
162	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種
163	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
166	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
169	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
170	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	モミ属の一種
171	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	モミ属の一種
172	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
173	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
174	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
176	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種

表 2　下聖端遺跡出土炭化材の樹種(4)

No.	検出遺構	時　代	用　途	樹　種　名
179	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	クリ類似種
183	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
184	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
185	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
186	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
189	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
190	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
192	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
194	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
195	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
197	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
198	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属の一種
199	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
200	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
202	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
206	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
207	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
209	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
212	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
213	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
216	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
217	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
218	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
219	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
224	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
225	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
226	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
227	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
230	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
231	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
232	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
233	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
234	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
235	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
239	H 5 号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種

表２　下聖端遺跡出土炭化材の樹種(5)

No.	検出遺構	時　　代	用　　途	樹　種　名
240	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
242	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
243	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
244	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
248	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
249	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
253	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
255	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
258	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
259	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
260	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
262	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
263	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	クリ類似種
264	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	不明
266	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
267	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
269	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
270	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
272	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
274	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
275	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
276	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
277	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
279	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
281	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
282	Ｈ５号住居址	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種

III．下聖遺跡II出土炭化材の樹種

１．試料

試料は下聖端遺跡IIの４軒の住居址（H15・H18・H22・H47）から出土した炭化材249点である。試料には作業の便宜上１～249の通し番号を付けた。(表３)。検出された住居址はH15号住居

址が古墳時代中期末、H18号住居址が古墳時代中期末、H22号住居址が古墳時代中期末、H47号住居址が平安時代中期のもとのされている。試料はいずれも出土状況（図３～６）から建築材と思われる。

２．方法

試料を乾燥させたのち木口・柾目・板目の３断面を作成、実体鏡で観測・同定した。実体鏡での同定が困難な試料については走査型電子顕微鏡（無蒸着・反射電子検出型）で観測・同定を行った。写真図版（図版４～６）は走査型電子顕微鏡を用いて撮影した。

３．結果

同定結果を検出遺構などとともに表３(1)～(8)に示す。249点の試料は、確実な同定ができず類似種としたものもあるが232点が以下の10種類(Taxa)に同定された。試料の主な解剖学的特徴や現生種の一般的な性質は以下のようなものである。なお、一般的性質などについては「木の事典第１巻～第17巻」(1979～1982) を参考にした。

・モミ属の一種（Abies sp）　マツ科

早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は薄く、年輪界は明瞭。樹脂細胞はないが、傷害樹脂道が認められることがある。放射仮道管はなく、放射柔細胞の壁は粗く、末端壁にはじゅず状の肥厚が認められる。分野壁孔はスギ型で１～４個。放射組織は単列、１～20細胞高。

モミ属には、モミ(Abies firma)、ウラジロモミ(A.homolepis)、アオモリトドマツ(A.mariesii)、シラベ（A.veitchii)、アカトドマツ（A.sachalinensis）の５種類があり、アカドマツを除く４種はいずれも日本特産種である。モミは本州（秋田・岩手県以南）・四国・九州の低地～山地に、ウラジロモミは本州中部（福島県以南）・紀州半島・四国の山地～亜高山帯に、アオモリトドマツは本州（福島県以北）の亜高山～高山帯に、シラベは本州中部（福島県以南）・奈良県・四国に、アカトドマツは北海道に分布する常緑高木である。モミを除いては山地～高山・寒冷地に生育する。モミの材はやや軽軟で、強度は小さく、割裂性は大きい。加工は容易で、保存性は低い。棺や卒塔婆など葬祭具に用いられるほか、建具・器具・家具・建築材など各種の用途が知られている。

・カバノキ属の一種（Betula sp）　カバノキ科

散孔材で、管孔は放射方向に２～４個が複合、横断面では楕円形、管壁は薄い。道管は階段穿孔を有し、段(bar)数は20～30、壁孔は密に対列状～交互状に配列する。放射組織は同性、１～４

細胞幅、１～30細胞高であまり目立たない。柔組織はターミナル状および散在状～短接線状。年輪界はやや不明瞭。

カバノキ属は、シラカンバ（Betula platyphylla var. japonica）、ダケカンバ（B. ermanii）など11種が自生し、主として本州中北部・北海道の山地・高知・寒冷地などに生育する落葉高木～低木である。このうちミズメ（B. grossa）は日本固有種で、本州（岩手県以南）・四国・九州の山地に生育する。ミズメの材は重硬・強靱で、加工は困難ではなく、各種の道具・器具材、木地・家具材などに用いられる。梓弓に使われるアズサを本種とする見解もある。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種（Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Cerris sp.）

ブナ科

環孔材で孔圏部は１列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減しながら放射状に配列する。大道管は横断面では円形、小道管は横断面では角張った円形、ともに単独。単穿孔を持ち、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では柵状となる。放射組織は同性、単列、１～20細胞高のもと複合組織よりなる。柔組織は周囲状および短接線状。年輪界は明瞭。

クヌギ節は、コナラ亜属（落葉ナラ類）の中で、果実（いわゆるドングリ）が２年目に熟するグループで、クヌギ（Quercus acutissima）とアベマキ（Q. variabilis）の２種がある。クヌギは本州（岩手・山形県以南）・四国・九州・琉球に、アベマキは本州（山形・静岡県以西）・四国・九州（北部）に分布するが、中国地方に多い。クヌギは樹高15mになる高木で、材は重硬である。古くから薪炭材として利用され、人里近くに萌芽林として造林されることも多く、薪炭材としては国産材中第一の重要材である。このほかに器具・杭材、楷木などの用途が知られる。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種（Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Prinus sp.）

ブナ科

環孔材で孔圏部は１～２列、孔圏外で急激に環径を減じのち漸減しながら火炎状に配列する。大道管は管壁は厚く、横断面では円形～楕円形、小道管は管壁は中庸～薄く、横断面では多角形、ともに単独。単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では柵状～網目状となる。放射組織は同性、単列、１～20細胞高のもと複合組織よりなる。柔組織は周囲状および短接線状。柔細胞はしばしば結晶を含む。年輪界は明瞭。

コナラ節は、コナラ亜属（落葉ナラ類）の中で、果実（いわゆるドングリ）が１年目に熟するグループで、モンゴリナラ（Quercus mongolica）とその変種ミズナラ（Q. mongolica var. grosseserrata）、コナラ（Q. serrata）、ナラガシワ（Q. aliena）、カシワ（Q. dentata）といくつかの変・品種を含む。モンゴリナラは北海道・本州（丹波地方以北）に、ミズナラ・カシワは北

海道・本州・四国・九州に、ナラガシワは本州（岩手・秋田県以南）・四国・九州に分布する。コナラ樹高20mになる高木で、古くから薪炭材として利用され、植栽されることも多かった。材は重硬で、加工は困難、器具・機械・樽材などの用途が知られ、薪炭材としてはクヌギ(Q. acutissima)に次ぐ優良材である。枝葉を緑肥としたり、虫えいを染料とすることもある。

・コナラ属コナラ亜属の一種（Quercus subgen. Lepidobalanus sp.）　ブナ科

環孔材で単列の放射組織と複合放射組織をもつことからコナラ属コナラ亜属のクヌギ節かコナラ節であるが、試料の保存状態が悪く両者を分けるには至らなかった。そのため、コナラ属コナラ亜属の一種とした。

・クリ類似種（cf. Castanea crenata）　ブナ科

環孔材で孔圏部は１～４列またはそれ以上、孔圏外でやや急激に管径を減じたのち漸減しながら火炎状に配列する。大道管は単独、横断面では円形～楕円形、小道管は単独および２～３個が斜（放射）方向に複合、横断面では角張った楕円形～多角形。道管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では柵状～網目状となる。放射組織は同性、単列、１～15細胞高。柔組織は周囲状および短接線状。年輪界は明瞭。今回同定した試料はいずれも小さく、コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種である可能性もあるため全て類似種とした。

クリは北海道南西部・本州・四国・九州の山野に自生し、また植栽される落葉高木である。材はやや重硬で、強度は大きく、加工はやや困難であるが耐朽性が高い。土木・建築・器具・家具・薪炭材、樽木や海苔粗朶などの用途が知られている。

・ケヤキ（Zelkova serrata）　ニレ科

環孔材で孔圏部は１～２列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。大道管は管壁は厚く、横断面では円形～楕円形、単独、小道管は管壁厚は中庸～薄く、横断面では多角形で複合管孔をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性III型、１～10細胞幅、１～30細胞高であるが、時に60細胞高を越える。しばしば結晶を含む。柔組織は周囲状。年輪界はやや不明瞭。

ケヤキは本州・四国・九州の谷沿いの肥沃地などに自生し、また屋敷林や並木として植栽される落葉高木で、時に樹高50mにも達する。材はやや重硬で、強度は大きいが、加工は困難でなく、耐朽性が高く、木理が美しい。建築・造作・器具・家具・機械・彫刻・薪炭材など各種の用途が知られ、国産広葉樹材の中で最良のものの一つに上げられる。

・ニレ科（Ulmaceae）

環孔材で孔圏部は１～２列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。大道管は管壁は厚く、横断面では円形～楕円形、単独、小道管は管壁厚は中庸～薄く、横断面では多角形で複合管孔をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性III型～同性。柔組織は周囲状。年輪界はやや不明瞭。以上の特司からニレ科のエノキ属・ケヤキ・ニレ属のいずれかであると思われるが、試料の保存状態が悪く板目の観察がよくできなかった。そのためニレ科の一種とした。

・ヤマグワ（Morus bombycis）　クワ科

環孔材で孔圏部は１～５列、晩材部へ向かって管径を漸減させ、のち塊状に複合する。大道管は管壁は厚く、横断面では楕円形、単独または２～３個が複合、小道管は管壁厚は中庸、横断面では多角形で複合管孔をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は密に交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性II～III型、１～６細胞幅、１～50細胞高で、しばしば結晶を含む。柔組織は周囲状～翼状および散在状。年輪界は明瞭。

ヤマグワは北海道・本州・四国・九州の山野に自生し、また植栽される落葉高木で、中国原産のカラグワ（マグワ）（Morus alba）・ロソウ（M. alba var. multicaulis）とともに多くの園芸品種があり、養蚕に利用されている。材の解剖学的特徴のみで、これらを区別することはできない。ヤマグワの材はやや重硬で強靱、加工はやや困難で、保存性は高い。装飾材や器具・家具材として用いられ、樹皮は和紙の原料や染料となり、果実は食用となる。

・イネ科タケ亜科（Gramineae subfam. Bambusoideae）

維管束が基本組織の中に散在する不斉中心柱をもつ。タケ亜科は、タケ・ササ類でもあるが解剖学的特徴では区別できない。

４．考察

同定の結果はモミ属の一種５点、カバノキ属の一種１点、コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種19点、コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種184点、コナラ属コナラ亜属の一種２点、ケヤキ４点(類似種を含む)、ニレ科２点、ヤマグワ２点、タケ亜科２点であった。

表４にこれらの樹種の住居址別の構成を示す。これをみると、同じ古墳時代でもH22号住居址はH15号住居址・H18号住居址とは樹種構成が違うことがわかる。周辺の古墳時代の遺跡で建築材を扱った例は、下聖端遺跡（パリノ・サーヴェイ株式会社、未公表）や小諸市の和田原遺跡（パリノ・サーヴェイ株式会社、1989）等があるが、これらの結果をみると、いずれもコナラ節が多

く用いられており今回のH15号住居址やH18号住居址と同じ様な結果となっている。この結果は、当時建築材の用材として主にコナラ属コナラ亜属コナラ節の一種を選択して使用していたように見えるが、H22号住居址のように樹種構成が異なるものもあり一概にはいいきれない。

H22号住居址は、H15号住居址やH18号住居址と比較すると構成樹種が豊富である。コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種が最も多く検出されているが、コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種もコナラ節と同数検出されており、コナラ節が他の住居址のように圧倒的に多いというほどではない。時代が新しくなる平安時代のH47号住居址の樹種構成がH18号住居址と似ていることを考えると、建築材の用材が時期によって大きく異なるということはなかったと思われる。H22号住居址の構成樹種が違う理由としては、住居の性格や材の保存過程、建築部材の用途の違い、当時の近辺の植生などに原因を求められるが、今回の結果から判断できない。本遺跡内には、H22号住居址と同時期の住居址が他にもあるので今後これらの住居址の建築材の同定や考古学的にみた住居址の性格の検討を行った上で明らかにしていくべきであろう。

参考文献

平井　信似（1979～1982）　「木の事典第１巻～第17巻」，かなえ書房。

パリノ・サーヴェイ株式会社（1989）　和田原遺跡出土炭化材同定，「和田原・鎌田原－長野県小諸市和田原・鎌田原遺跡発掘調査報告書－」，小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第13集，小諸市教育委員会，

パリノ・サーヴァイ株式会社（未公表）　下聖端遺跡出土炭化材の樹種，佐久市教育委員会

表3　下聖端遺跡Ⅱ出土炭化材の樹種(1)

No.	検出遺構・資料取りあげ番号		時　代	用　途	樹　種　名
1	H15号住居址	t1	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
2		t2	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
3		t3	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
4		t4	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
5		t5	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
6		t6	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
7		t7	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
8		t8	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
9		t9	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
10		t10	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
11		t12	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
12		t14	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
13		t15	古墳時代	建築材	不明
14		t16	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
15		t18	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
16		t19	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
17		t20	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
18		t21	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
19		t22	古墳時代	建築材	クリ類似種
20		t23	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
21		t24	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
22		t25	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
23		t26	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
24		t27	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
25		t28	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
26		t29	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
27		t30	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
28		t31	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
29		t32	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
30		t33	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
31		t34	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
32		t35	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
33		t36	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
34		t37	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種

表3　下聖端遺跡II出土炭化材の樹種(2)

No.	検出遺構・資料取りあげ番号		時　代	用　途	樹　種　名
35	H	t38	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
36	15	t39	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
37	号	t40	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
38	住	t41	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
39	居	t42	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
40	址	t43	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
41		t 1	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
42		t 2	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
43		t 3	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
44		t 4	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
45		t 6	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
46		t 7	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
47		t 8	古墳時代	建築材	クリ類似種
48	H	t 9	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
49		t10	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
50	18	t11	古墳時代	建築材	モミ属の一種
51		t12	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
52	号	t13	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
53		t14	古墳時代	建築材	モミ属の一種
54	住	t15	古墳時代	建築材	モミ属の一種
55		t16	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
56	居	t17	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
57		t18	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
58	址	t19	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
59		t20	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
60		t21	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
61		t22	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
62		t23	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
63		t24	古墳時代	建築材	不明
64		t25	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
65		t26	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
66		t27	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
67		t28	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種

表3　下聖端遺跡II出土炭化材の樹種(3)

No.	検出遺構・資料取りあげ番号		時　代	用　途	樹　種　名
68		t29	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
69		t30	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
70		t31	古墳時代	建築材	クリ類似種
71		t32	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
72		t33	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
73		t34	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
74		t35	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
75		t37	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
76		t38	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
77		t39	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
78		t40	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
79	H	t41	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
80		t42	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
81	18	t43	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
82		t45	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
83	号	t46	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
84		t48	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
85	住	t49	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
86		t50	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
87	居	t51	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
88		t52	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
89	址	t53	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
90		t55	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
91		t56	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
92		t58	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
93		t59	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
94		t60	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
95		t61	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
96		t62	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
97		t63	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
98		t64	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
99		t65	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
100		t66	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
101		t67	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種

表3　下聖端遺跡II出土炭化材の樹種(4)

No.	検出遺構・資料取りあげ番号		時　代	用　途	樹　種　名
102		t68	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
103		t70	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
104		t72	古墳時代	建築材	不明
105		t73	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
106		t74	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
107		t75	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
108		t76	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
109		t77	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
110		t78	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
111		t79	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
112		t80	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
113	H	t81	古墳時代	建築材	不明
114		t82	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
115	18	t83	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
116		t84	古墳時代	建築材	クリ類似種
117	号	t85	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
118		t86	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
119	住	t87	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
120		t88	古墳時代	建築材	クリ類似種
121	居	t89	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
122		t90	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
123	址	t91	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
124		t92	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
125		t93	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
126		t95	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
127		t96	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
128		t97	古墳時代	建築材	不明
129		t98	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
130		t99	古墳時代	建築材	不明
131		t100	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
132		t101	古墳時代	建築材	クリ類似種
133		t102	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
134		t103	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
135		t104	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種

表3　下聖端遺跡II出土炭化材の樹種(5)

No.	検出遺構・資料取りあげ番号		時　代	用　途	樹　種　名
136		t105	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
137		t106	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
138		t107	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
139		t108	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
140		t109	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
141		t111	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
142		t112	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
143		t113	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
144		t114	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
145		t115	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
146		t116	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
147	H	t117	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
148		t118	古墳時代	建築材	クリ類似種
149	18	t119	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
150		t120	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
151	号	t121	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
152		t123	古墳時代	建築材	タケ亜科
153	住	t124	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
154		t125	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
155	居	t126	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
156		t127	古墳時代	建築材	クリ類似種
157	址	t128	古墳時代	建築材	不明（小枝）
158		t129	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
159		t130	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
160		t131	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
161		t132	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
162		t133	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
163		t134	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
164		t135	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
165		t136	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
166		t137	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
167		t138	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
168		t139	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
169		t140	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種

表３　下聖端遺跡Ⅱ出土炭化材の樹種(6)

No.	検出遺構・資料取りあげ番号		時　代	用　途	樹　種　名
170	H 18 号住居址	t142	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
171		t143	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
172		t144	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
173		t145	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
174		t147	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属の一種
175		t148	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
176		t149	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
177		t150	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
178		t151	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
179		t152	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
180		t153	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
181		t154	古墳時代	建築材	クリ類似種
182	H 22 号住居址	t 1	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
183		t 2	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節類似種
184		t 3	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
185		t 4	古墳時代	建築材	タケ亜科
186		t 5	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
187		t 8	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
188		t 9	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
189		t10	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節類似種
190		t11	古墳時代	建築材	広葉樹（環孔材）
191		t12	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節類似種
192		t13	古墳時代	建築材	不明
193		t15	古墳時代	建築材	広葉樹（散孔材Ａ）
194		t16	古墳時代	建築材	広葉樹（散孔材Ｂ）
195		t17	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
196		t18	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節類似種
197		t19	古墳時代	建築材	ケヤキ
198		t20	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種
199		t21	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種
200		t22	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節類似種
201		t23	古墳時代	建築材	不明
202		t25	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種

表３　下聖端遺跡Ⅱ出土炭化材の樹種(7)

No.	検出遺構・資料取りあげ番号		時　代	用　途	樹　種　名
203		t26	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属の一種
204		t27	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種
205		t28	古墳時代	建築材	クリ類似種
206		t29	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
207		t31	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節類似種
208		t32	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
209		t33	古墳時代	建築材	ケヤキ
210		t36	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
211		t37	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種
212		t39	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
213	H	t40	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
214		t41	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
215	22	t42	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種
216		t43	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種
217	号	t45	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種
218		t46	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種
219	住	t47	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種
220		t48	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種
221	居	t50	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
222		t51	古墳時代	建築材	ニレ科
223	址	t52	古墳時代	建築材	広葉樹（環孔材）
224		t53	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節類似種
225		t54	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
216		t55	古墳時代	建築材	広葉樹（環孔材Ａ）
227		t56	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種
228		t57	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種
229		t58	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
230		t59	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
231		t60	古墳時代	建築材	ニレ科
232		t61	古墳時代	建築材	ケヤキ
233		t62	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種
234		t63	古墳時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
235		t65	古墳時代	建築材	不明

表3　下聖端遺跡II出土炭化材の樹種(8)

No.	検出遺構・資料取りあげ番号		時　代	用　途	樹　種　名
236	H47号住居址	t1	平安時代	建築材	ヤマグワ
237		t2	平安時代	建築材	ヤマグワ
238		t3	平安時代	建築材	モミ属類似種
239		t4	平安時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
240		t5	平安時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
241		t6	平安時代	建築材	クリ類似種
242		t7	平安時代	建築材	モミ属類似種
243		t8	平安時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
244		t9	平安時代	建築材	針葉樹
245		t10	平安時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
246		t11	平安時代	建築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
247		t12	平安時代	建築材	カバノキ属の一種
248		t13	平安時代	建築材	不明
249		t14	平安時代	建築材	広葉樹

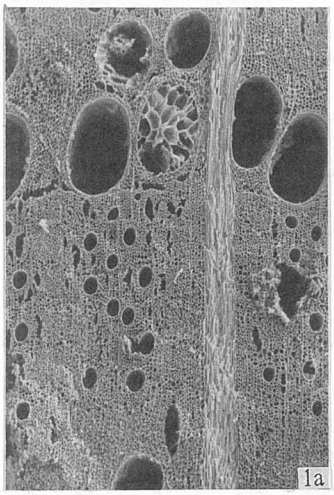
表4　下聖跡遺跡IIの住居址別にみた建築材の樹種構成

樹　種　名	H15	H18	H22	H47	合計
モミ属		3		2	5
カバノキ属				1	1
コナラ亜属		1	1		2
クヌギ節			19		19
コナラ節	38	122	19	5	184
クリ類似種	1	8	1	1	11
ニレ科			2		2
ケヤキ			4		4
ヤマグワ				2	2
タケ亜科		1	1		2
不明	1	6	7	3	17

下芝宮移籍出土炭化材図版説明

図版１

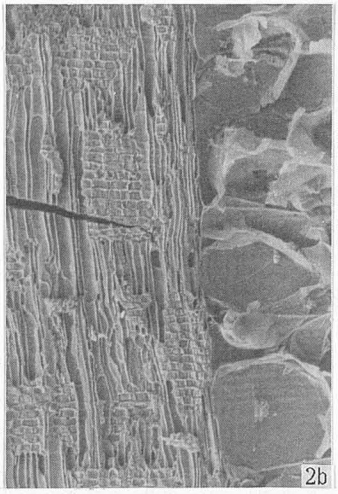
写真番号	樹　種　名	資料番号	断面	倍率
1a	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種	No.39	木口	x27.3
1b	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種	No.39	柾目	x54.6
1c	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種	No.39	板目	x54.6
2a	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種	No.68	木口	x27.3
2b	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種	No.68	柾目	x54.6
2c	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種	No.68	板目	x54.6
3	イネ科	No.80	横断面	x27.3


1a

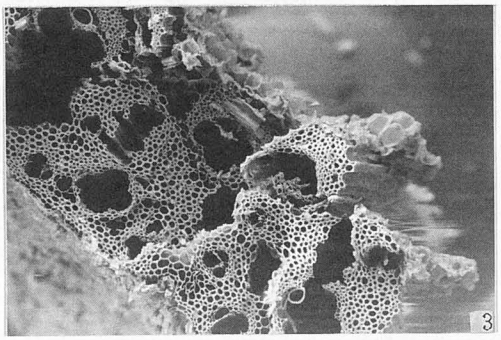
1b

1c

2a


2b

2c

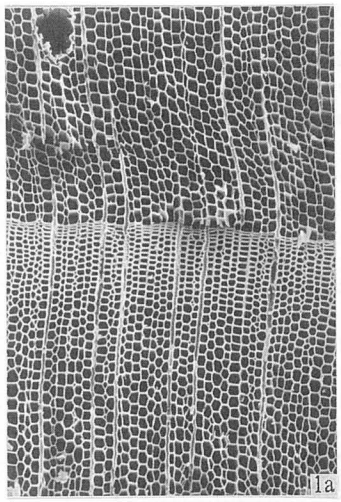

3

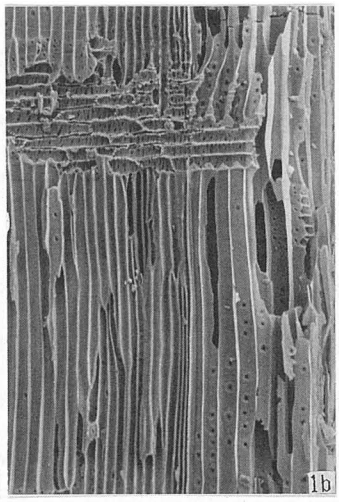
図版 2

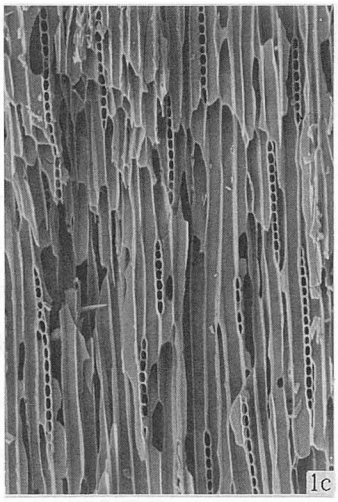
写真番号	樹　種　名	資料番号	断面	倍率
1 a	モミ属の一種	No.170	木口	x54.6
1 b	モミ属の一種	No.170	柾目	x81.9
1 c	モミ属の一種	No.170	板目	x81.9
2 a	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種	No.95	木口	x27.3
2 b	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種	No.95	柾目	x54.6
2 c	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種	No.95	板目	x54.6
3 a	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種	No.262	木口	x39
3 b	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種	No.262	柾目	x54.6
3 c	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種	No.262	板目	x54.6

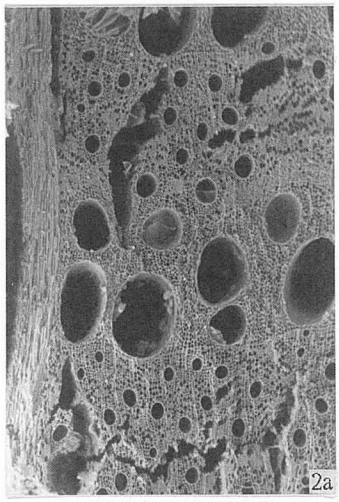
図版 3

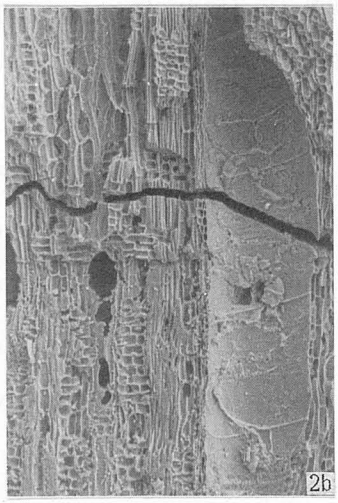
写真番号	樹　種　名	資料番号	断面	倍率
4 a	クリ類似種	No.179	木口	x27.3
4 b	クリ類似種	No.179	柾目	x54.6
4 c	クリ類似種	No.179	板目	x54.6
5	タケ亜科	No.29	横断面	x54.6

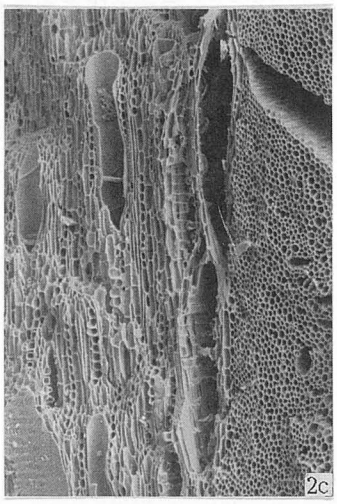

1a

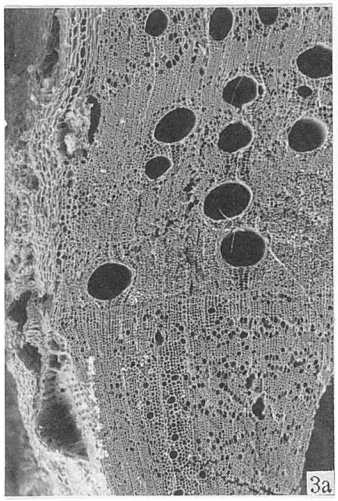

1b

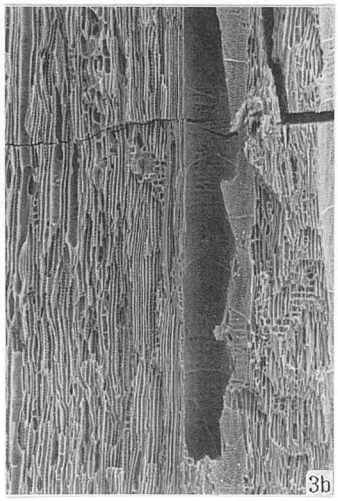

1c

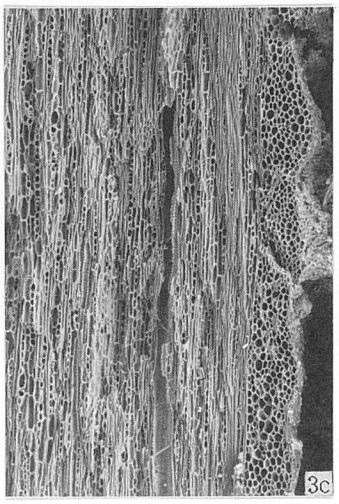

2a

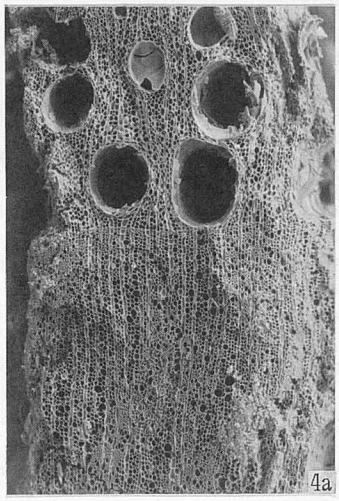

2b

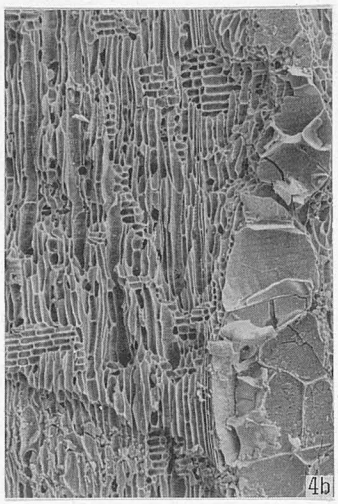

2c

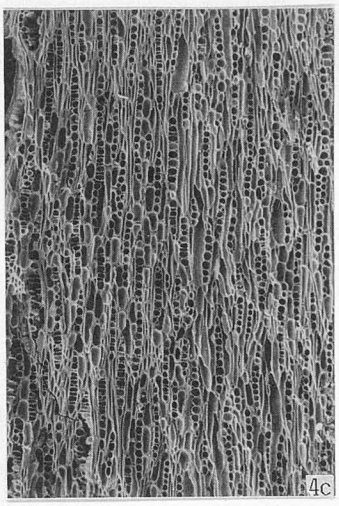

3a

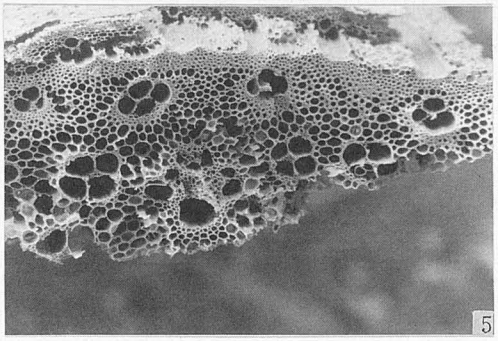

3b


3c


4a


4b


4c


5

図版 4

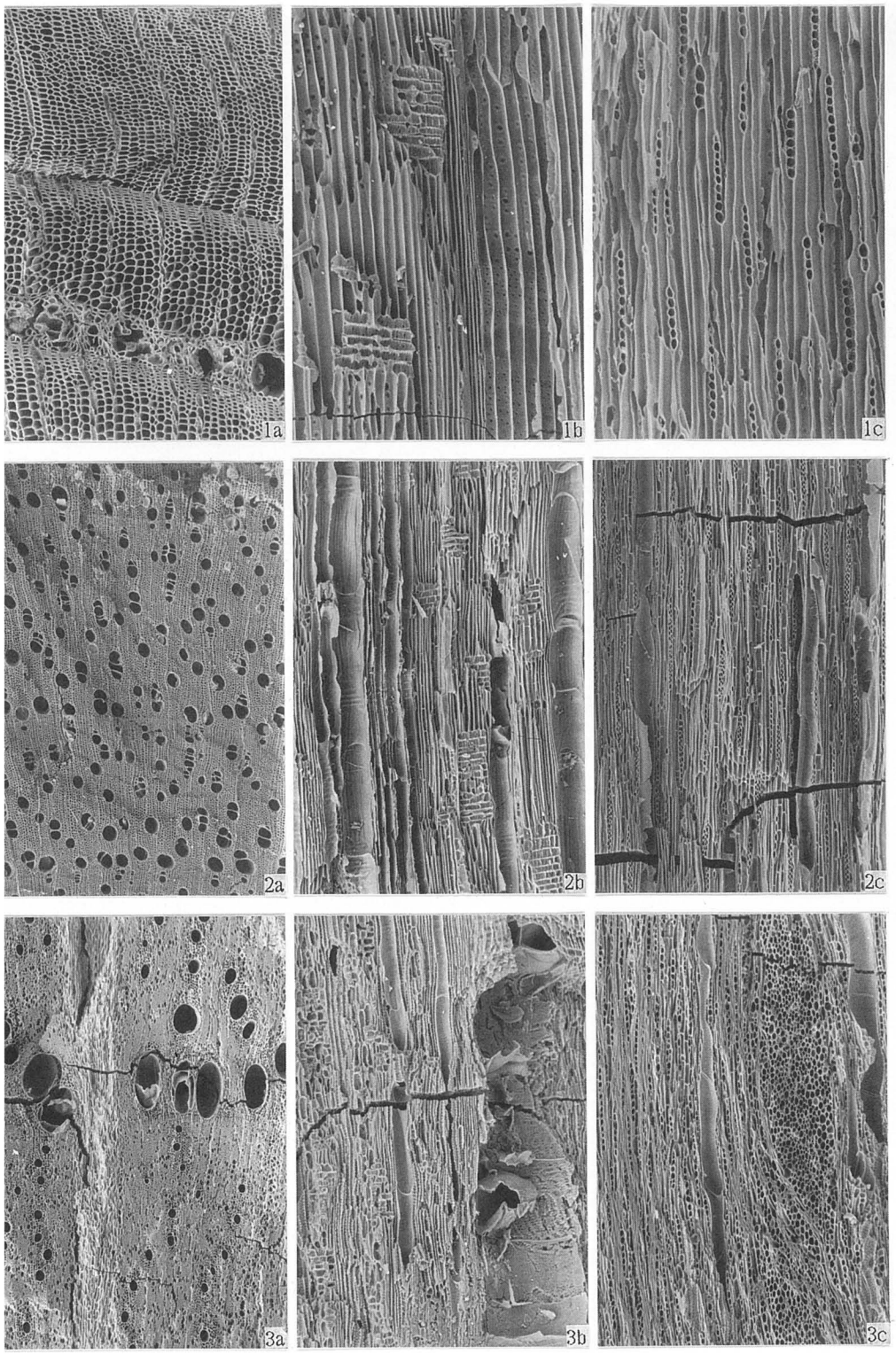
写真番号	樹　種　名	資料番号	断面	倍率
10a	モミ属の一種	No.54	木口	x54.6
10b	モミ属の一種	No.54	柾目	x81.9
10c	モミ属の一種	No.54	板目	x81.9
11a	カバノキ属一種	No.247	木口	x27.3
11b	カバノキ属一種	No.247	柾目	x54.6
11c	カバノキ属一種	No.247	板目	x54.6
12a	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種	No.217	木口	x27.3
12b	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種	No.217	柾目	x54.6
12c	コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種	No.217	板目	x54.6

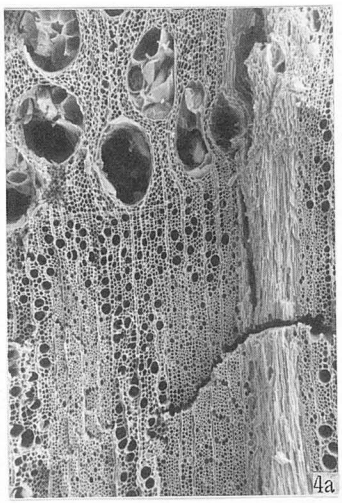
図版 5

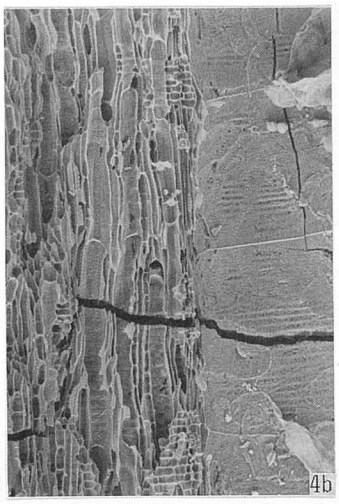
写真番号	樹　種　名	資料番号	断面	倍率
13a	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種	No.246	木口	x27.3
13b	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種	No.246	柾目	x54.6
13c	コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種	No.246	板目	x54.6
14a	クリ	No.241	木口	x27.3
14b	クリ	No.241	柾目	x54.6
14c	クリ	No.241	板目	x54.6
15a	ケヤキ	No.197	木口	x27.3
15b	ケヤキ	No.197	柾目	x54.6
15c	ケヤキ	No.197	板目	x54.6

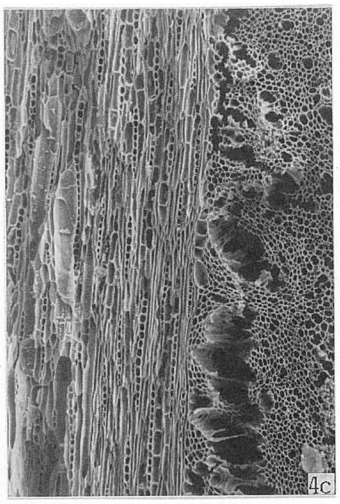
図版 6

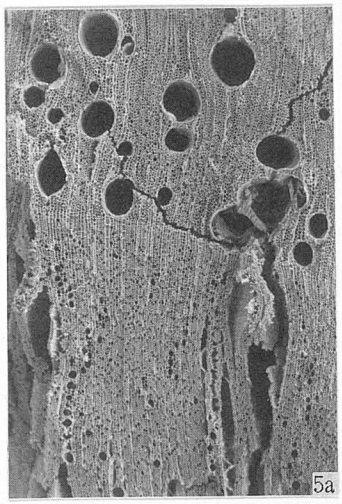
写真番号	樹　種　名	資料番号	断面	倍率
13a	ヤマグワ	No.237	木口	x27.3
13b	ヤマグワ	No.237	柾目	x54.6
13c	ヤマグワ	No.237	板目	x54.6
14	タケ亜科	No.152	横断面	x39

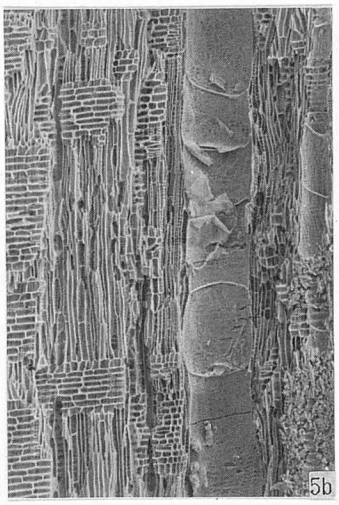

1a
1b
1c
2a
2b
2c
3a
3b
3c

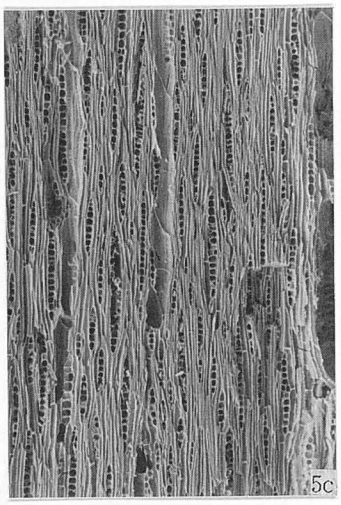

4a

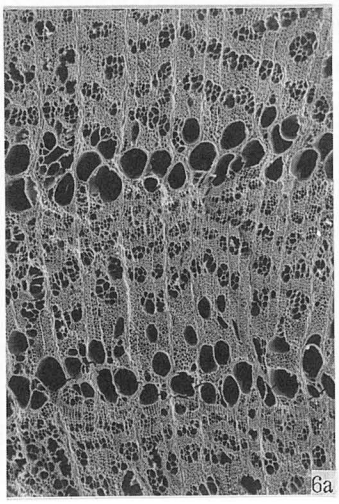

4b

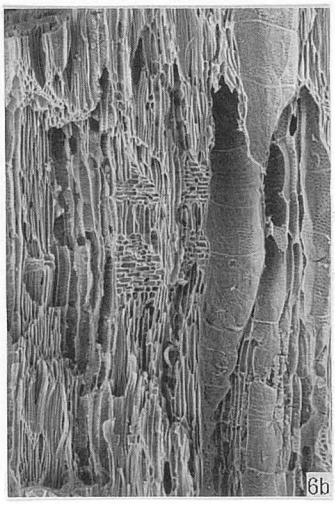

4c


5a

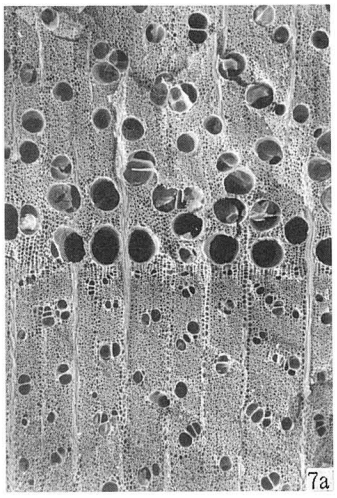

5b

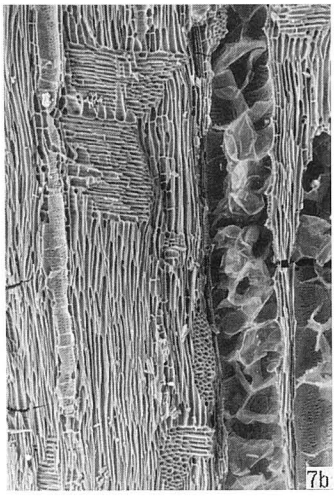

5c

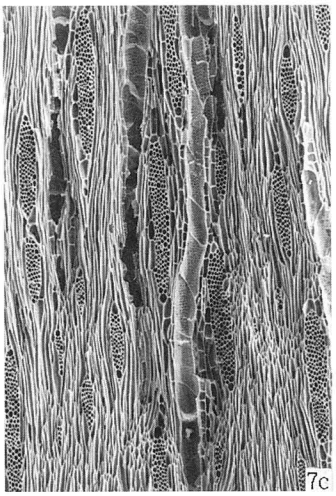

6a

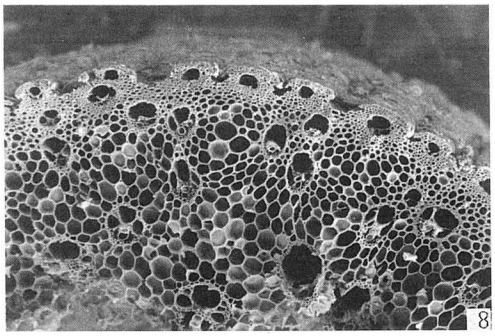

6b

6c


7a


7b


7c


8

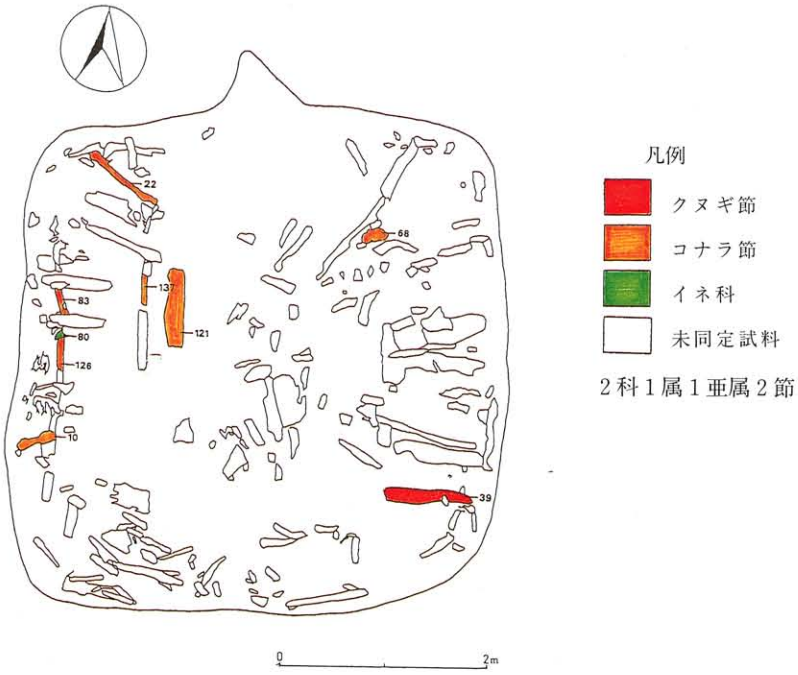


図1　下芝宮遺跡H２号住居址の炭化材出土状況

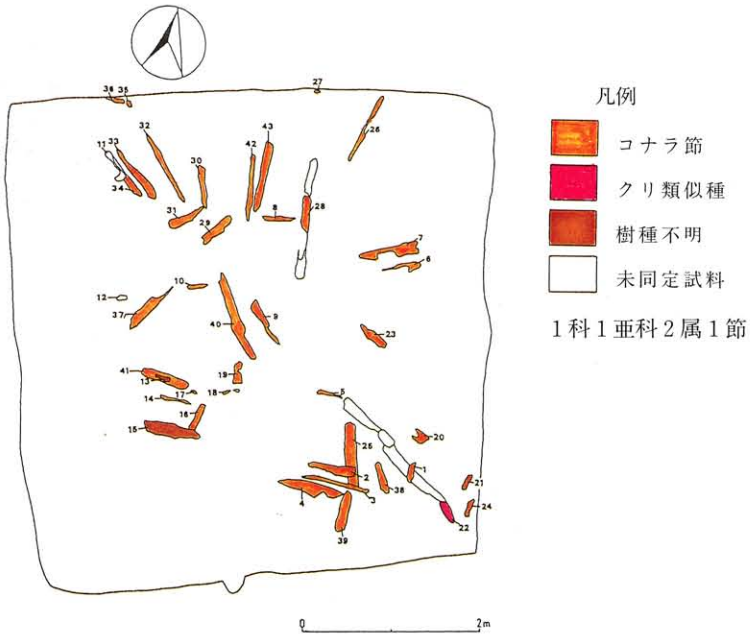
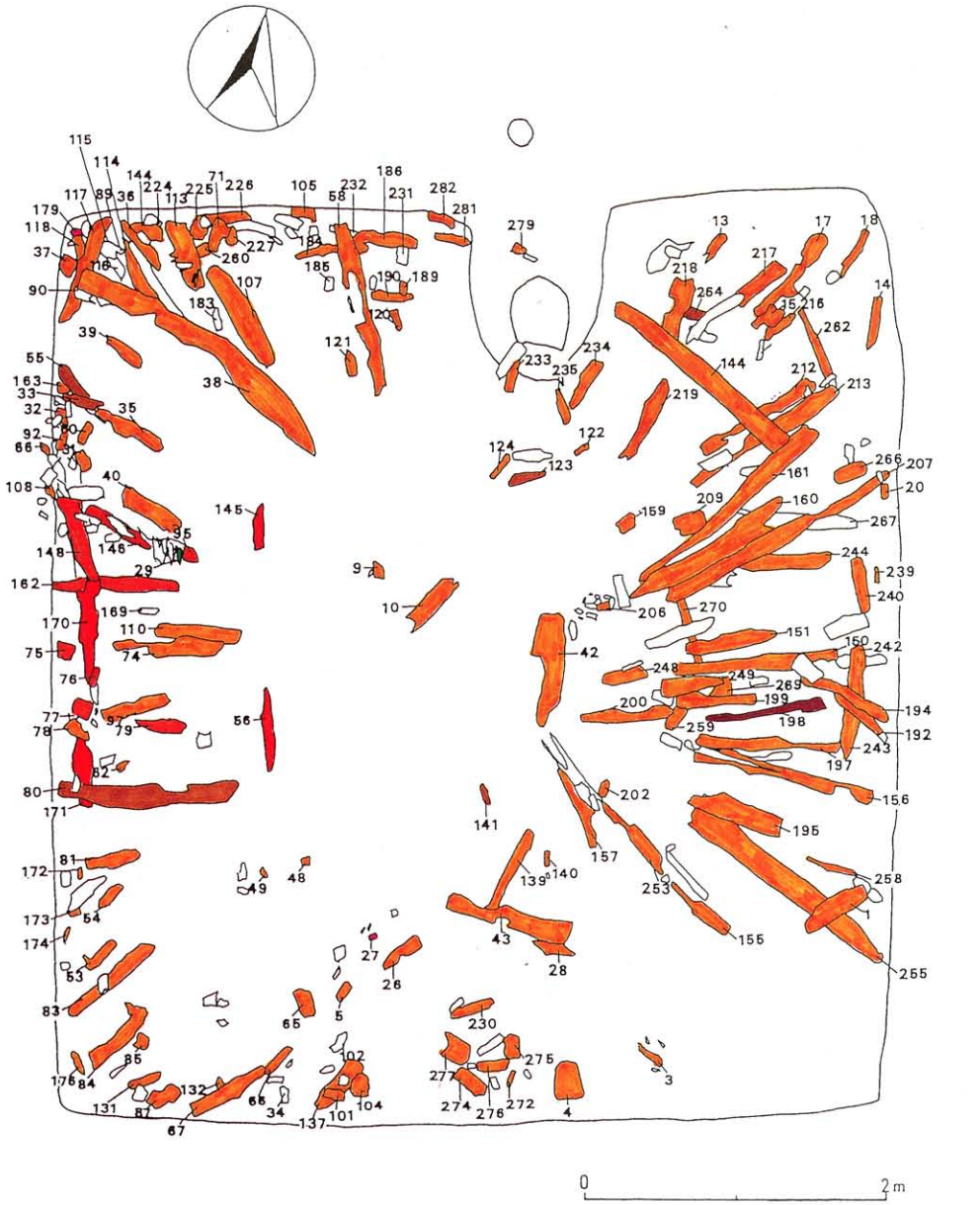


図３　下聖端遺跡Ⅱ　H15号住居址の炭化材出土状況
（試料番号は表３の試料取り上げ番号に対応している）

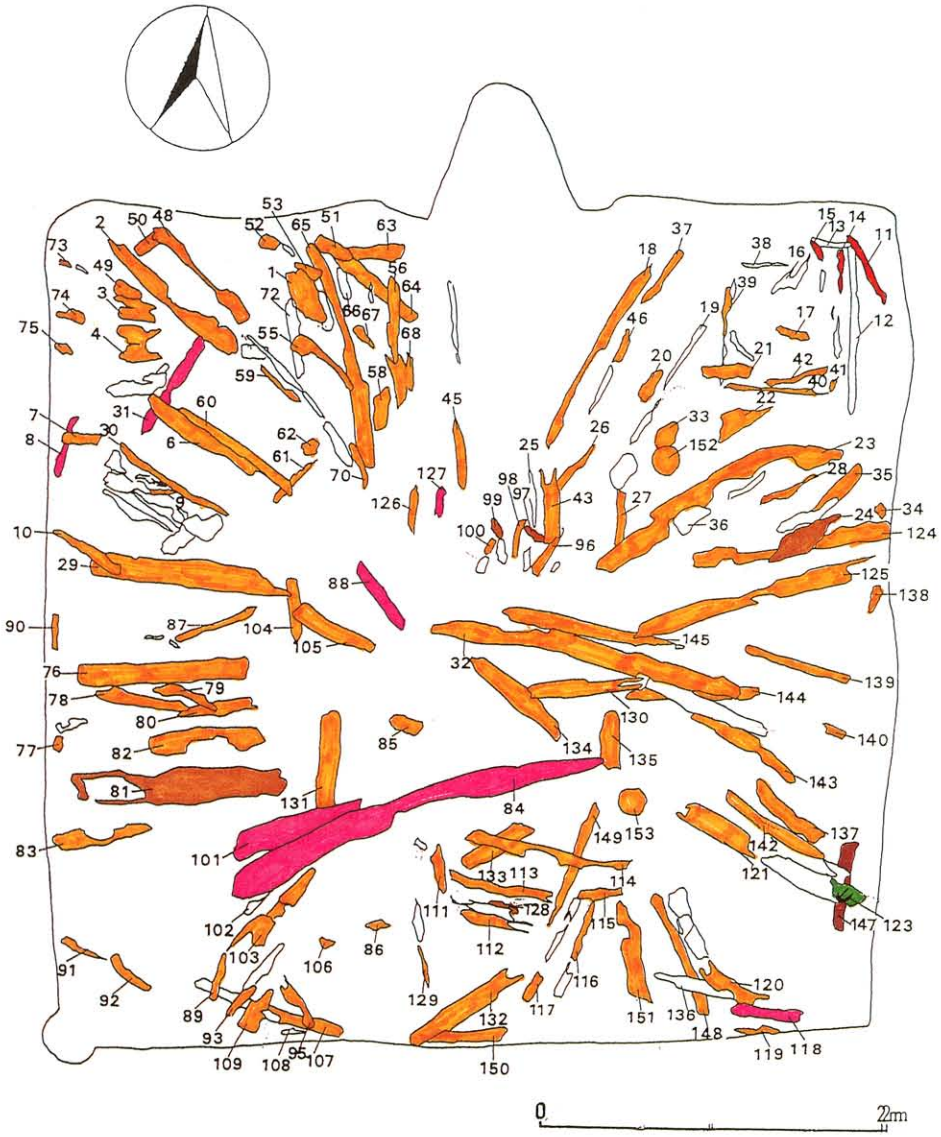


凡例

モミ属	クヌギ節	コナラ節	コナラ亜属
クリ類似種	タケ亜科	樹種不明	未同定試料

3科1亜科3属1亜属2節

図2　下聖端遺跡H5号住居址の炭化材出土状況



凡例

モミ属　コナラ節　コナラ亜属　クリ類似種

タケ亜科　樹種不明　未同定試料

3科1亜科3属1亜属1節

図4　下聖端遺跡II　H18号住居址の炭化材出土状況
（試料番号は表3の試料取り上げ番号に対応している）

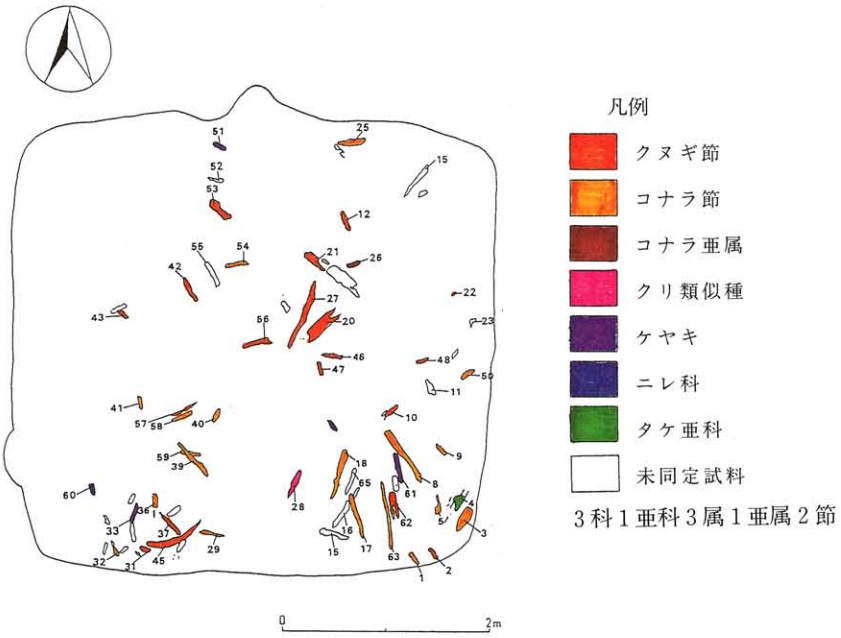


図5　下聖端遺跡II　H22号住居址の炭化材出土状況
（試料番号は表3の試料取り上げ番号に対応している）

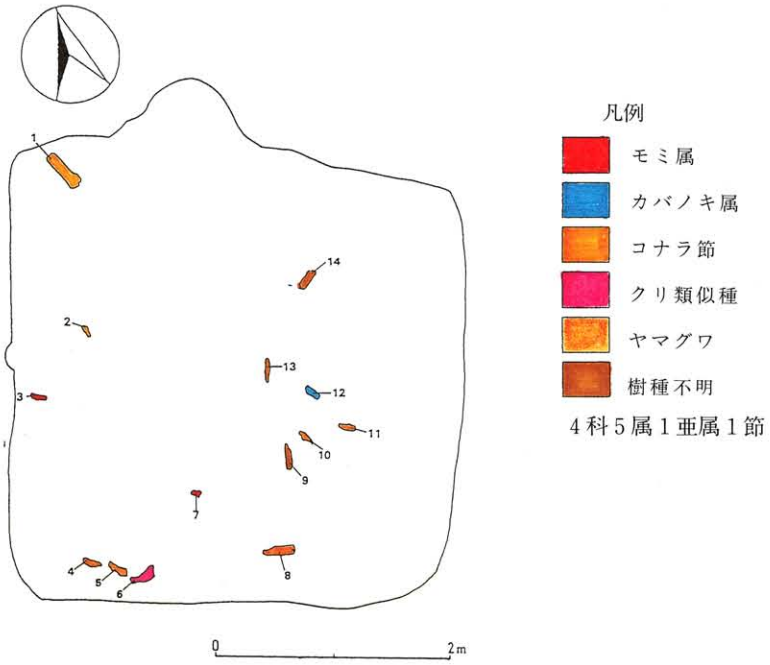


図6　下聖端遺跡II　H47号住居址の炭化材出土状況
（試料番号は表3の試料取り上げ番号に対応している）

下聖端遺跡出土獣骨について

宮　崎　重　雄

下聖端遺跡は、長野県佐久市長土呂に所在し、1988年度と1989年度に発掘調査が行われ、３軒の住居址から焼獣骨が出土し、溝状遺構からは馬骨が出土した。その調査結果をここに報告する。

１．Ｈ３号住居址　　古墳時代中期後葉

住居址内に設置されたカマド内の焼土からピックアップしたものである。保存最大長が35.6㎜の９片からなる灰白色化した焼骨の細片である。ニホンシカ (Cervus nippon) の中足骨が１片含まれていた。

２．Ｈ６号住居址　　古墳時代中期後葉

焼失住居址で、獣骨は東側中央の炉址北側から出土した。骨は住居焼失時に焼かれたものか、炉内で焼かれたものかは判断できない。保存最大長34.0㎜の２片の灰白色化した四肢骨片であるが、種名は不明である。

３．H19号住居址　　古墳時代中期後葉

焼失住居址で、カマド２個、炉１個が設けられている。獣骨は、北東隅Ｉ区床面・第３層とカマド内覆土をフルイ分け作業中に検出されたものである。72片の焼細骨片からなり、ニホンイノシシ (Sus scrofa) またはニホンカモシカの末節骨などの指骨片、頭蓋骨岩様部などが含まれているが、ほとんどの骨が同定不可能である。

４．M10号溝状遺構　　平安時代中頃～中世

奈良時代から平安時代初頭に築かれた溝状の遺構から、馬の上顎頬歯・下顎頬歯といく本かの切歯が出土した。包含されていたのは覆土上層の第７層で、平安時代中頃から中世末に埋存したものと推定される。

性別は犬歯の確認ができず不明である。年齢は、上顎でみた場合、第二前臼歯、第三前臼歯、第四前臼歯、第三後臼歯がそれぞれ未咬耗で、第二乳臼歯、第三乳臼歯が検出されていることから、2～2.5才程度と思われる。上顎の全臼歯列長は168.0㎜程度で、日本の在来馬でいえば、中型と小型の中間に相当する大きさである。体高は120～130㎝程度と推定される。臼歯の保存状況は比較的良好であったわりに、体幹骨・四肢骨が見出だされていない。発掘時にもそれらしきものはなかったという。当初から頭部だけしか埋存していなかったようである。2～2.5才程度の若齢で、頭部だけを埋めたとすれば、それは儀礼的なものであったろう。

参考文献

林田重幸（1978）「日本在来馬の系統に関する研究」．日本中央競馬会．

野村晋一（1977）「概説馬学」．西川書店・新日本教育図書．

大塚潤一・広田桂一・松元光春・橋口勉（1985）野間馬の形態「野間馬に関する学術調査報告書」．10-15．社団法人日本馬事協会．

上顎臼歯計測値

		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯	第二前乳臼歯	第三前乳臼歯
歯冠長	中　央	36.0	28.2	28.0	24.8	25.0	26.6	28.6	27.2
歯冠幅	中　央	23.8	25.6	25.6	25.5	25.0	23.0	23.7	23.4
原錐幅	中　央	9.0	10.5	11.5	14.1	13.5	13.4	8.6	
歯冠高	頬　側	52.2	60.0	53.4	81.8	84.0	54.0	13.0	13.0
	舌　側				70.8	75.0			
備　考		未咬耗	未咬耗	未咬耗			未咬耗		

乳前臼歯は咬合面にて計測　　単位は㎜

下顎臼歯計測値

		第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	乳前臼歯
歯　冠　長	中　央	33.0	29.1	25.8	24.8	29.1
歯　冠　幅	中　央	13.4	14.9	13.0	13.4	13.5
歯　冠　高	頬　側	50.0	55.0	72.0	79.0	13.0
double knot 長	咬合面	14.5	16.4	13.0	13.5	17.4
備　考		未咬耗	未咬耗			

乳前臼歯は咬合面にて計測　　単位は㎜

下聖端遺跡出土人骨について

森　本　岩　太　郎

Ⅰ．はじめに

佐久市長土呂に所在する『下聖端遺跡Ⅱ』のＯＴ２号墓壙から江戸時代と考えられる人骨１体が検出された。筆者は佐久市教育委員会からの依頼によりこの古人骨を調べたので、その結果を報告する。

Ⅱ．人骨の出土状況

下聖端遺跡ⅡのＯＴ２号墓壙は、直径約１ｍの類円形を呈し、その中から江戸時代に属する成人男性人骨１個体分が出土した。墓壙内における人骨の配列は、ほぼ北向きで蹲踞位をとる男性の骨格が崩れ落ちた形であり、解剖学的に自然である。人骨の保存状態は比較的良い。

頭蓋をみると、顔面頭蓋は上顔部がほぼ完全に壊れ、頭蓋底も壊れている。しかし頭蓋冠は、前頭骨の前部が壊れているほかは、比較的保存状態が良い。下顎骨が顎関節で外れて口がやや開いた形であるが、頭蓋全体としては顔を北東に向け、右側を下にするように横に倒れている。そして頭項部が骨格の最南端を占めている。脊柱は、椎骨相互間の連結が解け、仙骨が顔の前方15cmぐらいの場所にある。各椎骨は、頭蓋の下から仙骨付近にかけて、比較的狭い範囲にまとまって散在する。

左右の肩の位置も自然で、左肩は頭蓋冠の後頭部付近に、また右肩は前頭部付近にある。しかし左上肢は肩関節も肘関節も外れ、左上腕骨は骨頭が前に倒れて骨格の最西端に位置し、左橈骨と左尺骨とは相互に自然の位置関係を保ちつつ肘を前方に向けて頭蓋の下に落ちている。これに対し、右上肢骨は肩関節・肘関節において比較的自然の位置関係を保ちつつ、肘を前に突き出すように約70度に屈曲して墓壙の底に落下している。にも拘らず、両手の骨は、左右の前腕骨の位置とは無関係に、骨格の最前部（北端）にまとまって位置する。

左右の寛骨は仙腸関節で仙骨と接して骨盤の形態を保持しており、寛骨と仙骨との相互位置関係は解剖学的に自然である。すなわち、左右の腸骨が仙骨を挟むように腸骨稜を上に向けて位置し、坐骨結節を墓壙底に着け、かつ恥骨結合部を北に向けている。自由下肢骨については、左右の股関節・膝関節とも自然の状態に近い。左膝は左（西）に倒れて大腿骨と脛骨とが約40度の角度をつくるように屈曲し、左足が下顎骨の前（北）に位置する。しかし、右膝は右前に倒れて大腿骨と脛骨とが平行に密着するように膝関節が強く屈曲し、脛骨上部が右肘の上に乗り、右膝が

手骨の上を覆っている。その結果、右大腿骨の大転子と右脛骨の下端が骨格の右（東）端を占めている。左右の足骨は両手骨付近、すなわち右膝の下付近にある。

この男性人骨には、寛永通宝５枚・聖宗元宝１枚・煙管１本分・板片・布片などが伴出している。

III. 人骨所見

頭蓋（写真１～２）は、前述のように顔面部と頭蓋底が壊れている。できるだけ復元してみたが、残存する頭蓋片にひび割れや変形があり、欠損部も多く辛うじて頭蓋冠や顔面部の外観が蘇ったという程度である。復元した頭蓋は歪みが著しいので、残念ながら頭蓋計測には耐えない。頭頂部付近に約３×２㎝大の不整楕円形の欠損部があるが、これは自然の腐食によるもので、疾病や外傷によるものではない。

この頭蓋は、眉弓が突出し、前頭鱗が傾斜し、外後頭隆起・乳様突起・歯列弓がいずれも大きく、下顎角が外反するなど、成人男性としての形態的特徴を備えている。頭蓋冠の主要縫合をみると、内板では既に閉鎖が終了し、外板でも矢状縫合が約１／２、前頭縫合・ラムダ縫合が一部閉鎖しているので、この男性の年齢は熟年期と推定される。この頭蓋は長幅示数が７７前後を示す中頭型に属するものと推定される。顔面頭蓋は歯槽性突顎が顕著である。歯および歯槽の状況を次に示す。

×７６××××１	○○○４×６７×
●７▼５４３２１	１２３４５６７×

ただし、アラビア数字は残存する永久歯、○印は歯槽開放、●印は歯槽閉鎖、▼印は歯槽半閉鎖の状態にあることを、それぞれ示す。歯の咬合様式は鋏状咬合型である。歯の咬合度は全歯がBroca ２度である。下顎の歯列が不整で、$\overline{3|}$と$\overline{1|}$が唇側に傾き、$|\overline{4}$と$|\overline{6}$が舌側に傾いている。$\underline{6|}$の歯冠の遠心側と$\underline{|6}$の歯冠の近心側に齲蝕による歯冠の部分欠損が見られる。

椎骨（写真３）については、頸椎が７個分・胸椎が10個分・腰椎が５個分および仙骨が残っている。頸椎７個分のうち第４～６頸椎は椎弓があるだけである。胸椎で椎体・椎弓がともに残っているのは８個だけである。腰椎の保存は悪く、第５腰椎は下半部があるが、他の腰椎は椎弓がなく椎体の保存も不完全で、腰椎相互の上下関係も識別しにくい。第１～５腰椎の各椎体にシュモール(Schmorl)結節の存在した痕跡が認められる。また、恐らく第４腰椎と思われる腰椎体の下縁左側に変形性脊椎症によると思われる異常骨棘の形成が見られる。肋骨は左右の第１肋骨を除き、いずれも破損しているので、それらの破片を正確に同定することは難しいが、少なくとも左の肋骨が10本分、右の肋骨が８本分存在する。

胸骨については、胸骨体が５個の破片に分かれて残存するが、それらを接合して１個の胸骨対体に復元することは難しい。胸骨柄および剣状突起は残存しない。

上肢骨（写真５）については、左右の鎖骨・肩甲骨・上腕骨・橈骨・尺骨があり、手骨としては右の手根骨が５個（舟状骨・三角骨・豆状骨・大菱形骨・小菱形骨）、左右の中手骨が９個（左第３中手骨だけが欠如）のほか、左右の指骨が23個ある。左鎖骨は両端を欠くが、右鎖骨は完形に近い。右鎖骨は最大長が142㎜である。肩甲骨は左右とも外側角およびその周辺が残っている。烏口突起は大きい。右の肩甲骨関節窩および上腕骨頭関節面の辺縁には、変形性関節症によると思われる軽度の異常骨増殖が見られる。右上腕骨は最大長303㎜・全長208㎜で、中央横断示数が81.8を示す。三角筋粗面の発達は良い。右橈骨は最大長226㎜・機能長214㎜で、骨体横断示数が61.1である。右尺骨は最大長240㎜・機能長210㎜で、骨体横断示数が75.0である。

下肢骨（写真６）についてみると、左右の寛骨・大腿骨・頸骨・腓骨と右膝蓋骨とがあり、足骨としては左右の足根骨が13個（右の内側楔状骨だけが欠如）のほか、左右の中足骨が10個、左右の指骨が15個残っている。寛骨は大坐骨切痕がＪ字形を示し、恥骨下角が小さく、寛骨臼の直径が相対的に大きく、要するに男性骨盤の特徴を備えている。左寛骨は完形であるが、右寛骨は腸骨翼の前半が欠けている。坐骨結節が発達し、腸骨結節（右側だけ残存）が大きい。右大腿骨は最大長422㎜・自然位全長420㎜である。大腿骨体は上部横断示数が84.6を示して正頸型に属し中央部横断示数が116.7で中等度のピラステル形成がある。右頸骨は最大長328㎜・全長322㎜である。頸骨体は栄養孔部横断示数が68.8を示して中頸型に属するが、骨体中央部の横断示数は72.4で正頸型である。頸骨下端前縁には蹲踞面が認められる（写真８）。右腓骨最大長は306㎜である。右腓骨の骨体は、下端から11～12㎝の部位に治癒した完全骨折像（陳旧性骨折）があり、異常な骨増殖のために該部の骨体がやや太くなっている（写真７）。距骨頸上面には、上述の頸骨下端前縁の蹲踞面に対応する発達した蹲踞面があり（写真８）、半円形の距骨体副外面も認められる。

右の大腿骨・頸骨の最大長からPearson式により推定されるこの男性の推定身長は158.3㎝である。

Ⅳ．若干の考察

この人骨は墓壙の中で蹲踞の姿勢が崩れ落ちたような配列を示していた。所謂蹲葬である。江戸時代には胡坐の座葬も多いから、初めは座葬かと考えて人骨の配列に注意してみたが、そうではなく蹲葬であった。人骨には板が伴っているから、木製の棺内に蹲踞位で納めてから墓壙内に埋葬したものであろう。

この男性人骨の推定身長は158.3㎝である。当時の男性の平均身長は155㎝ぐらいであると思われるから、この人骨の身長はそれより幾分高い。

この人骨の頭蓋は、長幅示数によれば中頭型に属する。中世の長頭型から近世の短頭型への移行途中にあるものと考えられる。この人骨の大腿骨を見ると、骨体上部は扁平でないのに、骨体中央部にはピラステルが存在した。この大腿骨のピラステルも、この人骨の形成が中世から近世への移行途中にあることを物語るものであろう。しかし、顔面頭蓋に見られた歯槽性突顎は中世から江戸時代にかけて継続する形質の一つと言える。

この人骨の歯は骨年齢の割に咬耗が上下とも平らで平均しているから、歯を用いる特殊作業に因るものではなく、恐らく堅い食物に起因するものであろうと思われる。

この人骨の頸骨下端前面・距骨頸上面には発達した蹲踞面が見られた。これは、この男性が日常生活的に蹲踞姿勢をとることが多かったことを示している。

この人骨は頑丈であり、筋の付着部も発達してるので、筋骨逞しい男性のものと推定される。しかし、この人骨の腰椎には変形性脊椎症によると思われる異常骨棘の形成があり、また各腰椎間にはシュモール結節の痕跡が見られた。シュモール結節は椎間円板の髄核が線維輪を破壊して上・下方向に移動し、椎体の上・下面の一部を壊して椎体内に侵入したもので、上下方向への椎間板ヘルニアとも言えるものである。これは椎体に上下方向からの強い圧力が加わると生じ易いものであるから、この男性は腰に無理な力のかかるような重労働に従事していたことがあるに違いない。右肩関節にも変形性関節症による関節面の辺縁隆起が見られた。

この人骨の右腓骨体下部には、完全骨折後の治癒像が認められた。本例では、頸骨内果に骨折の痕跡が見られず、腓骨骨折部が比較的高い位置にあるので、いわゆるポット（Pott）の果部外転骨折とは異なる。従って、この人骨の腓骨体骨折は恐らく直接外力によるものであろうと考えられる。

V．まとめ

佐久市下聖端遺跡IIのＯＴ２号墓壙から検出された江戸時代と考えられる人骨は、熟年期男性１個体分である。骨格は頑丈で重労働に従事したと思われる。頭蓋は中頭型で、歯槽性突顎があり、日常的に蹲踞姿勢をとっていた。腰椎に変形性脊椎症・シュモール結節があり、右肩関節に変形性関節症があり、また右腓骨体には骨折治癒像が認められた。

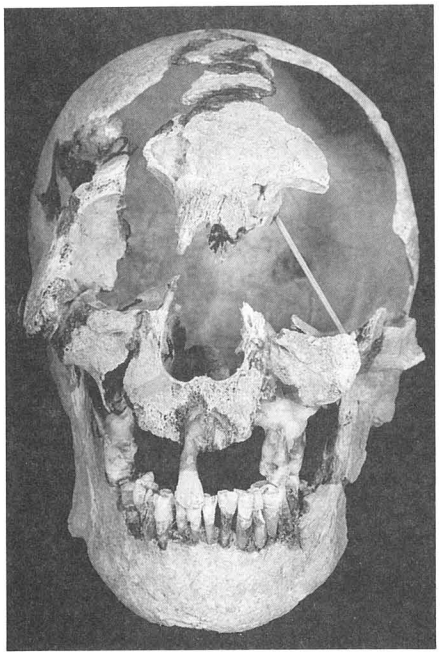


写真１．頭蓋の前面観

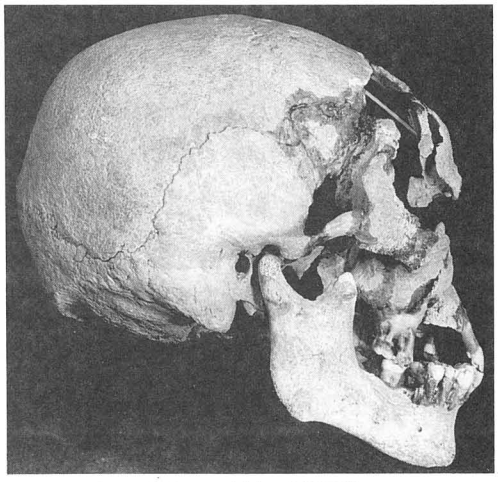


写真２．頭蓋の右側面観

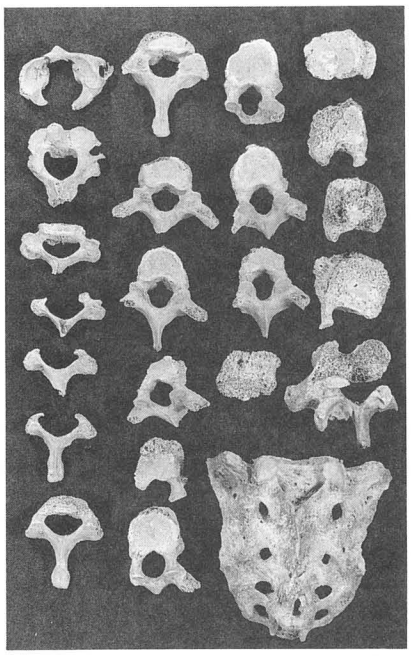


写真３．椎骨。頸骨（左列）・胸椎（中２列）・腰椎（右列）・仙骨（右下）の順。

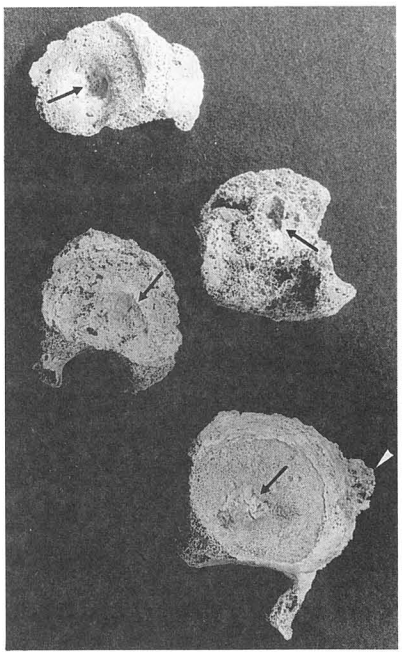


写真４．第１～第４腰椎体のシュモール結節の痕跡（黒い矢印の陥凹）と第４腰椎体の変形性脊椎症による異状骨増殖（白い矢印）

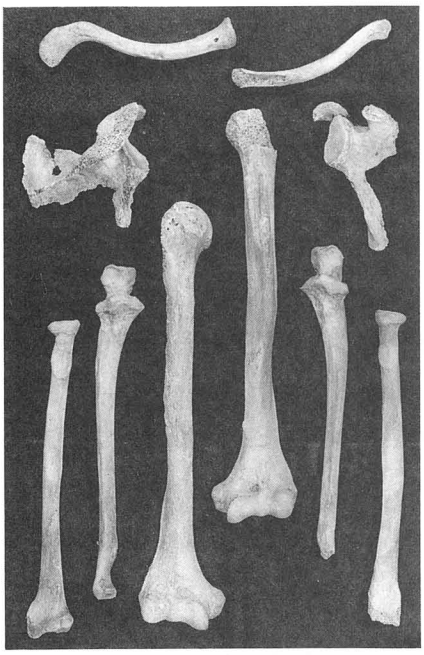


写真５．主要な上肢骨

写真６．主要な下肢骨

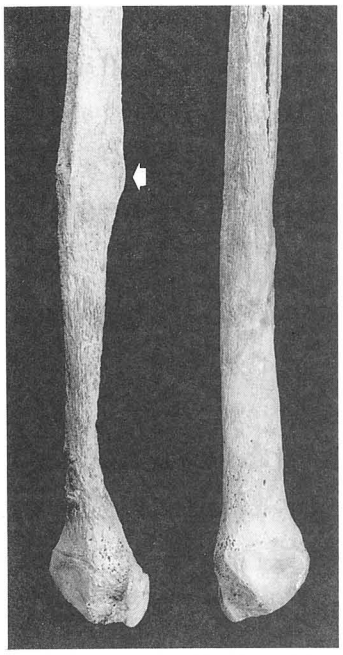


写真７．左は右腓骨の骨折治癒像（矢印の太い部分）。
右は左腓骨、骨折していないので細い。

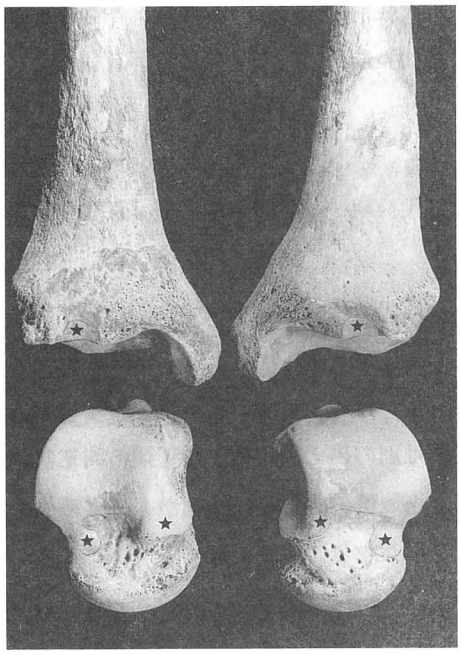


写真８．左右の頸骨下端前面と距骨頸上面に見られる蹲踞面（星印）。

下聖端遺跡出土の炭化種子類について

1．概要

本遺跡の各時代、すなわち弥生時代後期、古墳時代中期・後期及び平安時代中期の住居址群からかなり多量の炭化種子類が出土した。

各時代とも、住居址ごとに、出土の区画、層別、床面、ベルト、ピット、カマド、貯蔵穴、覆土などの出土位置や場所によって分類・整理されていた。たとえば、古墳時代中期の「H５号住居址」では、Ⅰ～Ⅳ区各３層、ⅡⅢⅣ区床、東西南北ベルト、カマド、貯蔵穴、覆土など27ヵ所に及ぶ位置ごとに炭化種子が区別されていた。

各時代の遺構（住居址）を示すと次の通りである。

弥生時代後期……Ｙ１号住居址、Ｙ３号住居址、Ｙ４号住居址（合計３住居址）
古墳時代中期……Ｈ５号住居址、H14号住居址、H15号住居址、H17号住居址
H18号住居址、H19号住居址、H20号住居址、H21号住居址
H22号住居址　（合計９住居址）
古墳時代後期……H24号住居址、H25号住居址、H28号住居址、H31号住居址
H36号住居址（合計５住居址）
平安時代中期……H41号住居址、H43号住居址、H44号住居址、H47号住居址
（合計４住居址）

上記各住居址別の出土炭化種子の種類の同定及び出土粒数の計数（一部推定も含む）を行うことによって、当地域の弥生時代後期から平安時代中期に至る間の農耕の状況あるいは、食文化の実態の一端を推察することができる。

2．炭化種子類の同定の方法

ほとんどの出土種子は炭化状態であったが、極希に無炭化状態で埋土されているものもあり、これらについては明瞭に種類を判定することができた。

炭化種子については種子の形状や表皮の特徴から大部分は肉眼またはルーペで判定が可能であった。特に、米、小麦、大麦、豆類は形状、溝の有無、表面の粗滑の程度または破片の状態(豆類は中央部で半片となる）などによって明確に区別できた。種子の形状が不完全な破片の一部で

あっても、上記の特徴が確認されたものについては１粒として計数した。また、エゴマの様に表皮が網目様を呈するものでは、実体顕微鏡を用いて判定した。

また、古墳時代及び平安時代にかなり多く出土した雑穀類は、恐らく、ヒエ、アワ、キビなどと推定されるが、判定が困難であったので、「小雑穀類」としてまとめた。これらの正確な判定は、走査型電子顕微鏡などを用いて、表皮の特徴を把握することによって可能と考えられる。

出土数が少なく、項目として一覧表に記載しなかったヘチマ、ヒョウタン、ウリ類、ゴマ、アサなどはその他の項として計数し、備考欄に種類名を記した。

３．出土粒数・個数の計測

出土種子類の計数については、完全粒の他、破片の中で明確に特徴が確認されたものを加算して出土粒数とした。

また、ヤマブドウやモモなどの果実の種子または核果についても同様に破片も含めて出土個数とした。

古墳時代の「小雑穀類」の様に数千粒を越えるものについては、発掘後の計数値を用い再計数は実施しなかった。

４．各時代住居址別にみた種子の出土状況

別表（一覧表）に整理された住居址別の出土の傾向の概要を以下に記す。

（１）弥生時代後期

１）Ｙ１号住居址　出土粒数は米、小麦、大麦、豆類、ヤマブドウなどで小麦が最も多く出土している。次いで米が多く、住居址全般から小量ずつ出土している。不明のものもかなり多い。

２）Ｙ３号住居址　本住居址も小麦とヤマブドウの種子が圧倒的に多く、小麦はⅠ、Ⅱ区の各１層からの出土が多い。

３）Ｙ４号住居址　小麦及び米が主体で、ヤマブドウ及び豆類が若干出土している程度で、全体的にみて他の二つの住居址より出土数は少ない。

（２）古墳時代中期

１）Ｈ５号住居址　出土穀類（豆類も含む）のうち、豆類が最も多く、次いで米、小麦の順となっている。小雑穀類は比較的少ない。また、ヤマブドウやモモの核果の破片が多数出土している。不明のものもかなり多く463に達している。

2）H14号住居址　米が最も多くⅣ区と南北ベルトに集中して出土している。小麦も覆土から多く出土しているが、他の住居址に比べ出土の種類は少ない。

3）H15号住居址　小麦が最も多く、各区各層から平均して出土している。次いで、米が多くこれも各区から出土しているが、ベルト、カマドなどからは少ない。大麦が12粒出土しており、他の住居址に比べかなり多い数である。また、ヤマブドウもかなり多い。

4）H17号住居址　古墳時代中で最も少ない出土で、小麦が１粒のみである。

5）H18号住居址　小雑穀類が圧倒的に多く、住居址全体から出土しているが、Ⅳ区４層、覆土、Ⅱ区４層、Ⅰ区４層などからの出土が目立っている。次いで米、小麦、大麦の順に出土しているが、量的には少ない。野生のタデ類がかなり多いこと及び他にはあまり例を見ないソバが出土していることは特筆すべきことである。

6）H19号住居址　米が最も多く、住居址全般から出土している。次いで、小雑穀類及び小麦の順であるが比較的小量の出土である。

7）H20号住居址　米が最も多く、Ⅰ区と覆土からの出土で大半を占めている。次いで小麦、小雑穀類、豆類の順に出土しているが、エゴマも１粒ではあるが確認されている。ヤマブドウもかなり多い。

8）H21号住居址　米が最も多く、西ベルトと覆土で大半を占めている。次いで小雑穀類と小麦が多いが、いずれも覆土に集中している。また米については無炭化のものが１粒ではあるが確認されており、ウリ類の種子も出土している。

9）H22号住居址　小麦が最も多く、Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ区の上層と覆土に集中している。また小雑穀類もかなり多く、その他にソバ、エゴマ、ヒョウタンの破片などもわずかではあるが確認されている。

（3）古墳時代後期

1）Ｈ９号住居址　古墳時代全体を通して少ない出土で、米、小麦のみである。

2）H24号住居址　小麦と米が比較的多く雑穀類と大麦は極少ない。

3）H25号住居址　小雑穀類が最も多く、Ⅲ区床に集中して出土している。米は覆土からの出土が目立っている。

4）H28号住居址　小麦が３粒とタデ類が少し出土している程度である。

5）H31号住居址　米が最も多く、全般的に各位置から出土しているが、Ⅱ区に比較的多い。小麦、小雑穀類もかなり多く、エゴマも少数出土している。

6）H36号住居址　米が最も多くⅣ区と覆土に集中している。他の穀類は少ない。

（4）平安時代中期

1）H41号住居址　小麦が最も多く、II、III区が大半を占めている。次いで米が多いが、全体から平均して出土している。大麦も若干出土している。

2）H43号住居址　最も多いのは小麦で、I、III区に特に多い。豆類が他の住居址に比べて多いことは特筆すべきことである。また小麦や米の無炭化の完全に原型をとどめているものも見られた。なお、ホウレンソウに類似したものもあったが、時代的に見てかなり疑わしい。

3）H44号住居址　小麦が最も多く、全体から出土している。次いで米、大麦が出土しているが量は少ない。またヤマブドウの種子の無炭化のものが確認されている。

4）H47号住居址　小麦が最も多く、全般から出土している。次いで、米、豆類となっているが、ソバがII区と覆土から出土しており、全住居址を通して最も多い。

5．時代別にみた炭化種子の出土傾向

第2表（時代別出土数）から明らかなように、弥生時代から平安時代中期に至る各時代別の炭化種子類の出土傾向は、最も多いのが小雑穀類で約7,000粒、次いで小麦の約2,700粒、米の約1,500粒、豆類の約400粒、大麦の87粒の順となっている。その他には、ソバ、エゴマが若干ではあるが見出されている。

時代別にみると、弥生時代後期は小麦が最も多く、小雑穀類は皆無である。古墳時代中・後期では、小麦と米がほぼ同数で小雑穀類が著しく多く、豆類もかなり多い。また、平安時代中期になると、小麦、米の順で豆類も比較的多く確認された。

ヤマブドウの種子は各時代を通してかなり多く、住居址の全般から出土しているが、野生の果実の利用方法については、生食用、干しぶどうとして貯蔵食的利用、さらには発酵させて果実酒としての利用が考えられるが、かなり重要視された食物の一つと考えられる。

全般を通して見ると、弥生時代後期には小麦を中心とした畑作が盛んで、古墳時代に入ると水稲作もかなり増え、並行して、雑穀類（アワ、ヒエ、キビなど）がかなり栽培され、豆類（粒の大きさから推定してツルマメ類）も野生のものや栽培のものがかなり重要視されていたことがわかる。

信州大学農学部　　氏原暉男
廣瀬玉紀

第１表　下聖端遺跡出土炭化種子一覧

遺構名	出土位置	米	小麦	大麦	小雑穀類	豆類	タデ類	ソバ	エゴマ	ヤマブドウ	モモ	その他	不明	位置計	備　　考
H５号住居址	Ⅰ区１層	2	4			5				2		2	5	20	木の実
古墳時代中期	Ⅰ区２層	4	3		4	7						1	13	32	木の実
	Ⅰ区３層	3				185							20	208	
	Ⅱ区												15	15	
	Ⅱ区床		1											1	
	Ⅱ区１層	2	3		1									6	
	Ⅱ区２層					6				1			11	18	
	Ⅱ区３層	18								221	1		29	269	
	Ⅲ区層									4				4	
	Ⅲ区床		1		1								1	3	
	Ⅲ区ヘキ		1		3							6		10	
	Ⅲ区１層		2							1				3	
	Ⅲ区２層		1											1	
	Ⅲ区３層	19	3	1	1					1		2	29	56	クリ片
	Ⅳ区床	2											4	6	
	Ⅳ区１層		4			1							1	6	
	Ⅳ区２層	4	9	3	4	1				6			55	82	無炭化、ヘチマ、コムギ
	Ⅳ区３層	15	7							1	1	1	105	130	針葉樹雄花
	東ベルト	1	4		3	2							23	33	
	西ベルト	10											16	26	
	南ベルト	4	8										4	16	
	北ベルト	1		1					1				8	11	
	カマド									9			2	11	
	カマド西	5												5	
	P_3												2	2	
	貯蔵穴	17	1								1		19	38	
	覆土	14									19		95	128	
	小計	121	52	5	14	210	0	0	1	246	22	6	463	1140	
H9号住居址	Ⅰ区２層	1	1										1	3	
古墳時代後期	小計	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	
H14号住居址	Ⅱ区１層	1	1											2	
古墳時代中期	Ⅱ区３層	1												1	
	Ⅲ区２層												6	6	
	Ⅳ区２層	9	1							1			10	21	
	Ⅳ区	4												4	
	南ベルト	5												5	
	北ベルト	3												3	
	南ヘキ		1											1	
	覆土		10										4	14	
	小計	23	13	0	0	0	0		0	1	0	0	20	57	
H15号住居址	Ⅰ区１層	12	75	2						2			19	110	
古墳時代中期	Ⅰ区２層									8			8	16	炭化少ない
	Ⅰ区３層	19	50							2			112	183	
	Ⅱ区１層	4	32	1						2			23	62	
	Ⅱ区２層	10	75							2			41	128	
	Ⅱ区３層	8	52	1						3			40	104	
	Ⅲ区１層	10	107	1						13			20	151	

遺構名	出土位置	米	小麦	大麦	小雑穀類	豆類	タデ類	ソバ	エゴマ	ヤマブドウ	モモ	その他	不明	位置計	備　　考
H5号住居址	III区2層	9	35	2						5			46	97	
古墳時代中期	III区3層	7	3	37		24				2			45	115	
	III区床		5										11	16	
	IV区1層	17	90	1						16		1	75	200	ゴマ
	IV区2層	10	30							1			24	65	
	IV区3層	27	20	1	1					4			35	88	
	IV区床	6	3	1									4	14	
	東ベルト	3	4										5	12	
	西ベルト	3	15	1						1			9	29	
	南ベルト	1	1							1			13	16	
	北ベルト	1	10	1						1			4	17	
	カマド	12	1										9	22	
	小計	159	642	12	25	0	0	0	0	63	0	1	543	1445	
H17号住居址	IV区床		1										5	6	
古墳時代中期	小計	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	6	
H18号住居址	I区	4	3	1	32	1				1			6	48	
古墳時代中期	I区2層		11		25					8			10	54	
	I区3層	10			166	2							13	191	
	I区4層	11	4		607	13				1			6	642	
	II区	4			14								9	27	
	II区床	1			164								4	169	
	II区2層												3	3	
	II区3層	6	10	1	148					4			3	172	
	II区4層	7	6		733	4				4			25	779	
	III区	2	6		14					1		4	17	44	イネ科雑草種子
	III区床				3	1							1	5	無炭化マメ
	III区2層	4			13	3							23	43	
	III区3層	2	1	22									9	34	
	III区4層	9	4		9								11	33	
	IV区	1	3		49								8	61	
	IV区床				61								5	66	
	IV区2層		1		22								5	28	
	IV区3層	3			118								6	127	
	IV区4層	11	4		2950					6			3	2974	
	東ベルト				81					1			3	85	
	西ベルト	2	1		84								2	89	
	南ベルト		3							1			7	11	
	北ベルト	3			69								9	81	
	カマド	1			90									91	
	貯蔵穴	1			7					1			5	14	
	床	1												1	
	P_1				6									6	
	P_2				3									3	
	覆土	25	22		1120	4		1			3		65	1240	
	小計	108	79	2	6588	28	0	1	0	28	3	4	258	7121	
H19号住居址	I区	3	1										13	17	
古墳時代中期	I区	2												2	
	I区3層	5											5	10	

遺構名	出土位置	米	小麦	大麦	小雑穀類	豆類	タデ類	ソバ	エゴマ	ヤマブドウ	モモ	その他	不明	位置計	備　　考
H19号住居址 古墳時代中期	II区	8											2	10	
	II区床	2												2	
	II区2層												4	4	
	II区3層	13	3										5	21	
	III区	5												5	
	III区ヘキ	1	1										1	3	
	III区1層				14									14	
	III区3層	3											1	4	
	IV区	1											3	4	
	IV区3層	4											5	9	
	東ベルト	3												3	
	西ベルト	3												3	
	北ベルト	7												7	
	南ベルト												2	2	
	ピット内	2												2	
	カマド	10											3	13	
	覆土	17	2		3		2				1		23	48	
	小計	89	7	0	17	0	2	0	0	0	1	0	67	183	
H20号住居址 古墳時代後期	I区床	1				1							1	3	
	I区ヘキ	5	1										3	9	
	I区1層	46	3							5			23	77	
	I区2層	70			7					1			37	115	
	II区床		2										2	4	
	II区ヘキ		2											2	
	II区1層		1		2					2			1	6	
	II区2層	17	2		4					3			10	36	
	III区ヘキ	15	7											22	
	III区床				2				1	2				5	
	III区1層			1									3	4	
	III区2層	1	21	1	14					6			5	48	
	IV区床		3										2	5	
	IV区ヘキ	5	3		5					1			9	23	
	IV区1層	3												3	
	IV区2層	7	7							3			2	19	
	東ベルト	3	1		3								8	15	
	西ベルト	7			2									9	
	南ベルト	5	1		3								8	17	
	北ベルト	7	3		1							1	7	19	
	カマド												1	1	
	P_1	1											1	2	
	P_2	2	2										12	16	
	P_4	1											1	2	
	貯蔵穴	4											4	8	
	覆土	84	15		8	2						1	12	122	
	小計	284	74	2	51	3	0	0	1	23	0	2	152	592	
H21号住居址 古墳時代中期	I区床	6		1						2				9	
	I区1層	7											3	10	
	I区3層	5											5	10	

遺構名	出土位置	米	小麦	大麦	小雑穀類	豆類	タデ類	ソバ	エゴマ	ヤマブドウ	モモ	その他	不明	位置計	備　　考
H21号住居址	II区ヘキ		1											1	
古墳時代中期	II区1層											1		1	木の実破片
	II区3層	14	1		1					3			6	25	
	IV区1層	1								6	1		1	9	完全米
	西ベルト	66										1	11	78	ウリ類
	北ベルト	1											1	2	
	覆土	29	10		47		3			6		1	24	120	針葉樹雄花
	小計	129	12	1	48	0	3	0	0	17	1	3	51	265	
H22号住居址	I区1層	5	46	4	13			1	1	8			6	84	
古墳時代中期	I区床	6	7		2					1				16	
	II区1層	7	73	2	7					2			17	108	
	II区床		1		7								2	10	
	III区1層	1	17		1								3	22	
	III区床	5	10		3								1	19	
	IV区1層	7	40	1			1			6			12	67	
	IV区床	4	8	2						2			1	17	
	東ベルト		5		2								4	11	
	西ベルト		4											4	
	北ベルト		2										3	5	
	カマド	5	18	1	7								26	57	
	貯蔵穴	2	1											3	
	床	6	4										6	16	
	覆土	11	42	1	28					1		2	87	172	ヒョウタン破片
	小計	59	278	11	70	0	1	1	1	20	0	2	168	611	
H24号住居址	I区1層		1							1		1		3	木の実
古墳時代後期	I区床				2								3	5	
	III区1層	8	1											9	
	III区床												4	4	
	IV区1層	3	9	1									1	14	
	IV区床		7										1	8	
	IV区ヘキ		2										1	3	
	北ベルト												2	2	
	カマド	1	1											2	
	覆土	1												1	
	小計	13	21	1	2	0	0	0	0	1	0	1	12	51	
H25号住居址	I区1層	4	2											6	
古墳時代後期	II区1層	2			4								4	10	
	II区床											1		1	木の実
	III区床	1			54					3				58	
	III区1層	3												3	無炭化完全籾
	III区2層												1	1	
	IV区1層	3	2		3					1				9	
	覆土	10	3										43	56	
	小計	23	7	0	61	0	0	0	0	4	0	1	48	144	
H28号住居址	IV区1層		3				2						3	8	
古墳時代後期	小計	0	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0	3	8	
H31号住居址	I区	2												2	
古墳時代後期	I区床	3												3	

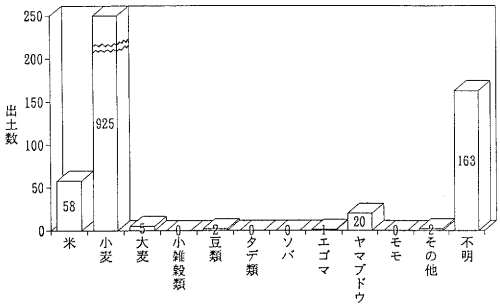
遺構名	出土位置	米	小麦	大麦	小雑穀類	豆類	タデ類	ソバ	エゴマ	ヤマブドウ	モモ	その他	不明	位置計	備　　考
H31号住居址	Ⅰ区ヘキ												5	5	
古墳時代後期	Ⅰ区1層	2											27	29	
	Ⅰ区2層	4	4										15	23	
	Ⅰ区3層	6	1		33								13	53	
	Ⅱ区	3	1										3	7	
	Ⅱ区ヘキ	7											2	9	
	Ⅱ区1層	12	3										10	15	
	Ⅱ区2層	8			1					1			21	31	
	Ⅱ区3層	20											3	23	
	Ⅲ区1層	9	10									1	21	41	
	Ⅲ区2層	3	6										3	12	
	Ⅳ区床	3												3	
	Ⅳ区1層	2											9	11	
	Ⅳ区2層	4	1										15	20	
	Ⅳ区3層	4			2								12	18	
	東ベルト	4											12	16	
	西ベルト	4											1	5	
	南ベルト	3	3			1							7	14	
	北ベルト	4			7		2		1				35	49	
	カマド	11	2										10	23	
	貯蔵穴	1											1	2	
	覆土	12	7										92	111	
	小計	131	38	0	43	1	2	0	1	1	0	1	317	535	
H36号住居址	Ⅰ区1層	4												4	
古墳時代後期	Ⅱ区1層	1	1							2			8	12	
	Ⅲ区1層	2										1	3	6	木の実
	Ⅳ区1層	20		2									28	50	
	Ⅳ区床	2								1				3	
	貯蔵穴	3											1	4	
	覆土	10	2		1	1							54	68	
	小計	42	3	2	1	1	0	0	0	3	0	1	94	147	
H41号住居址	Ⅰ区	2											18	20	
平安時代中期	Ⅰ区ヘキ									1			6	7	
	Ⅰ区2層	2												2	
	Ⅱ区	8	19	4						3			8	42	
	Ⅱ区ヘキ		3							4			1	8	
	Ⅱ区2層									3				3	
	Ⅲ区	4	37	3						11			18	73	
	Ⅲ区ヘキ	3	2											5	
	Ⅲ区周溝												2	2	
	Ⅲ区2層	5	1											6	
	Ⅳ区	3	4							1			11	19	
	Ⅳ区ヘキ	1	1											2	
	カマド	2	7										9	18	
	床	14												14	
	東ベルト	1	1										4	6	
	西ベルト	3	5										3	11	
	南ベルト			1									14	15	

遺構名	出土位置	米	小麦	大麦	小雑穀類	豆類	タデ類	ソバ	エゴマ	ヤマブドウ	モモ	その他	不明	位置計	備　　考
H41号住居址	北ベルト	1	1							2			3	7	
平安時代中期	覆土		4							3			18	25	
	小計	49	85	8	0	0	0	0	0	28	0	0	115	285	
H43号住居址	Ⅰ区１層	9	49	1		7				2				68	
平安時代中期	Ⅰ区２層	15	14			20							57	106	
	Ⅰ区床		5			3							1	9	
	Ⅱ区１層	8	12							1			4	25	
	Ⅱ区２層	20	10		10	11							42	93	
	Ⅱ区４層		1		1									2	
	Ⅱ区ヘキ		2											2	
	Ⅱ区床					2							6	8	
	Ⅱ区												3	3	
	Ⅲ区１層	17	57			15	2			28		5	61	185	ホウレンソウ？
	Ⅲ区２層	4	8			24				2			28	66	
	Ⅲ区床	1	9	1						8			5	24	
	Ⅳ区１層		77		4								4	85	コムギ無炭化
	Ⅳ区２層	7	8			8				3			15	41	マメ完全粒
	東ベルト1層		2			12							22	36	
	東ベルト2層	1	1										4	6	
	西ベルト1層	3	9			1							13	26	
	西ベルト2層	2	3											5	
	南ベルト1層		1										4	5	
	南ベルト2層		2										10	12	
	北ベルト1層	4	11			2							3	20	
	覆土	11	10		12	25	1						140	199	
	小計	102	291	2	27	130	3	0	0	44	0	5	422	1026	
H44号住居址	Ⅰ区１層	3											3	6	
平安時代中期	Ⅰ区ヘキ	1	2	1										4	
	Ⅱ区１層	3	3										4	7	
	Ⅲ区１層		2							1				3	
	Ⅲ区ヘキ		2							39			2	43	ヤマブドウ無炭化
	Ⅳ区１層		1							3			1	5	
	Ⅳ区床												1	1	
	床	1	3							2			5	11	
	南ベルト1層	1												1	
	北ベルト	1	3	1						1			6	12	
	北ベルト1層	3	4							7			2	16	ヤマブドウ無炭化
	北ベルト2層	1												1	
	カマド	7	7										3	17	
	小計	18	27	2	0	0	0	0	0	53	0	0	27	127	
H47号住居址	Ⅰ区１層	1	15										34	50	
平安時代中期	Ⅰ区２層	3	7	4		3							54	71	
	Ⅱ区１層	1	11										7	19	
	Ⅱ区２層	6	4			2		2					45	59	
	Ⅱ区床	1	3										2	6	
	Ⅲ区１層	1	8			1							2	12	
	Ⅲ区２層		4								1		22	27	
	Ⅳ区１層	1	17	1										19	

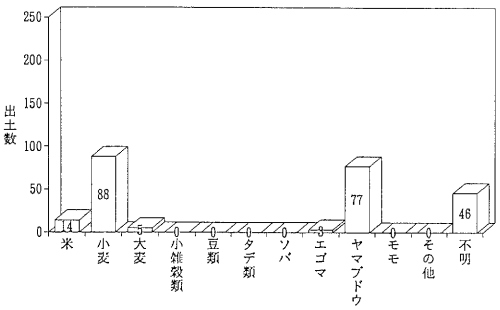
遺構名	出土位置	米	小麦	大麦	小雑穀類	豆類	タデ類	ソバ	エゴマ	ヤマブドウ	モモ	その他	不明	位置計	備　　考
H47号住居址	IV区２層	15	18		7	12							49	101	
平安時代中期	南ベルト	5	3		3								10	21	
	東ベルト	2	4											6	
	北ベルト		3		3								5	11	
	覆土	14	9	2		6		5					76	112	
	小計	50	106	7	13	24	0	7	0	0	1	0	306	514	
Y１号住居址	I区ヘキ		6							1				7	
	I区ピット		2							1			4	7	
	I区１層	8	238							6		1	45	298	
	II区床	1	1											2	
	II区１層		9							2			12	23	アサ
	III区	1	27	1		2				4		1	2	38	アサ
	III区ピット	4	21										7	32	
	III区床	1	7						1	1			3	13	
	III区１層	16	225										5	246	
	IV区ヘキ	1	12										1	14	
	IVピット	1	11											12	
	IV区床		16	1										17	
	IV区１層	16	302	3						4			24	349	
	IV区２層									1			1	2	
	IV区３層		3											3	
	貯蔵穴												1	1	
	床		1											1	
	覆土	9	44										58	111	
	小計	58	925	5	0	2	0	0	1	20	0	2	163	1176	
Y３号住居址	I区１層	3	19	1					1	30			12	66	
弥生時代後期	I区２層	1	4	1										6	
	I区床									5			1	6	
	II区１層		40	1						13			3	57	
	II区２層	1	3										3	7	
	II区P_2												1	1	
	II区ヘキ									1				1	
	III区２層	2	3							4			4	13	
	III区ヘキ	1	2						1	2			3	9	
	III区床		3	1					1	10			3	18	
	III区P_5	1											1	2	
	IV区２層	2	7							7			6	22	
	IV区床	3	2	1						4			10	20	
	北ベルト		5							1				6	
	小計	14	88	5	0	0	0	0	3	77	0	0	46	233	
Y４号住居址	I区２層	1		1		1							3	6	
弥生時代後期	I区３層	2	2							4		2	7	17	アサ
	III区１層												2	2	
	III区２層	1											1	2	
	III区３層	5	18							1			14	38	
	IV区３層	4											1	5	
	覆土	1		1									1	3	
	小計	14	20	2	0	1	0	0	0	5	0	2	29	73	

第２表　下聖端遺跡炭化種子時代別出土数

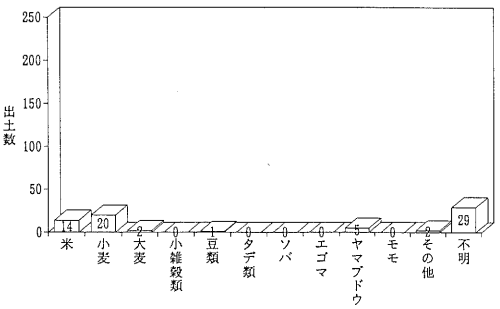
	米	小麦	大麦	小雑穀類	豆類	タデ類	ソバ	エゴマ	ヤマブドウ	モモ	その他	不明	位置計
弥生時代後期	86	1033	12	0	3	0	0	4	102	0	4	238	1482
古墳時代中・後期	1182	1231	58	6920	243	10	2	4	407	27	22	2202	12308
平安時代中期	278	405	17	40	154	3	7	0	72	1	5	84	1825
合　　計	1469	2746	87	6960	400	13	9	8	581	28	31	3283	15615



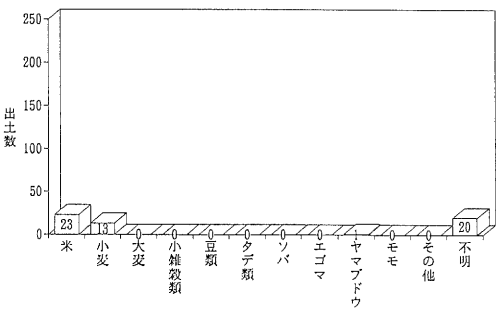
Ｙ1号住居址炭化種子類出土状況(弥生時代後期)



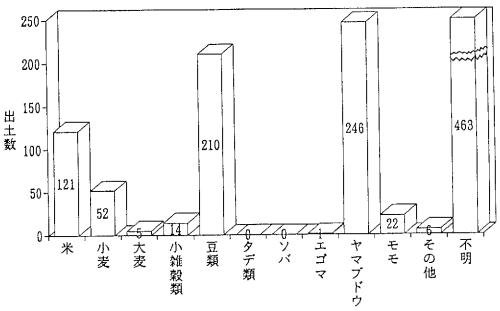
Ｙ3号住居址炭化種子類出土状況(弥生時代後期)



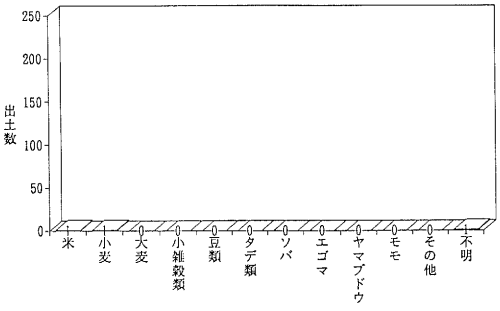
Ｙ4号住居址炭化種子類出土状況(弥生時代後期)



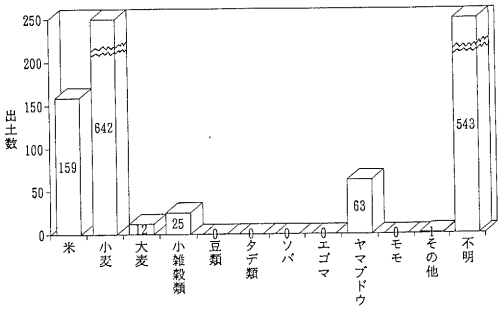
Ｈ14号住居址炭化種子類出土状況(古墳時代中期)



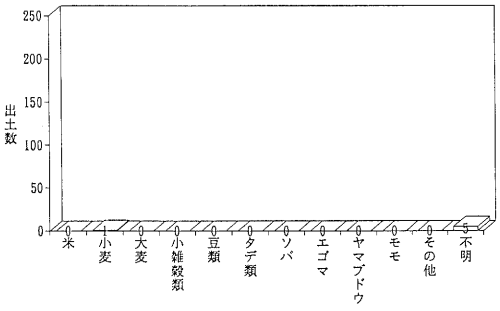
H5号住居址炭化種子類出土状況(古墳時代中期)



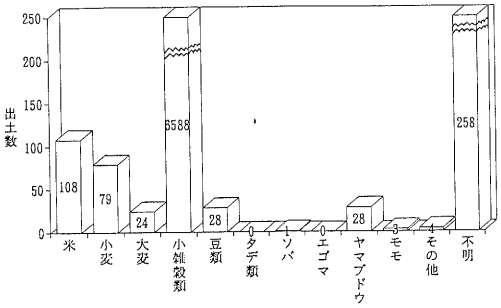
H9号住居址炭化種子類出土状況(古墳時代後期)



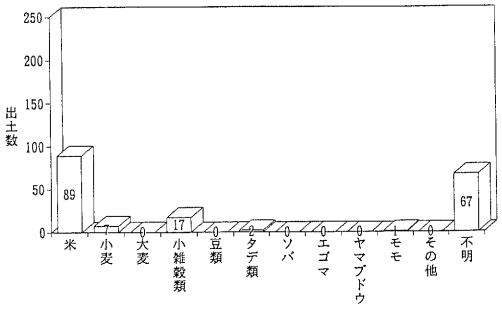
H15号住居址炭化種子類出土状況(古墳時代中期)



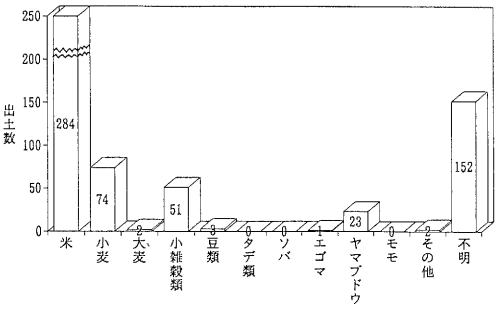
H17号住居址炭化種子類出土状況(古墳時代中期)



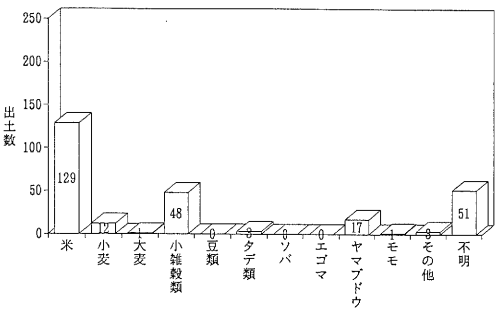
H18号住居址炭化種子類出土状況(古墳時代中期)



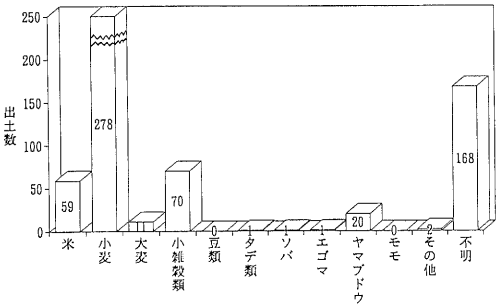
H19号住居址炭化種子類出土状況(古墳時代中期)



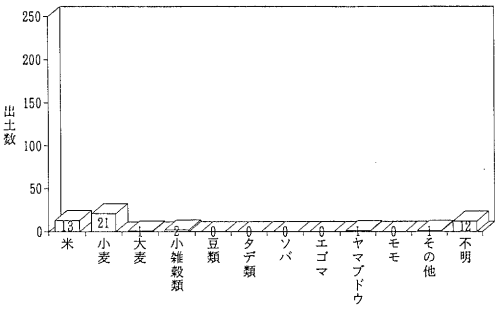
H20号住居址炭化種子類出土状況(古墳時代中期)



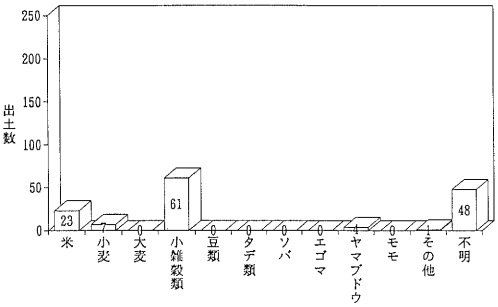
H21号住居址炭化種子類出土状況(古墳時代中期)



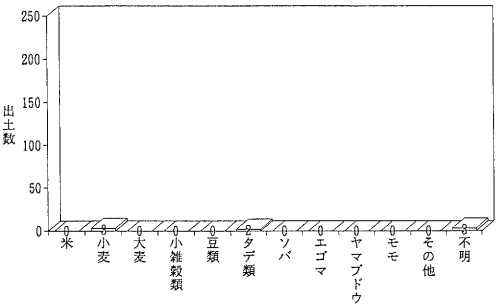
H22号住居址炭化種子類出土状況(古墳時代中期)



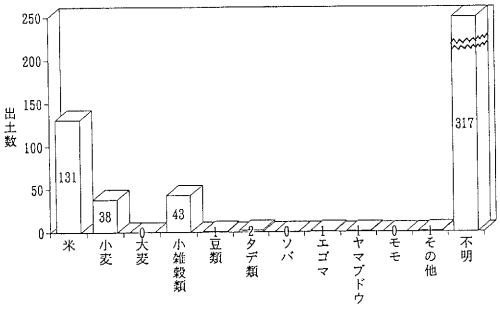
H24号住居址炭化種子類出土状況(古墳時代後期)



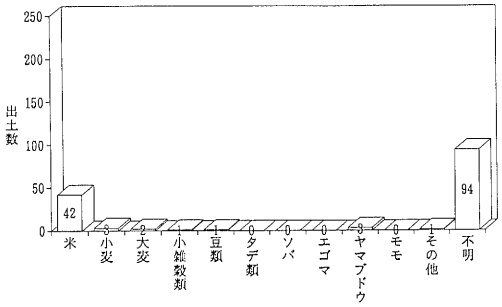
H25号住居址炭化種子類出土状況(古墳時代後期)



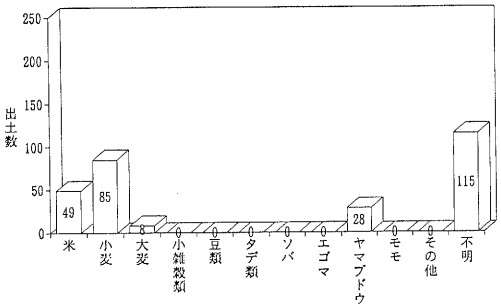
H28号住居址炭化種子類出土状況(古墳時代後期)



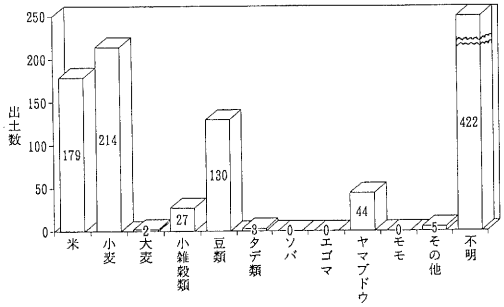
H31号住居址炭化種子類出土状況(古墳時代後期)



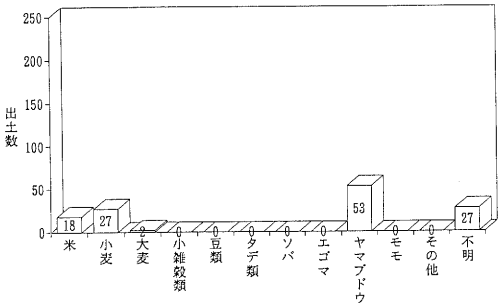
H36号住居址炭化種子類出土状況(古墳時代後期)



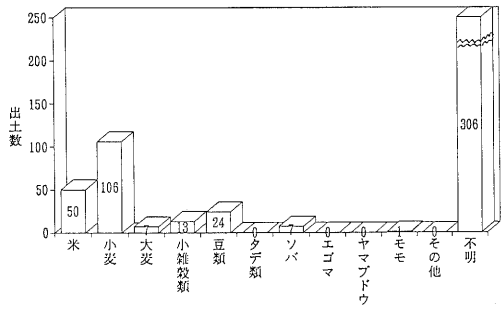
H41号住居址炭化種子類出土状況(平安時代中期)



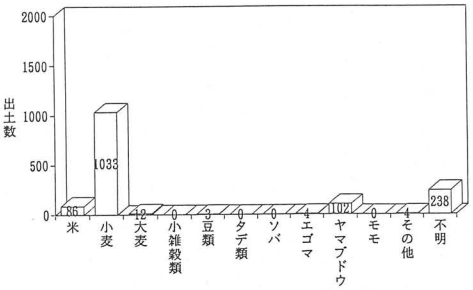
H43号住居址炭化種子類出土状況(平安時代中期)



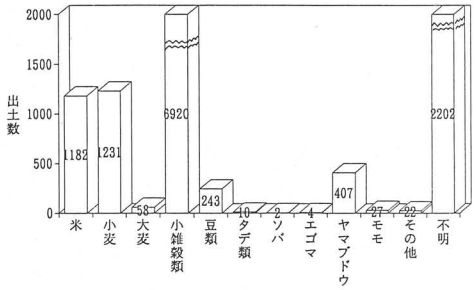
H44号住居址炭化種子類出土状況(平安時代中期)



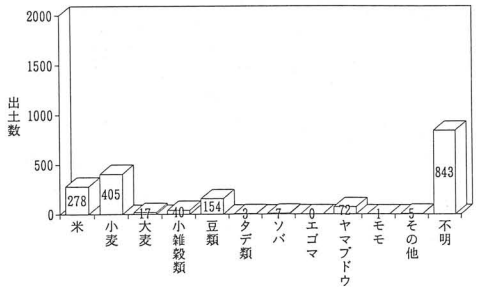
H47号住居址炭化種子類出土状況(平安時代中期)



弥生時代後期の全住居址から出土した炭化種子類



古墳時代中後期の全住居址から出土した炭化種子類



平安時代中期の全住居址から出土した炭化種子類

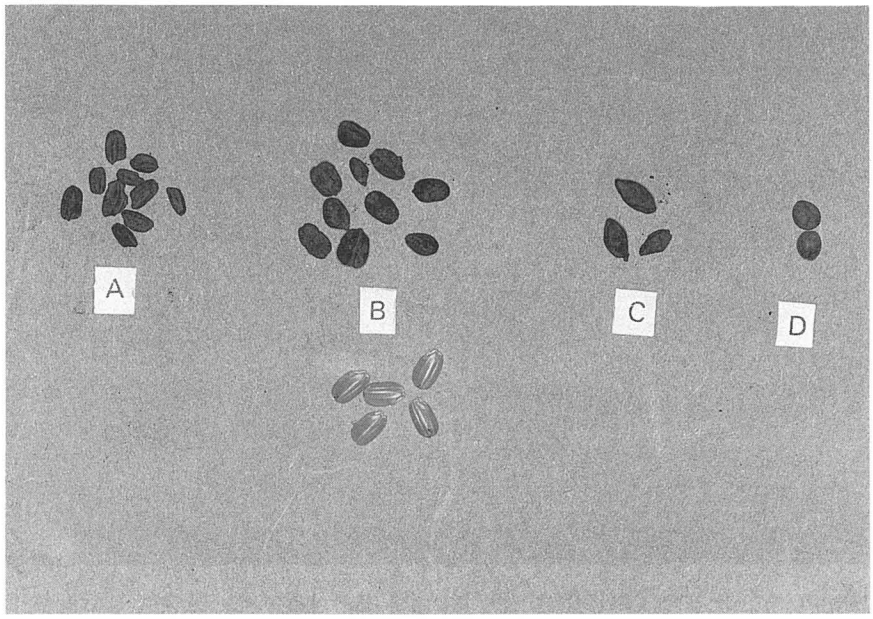


Photo 1．弥生時代の穀類。上段 A：米、B：小麦、C：大麦、D：アサ、下段は現世の米（コシヒカリ）。

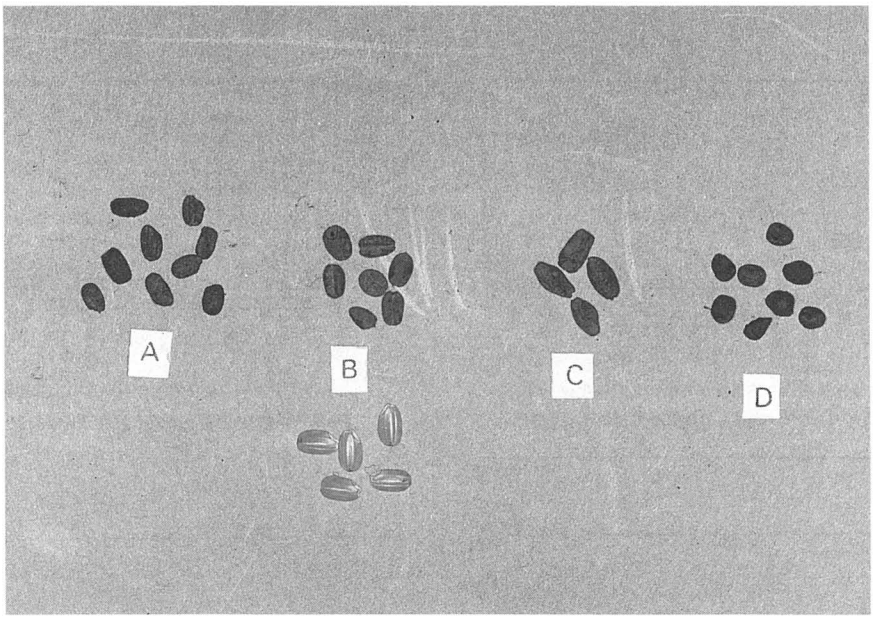


Photo 2．古墳時代の穀類。上段 A：米、B：小麦、C：大麦、D、豆類、下段は現世の米（コシヒカり）。

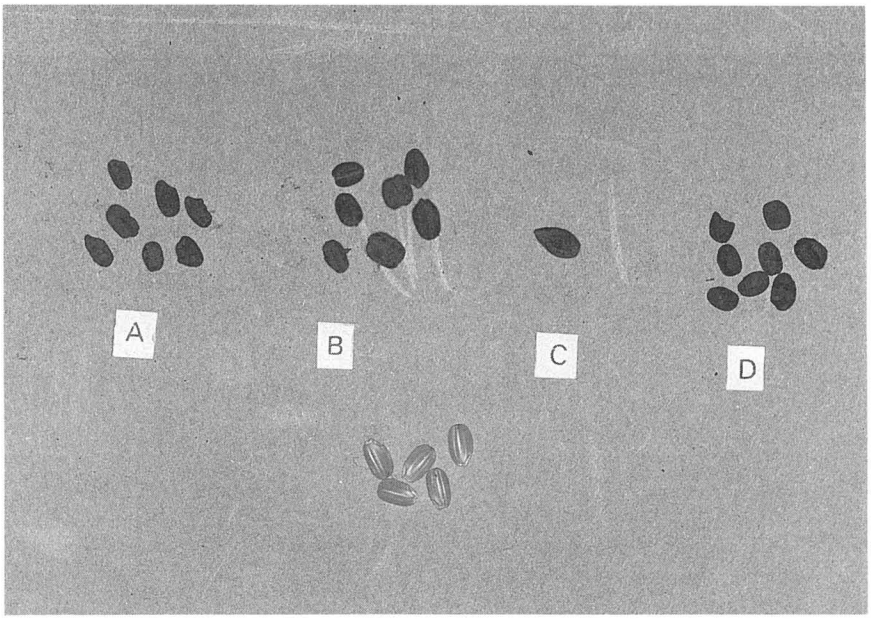


Photo 3．平安時代の穀類。上段 A：米、B：小麦、C：大麦、D：豆類、下段は現世の米（コシヒカり）。

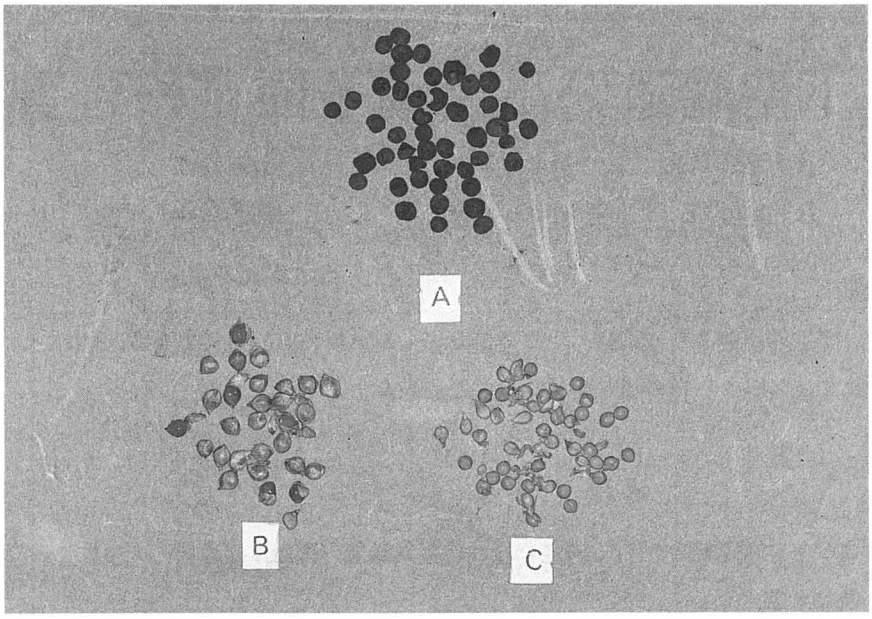


Photo 4．古墳時代小雑穀類。A：H18住居址出土
B：現世ヒエ、C：現世アワ。

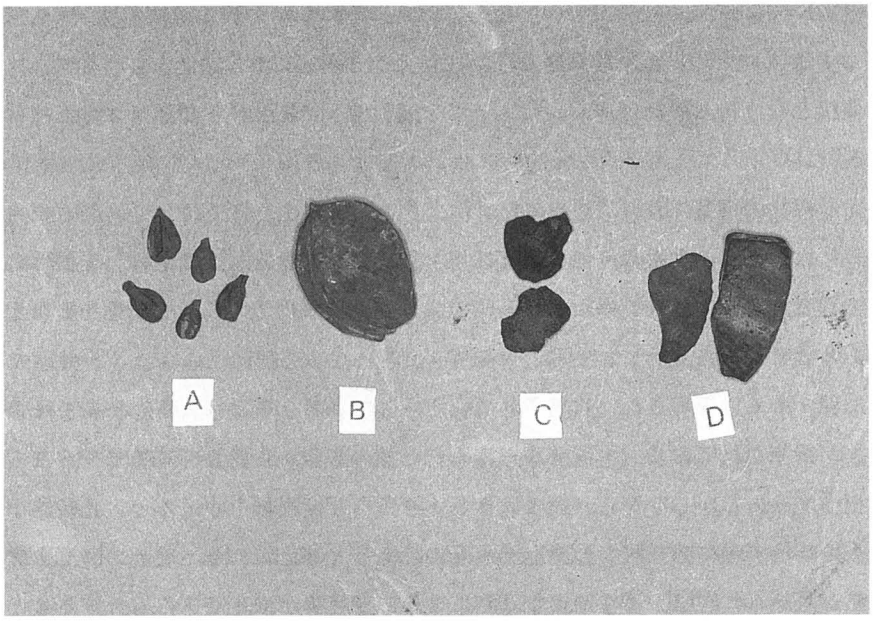


Photo 5．炭化果実種子等。A：ヤマブドウ、B：モモ、C：クリ、
D：ヒョウタン。

下聖端遺跡出土種子同定報告書

株式会社　パリノ・サーヴェイ社

1．試料

試料は、下聖端遺跡より4試料、下聖遺跡IIより7試料の計11試料である。(表1)。なお、便宜上当社にて試料No.1～11の通し番号を付した。

2．方法

肉眼および実体顕微鏡を用いて同定を行い、写真撮影（図版1）も行った。

3．結果及び考察

本遺跡から得られた大型植物遺体の一覧表を表2に示した。

これらの特長は、すべての個体が炭化し、数量が少ないことである。産出状況が不明なため、どのような過程で大災を受け埋没したかは不明であるが、産出個体数が少ないことからマメ科植物の種子を除いて、貯蔵中に火災にあったとは考えにくい。マメ科の植物の種子にしても確かに他の種子よりも多いとはいえ、貯蔵されていたか否かを断定できない。

当時の食糧となり得る植物は、ハシバミ・ウメ近似種・モモ・ブドウ属・オオムギ・コムギである。

次に、主な植物の特長について述べる。

ハシバミは古来より、食糧の一部として採取・利用されてきたものである。1個体のみ産出であり、どの程度まで利用されていたかは不明であるが、遺跡周辺の丘陵や山地などに生育していたものであると考えられる。

ウメ近似種・モモは管理され、栽培されていたものであると考えられる。特にモモの場合、核の形態変異が研究されており、本遺跡から得られた核の形態からはコダイモモやノモモといわれる品種に相当する。しかしながら、核の大きさ・厚さなど変異幅を考えると、比較的小型で丸みを帯びた古墳時代の頃に特長的な形態を示すものであると考えられる。付近の廃棄土坑などから多量の産出が認められれば、より確実な計測による形態変異が推定できるものであると考えられる。

ブドウ属の種子の産出は、食糧の一部として利用されていたものであると考えられる。

オオムギ・コムギの炭化胚乳の産出は、イネが栽培されていたか否かは不明であるが、当時の

表1　種子同定試料表

試料No.	遺跡名	住居址	採取位置
1	下聖端遺跡	H 5 号住居址	I 区 3 層
2	下聖端遺跡	H 5 号住居址	II区 3 層
3	下聖端遺跡	H 5 号住居址	III区 3 層
4	下聖端遺跡	H 5 号住居址	カマド内
5	下聖端遺跡II	H18号住居址	I 区覆土
6	下聖端遺跡II	H18号住居址	II区 4 層
7	下聖端遺跡II	H18号住居址	II区覆土
8	下聖端遺跡II	H18号住居址	III区 4 層
9	下聖端遺跡II	H18号住居址	III区 4 層
10	下聖端遺跡II	H18号住居址	IV区 4 層
11	下聖端遺跡II	H47号住居址	IV区 2 層

主食の一部を成していたものであると考えられる。しかし、どの程度の割合での栽培かは不明である。これらの遺体が多量にまとまって産出した場合は貯蔵中の火災が推定できるが、産出量の少なさより貯蔵中ではないと考えられる。

マメ科植物であるが、ソラマメ属とした個体はカスマグサやカラスノエンドウに似る。これらは荒地・耕地・路傍などに生育する雑草であり、特に食糧としては用いてない。ある程度のまとまった産出により、住居址近くに生息していたものが住居址の火災とともに焼かれ、炭化したものであると考えられる。

マメ科の植物としたものも同様なことが考えられるが、同定まで至らなかったため、食用となるものか雑草であったかのか区別も難しい。

以下に、各種の形態的特長を述べる。

・ハシバミ(Corylus heterophylla Fischer var. thunbergii Blume)カバノキ科ハシバミ属果実

果皮片が得られた。やや炭化し、黒褐色。復原した径1.2cm程度。長さ1.4cm程度。果皮は厚く硬い。

・ウメ近似類(Prunus sp. cf. P. mume SIEBOLD et ZUCCARINI)バラ科サクラ属　核

核は炭化し、黒褐色。側面観は正方形に近い楕円形、上面観は楕円形。長さ11㎜、幅10㎜、厚さ7㎜程度。一側面には発達した縫合線があり、下端には「へそ」が存在する。表面はやや起伏が存在。

・モモ(Punus persica BATSCH)バラ科サクラ属　核

核の破片が得られた。炭化し、黒褐色。復原した長さ17㎜、幅14㎜、厚さ12㎜程度。モモの核としては小型で丸みを帯びている。

・ソラマメ属(Vicia sp.)マメ科　種子

種子は炭化し、黒色。ほぼ球形。径2～3㎜程度。「へそ」は線形。カラスノエンドウやカラマグサに似る。

・マメ科(Leguminosae)　種子

種子は炭化し、黒色。俵型。長さ3.5㎜程度。「へそ」は線形。

・ブドウ属(Vitis sp.)ブドウ科　種子

種子は茶褐色。側面観は心形、上面観は楕円形。長さ6㎜、幅4㎜程度。背面には「さじ」状の「へそ」が存在し、腹面には2本の細長い穴が縦方向に並ぶ。

・オオムギ(Hordeum.vulgare LINNE)イネ科オオムギ属　胚乳

胚乳は炭化し、黒色。両端がやや尖る楕円体でやや扁平。一端に胚が位置する凹部があり、逆の面には一条の溝が存在する。

・コムギ(Triticum aestivum LINNE)イネ科コムギ属　胚乳

胚乳は炭化し、黒色。両端は丸みを帯びる楕円体。一端に胚が一する凹部があり、逆の面には一条の溝が存在する。一般にオオムギよりも小型で、丸みを帯びる。

・不明A(Undetermined A)

炭化状態で黒褐色。側面観は一方がやや直線上の楕円形、上面観は両凸レンズ形。長さ12㎜、幅5.5㎜、厚さ4㎜程度。

・不明B(Undetermined B)

炭化破片。黒色。コムギの炭化破片とも考えられる。

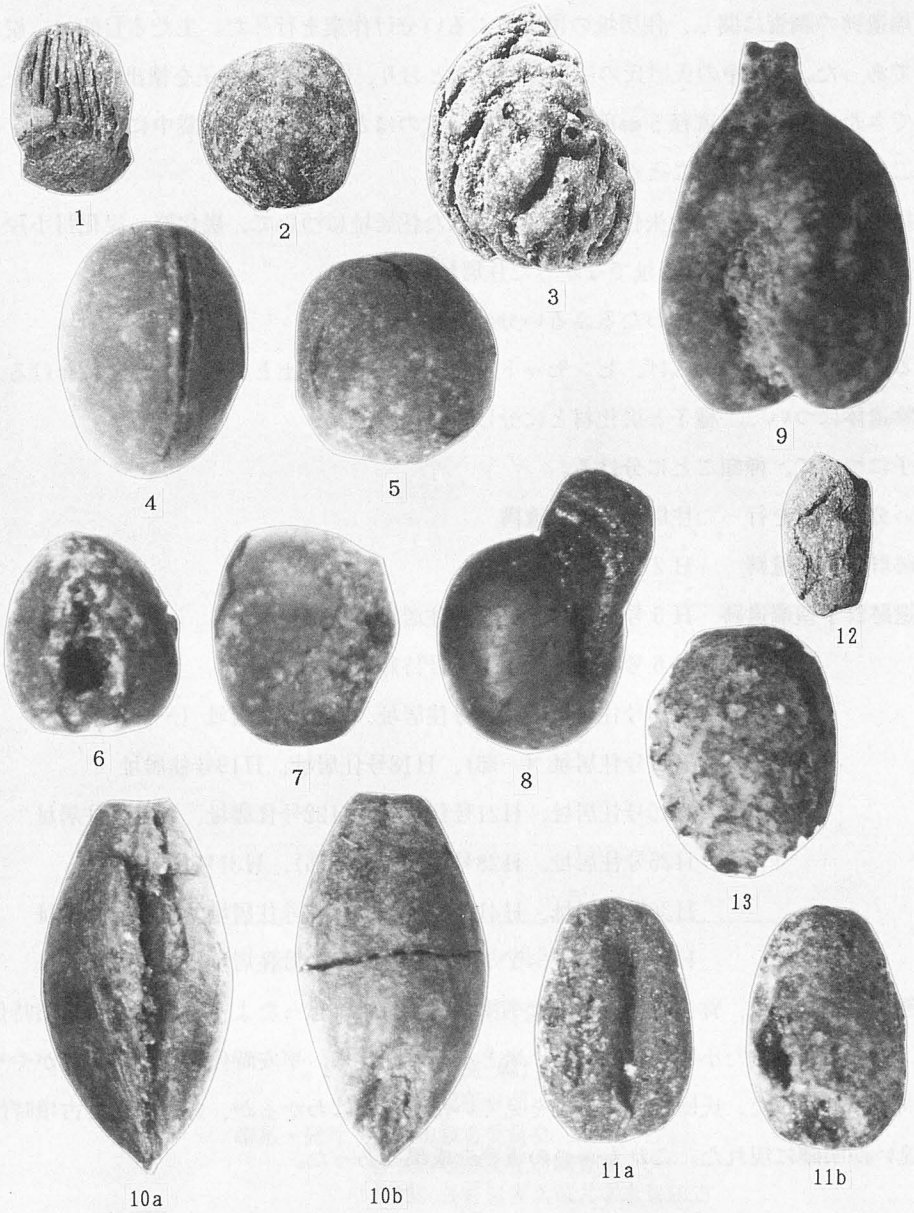
表2　種子同定結果

	遺跡名	下聖端遺跡				下聖端遺跡II						
	住居址	H5				H18						H47
	採取位置	I区3層	II区3層	III区1層	カマド内	I区覆土	II区4層	II区覆土	III区4層	III区4層	IV区4層	IV区2層
種　　名	部位／No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
ハシバミ	果皮片				2							
ウメ近似種	核											1
モ　モ	核		1							1		
ソラマメ属	種　子						4				多	
マメ科	種　子	8					2					
ブドウ属	種　子					1						
オオムギ	炭化胚乳							1				
コムギ	炭化胚乳								1			
不明A				1								
不明B									1			

下聖端遺跡出土種子図版説明

写真番号	樹　種　名	資料番号	倍率
1	ハシバミ（果皮片）	No. 4	x2.1
2	ウメ近似類（核）	No.11	x2.1
3	モモ（核）	No. 9	x2.1
4	ソラマメ属（種子）	No. 6	x12.3
5	ソラマメ属（種子）	No. 6	x12.3
6	マメ科（種子）	No. 1	x8.2
7	マメ科（種子）	No. 1	x8.2
8	マメ科（種子）	No. 1	x8.2
9	ブドウ属（種子）	No. 5	x8.2
10a	オオムギ（炭化胚乳）	No. 7	x8.2
10b	オオムギ（炭化胚乳）	No. 7	x8.2
11a	コムギ（炭化胚乳）	No. 8	x8.2
11b	コムギ（炭化胚乳）	No. 8	x8.2
12	不明A	No. 3	x2.1
13	不明B	No. 8	x8.2

図版　1



1．ハシバミ（果皮片　No.4×2.5）、2．ウメ近似種（核No.11×2.5）、
3．モモ（核No.9×2.5）、4・5．ソラマメ属（種子No.6×15）、
6～8．マメ科（種子No.1×10）、9．ブドウ属（種子No.5×10）、
10a・b．オオムギ（炭化胚乳No.7×10）、11a・b．コムギ（炭化胚乳No.8×10）、
12．不明A（No.3×2.5）、13．不明B（No.8×10）

下聖端遺跡出土の炭化種子類について（補足）

下聖端遺跡の調査に関し、住居址の覆土のふるい分け作業を行った。主たる目的は、炭化種子の検出であった。付編中の氏原氏の原稿でわかるとおり、15615粒の種子を検出し、成果を上げることができた。さらに、直径５㎜前後の滑石製臼玉のほとんどがこの作業中に検出され、その意味では二重の成果を上げることができた。

1　住居址を分層発掘し、焼失住居址と確認された住居址について、炭化層、炭化材小片を含む層を持ち帰った。(焼失住居址でなかった住居址もあった)

2　土を乾燥させ、２段階にわたるふるい分けを行う。

3　ふるい終わったものを広げ、ピンセット・竹べら等により土と異物・遺体とにわける。

4　植物遺体について、種子と炭化材とに分ける。

5　種子について、種類ごとに分ける。

ふるい分け作業を行った住居址・特殊遺構

芝宮遺跡群下芝宮遺跡	Ｈ２号住居址
長土呂遺跡群下聖端遺跡	Ｈ５号住居址、Ｈ９号住居址（一部）
	Ｔ６号特殊遺構、Ｔ７号特殊遺構
下聖遺跡Ⅱ	H14号住居址、H15号住居址、H16号住居址（一部）
	H17号住居址（一部）、H18号住居址、H19号住居址
	H20号住居址、H21号住居址、H22号住居址、H24号住居址
	H25号住居址、H28号住居址（一部）、H31号住居址
	H36号住居址、H41号住居址、H43号住居址、H44号住居址
	H47号住居址、Ｙ１号住居址、Ｙ３号住居址、Ｙ４号住居址

炭化種子同定の結果、弥生時代後期では小麦が主で、米は思ったよりも少なく、古墳時代中・後期では稗や粟といった小雑穀類が主で、米と小麦が同比率、平安時代中期では小麦がやや多いが米と同比率であった。氏原氏作成の表を見ていただければわかるが、弥生時代と古墳時代では食性の違いが明確に現れた。これも一つの重要な成果であった。

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第９集

国道141号線関係遺跡

（本 文 編）

1992年３月

編集・発行　佐久市教育委員会
佐久市埋蔵文化財調査センター
〒385 長野県佐久市大字志賀5953
TEL　0267-68-7321

印刷　㈱佐久印刷所